

# WebFOCUS

WebFOCUS 埋め込みアプリケーション  
ユーザガイド

Version 8.2.06

Active Technologies、EDA、EDA/SQL、FIDEL、FOCUS、Information Builders、Information Builders のロゴ、iWay、iWay Software、Parlay、PC/FOCUS、RStat、Table Talk、Web390、WebFOCUS、WebFOCUS Active Technologies、および WebFOCUS Magnify は Information Builders, Inc. の登録商標であり、また DataMigrator および Hyperstage は同社の商標です。

Adobe、Adobe のロゴ、Acrobat、Adobe Reader、Flash、Adobe Flash Builder、Flex、および PostScript は米国またはその他の国の Adobe Systems Incorporated の登録商標、商標です。

本マニュアルの性質上、多くのハードウェア、ソフトウェア製品の商標が本文内で使用されています。ほとんどの場合、製品名はそれらの会社によって商標、登録商標として指定されています。したがって、弊社ではこれらの製品名を総称として使用する意図はありません。これらの製品名を、説明されている製品を参照する以外の目的で使用する場合、商標に関わる権利に関して十分注意が必要です。

Copyright © 2020. by Information Builders, Inc. and iWay Software. All rights reserved. Patent Pending. このマニュアルの全部、または一部の転載、コピーは Information Builders Inc. の書面による承諾なしでは許可されません。

# 目次

---

<b>WebFOCUS 埋め込み BI の概要</b> .....	<b>13</b>
1. WebFOCUS 埋め込み BI の概要 .....	15
埋め込み BI の手法と考慮事項の理解.....	15
シングルサインオンの実装.....	15
同一オリジンおよびクロスオリジンシナリオでの埋め込み BI の実装.....	17
埋め込み BI のベストプラクティス.....	18
フローコントロールオプション.....	18
ユーザコンテキストオプション.....	18
<b>WebFOCUS RESTful Web サービス</b> .....	<b>19</b>
2. WebFOCUS RESTful Web サービスの概要 .....	21
REST の概要.....	21
RESTful Web サービスの概要.....	22
HTTP メソッド GET および POST 使用時の考慮事項.....	22
3. WebFOCUS リポジトリ RESTful Web サービスリクエスト .....	25
WebFOCUS ログインリクエストの認証.....	25
クロスサイトリクエストフォージェリ (CSRF).....	28
CSRF トークンの取得.....	30
CSRF トークンの転送.....	31
シングルサインオンの構成.....	33
例 1 - シングルサインオン環境での初期ログインリクエストの適用.....	34
例 2 - SiteMinder (初期リクエスト).....	36
例 3 - SiteMinder (後続リクエスト).....	38
WebFOCUS からのログアウト.....	38
WebFOCUS リポジトリ.....	39
フォルダの作成および更新.....	39
フォルダの削除.....	43
WebFOCUS リポジトリレポートの削除.....	45
フォルダおよびサブフォルダのリスト表示.....	47

WebFOCUS リポジトリ内のレポート、スケジュール、ReportLibrary コンテンツ のリスト表示.....	52
ReportLibrary レポートのバージョンのリスト表示.....	56
リポジトリレポートのパラメータのリスト表示.....	60
リポジトリ内のフォルダ項目のリスト表示.....	64
フィルタの使用.....	65
プロパティフィルタ.....	65
共有フィルタ.....	66
属性フィルタ.....	67
ファイル名フィルタ.....	68
演算子フィルタ.....	68
アプリケーションパスフィルタ.....	68
フィルタの結合.....	69
WebFOCUS リポジトリレポートの実行.....	69
変更管理 - エクスポート.....	71
変更管理 - インポート.....	72
項目の公開.....	75
項目の非公開.....	76
項目のコピー.....	78
項目の移動.....	81
項目の名前変更.....	83
WebFOCUS レポートのアップロード.....	85
URL リンクの作成.....	88
WebFOCUS レポートおよび URL のコンテンツ取得.....	91
プロシジャ詳細の取得.....	92
describeAdHocFex の使用.....	93
getContent の使用.....	100
listUsersFromGroup の使用.....	102
プロパティの使用.....	106
runAdHocFex の使用.....	109

setLanguage の使用.....	110
setManagePrivateMode の使用.....	111
4. WebFOCUS Reporting Server RESTful Web サービスリクエスト .....	113
WebFOCUS Reporting Server ノードのリスト表示.....	113
アプリケーションの作成.....	114
アプリケーションのリスト表示.....	116
アプリケーション内のファイルのリスト表示.....	117
アプリケーション内のレポートパラメータのリスト表示.....	119
アプリケーション内のレポートの実行.....	123
アプリケーションの削除.....	125
変更管理 - エクスポート.....	126
変更管理 - インポート.....	126
ロールの削除.....	127
ルールの追加.....	128
5. WebFOCUS セキュリティ管理 RESTful Web サービスリクエスト .....	133
ユーザのリスト表示.....	133
グループのリスト表示.....	136
権限のリスト表示.....	138
ロールのリスト表示.....	139
グループ内のユーザのリスト表示.....	141
ユーザの追加および更新.....	144
ユーザの削除.....	146
グループの追加および更新.....	147
グループの削除.....	148
グループへのユーザの追加.....	149
グループからのユーザの削除.....	151
ロールの追加.....	153
ロールの削除.....	158
ルールの追加.....	159
ルールの削除.....	162

グループまたはユーザに適用されたルールのリスト表示.....	164
リソースに適用されたルールのリスト表示.....	166
ルールに適用されたルールのリスト表示.....	167
ポリシー文字列の展開.....	168
ポリシー文字列の作成.....	172
リソーステンプレートの実行.....	176
ユーザのパスワード変更.....	178
6. ReportCaster RESTful Web サービスリクエスト .....	181
ReportCaster ReportLibrary レポートの取得.....	181
ReportCaster ReportLibrary からのレポートの特定バージョンの削除.....	182
アドレス帳の作成および更新.....	184
ReportLibrary アクセスリストの作成および更新.....	192
ReportLibrary アクセスリストの削除.....	199
スケジュールの作成および更新.....	201
スケジュールのルートオブジェクト.....	203
スケジュールのプロパティ.....	203
通知.....	204
配信方法.....	205
ReportLibrary.....	205
Email.....	210
FTP.....	213
WebFOCUS リポジトリ.....	217
実行間隔.....	218
1 回だけ実行.....	218
分単位.....	219
時間単位.....	220
日単位.....	222
週単位.....	224
月単位.....	227
年単位.....	231

カスタム.....	233
タスク.....	235
WebFOCUS レポート.....	235
WebFOCUS サーバプロシジャ.....	239
ファイル.....	242
FTP.....	242
URL.....	244
終了タグ.....	245
例 1 - スケジュールの作成.....	245
例 2 - スケジュールの更新.....	250
スケジュールの実行.....	252
スケジュールの取得.....	254
スケジュールの削除.....	257
アドレス帳の削除.....	258
ログ機能.....	260
特定ジョブのログ削除.....	260
特定期間のログ削除.....	261
オーナーのログ削除.....	262
スケジュール ID のログ削除.....	263
特定期間のスケジュール ID のログ削除.....	264
スケジュール ID の最新ログ取得.....	265
ジョブ ID のログ取得.....	274
オーナーのログリスト取得.....	282
特定期間のオーナーのログリスト取得.....	286
スケジュールのログリスト取得.....	290
スケジュールオーナーのリスト取得.....	295
コンソール機能.....	296
ジョブ優先度の変更.....	296
ジョブステータスの取得.....	297
キュー内のジョブリスト取得.....	298

オーナーのキュー内のジョブリスト取得.....	304
実行中ジョブのリスト取得.....	309
オーナーの実行中ジョブリスト取得.....	322
ジョブキューからのジョブ削除.....	334
7. RESTful Web サービステストページの使用.....	337
テストページへのアクセス.....	337
テストページの使用.....	338
8. WebFOCUS RESTful Web サービスリクエスト呼び出しの代替方法.....	341
WebFOCUS RESTful Web サービスリクエストの呼び出し.....	341
9. Visual Basic .NET、Java、HTML、jQuery コードの例.....	343
WebFOCUS へのログイン.....	343
Visual Basic .NET の例.....	344
Java の例.....	345
HTML と jQuery の例.....	346
WebFOCUS フォルダのリスト表示.....	347
Visual Basic .NET の例.....	347
Java の例.....	348
HTML と jQuery の例.....	349
WebFOCUS レポートの実行.....	351
Visual Basic .NET の例.....	351
Java の例.....	352
HTML と jQuery の例.....	353
ドリルダウン、アクティブキャッシュ、Web ビューアレポートの処理.....	355
Visual Basic .NET の例 (signOn.aspx および WebForm2.aspx).....	355
Java の例 (signOn.jsp および WebForm2.jsp).....	358
HTML と jQuery の例 (drillOne.html および drillTwo.html).....	362
ログインリクエストの XML レスポンス解析による CSRF の名前と値の取得.....	366
Java の例.....	367
XML パーサクラス.....	368
Visual Basic .NET の例.....	370



XML パーサ関数.....	371
埋め込みグラフのレスポンス有効化.....	372
10. URL コールによる WebFOCUS ツールへの直接アクセス .....	375
InfoAssist の開始.....	375
WebFOCUS デザイナーの開始.....	377
<b>WebFOCUS Open Portal Services .....</b>	<b>383</b>
11. WebFOCUS Open Portal Services の概要 .....	385
WebFOCUS Open Portal Services.....	385
WebFOCUS Open Portal Services の利点.....	386
Java ポートレット仕様 2.0 (JSR 286) のサポート.....	387
12. WebFOCUS App Parts for Microsoft SharePoint 2016 のインストール .....	389
オンプレミス SharePoint Server.....	389
開発者サイトおよびアプリケーションカタログを使用したその他のサイトタイプから のアプリケーション (アドイン) へのアクセス.....	391
Microsoft Office 365 および Azure (クラウド) での SharePoint の使用.....	394
Microsoft SharePoint 2016 に関するセキュリティ上の注意.....	395
13. WebFOCUS Portlets for the IBM WebSphere Portal Server Version 8.5 のインストール ...	397
要件.....	397
インストールおよび構成の概要.....	398
WebFOCUS Open Portal Services Gateway の構成.....	398
セキュリティ設定および認証設定の構成.....	400
IBM WebSphere Portal Server バージョン 8.5 での WebFOCUS ポートレットのインス トールおよび構成.....	409
14. WebFOCUS Portlets for the Apache Jetspeed Portal のインストール .....	435
要件.....	435
インストールおよび構成の概要.....	436
WebFOCUS Open Portal Services Gateway の構成.....	436
セキュリティ設定および認証設定の構成.....	438
WebFOCUS ポートレットの構成.....	438
GN パラメータの構成.....	445

15. URL コールによる WebFOCUS コンポーネントへの直接アクセス .....	447
レポートコンポーネント.....	447
ディファードステータスコンポーネント.....	449
リソースツリーコンポーネント.....	450
ポータルコンポーネント.....	450
ポータルツリーコンポーネント.....	451
<b>WebFOCUS BI コンテンツの Salesforce.com への埋め込み .....</b>	<b>453</b>
16. WebFOCUS BI コンテンツの Salesforce.com への埋め込み概要 .....	455
WebFOCUS レポートの実行 URL の埋め込み.....	455
SAML 認証の構成.....	459
ID プロバイダの有効化.....	460
WebFOCUS の構成および wfspMetadata.xml ファイルの生成.....	463
Salesforce.com のサービスプロバイダとしての WebFOCUS の構成.....	469
プログラミングソリューション.....	474
Salesforce Extensions for Visual Studio Code.....	475
Chained Callouts の使用.....	477
Developer Console へのアクセス.....	480
SFDC ダッシュボードへの Visualforce ページの追加.....	483
Salesforce.com での WebFOCUS 埋め込みコンテンツのドリルバックサポート.....	487
Visualforce ページの構成.....	487
Apex クラスの構成.....	491
WebFOCUS プロシジャの構成.....	491
<b>WebFOCUS 埋め込み BI デモアプリケーション .....</b>	<b>495</b>
17. WebFOCUS 埋め込み BI デモアプリケーション .....	497
埋め込み BI デモアプリケーションのインストール.....	497
サンプル埋め込みコンテンツのインストール.....	498
サンプルユーザ (ffadv) のインポート.....	502
埋め込み BI デモアプリケーション (Fintoso Financial) のインストール.....	507
必要な HTML5 グラフ拡張機能.....	509
埋め込み BI デモアプリケーションの構成.....	510

バックチャネルチケットリクエストの構成.....	510
WebFOCUS の構成.....	511
Trusted チケットのテストページの使用.....	518
埋め込み BI デモアプリケーション (Fintoso Financial) の使用.....	520
埋め込み BI デモアプリケーションへのアクセスと実行.....	520
埋め込み BI デモアプリケーションの内部 (バックエンド) 機能の理解.....	533
埋め込み BI に関する他の考慮事項.....	535
ポータル機能の非表示.....	535
自社ブランドのカスタマイズ.....	535
レスポンス Web デザイン.....	536
代替セキュリティゾーン.....	538
埋め込み BI デモアプリケーション (Fintoso Financial) のカスタマイズ.....	538
ユーザ名の登録.....	538
別のポータルコンテンツの使用.....	539
トラブルシューティング.....	539
ポップアップメッセージ: WebFOCUS から Trusted チケットを取得できません。 540	
チケット値: null.....	540
チケット値: -1.....	541
ポータルタブのエラー表示またはブランク.....	543
付録 - 埋め込み BI デモアプリケーションの詳細リクエスト/レスポンスフロー.....	545



## WebFOCUS 埋め込み BI の概要

このマニュアルでは、WebFOCUS 埋め込み BI の概要を紹介するとともに、開発者向け WebFOCUS RESTful Web サービスおよび WebFOCUS Open Portal Services について包括的に説明します。

WebFOCUS RESTful Web サービスおよび Open Portal Services は、埋め込み BI ソリューションの主要コンポーネントです。詳細は、19 ページの「[WebFOCUS RESTful Web サービス](#)」および383 ページの「[WebFOCUS Open Portal Services](#)」を参照してください。

また、このマニュアルには、WebFOCUS に同梱されている埋め込み BI デモアプリケーションについての説明も記載されています。詳細は、495 ページの「[WebFOCUS 埋め込み BI デモアプリケーション](#)」を参照してください。



# 1

## WebFOCUS 埋め込み BI の概要

---

WebFOCUS 埋め込み BI を使用すると、外部アプリケーションへの WebFOCUS コンテンツ、分析、機能の組み込みが可能になります。

ここでは、WebFOCUS 埋め込み BI の主な手法および考慮事項について説明します。

### トピックス

- ❑ [埋め込み BI の手法と考慮事項の理解](#)
  - ❑ [埋め込み BI のベストプラクティス](#)
- 

### 埋め込み BI の手法と考慮事項の理解

BI の埋め込みには、さまざまな手法を使用することができます。たとえば、次の手法があります。

1. WebFOCUS ポータルページなどの WebFOCUS コンテンツを HTML iframe に埋め込む。
2. WebFOCUS Web サービスを使用して、コンテンツをアプリケーションに埋め込む。
3. アプリケーションから WebFOCUS ツール (例、InfoAssist) を起動する。
4. WebFOCUS Open Portal Services を使用して、コンテンツ (具体的には WebFOCUS ポートレット) を JSR 286 準拠のポータル環境 (例、Microsoft SharePoint) に埋め込む。

WebFOCUS に付属のこの埋め込み BI デモアプリケーションを使用すると、iframe や Web サービスの埋め込みオプションの理解を深めることができます。

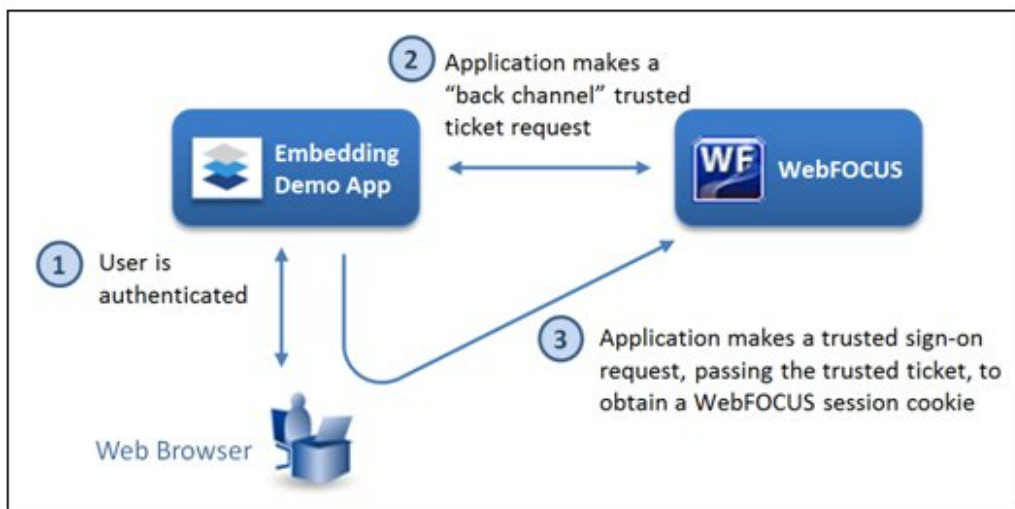
### シングルサインオンの実装

開発者が埋め込み BI アプリケーションに関して検討する 1 つ目の重要事項として、埋め込み BI アプリケーションと WebFOCUS 間のシングルサインオン (SSO) の実装方法があります。SSO を実装すると、ユーザが認証情報を何回も入力する必要がなくなります。たとえば、次のようなオプションを検討します。

- ❑ Windows 認証
- ❑ SAML 2.0
- ❑ Web SSO 製品
- ❑ カスタムソリューション

ここでは、付属の埋め込み BI デモアプリケーションを例として、WebFOCUS で導入された Trusted チケット認証機能を使用して SSO を実装する方法について学習します。

下図のように、埋め込み BI デモアプリケーションがユーザ (1) を単純な方法で認証し (「ユーザ名の登録」トピックを参照)、Trusted チケットリクエスト (2) を WebFOCUS に送信します。この方法は、一般に「バックチャネル」リクエストと呼ばれます。これは、埋め込み BI アプリケーションのホストサーバと WebFOCUS のホストサーバ間で接続が直接確立されるためです。そのため、この接続は、ユーザの Web ブラウザが実行されているネットワークからは見えません。



WebFOCUS は、Trusted チケットリクエストの送信元が信頼済みホストであることを確認し、Trusted 認証チケットを返します。次にデモアプリケーションは、ユーザの Web ブラウザから送信される Trusted ログインリクエスト (3) でこのチケットを提示し、WebFOCUS セッション Cookie を取得します。これ以降、埋め込み BI デモアプリケーションは、URL リクエストまたは WebFOCUS RESTful Web サービス API を使用して WebFOCUS からコンテンツを要求することができます。

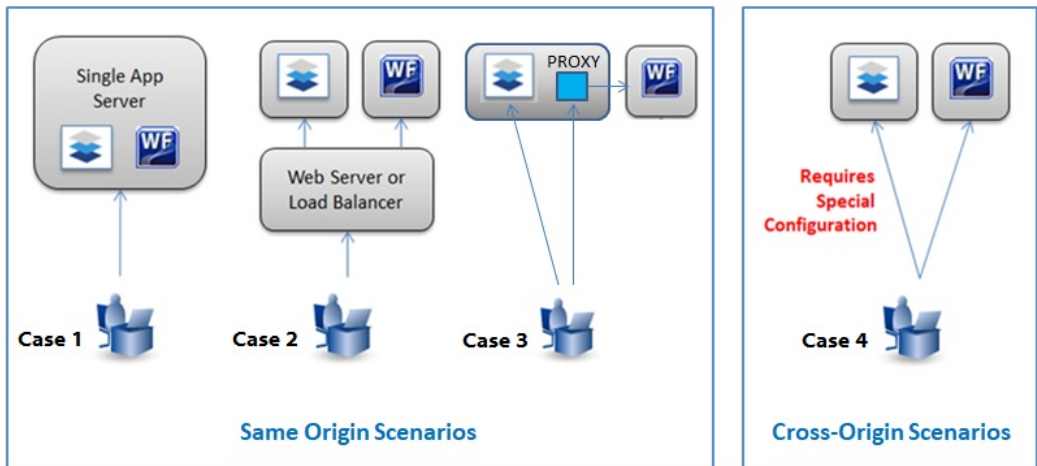
埋め込み BI アプリケーションから WebFOCUS リソースを作成または更新する POST リクエストを送信する場合は、クロスサイトリクエストフォージェリ (CSRF) トークンを WebFOCUS から取得し、これらのリクエストとともに送信する必要があります。Trusted ログインリクエストには、CSRF トークンを取得するオプションを含めることができます。埋め込み BI デモアプリケーションは CSRF トークンを取得しますが、それを使用することはありません。



## 同一オリジンおよびクロスオリジンシナリオでの埋め込み BI の実装

2 つ目の重要事項として、展開先の位置関係があります。つまり、埋め込み BI アプリケーションと WebFOCUS が存在する位置の関係です。多くの場合、両者がシングル Web ホスト上または背後で展開されます。この展開では、下図の**ケース 1**のように、埋め込み BI アプリケーションと WebFOCUS が同一の Application Server 上で展開されている場合、または下図の**ケース 2**のように、両者がそれぞれ異なる Application Server 上で展開されているが、単一 Web サーバまたはロードバランサからアクセスされる場合があります。また、下図の**ケース 3**のように、プロキシ方式を使用することもできます。この場合、ブラウザは、WebFOCUS との中継点として機能するプロキシと通信します。

これらのケースは「同一オリジン」シナリオと呼ばれます。



一方、上図の**ケース 4**のように、ユーザがアクセスする埋め込み BI アプリケーションと WebFOCUS が 2 つの異なる Web ホスト上で展開されている場合もあります。このケースは「クロスオリジン」シナリオと呼ばれます。最新の Web ブラウザに組み込まれているセキュリティコントロールのため、クロスオリジンシナリオで埋め込み BI デモアプリケーションを使用する前に、WebFOCUS iframe 埋め込み機能およびクロスオリジンリクエスト共有 (CORS) 機能を構成する必要があります。WebFOCUS でのクロスオリジン設定の構成および使用についての詳細は、『WebFOCUS セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

埋め込み BI に関する他の検討事項として、自社ブランドの表示と変更、およびレスポンシブ Web デザインがあります。埋め込み BI デモアプリケーションでは、ユーザ操作を向上させるために、WebFOCUS コンテンツおよびポータルページのスタイルを再設定し、WebFOCUS コンテンツ全体がホストアプリケーションと視覚的に一体化する方法が示されています。デモアプリケーションのサンプルポータルには、レスポンシブページレイアウトが使用されています。このレイアウトでは、ポータルページのサイズに応じてコンテンツの配置先 iframe の高さが動的に調整されるよう設定する必要があります。このレスポンシブ動作を可能にするには、ポータルのプロパティで [埋め込みブロードキャスト高さ] オプションを設定し、埋め込み BI デモアプリケーションにイベントリスナを追加します。

このように、WebFOCUS は強力な埋め込み BI サポート機能を備えています。企業が自社のカスタム Web アプリケーションに WebFOCUS の広範な BI 機能および分析機能を組み込むため、簡単な操作で Web アプリケーションの利用範囲を拡張することができます。

## 埋め込み BI のベストプラクティス

ここでは、埋め込み BI のベストプラクティスについて説明します。

### フローコントロールオプション

- ❑ **フロントチャンネル** iframe および AJAX (Asynchronous JavaScript and XML) の手法で使われます。ブラウザが同一オリジンまたは異なるオリジンのホストで WebFOCUS に接続します。
- ❑ **プロキシ方式** ブラウザは、WebFOCUS との中継点として機能するプロキシと交信します。

### ユーザコンテキストオプション

- ❑ **サービスアカウント** 通常は、プロキシで使用されますが、必須ではありません。この場合、サービスアカウントのユーザ ID とパスワードが必要です。ユーザ固有のコンテンツが返されるためには、ユーザ ID のパラメータをプロキシコードで入力する必要があります。WebFOCUS は、これを使用してデータにフィルタを設定することができます。これは、WebFOCUS がすべてのリクエストをサービスアカウントユーザとして実行するためです。
- ❑ **Trusted チケット** iframe ポータル、InfoAssist のハイパーリンク、インサイトのハイパーリンク、PGX ページの埋め込みに必要です。オートリンクドリルダウンなどのインタラクティブ機能を備えた埋め込みグラフでは、Trusted チケットの使用が推奨されます。プロキシ構成でもフロントチャンネル構成でも使用できます。

## WebFOCUS RESTful Web サービス

ここでは、WebFOCUS RESTful Web サービスを開発、使用方法について説明します。この説明は、Microsoft Visual Studio .NET または J2EE 開発プラットフォームから呼び出し可能なサービスとして WebFOCUS コンテンツおよび機能を公開しようとする開発者を対象としています。開発者には、RESTful Web サービスのテクノロジーおよびオブジェクト指向型プログラミングについての知識が必要です。



# 2

## WebFOCUS RESTful Web サービスの概要

ここでは、REST の概要および WebFOCUS に関連する RESTful Web サービスの概要について説明します。

### トピックス

- [REST の概要](#)
- [RESTful Web サービスの概要](#)
- [HTTP メソッド GET および POST 使用時の考慮事項](#)

### REST の概要

REST アーキテクチャスタイルは、HTTP バージョン 1.0 の既存の設計を基礎として、HTTP バージョン 1.1 と並行して開発されました。REST アーキテクチャスタイルに準拠する実装として代表的なものが World Wide Web です。REST の概念から、Web アーキテクチャの発展過程が明確になります。具体的には、Web の 4 つのコンポーネント (オリジンサーバ、ゲートウェイ、プロキシ、クライアント) には個別の制限を設けずに、これらのコンポーネントの体系的な相互作用の特性と制約を規定するという方法で Web アーキテクチャがどのように発展してきたかが明らかになります。基本的に、REST は各コンポーネントの動作を適切に制御します。

REST スタイルのアーキテクチャは、クライアントとサーバで構成されます。クライアントはリクエストをサーバに送信し、サーバはリクエストを処理して適切なレスポンスを返します。リクエストとレスポンスは、両者間で「リソースの表現」が送受信されることで作成されます。リソースとは、基本的に名前を指定して識別できる、意味を持つあらゆる概念を指します。リソースの表現とは、一般にリソースの現在の状態または次の新しい状態を表したドキュメントのことを指します。

クライアントは、新しい状態に遷移する準備ができると、リクエストの送信を開始します。1 つ以上のリクエストが未処理の間、そのクライアントは状態遷移中であると見なされます。各アプリケーションの状態を表したドキュメントには、リンクが含まれています。クライアントは、このリンクを使用することで、次の新しい状態への遷移を開始することができます。

---

REST では、複数の異なるサービスを緩やかに結合できるため、Web サーバ間のトランザクションが容易になります。REST では、SOAP より弱い型指定が使用されます。REST は、名詞と動詞に基づいたスタイルで、その可読性に重点が置かれています。SOAP とは異なり、REST では XML 解析が必要なく、サービスプロバイダとの間でメッセージヘッダを送受信する必要もありません。結果的に、使用する帯域幅が減少します。また、REST のエラー処理も、SOAP で使用されるエラー処理と異なります。

## RESTful Web サービスの概要

RESTful Web サービスは (RESTful Web API と呼ばれる)、HTTP の使用と REST の原理に基づいて実装される Web サービスです。RESTful Web サービスは、一連のリソースと、次のように定義された 4 つの要素で構成されます。

- ❑ Web サービスのベース URL。以下はその例です。

<http://example.com/resources>

- ❑ Web サービスでサポートされる、データのインターネットメディアタイプ。通常は XML ですが、有効なハイパーテキスト標準であれば、その他のインターネットメディアタイプを使用することもできます。
- ❑ Web サービスでサポートされる、HTTP メソッドを使用した一連の操作 (例、GET、PUT、POST、DELETE)。
- ❑ ハイパーテキスト駆動の API。

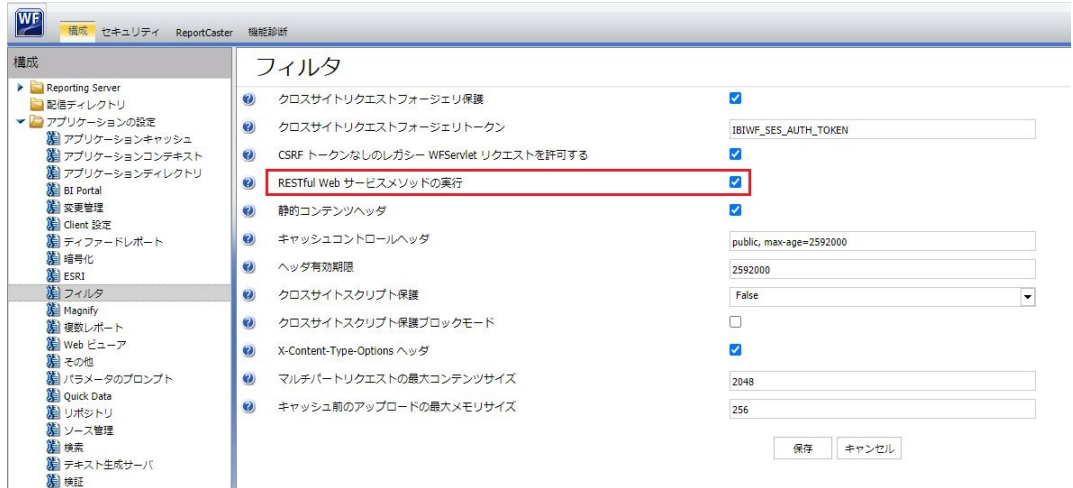
## HTTP メソッド GET および POST 使用時の考慮事項

このマニュアルでは、説明が記載されている WebFOCUS RESTful Web サービスリクエストごとに特定の HTTP メソッドが指定されています。ここでは、開発者が WebFOCUS RESTful Web サービスリクエストで GET および POST HTTP メソッドを使用する際に考慮する注意点について説明します。

- ❑ 指定されているメソッドが GET の場合、GET または POST のいずれかを使用できます。指定されているメソッドが POST の場合、POST のみを使用できます。
- ❑ WebFOCUS RESTful Web サービスリクエストで GET メソッドが使用されているが、そのアクションで GET の使用が許可されていない場合、次のエラーが生成されます。

`ERROR_INVALID_HTTP_REQUEST_TYPE`

**注意：**この動作を制御するには、[RESTful Web サービスメソッドの実行] パラメータを有効または無効にします。下図のように、このパラメータは WebFOCUS 管理コンソールの [アプリケーションの設定] 下の [フィルタ] ページに表示されます。



- POST メソッドを使用する前に、現在の環境で異なる Web ホスト (クロスオリジン) から WebFOCUS にアクセスするかどうかを特定する必要があります。これは、クロスオリジンシナリオと呼ばれます。その場合は、WebFOCUS でクロスオリジンリクエスト共有 (CORS) 機能およびクロスサイトリクエストフォージェリ (CSRF) 機能を構成する必要があります。
- WebFOCUS でのクロスオリジン設定の構成および使用についての詳細は、『WebFOCUS セキュリティ管理ガイド』を参照してください。
- CSRF 機能についての詳細は、28 ページの「[クロスサイトリクエストフォージェリ \(CSRF\)](#)」を参照してください。
- GET メソッドには、クエリで送信可能なデータ量に関する制限があります。実行するレポートにパラメータデータが大量に含まれている場合 (例、およそ 2000 バイト、場合によっては 4000 バイト)、必要に応じて POST メソッドを代替方法として使用する必要があります。





# 3

## WebFOCUS リポジトリ RESTful Web サービスリクエスト

---

ここでは、WebFOCUS 認証およびリポジトリの RESTful Web サービスリクエストのフォーマットと構造について説明します。

### トピックス

- ❑ [WebFOCUS ログインリクエストの認証](#)
- ❑ [クロスサイトリクエストフォージェリ \(CSRF\)](#)
- ❑ [シングルサインオンの構成](#)
- ❑ [WebFOCUS からのログアウト](#)
- ❑ [WebFOCUS リポジトリ](#)

---

### WebFOCUS ログインリクエストの認証

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、WebFOCUS ログインリクエストを認証することができます。認証が成功したかどうかを示す結果は、XML レスポンスで返されます。Web サービスのレスポンスには、HTTP ヘッダ内に `jsessionId` が含まれています。後続のすべての WebFOCUS RESTful Web サービスリクエストには、HTTP ヘッダ内に `jsessionId` が含まれている必要があります。アプリケーションが特定の WebFOCUS コンポーネント (例、WebFOCUS InfoAssist) を呼び出す必要がある場合、HTTP リクエストを送信してコンポーネントを起動する際にも `jsessionId` が使用されます。これにより、WebFOCUS ログインリクエストを再認証する必要がなくなります。また、WebFOCUS BI Portal にすでにログインしている場合は、このログインリクエストを実行する必要はありません。ログインに成功すると、HTTP ヘッダ内に `jsessionId` が返されます。

**注意:** デフォルト設定では、RESTful Web サービスを CAS または SAML と併用する場合、CAS または SAML にログインしていないユーザが、保護されたリソースに事前認証でアクセスしようとすると、リクエストが CAS または SAML ログインページにリダイレクトされます。これは、望ましいレスポンスではありません。このレスポンスを HTTP 401 (未認可) ステータスコードに変更し、アプリケーションが認証を実行できるようにするには、`securitysettings.xml` ファイル内で匿名アクセスを無効にする設定を構成するとともに、RESTful アプリケーション内でリダイレクトの代わりに HTTP 401 レスポンスを示す HTTP リクエストヘッダを作成する必要があります。

- ❑ WebFOCUS Client インストールの `config` ディレクトリに格納されている `securitysettings.xml` ファイル内で、次のように設定します。

```
anonymousAuthEnabled=false
```

- ❑ RESTful アプリケーション内で、次の HTTP リクエストヘッダを作成します。

```
disallowSignInRedirect=true
```

## HTTP メソッド POST

### REST URL のフォーマット

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs
```

#### 説明

`host`

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

`port`

WebFOCUS が使用するポート番号です。

### 本文のフォーマット

```
IBIRS_action=signOn&IBIRS_userName=Userid&IBIRS_password=Password
```

#### 説明

`Userid`

WebFOCUS リポジトリへのログイン認証に必要なユーザ ID です。

`Password`

WebFOCUS リポジトリへのログイン認証に必要なパスワードです。

## 例

次の例では、ユーザ ID 「admin」とパスワード「admin」で WebFOCUS リポジトリへのログインが試行されます。

### POST リクエストの URL

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs
```

### 本文

```
IBIRS_action=signOn&IBIRS_userName=admin&IBIRS_password=admin
```

### レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="IBIRS_action"
  returncode="10000"
  returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfsparams size="0"/>
  <rootObject _jt="IBFSUserObject" description="" dummy="false" email=""
    fullPath="IBFS:/SSYS/USERS/admin" name="admin" password="" type="User">
    <status _jt="IBSSUserStatus" name="UNDEFINED"/>
    <groups _jt="ArrayList" size="0"/>
  </rootObject>
</ibfsrpc>
```

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、WebFOCUS リポジトリへのログインに成功しています。

次の例は、認証リクエストから返されたレスポンスのトレースを示しています。

```
HTTP/1.1 200 OK
Server: Apache-Coyote/1.1
X-XSS-protection: 0
Set-Cookie: JSESSIONID=BD61C838569C30474977ACDE3DAD8F54; Path=/ibi_apps/; HttpOnly
Expires: Mon, 24 Sep 2012 09:12:48 GMT
Cache-Control: private
Set-Cookie: WF_SESSIONID=1932062683094412614; Path=/
IBI_Messages: 2
IBI_Message1: (IBFS10000) SUCCESS
IBI_Message2: <IBIWF_SES_AUTH_TOKEN>=<null>
Content-Type: text/xml;charset=iso-8859-1
Transfer-Encoding: chunked
Date: Mon, 24 Sep 2012 09:07:48 GMT
205
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc_jt="IBFSresponseObject" language="EN" name="signOn" returncode="10000"
  returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfparams size="0"/>
  <rootObject _jt="IBFSUserObject" description="" dummy="false" email=""
    fullPath="/IBFS/SSYS/USERS/admin" name="admin" password=""
    rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/USERS/admin" type="User">
    <status _jt="IBSSUserStatus" name="UNDEFINED"/>
    <groups_jt="ArrayList" size="0"/>
  </rootObject>
</ibfsrpc>
```

この例の 4 行目に記述された Set-Cookie パラメータは、ユーザのセッション ID を定義し、セッション中の後続のリクエストメッセージすべてに含める必要があります。

次の例は、後続のリクエストのトレースを示しています。

```
GET http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository?IBIRS_action=get
HTTP/1.1
Host: localhost:8080
User-Agent: Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64; rv:15.0) Gecko/20100101
Firefox/15.0.1
Accept: text/html,application/xhtml+xml,application/xml;q=0.9,*/*;q=0.8
Accept-Language: en-us,en;q=0.5
Accept-Encoding: gzip, deflate
Connection: keep-alive
Cookie: JSESSIONID=BD61C838569C30474977ACDE3DAD8F54;
wcNewPreference=1963156A6FD0D3C6EE81F2C992ED527D;
WF_SESSIONID=1932062683094412614
```

## クロスサイトリクエストフォージェリ (CSRF)

クロスサイトリクエストフォージェリ (CSRF) は、ワンクリック攻撃またはセッションライディングとも呼ばれ、特定の Web サイトで信頼済みのユーザから不正な命令が送信される、悪意のある Web サイト攻撃の 1 つです。

このタイプの攻撃を回避するには、CSRF トークン保護を使用するよう WebFOCUS を構成する必要があります。この構成では、WebFOCUS RESTful Web サービス認証リクエスト (IBIRS\_action=signOn) が実行されるたびに CSRF トークンが生成され、トークン名とトークン値を含むこの CSRF トークンがレスポンスで返されます。

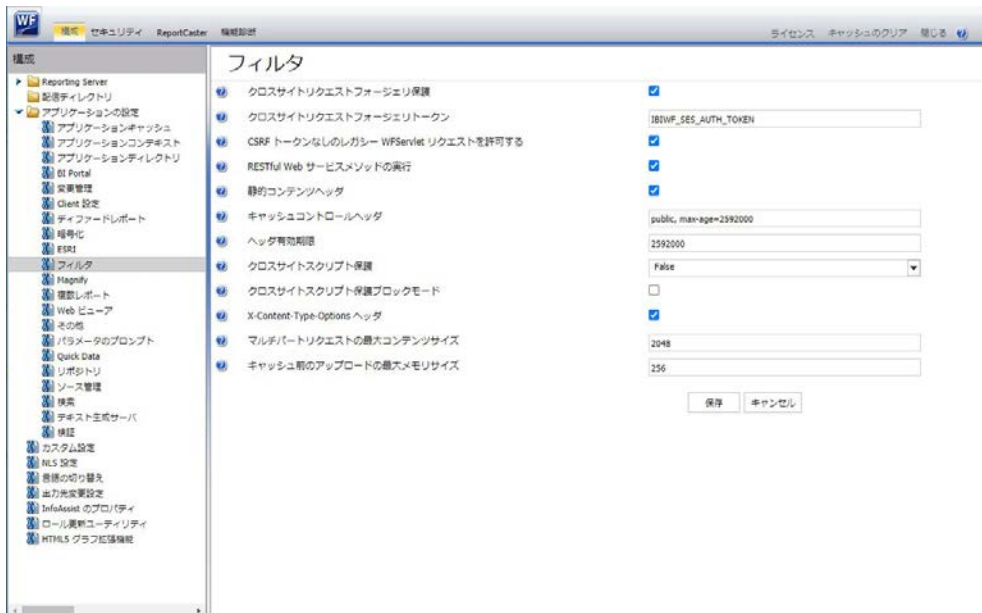
CSRF トークンは、HTTP POST リクエストすべてにパラメータとして送信される必要があります。送信されない場合、403 HTTP リターンコードが返され、CSRF エラーメッセージが websecurity.yyyy-mm-dd.log ファイルに記録されます。

CSRF トークンは、無作為に生成され、実際の認証済みユーザの Web セッションに格納された値を使用することで攻撃を回避します。次に、クライアントでは、セッション中の残りすべてのリクエストおよびレスポンスを処理する際にこの値を確認し、各リクエストまたはレスポンスにこのセッションに割り当てられた値が含まれ、これらが正当なリクエストまたはレスポンスであることを確認することができます。CSRF トークンを含まない場合、または名前や値がサーバに割り当てられた名前や値と一致しない CSRF トークンを含む場合、リクエストまたはレスポンスは無効として拒否されます。

CSRF トークン保護は、Kerberos および SSO 環境でサポートされますが、事前認証されたユーザの CSRF トークンを取得するには、認証アプリケーションのデータベースと正確に一致する事前認証済みユーザ ID を含む明示的な IBIRS\_action=signOn リクエストを初期ログイン処理に追加する必要があります。この場合、パスワードは必要ありません。詳細は、33 ページの「[シングルサインオンの構成](#)」を参照してください。

CSRF トークン保護は、WebFOCUS 管理コンソールで設定され、デフォルト設定で有効になっています。関連する設定を確認するには、[構成] タブの [アプリケーションの設定] フォルダで、[フィルタ] を選択します。

下図のように、[フィルタ] ウィンドウが表示されます。



[クロスサイトリクエストフォージェリ保護] のチェックがオンになっています。

## CSRF トークンの取得

下図のように、CSRF トークンは WebFOCUS RESTful Web サービス認証アクション (IBIRS\_action=signOn) のレスポンスで返されます。

```
This XML file does not appear to have any style information associated with it. The document tree is shown below.
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no" ?>
<ibfrpc_jit="IBFSResponseObject" language="EN" name="signOn" returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfiparams size="0"/>
  <properties size="2">
    <entry key="IBI_CSRF_Token_Name" value="IBIWF_SES_AUTH_TOKEN"/>
    <entry key="IBI_CSRF_Token_Value" value="015a794691fe6a67b8ae059e0d506596"/>
  </properties>
  <rootObject_jit="IBFSUserObject" description="Administrator" dummy="false" email="efrem_hirun@ibi.com" fullPath="IBFS:SSYSUsers/admin" handle="10001" lastSignIn="1433151808354" length="0" name="admin" password="" type="User">
    <properties size="1">
      <entry key="AuthNType" value="IntAuthN"/>
    </properties>
    <status_jit="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/>
    <groups_jit="ArrayList" size="0"/>
    <roles_jit="ArrayList" size="0"/>
  </rootObject>
</ibfrpc_jit>
```

この例では、CSRF トークンの名前は IBIWF\_SES\_AUTH\_TOKEN、CSRF トークンの値は 015a794691fe6a67b8ae059e0d506596 です。

CSRF トークンの名前には、管理コンソールの [構成] タブの [フィルタ] ウィンドウにある [クロスサイトリクエストフォージェリトークン] (IBI\_CSRF\_TOKEN\_NAME) 設定に割り当てられた値が使用されます。デフォルト設定では、IBIWF\_SES\_AUTH\_TOKEN が割り当てられています。ただし、ユーザの構成でこの設定に別の値が割り当てられている場合は、WebFOCUS は、ログインリクエストメッセージへのレスポンスで別の CSRF トークン名を返します。

### CSRF トークンの転送

CSRF トークン保護を使用するよう WebFOCUS が構成されている場合、CSRF トークンを必要とするアクションでは、CSRF トークンが POST リクエスト本文内のパラメータとして渡されます。

#### 例

次の例は、ユーザを追加する WebFOCUS RESTful Web サービスリクエストを示しています。次の例のリクエスト本文内に示されるように、このリクエストには CSRF トークンが含まれています。

#### POST リクエストの URL

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs
```

#### 本文

```
IBIRS_path=/SSYS/USERS/testuser&IBIRS_action=put
&IBIRS_object=<object _jt="IBFSUserObject" description="Test Userid"
email="restid@informationbuilders.com" password="rest" type="User">
<status _jt="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/>
</object>
&IBIRS_service=ibfs&IBIWF_SES_AUTH_TOKEN=015a794691fe6a67b8ae059e0d506596
```

通常は、次の例のように、レスポンスでは新規ユーザのエントリを識別する XML コードが返されます。

```
<ibfsrpc _jt="IBFSresponseObject" language="en_US" name="put"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" type="simple">
  <ibfsparams size="5">
    <entry key="IBIRS_object" value="****"/>
    <entry key="IBIRS_private" value="__null"/>
    <entry key="IBIRS_replace" value="true"/>
    <entry key="IBIRS_path" value="/SSYS/USERS/testuser"/>
    <entry key="IBIRS_args" value="__null"/>
  </ibfsparams>
  <rootobject _jt="IBFSUserObject" description="Test Userid" dummy="false"
email="restid@informationbuilders.com" fullPath="IBFS:/SSYS/USERS/testuser"
handle="1784804352" length="0" name="testuser" namespace="DB" policy="/+//
+8P///30f/e///+/////////v+AAAAA" rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/USERS/
testuser" thumbPath="/ibi_apps/ibi_html/ibi_images/file_type/unknown.svg"
type="User" userStatusDisplay="Active">
    <status _jt="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/>
    <groups _jt="ArrayList" size="0"/>
    <pSetList _jt="ArrayList" size="0"/>
  </rootObject>
</ibfsrpc>
```

ただし、CSRF トークンを必要とするリクエストで CSRF トークンが送信されていない場合、または無効な CSRF トークンが送信された場合、次のエラーメッセージがレスポンスで返されます。

```
<!DOCTYPE HTML>
<HTML>
<HEAD>
<title>403 - Access Denied</title>
</HEAD>
<body style="background-color:#dae1e7; margin:0;">
  <div align="center" style="position:relative;font-family:Arial;top:
172px;font-size:25pt;">403 - Access Denied</div>
  <div align="center" style="position:relative;top:178px;font-size:9pt;font-
family:Tahoma;color: #485059;">You are not authorized to view this page</
div>
</body>
</HTML>
```



## シングルサインオンの構成

WebFOCUS セキュリティに IBM Tivoli Access Manager や Computer Associates (CA) SiteMinder などのソフトウェアサービスベンダーを統合するよう構成することができます。また、WebFOCUS セキュリティで基本認証、統合 Windows 認証 (IWA)、Kerberos 認証などの認証方法を使用するよう構成することもできます。この方法で WebFOCUS セキュリティを構成した場合、WebFOCUS へのログインを認証するための RESTful Web サービスリクエストは必要ありません。詳細は、25 ページの「[WebFOCUS ログインリクエストの認証](#)」を参照してください。

ただし、シングルサインオン認証をサポートする環境では、下図のように、初期ログイン処理に `IBIRS_action=signOn` リクエストを追加し、WebFOCUS が CSRF トークンの使用をサポートできるようにする必要があります。

```
var IBIRS_action = "signOn";
var IBIRS_userName = "user_id";
var IBIRS_password = " ";
```

### 説明

#### `user_id`

シングルサインオンプロバイダに記録されたユーザ ID です。

`signOn` リクエストには、リクエストを送信するユーザ ID およびブランクのパスワードを含める必要があります。ただし、これらは認証に必要な値ではありません。

WebFOCUS がユーザに返した CSRF トークンは、後続のセッション中にこのユーザから発行されるすべての HTTP POST リクエストに追加する必要があります。

次の例のように、デフォルト設定された `WFJSESSIONID` というセッション ID も、`signOn` リクエストへのレスポンスメッセージのヘッダに含まれる Cookie で返されます。

```
Set-Cookie: WF-JSESSIONID=0000v61bcwkcbjsF-XoA1s3IAHe:-1;
```

この Cookie は、サーバに対してこのユーザを識別します。そのため、エラーを回避するには、セッション中にこのユーザから送信される後続のすべての RESTful Web サービスリクエストメッセージの HTTP ヘッダにこれを含める必要があります。

クライアントアプリケーションは、最初の RESTful Web サービスリクエストを受信した後、レスポンスヘッダを解析して Cookie を取得し、その Cookie を後続の RESTful Web サービスリクエストに送信する必要があります。これは、そのセッションを Application Server で再利用するためです。

## 例1 - シングルサインオン環境での初期ログインリクエストの適用

次の例は、シングルサインオン環境での signOn リクエストの作成方法を示します。

```
<!DOCTYPE html>
<html>
<head>
  <title></title>
  <meta charset="utf-8" />
  <script type="text/javascript" src="http://code.
    jquery.com/jquery-3.1.0.js"> </script>
  <script type='text/javascript' src="http://cdnjs.cloudflare.com/ajax/libs/
jquery-ajaxtransport-xdomainrequest/1.0.1/jquery.xdomainrequest.min.js"></
script>

  <script type="text/javascript">
    var csrf_name;
    var csrf_value;
    var frameToBeWorkedOn = "#AjaxPlaceholder";
    var contentType = "application/x-www-form-urlencoded; charset=utf-8";

//To run with preauthentication, use the "Modify Headers" add-in in the
//browser to set a request header of SM_USER with a value of "rest"
//which is the userid in Security Center. Then in WebFOCUS Admin Console -
>
//Security tab, turn off all authentication schemes except for
//Preauthentication
//Use SM_USER and keep all the defaults **** Make sure to START the Modify
//Headers add-in or the header variable is not sent

//  $(document).ready(function (IBIRS_action, IBIRS_userName,
IBIRS_password) {
  $(document).ready(function (IBIRS_action, IBIRS_userName) {

    if (window.XDomainRequest)
      contentType = "text/plain";

    var webMethod = "http://as8200.ibi.com:8080/ibi_apps/rs";
    var IBIRS_action = "signOn";
    var IBIRS_userName = "rest";
    var IBIRS_password = "";
    var parameters = 'IBIRS_action=' + IBIRS_action +
'&IBIRS_userName=' +
IBIRS_userName + '&IBIRS_password=' + IBIRS_password;
    var parameters = 'IBIRS_action=' + IBIRS_action +
'&IBIRS_userName='
+ IBIRS_userName;
```

```
$.ajax({
  type: "POST",
  url: webMethod,
  data: parameters,
  dataType: "xml",
  xhrFields: {
    withCredentials: true
  },
  crossDomain: true,
  contentType: contentType,
  success: xmlParser,
  error: function(jqXHR, textStatus, errorThrown)
  {
    alert("You can not send Cross Domain AJAX requests: " +
      errorThrown);
  }
});
});

function xmlParser(xml) {

  $(xml).find("entry").each(function () {
    if ($(this).attr("key") == "IBI_CSRF_Token_Name") {
      csrf_name = $(this).attr("value");
    }
    if ($(this).attr("key") == "IBI_CSRF_Token_Value") {
      csrf_value = $(this).attr("value");
    }
  });

  runReport();
}
```

## 例 2 - SiteMinder (初期リクエスト)

SiteMinder を使用する場合は、WF-JSESSION ID を Cookie に含めるほか、RESTful Web サービスリクエストのヘッダで SMSESSION Cookie を送信する必要があります。

### リクエスト

```
GET http://host:port/ibi_apps/rs?IBIRS_action=TEST HTTP/1.1
Host: host:port
User-Agent: Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64; rv:20.0) Gecko/20100101 Firefox/20.0
Accept: text/html,application/xhtml+xml,application/xml;q=0.9,*/*;q=0.8
Accept-Language: en-US,en;q=0.5
Accept-Encoding: gzip, deflate
Cookie: SMSESSION=9XYcYZnboGIIIfMhEeeZJ8qSQY8Q86jN/WYZ/tco/xYuXM0hNVSi4VI0kDKLq/C0
RHARUYd/J6og1b5w1m+I2alSoUJz8m28cUj13Pt221ubduHvaAmEAWHh86lQhUmLc/yae552m
YoURSzhZ2LexeeE+7KgeK8fFVtBjXl2DXHPBvv8vpkas80NeYnaqJbS4Td4jbT0A0Lf92k2K5H
87CDNgr+lT6iWAVEWo972+eSd7t+/iD3MDaadal7CnT1nUk1BYBTQxHNK8tg3eHUxy61Lqc7M
K/xmcf+f27S4acueluk2UAeGLG9b+qkmQ8qZ9fZ/equ5tpUL3LZlRWsq9Zf/XXgYM/zUq6f29
mJ01lsi9XU/KIO3TyPMiBT+gj3bGsK3H5Zw8KuqCJafSuqG9IzohJFtNuOokCp6Qrm2DtGXhn
fiuYKmwMd006acFh6kVNhMsNEeiTZ6Uo2spccoHJ8I1MA9F7WkF1/yvdghftdYcD6dKIGYFO7
biKfPhAy/rjtjD23HP138V5jmMTz3A0LeLvjnlsGbxNoTKg/PVf3NPM1o51sltTwvKYLZbx87
WotlpOVhiAslwre/2UW7kHHIpeX1N3VP4E3ZmYDCXuxX+aJDwGEUzzAbi9uxu/aVDRMRSJY5R
LgqW8dyugcfBagJ94+n8WvC8tsG7nnlVDEewQNbay7w3lrWp0SYVd227KjfdSt1N9eTs08vKD
sneKjseSchZV0hCL62lzh1JwAaJg3FJNMpnIGG6MmrJ66RC4AhMaKWJgY1pOLi4l4V3nelJ29
YfnKE7PAvyY9jfn7iZ08vWT5EunMYPrNgsMH+dZ6atK5xx51SCO76uYtEislwScoCQvgV6kZi
RLyLwPv03kWeINwAkyM3QdmqAWEutR4L7NyTL4bThU5nXuScRCrQ1+EiqOxPKCBh
Connection: keep-alive
```

## レスポンス

```

HTTP/1.1 200 OK
Date: Mon, 06 May 2013 13:38:07 GMT
Server: Apache/2.0.58 (Unix) mod_ssl/2.0.58 OpenSSL/0.9.8e-fips-rhel5
Set-Cookie: SMSESSION=jNji3BS1Zavfl0YRdpNd50mdUsGBaoaD8DcoIqG/EnvCE2/VqlM3wAcPfr25I0
JZHmLoewUFMrz60pSwkycBk1MQLDWv2LkQVa/1ESzr9PqzONyiSwXDPHwa5MXdgpmsH58b2aA
f3x1lpKZ/EX3D6VDPaIrRmnZE4LY7GK5YD5+wr/hVDBVWKmVlphbefCjDvlfanfUCZmau8gd1N
6Csxv52ULat8QBoRmXYh+iDxDpCPqDM4Nc8z3TiVeHhsRyE+7xsAoY+22+E2Vkj8EDv/hCdL
ar9VS+nBtPALuN/Otze1C/ZRDi9X90yL3++ecsrpLW+ioqRznh7c043URUNqoPz9M3Ea8uDJO
RSdeQ9QeoAZ8x+4y9jPEMDvdBSJqE7EZlm6d6BmaDPDAUPPP+BYMwx/EHSzM6rbpH+NJT6GOG
M9gkvLhH31BjiBJZf2VvDPsgzHzIONT1xDJgGcyLTiXAt8m17ufvphnJZbpFtMi0WKfHm16Rz
TwZ+9KvPW2Toem35zhFXU2gFxE/31gj9sq7MKmihdXe1D022Rd0j7ti99PZg8Q08wsVaHh4P8
8/ITTy/DrTFqMhdu97YUEW7bAHLKK6OPZtpDWCqix3T9/+ZA6MICdSuWRzX1bD2sXQs/zIsga
e/K2RHkNTSMA0bKzR+cFUsDzooM5yWApAXvYe/WsB59jOQYrEIdG4//f1Q7MT7F8DnTnVDjWs
j9JlgLvewdiJWVgP+knPnaiR9oZlGseqCjAuCbxbFcpVhKprrx/urqNzwm9Yz0xKcd8jvXA8
lrT0yiN+jarm/nHfyjJLYt1fBOuhXploQn7TR7ZixA4n57R897LzbmZK6CsyreFJ11UbiyqSb
X40M0qx+HHJ3eV7D8t+Rbdn/5UdHzGFCi1S2ZHPkbe+gO9H1OwxNSmnwIDEUGjQUra7vmvZaU
5cUeAXFHvCUTKVC811vtdSd+eAaLau5THQ11PylRSTQ0f/DwxU1Mon6EZTkRLLxR+2mvpN6P
wj; path=/; domain=.ibi.com
X-XSS-protection: 0
Expires: Mon, 06 May 2013 13:43:07 GMT
Cache-Control: private
Set-Cookie: WF-JSESSIONID=0000v6lbcwkcjbsF-XoA1s3IAHe:-1; Path=/ibi_apps

Keep-Alive: timeout=15, max=100
Connection: Keep-Alive
Transfer-Encoding: chunked
Content-Type: text/html; charset=utf-8
Content-Language: en-US

```

SiteMinder の SMSESSION Cookie は、認証済みのセッションを識別します。詳細は、以下を参照してください。

<https://docops.ca.com/ca-single-sign-on/12-52-sp1/en/configuring/web-agent-configuration/session-protection/session-cookie-management>

### 例 3 - SiteMinder (後続リクエスト)

次の例のように、すべての後続リクエストでは、SMSESSION Cookie および初期 RESTful Web サービスリクエストで取得したセッション Cookie を、RESTful Web サービスリクエストのヘッダで渡す必要があります。

```
GET http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository?IBIRS_path=%2FWFC
%2FRepository&IBIRS_action=get&IBIRS_args=__null HTTP/1.1
Host: host:port
User-Agent: Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64; rv:20.0) Gecko/20100101 Firefox/20.0
Accept: text/html,application/xhtml+xml,application/xml;q=0.9,*/*;q=0.8
Accept-Language: en-US,en;q=0.5
Accept-Encoding: gzip, deflate
Referer: http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs?IBIRS_action=TEST
Cookie: SMSESSION=jNji3BSlZavfl0YRdpNd50mdUsBGBaoaD8DCoIqG/EnvCE2/VqlM3wAcPFr25I0
JZHmLoewUFMrz60pSwkycBklMQLDwv2LkQVa/1ESzr9PqzONyiSwXDPHwa5MXdgpmsH58b2aA
f3x1lpKZ/EX3D6VDPaIrRmnZE4LY7GK5YD5+wr/hVDBVWKmVlphbefCjDvlanfUCZmau8gdln
6Csxv52ULat8QBoRmXYh+iDxDpCPqDM4Nc8z3TiVeHhsRyE+7xsAoY+22+E2Vkj8EDv/hCdL
ar9VS+nBtPALuN/Otze1C/ZRD19X90yL3++ecsrpLW+ioqRznh7c043URUNqoPz9M3Ea8uDJ0
RSdeQ9QeoAZ8x+4y9jPEMDVdBSJqE7EZlm6d6BMA DPDAUPPP+BYMwx/EHSzM6rbpH+NJT6GOG
M9gkvLhH31BjiBJZf2VvDPsgzHzIONT1xDJgGcyLTiXAt8m17ufvphnJZbpFtMi0WKfHML6Rz
TwZ+9KvPW2Toem35zhFXU2gFXE/3lgj9sq7MKmihdXe1D022Rd0j7tti99PZg8Q08wsVaHh4P8
8/ITTy/DrTFqMhdu97YUEW7bAHLKK6OPZtpDWCqix3T9/+ZA6MICdSuWRzX1bD2sXQs/zIsga
e/K2RHkNTSMA0bKzR+cFUsDzooM5yWApAXvYe/WsB59jOQYrEIdG4//flQ7MT7F8DnTnVDjWs
j9JlgLvewdiJWVgP+knPnaiR9oZlGseqCjAuCbxbFcpVhKprxr/urqNzwm9Yz0xKcd8jvXA8
lrT0yiN+jarm/nHfyjJLYtlfB0uhXploQn7TR7ZixA4n57R897LzBmZK6CsyreFJ11UbiyqSb
X40M0qx+HHJ3ev7D8t+Rbdn/5UdHzGFCi1S2ZHPkbe+gO9H1OwxNSmnwIDEUGjQUra7vmvZaU
5cUeAXFHvCUTKVC81lvtdSd+eAaLau5THQ1lPylRSTQ0f/DwxU1Mon6EZTkRLLxR+2mvpN6P
wj; WF-JSESSIONID=0000v6lbcwkcbjsF-XoA1s3IAHe:-1; Connection: keep-alive
```

### WebFOCUS からのログアウト

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、WebFOCUS からログアウトすることができます。一度ログアウトすると、後続の WebFOCUS RESTful Web サービスリクエストは正しく実行されなくなります。同一ブラウザセッション内に WebFOCUS セッションが存在する場合は、そのセッションもログアウトされます。

**HTTP メソッド** POST

**REST URL のフォーマット**

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs
```

説明

host

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

port

WebFOCUS が使用するポート番号です。

## 本文のフォーマット

```
IBIRS_action=signOff
```

## 例

次の例では、ログアウトリクエストが WebFOCUS に送信されます。

## POST リクエストの URL

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs
```

## 本文

```
IBIRS_action=signOff
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSresponseObject" language="EN" name="signOff"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS"
type="simple">
  <ibfsparams size="0"/>
  <rootObject _jt="string">OK</rootObject>
</ibfsrpc>
```

## WebFOCUS リポジトリ

ここでは、さまざまな WebFOCUS リポジトリタスクに使用される RESTful Web サービスリクエストのフォーマットおよび構造について説明します。

## フォルダの作成および更新

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、WebFOCUS リポジトリ内でフォルダを作成、更新することができます。

## HTTP メソッド POST

## REST URL のフォーマット

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName
```

## 説明

**host**

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

**port**

WebFOCUS が使用するポート番号です。

## FolderName

作成するフォルダの名前です。既存のフォルダのサブフォルダを作成する場合は、REST URL に既存のフォルダ名を含める必要があります。つまり、作成するフォルダまでのパスを入力します。たとえば、「ExistingFolder/FolderName」のように指定します。

## 本文のフォーマット

```
IBIRS_action=put&IBIRS_object=Object&IBIRS_private=MakeFolderPrivate&IBIRS_replace=ReplaceFolderProperties
```

## 説明

### Object

次のフォーマットでフォルダの属性を定義する XML オブジェクトです。

```
<object _jt="IBFSMRObject"
  container="true" description="FolderDescription" summary="Summary"
  appName="AppList">
  <properties size="numberOfProperties">
  <entry key="propertyN"/>
  </properties>
</object>
```

## 説明

### FolderDescription

作成するフォルダの説明です。

### Summary

フォルダの内容を説明する概要です。

### AppList (オプション)

検索パスで使用されるアプリケーションのリストです。以下はその例です。

```
appName="ibisamp ibidemo"
```

### properties (オプション)

#### numberOfProperties

フォルダに適用するプロパティの個数です。

#### propertyN

フォルダに適用するプロパティです。各プロパティは、<entry> 要素の開始タグと終了タグの間で定義されます。以下はその例です。

```
<entry key="autogenmyreports"/>
```



有効なプロパティは次のとおりです。

- autogenmyreports** [マイコンテンツ] フォルダを自動的に作成します。
- hidden** フォルダのリストを非表示にします。

#### MakeFolderPrivate

プライベートフォルダにするかどうかを指定します。true または false を指定します。この属性のデフォルト値は true です。

#### ReplaceFolderProperties

フォルダのプロパティ (例、FolderDescription、Summary) を更新可能にするかどうかを指定します。

次のいずれかを指定します。

- true** フォルダのプロパティを更新します。フォルダのプロパティを更新するには、現在のプロパティを取得する必要があります。次に、取得した XML オブジェクトを変更し、変更後の XML オブジェクトを入力として使用します。フォルダの現在のプロパティを取得するには、次の REST URL を使用します。

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName?
IBIRS_action=get
```

- false** フォルダのプロパティを更新しません。

#### 例 1

次の例では、「Financial\_Reports」というフォルダが作成され、その説明として「SEC Filings」が追加されます。

#### POST リクエスト URL

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/Financial_Reports
```

#### 本文

```
IBIRS_action=put&IBIRS_object=<object _jt="IBFSMRObject" container="true"
description="SEC Filings" summary="Quarterly and Yearly Financial Reports reported
to the Securities and Exchange Commission">
</object>&IBIRS_replace=false
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="IBIRS_action"
returncode="10000"
  returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS"
type="simple">
  <ibfsparams size="0"/>
  <rootObject _jt="IBFSMRObject" binary="false" container="true"
createdBy="admin"
  createdOn="1345146734216" defaultLng="en_US" description="SEC Filings"
dummy="false"
  effectiveRSName="EDASERVE" fullPath="IBFS:/WFC/Repository/
Financial_Reports"
  handle="75d099c0_163a_46d8_ba25_ec0be965b15d"
lastModified="1345146734216"
  lastaccessBy="admin" lastaccessOn="1345146734216" lastmodBy="admin"
length="0"
  name="Financial_Reports" ownerId="10001" ownerName="admin"
ownerType="U"
  policy="//v+f////////9//////////+AAAAA" returnedLng="en_US"
summary="Quarterly and Yearly Financial Reports reported to the
Securities and Exchange Commission"
type="MRFolder">
  <nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
    <entry>
      <key _jt="string" value="en_US"/>
      <value _jt="ArrayList" size="2">
        <item _jt="string" index="0" value="SEC Filings"/>
        <item _jt="string" index="1" value="Quarterly and Yearly Financial
Reports reported to the Securities and Exchange Commission"/>
      </value>
    </entry>
  </nlsValues>
  <properties size="0"/>
</rootObject>
</ibfsrpc>
```

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、フォルダは正しく作成されています。

### 例 2

次の例では、「Financial\_Reports」というフォルダが更新され、その説明が「Financial Quarterly-Yearly Reports」に変更されます。

次の REST URL は、Financial\_Reports フォルダの現在のプロパティを取得します。

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/Financial_Reports?
IBIRS_action=get
```

### POST リクエスト URL

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/Financial_Reports
```

## 本文

```

IBIRS_action=put&IBIRS_object=
<rootObject _jt="IBFSMRObject" binary="false" container="true"
  createdBy="admin" createdOn="1349964405620" defaultLng="en_US"
  description="Financial Quarterly-Yearly Reports" dummy="false"
effectiveRSName="EDASERVE"
  fullPath="IBFS:/WFC/Repository/Financial_Reports"
handle="5d81bab8_7db7_40c9_96b9_df2b00ce3278"
  lastModified="1349964405620" lastaccessBy="admin"
lastaccessOn="1349969821584" lastmodBy="admin"
  length="0" name="Financial_Reports" ownerId="10001" ownerName="admin"
ownerType="U"
  policy="//3/D///9+f/////f////////8AAAA=" returnedLng="en_US"
  rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/Financial_Reports"
  summary="Quarterly and Yearly Financial Reports reported to the
Securities and Exchange Commission"
  type="MRFolder">
  <children _jt="ArrayList" size="0"/>
  <nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
    <entry>
      <key _jt="string" value="en_US"/>
      <value _jt="ArrayList" size="2">
        <item _jt="string" index="0" value="Financial Quarterly-Yearly
Reports"/>
        <item _jt="string" index="1"
          value="Quarterly and Yearly Financial Reports reported to the
Securities and Exchange Commission"/>
      </value>
    </entry>
  </nlsValues>
  <properties size="0"/>
</rootObject>&IBIRS_replace=true

```

## レスポンス

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、フォルダは正しく更新されています。

## フォルダの削除

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、WebFOCUS リポジトリ内のフォルダまたはサブフォルダを削除することができます。

### HTTP メソッド DELETE

### REST URL のフォーマット

```

http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName?
IBIRS_action=delete

```

## 説明

### host

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

### port

WebFOCUS が使用するポート番号です。

### FolderName

削除するフォルダの名前です。削除するフォルダがサブフォルダの場合は、REST URL にサブフォルダの上位フォルダも含める必要があります。つまり、削除するフォルダまでのパスを入力します。たとえば、「ParentFolderName/FolderName」のように指定します。

## 例

次の例では、RESTful\_Web\_Services フォルダ下の Car\_Reports フォルダから Manufacturing\_Reports フォルダが削除されます。

## リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/  
Car_Reports/Manufacturing_Reports?IBIRS_action=delete
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>  
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="IBIRS_action"  
  returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0"  
  subsystem="SSYS" type="simple">  
  <ibfsparams size="0"/>  
  <rootObject _jt="IBFSMRObject" binary="false" container="true"  
    createdBy="admin" createdOn="1345149829421"  
    defaultLng="en_US" description="Manufacturing Reports" dummy="false"  
    effectiveRSName="EDASERVE"  
    fullPath="IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/  
      Manufacturing_Reports"  
    handle="bb7ea628_2068_4d1c_b3cb_80555a30d53f"  
    lastModified="1345149829421" lastaccessBy="admin"  
    lastaccessOn="1345152035853" lastmodBy="admin" length="0"  
    name="Manufacturing_Reports"  
    returnedLng="en_US" type="MRFolder">  
    <nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">  
      <entry>
```

```

<key _jt="string" value="en_US"/>
<value _jt="ArrayList" size="2">
  <item _jt="string" index="0" value="Manufacturing Reports"/>
</value>
</entry>
</nlsValues>
<properties size="0"/>
</rootObject>
</ibfsrpc>

```

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、フォルダは正しく削除されています。

## WebFOCUS リポジトリレポートの削除

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、WebFOCUS リポジトリからレポートを削除することができます。

**HTTP メソッド** DELETE

**REST URL のフォーマット**

```

http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/ReportName?
IBIRS_action=delete

```

説明

**host**

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

**port**

WebFOCUS が使用するポート番号です。

**FolderName**

WebFOCUS レポートが格納されているフォルダの名前です。WebFOCUS レポートが格納されているフォルダがサブフォルダの場合は、REST URL にサブフォルダまでのパスを入力する必要があります。たとえば、「TopFolderName/SubFolderName」のように指定します。

**ReportName**

削除する WebFOCUS レポートの名前です。拡張子 .fex を含める必要があります。

**例**

次の例では、Financial\_Reports フォルダ下の Quarterly フォルダから Income\_Statement\_March\_2010 レポートが削除されます。

## リクエスト

`http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/Financial_Reports/Quarterly/Income_Statement_March_2010.fex?IBIRS_action=delete`

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="IBIRS_action"
returncode="10000"
  returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS"
type="simple">
  <ibfsparams size="0"/>
  <rootObject _jt="IBFSMRObject" appName="ibisamp" binary="false"
createdBy="admin"
  createdOn="1345218342649" defaultLng="en_US" description="Income
Statement - March 2010"
  dummy="false" extension="fex"
fullPath="IBFS:/WFC/Repository/Financial_Reports/Quarterly/
Income_Statement_March_2010.fex"
  handle="7fef079_cc95_4b8e_a99e_6d2f71e23020" inheritedPrivacy="true"
lastModified="1345218342649"
  lastaccessBy="admin" lastaccessOn="1345219257305" lastmodBy="admin"
length="5231"
  name="Income_Statement_March_2010.fex" ownerId="10001"
ownerName="admin" ownerType="U"
  policy="//v+f/////f9/////9/////+AAAAA" returnedLng="en_US"
type="FexFile">
  <content _jt="IBFSByteContent"
char_set="Cp1252">LSpEbyBub3QgZGVsZXRlIG9yIG1vZGlmSB0aGUgY2
9tbWVudHMgYmV...lNVTU1BUlkuUVVPVEVEU1RSSU5HLCaKckVORFNUWUx
FCkVORAoKLVJVTgo=
  </content>
  <nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
  <entry>
  <key _jt="string" value="en_US"/>
  <value _jt="ArrayList" size="2">
  <item _jt="string" index="0" value="Income Statement - March 2010"/>
  </value>
  </entry>
  </nlsValues>
  <properties size="1">
  <entry key="tool" value="infoAssist,report,IAFull"/>
  </properties>
  </rootObject>
</ibfsrpc>
```

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、レポートは正しく削除されています。

## フォルダおよびサブフォルダのリスト表示

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、WebFOCUS リポジトリ内のフォルダおよびサブフォルダのリストを取得することができます。

**HTTP メソッド** GET

**REST URL のフォーマット**

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName?IBIRS_action=get
```

説明

**host**

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

**port**

WebFOCUS が使用するポート番号です。

**FolderName**

サブフォルダリストの取得に使用するフォルダ (サブフォルダの上位フォルダ) の名前です。最上位フォルダのリストを取得する場合は、REST URL に FolderName は含めません。さらに下位のサブフォルダのリストを取得するには、REST URL にその上位サブフォルダまでのパスを含める必要があります。たとえば、「ParentFolderName/FolderName」のように指定します。

### 例 1

次の例では、最上位フォルダのリストが取得されます。

**リクエスト**

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository?IBIRS_action=get
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="IBIRS_action"
returncode="10000"
  returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS"
type="simple">
  <ibfsparams size="0"/>
  <rootObject _jt="IBFSMRObject" binary="false" container="true"
createdBy="WebFOCUS"
  createdOn="1344536982043" defaultLng="en_US" description="Content"
dummy="false"
  effectiveRSName="EDASERVE" expireDate="1344536982047" externalId=""
  fullPath="IBFS:/WFC/Repository" handle="000000000001"
lastModified="1344536982047"
  lastaccessBy="admin" lastaccessOn="1345146849357" lastmodBy="WebFOCUS"
length="0"
  name="Repository" policy="///+f////////9//////////+AAAAA"
returnedLng="en_US"
  summary="Content Root" type="MRRepository">
  <children _jt="ArrayList" size="3">
    <item _jt="IBFSMRObject" binary="false" container="true"
createdBy="WebFOCUS"
  createdOn="1344536982083" defaultLng="en_US" description="Public"
dummy="false"
  effectiveRSName="EDASERVE" expireDate="1344536982083" externalId=""
  fullPath="IBFS:/WFC/Repository/Public" handle="000000000004" index="0"
lastModified="1344536982083" lastaccessBy="admin"
lastaccessOn="1344957209010"
  lastmodBy="WebFOCUS" length="0" name="Public" parent="Repository"
policy="///+f////////9//////////+AAAAA" returnedLng="en_US"
  summary="Public Folder" type="MRFolder">
  <nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
    <entry>
      <key _jt="string" value="en_US"/>
      <value _jt="ArrayList" size="2">
        <item _jt="string" index="0" value="Public"/>
        <item _jt="string" index="1" value="Public Folder"/>
      </value>
    </entry>
  </nlsValues>
  </children>
</rootObject>
</ibfsparams>
</ibfsrpc>
```



```

    </entry>
  </nlsValues>
  <properties size="0" />
</item>
<item _jt="IBFSMRObject" binary="false" container="true"
createdBy="admin"
  createdOn="1345146734216" defaultLng="en_US" description="SEC
Filings" dummy="false"
  effectiveRSName="EDASERVE" fullPath="IBFS:/WFC/Repository/
Financial_Reports"
  handle="75d099c0_163a_46d8_ba25_ec0be965b15d" index="1"
lastModified="1345146734216"
  lastaccessBy="admin" lastaccessOn="1345146755132" lastmodBy="admin"
length="0"
  name="Financial_Reports" ownerId="10001" ownerName="admin"
ownerType="U"
  parent="Repository" policy="//v+f////////9/////////+AAAAA"
  returnedLng="en_US"
  summary="Quarterly and Yearly Financial Reports reported to the
Securities and Exchange Commission"
  type="MRFolder">
  <nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
    <entry>
      <key _jt="string" value="en_US" />
      <value _jt="ArrayList" size="2">
        <item _jt="string" index="0" value="SEC Filings" />
        <item _jt="string" index="1"
          value="Quarterly and Yearly Financial Reports reported to the
Securities and Exchange Commission" />
      </value>
    </entry>
  </nlsValues>
  <properties size="0" />
</item>
<item _jt="IBFSMRObject" binary="false" container="true"
createdBy="admin" createdOn="1344607303673"
  defaultLng="en_US" description="RESTful Web Services" dummy="false"
effectiveRSName="EDASERVE"
  fullPath="IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services"
handle="ac08f200_d2f2_4ab6_9b60_b62d8f2ad345"
  index="2" lastModified="1344957300737" lastaccessBy="admin"
lastaccessOn="1345146071751"
  lastmodBy="admin" length="0" name="RESTful_Web_Services"
ownerId="10001" ownerName="admin"
  ownerType="U" parent="Repository" policy="//v+f////////
9/////////+AAAAA" returnedLng="en_US"
  summary="For documenting RESTful Web Services" type="MRFolder">

```

```

<nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
  <entry>
    <key _jt="string" value="en_US"/>
    <value _jt="ArrayList" size="2">
      <item _jt="string" index="0" value="RESTful Web Services"/>
      <item _jt="string" index="1" value="For documenting RESTful Web
Services"/>
    </value>
  </entry>
</nlsValues>
<properties size="0"/>
</item>
</children>
<nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
  <entry>
    <key _jt="string" value="en_US"/>
    <value _jt="ArrayList" size="2">
      <item _jt="string" index="0" value="Content"/>
      <item _jt="string" index="1" value="Content Root"/>
    </value>
  </entry>
</nlsValues>
<properties size="0"/>
</rootObject>
</ibfsrpc>

```

各フォルダは、<item> 要素の開始タグと終了タグの間で定義されます。フォルダの type 属性は、MRFolder です。name 属性で、フォルダの名前が定義されます。description 属性で、フォルダのタイトルが定義されます。summary 属性で、フォルダ内のコンテンツの概要が定義されます。

下表は、この例で取得された 3 つのフォルダを示しています。

フォルダ名	タイトル	概要
Public	Public	パブリックフォルダ
RESTful_Web_Services	RESTful Web Services	RESTful Web サービスのドキュメント
Financial_Reports	SEC Filings	証券取引委員会 (SEC) に報告する四半期および年次の財務レポート

## 例 2

次の例では、SEC Filings フォルダ (Financial\_Reports) のサブフォルダのリストが取得されます。

## リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/Financial_Reports?
IBIRS_action=get
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="IBIRS_action"
returncode="10000"
  returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfsparams size="0"/>
  <rootObject _jt="IBFSMRObject" binary="false" container="true"
createdBy="admin"
  createdOn="1345146734216" defaultLng="en_US" description="SEC Filings"
dummy="false"
  effectiveRSName="EDASERVE" fullPath="IBFS:/WFC/Repository/
Financial_Reports"
  handle="75d099c0_163a_46d8_ba25_ec0be965b15d"
lastModified="1345146734216"
  lastaccessBy="admin" lastaccessOn="1345147040831" lastmodBy="admin"
length="0"
  name="Financial_Reports" ownerId="10001" ownerName="admin"
ownerType="U"
  policy="//v+f////////9/////////+AAAAA" returnedLng="en_US"
  summary="Quarterly and Yearly Financial Reports reported to the
Securities and Exchange Commission"
  type="MRFolder">
  <children _jt="ArrayList" size="1">
  <item _jt="IBFSMRObject" binary="false" container="true"
createdBy="admin" createdOn="1345147005204"
  defaultLng="en_US" description="Quarterly" dummy="false"
effectiveRSName="EDASERVE"
  fullPath="IBFS:/WFC/Repository/Financial_Reports/Quarterly"
handle="a0cfcde1_fb34_4b07_b20d_4144094ec5c2"
  index="0" inheritedPrivacy="true" lastModified="1345147005204"
lastaccessBy="admin"
  lastaccessOn="1345147013034" lastmodBy="admin" length="0"
name="Quarterly" ownerId="10001"
  ownerName="admin" ownerType="U" parent="Financial_Reports" policy="//v
+f////////f9////////9/////////+AAAAA"
  returnedLng="en_US"
  summary="Quarterly Financial Reports reported to the Securities and
```

```

Exchange Commission" type="MRFolder">
  <nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
    <entry>
      <key _jt="string" value="en_US"/>
      <value _jt="ArrayList" size="2">
        <item _jt="string" index="0" value="Quarterly"/>
        <item _jt="string" index="1"
          value="Quarterly Financial Reports reported to the Securities
and Exchange Commission"/>
      </value>
    </entry>
  </nlsValues>
  <properties size="0"/>
</item>
</children>
<nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
  <entry>
    <key _jt="string" value="en_US"/>
    <value _jt="ArrayList" size="2">
      <item _jt="string" index="0" value="SEC Filings"/>
      <item _jt="string" index="1"
        value="Quarterly and Yearly Financial Reports reported to the
Securities and Exchange Commission"/>
    </value>
  </entry>
</nlsValues>
<properties size="0"/>
</rootObject>
</ibfsrpc>

```

各フォルダは、<item> 要素の開始タグと終了タグの間で定義されます。name 属性で、フォルダの名前が定義されます。description 属性で、フォルダのタイトルが定義されます。summary 属性で、フォルダ内のコンテンツの概要が定義されます。

下表は、この例で取得された 1 つのサブフォルダを示しています。

サブフォルダ名	タイトル	概要
Quarterly	Quarterly	証券取引委員会 (SEC) に報告する四半期および年次の財務レポート

## WebFOCUS リポジトリ内のレポート、スケジュール、ReportLibrary コンテンツのリスト表示

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、フォルダ内のコンテンツリストを取得することができます。これらのコンテンツには、サブフォルダ、WebFOCUS レポート、ReportCaster スケジュール、ReportLibrary コンテンツがあります。

## HTTP メソッド GET

### REST URL のフォーマット

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName?
IBIRS_action=get
```

#### 説明

`host`

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

`port`

WebFOCUS が使用するポート番号です。

`FolderName`

コンテンツリストの取得に使用するフォルダの名前です。コンテンツがサブフォルダに存在する場合は、REST URL にサブフォルダまでのパスを入力する必要があります。たとえば、「ParentFolderName/FolderName」のように指定します。

#### 例

次の例では、Car\_Reports フォルダのコンテンツリストが取得されます。Car\_Reports フォルダは、RESTful\_Web\_Services フォルダのサブフォルダです。

#### リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_
Web_Services/Car_Reports?IBIRS_action=get
```

#### レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="IBIRS_action"
returncode="10000"
  returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS"
  type="simple">
  <ibfsparams size="0"/>
  <rootObject _jt="IBFSMRObject" binary="false" container="true"
createdBy="admin"
  createdOn="1344607319557" defaultLng="en_US" description="Car Reports"
dummy="false"
  effectiveRSName="EDASERVE" fullPath="IBFS:/WFC/Repository/
RESTful_Web_Services/Car_Reports"
```

```

    handle="c60b1f9a_05ef_4e72_a737_e869917607db" inheritedPrivacy="true"
lastModified="1344607319557"
    lastaccessBy="admin" lastaccessOn="1345149848357" lastmodBy="admin"
length="0" name="Car_Reports"
    ownerId="10001" ownerName="admin" ownerType="U" policy="//v+f////////
f9////////9////////+AAAAA"
    returnedLng="en_US" type="MRFolder">
    <children _jt="ArrayList" size="6">
    <item _jt="IBFSMRObject" binary="false" container="true"
createdBy="admin" createdOn="1345149829421"
    defaultLng="en_US" description="Manufacturing Reports" dummy="false"
effectiveRSName="EDASERVE"
fullPath="IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/
Manufacturing_Reports"
    handle="bb7ea628_2068_4d1c_b3cb_80555a30d53f" index="0"
inheritedPrivacy="true"
    lastModified="1345149829421" lastaccessBy="admin"
lastaccessOn="1345149829421" lastmodBy="admin"
    length="0" name="Manufacturing_Reports" ownerId="10001"
ownerName="admin" ownerType="U"
    parent="Car_Reports" policy="//v+f////////f9////////9////////+AAAAA"
returnedLng="en_US" type="MRFolder">
    <nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
    <entry>
    <key _jt="string" value="en_US"/>
    <value _jt="ArrayList" size="2">
    <item _jt="string" index="0" value="Manufacturing Reports"/>
    </value>
    </entry>
    </nlsValues>
    <properties size="0"/>
    </item>
    <item _jt="IBFSMRObject" appName="ibisamp" binary="false"
createdBy="admin" createdOn="1345044807527"
    defaultLng="en_US" description="Sales Chart By Country" dummy="false"
effectiveAppName="ibisamp"
effectiveRSName="EDASERVE"
    extension="fex" fullPath="IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/
Car_Reports/
Sales_Chart_By_Country.fex"
    handle="5f4447c8_406e_41f6_8eca_7e056a4c1f27" index="1"
inheritedPrivacy="true"
    lastModified="1345044807527" lastaccessBy="admin"
lastaccessOn="1345047740027" lastmodBy="admin"
    length="5623" name="Sales_Chart_By_Country.fex" ownerId="10001"
ownerName="admin" ownerType="U"
    parent="Car_Reports" policy="//v+f////////f9////////9////////+AAAAA"

```

```

returnedLng="en_US" type="FexFile">
  <nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
    <entry>
      <key _jt="string" value="en_US"/>
      <value _jt="ArrayList" size="2">
        <item _jt="string" index="0" value="Sales Chart By Country"/>
      </value>
    </entry>
  </nlsValues>
  <properties size="1">
    <entry key="tool" value="infoAssist,chart,IAFull"/>
  </properties>
</item>
.
.
.
  <item _jt="CasterLibVersion" compressFormat="O$$" compressSize="0"
format="HTML"
    id="L8c1297c11613114a1flaccel6fc9173c28b9" index="1" size="1284"
versionNumber="3">
    <createDate _jt="calendar" time="1344779970997" timeZone="America/
New_York"/>
    <expireDate _jt="calendar" time="32474876370997" timeZone="America/
New_York"/>
  </item>
  <item _jt="CasterLibVersion" compressFormat="O$$" compressSize="0"
format="HTML"
    id="L84a1a1bc1e50014fd419eb21d05515d9f90c" index="2" size="1284"
versionNumber="4">
    <createDate _jt="calendar" time="1344978446241" timeZone="America/
New_York"/>
    <expireDate _jt="calendar" time="32474902046242" timeZone="America/
New_York"/>
  </item>
  <item _jt="CasterLibVersion" compressFormat="O$$" compressSize="0"
format="HTML"
    id="L95dd1bb0142d0145a919b0flb4ee0ce8390f" index="3" size="1284"
versionNumber="5">
    <createDate _jt="calendar" time="1344978694335" timeZone="America/
New_York"/>
    <expireDate _jt="calendar" time="32474902294335" timeZone="America/
New_York"/>
  </item>
</versionList>
<category id="RESTful_Web_Services/"
  isCategory="true" isMre="false" name="Weekly Reports"/>
</casterObject>
</item>

```

```
</children>
<nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
  <entry>
    <key _jt="string" value="en_US"/>
    <value _jt="ArrayList" size="2">
      <item _jt="string" index="0" value="Car Reports"/>
    </value>
  </entry>
</nlsValues>
<properties size="0"/>
</rootObject>
</ibfsrpc>
```

各コンテンツは、<item> 要素の開始タグと終了タグの間で定義されます。

type 属性で、次のいずれかのコンテンツ項目のコンテンツタイプが定義されます。

- MRFolder** サブフォルダ
- FexFile** WebFOCUS レポート
- CasterSchedule** ReportCaster スケジュール
- CasterLibrary** ReportLibrary コンテンツ
- CasterAccessList** ReportLibrary アクセスリスト

name 属性で、コンテンツ項目の名前が定義されます。description 属性で、項目のタイトルが定義されます。summary 属性で、コンテンツ項目の概要が定義されます。

## ReportLibrary レポートのバージョンのリスト表示

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、ReportLibrary に格納されている WebFOCUS レポートのバージョンのリストを取得することができます。

**HTTP メソッド** GET

**REST URL のフォーマット**

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/ContentName?
IBIRS_action=get
```

説明

host

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

port

WebFOCUS が使用するポート番号です。



#### FolderName

WebFOCUS レポートが格納されているフォルダの名前です。WebFOCUS レポートが格納されているフォルダがサブフォルダの場合は、REST URL にサブフォルダまでのパスを入力する必要があります。たとえば、「TopFolderName/SubFolderName」のように指定します。

#### ContentName

フォルダのコンテンツリストを取得した際に name 属性で定義された格納済み WebFOCUS レポートの名前です。詳細は、52 ページの「[WebFOCUS リポジトリ内のレポート、スケジュール、ReportLibrary コンテンツのリスト表示](#)」を参照してください。

#### 例

次の例では、Car\_Reports フォルダに格納されている ReportLibrary レポートの中で、L1748ltvgq02.lib で識別される ReportLibrary レポートのバージョンリストが取得されます。Car\_Reports フォルダは、RESTful\_Web\_Services フォルダのサブフォルダです。L1748ltvgq02.lib は、フォルダのコンテンツリストを取得した際に name 属性で定義された名前です。詳細は、52 ページの「[WebFOCUS リポジトリ内のレポート、スケジュール、ReportLibrary コンテンツのリスト表示](#)」を参照してください。

コンテンツリストの description 属性で、格納済みレポートのタイトルが定義されます。前述の「レポート、スケジュール、ReportLibrary コンテンツのリスト表示」で紹介した例では、L1748ltvgq02.lib のタイトルは「Sales for a Specific Country」として定義されています。

#### リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/L1748ltvgq02.lib?IBIRS_action=get
```

#### レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="IBIRS_action"
returncode="10000"
  returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS" type="simple">
```

```

<ibfsparams size="0"/>
<rootObject _jt="IBFSCasterObject" binary="false" createdBy="admin"
createdOn="1344616201760"
  defaultLng="en_US" description="Sales for a Specific Country"
dummy="false"
  effectiveRSName="EDASERVE" extension="lib"
externalId="Le218a4d048cd45e4f9174bf1edc5e5a6"
fullPath="IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/
Car_Reports/L1748ltvgq02.lib"
  handle="51254a92I811dI4cd1Ib9f9If456ca5f00b9" inheritedPrivacy="true"
lastModified="1344616201760"
  lastaccessBy="admin" lastaccessOn="1345147221049" lastmodBy="admin"
length="0"
  name="L1748ltvgq02.lib" ownerId="10001" ownerName="admin"
ownerType="U"
  policy="//v+f////////f9////////9////////+AAAAA" returnedLng="en_US"
summary="Sales for a Specific Country"
  type="CasterLibrary">
<nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
<entry>
  <key _jt="string" value="en_US"/>
  <value _jt="ArrayList" size="2">
<item _jt="string" index="0" value="Sales for a Specific Country"/>
<item _jt="string" index="1" value="Sales for a Specific Country"/>
  </value>
</entry>
</nlsValues>
<properties size="2">
  <entry key="id" value="Le218a4d048cd45e4f9174bf1edc5e5a6"/>
  <entry key="tool" value="reportlibrary"/>
</properties>
<casterObject _jt="CasterContent" accessList="" accessType="OWNER"
category="Weekly Reports"
  description="Sales for a Specific Country" expireInterval="1"
expireMode="N"
  ibfsId="51254a92I811dI4cd1Ib9f9If456ca5f00b9"
ibfsPath="IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports"
id="Le218a4d048cd45e4f9174bf1edc5e5a6"
  isWatch="false" lastExecution="1344978694335" lastVersion="5"
name="L1748ltvgq02.lib" owner="admin"
policy="subscribe,|,open,delete,rename,|,security;makeRules;viewRules"

```

```

reportgid="51254a92I81ldI4cdlIb9f9If456ca5f00b9"
scheduleId="Sa48balf3sa760s4e57sb349s4abda6168a17"
summary="Sales for a Specific Country"
taskId="T66cala2btd636t4e1dtad30t6930ae58ea09">
  <lastExecTime _jt="calendar" time="1344978694335" timeZone="America/
New_York"/>
  <versionList _jt="array" itemsClass="CasterLibVersion" size="4">
    <item _jt="CasterLibVersion" compressFormat="O$$" compressSize="0"
format="HTML"
      id="Lf7badbf2lcalcl4dcfla05dl5a8ddb387705" index="0" size="1284"
versionNumber="2">
      <createDate _jt="calendar" time="1344616201629"
timeZone="America/New_York"/>
      <expireDate _jt="calendar" time="32474885401652"
timeZone="America/New_York"/>
    </item>
    <item _jt="CasterLibVersion" compressFormat="O$$" compressSize="0"
format="HTML"
      id="L8c1297c1l6131l4a1flaccel6fc9173c28b9" index="1" size="1284"
versionNumber="3">
      <createDate _jt="calendar" time="1344779970997"
timeZone="America/New_York"/>
timeZone="America/New_York"/>
      <expireDate _jt="calendar" time="32474902046242" timeZone="America/
New_York"/>
    </item>
    <item _jt="CasterLibVersion" compressFormat="O$$" compressSize="0"
format="HTML"
      id="L95dd1bb0l42d0l45a9l9b0flb4ee0ce8390f" index="3" size="1284"
versionNumber="5">
      <createDate _jt="calendar" time="1344978694335" timeZone="America/
New_York"/>
      <expireDate _jt="calendar" time="32474902294335" timeZone="America/
New_York"/>
    </item>
  </versionList>
  <category id="RESTful_Web_Services/" isCategory="true"
isMre="false" name="Weekly Reports"/>
</casterObject>
</rootObject>
</ibfsrpc>

```

各バージョンは、<item> 要素の開始タグと終了タグの間で定義されます。

version 属性は、次のリストで定義されます。

- ❑ **versionNumber** 格納されている WebFOCUS レポートのバージョン番号です。
- ❑ **format** WebFOCUS レポートのフォーマットです (例、HTML)。
- ❑ **createDate** バージョンが作成された日付です。

□ **expireDate** ReportLibrary でバージョンが期限切れになる日付です。

## リポジトリレポートのパラメータのリスト表示

次の RESTful Web サービスリストを使用して、WebFOCUS リポジトリ内の WebFOCUS レポートで使用されている現在のパラメータを取得することができます。

**HTTP メソッド** GET

**REST URL のフォーマット**

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/FexName?  
IBIRS_action=describeFex
```

説明

**host**

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

**port**

WebFOCUS が使用するポート番号です。

**FolderName**

WebFOCUS レポートが格納されているフォルダの名前です。WebFOCUS レポートが格納されているフォルダがサブフォルダの場合は、REST URL にサブフォルダまでのパスを入力する必要があります。たとえば、「TopFolderName/SubFolderName」のように指定します。

**FexName**

フォルダのコンテンツリストを取得した際に name 属性で定義された WebFOCUS レポートの名前です。詳細は、52 ページの「[WebFOCUS リポジトリ内のレポート、スケジュール、ReportLibrary コンテンツのリスト表示](#)」を参照してください。

**例**

次の例では、Car\_Reports フォルダに格納されている Sales\_for\_a\_Specific\_Country.fex レポートの現在のパラメータが取得されます。Car\_Reports フォルダは、RESTful\_Web\_Services フォルダのサブフォルダです。Sales\_for\_a\_Specific\_Country.fex は、フォルダのコンテンツリストを取得した際に name 属性で定義された名前です。詳細は、52 ページの「[WebFOCUS リポジトリ内のレポート、スケジュール、ReportLibrary コンテンツのリスト表示](#)」を参照してください。

**リクエスト**

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_
Services/Car_Reports/Sales_for_a_Specific_Country.fex?
IBIRS_action=describeFex
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="IBIRS_action"
returncode="10000"
  returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfsparams size="0"/>
  <rootObject isSavedParam="false">
    <bindingInfo _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="24">
      <entry>
        <key _jt="string" value="SUBSYSTEM"/>
        <value isReqParm="false" value="Self Service"/>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="string" value="IBI_WF_charset"/>
        <value isReqParm="false" value="windows-1252"/>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="string" value="IBI_Webapp_Context_Default"/>
        <value isReqParm="false" value="/ibi_apps"/>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="string" value="SCRIPT_NAME"/>
        <value isReqParm="false" value="/ibi_apps/WFServlet"/>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="string" value="IBFS1_action"/>
        <value isReqParm="true" value="runItem"/>
      </entry>
      .
      .
      .
      <entry>
        <key _jt="string" value="SAVE_PARMRPT"/>
        <value isReqParm="false"
value="IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/
Sales_for_a_Specific_Country.fex"/>
      </entry>
    </bindingInfo>
    <amperMap accessOrder="false" loadFactor="0.75" threshold="12">
      <entry>
        <key _jt="string" value="FOCFOCEXEC"/>
        <value format="" max="0.0" min="0.0" name="FOCFOCEXEC" strDef="">
          <type name="system"/>
          <displayType name="prompt"/>

```

---

```

    <values accessOrder="false"
loadFactor="0.75" threshold="12"/>
  </value>
</entry>
<entry>
  <key _jt="string" value="FOCEXURL"/>
  <value format="" max="0.0" min="0.0" name="FOCEXURL" strDef="">
<type name="set"/>
<displayType name="prompt"/>
  <values accessOrder="false" loadFactor="0.75" threshold="12"/>
  </value>
</entry>
<entry>
  <key _jt="string" value="FOHTMLURL"/>
  <value format="" max="0.0" min="0.0" name="FOHTMLURL" strDef="">
  <type name="set"/>
<displayType name="prompt"/>
  <values accessOrder="false" loadFactor="0.75" threshold="12"/>
  </value>
</entry>
<entry>
  <key _jt="string" value="GOOGLEMAPSAPIKEY"/>
  <value format="" max="0.0" min="0.0" name="GOOGLEMAPSAPIKEY" strDef="">
  <type name="set"/>
<displayType name="prompt"/>
  <values accessOrder="false" loadFactor="0.75" threshold="12"/>
  </value>
</entry>
<entry>
  <key _jt="string" value="FOCREL"/>
  <value format="" max="0.0" min="0.0" name="FOCREL" strDef="">
  <type name="system"/>
<displayType name="prompt"/>
  <values accessOrder="false" loadFactor="0.75" threshold="12"/>
  </value>
</entry>
<entry>
  <key _jt="string" value="EXCELSERVURL"/>
  <value format="" max="0.0" min="0.0" name="EXCELSERVURL" strDef="">
  <type name="set"/>
<displayType name="prompt"/>
  <values accessOrder="false" loadFactor="0.75" threshold="12"/>
  </value>
</entry>

```

```

<entry>
  <key _jt="string" value="COUNTRY"/>
  <value description="Select Country:" format="" max="0.0" min="0.0"
    name="COUNTRY" operation="" strDef="">
    <type name="unresolved"/>
    <displayType name="staticType"/>
    <values accessOrder="false" loadFactor="0.75" threshold="12">
      <entry>
        <key _jt="string" value="ENGLAND"/>
        <value _jt="string" value="ENGLAND"/>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="string" value="JAPAN"/>
        <value _jt="string" value="JAPAN"/>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="string" value="FRANCE"/>
        <value _jt="string" value="FRANCE"/>
      </entry>
    </values>
  </value>
</entry>
</amperMap>
</rootObject>
</ibfsrpc>

```

各パラメータは、<entry> 要素の開始タグと終了タグの間で定義されます。

返された XML レスポンスには、WebFOCUS レポートで定義されたパラメータ以外に、多くのシステムパラメータが含まれています。次の例のように、type 要素の name 属性で unresolved または defaultType のいずれかが定義されているエントリは、WebFOCUS レポートのパラメータです。

```
<type name="unresolved"/>
```

次の例のように、value 要素の name 属性で、選択項目として使用されているパラメータが定義されます。

```
<value description="Select Country:" format=""
  max="0.0" min="0.0" name="COUNTRY" operation="" strDef="">
```

value 要素の description 属性で、パラメータのプロンプトタイトルが定義されます。

WebFOCUS レポートのパラメータ定義に選択項目の有効値のリストが含まれている場合、XML レスポンスのパラメータ定義に別の entry 要素が追加されます。その場合は、key 要素の value 属性に有効値が格納されます。

```
<entry><key _jt="string" value="ENGLAND"/><value _jt="string"
value="ENGLAND"/></entry>
<entry><key _jt="string" value="JAPAN"/><value _jt="string"
value="JAPAN"/></entry>
<entry><key _jt="string" value="FRANCE"/><value _jt="string"
value="FRANCE"/></entry>
```

この例では、このパラメータに転送可能な有効値は、ENGLAND、JAPAN、FRANCE です。

## リポジトリ内のフォルダ項目のリスト表示

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、WebFOCUS リポジトリ内のフォルダの項目リストを取得することができます。

### HTTP メソッド GET

### REST URL のフォーマット

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/folder?IBIRS_action=list
```

#### 説明

`host`

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

`port`

WebFOCUS が使用するポート番号です。

`folder`

WebFOCUS リポジトリ内のフォルダの名前です。

### サンプルリクエスト (構造)

```
//Create the parameters for the GET request
String encodedUrl = URLEncoder.encode("IBFS:/WFC/
Repository/cip/##SHARE", "UTF-8");
System.out.println(encodedUrl);
String getReq = request2;
getReq += "?IBIRS_path=" + encodedUrl;
getReq += "&IBIRS_action=" + "list";
// getReq += "&IBIRS_options=" +
"recursionDepth=-1;filter=.fex;flatten=true";
// getReq += "&IBIRS_options=" + "recursionDepth=-1;flatten=true";
// getReq += "&IBIRS_forGroups=__null";
getReq += "&IBIRS_recursionDepth=-1";
getReq += "&IBIRS_options=&IBIRS_flatten=true";
```



以下は、このリクエストで使用可能なオプションについての説明です。

- ❑ **flatten** フォルダ構造のインデントを制御します。受容可能な値は、true または false です。
- ❑ **recursionDepth** フォルダ構造をスキャンするレベルです。この値が「-1」の場合、すべてのレベルのフォルダ構造がスキャンされます。受容可能な値は、「2」、「1」、「0」、「-1」、「-2」です。
- ❑ **filter** フィルタを作成します。詳細は、65 ページの「[フィルタの使用](#)」を参照してください。
- ❑ **##SHARE** ログインユーザで共有される項目を定義します。

## フィルタの使用

ここでは、RESTful Web サービスリクエストのリスト表示 (IBIRS\_action=list) でのフィルタの使用方法について説明します。次のフィルタについて、以下のセクションで説明します。

- ❑ プロパティフィルタ
- ❑ 共有フィルタ
- ❑ 属性フィルタ
- ❑ ファイル名フィルタ
- ❑ 演算子フィルタ
- ❑ アプリケーションパスフィルタ
- ❑ フィルタの結合

### プロパティフィルタ

次の例は、パスで使用されるプロパティフィルタを示しています。

```
IBFS:/WFC/Repository/Public/##FILTER("properties", "tool=contains('IA')")
```

値が指定されない場合、プロパティの有無のみが確認されます。

これらのフィルタは、次のように指定します。

```
FILTER("properties", " (prop1=contains('val1', 'val2') | prop2) & (prop3!  
=contains('val3') | prop4=endsWith('val4Fragment', 'val5Fragment') |  
prop5=oneOf('val1', 'val2', 'val3')) &  
matches('matchExpr1', 'matchExpr2')" [, "nocase"]);
```

## 説明

`prop1, prop2, prop3, prop4, prop5`

オブジェクトのプロパティに格納されるプロパティです。以下はその例です。

```
FILTER("properties", " tool=startsWith('IA')")
```

## 比較関数リファレンス

- ❑ **contains** 特定のプロパティ内で指定した文字列を検索します。
- ❑ **startsWith** プロパティが、指定した文字列で開始されているかを確認します。
- ❑ **endsWith** プロパティが、指定した文字列で終了しているかを確認します。
- ❑ **oneOf** プロパティが、指定した引数のいずれかと等しいかどうかを確認します。
- ❑ **matches** プロパティが、指定した正規表現のいずれかと一致するかどうかを確認します。  
ワイルドカード (? \*) のみを含む正規表現は、複雑な正規表現より効果的です。

## 注意

- ❑ 値に条件を指定せず、プロパティ名のみを指定することで、プロパティの有無をテストすることができます。以下はその例です。

```
FILTER("properties", "prop2")
```

- ❑ プロパティが特定の値と等しいかどうかをテストすることができます。以下はその例です。

```
FILTER("property", "prop1='valueToCheck'");
```

- ❑ 上記の例はすべて、論理演算子 (& および |) およびグループ化する括弧を使用することで、結合することができます。

## 共有フィルタ

共有フィルタでは、次の構文フォーマットがサポートされます。

- ❑ **構文フォーマット 1**

```
FILTER("share" [, "true"/"false"])
```

2 つ目の引数が指定されない場合、true として解決されます。

- ❑ **構文フォーマット 2**

```
SHARE(["true"/"false"])
```

引数が指定されない場合、true として解決されます。

共有フィルタの 2 つ目のフォーマットは、1 つ目のフォーマットの短縮 (簡略) 版です。

**注意:** 引数が渡されない場合、`SHARE` または `SHARE()` が使用されます。

## 属性フィルタ

属性フィルタでは、次の構文が使用されます。

```
FILTER("attribute","attribute_name","attribute_value"[,"nocase"])
```

説明

`attribute_name`

属性の名前です。

`attribute_value`

属性の値です。正規表現を指定することもできます。現在、正規表現では疑問符 (?) とアスタリスク (\*) のみがサポートされています。これは、XML に記述される IBFS オブジェクトの属性すべてに適用されます。

`nocase`

オプションの引数です。`attribute_value` の大文字と小文字を区別するかどうかを指定します。

属性によって、リクエストはデータベースに送信してパフォーマンスを改善することができます。一時項目 (COMPUTE) の場合は、すべての項目 (存在する他のフィルタによって異なる) がデータベースから返されますが、高度なスクリーニングが適用されるため、パフォーマンスの低下につながります。

2 つ目の引数が `type` の場合 (XML の `type` 属性)、`type` のリストを送信することができます。以下はその例です。

```
IBFS:/WFC/Repository/Public/  
##FILTER("attribute","type","ROFexFile,HtmlFile")
```

このフィルタは、ファイル名フィルタとは逆に、他のタイプと同一の拡張子を共有する特定タイプのオブジェクトを返すことができます。

たとえば、FOCEXEC (`fex`) のリスト表示のみが必要な場合、「`FexFile`」を指定することができます。レポートオブジェクトのリスト表示が必要な場合は、「`ROFexFile`」を指定することができます。

このフィルタは非常に高速です。拡張子のみでファイルを選択することでも、処理が高速化されます。これは、拡張子が、データベースの `OBJ_TYPE` タイプフィールドを使用して `type` (例、`FexFile`) に内部的にマッピングされるためです。このフィールドは、インデックス付きの整数フィールドです。

## ファイル名フィルタ

ファイル名フィルタでは、次の構文が使用されます。

```
FILTER("file","*.ext;abc?efg.*|*.")
```

パイプ文字 (|) の前までがすべてフィルタに含まれます。パイプ文字 (|) の後ろはすべてフィルタから除外されます。パイプ文字 (|) および後続の文字はすべてオプションです。アスタリスク (\*) および疑問符 (?) は、ワイルドカード文字として受容されます。

サブシステムが、これらの文字のいずれかを有効な文字として認識し (大文字小文字は区別しない)、ファイル名または拡張子にそのような文字が含まれる場合、円記号 (¥) を使用してエスケープする必要があります。

これが唯一のフィルタの場合、次のように記述されます。

```
IBFS:/WFC/Repository/Public/ FILTER("file","*.ext;abc?efg.*|*.")
```

この場合、次の短縮 (簡略) 版フィルタを使用することもできます。

```
IBFS:/WFC/Repository/Public/ *.ext;abc?efg.*|*.
```

**注意:** アスタリスクとピリオドの連続文字 (\*.\*) は、すべてのフォルダを表すために使用されません (Windows のコマンド構文と同様)。

## 演算子フィルタ

演算子フィルタでは、次の構文が使用されます。

```
FILTER("operations","op1[,op2,op3,...,opN]")
```

任意のオブジェクトがフィルタを通過するためには、すべての演算子を有効にする必要があります。フィルタを通過するオブジェクトには、一連の演算子がすべて必要です。

## アプリケーションパスフィルタ

アプリケーションパス (APPPATH) フィルタは、APPPATH で設定されたサーバフォルダをリスト表示します。このフィルタでは、次の構文が使用されます。

```
IBFS:/WFC/Repository/ccc/##FILTER("appath")
```

次の短縮 (簡略) 版フィルタを使用することもできます。

```
IBFS:/WFC/Repository/ccc/##APPPATH
```

## フィルタの結合

フィルタ式は、次のように結合することができます。

```
FILTER(...) ; FILTER(...)...
```

ここでは、フィルタを結合する論理に AND 演算子を使用されます。この場合、評価は左から右へと処理されます。

## WebFOCUS リポジトリレポートの実行

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、WebFOCUS リポジトリに格納されているレポートを実行することができます。

### HTTP メソッド POST

### REST URL のフォーマット

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/ReportName
```

#### 説明

#### host

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

#### port

WebFOCUS が使用するポート番号です。

#### FolderName

WebFOCUS レポートが格納されているフォルダの名前です。WebFOCUS レポートが格納されているフォルダがサブフォルダの場合は、REST URL にサブフォルダまでのパスを入力する必要があります。たとえば、「TopFolderName/SubFolderName」のように指定します。

#### ReportName

実行する WebFOCUS レポートの名前です。拡張子 .fex を含める必要があります。

### 本文のフォーマット

```
IBIRS_action=run&IBIRS_proxyURL=clientPath&IBIRS_userName=UserId&
IBIRS_password=Password&parmNameN=parmValueN&IBIRS_args=Object
```

## 説明

### clientPath

WebFOCUS への RESTful Web サービス呼び出しを実行するクライアントアプリケーションのパスです。以下はその例です。

```
http://myapplication.maj.com/Sales/Monthly.aspx
```

このパラメータは、元の WebFOCUS レポートにドリルダウンリンク、イメージへのリンク、Web ビューアレポート、またはアクティブキャッシュレポートが含まれている場合に使用します。

この IBIRS\_proxy URL は、PDF や Excel などリダイレクトされる出力タイプで必要です。

ドリルダウンリンクをクリックするか、Web ビューアレポートのページをクリックすると、そのリクエストは、WebFOCUS ではなく、clientPath で定義されたクライアントアプリケーションに送信されます。このリクエストで、パラメータの名前および値がすべて送信されます。次に、そのクライアントアプリケーションは、リクエストを以下の URL (WebFOCUS 環境) にリダイレクトする必要があります。

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs
```

### Userid

Reporting Server のユーザ ID です。Reporting Server がセキュリティオフで実行されている場合、または Reporting Server ログイン認証情報が WebFOCUS Reporting Server の Client 設定で構成されている場合は、このパラメータを REST リクエストで送信する必要はありません。

### Password

Reporting Server のパスワードです。Reporting Server がセキュリティオフで実行されている場合、または Reporting Server ログイン認証情報が WebFOCUS Reporting Server の Client 設定で構成されている場合は、このパラメータを REST リクエストで送信する必要はありません。

### parmNameN

Reporting Server に転送される定義済みパラメータの名前です。

**注意：**WebFOCUS レポート内のパラメータ数に応じて、定義済みパラメータ数は異なります。たとえば、2つのパラメータを必要とする WebFOCUS レポートの場合、これらのパラメータおよび対応する値を、この RESTful Web サービスリクエストの本文でも設定する必要があります(&parmName1=parmValue1&parmName2=parmValue2)。使用する WebFOCUS レポートによっては、さらに多くのパラメータを必要とする場合もあります。

## parmValueN

Reporting Server に転送される定義済みパラメータの値です。

### Object (オプション)

EXCEL や PDF などの MIME タイプのレポート出力を取得する際に、次のフォーマットを使用してリダイレクトを無効にする XML オブジェクトです。

```

<rootObject _jt="HashMap">
  <entry>
    <key _jt="string" value="IBFS_contextVars"/>
    <value _jt="HashMap">
      <entry>
        <key _jt="string" value="IBIWF_redirect"/>
        <value _jt="string" value="NEVER"/>
      </entry>
    </value>
  </entry>
</rootObject>

```

### 例

次の例では、Sales\_for\_a\_Specific\_Country レポートが、JAPAN という値のみで実行されます。

### リクエスト

```

http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/
Car_Reports/Sales_for_a_Specific_Country.fex

```

### 本文

```
IBIRS_action=run&COUNTRY=JAPAN
```

### レスポンス

レスポンスは、HTML、Excel、PDF、Active Report のいずれかのレポート、またはグラフです。

### 変更管理 - エクスポート

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、変更管理のインポートで使用されるディレクトリ、ファイル、グループをエクスポートすることができます。

**注意：**この RESTful Web サービスは、WebFOCUS リポジトリと Reporting Server で共通の機能です。

### HTTP メソッド POST

### REST URL のフォーマット

```
http://host:port/ibi_apps/rs/impex
```

## 説明

### host

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

### port

WebFOCUS が使用するポート番号です。

## 本文のフォーマット

```
IBIRS_action=cmExport&IBIRS_fileName=fileName
```

## 説明

### fileName

変更管理エクスポートのシナリオの名前です。このシナリオは、/WebFOCUSxx/cm/export フォルダに存在する必要があります。

## 例

次の例では、「RESTWS」という変更管理シナリオがエクスポートされます。

## リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/impex
```

## 本文

```
IBIRS_action=cmExport&IBIRS_fileName=RESTWS
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="cmExport"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS"
type="simple">
  <ibfsparams size="1">
    <entry key="IBIRS_fileName" value="RESTWS"/>
  </ibfsparams>
  <rootObject _jt="string"/>
</ibfsrpc>
```

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、シナリオは正しくエクスポートされています。

## 変更管理 - インポート

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、変更管理のエクスポートにより作成されたディレクトリ、ファイル、グループをインポートすることができます。



**注意：**この RESTful Web サービスは、WebFOCUS リポジトリと Reporting Server で共通の機能です。

#### HTTP メソッド POST

#### REST URL のフォーマット

`http://host:port/ibi_apps/rs/impex`

#### 説明

`host`

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

`port`

WebFOCUS が使用するポート番号です。

#### 本文のフォーマット

```
IBIRS_action=cmImport&IBIRS_fileName=fileName&IBIRS_resOverwrite=Overwrite
&IBIRS_importUsers=UserOpt&IBIRS_importRoles=RoleOpt
&IBIRS_importRules=RuleOpt&IBIRS_importGroups=GroupOpt
```

#### 説明

`fileName`

変更管理エクスポートで使用されたシナリオの名前です。このシナリオは、/ WebFOCUSxx/cm/import フォルダに存在する必要があります。

`Overwrite`

次のいずれかの値に設定します。

- true** 既存のファイルおよびグループを上書きします。
- false** 既存のファイルおよびグループを上書きしません。

`UserOpt`

次のいずれかの値に設定します。

- 0** ユーザをインポートしません。
- 1** ユーザをインポートしますが、既存のユーザを上書きしません。
- 2** ユーザをインポートし、既存のユーザを上書きします。

### RoleOpt

次のいずれかの値に設定します。

- 0** ロールをインポートしません。
- 1** ロールをインポートしますが、既存のロールを上書きしません。
- 2** ロールをインポートし、既存のロールを上書きします。

### RuleOpt

次のいずれかの値に設定します。

- true** ルールをインポートします。
- false** ルールをインポートしません。

### GroupOpt

次のいずれかの値に設定します。

- 0** グループをインポートしません。
- 1** グループをインポートしますが、既存のグループを上書きしません。
- 2** グループをインポートし、既存のグループを上書きします。

### 例

次の例では、「ImportMR」という変更管理シナリオがインポートされます。既存のファイルは上書きされません。ユーザ、グループ、ロール、ルールはインポートされません。

### リクエスト

[http://localhost:8080/ibi\\_apps/rs/impex](http://localhost:8080/ibi_apps/rs/impex)

### 本文

```
IBIRS_action=cmImport&IBIRS_fileName=ImportMR&IBIRS_resOverwrite=false
&IBIRS_importUsers=0&IBIRS_importRoles=0&IBIRS_importRules=false&IBIRS_importGroups=0
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="cmImport"
returncode="10000"
  returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfsparams size="7">
    <entry key="IBIRS_resOverwrite" value="false"/>
    <entry key="IBIRS_fileName" value="ImportMR"/>
    <entry key="IBIRS_runOptions" value="0"/>
    <entry key="IBIRS_importUsers" value="0"/>
    <entry key="IBIRS_importRoles" value="0"/>
    <entry key="IBIRS_importRules" value="false"/>
    <entry key="IBIRS_importGroups" value="0"/>
  </ibfsparams>
  <rootObject _jt="string"/>
</ibfsrpc>
```

XML レスポンスの `returncode` 属性値が 10000 の場合、シナリオは正しくインポートされています。

## 項目の公開

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、項目を公開することができます。

### HTTP メソッド POST

### REST URL のフォーマット

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/ItemName
```

#### 説明

`host`

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

`port`

WebFOCUS が使用するポート番号です。

`FolderName`

公開する項目 (`ItemName` で指定) が格納されているフォルダの名前、または `ItemName` を省略した場合は公開するフォルダの名前です。フォルダがサブフォルダの場合は、REST URL にサブフォルダまでのパスを入力する必要があります。たとえば、「`TopFolderName/SubFolderName`」のように指定します。

`ItemName`

公開する項目の名前です。項目として、WebFOCUS レポート、スケジュール、ReportLibrary アクセスリスト、ReportLibrary コンテンツを指定することができます。

## 本文のフォーマット

`IBIRS_action=publish`

### 例

次の例では、「Financial\_Reports」というフォルダが公開されます。

### リクエスト

`http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/Financial_Reports`

### 本文

`IBIRS_action=publish`

### レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="publish"
returncode="10000"
    returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS"
type="simple">
  <ibfsparams size="1">
    <entry key="IBIRS_" value="/WFC/Repository/Financial_Reports"/>
  </ibfsparams>
  <rootObject _jt="string"/>
</ibfsrpc>
```

## 項目の非公開

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、項目を非公開にすることができます。

**HTTP メソッド** POST

**REST URL のフォーマット**

`http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/ItemName`

### 説明

`host`

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

`port`

WebFOCUS が使用するポート番号です。

#### FolderName

非公開にする項目 (ItemName で指定) が格納されているフォルダの名前、または ItemName を省略した場合は非公開にするフォルダの名前です。フォルダがサブフォルダの場合は、REST URL にサブフォルダまでのパスを入力する必要があります。たとえば、「TopFolderName/SubFolderName」のように指定します。

#### ItemName

非公開にする項目の名前です。項目として、WebFOCUS レポート、スケジュール、ReportLibrary アクセスリスト、ReportLibrary コンテンツを指定することができます。

#### 本文のフォーマット

```
IBIRS_action=unpublish&IBIRS_ownerPath=OwnerPath&IBIRS_clearShares=OwnerPath
```

#### 説明

##### OwnerPath

項目がプライベートの場合、その項目のオーナーのフルパスを入力します。たとえば、「/SSYS/USERS/admin」のように指定します。

##### OwnerPath

項目がプライベートの場合、次のいずれかを指定します。

- true** 項目を共有しません。
- false** 項目を共有します。

#### 例

次の例では、「Financial\_Reports」というフォルダが非公開になります。

#### リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/Financial_Reports
```

#### 本文

```
IBIRS_action=unpublish&IBIRS_ownerPath=&IBIRS_clearShares=false
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="unpublish"
returncode="10000"
    returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS"
type="simple">
  <ibfsparams size="3">
    <entry key="IBIRS_clearShares" value="false"/>
    <entry key="IBIRS_ownerPath"/>
    <entry key="IBIRS_" value="/WFC/Repository/Financial_Reports"/>
  </ibfsparams>
  <rootObject _jt="IBFSUserObject" description="Administrator"
dummy="false" email="restadmin@informationbuilders.com"
    fullPath="IBFS:/SSYS/USERS/admin" handle="10001" name="admin"
password="$faa2f1da92f72a7d$0901495f1d42962aa242af8aad5c7958a9f86013
a190482974970e81ee0259ba82cbd3856f01c6f29a
14abaf602143b5e79b3f18a4244b9018d9115892d363f4" rsPath="/
ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/USERS/admin" type="User">
    <status _jt="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/>
    <groups _jt="ArrayList" size="0"/>
    <pSetList _jt="ArrayList" size="0"/>
  </rootObject>
</ibfsrpc>
```

## 項目のコピー

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、特定のフォルダから別のフォルダに項目をコピーすることができます。

### HTTP メソッド POST

### REST URL のフォーマット

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/ItemName
```

#### 説明

##### host

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

##### port

WebFOCUS が使用するポート番号です。

##### FolderName

コピーする項目 (ItemName で指定) が格納されているフォルダの名前、または ItemName を省略した場合はコピーするフォルダの名前です。フォルダがサブフォルダの場合は、REST URL にサブフォルダまでのパスを入力する必要があります。たとえば、「TopFolderName/SubFolderName」のように指定します。

#### ItemName

コピーする項目の名前です。項目として、WebFOCUS レポート、スケジュール、ReportLibrary アクセスリスト、ReportLibrary コンテンツを指定することができます。

#### 本文のフォーマット

```
IBIRS_action=copy&IBIRS_destination=destLocation&IBIRS_replace=destLocation
```

#### 説明

##### destLocation

項目のコピー先のパスを「FolderName/ItemName」のように指定します。

##### destLocation

次のいずれかを指定します。

- true** 項目のコンテンツを置換します。
- false** 項目のコンテンツを置換しません。

#### 例

次の例では、RESTful\_Web\_Services フォルダ下の Car\_Reports フォルダから「Drilldown\_Report.fex」という WebFOCUS レポートがコピーされ、Financial\_Reports フォルダに配置されます。コンテンツは置換されます。

#### リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/Drilldown_Report.fex
```

#### 本文

```
IBIRS_action=copy&IBIRS_destination=/WFC/Repository/Financial_Reports/Drilldown_Report.fex&IBIRS_replace=true
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="copy" returncode="10000"
  returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfsparams size="4">
    <entry key="IBIRS_destination" value="/WFC/Repository/Financial_Reports/
Drilldown_Report.fex"/>
    <entry key="IBIRS_replace" value="true"/>
    <entry key="IBIRS_args" value="__null"/>
    <entry key="IBIRS_" value="/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/
Drilldown_Report.fex"/>
  </ibfsparams>
  <rootObject _jt="IBFSMRObject" binary="false" createdBy="admin"
createdOn="1350346978647" defaultLng="en_US"
  description="Drilldown Report" dummy="false" extension="fex"
fullPath="/WFC/Repository/Financial_Reports/Drilldown_Report.fex"
  handle="afba56f3_3e71_4ecf_9682_c88bb913634a" inheritedPrivacy="true"
lastModified="1350348325118" lastaccessBy="admin"
  lastaccessOn="1350348325118" lastmodBy="admin" length="5302"
name="Drilldown_Report.fex" ownerId="10001"
  ownerName="admin" ownerType="U" policy="//3/D///9+f7///
f7/////////8AAAA=" returnedLng="en_US"
rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/Financial_Reports/Drilldown_Report.fex"
type="FlexFile">
  <content _jt="IBFSByteContent"
char_set="Cp1252">LSpEbyBub3QgZGVsZXRLIG9yIGlVZGlmeSB0aGUgY29tbWVudHMgYmV
sb3cKLSogVXNlZCB0byBUZXN0IFJFUlQgQ29weSBmdW5jdGlvbmFsaXR5CiotSU5URVJQUXf
Q09NTUVVOVCBMSU5FizAkUEQ5NGJXd2dkbVZ5ZjZsdmJqMGlNUzR3SWlCbGJtTnZar2x1Wnowa
.
.
.
UQUJMRSBTRVQgSFRNTEVOQ09ERSBPTgpPTiBUQUJMRSBTRVQgU1RZTEUgKgp
JTknMVURFPu1CRlM6L0ZJTEUvSUJjX0hUTUxfRElSL2phdmFhc3Npc3QvaW
50bC9FTi9FTklBRGVmYXVsdF9jb2liaW5lLnN0eSwkClRZUEU9UkVQTlJULC
BUSVRMRVRWFQ9JldGXlRjVExFLlFVTlRFRFNuUk1ORywgU1VNTUFSWT0mV
0ZfU1VNTUFSWS5RVU9URURTVFJJTkcsICQKRU5EU1RZTEUKRU5ECgotU1VOCg==
  </content>
  <nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
    <entry>
      <key _jt="string" value="en_US"/>
      <value _jt="ArrayList" size="2">
        <item _jt="string" index="0" value="Drilldown Report"/>
      </value>
    </entry>
  </nlsValues>
  <properties size="1">
    <entry key="tool" value="infoAssist,report,IAFull"/>
  </properties>
</rootObject>
</ibfsrpc>
```



## 項目の移動

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、特定のフォルダから別のフォルダに項目を移動することができます。

**HTTP メソッド** POST

**REST URL のフォーマット**

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/ItemName
```

説明

**host**

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

**port**

WebFOCUS が使用するポート番号です。

**FolderName**

移動する項目 (ItemName で指定) が格納されているフォルダの名前、または ItemName を省略した場合は移動するフォルダの名前です。フォルダがサブフォルダの場合は、REST URL にサブフォルダまでのパスを入力する必要があります。たとえば、「TopFolderName/SubFolderName」のように指定します。

**ItemName**

移動する項目の名前です。項目として、WebFOCUS レポート、スケジュール、ReportLibrary アクセスリスト、ReportLibrary コンテンツを指定することができます。

**本文のフォーマット**

```
IBIRS_action=move&IBIRS_destination=destLocation&IBIRS_replace=ReplaceFlag
```

説明

**destLocation**

項目の移動先のパスを「FolderName/ItemName」のように指定します。

**ReplaceFlag**

次のいずれかを指定します。

- true** 項目のコンテンツを置換します。
- false** 項目のコンテンツを置換しません。

## 例

次の例では、RESTful\_Web\_Services フォルダ下の Car\_Reports フォルダから「Drilldown\_Report.fex」という WebFOCUS レポートが移動され、Financial\_Reports フォルダに配置されます。コンテンツは置換されません。

## リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/  
Car_Reports/Drilldown_Report.fex
```

## 本文

```
IBIRS_action=move&IBIRS_destination=/WFC/Repository/Financial_Reports/  
Drilldown_Report.fex&IBIRS_replace=false
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1" standalone="no"?>  
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="move"  
returncode="10000"  
    returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS"  
type="simple">  
    <ibfsparams size="4">  
        <entry key="IBIRS_destination" value="/WFC/Repository/  
Financial_Reports/Drilldown_Report.fex"/>  
        <entry key="IBIRS_replace" value="false"/>  
        <entry key="IBIRS_args" value="__null"/>  
        <entry key="IBIRS_" value="/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/  
Car_Reports/Drilldown_Report.fex"/>  
    </ibfsparams>  
    <rootObject _jt="IBFSMRObject" binary="false" createdBy="admin"  
createdOn="1348824882927" defaultLng="en_US"  
        description="Drilldown Report" dummy="false" extension="fex"  
fullPath="IBFS:/WFC/Repository/Financial_Reports/Drilldown_Report.fex"
```

```

        handle="286ace9f_4cd0_4a78_a26d_69dff1b72e0f"
        inheritedPrivacy="true" lastModified="1350349735829"
        lastaccessBy="admin" lastaccessOn="1350349735811"
        lastmodBy="admin" length="5302" name="Drilldown_Report.fex"
        ownerId="10001" ownerName="admin" ownerType="U"
        policy="//3/D///9+f7////f7////////8AAAA=" returnedLng="en_US"
        rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/Financial_Reports/
        Drilldown_Report.fex" type="FexFile">
        <content _jt="IBFSByteContent"
        char_set="Cp1252">LSpEbyBub3QgZGVsZXRlIG9yIGlvZGlmeSB0aGUgY
        29tbWVudHMgYmVsb3cKLSoGVXNlZCB0byBUZXXN0IFJFU1QgQ29weSBmdW5j
        dGlvbmFsaXR5CiotSU5URVJQUxQ09NTUVVOCBMSU5FIzAkUEQ5NGJXd2d
        kbVZ5YzJsdmJmQmGLlNUzR3SW1CbGJtTnZaR2x1Wnowa
        .
        .
        .
        RlM6L0ZJTEUvSUJjX0hUTUxfRElSL2phdmFhc3Npc3QvaW50bC9FTi9FTk1
        BRGVmYXVsdF9jb2liaW5lLnN0eSwkClRZUEU9UkVQTlJULCBUSVRMRVRFWF
        Q9JldGx1RjVEXFLlFVTlRFRFNUUklORYwglVNTUUFswT0mV0ZfU1VNTUFSW
        S5RVU9URURTVFJJTkcsICQKRu5EUlRZTEUKRU5ECgotU1VOCg==
        </content>
        <nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
        <entry>
        <key _jt="string" value="en_US"/>
        <value _jt="ArrayList" size="2">
        <item _jt="string" index="0" value="Drilldown Report"/>
        </value>
        </entry>
        </nlsValues>
        <properties size="1">
        <entry key="tool" value="infoAssist,report,IAFull"/>
        </properties>
        </rootObject>
</ibfsrpc>

```

## 項目の名前変更

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、項目の名前を変更することができます。

### HTTP メソッド POST

### REST URL のフォーマット

[http://host:port/ibi\\_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/ItemName](http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/ItemName)

#### 説明

**host**

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

**port**

WebFOCUS が使用するポート番号です。

### FolderName

名前を変更する項目 (ItemName で指定) が格納されているフォルダの名前、または ItemName を省略した場合は名前を変更するフォルダの名前です。フォルダがサブフォルダの場合は、REST URL にサブフォルダまでのパスを入力する必要があります。たとえば、「TopFolderName/SubFolderName」のように指定します。

### ItemName

名前を変更する項目の名前です。項目として、WebFOCUS レポート、スケジュール、ReportLibrary アクセスリスト、ReportLibrary コンテンツを指定することができます。

### 本文のフォーマット

`IBIRS_action=rename&IBIRS_newName=renamedItem`

#### 説明

`renamedItem`

名前を変更する項目の名前です。

#### 例

次の例では、Financial\_Reports フォルダの名前が、Financial\_Reports\_Renamed に変更されます。

#### リクエスト

`http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/Financial_Reports`

#### 本文

`IBIRS_action=rename&IBIRS_newName=Financial_Reports_Renamed`

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="rename" returncode="10000"
returnndesc="SUCCESS"
  subreturncode="0" subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfsparams size="3">
    <entry key="IBIRS_newName" value="Financial_Reports_Renamed"/>
    <entry key="IBIRS_args" value="__null"/>
    <entry key="IBIRS_" value="/WFC/Repository/Financial_Reports"/>
  </ibfsparams>
  <rootObject _jt="IBFSMRObject" binary="false" container="true" createdBy="admin"
createdOn="1349964405620" defaultLng="en_US" description="Financial
Quarterly-Yearly Reports"
  dummy="false" fullPath="IBFS:/WFC/Repository/Financial_Reports_Renamed"
  handle="5d81bab8_7db7_40c9_96b9_df2b00ce3278"
lastModified="1350351652269" lastaccessBy="admin"
  lastaccessOn="1350351652269" lastmodBy="admin" length="0"
name="Financial_Reports_Renamed"
  ownerId="10001" ownerName="admin" ownerType="U" policy="//3/D///9+f/////
f/////////8AAAAA="
  returnedLng="en_US" rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/
Financial_Reports_Renamed"
  summary="Quarterly and Yearly Financial Reports reported to the
Securities and Exchange Commission"
  type="MRFolder">
  <nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
    <entry>
      <key _jt="string" value="en_US"/>
      <value _jt="ArrayList" size="2">
        <item _jt="string" index="0" value="Financial Quarterly-Yearly
Reports"/>
        <item _jt="string" index="1" value="Quarterly and Yearly Financial
Reports reported to the Securities and Exchange Commission"/>
      </value>
    </entry>
  </nlsValues>
  <properties size="0"/>
</rootObject>
</ibfsrpc>
```

## WebFOCUS レポートのアップロード

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、WebFOCUS レポートを WebFOCUS 環境にアップロードすることができます。

**HTTP メソッド** POST

**REST URL のフォーマット**

[http://host:port/ibi\\_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/FexName](http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/FexName)

---

## 説明

### host

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

### port

WebFOCUS が使用するポート番号です。

### FolderName

アップロードする WebFOCUS レポートの格納先フォルダの名前です。フォルダがサブフォルダの場合は、REST URL にサブフォルダまでのパスを入力する必要があります。たとえば、「TopFolderName/SubFolderName」のように指定します。

### FexName

アップロードする WebFOCUS レポートの名前です。拡張子 .fex を含める必要があります。

## 本文のフォーマット

```
IBIRS_action=put&IBIRS_object=Object
```

## 説明

### Object

次のフォーマットで WebFOCUS レポートを定義する XML オブジェクトです。

```
<rootObject _jt="IBFSMRObject" description="ReportTitle" type="FexFile">  
  <content _jt="IBFSByteContent" char_set="Cp1252">ContentBase64 </  
  content>  
</rootObject>
```

## 説明

### ContentBase64

アップロードする WebFOCUS レポートの Base64 エンコードテキストです。

### ReportTitle

アップロードする WebFOCUS レポートのタイトルです。

## 例

次の例では、Financial\_Reports フォルダに「Drilldown\_Report.fex」という WebFOCUS レポートが作成されます。

## リクエスト

http://localhost:8080/ibi\_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/Financial\_Reports/  
Drilldown\_Report.fex

## 本文

```
IBIRS_action=put&IBIRS_object=<rootObject _jt="IBFSMRObject" description="Drilldown
Report" type="FexFile">
  <content _jt="IBFSByteContent"
char_set="Cp1252">LSpEbyBub3QgZGVsZXR1IG9yIGlvZGlmeSB0aGUgY29tbWVudHMgYmV
sb3cKLSogVXNlZCB0byBUZXN0IFJFU1QgTW92ZSBmdW5jdGlvbmFsaXR
5CiotSU5URVJQQUxfQ09NTUVOVCBMSU5FIzAkUEQ5NGJXd2dkbVZ5YzJ
sdmJqMGlNUzR3SWlCbGJtTnZaR2x1WnowaVZWUkdMVGdpSUhOMFlXNWT
ZV3h2Ym1VOU1tNXZJaJgrRFFvOE1TMHRNUzR3TFMw
.
.
.
TgpPTiBUQUJMRSBTRVQgSFRNTEVOQ09ERSBPTgpPTiBUQUJMRSBTRVQgU1R
ZTEUgKgpJTkNMVURFPUlCRlM6L0ZJTEUySUJjX0hUTUxfRElSL2phdmFhc3
Npc3QvaW50bC9FTi9FTklBRGVmYXVsdF9jb2liaW5lLnN0eSwkClRZUEU9U
kVQTlJULCBUSVRMRVRWFwQ9JldGXlRjVExFllFVT1RFRFNuUklORywgU1VN
TUFswT0mV0ZfU1VNTUFSWS5RVU9URURTVFJJTkcsICQKRu5EU1RZTEUK
RU5ECgotU1VOCg==
  </content>
</rootObject>
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="put"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS"
  subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfsparams size="5">
    <entry key="IBIRS_replace" value="true"/>
    <entry key="IBIRS_private" value="__null"/>
    <entry key="IBIRS_object" value="&lt;rootObject
_jt=&quot;IBFSMRObject&quot;
  description=&quot;Drilldown Report&quot;
type=&quot;FexFile&quot;&gt;
    &lt;content _jt=&quot;IBFSByteContent&quot;
char_set=&quot;Cp1252&quot;&gt;LSpEbyBub3QgZGVsZXR1IG9yIGlvZ
GlmeSB0aGUgY29tbWVudHMgYmVsb3cKLSogVXNlZCB0byBUZXN0IFJFU1QgT
W92ZSBmdW5jdGlvbmFsaXR5Cio
.
.
.
1FVT1RFRFNuUklORywgU1VNTUFSwT0mV0ZfU1VNTUFSWS5RVU9URURTVFJJTkcsIC
QKRu5EU1RZTEUKRU5ECgotU1VOCg==&lt;/content&gt;&lt;/rootObject&gt;"/>
```

```

    <entry key="IBIRS_args" value="__null"/>
    <entry key="IBIRS_" value="/WFC/Repository/Financial_Reports/
Drilldown_Report.fex"/>
  </ibfsparams>
  <rootObject _jt="IBFSMRObject" binary="false" createdBy="admin"
createdOn="1350352555666" defaultLng="en_US"
  description="Drilldown Report" dummy="false" extension="fex"
fullPath="IBFS:/WFC/Repository/Financial_Reports/Drilldown_Report.fex"
  handle="ebd5f9e9_8607_439d_ac77_3089efb6184a"
inheritedPrivacy="true" lastModified="1350352555666"
  lastaccessBy="admin" lastaccessOn="1350352555666"
lastmodBy="admin" length="5302"
  name="Drilldown_Report.fex" ownerId="10001"
ownerName="admin" ownerType="U"
  policy="//3/D///9+f7/////f7/////////8AAAA=" returnedLng="en_US"
rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/Financial_Reports/
Drilldown_Report.fex" type="FexFile">
  <content _jt="IBFSByteContent"
char_set="Cp1252">LSpEbyBub3QgZGVsZXRlIG9yIGlvZGhmeSB0aGUG
Y29tbWVudHMgYmVsb3cKLSogVXNlZCB0byBUZXRlIFJFU1QgTW92ZSBmdW
5jdGlvbmFsaXR5CiotSU5URVJlJmVudG9yIG9yIGlvZGhmeSB0aGUG
.
.
.
lORywgU1VNTUFSWT0mV0ZfU1VNTUFSWS5RVU9URURTVFJlJmVudG9yIG9yIGlvZGhmeSB0aGUG
U1RZTEUKRU5ECgotU1VOCg==
  </content>
  <nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
    <entry>
      <key _jt="string" value="en_US"/>
      <value _jt="ArrayList" size="2">
        <item _jt="string" index="0" value="Drilldown Report"/>
      </value>
    </entry>
  </nlsValues>
  <properties size="0"/>
</rootObject>
</ibfsrpc>

```

## URL リンクの作成

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、WebFOCUS 環境内で URL リンクを作成することができます。

### HTTP メソッド POST

### REST URL のフォーマット

[http://host:port/ibi\\_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/UrlName](http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/UrlName)



## 説明

### host

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

### port

WebFOCUS が使用するポート番号です。

### FolderName

URL リンクを格納するフォルダの名前です。フォルダがサブフォルダの場合は、REST URL にサブフォルダまでのパスを入力する必要があります。たとえば、「TopFolderName/SubFolderName」のように指定します。

### UrlName

作成する URL リンクの名前です。拡張子 .url を含める必要があります。

## 本文のフォーマット

```
IBIRS_action=put&IBIRS_object=Object
```

## 説明

### Object

次のフォーマットで URL リンクを定義する XML オブジェクトです。

```
<rootObject _jt="IBFSMRObject" description="UrlLinkTitle"
type="URLFile"> <content _jt="IBFSByteContent"
char_set="Cp1252">UrlBase64</content>
<properties size="1">
<entry key="tool" value="url"/>
</properties>
</rootObject>
```

## 説明

### UrlLinkTitle

URL リンクのタイトルです。

### UrlBase64

URL の Base64 エンコードテキストです。

## 例

次の例では、Car\_Reports フォルダに「Yahoo.url」という URL が作成されます。URL の http://www.yahoo.com は、Base64 でエンコードされます。

## リクエスト

http://localhost:8080/ibi\_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful\_Web\_Services/Car\_Reports/Yahoo.url

## 本文

```
IBIRS_action=put&IBIRS_object=<rootObject _jt="IBFSMRObject" description="Yahoo"
type="URLFile">
<content _jt="IBFSByteContent" char_set="Cp1252">aHR0cDovL3d3dy55YWhvby5jb20=</content>
<properties size="1">
<entry key="tool" value="url"/>
</properties>
</rootObject>
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="put" returncode="10000"
returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfsparams size="5">
    <entry key="IBIRS_replace" value="true"/>
    <entry key="IBIRS_private" value="__null"/>
    <entry key="IBIRS_object" value="****"/>
    <entry key="IBIRS_args" value="__null"/>
    <entry key="IBIRS_" value="/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/
Yahoo.url"/>
  </ibfsparams>
  <rootObject _jt="IBFSMRObject" binary="false" createdBy="admin"
createdOn="1356625917312" defaultLng="en_US"
description="Yahoo" dummy="false" extension="url" fullPath="IBFS:/WFC/
Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/Yahoo.url"
handle="1711f8b4_abbc_41c3_9c4c_7fd3288d4c62" lastModified="1356625917312"
lastaccessBy="admin"
lastaccessOn="1356625917312" lastmodBy="admin" length="20" name="Yahoo.url"
policy="////D///9+P////v////////+AAAA=" returnedLng="en_US"
rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/Yahoo.url"
type="URLFile">
    <content _jt="IBFSByteContent" char_set="Cp1252">aHR0cDovL3d3dy55YWhvby5jb20=</
content>
    <nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
      <entry>
        <key _jt="string" value="en_US"/>
        <value _jt="ArrayList" size="2">
          <item _jt="string" index="0" value="Yahoo"/>
        </value>
      </entry>
    </nlsValues>
    <properties size="0"/>
  </rootObject>
</ibfsrpc>
```

## WebFOCUS レポートおよび URL のコンテンツ取得

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、WebFOCUS レポートまたは URL リンク内のテキストコンテンツを取得することができます。

**HTTP メソッド** GET

**REST URL のフォーマット**

```
http://host[:port]/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/ContentName?
IBIRS_action=getContent
```

説明

**host**

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

**port (オプション)**

WebFOCUS が使用するポート番号です。

**FolderName**

コンテンツが存在するフォルダの名前です。コンテンツがサブフォルダに存在する場合は、REST URL にサブフォルダまでのパスを入力する必要があります。たとえば、「ParentFolderName/FolderName」のように指定します。

**ContentName**

コンテンツの名前です。WebFOCUS レポートには拡張子 .fex、URL リンクには拡張子 .url を含める必要があります。

### 例 1

次の例では、Financial\_Reports フォルダから「Drilldown\_Report.fex」という WebFOCUS レポートのコンテンツが取得されます。レスポンスのコンテンツタイプは、text/plain です。

**リクエスト**

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/Financial_Reports/
Drilldown_Report.fex?IBIRS_action=getContent
```

## レスポンス

```
TABLE FILE CAR
HEADING
"Sales by models for &CAR"
SUM SALES BY MODEL
WHERE CAR EQ '&CAR';
"Last updated: &TOD &DATE"
ON TABLE PCHOLD FORMAT HTML
ON TABLE SET PAGE-NUM OFF
ON TABLE SET SQUEEZE ON
ON TABLE SET STYLE *
GRID=OFF, $
TYPE=HEADING, STYLE=BOLD, SIZE=18, $
TYPE=FOOTING, STYLE=ITALIC, $
TYPE=TITLE, STYLE=BOLD, $
ENDSTYLE
END
```

### 例 2

次の例では、Car\_Reports フォルダから「Yahoo.url」という URL リンクのコンテンツが取得されます。レスポンスのコンテンツタイプは、text/plain です。

### リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/
Car_Reports/Yahoo.url?IBIRS_action=getContent
```

### レスポンス

```
https://search.yahoo.com/search?p=Information+Builders
```

## プロシジャ詳細の取得

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、[プロパティ] ダイアログボックスに表示される内容と同様のプロシジャの詳細を取得することができます。

**HTTP メソッド** GET

**REST URL のフォーマット**

```
http://host[:port]/ibi_apps/rs?
IBIRS_path=path&IBIRS_action=getDetails&IBIRS_service=describe
```

説明

host

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

port

WebFOCUS が使用するポート番号です。

## 例

```
http://server:port/ibi_apps/rs?IBFS_path=/WFC/Repository/Tests/
car_param_1.fex&IBFS_action=getDetails&IBFS_service=describe
```

## レスポンス

```
<ibfsrpc _jt="IBFSresponseObject" language="en_US" name="getDetails"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" type="simple">
<ibfsparams size="2">
<entry key="IBFS_args" value="__null"/>
<entry key="IBFS_path" value="/WFC/Repository/Tests/car_param_1.fex"/>
</ibfsparams>
<rootObject _jt="WFFexDetails" ibfsPath="/WFC/Repository/Tests/
car_param_1.fex" itemDescription="car_param_1">
<masterFiles _jt="ArrayList" size="1">
<item _jt="WFFexMasterFileDetails" index="0" masterFileName="CAR"/>
</masterFiles>
<dataElements _jt="ArrayList" size="1">
<item _jt="WFFexDataElementDetails" fieldName="CAR.BODY.SALES" format="
index="0"/>
</dataElements>
<sorts _jt="ArrayList" size="3">
<item _jt="WFFexSortDetails" acrossField="false" byField="false"
fieldName="CAR.ORIGIN.COUNTRY" index="0" sortOrder="LOWEST"/>
<item _jt="WFFexSortDetails" acrossField="false" byField="false"
fieldName="CAR.COMP.CAR" index="1" sortOrder="LOWEST"/>
<item _jt="WFFexSortDetails" acrossField="false" byField="false"
fieldName="CAR.CARREC.MODEL" index="2" sortOrder="LOWEST"/>
</sorts>
<conditions _jt="ArrayList" size="0"/>
<expressions _jt="ArrayList" size="0"/>
<outputFormats _jt="ArrayList" size="1">
<item _jt="WFFexHoldFormatDetails" format="HTML" index="0"/>
</outputFormats>
<joins _jt="ArrayList" size="0"/>
</rootObject>
</ibfsrpc>
```

## describeAdHocFex の使用

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、adhoc プロシジャの DESCRIBE コマンド 実行についての詳細を取得することができます。

### HTTP メソッド GET

### REST URL のフォーマット

---

```
http://host[:port]/ibi_apps/rs?  
IBIRS_path=path&IBIRS_action=describeAdHocFex&IBIRS_fexContent=procedureCode&IBIRS_service=ibfs
```

## 説明

host

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

port

WebFOCUS が使用するポート番号です。

## 例

```
http://server:port/ibi_apps/rs?IBIRS_path=/WFC/Repository/  
Tests&IBIRS_action=describeAdHocFex&IBIRS_fexContent=TABLE+FILE+CAR%0D  
%0APRINT+CAR+BY+COUNTRY%0D%0AWHERE+COUNTRY+EQ+%27%26COUNTRY%27%0D  
%0AEND&IBIRS_service=ibfs
```

## レスポンス

```
<ibfsrpc _jt="IBFSresponseObject" language="en_US" name="describeAdHocFex"  
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" type="simple">  
<ibfsparams size="3">  
<entry key="IBIRS_path" value="/WFC/Repository/Tests/" />  
<entry key="IBIRS_fexContent" value="TABLE FILE CAR&NewLine;PRINT CAR BY  
COUNTRY&NewLine;WHERE COUNTRY EQ '&COUNTRY'&NewLine;END" />  
<entry key="IBIRS_args" value="__null" />  
</ibfsparams>  
<rootObject class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe" formAction="/ibi_apps/rs"  
isSavedParam="false" nrOfDefaultVars="0" nrOfPromptVars="1">  
<describeLevel class="com.ibi.wfrs.WFDescribeFlag" name="XMLRUN" />  
<bindingInfo _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="24">  
<entry>  
<key _jt="string" value="IBIF_describe_null" />  
<value class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe$BindingVar" isReqParm="false"  
value="_FOC_NULL" />  
</entry>  
<entry>  
<key _jt="string" value="IBIC_server" />  
<value class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe$BindingVar" isReqParm="false"  
value="EDASERVE" />  
</entry>  
<entry>  
<key _jt="string" value="IBIRS_path" />  
<value class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe$BindingVar" isReqParm="true"  
value="/WFC/Repository/Tests/" />  
</entry>  
<entry>  
<key _jt="string" value="IBIWF_SES_AUTH_TOKEN" />  
<value class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe$BindingVar" isReqParm="true"  
value="a3bd03c4658790940e049f3176c9396c" />  
</entry>
```

```

<entry>
<key _jt="string" value="FOCEXURL"/>
<value class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe$BindingVar" isReqParm="false"
value="/ibi_apps/rs?IBIF_webapp=/
ibi_apps&IBIC_server=EDASERVERetail_samples retail ibisamp tests baseapp
ibimagn rest=retail_samples retail ibisamp tests baseapp ibimagn rest"/>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="XSL_NEWLINE_DELIM"/>
<value class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe$BindingVar" isReqParm="false"
value="0xD;0xA;"/>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="IBIAPP_app"/>
<value class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe$BindingVar" isReqParm="false"
value="retail_samples retail ibisamp tests baseapp ibimagn rest"/>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="IBI_PostMsgsToParent"/>
<value class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe$BindingVar" isReqParm="true"
value="ON"/>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="IBI_Webapp_Context_Default"/>
<value class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe$BindingVar" isReqParm="false"
value="/ibi_apps"/>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="IBIRS_service"/>
<value class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe$BindingVar" isReqParm="true"
value="ibfs"/>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="IBIRS_random"/>
<value class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe$BindingVar" isReqParm="true"
value="62998"/>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="FOCHTMLURL"/>
<value class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe$BindingVar" isReqParm="false"
value="/ibi_apps/ibi_html/S12613_15368909291F"/>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="SUBSYSTEM"/>
<value class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe$BindingVar" isReqParm="false"
value="Self Service"/>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="IBI_CSRF_Token_Name"/>
<value class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe$BindingVar" isReqParm="false"
value="IBIWF_SES_AUTH_TOKEN"/>
</entry>

```

```

<entry>
<key _jt="string" value="fromTool"/>
<value class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe$BindingVar" isReqParm="true"
value="true"/>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="SCRIPT_NAME"/>
<value class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe$BindingVar" isReqParm="false"
value="/ibi_apps/rs"/>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="IBIRS_action"/>
<value class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe$BindingVar" isReqParm="true"
value="describeAdHocFex"/>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="IBIRS_fexContent"/>
<value class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe$BindingVar" isReqParm="true"
value="TABLE FILE CAR PRINT CAR BY COUNTRY WHERE COUNTRY EQ '&COUNTRY'
END"/>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="IBIRS_args"/>
<value class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe$BindingVar" isReqParm="true"
value="__null"/>
</entry>
</bindingInfo>
<amperMap accessOrder="false" class="java.util.LinkedHashMap"
loadFactor="0.75" threshold="24">
<entry>
<key _jt="string" value="FOCFOCEXEC"/>
<value amperIdx="0" chainIdx="-1" class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe
$AmperVar" format="" idxInChain="-1" inForm="false" isDefault="false"
max="0.0" min="0.0" name="FOCFOCEXEC" noSelection="false" parent=""
sortOrder="" validate="">
<type class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperVarType" name="system"/>
<defValues _jt="array" itemsClass="string" size="0"/>
<displayType class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperDisplayType" name="prompt"/>
<values accessOrder="false" class="java.util.LinkedHashMap"
loadFactor="0.75" threshold="0"/>
<parameters _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="0"/>
</value>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="_PERSISTENT_APPLOCK"/>
<value amperIdx="1" chainIdx="-1" class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe
$AmperVar" format="" idxInChain="-1" inForm="false" isDefault="false"
max="0.0" min="0.0" name="_PERSISTENT_APPLOCK" noSelection="false"
parent="" sortOrder="" validate="">
<type class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperVarType" name="global"/>
<defValues _jt="array" itemsClass="string" size="0"/>
<displayType class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperDisplayType" name="prompt"/>
<values accessOrder="false" class="java.util.LinkedHashMap"
loadFactor="0.75" threshold="0"/>
<parameters _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="0"/>
</value>
</entry>

```



```

<entry>
<key _jt="string" value="_PERSISTENT_EDAAPP"/>
<value amperIdx="2" chainIdx="-1" class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe
$AmperVar" format="" idxInChain="-1" inForm="false" isDefault="false"
max="0.0" min="0.0" name="_PERSISTENT_EDAAPP" noSelection="false" parent=""
sortOrder="" validate="">
<type class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperVarType" name="global"/>
<defValues _jt="array" itemsClass="string" size="0"/>
<displayType class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperDisplayType" name="prompt"/>
<values accessOrder="false" class="java.util.LinkedHashMap"
loadFactor="0.75" threshold="0"/>
<parameters _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="0"/>
</value>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="_PERSISTENT_EDACONF"/>
<value amperIdx="3" chainIdx="-1" class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe
$AmperVar" format="" idxInChain="-1" inForm="false" isDefault="false"
max="0.0" min="0.0" name="_PERSISTENT_EDACONF" noSelection="false"
parent="" sortOrder="" validate="">
<type class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperVarType" name="global"/>
<defValues _jt="array" itemsClass="string" size="0"/>
<displayType class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperDisplayType" name="prompt"/>
<values accessOrder="false" class="java.util.LinkedHashMap"
loadFactor="0.75" threshold="0"/>
<parameters _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="0"/>
</value>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="_PERSISTENT_EDADEPLOY"/>
<value amperIdx="4" chainIdx="-1" class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe
$AmperVar" format="" idxInChain="-1" inForm="false" isDefault="false"
max="0.0" min="0.0" name="_PERSISTENT_EDADEPLOY" noSelection="false"
parent="" sortOrder="" validate="">
<type class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperVarType" name="global"/>
<defValues _jt="array" itemsClass="string" size="0"/>
<displayType class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperDisplayType" name="prompt"/>
<values accessOrder="false" class="java.util.LinkedHashMap"
loadFactor="0.75" threshold="0"/>
<parameters _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="0"/>
</value>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="_PERSISTENT_EDEPLOY"/>
<value amperIdx="5" chainIdx="-1" class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe
$AmperVar" format="" idxInChain="-1" inForm="false" isDefault="false"
max="0.0" min="0.0" name="_PERSISTENT_EDEPLOY" noSelection="false"
parent="" sortOrder="" validate="">
<type class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperVarType" name="global"/>
<defValues _jt="array" itemsClass="string" size="0"/>
<displayType class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperDisplayType" name="prompt"/>
<values accessOrder="false" class="java.util.LinkedHashMap"
loadFactor="0.75" threshold="0"/>
<parameters _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="0"/>
</value>
</entry>

```

```

<entry>
<key _jt="string" value="_PERSISTENT_GEO_UNIFIED_ROLE"/>
<value amperIdx="6" chainIdx="-1" class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe
$AmperVar" format="" idxInChain="-1" inForm="false" isDefault="false"
max="0.0" min="0.0" name="_PERSISTENT_GEO_UNIFIED_ROLE" noSelection="false"
parent="" sortOrder="" validate="">
<type class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperVarType" name="global"/>
<defValues _jt="array" itemsClass="string" size="0"/>
<displayType class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperDisplayType" name="prompt"/>
<values accessOrder="false" class="java.util.LinkedHashMap"
loadFactor="0.75" threshold="0"/>
<parameters _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="0"/>
</value>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="_PERSISTENT_IBI_HOLDMAG_TARGET"/>
<value amperIdx="7" chainIdx="-1" class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe
$AmperVar" format="" idxInChain="-1" inForm="false" isDefault="false"
max="0.0" min="0.0" name="_PERSISTENT_IBI_HOLDMAG_TARGET"
noSelection="false" parent="" sortOrder="" validate="">
<type class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperVarType" name="global"/>
<defValues _jt="array" itemsClass="string" size="0"/>
<displayType class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperDisplayType" name="prompt"/>
<values accessOrder="false" class="java.util.LinkedHashMap"
loadFactor="0.75" threshold="0"/>
<parameters _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="0"/>
</value>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="_PERSISTENT_OSTYPE"/>
<value amperIdx="8" chainIdx="-1" class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe
$AmperVar" format="" idxInChain="-1" inForm="false" isDefault="false"
max="0.0" min="0.0" name="_PERSISTENT_OSTYPE" noSelection="false" parent=""
sortOrder="" validate="">
<type class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperVarType" name="global"/>
<defValues _jt="array" itemsClass="string" size="0"/>
<displayType class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperDisplayType" name="prompt"/>
<values accessOrder="false" class="java.util.LinkedHashMap"
loadFactor="0.75" threshold="0"/>
<parameters _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="0"/>
</value>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="_PERSISTENT_SRVTYPE"/>
<value amperIdx="9" chainIdx="-1" class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe
$AmperVar" format="" idxInChain="-1" inForm="false" isDefault="false"
max="0.0" min="0.0" name="_PERSISTENT_SRVTYPE" noSelection="false"
parent="" sortOrder="" validate="">
<type class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperVarType" name="global"/>
<defValues _jt="array" itemsClass="string" size="0"/>
<displayType class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperDisplayType" name="prompt"/>
<values accessOrder="false" class="java.util.LinkedHashMap"
loadFactor="0.75" threshold="0"/>
<parameters _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="0"/>
</value>
</entry>

```

```

<entry>
<key _jt="string" value="FOCEXURL"/>
<value amperIdx="10" chainIdx="-1" class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe
$AmperVar" format="" idxInChain="-1" inForm="false" isDefault="false"
max="0.0" min="0.0" name="FOCEXURL" noSelection="false" parent=""
sortOrder="" validate="">
<type class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperVarType" name="set"/>
<defValues _jt="array" itemsClass="string" size="0"/>
<displayType class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperDisplayType" name="prompt"/>
<values accessOrder="false" class="java.util.LinkedHashMap"
loadFactor="0.75" threshold="0"/>
<parameters _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="0"/>
</value>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="FOCHTMLURL"/>
<value amperIdx="11" chainIdx="-1" class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe
$AmperVar" format="" idxInChain="-1" inForm="false" isDefault="false"
max="0.0" min="0.0" name="FOCHTMLURL" noSelection="false" parent=""
sortOrder="" validate="">
<type class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperVarType" name="set"/>
<defValues _jt="array" itemsClass="string" size="0"/>
<displayType class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperDisplayType" name="prompt"/>
<values accessOrder="false" class="java.util.LinkedHashMap"
loadFactor="0.75" threshold="0"/>
<parameters _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="0"/>
</value>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="GOOGLEMAPSAPIKEY"/>
<value amperIdx="12" chainIdx="-1" class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe
$AmperVar" format="" idxInChain="-1" inForm="false" isDefault="false"
max="0.0" min="0.0" name="GOOGLEMAPSAPIKEY" noSelection="false" parent=""
sortOrder="" validate="">
<type class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperVarType" name="set"/>
<defValues _jt="array" itemsClass="string" size="0"/>
<displayType class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperDisplayType" name="prompt"/>
<values accessOrder="false" class="java.util.LinkedHashMap"
loadFactor="0.75" threshold="0"/>
<parameters _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="0"/>
</value>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="WF_TITLE"/>
<value amperIdx="13" chainIdx="-1" class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe
$AmperVar" format="" idxInChain="-1" inForm="false" isDefault="false"
max="0.0" min="0.0" name="WF_TITLE" noSelection="false" parent=""
sortOrder="" validate="">
<type class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperVarType" name="set"/>
<defValues _jt="array" itemsClass="string" size="0"/>
<displayType class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperDisplayType" name="prompt"/>
<values accessOrder="false" class="java.util.LinkedHashMap"
loadFactor="0.75" threshold="0"/>
<parameters _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="0"/>
</value>
</entry>

```

```

<entry>
<key _jt="string" value="FOCREL"/>
<value amperIdx="14" chainIdx="-1" class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe
$AmperVar" format="" idxInChain="-1" inForm="false" isDefault="false"
max="0.0" min="0.0" name="FOCREL" noSelection="false" parent=""
sortOrder="" validate="">
<type class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperVarType" name="system"/>
<defValues _jt="array" itemsClass="string" size="0"/>
<displayType class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperDisplayType" name="prompt"/>
<values accessOrder="false" class="java.util.LinkedHashMap"
loadFactor="0.75" threshold="0"/>
<parameters _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="0"/>
</value>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="TEXTGENERATION"/>
<value amperIdx="15" chainIdx="-1" class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe
$AmperVar" format="" idxInChain="-1" inForm="false" isDefault="false"
max="0.0" min="0.0" name="TEXTGENERATION" noSelection="false" parent=""
sortOrder="" validate="">
<type class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperVarType" name="set"/>
<defValues _jt="array" itemsClass="string" size="0"/>
<displayType class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperDisplayType" name="prompt"/>
<values accessOrder="false" class="java.util.LinkedHashMap"
loadFactor="0.75" threshold="0"/>
<parameters _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="0"/>
</value>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="COUNTRY"/>
<value amperIdx="16" chainIdx="-1" class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe
$AmperVar" format="" idxInChain="-1" inForm="true" isDefault="false"
max="0.0" min="0.0" name="COUNTRY" noSelection="false" parent=""
sortOrder="" validate="">
<type class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperVarType" name="unresolved"/>
<defValues _jt="array" itemsClass="string" size="0"/>
<displayType class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperDisplayType" name="prompt"/>
<values accessOrder="false" class="java.util.LinkedHashMap"
loadFactor="0.75" threshold="0"/>
<parameters _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="0"/>
</value>
</entry>
</amperMap>
<tableChainList _jt="ArrayList" size="0"/>
</rootObject>
</ibfsrpc>

```

## getContent の使用

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、項目内のコンテンツを取得することができます。

### HTTP メソッド GET

### REST URL のフォーマット

```
http://host[:port]/ibi_apps/rs?  
IBIRS_path=path&IBIRS_action=getContent&IBIRS_service=ibfs
```

#### 説明

`host`

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

`port`

WebFOCUS が使用するポート番号です。

#### 例

```
http://server:port/ibi_apps/rs ?IBIRS_path=/WFC/Repository/Tests/  
Car_Required_Parameter_2.fex&IBIRS_action=getContent&IBIRS_service=ibfs
```

## レスポンス

```
ENGINE INT CACHE SET ON
SET PAGE-NUM=NOLEAD
SET SQUEEZE=ON
-DEFAULTH &WF_HTMLENCODING=ON;
SET HTMLENCODING=&WF_HTMLENCODING

SET HTMLCSS=ON
-DEFAULTH &WF_EMPTYREPORT=ON;
SET EMPTYREPORT=&WF_EMPTYREPORT

-DEFAULTH &WF_SUMMARY='Summary';
-DEFAULTH &WF_TITLE='WebFOCUS Report';
TABLE FILE ibisamp/car
SUM CAR.SPECS.LENGTH
CAR.SPECS.WIDTH
CAR.SPECS.HEIGHT
CAR.SPECS.WEIGHT
BY CAR.ORIGIN.COUNTRY
BY CAR.COMP.CAR
BY CAR.CARREC.MODEL
WHERE CAR.ORIGIN.COUNTRY EQ &COUNTRY.(OR(FIND CAR.ORIGIN.COUNTRY IN ibisamp/
CAR |FORMAT=A10, SORT=ASCENDING)).COUNTRY.;
ON TABLE PCHOLD FORMAT HTML
ON TABLE NOTOTAL
ON TABLE SET CACHELINES 100
ON TABLE SET GRWIDTH 1
ON TABLE SET STYLE *
INCLUDE=IBFS://FILE/IBI_HTML_DIR/javaassist/intl/EN/combine_templates/
ENWarm.sty,$
TYPE=REPORT, TITLETEXT=&WF_TITLE.QUOTEDSTRING,
SUMMARY=&WF_SUMMARY.QUOTEDSTRING, $
ENDSTYLE
END

-RUN
```

## listUsersFromGroup の使用

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、特定のグループのユーザをすべてリスト表示することができます。

### HTTP メソッド GET

### REST URL のフォーマット

```
http://host[:port]/ibi_apps/rs?IBIRS_path=/SSYS/GROUPS/
groupName&IBIRS_action=listUsersFromGroup&IBIRS_service=ibfs
```

#### 説明

`host`

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

`port`

WebFOCUS が使用するポート番号です。

#### 例

```
http://server:port/ibi_apps/rs ?IBIRS_path=/SSYS/GROUPS/  
Administrators&IBIRS_action=listUsersFromGroup&IBIRS_service=ibfs
```

#### レスポンス

```
<ibfsrpc _jt="IBFSresponseObject" language="en_US"
name="listUsersFromGroup" returncode="10000" returndesc="SUCCESS"
subreturncode="0" type="simple">
<ibfsparams size="1">
<entry key="IBIRS_path" value="/SSYS/GROUPS/Administrators"/>
</ibfsparams>
<rootObject _jt="IBFSObject" container="true" description="Administrators"
dummy="false" fullPath="IBFS:/SSYS/GROUPS/Administrators" length="0"
name="Administrators" policy="/+f//f4f//9vo/+9//9////////f8AAAA"
rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/GROUPS/Administrators" thumbPath="/ibi_apps/
ibi_html/ibi_images/file_type/file.svg" type="IBFSFolder">
<children _jt="ArrayList" size="6">
<item _jt="IBFSUserObject" description="20156" dummy="false" email=""
fullPath="IBFS:/SSYS/USERS/20156" handle="66186240" index="0"
lastSignin="1501528460312" length="0" name="20156" nameSpace="DB"
parent="Administrators" policy="/+f//f4f//9vo/+9//9////////f8AAAA"
rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/USERS/20156" thumbPath="/ibi_apps/ibi_html/
ibi_images/file_type/file.svg" type="User" userStatusDisplay="AutoAdded">
<properties size="4">
<entry key="SeatDate" value="20170731"/>
<entry key="AuthNType" value="PreAuthN"/>
<entry key="SeatType" value="PU"/>
<entry key="autoadd" value="yes"/>
</properties>
<status _jt="IBSSUserStatus" name="AUTOADD"/>
<groups _jt="ArrayList" size="0"/>
<pSetList _jt="ArrayList" size="0"/>
</item>
<item _jt="IBFSUserObject" description="Administrator" dummy="false"
email="" fullPath="IBFS:/SSYS/USERS/admin" handle="10001" index="1"
lastSignin="1537208945749" length="0" name="admin" parent="Administrators"
policy="/+f//f4f//9vo/+9//9//+////f8AAAA" rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/
SSYS/USERS/admin" thumbPath="/ibi_apps/ibi_html/ibi_images/file_type/
file.svg" type="User" userStatusDisplay="Active">
<properties size="3">
<entry key="SeatDate" value="20160204"/>
<entry key="AuthNType" value="PreAuthN"/>
<entry key="SeatType" value="PU"/>
</properties>
<status _jt="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/>
<groups _jt="ArrayList" size="0"/>
<pSetList _jt="ArrayList" size="0"/>
</item>
```



```

<item _jt="IBFSUserObject" description="br01532" dummy="false" email=""
fullPath="IBFS:/SSYS/USERS/br01532" handle="1437955072" index="2"
lastSignin="1508444797540" length="0" name="br01532" nameSpace="DB"
parent="Administrators" policy="/+f//f4f///9vo/+9///9/////////f8AAAA"
rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/USERS/br01532" thumbPath="/ibi_apps/ibi_html/
ibi_images/file_type/file.svg" type="User" userStatusDisplay="Active">
<properties size="3">
<entry key="SeatDate" value="20171019"/>
<entry key="AuthNType" value="IntAuthN"/>
<entry key="SeatType" value="PU"/>
</properties>
<status _jt="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/>
<groups _jt="ArrayList" size="0"/>
<pSetList _jt="ArrayList" size="0"/>
</item>
<item _jt="IBFSUserObject" description="ciprian" dummy="false" email=""
fullPath="IBFS:/SSYS/USERS/ciprian" handle="507591666" index="3"
lastSignin="1525710234837" length="0" name="ciprian" nameSpace="DB"
parent="Administrators" policy="/+f//f4f///9vo/+9///9/////////f8AAAA"
rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/USERS/ciprian" thumbPath="/ibi_apps/ibi_html/
ibi_images/file_type/file.svg" type="User" userStatusDisplay="Active">
<properties size="3">
<entry key="SeatDate" value="20180507"/>
<entry key="AuthNType" value="IntAuthN"/>
<entry key="SeatType" value="PU"/>
</properties>
<status _jt="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/>
<groups _jt="ArrayList" size="0"/>
<pSetList _jt="ArrayList" size="0"/>
</item>
<item _jt="IBFSUserObject" description="David" dummy="false" email=""
fullPath="IBFS:/SSYS/USERS/david" handle="624072736" index="4"
lastSignin="1525713259277" length="0" name="david" nameSpace="DB"
parent="Administrators" policy="/+f//f4f///9vo/+9///9/////////f8AAAA"
rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/USERS/david" thumbPath="/ibi_apps/ibi_html/
ibi_images/file_type/file.svg" type="User" userStatusDisplay="Active">
<properties size="3">
<entry key="SeatDate" value="20170522"/>
<entry key="AuthNType" value="IntAuthN"/>
<entry key="SeatType" value="PU"/>
</properties>
<status _jt="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/>
<groups _jt="ArrayList" size="0"/>
<pSetList _jt="ArrayList" size="0"/>
</item>
<item _jt="IBFSUserObject" description="REST user" dummy="false" email=""
fullPath="IBFS:/SSYS/USERS/rest" handle="767690752" index="5"
lastSignin="1486500642372" length="0" name="rest" nameSpace="DB"
parent="Administrators" policy="/+f//f4f///9vo/+9///9/////////f8AAAA"
rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/USERS/rest" thumbPath="/ibi_apps/ibi_html/
ibi_images/file_type/file.svg" type="User" userStatusDisplay="Active">
<properties size="3">
<entry key="SeatDate" value="20170202"/>
<entry key="AuthNType" value="PreAuthN"/>
<entry key="SeatType" value="PU"/>
</properties>

```

```
<status _jt="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/>
<groups _jt="ArrayList" size="0"/>
<pSetList _jt="ArrayList" size="0"/>
</item>
</children>
</rootObject>
</ibfsrpc>
```

## プロパティの使用

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、特定の項目のプロパティを、拡張プロパティも含めて取得することができます。

### HTTP メソッド GET

### REST URL のフォーマット

```
http://host[:port]/ibi_apps/rs?IBIRS_path=/WFC/Repository/
path&IBIRS_action=properties&IBIRS_service=ibfs
```

#### 説明

##### host

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

##### port

WebFOCUS が使用するポート番号です。

#### 例

```
http://server:port/ibi_apps/rs ?IBIRS_path=/WFC/Repository/Tests/
Car_Required_Parameter_2.fex&IBIRS_action=properties&IBIRS_service=ibfs
```





```

+UERGPC9FbnRyeT4NCiAgICAgICAgICAgIDxFbnRyeSBrZXk9ImRpc3BsYXlSZXNvdXJjZXNGaWV
sZFRhYkluZm9NaW5pUHJlZmVyZW5jZSIgdHlwZT0iamF2YS5sYW5nLlN0cmlyZyI
+ZmFsc2U8L0VudHJ5Pg0KICAgICAgICAgICAgICAgPEVudHJ5IGtleT0izG1zcGxheUZvcmlhdFRhYk1
uZm9NaW5pUHJlZmVyZW5jZSIgdHlwZT0iamF2YS5sYW5nLlN0cmlyZyI+dHJlZTwwRW50cnk
+DQogICAgICAgICAgICAgICA8RW50cnkga2V5PSJjc0dyYXlPdXRGaWVsZHNnb2RlIiB0eXB1PSJqYXZ
hLmxhbmcuU3RyaW5nIj5mYWxzZTwwRW50cnk+dQogICAgICAgICAgICAgIDwvUHJvcGVydHk
+DQogICAgICAgICAgIDxQcm9wZXJ0eSBuYW1lPSJjYXNjYWRlTmFtZXMiIHR5cGU9IklhcCIvPg0KICA
gICAgICA8UHJvcGVydHkgbmfTzT0iTWfzdGVyX0ZpbGVzIiB0eXB1PSJtZXQiPg0KICAgICAgICA
gICAgICAgPEVudHJ5IHR5cGU9ImphdmEubGFuZy5TdHJpbmciPmliaXNhbXAvY2FyPC9FbnRyeT4NCiA
gICAgICAgPC9Qcm9wZXJ0eT4NCiAgICAgICAgICAgICAgICAgPFByb3BlcnR5IG5hbWU9Im1ldGFkYXRhVmlld0F
zIiB0eXB1PSJNYXAiPg0KICAgICAgICAgICAgICAgICAgPEVudHJ5IGtleT0iaWJpc2FtcC9jYXIIHR5cGU
9ImphdmEubGFuZy5TdHJpbmciPk1ldGFYXRhVHJlZS5WSUVXX0RJTVM8L0VudHJ5Pg0KICAgICA
gICA8L1Byb3BlcnR5Pg0KICAgICAgICAgICA8UHJvcGVydHkgbmfTzT0iZw5hYmxlUHJldmlldyIgdHl
wZT0iamF2YS5sYW5nLkxvY2x1YW4iPnRydWU8L1Byb3BlcnR5Pg0KICAgIDwvT2JqZWNOPg0KPC9
Sb290Pg0K -*Do not delete or modify the comments above */>
</entry>
</extendedProperties>
<nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="1">
<entry>
<key _jt="string" value="en_US"/>
<value _jt="ArrayList" size="2">
<item _jt="string" index="0" value="Car Required Parameter 2"/>
</value>
</entry>
</nlsValues>
<fexParameters _jt="ArrayList" size="1">
<item _jt="IBRFexParameter" datadomain="COUNTRY" index="0"
multiselect="true" parmname="COUNTRY" required="true">
<amperVar amperIdx="16" chainIdx="-1" class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe
$AmperVar" description="COUNTRY:" format="A10" idxInChain="-1"
inForm="true" isDefault="false" max="0.0" min="0.0" name="COUNTRY"
noSelection="false" operation="OR" parent="" sortOrder="ASCENDING"
validate="">
<type class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperVarType" name="unresolved"/>
<defValues _jt="array" itemsClass="string" size="0"/>
<displayType class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperDisplayType" name="find"/>
<values accessOrder="false" class="java.util.LinkedHashMap"
loadFactor="0.75" threshold="0"/>
<dynValues class="com.ibi.wfrs.IBFSWFDescribe$DynamicAmper" displayField="
field="CAR.ORIGIN.COUNTRY" file="ibisamp/CAR">
<type class="com.ibi.wfrs.IBFSAmperDisplayType" name="find"/>
</dynValues>
<parameters _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="0"/>
</amperVar>
</item>
</fexParameters>
</rootObject>
</ibfsrpc>

```

### runAdHocFex の使用

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、引数として入力された `adhoc` プロシジャを実行することができます。

## HTTP メソッド GET

### REST URL のフォーマット

```
http://host[:port]/ibi_apps/rs?IBIRS_path=/WFC/Repository/  
path&IBIRS_action=runAdHocFex&IBIRS_fexContent=procedureCode&IBIRS_service=ibfs
```

#### 説明

`host`

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

`port`

WebFOCUS が使用するポート番号です。

#### 例

```
http://server:port/ibi_apps/rs ?IBIRS_path=/WFC/Repository/  
Tests&IBIRS_action=runAdHocFex&IBIRS_fexContent=TABLE+FILE+CAR%0D%0APRINT  
+CAR+BY+COUNTRY%0D%0AEND&IBIRS_service=ibfs
```

## レスポンス

レポートが表示されます。

## setLanguage の使用

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、WebFOCUS セッションで使用する言語を設定することができます。

## HTTP メソッド GET

### REST URL のフォーマット

```
http://host[:port]/ibi_apps/rs?  
IBIRS_action=setLanguage&IBIRS_language=localeValue&IBIRS_service=ibfs
```

#### 説明

`host`

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

`port`

WebFOCUS が使用するポート番号です。

#### 例

```
http://server:port/ibi_apps/rs?IBIRS_action=setLanguage&IBIRS_language=en-  
US&IBIRS_service=ibfs
```

## レスポンス

```
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="en_US" name="setLanguage"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" type="simple">
<ibfsparams size="1">
<entry key="IBIRS_language" value="en-US"/>
</ibfsparams>
<rootObject _jt="IBFSLanguageObject" available="true" description="English"
enabled="true" group="0" lngIndex="0" name="en_US" name2="en">
<codePages _jt="array" itemsClass="string" size="16">
<item _jt="string" index="0" value="137"/>
<item _jt="string" index="1" value="874"/>
<item _jt="string" index="2" value="942"/>
<item _jt="string" index="3" value="946"/>
<item _jt="string" index="4" value="949"/>
<item _jt="string" index="5" value="1250"/>
<item _jt="string" index="6" value="1251"/>
<item _jt="string" index="7" value="1252"/>
<item _jt="string" index="8" value="1253"/>
<item _jt="string" index="9" value="1254"/>
<item _jt="string" index="10" value="1255"/>
<item _jt="string" index="11" value="1256"/>
<item _jt="string" index="12" value="1257"/>
<item _jt="string" index="13" value="10942"/>
<item _jt="string" index="14" value="10948"/>
<item _jt="string" index="15" value="65001"/>
</codePages>
<locale class="java.util.Locale"/>
</rootObject>
</ibfsrpc>
```

## setManagePrivateMode の使用

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、現在のセッションにマネージャモードを設定することができます。

### HTTP メソッド POST

### REST URL のフォーマット

```
http://host[:port]/ibi_apps/rs
```

#### 説明

**host**

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

**port**

WebFOCUS が使用するポート番号です。

---

## 本文のフォーマット

IBIRS\_action=setManagePrivateMode&IBIRS\_mode=true/false&IBIRS\_service=ibfs

## 例

http://server:port/ibi\_apps/rs

## 本文

IBIRS\_action=setManagePrivateMode&IBIRS\_mode=true&IBIRS\_service=ibfs

## レスポンス

```
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="en_US"  
name="setManagePrivateMode" returncode="10000" returndesc="SUCCESS"  
subreturncode="0" type="simple">  
<ibfsparams size="1">  
<entry key="IBIRS_mode" value="true"/>  
</ibfsparams>  
<rootObject _jt="boolval" value="true"/>  
</ibfsrpc>
```



# 4

## WebFOCUS Reporting Server RESTful Web サービスリクエスト

ここでは、WebFOCUS Reporting Server RESTful Web サービスリクエストのフォーマットと構造について説明します。

### トピックス

- WebFOCUS Reporting Server ノードのリスト表示
- アプリケーションの作成
- アプリケーションのリスト表示
- アプリケーション内のファイルのリスト表示
- アプリケーション内のレポートパラメータのリスト表示
- アプリケーション内のレポートの実行
- アプリケーションの削除
- 変更管理 - エクスポート
- 変更管理 - インポート
- ロールの削除
- ルールの追加

### WebFOCUS Reporting Server ノードのリスト表示

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、WebFOCUS で利用可能な Reporting Server ノードをリスト表示することができます。

#### HTTP メソッド GET

#### REST URL のフォーマット

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs?IBIRS_action=get
```

#### 説明

`host`

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

`port`

WebFOCUS が使用するポート番号です。

## 例

次の例では、Reporting Server ノードのリストが表示されます。

## リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/EDA?IBIRS_action=get
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="IBIRS_action" returncode="10000"
  returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfsparams size="0"/>
  <rootObject _jt="IBFSObject" container="true" description="EDA" dummy="false"
    fullPath="IBFS:/EDA" name="EDA" policy="///+f////////9//////////+AAAAA"
  type="WebFOCUSComponent">
    <children _jt="ArrayList" size="1">
      <item _jt="IBFSEDANodeObject" container="true" defaultNode="true" description=""
        dummy="false"
        fullPath="IBFS:/EDA/EDASERVE" host="MyComputer" index="0" name="EDASERVE"
        nodeClass="CLIENT"
        parent="EDA" policy="///+f////////9//////////+AAAAA" port="8120"
        type="EDANode"/>
    </children>
  </rootObject>
</ibfsrpc>
```

Reporting Server の各ノードは、<item> 要素の開始タグと終了タグの間で定義されます。name 属性で、Reporting Server ノードの名前が定義されます。port 属性で、Reporting Server との通信に使用される TCP/IP ポートが定義されます。

## アプリケーションの作成

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、アプリケーションを作成することができます。

**HTTP メソッド** POST

**REST URL のフォーマット**

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/EDA/NodeName/AppName
```

説明

**host**

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

**port**

WebFOCUS が使用するポート番号です。

#### *NodeName*

WebFOCUS Reporting Server ノードの名前です。詳細は、113 ページの「[WebFOCUS Reporting Server ノードのリスト表示](#)」を参照してください。

#### *AppName*

作成するアプリケーションの名前です。作成するアプリケーションが既存のアプリケーション内でネストされている場合は、REST URL に既存のアプリケーション名を含める必要があります。つまり、作成するアプリケーションのパスを「ExistingApplication/ApplicationName」のように指定します。

### 本文のフォーマット

`IBIRS_action=put&IBIRS_object=Object`

#### 説明

#### *Object*

次のフォーマットでアプリケーションの属性を定義する XML オブジェクトです。

```
<object _jt="IBFSFolder" container="true" type="IBFSFolder"></object>
```

#### 例

次の例では、「Financial\_Reports」というアプリケーションが作成されます。

### POST リクエスト URL

`http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/EDA/EDASERVE/Financial_Reports`

#### 本文

```
IBIRS_action=put&IBIRS_object=<object _jt="IBFSFolder" container="true" type="IBFSFolder"></object>
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="put" returncode="10000"
returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfsparams size="5">
    <entry key="IBIRS_replace" value="true"/>
    <entry key="IBIRS_path" value="/EDA/EDASERVE/Financial_Reports"/>
    <entry key="IBIRS_private" value="__null"/>
    <entry key="IBIRS_object" value="****"/>
    <entry key="IBIRS_args" value="__null"/>
  </ibfsparams>
  <rootObject _jt="IBFSFolder" container="true" description="Financial_Reports"
dummy="false" fullPath="IBFS:/EDA/EDASERVE/Financial_Reports" name="Financial_Reports"
policy="////D////fx/////+/++++//4AAAA" rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/EDA/EDASERVE/
Financial_Reports" type="IBFSFolder"/>
</ibfsrpc>
```

## アプリケーションのリスト表示

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、特定の Reporting Server ノードのアプリケーションをリスト表示することができます。

**HTTP メソッド** GET

**REST URL のフォーマット**

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/EDA/NodeName?IBIRS_action=get
```

説明

**host**

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

**port**

WebFOCUS が使用するポート番号です。

**NodeName**

Reporting Server ノードの名前です。詳細は、113 ページの「[WebFOCUS Reporting Server ノードのリスト表示](#)」を参照してください。

**例**

次の例では、「EDASERVE」という WebFOCUS Reporting Server に存在するアプリケーションがリスト表示されます。

**リクエスト**

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/EDA/EDASERVE?IBIRS_action=get
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="IBIRS_action" returncode="10000"
  returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfsparams size="0"/>
  <rootObject _jt="IBFSEDAJsonObject" container="true" defaultNode="true" description=""
    dummy="false" fullPath="IBFS:/EDA/EDASERVE" host="REST-COMPUTER" name="EDASERVE"
    nodeClass="CLIENT" policy="///+f////////9//////////+AAAAA" port="8120"
  type="EDANode">
    <children _jt="ArrayList" size="14">
      <item _jt="IBFSFolder" container="true" description="foccache" dummy="false"
        fullPath="IBFS:/EDA/EDASERVE/foccache" index="0" lastModified="1345560136000"
        name="foccache" parent="EDASERVE" policy="///+f////////9//////////+AAAAA"
      type="IBFSFolder"/>
      .
      .
      .
      <item _jt="IBFSFolder" container="true" description="maintain" dummy="false"
        fullPath="IBFS:/EDA/EDASERVE/maintain" index="12" lastModified="1344546157000"
        name="maintain"
        parent="EDASERVE" policy="///+f////////9//////////+AAAAA" type="IBFSFolder"/>
      <item _jt="IBFSFolder" container="true" description="session" dummy="false"
        fullPath="IBFS:/EDA/EDASERVE/session" index="13" lastModified="1344546157000"
        name="session"
        parent="EDASERVE" policy="///+f////////9//////////+AAAAA" type="IBFSFolder"/>
    </children>
  </rootObject>
</ibfsrpc>
```

各アプリケーションは、<item> 要素の開始タグと終了タグの間で定義されます。name 属性で、アプリケーションの名前が定義されます。

## アプリケーション内のファイルのリスト表示

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、特定のアプリケーション内のすべてのファイルをリスト表示することができます。

**HTTP メソッド** GET

**REST URL のフォーマット**

`http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/EDA/NodeName/AppName?IBIRS_action=get`

説明

`host`

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

`port`

WebFOCUS が使用するポート番号です。

## NodeName

Reporting Server ノードの名前です。詳細は、113 ページの「[WebFOCUS Reporting Server ノードのリスト表示](#)」を参照してください。

## AppName

リスト表示するファイルが格納されているアプリケーションの名前です。詳細は、116 ページの「[アプリケーションのリスト表示](#)」を参照してください。

## 例

次の例では、`ibisamp` アプリケーション内のすべてのファイルがリスト表示されます。

## リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/EDA/EDASERVE/ibisamp?IBIRS_action=get
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="IBIRS_action" returncode="10000"
  returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfparams size="0"/>
  <rootObject _jt="IBFSFolder" container="true" description="ibisamp" dummy="false"
    fullPath="IBFS:/EDA/EDASERVE/ibisamp" lastModified="1345554266" name="ibisamp"
    policy="///+f////////9//////////+AAAAA" type="IBFSFolder">
    <children _jt="ArrayList" size="182">
      <item _jt="IBFSFile" description="cargraph.fex" dummy="false"
        fullPath="IBFS:/EDA/EDASERVE/ibisamp/cargraph.fex" index="0"
        lastModified="1328583952000"
        length="1471" name="cargraph.fex" parent="ibisamp" policy="///+f////////
        9//////////+AAAAA"
        type="IBFSFile"/>
      <item _jt="IBFSFile" description="carinst.fex" dummy="false"
        fullPath="IBFS:/EDA/EDASERVE/ibisamp/carinst.fex" index="1"
        lastModified="1328583952000"
        length="2624" name="carinst.fex" parent="ibisamp"
        policy="///+f////////9//////////+AAAAA"
        type="IBFSFile"/>
      .
      .
      .
      <item _jt="IBFSFile" description="wfmstart.html" dummy="false"
        fullPath="IBFS:/EDA/EDASERVE/ibisamp/wfmstart.html" index="181"
        lastModified="1328619018000"
        length="6364" name="wfmstart.html" parent="ibisamp" policy="///+f////////
        9//////////+AAAAA"
        type="IBFSFile"/>
    </children>
  </rootObject>
</ibfsrpc>
```

各ファイルは、<item> 要素の開始タグと終了タグの間で定義されます。name 属性で、ファイルの名前が定義されます。

次のリストは、WebFOCUS 固有のファイル拡張子を示しています。

- ❑ **fex** WebFOCUS レポート
- ❑ **mas** マスターファイル記述
- ❑ **acx** アクセスファイル
- ❑ **foc** FOCUS データベース
- ❑ **etg** DataMigrator フロー
- ❑ **mnt** MAINTAIN プロシジャ
- ❑ **wfm** MAINTAIN フォーム
- ❑ **fcm** コンパイル済み MAINTAIN プロシジャ
- ❑ **ftm** 通常は一時ファイルとして使用される Flat File

description 属性では、ファイルの保存時に入力されたタイトルが定義されます。

## アプリケーション内のレポートパラメータのリスト表示

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、アプリケーション内に格納されている WebFOCUS レポートの現在のパラメータを取得することができます。

**HTTP メソッド** GET

**REST URL のフォーマット**

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/EDA/NodeName/Appname/FexName?
IBIRS_action=describeFex
```

説明

**host**

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

**port**

WebFOCUS が使用するポート番号です。

**NodeName**

Reporting Server ノードの名前です。詳細は、113 ページの「[WebFOCUS Reporting Server ノードのリスト表示](#)」を参照してください。

---

### Appname

リスト表示するファイルが格納されているアプリケーションの名前です。詳細は、116 ページの「[アプリケーションのリスト表示](#)」を参照してください。

### FexName

アプリケーション内のファイルをリスト取得した際に name 属性で定義された WebFOCUS レポートの名前です。詳細は、117 ページの「[アプリケーション内のファイルのリスト表示](#)」を参照してください。

### 例

次の例では、ibisamp アプリケーション内に存在する carinst.fex レポートの現在のパラメータが取得されます。carinst.fex は、アプリケーション内のファイルリストを取得した際に name 属性で定義されたファイル名です。詳細は、117 ページの「[アプリケーション内のファイルのリスト表示](#)」を参照してください。

### リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/EDA/EDASERVE/ibisamp/carinst.fex?  
IBIRS_action=describeFex
```



## レスポンス

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="IBIRS_action" returncode="10000"
  returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfsparms size="0"/>
  <rootObject isSavedParam="false">
    <bindingInfo _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="24">
      <entry>
        <key _jt="string" value="SUBSYSTEM"/>
        <value isReqParm="false" value="Self Service"/>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="string" value="IBI_WF_charset"/>
        <value isReqParm="false" value="windows-1252"/>
      </entry>
      <entry>
        .
        .
        .
      <entry>
        <key _jt="string" value="WF_TITLE"/>
        <value format="" max="0.0" min="0.0" name="WF_TITLE" strDef="">
          <type name="set"/>
          <displayType name="prompt"/>
          <values accessOrder="false" loadFactor="0.75" threshold="12"/>
        </value>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="string" value="FOCREL"/>
        <value format="" max="0.0" min="0.0" name="FOCREL" strDef="">
          <type name="system"/>
        <displayType name="prompt"/>
      </entry>
    </bindingInfo>
  </rootObject>
</ibfsrpc>

```

```
<values accessOrder="false" loadFactor="0.75" threshold="12"/>
</value>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="EXCELSERVURL"/>
<value format="" max="0.0" min="0.0" name="EXCELSERVURL" strDef="">
<type name="set"/>
<displayType name="prompt"/>
<values accessOrder="false" loadFactor="0.75" threshold="12"/>
</value>
</entry>
<entry>
<key _jt="string" value="COUNTRY"/>
<value format="" max="0.0" min="0.0" name="COUNTRY" strDef="$*">
<type name="defaultType"/>
<displayType name="prompt"/>
<values accessOrder="false" loadFactor="0.75" threshold="12"/>
</value>
</entry>
</amperMap>
</rootObject>
</ibfsrpc>
```

各パラメータは、<entry> 要素の開始タグと終了タグの間で定義されます。

返された XML レスポンスには、WebFOCUS レポートで定義されたパラメータ以外に、多くのシステムパラメータが含まれています。type 要素の name 属性で unresolved または defaultType のいずれかが定義されているエントリは、WebFOCUS レポートのパラメータです。

```
<type name="unresolved"/>
```

value 要素の name 属性で、選択項目として使用されているパラメータが定義されます。

```
<value name="COUNTRY" strDef="$*" min="0.0" max="0.0" format="">
<type name="defaultType"/>
```

WebFOCUS レポートのパラメータ定義にデフォルト値が含まれている場合、value 要素の strDef 属性にその値が格納されます。

WebFOCUS レポートのパラメータ定義にプロンプトタイトルが含まれている場合、value 要素の description 属性にそのタイトルが格納されます。

WebFOCUS レポートのパラメータ定義に選択項目の有効値のリストが含まれている場合、XML レスポンスのパラメータ定義に別の entry 要素が追加されます。その場合は、key 要素の value 属性に有効値が格納されます。

## アプリケーション内のレポートの実行

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、アプリケーション内に格納されているレポートを実行することができます。

**HTTP メソッド** POST

**REST URL のフォーマット**

`http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/EDA/NodeName/Appname/FexName`

説明

`host`

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

`port`

WebFOCUS が使用するポート番号です。

`NodeName`

Reporting Server ノードの名前です。詳細は、113 ページの「[WebFOCUS Reporting Server ノードのリスト表示](#)」を参照してください。

`Appname`

リスト表示するファイルが格納されているアプリケーションの名前です。詳細は、116 ページの「[アプリケーションのリスト表示](#)」を参照してください。

`FexName`

アプリケーション内のファイルをリスト取得した際に `name` 属性で定義された WebFOCUS レポートの名前です。詳細は、117 ページの「[アプリケーション内のファイルのリスト表示](#)」を参照してください。

**本文のフォーマット**

`IBIRS_action=run&IBIRS_proxyURL=clientPath&IBIRS_userName=Userid&IBIRS_password>Password&parmNameN=parmValueN&IBIRS_args=Object`

説明

`clientPath`

WebFOCUS への RESTful Web サービス呼び出しを実行するクライアントアプリケーションのパスです。以下はその例です。

`http://myapplication.maj.com/Sales/Monthly.aspx`

このパラメータは、元の WebFOCUS レポートにドリルダウンリンク、イメージへのリンク、Web ビューアレポート、またはアクティブキャッシュレポートが含まれている場合に使用します。

ドリルダウンリンクをクリックするか、Web ビューアレポートのページをクリックすると、そのリクエストは、WebFOCUS ではなく、clientPath で定義されたクライアントアプリケーションに送信されます。このリクエストで、パラメータの名前および値がすべて送信されます。次に、そのクライアントアプリケーションは、リクエストを以下の URL (WebFOCUS 環境) にリダイレクトする必要があります。

[http://host:port/ibi\\_apps/rs/ibfs](http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs)

#### Userid

Reporting Server のユーザ ID です。Reporting Server がセキュリティオフで実行されている場合、または Reporting Server ログイン認証情報が WebFOCUS Reporting Server の Client 設定で構成されている場合は、このパラメータを REST リクエストで送信する必要はありません。

#### Password

Reporting Server のパスワードです。Reporting Server がセキュリティオフで実行されている場合、または Reporting Server ログイン認証情報が WebFOCUS Reporting Server の Client 設定で構成されている場合は、このパラメータを REST リクエストで送信する必要はありません。

#### parmNameN

Reporting Server に転送される定義済みパラメータの名前です。

**注意：**WebFOCUS レポート内のパラメータ数に応じて、定義済みパラメータ数は異なります。たとえば、2つのパラメータを必要とする WebFOCUS レポートの場合、これらのパラメータおよび対応する値を、この RESTful Web サービスリクエストの本文でも設定する必要があります(&parmName1=parmValue1&parmName2=parmValue2)。使用する WebFOCUS レポートによっては、さらに多くのパラメータを必要とする場合もあります。

#### parmValueN

Reporting Server に転送される定義済みパラメータの値です。

#### Object (オプション)

EXCEL や PDF などの MIME タイプのレポート出力を取得する際に、次のフォーマットを使用してリダイレクトを無効にする XML オブジェクトです。

```

<rootObject _jt="HashMap">
  <entry>
    <key _jt="string" value="IBFS_contextVars"/>
    <value _jt="HashMap">
      <entry>
        <key _jt="string" value="IBIWF_redirect"/>
        <value _jt="string" value="NEVER"/>
      </entry>
    </value>
  </entry>
</rootObject>

```

### 例

次の例では、Sales\_for\_a\_Specific\_Country レポートが、JAPAN という値のみで実行されます。

### リクエスト

[http://localhost:8080/ibi\\_apps/rs/ibfs/EDA/EDASERVE/ibisamp/carinst.fex](http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/EDA/EDASERVE/ibisamp/carinst.fex)

### 本文

IBIRS\_action=run&COUNTRY=JAPAN

### レスポンス

レスポンスは、HTML、Excel、PDF、Active Report のいずれかのレポート、またはグラフです。

## アプリケーションの削除

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、アプリケーションを削除することができます。

**HTTP メソッド** DELETE

**REST URL のフォーマット**

[http://host:port/ibi\\_apps/rs/ibfs/EDA/NodeName/Appname?IBIRS\\_action=delete](http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/EDA/NodeName/Appname?IBIRS_action=delete)

### 説明

**host**

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

**port**

WebFOCUS が使用するポート番号です。

## NodeName

Reporting Server ノードの名前です。詳細は、113 ページの「[WebFOCUS Reporting Server ノードのリスト表示](#)」を参照してください。

## AppName

リスト表示するファイルが格納されているアプリケーションの名前です。詳細は、116 ページの「[アプリケーションのリスト表示](#)」を参照してください。

## 例

次の例では、wfretail アプリケーションが削除されます。

## リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/EDA/EDASERVE/wfretail?IBIRS_action=delete
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSresponseObject" language="EN" name="IBIRS_action" returncode="10000"
  returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfsparams size="0"/>
  <rootObject _jt="IBFSFolder" container="true" description="wfretail" dummy="false"
    fullPath="IBFS:/EDA/EDASERVE/wfretail" name="wfretail" type="IBFSFolder"/>
</ibfsrpc>
```

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、アプリケーションは正しく削除されています。

## 変更管理 - エクスポート

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、変更管理のインポート機能により作成されたディレクトリ、ファイル、グループをエクスポートすることができます。

詳細は、71 ページの「[変更管理 - エクスポート](#)」を参照してください。

**注意：**この RESTful Web サービスは、WebFOCUS リポジトリと Reporting Server で共通の機能です。

## 変更管理 - インポート

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、変更管理のエクスポートにより作成されたディレクトリ、ファイル、グループをインポートすることができます。

詳細は、72 ページの「[変更管理 - インポート](#)」を参照してください。

**注意：**この RESTful Web サービスは、WebFOCUS リポジトリと Reporting Server で共通の機能です。

## ロールの削除

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、ロールを削除することができます。

**HTTP メソッド** DELETE

**REST URL のフォーマット**

`http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/ROLES/Role?IBIRS_action=delete`

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*Role*

削除するロールの名前です。

**例**

次の例では、「LibraryCustom」というロールが削除されます。

**リクエスト**

`http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/ROLES/LibraryCustom?IBIRS_action=delete`

**レスポンス**

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="delete"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0"
  subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfsparams size="2">
    <entry key="IBIRS_args" value="__null"/>
    <entry key="IBIRS_" value="/SSYS/ROLES/LibraryCustom"/>
  </ibfsparams>
  <rootObject _jt="IBFSPermissionSetObject" description="Library Privilege
- Custom" dummy="false"
    fullPath="IBFS:/SSYS/ROLES/LibraryCustom" handle="381089792"
name="LibraryCustom"
    policy="////D///9+f/////f/////////8AAAA=" rsPath="/
ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/ROLES/LibraryCustom"
    showPermissions="false" subsystemNameList="WFC"
type="PermissionSet">
    <pSet _jt="IBSSPermissionSet" compLvl="100" description="Library
Privilege - Custom" id="381089792"
      name="LibraryCustom" shipped="false">
      <policy _jt="IBSSPolicy" derivedDate="1349173489158">
        <policy _jt="EnumMap" _keyJT="IBSSOperation" size="3">
          <entry>
            <key _jt="IBSSOperation" name="opLibrary"/>
            <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
          </entry>
          <entry>
            <key _jt="IBSSOperation" name="opList"/>
            <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
          </entry>
          <entry>
            <key _jt="IBSSOperation" name="opRCExplorer"/>
            <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
          </entry>
        </policy>
      </policy>
      <subsysList _jt="ArrayList" size="1">
        <item _jt="IBFSSubsystem" index="0" name="WFC"/>
      </subsysList>
    </pSet>
  </rootObject>
</ibfsrpc>

```

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、ロールは正しく削除されています。

## ルールの追加

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、特定の項目にルールを適用することができます。

**HTTP メソッド** POST

**REST URL のフォーマット**



`http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/ItemToBeRestricted`

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*ItemToBeRestricted*

制限を適用する項目のパスです。以下はその例です。

`/WFC/Repository/ParentFolder/FolderName`

本文のフォーマット

`IBIRS_action=addRule&IBIRS_path=ItemToBeRestricted&IBIRS_subjectPath=GroupUser &IBIRS_verb=RestrictType&IBIRS_role=Role&IBIRS_applyTo=FolderChildren`

説明

*ItemToBeRestricted*

制限を適用する項目のパスです。以下はその例です。

`/WFC/Repository/ParentFolder/FolderName`

*GroupUser*

特定のロールを適用するグループまたはユーザ ID のパスです。以下はその例です。

`/SSYS/GROUPS/group1;/SSYS/GROUPS/group2`

*RestrictType*

特定のロールに適用可能な制限タイプのいずれかです。次の制限タイプがあります。

- NOT\_SET
- PERMIT
- DENY
- UNPERMIT
- UNDENY
- OVERPERMIT

## CLEARINHERITANCE

### *Role*

GroupUser に適用する特定のロールです。たとえば、List、Run、ListAndRun があります。

### *FolderChildren*

ルールを ItemToBeRestricted で指定した項目のみに適用するか、ItemToBeRestricted の項目とその下位の項目に適用するか、その下位の項目のみに適用するかを指定します。有効な値は次のとおりです。

## FOLDER\_AND\_CHILDREN

## FOLDER\_ONLY

## CHILDREN\_ONLY

たとえば、FOLDER\_AND\_CHILDREN を使用すると、ルールが特定のフォルダとそのサブフォルダに適用されます。

## 例

次の例では、Financial\_Reports フォルダ下の Quarterly フォルダおよびその下位フォルダで、ユーザ ID (restid) に対して項目のリスト表示と実行を許可するルールが追加されます。

## POST リクエスト

[http://localhost:8080/ibi\\_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/Financial\\_Reports/Quarterly](http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/Financial_Reports/Quarterly)

## 本文

```
IBIRS_action=addRule&IBIRS_path=/WFC/Repository/Financial_Reports/Quarterly&IBIRS_subjectPath=/SSYS/USERS/restid&IBIRS_verb=PERMIT&IBIRS_role=ListAndRun&IBIRS_applyTo=FOLDER_AND_CHILDREN
```

## レスポンス

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="addRule"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS"
type="simple">
  <ibfsparams size="5">
    <entry key="IBIRS_verb" value="PERMIT"/>
    <entry key="IBIRS_role" value="ListAndRun"/>
    <entry key="IBIRS_applyTo" value="FOLDER_AND_CHILDREN"/>
    <entry key="IBIRS_subjectPath" value="/SSYS/USERS/restid"/>
    <entry key="IBIRS_" value="/WFC/Repository/Financial_Reports/Quarterly"/>
  </ibfsparams>
  <rootObject _jt="IBFSPermissionSetObject" description="List and run
content" dummy="false" fullPath="IBFS://SSYS/ROLES/ListAndRun"
handle="10330"
  name="ListAndRun" policy="///D///9+f/////f/////////8AAAA=" rsPath="/
ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/ROLES/ListAndRun" showPermissions="false"
  subsystemNameList="WFC" type="PermissionSet">
    <pSet _jt="IBSSPermissionSet" compLvl="0" description="List and run
content" id="10330" name="ListAndRun" shipped="true">
      <policy _jt="IBSSPolicy" derivedDate="1348174711335">
        <policy _jt="EnumMap" _keyJT="IBSSOperation" size="2">
          <entry>
            <key _jt="IBSSOperation" name="opList"/>
            <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
          </entry>
          <entry>
            <key _jt="IBSSOperation" name="opRun"/>
            <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
          </entry>
        </policy>
      </policy>
      <subsysList _jt="ArrayList" size="1">
        <item _jt="IBFSSubsystem" index="0" name="WFC"/>
      </subsysList>
    </pSet>
  </rootObject>
</ibfsrpc>

```

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、ルールは正しく作成されています。



# 5

## WebFOCUS セキュリティ管理 RESTful Web サービスリクエスト

ここでは、WebFOCUS セキュリティ管理 RESTful Web サービスリクエストのフォーマットおよび構造について説明します。

### トピックス

- ユーザのリスト表示
- グループのリスト表示
- 権限のリスト表示
- ロールのリスト表示
- グループ内のユーザのリスト表示
- ユーザの追加および更新
- ユーザの削除
- グループの追加および更新
- グループの削除
- グループへのユーザの追加
- グループからのユーザの削除
- ロールの追加
- ロールの削除
- ルールの追加
- ルールの削除
- グループまたはユーザに適用されたルールのリスト表示
- リソースに適用されたルールのリスト表示
- ロールに適用されたルールのリスト表示
- ポリシー文字列の展開
- ポリシー文字列の作成
- リソーステンプレートの実行
- ユーザのパスワード変更

### ユーザのリスト表示

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、既存の WebFOCUS ユーザのリストを取得することができます。

**HTTP メソッド** GET

**REST URL のフォーマット**

`http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/USERS?IBIRS_action=get`

説明

`host`

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

port

WebFOCUS が使用するポート番号です。

## 例

次の例では、WebFOCUS ユーザのリストが取得されます。

## リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/USERS?IBIRS_action=get
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="IBIRS_action" returncode="10000"
  returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfsparams size="0"/>
  <rootObject _jt="IBFSObject" container="true" description="USERS" dummy="false"
    fullPath="IBFS:/SSYS/USERS" name="USERS" policy="///+f////////9//////////+AAAAA"
    type="WebFOCUSComponent">
    <children _jt="ArrayList" size="7">
      <item _jt="IBFSUserObject" description="Administrator" dummy="false"
        email="restadmin@informationbuilders.com"
        fullPath="IBFS:/SSYS/USERS/admin" handle="10001" index="0" name="admin"
        parent="USERS"
        password="$faa2f1da92f72a7d$0901495f1d42962aa242af8aad5c7958a9f86013a1904
        password="$94b192f81526ff9d$e71362964a5c2ef8e7814824dc247c8ee012ea118c1f6
        0402e2467f8ba0e5bcc508c3a8d973ecce0a8738d7445e25dcfb9a96411f6c7af6e6a5fe1
        051ccb669a" policy="///+f////////9//////////+AAAAA" type="User">
      <status _jt="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/>
    </groups _jt="ArrayList" size="0"/>
```

```

    <pSetList _jt="ArrayList" size="0"/>
  </item>
  <item _jt="IBFSUserObject" description="MR admin 1" dummy="false" email=""
    fullPath="IBFS:/SSYS/USERS/mradmin1" handle="10004" index="2" name="mradmin1"
    parent="USERS"
    password="$ed23192360fcc75$6a8e50345185367b57f98b863e55b7e44fc94d10d3a1b
    0b6796774b694321bb57d6af841a30a4bd7f698c1e353db3cefe332e504bc854fe7878d12
    f664cc6cde" policy="///+f////////9//////////+AAAAA" type="User">
    <status _jt="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/>
    <groups _jt="ArrayList" size="0"/>
    <pSetList _jt="ArrayList" size="0"/>
  </item>
  <item _jt="IBFSUserObject" description="MR developer 1" dummy="false" email=""
    82974970e81ee0259ba82cbd3856f01c6f29a14abaf602143b5e79b3f18a4244b9018d911
    5892d363f4" policy="///+f////////9//////////+AAAAA" type="User">
    <status _jt="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/>
    <groups _jt="ArrayList" size="0"/>
    <pSetList _jt="ArrayList" size="0"/>
  </item>
  <item _jt="IBFSUserObject" description="Basic user" dummy="false" email=""
    fullPath="IBFS:/SSYS/USERS/auser" handle="10002" index="1" name="auser"
    parent="USERS"
    fullPath="IBFS:/SSYS/USERS/mrdev1" handle="10005" index="3" name="mrdev1"
    parent="USERS"
    password="$01265ddledf5431e$229e70a1c6068b977b241a63d0357818ac790448cb466
    d9c38e113380c29849f5a803025da486b9d7708025a4dd239d9ca123f458bfc7ff18ea5ae
    732c30a67e" policy="///+f////////9//////////+AAAAA" type="User">
    <status _jt="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/>
    <groups _jt="ArrayList" size="0"/>
    <pSetList _jt="ArrayList" size="0"/>
  </item>
  <item _jt="IBFSUserObject" description="WebFOCUS Public User" dummy="false" email=""
    fullPath="IBFS:/SSYS/USERS/public" handle="10007" index="4" name="public"
    parent="USERS"
    password="$4a4d50e70fc99c07$2306ff856f98e3a01bf3742f29e77a48078fb7447e1e9
    812a940e8f5b1cccb0132beb752de8d2af70ee45531934da6b0f2d1c81bd108af56d12a10
    6cdf8492f" policy="///+f////////9//////////+AAAAA" type="User">
    <status _jt="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/>
    <groups _jt="ArrayList" size="0"/>
    <pSetList _jt="ArrayList" size="1">
    <item _jt="string" index="0" value="WF_Role_Public"/>
    </pSetList>
  </item>

```

```

    <item _jt="IBFSUserObject" description="User and Group administrator"
dummy="false" email=""
    fullPath="/SSYS/USERS/useradmin" handle="10006" index="5"
name="useradmin" parent="USERS"
password="$e7ac6cd796e2c928$569217829f425b3be8686288a648e1102bf5323140f79
b2051c920d59fc3f4cce410da7e49448a7f0efc849af04dfe92cd4ec2b78cdd59551981d9
a1799cd0a3" policy="///+f////////9//////////+AAAAA" type="User">
    <status _jt="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/>
    <groups _jt="ArrayList" size="0"/>
    <pSetList _jt="ArrayList" size="0"/>
</item>
    <item _jt="IBFSUserObject" description="Desktop guest account"
dummy="false" email=""
    fullPath="/SSYS/USERS/wfdesktop" handle="10008" index="6"
name="wfdesktop" parent="USERS"
password="$2d38eaabdf1c9719$d0b1b037587903b60623a1983a8064b626688b0182388
6215b445950752ab90de846c0caa4d0787f66835fbf642c190d040c518e816d99ce06ba50
e5f2485b8a" policy="///+f////////9//////////+AAAAA" type="User">
    <status _jt="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/>
    <groups _jt="ArrayList" size="0"/>
    <pSetList _jt="ArrayList" size="0"/>
</item>
</children>
</rootObject>
</ibfsrpc>

```

各ユーザは、<item> 要素の開始タグと終了タグの間で定義されます。name 属性で、ユーザ ID の名前が定義されます。description 属性で、ユーザのタイトルが定義されます。email 属性で、ユーザの Email アドレスが定義されます。status 要素の name 属性で、ユーザ ID をアクティブにするかどうか定義されます。以下はその例です。

```
<status name="ACTIVE" _jt="IBSSUserStatus" />
```

**注意：** password 属性は、実際の値ではありません。

## グループのリスト表示

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、既存の WebFOCUS グループのリストを取得することができます。

**HTTP メソッド** GET

**REST URL のフォーマット**

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/GROUPS?IBIRS_action=get
```

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。



*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

## 例

次の例では、WebFOCUS グループのリストが取得されます。

## リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/GROUPS?IBIRS_action=get
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="IBIRS_action"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0"
  subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfsparams size="0"/>
  <rootObject _jt="IBFSObject" container="true" description="GROUPS"
dummy="false" fullPath="IBFS:/SSYS/GROUPS" name="GROUPS"
  policy="///+f////////9//////////+AAAAA"
type="WebFOCUSComponent">
  <children _jt="ArrayList" size="6">
    <item _jt="IBFSGroupObject" container="true" description="All
defined users" dummy="false"
      fullPath="IBFS:/SSYS/GROUPS/EVERYONE" handle="10100" index="0"
name="EVERYONE" parent="GROUPS"
      policy="///+f////////9/9////4f//P///+AAAAA" type="Group">
      <users _jt="ArrayList" size="0"/>
    </item>
    <item _jt="IBFSGroupObject" container="true"
description="Administrators" dummy="false"
      fullPath="IBFS:/SSYS/GROUPS/Administrators" handle="10101"
index="1" name="Administrators" parent="GROUPS"
      policy="///+f////////9//////////+AAAAA" type="Group">
      <users _jt="ArrayList" size="0"/>
    </item>
    <item _jt="IBFSGroupObject" container="true" description="Anonymous
Users" dummy="false"
      fullPath="IBFS:/SSYS/GROUPS/Anonymous" handle="10104"
index="2" name="Anonymous" parent="GROUPS"
      policy="///+f////////9//////////+AAAAA" type="Group">
      <users _jt="ArrayList" size="0"/>
    </item>
    <item _jt="IBFSGroupObject" container="true"
```

```

description="Userid/Group Administrators" dummy="false"
  fullPath="IBFS:/SSYS/GROUPS/UserAdmins" handle="10106"
index="3" name="UserAdmins" parent="GROUPS"
  policy="///+f////////9//////////+AAAAA" type="Group">
  <users _jt="ArrayList" size="0"/>
</item>
  <item _jt="IBFSGroupObject" container="true" description="WebFOCUS
Global Roles" dummy="false"
  fullPath="IBFS:/SSYS/GROUPS/WF_Global_Roles" handle="10111"
index="4" name="WF_Global_Roles" parent="GROUPS"
  policy="///+f////////9//////////+AAAAA" type="Group">
  <users _jt="ArrayList" size="0"/>
</item>
  <item _jt="IBFSGroupObject" container="true" description="WebFOCUS
Global Permissions" dummy="false"
  fullPath="IBFS:/SSYS/GROUPS/WF_Global_Permissions"
handle="10116" index="5" name="WF_Global_Permissions"
parent="GROUPS" policy="///+f////////9//////////+AAAAA" type="Group">
  <users _jt="ArrayList" size="0"/>
</item>
</children>
</rootObject>
</ibfsrpc>

```

各グループは、<item> 要素の開始タグと終了タグの間で定義されます。name 属性で、グループの名前が定義されます。description 属性で、グループのタイトルが定義されます。

## 権限のリスト表示

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、有効な WebFOCUS 権限のリストを取得することができます。

**HTTP メソッド** GET

**REST URL のフォーマット**

`http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs?IBIRS_action=privileges`

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

**レスポンス**

権限のリストは、XML レスポンスドキュメントで返されます。各権限は、<item> 要素のタグ内で定義されます。

```
<item type="Privilege" name="PrivilegeName" dummy="false"
description="PrivilegeDesc" subsysNameList="Subsystem"
parent="PRIVILEGES" ordinal="159" index="159"/>
```

### 説明

#### *PrivilegeName*

権限の名前です。

#### *PrivilegeDesc*

権限の説明です。

#### *Subsystem*

権限が適用されるサブシステムです。

### 例

次の例では、WebFOCUS 権限のリストが取得されます。

### リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs?IBIRS_action=privileges
```

### レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="privileges"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0"
  subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfsparams size="0"/>
  <rootObject _jt="IBFSObject" container="true" description="PRIVILEGES"
dummy="true" name="PRIVILEGES" type="unknownType">
    <children _jt="ArrayList" size="180">
      <item description="InfoAssist Personal" dummy="false" index="159"
name="opInfoAssistPersonal" ordinal="159" parent="PRIVILEGES"
subsysNameList="Session" type="Privilege"/>
    </children>
  </rootObject>
</ibfsrpc>
```

このサンプルのレスポンスドキュメントでは、権限名は `opInfoAssistPersonal`、説明は `InfoAssist Personal` です。この権限は、`Session` サブシステムに適用されます。

### ロールのリスト表示

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、有効な WebFOCUS ロールのリストを取得することができます。

#### HTTP メソッド GET

## REST URL のフォーマット

`http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/ROLES?IBIRS_action=get`

### 説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

### 例

次の例では、WebFOCUS ロールのリストが取得されます。

### リクエスト

`http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/ROLES?IBIRS_action=get`

### レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="get"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS"
type="simple">
  <ibfsparams size="2">
    <entry key="IBIRS_args" value="__null"/>
    <entry key="IBIRS_" value="/SSYS/ROLES"/>
  </ibfsparams>
  <rootObject _jt="IBFSObject" container="true" description="ROLES"
dummy="false" fullPath="IBFS:/SSYS/ROLES" name="ROLES"
  policy="///D///9+f/////f/////////8AAAA=" rsPath="/
ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/ROLES" type="WebFOCUSComponent">
    <children _jt="ArrayList" size="76">
      <item _jt="IBFSPermissionSetObject" description="Full control or
all privileges" dummy="false"
fullPath="IBFS:/SSYS/ROLES/SystemFullControl" handle="10301"
index="0" name="SystemFullControl" parent="ROLES"
policy="///D///9+f/////f/////7+/8AAAA=" rsPath="/
ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/ROLES/SystemFullControl" showPermissions="false"
subsysNameList="*" type="PermissionSet">
```

```

    <pSet _jt="IBSSPermissionSet" compLvl="1" description="Full
control or all privileges" id="10301" name="SystemFullControl"
shipped="true">
    <policy _jt="IBSSPolicy" derivedDate="1349171464497">
    <policy _jt="EnumMap" _keyJT="IBSSOperation" size="152">
    <entry>
    <key _jt="IBSSOperation" name="opViewPortal"/>
    <value _jt="IBSSVerb" name="OVERPERMIT"/>
    </entry>
    <entry>
    <key _jt="IBSSOperation" name="opList"/>
    <value _jt="IBSSVerb" name="OVERPERMIT"/>
    </entry>
    <entry>
    <key _jt="IBSSOperation" name="opViewProps"/>
    <value _jt="IBSSVerb" name="OVERPERMIT"/>
    </entry>
    <entry>
    <key _jt="IBSSOperation"
name="opDisplayVersionInfo"/>
    <value _jt="IBSSVerb" name="OVERPERMIT"/>
    </entry>
    .
    .
    <entry>
    <key _jt="IBSSOperation"
name="opInfoAssistPersonal"/>
    <value _jt="IBSSVerb" name="OVERPERMIT"/>
    </entry>
    </policy>
    </policy>
    <subsysList _jt="ArrayList" size="3">
    <item _jt="IBFSSubsystem" index="0" name="ROOT"/>
    <item _jt="IBFSSubsystem" index="1" name="WFC"/>
    <item _jt="IBFSSubsystem" index="2" name="BIP"/>
    </subsysList>
    </pSet>
  </item>
</children>
</rootObject>
</ibfsrpc>

```

## グループ内のユーザのリスト表示

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、特定のグループに属する現在の WebFOCUS ユーザのリストを取得することができます。

**HTTP メソッド** GET

**REST URL** のフォーマット

---

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/GROUPS/Group?IBIRS_action=get&IBIRS_args=
<object _jt="HashMap">
  <entry>
    <key _jt="string" value="TYPE"/>
    <value _jt="string" value="USERS"/>
  </entry>
</object>
```

## 説明

`host`

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

`port`

WebFOCUS が使用するポート番号です。

`Group`

グループの名前です。

## 例

次の例では、Administrators グループ内の WebFOCUS ユーザのリストが取得されます。

## リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/GROUPS/Administrators?
IBIRS_action=get&IBIRS_args=
<object _jt="HashMap">
  <entry>
    <key _jt="string" value="TYPE"/>
    <value _jt="string" value="USERS"/>
  </entry>
</object>
```

## レスポンス

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSresponseObject" language="EN" name="get" returncode="10000"
returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS"
  type="simple">
  <ibfsparams size="2">
    <entry key="IBIRS_args" value="&lt;object
_jt=&quot;HashMap&quot;&gt;&lt;entry&gt;&lt;key _jt=&quot;string&quot;
  value=&quot;TYPE&quot;/&gt;&lt;value _jt=&quot;string&quot;
value=&quot;USERS&quot;/&gt;&lt;/entry&gt;&lt;/object&gt;"/>
    <entry key="IBIRS_" value="/SSYS/GROUPS/Administrators"/>
  </ibfsparams>
  <rootObject _jt="IBFSGroupObject" container="true" description="Administrators"
dummy="false"
    fullPath="/IBFS:/SSYS/GROUPS/Administrators" name="Administrators"
policy="////D//9+P////v////////+AAAA="
    rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/GROUPS/Administrators" type="Group">
    <children _jt="ArrayList" size="4">
      <item _jt="IBFSUserObject" description="Administrator" dummy="false"
email="restadmin@informationbuilders.com"
        fullPath="IBFS:/SSYS/USERS/admin" handle="10001" index="0" name="admin"
parent="Administrators"
          policy="////D//9+P////v////////+AAAA=" rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/
USERS/admin" type="User">
          <status _jt="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/>
          <groups _jt="ArrayList" size="0"/>
          <pSetList _jt="ArrayList" size="0"/>
        </item>
      <item _jt="IBFSUserObject" description="MR admin 1" dummy="false" email=" "
fullPath="IBFS:/SSYS/USERS/mradmin1"
        handle="10004" index="1" name="mradmin1" parent="Administrators"
policy="////D//9+P////v////////+AAAA="
          rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/USERS/mradmin1" type="User">
          <status _jt="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/>
          <groups _jt="ArrayList" size="0"/>
          <pSetList _jt="ArrayList" size="0"/>
        </item>
      <item _jt="IBFSUserObject" description="Rest Userid" dummy="false"
email="restid@informationbuilders.com"
        fullPath="IBFS:/SSYS/USERS/restid77" handle="222102528" index="2"
name="restid" nameSpace="DB" parent="Administrators"
          policy="////D//9+P////v////////+AAAA="
          rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/USERS/restid77" type="User">
          <status _jt="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/>
          <groups _jt="ArrayList" size="0"/>
          <pSetList _jt="ArrayList" size="0"/>
        </item>
    </children>
    <users _jt="ArrayList" size="0"/>
  </rootObject>
</ibfsrpc>

```

---

各ユーザは、<item> 要素の開始タグと終了タグの間で定義されます。name 属性で、ユーザの名前が定義されます。description 属性で、ユーザのタイトルが定義されます。

## ユーザの追加および更新

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、WebFOCUS にユーザを追加、またはユーザを更新することができます。

### HTTP メソッド POST

### REST URL のフォーマット

`http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/USERS/Userid`

#### 説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*Userid*

追加するユーザ ID の名前です。

### 本文のフォーマット

`IBIRS_action=put&IBIRS_object=Object&IBIRS_replace=ReplaceUseridProperties`

#### 説明

*Object*

次のフォーマットでユーザの属性を定義する XML オブジェクトです。

```
<object _jt="IBFSUserObject" description="UseridTitle"
email="EmailAddress"
  password="Password" type="User" primaryGroupPath="IBFS:/SSYS/GROUPS/
groupName"><status _jt="IBSSUserStatus" name="Status"/></object>
```

#### 説明

*UseridTitle*

ユーザのタイトルです。タイトルにアンパサンド (&) を含む場合は、その文字を「&amp;」のようにエンコードする必要があります。

*EmailAddress*

ユーザの Email アドレスです。



*Password*

ユーザ ID に割り当てるパスワードです。

*groupName*

このユーザが属するプライマリグループです。

*Status*

追加するユーザ ID をアクティブにするか、非アクティブにするかを指定するステータスです。ユーザ ID を追加または更新する際に、ログイン時にパスワードの変更を要求するステータスに設定することもできます。ユーザがログインすると、ステータスはアクティブに変更されます。次の有効値のいずれかを選択します。

- ACTIVE
- INACTIVE
- MUSTCHANGE

*Replaceuseridproperties*

ユーザ ID のプロパティを更新可能にするかどうかを指定する、オプションのプロパティです。以下はプロパティの例です。

- Email アドレス
- パスワード
- ユーザ ID のタイトル

true (デフォルト) または false を選択します。

**例**

次の例では、「restid」というユーザ ID が追加されます。ユーザのタイトルは「Rest Userid」です。ユーザの Email アドレスは restid@informationbuilders.com です。ユーザのパスワードは rest です。ユーザのステータスは ACTIVE です。

**リクエスト**

[http://localhost:8080/ibi\\_apps/rs/ibfs/SSYS/USERS/restid](http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/USERS/restid)

**本文**

```
IBIRS_action=put&IBIRS_object=<object _jt="IBFSUserObject"
description="Rest Userid" email="restid@informationbuilders.com"
  password="rest" type="User"><status _jt="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/></
object>
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="IBIRS_action"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0"
    subsystem="SSYS" type="simple">
    <ibfparams size="0"/>
    <rootObject _jt="IBFSUserObject" description="Rest Userid" dummy="false"
email="restid@informationbuilders.com"
        fullPath="/SSYS/USERS/restid" name="restid" password="rest"
policy="///+f/////9//////////+AAAAA" type="User">
        <status _jt="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/>
        <groups _jt="ArrayList" size="0"/>
    </rootObject>
</ibfsrpc>
```

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、ユーザは正しく追加されています。

## ユーザの削除

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、ユーザ ID を削除することができます。

### HTTP メソッド DELETE

### REST URL のフォーマット

```
http://host:port/ibi\_apps/rs/ibfs/SSYS/USERS/Userid?IBIRS\_action=delete
```

#### 説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*Userid*

削除するユーザ ID の名前です。

#### 例

次の例では、「restid」というユーザ ID が削除されます。

#### リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi\_apps/rs/ibfs/SSYS/USERS/restid?IBIRS\_action=delete
```

#### レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="IBIRS_action" returncode="10000"
returndesc="SUCCESS" subreturncode="0"
  subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfparams size="0"/>
  <rootObject _jt="IBFSUserObject" description="Rest Userid" dummy="false"
email="restid@informationbuilders.com"
  fullPath="IBFS:/SSYS/USERS/restid" name="restid" nameSpace="DB"
password="$c35587264cbbbe38$ce25f3b448103e2031ee0b943bf8fd031b7bac26e1e05
91da4bb7105d2672f206de9eb7b39d4fb83eb6a01a0faea2ff1ec2ccaa70103f7723c89d0d426098c32"
  policy="///+f////////9//////////+AAAAA" type="User">
  <status _jt="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/>
  <groups _jt="ArrayList" size="0"/>
  <pSetList _jt="ArrayList" size="0"/>
</rootObject>
</ibfsrpc>
```

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、ユーザ ID は正しく削除されています。

## グループの追加および更新

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、WebFOCUS にグループを追加、またはグループを更新することができます。

**HTTP メソッド** POST

**REST URL のフォーマット**

[http://host:port/ibi\\_apps/rs/ibfs/SSYS/GROUPS/Group](http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/GROUPS/Group)

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*Group*

追加するグループの名前です。

**本文のフォーマット**

[IBIRS\\_action=put&IBIRS\\_object=Object&IBIRS\\_replace=ReplaceGroupProperties](#)

説明

*Object*

次のフォーマットでグループの属性を定義する XML オブジェクトです。

```
<object _jt="IBFSGroupObject" container="true" description="GroupTitle" type="Group"></object>
```

## 説明

### *GroupTitle*

グループのタイトルです。

### *ReplaceGroupProperties*

グループのプロパティを更新可能にするかどうかを指定する、オプションのプロパティです。

true (デフォルト) または false を選択します。

## 例

次の例では、「RestUsers」というグループが追加されます。グループのタイトルは「RESTful Web Services Users」です。

## リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/GROUPS/RestUsers
```

## 本文

```
IBIRS_action=put&IBIRS_object=  
<object _jt="IBFSGroupObject" container="true" description="RESTful Web  
Services Users" type="Group"></object>
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>  
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="IBIRS_action"  
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0"  
subsystem="SSYS" type="simple">  
<ibfsparams size="0"/>  
<rootObject _jt="IBFSGroupObject" container="true" description="RESTful  
Web Services Users" dummy="false"  
fullPath="/SSYS/GROUPS/RestUsers" name="RestUsers" policy="///  
+f////////9//////////+AAAAA" type="Group">  
<users _jt="ArrayList" size="0"/>  
</rootObject>  
</ibfsrpc>
```

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、グループは正しく追加されています。

## グループの削除

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、グループを削除することができます。

**HTTP メソッド DELETE****REST URL のフォーマット**

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/GROUPS/Group?IBIRS_action=delete
```

**説明**

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*Group*

削除するグループの名前です。

**例**

次の例では、「RestUsers」というグループが削除されます。

**リクエスト**

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/GROUPS/RestUsers?
IBIRS_action=delete
```

**レスポンス**

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="IBIRS_action"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0"
  subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfsparams size="0"/>
  <rootObject _jt="IBFSGroupObject" container="true" description="RESTful
Web Services Users" dummy="false"
    fullPath="IBFS:/SSYS/GROUPS/RestUsers" name="RestUsers"
type="Group">
    <users _jt="ArrayList" size="0"/>
  </rootObject>
</ibfsrpc>
```

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、グループは正しく削除されています。

**グループへのユーザの追加**

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、グループにユーザを追加することができます。

**HTTP メソッド POST**

## REST URL のフォーマット

`http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/USERS/UserId`

### 説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*UserId*

グループに追加するユーザ ID の名前です。

## 本文のフォーマット

`IBIRS_action=addUserToGroup&IBIRS_groupPath=GroupPaths`

### 説明

*GroupPaths*

ユーザ ID を追加するグループのパスです。以下はその例です。

`/SSYS/GROUPS/group1;/SSYS/GROUPS/group2`

## 例

次の例では、RestUsers グループに「restid」というユーザ ID が追加されます。

### リクエスト

`http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/USERS/restid`

### 本文

`IBIRS_action=addUserToGroup&IBIRS_groupPath=/SSYS/GROUPS/RestUsers`

### レスポンス

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="IBIRS_action"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0"
  subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfsparams size="0"/>
  <rootObject _jt="IBFSUserObject" description="Rest Userid" dummy="false"
email="restid@informationbuilders.com"
  fullPath="IBFS:/SSYS/USERS/restid" handle="739804165"
name="restid" nameSpace="DB"
password="$c35587264cbbbe38$ce25f3b448103e2031ee0b943bf8fd031b7b
ac26e1e0591da4bb7105d2672f206de9eb7b39d4
fb83eb6a01a0faea2ff1ec2ccaa70103f7723c89d0d426098c32"
policy="////+f////////9//////////+AAAAA" type="User">
  <status _jt="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/>
  <groups _jt="ArrayList" size="2">
    <item _jt="IBFSGroupObject" container="true" description="RESTful
Web Services Users" dummy="false"
  fullPath="IBFS:/SSYS/GROUPS/RestUsers" handle="1113254912"
index="0" name="RestUsers" type="Group">
    <users _jt="ArrayList" size="0"/>
  </item>
    <item _jt="IBFSGroupObject" container="true" description="All
defined users" dummy="false"
  fullPath="IBFS:/SSYS/GROUPS/EVERYONE" handle="10100"
index="1" name="EVERYONE" type="Group">
    <users _jt="ArrayList" size="0"/>
  </item>
  </groups>
  <pSetList _jt="ArrayList" size="0"/>
</rootObject>
</ibfsrpc>

```

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、ユーザ ID はグループに正しく追加されています。

## グループからのユーザの削除

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、グループからユーザを削除することができます。

**HTTP メソッド** POST

**REST URL のフォーマット**

`http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/USERS/Userid`

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*Userid*

グループから削除するユーザ ID の名前です。

## 本文のフォーマット

*IBIRS\_action=removeUserFromGroup&IBIRS\_groupPath=GroupPaths*

説明

*GroupPaths*

ユーザ ID を削除するグループのパスです。以下はその例です。

*/SSYS/GROUPS/group1;/SSYS/GROUPS/group2*

## 例

次の例では、RestUsers グループから「restid」というユーザ ID が削除されます。

## リクエスト

[http://localhost:8080/ibi\\_apps/rs/ibfs/SSYS/USERS/restid](http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/USERS/restid)

## 本文

*IBIRS\_action=removeUserFromGroup&IBIRS\_groupPath=/SSYS/GROUPS/RestUsers*

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="IBIRS_action" returncode="10000"
returndesc="SUCCESS" subreturncode="0"
  subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfsparams size="0"/>
  <rootObject _jt="IBFSUserObject" description="Rest Userid" dummy="false"
email="restid@informationbuilders.com"
  fullPath="IBFS:/SSYS/USERS/restid" handle="739804165" name="restid"
nameSpace="DB"
password="$c35587264cbbbe38$ce25f3b448103e2031ee0b943bf8fd031b7bac26e1e05
91da4bb7105d2672f206de9eb7b39d4fb83eb6a01a0faea2ff1ec2ccaa70103f7723c89d0d426098c32"
type="User">
  <status _jt="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/>
  <groups _jt="ArrayList" size="1">
    <item _jt="IBFSGroupObject" container="true" description="All defined users"
dummy="false">
```



```

        fullPath="IBFS:/SSYS/GROUPS/EVERYONE" handle="10100" index="0"
name="EVERYONE" type="Group">
    <users _jt="ArrayList" size="0"/>
    </item>
</groups>
    <pSetList _jt="ArrayList" size="0"/>
</rootObject>
</ibfsrpc>

```

XML レスポンスの `returncode` 属性値が 10000 の場合、ユーザ ID はグループから正しく削除されています。

## ロールの追加

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、ロールを追加し、そのロールに関連付ける権限を定義することができます。

**HTTP メソッド** POST

**REST URL のフォーマット**

`http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/ROLES/Role`

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*Role*

追加するロールの名前です。

**本文のフォーマット**

`IBIRS_action=put&IBIRS_object=Object`

説明

*Object*

ロールに関連付ける権限を定義する XML オブジェクトです。

この XML オブジェクトは、次の構造で定義されます。

```
<object _jt="IBFSPermissionSetObject" description="RoleDescription"
showPermissions="true"
  subsysNameList="Subsystem" type="PermissionSet">
  <pSet _jt="IBSSPermissionSet" compLvl="100" shipped="true">
    <policy _jt="IBSSPolicy">
      <policy _jt="EnumMap" _keyJT="IBSSOperation">
        <entry>
          <key _jt="IBSSOperation" name="Privilege1"/>
          <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
        </entry>
        <entry>
          <key _jt="IBSSOperation" name="Privilege2"/>
          <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
        </entry>
      </policy>
    </policy>
    <subsysList _jt="ArrayList">
      <item _jt="IBFSSubsystem" index="0" name="Subsystem"/>
    </subsysList>
  </pSet>
</object>
```

## 説明

### *RoleDescription*

ロールの説明です。

### *Subsystem*

ロールに関連付けるサブシステムです。有効な値は次のとおりです。

- Session
- WFC
- BIP
- EDA
- USERS
- GROUPS
- ROLES
- FILE
- WEB

*PrivilegeN*

ロールに関連付ける権限の名前です。各権限は、<entry> 要素の開始タグと終了タグの間で割り当てます。有効な権限のリストについては、138 ページの「[権限のリスト表示](#)」を参照してください。

**例**

次の例では、「LibraryCustom」というロールが追加されます。ロールの説明は「Library Privilege - Custom」です。ロールが関連付けられたサブシステムは WFC です。このロールに割り当てられた権限は、opLibrary、opList、opDisplayVersionInfo、opRCExplorer、opPortalAccess、opBidRunTime です。

**リクエスト**

[http://localhost:8080/ibi\\_apps/rs/ibfs/SSYS/ROLES/LibraryCustom](http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/ROLES/LibraryCustom)

**本文**

```
IBIRS_action=put&object=<object _jt="IBFSPermissionSetObject" description="Library
Privilege - Custom" showPermissions="true" subsystemNameList="WFC" type="PermissionSet">
<pSet _jt="IBSSPermissionSet" compLvl="100" shipped="true">
  <policy _jt="IBSSPolicy">
    <policy _jt="EnumMap" _keyJT="IBSSOperation">
      <entry>
        <key _jt="IBSSOperation" name="opLibrary"/>
        <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="IBSSOperation" name="opList"/>
        <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
      </entry>
    </policy>
  </pSet>
</object>
```

```

</entry>
<entry>
  <key _jt="IBSSOperation" name="opDisplayVersionInfo"/>
  <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
</entry>
<entry>
  <key _jt="IBSSOperation" name="opRCEExplorer"/>
  <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
</entry>
<entry>
  <key _jt="IBSSOperation" name="opPortalAccess"/>
  <value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/>
</entry>
<entry>
  <key _jt="IBSSOperation" name="opBidRunTime"/>
  <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
</entry>
</policy>
</pSet>
</object>
<subsysList _jt="ArrayList"><item _jt="IBFSSubsystem" index="0" name="WFC"/></
subsysList>
</pSet>
</object>

```

## レスポンス

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="put"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0"
  subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfsparams size="5">
    <entry key="IBIRS_replace" value="true"/>
    <entry key="IBIRS_private" value="__null"/>
    <entry key="IBIRS_object" value="&lt;object
_jt=&quot;IBFSPermissionSetObject&quot;; description=&quot;Library Privilege
- Custom&quot;;
      showPermissions=&quot;true&quot;;
subsysNameList=&quot;WFC&quot;; type=&quot;PermissionSet&quot;;&gt;
      &lt;pSet _jt=&quot;IBSSPermissionSet&quot;; compLvl=&quot;
100&quot;; shipped=&quot;true&quot;;&gt;
      &lt;policy _jt=&quot;IBSSPolicy&quot;;&gt; &lt;policy
_jt=&quot;EnumMap&quot;; _keyJT=&quot;IBSSOperation&quot;;&gt;
      &lt;entry&gt;&lt;key _jt=&quot;IBSSOperation&quot;;
name=&quot;opLibrary&quot;/&gt; &lt;value _jt=&quot;IBSSVerb&quot;;
      name=&quot;PERMIT&quot;/&gt; &lt;/entry&gt;
&lt;entry&gt;&lt;key _jt=&quot;IBSSOperation&quot;;

```

```

        name=&quot;opList&quot;/&gt; &lt;/value
    _jt=&quot;IBSSVerb&quot; name=&quot;PERMIT&quot;/&gt; &lt;/entry&gt;
        &lt;/entry&gt;&lt;key _jt=&quot;IBSSOperation&quot;
name=&quot;opDisplayVersionInfo&quot;/&gt;
        &lt;/value _jt=&quot;IBSSVerb&quot; name=&quot;PERMIT&quot;/
&gt; &lt;/entry&gt;
        &lt;/entry&gt;&lt;key _jt=&quot;IBSSOperation&quot;
name=&quot;opRCEExplorer&quot;/&gt; &lt;/value _jt=&quot;IBSSVerb&quot;
name=&quot;PERMIT&quot;/&gt; &lt;/entry&gt;
&lt;/entry&gt;&lt;key _jt=&quot;IBSSOperation&quot;
name=&quot;opPortalAccess&quot;/&gt; &lt;/value
_jt=&quot;IBSSVerb&quot; name=&quot;DENY&quot;/&gt; &lt;/entry&gt;
        &lt;/entry&gt;&lt;key _jt=&quot;IBSSOperation&quot;
name=&quot;opBidRunTime&quot;/&gt; &lt;/value _jt=&quot;IBSSVerb&quot;
name=&quot;PERMIT&quot;/&gt; &lt;/entry&gt; &lt;/
policy&gt; &lt;/policy&gt;
        &lt;/subsysList _jt=&quot;ArrayList&quot;&gt;&lt;/item
_jt=&quot;IBFSSubsystem&quot; index=&quot;0&quot;
name=&quot;WFC&quot;/&gt;&lt;/subsysList&gt; &lt;/pSet&gt;
&lt;/object&gt; "/>
    <entry key="IBIRS_args" value="__null"/>
    <entry key="IBIRS_" value="/SSYS/ROLES/LibraryCustom"/>
</ibfsparams>
    <rootObject _jt="IBFSPermissionSetObject" description="Library Privilege
- Custom" dummy="false" fullPath="IBFS:/SSYS/ROLES/LibraryCustom"
name="LibraryCustom" policy="//D///9+f/////f/////////
8AAAA=" rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/ROLES/LibraryCustom"
showPermissions="false" subsysNameList="WFC"
type="PermissionSet">
    <pSet _jt="IBSSPermissionSet" compLvl="100" description="Library
Privilege - Custom" name="LibraryCustom" shipped="false">
        <policy _jt="IBSSPolicy" derivedDate="1349168261272">
            <policy _jt="EnumMap" _keyJT="IBSSOperation" size="3">
                <entry>
                    <key _jt="IBSSOperation" name="opLibrary"/>
                    <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
                </entry>
                <entry>
                    <key _jt="IBSSOperation" name="opList"/>
                    <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
                </entry>
                <entry>
                    <key _jt="IBSSOperation" name="opRCEExplorer"/>
                    <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
                </entry>
            </policy>
        </policy>
        <subsysList _jt="ArrayList" size="1">
            <item _jt="IBFSSubsystem" index="0" name="WFC"/>
        </subsysList>
    </pSet>
</rootObject>
</ibfsrpc>

```

---

XML レスポンスの `returncode` 属性値が 10000 の場合、ロールは正しく追加されています。

## ロールの削除

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、ロールを削除することができます。

**HTTP メソッド** DELETE

**REST URL のフォーマット**

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/ROLES/Role?IBIRS_action=delete
```

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*Role*

削除するロールの名前です。

**例**

次の例では、「LibraryCustom」というロールが削除されます。

**リクエスト**

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/ROLES/LibraryCustom?IBIRS_action=delete
```

**レスポンス**

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="delete"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0"
  subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfsparams size="2">
    <entry key="IBIRS_args" value="__null"/>
    <entry key="IBIRS_" value="/SSYS/ROLES/LibraryCustom"/>
  </ibfsparams>
  <rootObject _jt="IBFSPermissionSetObject" description="Library Privilege
- Custom" dummy="false"
    fullPath="/IBFS:/SSYS/ROLES/LibraryCustom" handle="381089792"
name="LibraryCustom"
    policy="////D///9+f/////f/////////8AAAA=" rsPath="/
ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/ROLES/LibraryCustom"
    showPermissions="false" subsystemNameList="WFC"
type="PermissionSet">
    <pSet _jt="IBSSPermissionSet" compLvl="100" description="Library
Privilege - Custom" id="381089792"
      name="LibraryCustom" shipped="false">
      <policy _jt="IBSSPolicy" derivedDate="1349173489158">
        <policy _jt="EnumMap" _keyJT="IBSSOperation" size="3">
          <entry>
            <key _jt="IBSSOperation" name="opLibrary"/>
            <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
          </entry>
          <entry>
            <key _jt="IBSSOperation" name="opList"/>
            <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
          </entry>
          <entry>
            <key _jt="IBSSOperation" name="opRCExplorer"/>
            <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
          </entry>
        </policy>
      </policy>
      <subsysList _jt="ArrayList" size="1">
        <item _jt="IBFSSubsystem" index="0" name="WFC"/>
      </subsysList>
    </pSet>
  </rootObject>
</ibfsrpc>

```

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、ロールは正しく削除されています。

## ルールの追加

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、特定の項目にルールを適用することができます。

**HTTP メソッド** POST

**REST URL のフォーマット**

---

`http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/ItemToBeRestricted`

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*ItemToBeRestricted*

制限を適用する項目のパスです。以下はその例です。

`/WFC/Repository/ParentFolder/FolderName`

### 本文のフォーマット

`IBIRS_action=addRule&IBIRS_path=ItemToBeRestricted&IBIRS_subjectPath=GroupUser &IBIRS_verb=RestrictType&IBIRS_role=Role&IBIRS_applyTo=FolderChildren`

説明

*ItemToBeRestricted*

制限を適用する項目のパスです。以下はその例です。

`/WFC/Repository/ParentFolder/FolderName`

*GroupUser*

特定のロールを適用するグループまたはユーザ ID のパスです。以下はその例です。

`/SSYS/GROUPS/group1;/SSYS/GROUPS/group2`

*RestrictType*

特定のロールに適用可能な制限タイプのいずれかです。次の制限タイプがあります。

- NOT\_SET
- PERMIT
- DENY
- UNPERMIT
- UNDENY
- OVERPERMIT



**❑ CLEARINHERITANCE***Role*

GroupUser に適用する特定のロールです。たとえば、List、Run、ListAndRun があります。

*FolderChildren*

ルールを ItemToBeRestricted で指定した項目のみに適用するか、ItemToBeRestricted の項目とその下位の項目に適用するか、その下位の項目のみに適用するかを指定します。有効な値は次のとおりです。

**❑ FOLDER\_AND\_CHILDREN****❑ FOLDER\_ONLY****❑ CHILDREN\_ONLY**

たとえば、FOLDER\_AND\_CHILDREN を使用すると、ルールが特定のフォルダとそのサブフォルダに適用されます。

**例**

次の例では、Financial\_Reports フォルダ下の Quarterly フォルダおよびその下位フォルダで、ユーザ ID (restid) に対して項目のリスト表示と実行を許可するルールが追加されます。

**POST リクエスト**

[http://localhost:8080/ibi\\_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/Financial\\_Reports/Quarterly](http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/Financial_Reports/Quarterly)

**本文**

```
IBIRS_action=addRule&IBIRS_path=/WFC/Repository/Financial_Reports/Quarterly&IBIRS_subjectPath=/SSYS/USERS/restid&IBIRS_verb=PERMIT&IBIRS_role=ListAndRun&IBIRS_applyTo=FOLDER_AND_CHILDREN
```

**レスポンス**

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="addRule"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS"
type="simple">
  <ibfsparams size="5">
    <entry key="IBIRS_verb" value="PERMIT"/>
    <entry key="IBIRS_role" value="ListAndRun"/>
    <entry key="IBIRS_applyTo" value="FOLDER_AND_CHILDREN"/>
    <entry key="IBIRS_subjectPath" value="/SSYS/USERS/restid"/>
    <entry key="IBIRS_" value="/WFC/Repository/Financial_Reports/Quarterly"/>
  </ibfsparams>
  <rootObject _jt="IBFSPermissionSetObject" description="List and run
content" dummy="false" fullPath="IBFS://SSYS/ROLES/ListAndRun"
handle="10330"
  name="ListAndRun" policy="////D///9+f/////f////////8AAAA=" rsPath="/
ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/ROLES/ListAndRun" showPermissions="false"
  subsystemNameList="WFC" type="PermissionSet">
    <pSet _jt="IBSSPermissionSet" compLvl="0" description="List and run
content" id="10330" name="ListAndRun" shipped="true">
      <policy _jt="IBSSPolicy" derivedDate="1348174711335">
        <policy _jt="EnumMap" _keyJT="IBSSOperation" size="2">
          <entry>
            <key _jt="IBSSOperation" name="opList"/>
            <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
          </entry>
          <entry>
            <key _jt="IBSSOperation" name="opRun"/>
            <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
          </entry>
        </policy>
      </policy>
      <subsysList _jt="ArrayList" size="1">
        <item _jt="IBFSSubsystem" index="0" name="WFC"/>
      </subsysList>
    </pSet>
  </rootObject>
</ibfsrpc>

```

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、ルールは正しく作成されています。

## ルールの削除

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、ルールを削除することができます。

**HTTP メソッド** POST

**REST URL のフォーマット**

*http://host:port/ibi\_apps/rs/ibfs/ItemRestricted*

**説明***host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*ItemRestricted*

制限を適用する項目のパスです。以下はその例です。

```
/WFC/Repository/ParentFolder/FolderName
```

**本文のフォーマット**

```
IBIRS_action=removeRule&IBIRS_path=ItemRestricted&IBIRS_subjectPath=GroupUser
&
IBIRS_role=Role
```

**説明***ItemRestricted*

制限を適用する項目のパスです。以下はその例です。

```
/WFC/Repository/ParentFolder/FolderName
```

*GroupUser*

特定のロールが適用されたグループまたはユーザ ID のパスです。以下はその例です。

```
/SSYS/USERS/userid
```

*Role*

GroupUser に適用された特定のロールです。たとえば、List、Run、ListAndRun があります。

**例**

次の例では、Financial\_Reports フォルダ下の Quarterly フォルダで、ユーザ ID (restid) に対して項目のリスト表示と実行を許可するルールが削除されます。

**POST リクエスト**

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/Financial_Reports/Quarterly
```

**本文**

```
IBIRS_action=removeRule&IBIRS_path=/WFC/Repository/Financial_Reports/Quarterly
&IBIRS_subjectPath=/SSYS/USERS/restid&IBIRS_role=ListAndRun
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="removeRule"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0"
  subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfsparams size="3">
    <entry key="IBIRS_role" value="ListAndRun"/>
    <entry key="IBIRS_subjectPath" value="/SSYS/USERS/restid"/>
    <entry key="IBIRS_" value="/WFC/Repository/Financial_Reports/
Quarterly"/>
  </ibfsparams>
  <rootObject _jt="IBFSPermissionSetObject" description="List and run
content" dummy="false" fullPath="IBFS:/SSYS/ROLES/ListAndRun"
  handle="10330" name="ListAndRun" policy="////D///9+f/////
f/////////8AAAA="
  rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/ROLES/ListAndRun"
showPermissions="false" subsystemNameList="WFC" type="PermissionSet">
  <pSet _jt="IBSSPermissionSet" compLvl="0" description="List and run
content" id="10330" name="ListAndRun" shipped="true">
    <policy _jt="IBSSPolicy" derivedDate="1349182611014">
      <policy _jt="EnumMap" _keyJT="IBSSOperation" size="2">
        <entry>
          <key _jt="IBSSOperation" name="opList"/>
          <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
        </entry>
        <entry>
          <key _jt="IBSSOperation" name="opRun"/>
          <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
        </entry>
      </policy>
    </policy>
  </pSet>
  <subsysList _jt="ArrayList" size="1">
    <item _jt="IBFSSubsystem" index="0" name="WFC"/>
  </subsysList>
</rootObject>
</ibfsrpc>
```

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、ルールは正しく削除されています。

## グループまたはユーザに適用されたルールの一覧表示

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、特定のグループまたはユーザに適用されているルールの一覧を取得することができます。

**HTTP メソッド** POST

**REST URL のフォーマット**

[http://host:port/ibi\\_apps/rs/ibfs/GroupUser](http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/GroupUser)

## 説明

### *host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

### *port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

### *GroupUser*

特定のグループまたはユーザ ID のパスです。以下はその例です。

```
/SSYS/USERS/userid
```

## 本文のフォーマット

```
IBIRS_action=listRulesForSubject
```

## 例

次の例では、「restid」というユーザ ID に適用されているルールが返されます。

## POST リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/restid
```

## 本文

```
IBIRS_action=listRulesForSubject
```

## レスポンス

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="listRulesForSubject"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS"
type="simple">
  <ibfsparams size="1">
    <entry key="IBIRS_path" value="/SSYS/USERS/restid"/>
  </ibfsparams>
  <rootObject _jt="IBFSObject" container="true" description="Rules for
User:restid" dummy="false" fullPath="NO PATH/RulesList" name="RulesList"
type="IBFSFolder">
    <children _jt="ArrayList" size="1">
      <item _jt="IBFSRuleObject" compLvl="0" dummy="false" index="0"
pSetName="ListAndRun" parent="RulesList" resPathName="IBFS:/WFC/Repository/
Financial_Reports/Quarterly" subject="restid" subjectType="U" type="Rule">
        <verb _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
        <applyTo name="FOLDER_AND_CHILDREN"/>
      </item>
    </children>
  </rootObject>
</ibfsrpc>

```

---

XML レスポンスの `returncode` 属性値が 10000 の場合、ルールは正しく返されています。

## リソースに適用されたルールのリスト表示

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、特定のリソースに適用されているルールのリストを取得することができます。

**HTTP メソッド** POST

**REST URL のフォーマット**

`http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/Resource`

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*Resource*

特定のリソースのパスです。以下はその例です。

`/WFC/Repository/ParentFolder/FolderName`

**本文のフォーマット**

`IBIRS_action=listRulesForResource`

**例**

次の例では、`Financial_Reports` フォルダ下の `Quarterly` フォルダに適用されているルールのリストが返されます。

**POST リクエスト**

`http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/Financial_Reports/Quarterly`

**本文**

`IBIRS_action=listRulesForResource`

**レスポンス**

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="listRulesForResource"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS"
type="simple">
  <ibfsparams size="1">
    <entry key="IBIRS_path" value="/WFC/Repository/Financial_Reports/
Quarterly"/>
  </ibfsparams>
  <rootObject _jt="IBFSObject" container="true" description="RulesList"
dummy="false" fullPath="NO PATH/RulesList" name="RulesList"
type="IBFSFolder">
    <children _jt="ArrayList" size="1">
      <item _jt="IBFSRuleObject" compLvl="0" dummy="false" index="0"
pSetName="ListAndRun" parent="RulesList" resPathName="IBFS:/WFC/Repository/
Financial_Reports/Quarterly" subject="restid" subjectType="U" type="Rule">
        <verb _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
        <applyTo name="FOLDER_AND_CHILDREN"/>
      </item>
    </children>
  </rootObject>
</ibfsrpc>
```

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、ルールは正しく返されています。

## ルールに適用されたルールの一覧表示

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、特定のルールに適用されているルールの一覧を取得することができます。

**HTTP メソッド** POST

**REST URL のフォーマット**

`http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/Role`

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*Role*

特定のルールです (例、List、Run、ListAndRun)。

**本文のフォーマット**

`IBIRS_action=listRulesForRole`

## 例

次の例では、ListAndRun ロールに適用されているルールが返されます。

### POST リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/ListAndRun
```

### 本文

```
IBIRS_action=listRulesForRole
```

### レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="listRulesForRole"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS"
type="simple">
  <ibfsparams size="1">
    <entry key="IBIRS_path" value="/ListAndRun"/>
  </ibfsparams>
  <rootObject _jt="IBFSObject" container="true" description="Rules with
PSET:ListAndRun" dummy="false" fullPath="NO PATH/RulesList"
name="RulesList" type="IBFSFolder">
    <children _jt="ArrayList" size="2">
      <item _jt="IBFSRuleObject" compLvl="0" dummy="false" index="0"
pSetName="ListAndRun" parent="RulesList" resPathName="IBFS:/WFC/Repository/
Public" subject="EVERYONE" subjectType="G" type="Rule">
        <verb _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
        <applyTo name="FOLDER_AND_CHILDREN"/>
      </item>
      <item _jt="IBFSRuleObject" compLvl="0" dummy="false" index="1"
pSetName="ListAndRun" parent="RulesList" resPathName="IBFS:/WFC/Repository/
Financial_Reports/Quarterly" subject="restid" subjectType="U" type="Rule">
        <verb _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
        <applyTo name="FOLDER_AND_CHILDREN"/>
      </item>
    </children>
  </rootObject>
</ibfsrpc>
```

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、ルールは正しく返されています。

## ポリシー文字列の展開

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、有効なポリシーを表す Base64 エンコードのポリシー文字列を、XML ドキュメント (各権限の許可または拒否のリスト) に展開することができます。

### HTTP メソッド POST

### REST URL のフォーマット



```
http://host:port/ibi_apps/rs/utlils
```

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

**本文のフォーマット**

```
IBIRS_action=expandPolicy&IBIRS_base64Policy=PolicyString
```

説明

*PolicyString*

有効なポリシーを表す Base64 エンコードのポリシー文字列です。この文字列は、フォルダ、ユーザ、グループなどの項目をリスト表示する RESTful Web サービスリクエストを実行することで取得することができます。

**例**

この例では、Base64 で次のようにエンコードされたポリシー文字列が展開されます。

```
////D////fx/////+/////////4AAAA
```

**POST リクエスト**

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/utlils
```

**本文**

```
IBIRS_action=expandPolicy&IBIRS_base64Policy=////D////fx/////+/////////4AAAA
```

**レスポンス**

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="expandPolicy"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS"
type="simple">
  <ibfsparams size="1">
    <entry key="IBIRS_base64Policy" value="////D////fx/////+//////////
4AAAA"/>
  </ibfsparams>
  <rootObject _jt="IBSSPolicy" derivedTime="1368100027309">
    <policy _jt="EnumMap" _keyJT="IBSSOperation" size="185">
      <entry>
        <key _jt="IBSSOperation" name="opLibrary"/>
        <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="IBSSOperation" name="opViewPortal"/>
        <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="IBSSOperation" name="opList"/>
        <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="IBSSOperation" name="opViewProps"/>
        <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="IBSSOperation" name="opDisplayVersionInfo"/>
        <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="IBSSOperation" name="opFavorites"/>
        <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="IBSSOperation" name="opMagnify"/>
        <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
      </entry>
    <entry>
      <key _jt="IBSSOperation" name="opMobileFavorites"/>
      <value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/>
    </entry>
  </policy>
  .
  .
  .
</rootObject>
</ibfsrpc>
```

```
        <entry>
          <key _jt="IBSSOperation" name="opCustom01"/>
          <value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/>
        </entry>
      <entry>
        <key _jt="IBSSOperation" name="opCustom02"/>
        <value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="IBSSOperation" name="opCustom03"/>
        <value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="IBSSOperation" name="opCustom04"/>
        <value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="IBSSOperation" name="opCustom05"/>
        <value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="IBSSOperation" name="opCustom06"/>
        <value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="IBSSOperation" name="opCustom07"/>
        <value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="IBSSOperation" name="opCustom08"/>
        <value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="IBSSOperation" name="opCustom09"/>
        <value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="IBSSOperation" name="opCustom10"/>
        <value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="IBSSOperation" name="opCustom11"/>
        <value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="IBSSOperation" name="opCustom12"/>
        <value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/>
      </entry>
      <entry>
        <key _jt="IBSSOperation" name="opCustom13"/>
        <value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/>
      </entry>
```

```

<entry>
    <key _jt="IBSSOperation" name="opCustom14"/>
    <value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/>
</entry>
<entry>
    <key _jt="IBSSOperation" name="opCustom15"/>
    <value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/>
</entry>
<entry>
    <key _jt="IBSSOperation" name="opCustom16"/>
    <value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/>
</entry>
<entry>
    <key _jt="IBSSOperation" name="opCustom17"/>
    <value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/>
</entry>
<entry>
    <key _jt="IBSSOperation" name="opCustom18"/>
    <value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/>
</entry>
<entry>
    <key _jt="IBSSOperation" name="opCustom19"/>
    <value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/>
</entry>
<entry>
    <key _jt="IBSSOperation" name="opCustom20"/>
    <value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/>
</entry>
</policy>
</rootObject>
</ibfsrpc>

```

## ポリシー文字列の作成

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、XML ドキュメント (各権限の許可または拒否のリスト) に基づいて、有効なポリシーを表す Base64 エンコードのポリシー文字列を返すことができます。

**HTTP メソッド** POST

**REST URL のフォーマット**

`http://host:port/ibi_apps/rs/utlils`

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

### 本文のフォーマット

`IBIRS_action=compactPolicy&IBIRS_policy=Policy`

#### 説明

*Policy*

有効なポリシーを定義する XML オブジェクトです。

#### 例

次の例では、有効なポリシーが記述された XML ドキュメントに基づいて、Base64 エンコードのポリシー文字列が作成されます。

#### POST リクエスト

`http://localhost:8080/ibi_apps/rs/utills`

#### 本文

```
IBIRS_action=compactPolicy&IBIRS_policy=<rootObject _jt="IBSSPolicy"
derivedTime="1368095042526"><policy _jt="EnumMap" _keyJT="IBSSOperation"
size="185"><entry><key _jt="IBSSOperation" name="opLibrary"/><value _jt="IBSSVerb"
name="PERMIT"/></entry><entry><key _jt="IBSSOperation" name="opViewPortal"/><value
_jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/></entry><entry><key _jt="IBSSOperation" name="opList"/
><value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/></entry><entry><key _jt="IBSSOperation"
name="opViewProps"/><value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/></entry><entry><key
_jt="IBSSOperation" name="opDisplayVersionInfo"/><value _jt="IBSSVerb"
name="PERMIT"/></entry><entry><key _jt="IBSSOperation" name="opFavorites"/><value
_jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/></entry><entry><key _jt="IBSSOperation" name="opMagnify"/
><value _jt="IBSSVerb" name="PERMIT"/></entry><entry><key _jt="IBSSOperation"
name="opMobileFavorites"/><value _jt="IBSSVerb"
.
.
name="opCustom01"/><value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/></entry><entry><key
_jt="IBSSOperation" name="opCustom02"/><value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/></
entry><entry><key _jt="IBSSOperation" name="opCustom03"/><value _jt="IBSSVerb"
name="DENY"/></entry><entry><key _jt="IBSSOperation" name="opCustom04"/><value
_jt="IBSSVerb" name="DENY"/></entry><entry><key _jt="IBSSOperation" name="opCustom05"/
><value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/></entry><entry><key _jt="IBSSOperation"
name="opCustom06"/><value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/></entry><entry><key
_jt="IBSSOperation" name="opCustom07"/><value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/></
entry><entry><key _jt="IBSSOperation" name="opCustom08"/><value _jt="IBSSVerb"
name="DENY"/></entry><entry><key _jt="IBSSOperation" name="opCustom09"/><value
_jt="IBSSVerb" name="DENY"/></entry><entry><key _jt="IBSSOperation" name="opCustom10"/
><value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/></entry><entry><key _jt="IBSSOperation"
name="opCustom11"/><value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/></entry><entry><key
_jt="IBSSOperation" name="opCustom12"/><value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/></
entry><entry><key _jt="IBSSOperation" name="opCustom13"/><value _jt="IBSSVerb"
name="DENY"/></entry><entry><key _jt="IBSSOperation" name="opCustom14"/><value
_jt="IBSSVerb" name="DENY"/></entry><entry><key _jt="IBSSOperation" name="opCustom15"/
><value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/></entry><entry><key _jt="IBSSOperation"
name="opCustom16"/><value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/></entry><entry><key
_jt="IBSSOperation" name="opCustom17"/><value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/></
entry><entry><key _jt="IBSSOperation" name="opCustom18"/><value _jt="IBSSVerb"
name="DENY"/></entry><entry><key _jt="IBSSOperation" name="opCustom19"/><value
_jt="IBSSVerb" name="DENY"/></entry><entry><key _jt="IBSSOperation" name="opCustom20"/
><value _jt="IBSSVerb" name="DENY"/></entry></policy></rootObject>
```

## レスポンス

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="compactPolicy"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS"
type="simple">
  <ibfsparams size="1">
    <entry key="IBIRS_policy" value="&lt;rootObject
    _jt=&quot;IBSSPolicy&quot; derivedTime=&quot;
1368095042526&quot;&gt;&lt;policy _jt=&quot;EnumMap&quot;
_keyJT=&quot;IBSSOperation&quot; size=&quot;
185&quot;&gt;&lt;entry&gt;&lt;key _jt=&quot;IBSSOperation&quot;
name=&quot;opLibrary&quot;/&gt;&lt;value _jt=&quot;IBSSVerb&quot;
name=&quot;PERMIT&quot;/&gt;&lt;/entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key
_jt=&quot;IBSSOperation&quot; name=&quot;opViewPortal&quot;/&gt;&lt;value
_jt=&quot;IBSSVerb&quot; name=&quot;PERMIT&quot;/&gt;&lt;/
entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key _jt=&quot;IBSSOperation&quot;
name=&quot;opList&quot;/&gt;&lt;value _jt=&quot;IBSSVerb&quot;
name=&quot;PERMIT&quot;/&gt;&lt;/entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key
_jt=&quot;IBSSOperation&quot; name=&quot;opViewProps&quot;/&gt;&lt;value
_jt=&quot;IBSSVerb&quot; name=&quot;PERMIT&quot;/&gt;&lt;/
entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key _jt=&quot;IBSSOperation&quot;
name=&quot;opDisplayVersionInfo&quot;/&gt;&lt;value
_jt=&quot;IBSSVerb&quot; name=&quot;PERMIT&quot;/&gt;&lt;/
entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key _jt=&quot;IBSSOperation&quot;
name=&quot;opFavorites&quot;/&gt;&lt;value _jt=&quot;IBSSVerb&quot;
name=&quot;PERMIT&quot;/&gt;&lt;/entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key
_jt=&quot;IBSSOperation&quot; name=&quot;opMagnify&quot;/&gt;&lt;value
_jt=&quot;IBSSVerb&quot; name=&quot;PERMIT&quot;/&gt;&lt;/
entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key _jt=&quot;IBSSOperation&quot;
name=&quot;opMobileFavorites&quot;/&gt;&lt;value _jt=&quot;IBSSVerb&quot;
.
.
.
_jt=&quot;IBSSOperation&quot; name=&quot;opCustom01&quot;/&gt;&lt;value
_jt=&quot;IBSSVerb&quot; name=&quot;DENY&quot;/&gt;&lt;/
entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key _jt=&quot;IBSSOperation&quot;
name=&quot;opCustom02&quot;/&gt;&lt;value _jt=&quot;IBSSVerb&quot;
name=&quot;DENY&quot;/&gt;&lt;/entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key
_jt=&quot;IBSSOperation&quot; name=&quot;opCustom03&quot;/&gt;&lt;value
_jt=&quot;IBSSVerb&quot; name=&quot;DENY&quot;/&gt;&lt;/
entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key

```

```

    _jt=&quot;IBSSOperation&quot; name=&quot;opCustom04&quot;/&gt;&lt;value
    _jt=&quot;IBSSVerb&quot; name=&quot;DENY&quot;/&gt;&lt;/
    entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key _jt=&quot;IBSSOperation&quot;
    name=&quot;opCustom05&quot;/&gt;&lt;value _jt=&quot;IBSSVerb&quot;
    name=&quot;DENY&quot;/&gt;&lt;/entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key
    _jt=&quot;IBSSOperation&quot; name=&quot;opCustom06&quot;/&gt;&lt;value
    _jt=&quot;IBSSVerb&quot; name=&quot;DENY&quot;/&gt;&lt;/
    entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key _jt=&quot;IBSSOperation&quot;
    name=&quot;opCustom07&quot;/&gt;&lt;value _jt=&quot;IBSSVerb&quot;
    name=&quot;DENY&quot;/&gt;&lt;/entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key
    _jt=&quot;IBSSOperation&quot; name=&quot;opCustom08&quot;/&gt;&lt;value
    _jt=&quot;IBSSVerb&quot; name=&quot;DENY&quot;/&gt;&lt;/
    entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key _jt=&quot;IBSSOperation&quot;
    name=&quot;opCustom09&quot;/&gt;&lt;value _jt=&quot;IBSSVerb&quot;
    name=&quot;DENY&quot;/&gt;&lt;/entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key
    _jt=&quot;IBSSOperation&quot; name=&quot;opCustom10&quot;/&gt;&lt;value
    _jt=&quot;IBSSVerb&quot; name=&quot;DENY&quot;/&gt;&lt;/
    entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key _jt=&quot;IBSSOperation&quot;
    name=&quot;opCustom11&quot;/&gt;&lt;value _jt=&quot;IBSSVerb&quot;
    name=&quot;DENY&quot;/&gt;&lt;/entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key
    _jt=&quot;IBSSOperation&quot; name=&quot;opCustom12&quot;/&gt;&lt;value
    _jt=&quot;IBSSVerb&quot; name=&quot;DENY&quot;/&gt;&lt;/
    entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key _jt=&quot;IBSSOperation&quot;
    name=&quot;opCustom13&quot;/&gt;&lt;value _jt=&quot;IBSSVerb&quot;
    name=&quot;DENY&quot;/&gt;&lt;/entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key
    _jt=&quot;IBSSOperation&quot; name=&quot;opCustom14&quot;/&gt;&lt;value
    _jt=&quot;IBSSVerb&quot; name=&quot;DENY&quot;/&gt;&lt;/
    entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key _jt=&quot;IBSSOperation&quot;
    name=&quot;opCustom15&quot;/&gt;&lt;value _jt=&quot;IBSSVerb&quot;
    name=&quot;DENY&quot;/&gt;&lt;/entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key
    _jt=&quot;IBSSOperation&quot; name=&quot;opCustom16&quot;/&gt;&lt;value
    _jt=&quot;IBSSVerb&quot; name=&quot;DENY&quot;/&gt;&lt;/
    entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key _jt=&quot;IBSSOperation&quot;
    name=&quot;opCustom17&quot;/&gt;&lt;value _jt=&quot;IBSSVerb&quot;
    name=&quot;DENY&quot;/&gt;&lt;/entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key
    _jt=&quot;IBSSOperation&quot; name=&quot;opCustom18&quot;/&gt;&lt;value
    _jt=&quot;IBSSVerb&quot; name=&quot;DENY&quot;/&gt;&lt;/
    entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key _jt=&quot;IBSSOperation&quot;
    name=&quot;opCustom19&quot;/&gt;&lt;value _jt=&quot;IBSSVerb&quot;
    name=&quot;DENY&quot;/&gt;&lt;/entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key
    _jt=&quot;IBSSOperation&quot; name=&quot;opCustom20&quot;/&gt;&lt;value
    _jt=&quot;IBSSVerb&quot; name=&quot;DENY&quot;/&gt;&lt;/entry&gt;&lt;/
    policy&gt;&lt;/rootObject&gt;"/>
  </ibfsparams>
  <rootObject _jt="string">////D////fx/////+//////////4AAAA</rootObject>
</ibfsrpc>

```

## リソーステンプレートの実行

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、リソーステンプレートを実行し、定義済みのグループ、ロール、ポータル、フォルダを作成することができます。



リソーステンプレートについての詳細は、『WebFOCUS セキュリティ管理ガイド』の「WebFOCUS 管理」の「ドメインの理解」を参照してください。

## HTTP メソッド POST

### REST URL のフォーマット

```
http://host:port/ibi_apps/rs/templates
```

#### 説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

### 本文のフォーマット

```
IBIRS_action=run&IBIRS_fileName=templateName&IBIRS_vars=object
```

#### 説明

*templateName*

WebFOCUSxx¥config¥resource\_templates ディレクトリに格納されているリソーステンプレートの名前です。

*Object*

テンプレートの実行により作成される、グループ、ロール、ポータル、フォルダの名前および説明を定義する XML オブジェクトです。この XML オブジェクトでは、次のフォーマットを使用します。

```
<object _jt="HashMap"><entry><key _jt="string" value="name"/>
<value _jt="string" value="name"/></entry><entry><key _jt="string"
value="desc"/><value _jt="string" value="description"/></entry></object>
```

#### 説明

*name*

グループ、ロール、ポータル、フォルダの名前です。

*description*

グループ、ロール、ポータル、フォルダの説明です。

## 例

次の例では、「EnterpriseDomain」というテンプレートが使用され、このテンプレートに基づいてグループおよびフォルダが作成されます。作成されるグループおよびフォルダには、「Sales」という名前が付けられ、「Sales Domain」という説明が追加されます。

## リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/templates
```

## 本文

```
IBIRS_action=run&IBIRS_fileName=EnterpriseDomain&IBIRS_vars=<object
_jt="HashMap"><entry><key _jt="string" value="name"/><value _jt="string"
value="Sales"/></entry><entry><key _jt="string" value="desc"/><value
_jt="string" value="Sales Domain"/></entry></object>
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSresponseObject" language="EN" name="run"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS"
type="simple">
  <ibfsparams size="2">
    <entry key="IBIRS_vars" value="&lt;object
_jt=&quot;HashMap&quot;&gt;&lt;entry&gt;&lt;key _jt=&quot;string&quot;
value=&quot;name&quot;/&gt;&lt;value _jt=&quot;string&quot;
value=&quot;Sales&quot;/&gt;&lt;/entry&gt;&lt;entry&gt;&lt;key
_jt=&quot;string&quot; value=&quot;desc&quot;/&gt;&lt;value
_jt=&quot;string&quot; value=&quot;Sales Domain&quot;/&gt;&lt;/
entry&gt;&lt;/object&gt;"/>
    <entry key="IBIRS_fileName" value="EnterpriseDomain"/>
  </ibfsparams>
  <rootObject _jt="string"/>
</ibfsrpc>
```

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、テンプレートは正しく実行されています。

## ユーザのパスワード変更

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、ユーザのパスワードを変更することができます。

**HTTP メソッド** POST

**REST URL のフォーマット**

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs
```

## 説明

### *host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

### *port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

## 本文のフォーマット

```
IBIRS_action=changePassword&IBIRS_userName=Userid&IBIRS_password=Password
```

## 説明

### *Userid*

パスワードを変更するユーザ ID の名前です。

### *Password*

新しいパスワードです。

## 例

次の例では、ユーザ ID 「restid」のパスワードが「rest10」に変更されます。

## リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs
```

## 本文

```
IBIRS_action=changePassword&IBIRS_userName=restid&IBIRS_password=rest10
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSresponseObject" language="EN" name="changePassword"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS"
type="simple"><ibfsparams size="2">
<entry key="IBIRS_password" value="****"/><entry key="IBIRS_userName"
value="restid"/></ibfsparams><rootObject _jt="IBFSUserObject"
description="Rest Userid" dummy="false"
email="restid@informationbuilders.com" fullPath="IBFS:/SSYS/USERS/restid"
handle="1811177469" length="0" name="restid" nameSpace="DB" policy="f//
3s///99H/7///9v/9///f//+AAAAA==" rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/SSYS/USERS/
restid" type="User">
<status _jt="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/><groups _jt="ArrayList"
size="0"/><pSetList _jt="ArrayList" size="0"/></rootObject></ibfsrpc>
```



# 6

## ReportCaster RESTful Web サービスリクエスト

---

ここでは、ReportCaster RESTful Web サービスリクエストのフォーマットと構造について説明します。

### トピックス

- ❑ ReportCaster ReportLibrary レポートの取得
- ❑ ReportCaster ReportLibrary からのレポートの特定バージョンの削除
- ❑ アドレス帳の作成および更新
- ❑ ReportLibrary アクセスリストの作成および更新
- ❑ ReportLibrary アクセスリストの削除
- ❑ スケジュールの作成および更新
- ❑ スケジュールの実行
- ❑ スケジュールの取得
- ❑ スケジュールの削除
- ❑ アドレス帳の削除
- ❑ ログ機能
- ❑ コンソール機能

---

### ReportCaster ReportLibrary レポートの取得

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、ReportCaster ReportLibrary から特定のバージョンのレポートを取得することができます。

**HTTP メソッド** GET

**REST URL のフォーマット**

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs?IBIRS_path=path/libraryFile.lib$(version)&IBIRS_action=run
```

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*version*

ReportLibrary 出力のバージョン番号です。

\$(version) が省略されている場合、または version が 0 (ゼロ) で置換されている場合は、最新バージョンが取得されます。

例

```
http://server:port/ibi_apps/rs?IBIRS_path=/WFC/Repository/Tests/L1ch6eqp6101.lib$(7)&IBIRS_action=run
```

#### GET リクエストの URL

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs?IBIRS_path=path/libraryFile.lib$(version)&IBIRS_action=run
```

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*version*

ReportLibrary 出力のバージョン番号です。

レスポンス

レポート出力が表示されます。

## ReportCaster ReportLibrary からのレポートの特定バージョンの削除

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、ReportCaster ReportLibrary からレポートの特定バージョンを削除することができます。

**HTTP メソッド** POST

**REST URL のフォーマット**

`http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/ContentName`

#### 説明

##### *host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

##### *port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

##### *FolderName*

WebFOCUS レポートが格納されているフォルダの名前です。WebFOCUS レポートが格納されているフォルダがサブフォルダの場合は、REST URL にサブフォルダまでのパスを入力する必要があります。たとえば、「TopFolderName/SubFolderName」のように指定します。

##### *ContentName*

フォルダのコンテンツリストを取得した際に name 属性で定義された格納済み WebFOCUS レポートの名前です。詳細は、52 ページの「[WebFOCUS リポジトリ内のレポート、スケジュール、ReportLibrary コンテンツのリスト表示](#)」を参照してください。

### 本文のフォーマット

`IBIRS_action=run&IBIRS_args=Object`

#### 説明

##### *Object*

削除するレポートのバージョンを定義する XML オブジェクトです。

```
<object _jt="HashMap">
  <entry>
    <key _jt="string" value="IBFS_content_revision"/>
    <value _jt="intval" value="deleteversions"/>
    <value _jt="boolval" value="true"/>
  </entry>
</object>
```

#### 説明

##### *deleteversions*

削除するレポートのバージョンです。

## アドレス帳の作成および更新

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、ReportCaster アドレス帳を作成または更新することができます。アドレス帳は、レポートの配信方法が Email、FTP の場合に ReportCaster スケジュールで使用されます。

**HTTP メソッド** POST

**REST URL のフォーマット**

`http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/AddressBookName`

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*FolderName*

ReportCaster アドレス帳が格納されているフォルダの名前です。アドレス帳が格納されているフォルダがサブフォルダの場合は、REST URL にサブフォルダまでのパスを入力する必要があります。たとえば、「TopFolderName/SubFolderName」のように指定します。

*AddressBookName*

追加または更新する ReportCaster アドレス帳の名前です。拡張子 .adr を含める必要があります。

**本文のフォーマット**

`IBIRS_action=put&IBIRS_object=Object&IBIRS_replace=ReplaceAddressBook&IBIRS_private=MakePrivate&  
IBIRS_args=AddEntriesObject`

説明

*Object*

ReportCaster アドレス帳を定義する XML オブジェクトです。



```
<rootObject _jt="IBFSCasterObject"
description="AddressBookDescription"
type="CasterDistributionList"><casterObject _jt="CasterAddrBook"
access="AccessType" bookName="AddressBookName"
description="AddressBookDescription" method="Method"
owner="Owner"><destinationList _jt="array"
itemsClass="CasterAddrbookDestinationElement" size="numberOfItems"><item
_jt="CasterAddrbookDestinationElement" burstValue="BurstValue"
burstValueType="BurstValueType" index="indexValue"
location="Location"/></destinationList></casterObject></rootObject>
```

## 説明

### *AddressBookDescription*

アドレス帳のタイトルです。

### *AccessType*

アドレス帳のセキュリティレベルを指定します。設定可能な値は、PUBLIC または PRIVATE です。パブリックアドレス帳はすべてのユーザが表示できますが、プライベートアドレス帳を表示できるのはオーナーおよび管理者のみです。

### *AddressBookName*

追加または更新するアドレス帳の名前です。拡張子 .adr を含める必要があります。たとえば、「REST\_Distribution\_List.adr」のように指定します。

### *Method*

アドレス帳の配信方法を指定します。設定可能な値は、FTP、EMAIL、PRINT のいずれかです。

### *Owner*

アドレス帳のオーナーを指定します。指定したユーザ ID は、アドレス帳にオーナーとして関連付けられ、アドレス帳の表示および編集を行う権限が与えられます。

### *numberOfItems*

アドレス帳に追加するメンバー数です。

### *BurstValue*

BurstValueType を P に設定した場合、BurstValue で指定した値がレポートのバースト時に使用されます。

BurstValueType を W に設定した場合、ワイルドカードとしてアスタリスク (\*) および疑問符 (?) を使用することで、バースト値の先頭、末尾、または中間の文字を表すことができます。以下はその例です。

a?c\*

この場合、先頭の文字が「a」で、3つ目の文字が「c」の値がすべて返されます。

BurstValueType を R に設定した場合、Java の正規表現を使用してテキストの文字列を識別することができます。Java の正規表現は、バースト値の各インスタンスの前に配置します。以下はその例です。

`[bcr]at`

この場合、bat、cat、rat のいずれかに一致する値がすべて返されます。

BurstValueType を E に設定した場合、BurstValue には値を指定しません。

#### *BurstValueType*

BurstValue に使用するパターンとして、次のいずれかを指定します。

- P** テキスト
- W** ワイルドカード
- R** 正規表現
- E** それ以外の場合に送信

#### *indexValue*

0 (ゼロ) を初期値として、アドレス帳に追加するメンバーごとに 1 ずつ増加する値です。

#### *Location*

配信方法に応じて、Location には Email アドレス、FTP パスのいずれかを指定します。

#### *ReplaceAddressbook*

アドレス帳を更新するかどうかを指定します。次のオプションのいずれかを選択します。

- true** アドレス帳を更新します。アドレス帳を更新するには、既存のアドレス帳を取得する必要があります。次に、取得した XML オブジェクトを変更し、変更後の XML オブジェクトを入力として使用します。既存のアドレス帳を取得するには、次の RESTful URL を使用します。

`http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/AddressBookName?IBIRS_action=get`

- false** アドレス帳を更新しません。

#### *MakePrivate*

アドレス帳をプライベートにするかどうかを指定します。true または false を指定します。

*AddEntriesObject* (オプション)

アドレス帳に別のエントリを追加することを示す XML オブジェクトです。最初にアドレス帳を取得した上で、IBIRS\_object の Object 定義の一部として、別のエントリを destinationList タグ内に含める必要があります。アドレス帳の既存のエントリを destinationList タグ内に含める必要はありません。IBIRS\_replace を true に設定する必要があります。

```
<object _jt="HashMap">
  <entry>
    <key _jt="string" value="insertitems"/>
    <value _jt="string" value="true"/>
  </entry>
</object>
```

**例 1**

この例では、次のことが実行されます。

- ❑ 「REST\_Distribution\_List.adr」というアドレス帳が追加されます。
- ❑ アドレス帳の説明は「REST Distribution List」です。
- ❑ アドレス帳は Email 配信に使用されます。
- ❑ アドレス帳はプライベートに設定されます。
- ❑ バースト値が JAPAN の場合、レポートは rest@informationbuilders.com に Email 配信されます。
- ❑ バースト値が JAPAN 以外の場合、レポートは other@informationbuilders.com に Email 配信されます。

**POST リクエスト URL**

[http://localhost:8080/ibi\\_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful\\_Web\\_Services/Car\\_Reports/REST\\_Distribution\\_List.adr](http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/REST_Distribution_List.adr)

**本文**

```

IBIRS_action=put&IBIRS_object=<rootObject
_jt="IBFSCasterObject" description="REST Distribution List"
type="CasterDistributionList"><casterObject _jt="CasterAddrBook"
access="PRIVATE" bookName="REST_Distribution_List.adr" description="REST
Distribution List" method="EMAIL" owner="admin"><destinationList
_jt="array" itemsClass="CasterAddrbookDestinationElement" size="2"><item
_jt="CasterAddrbookDestinationElement" burstValue="" burstValueType="E"
index="0" location="other@informationbuilders.com"/><item
_jt="CasterAddrbookDestinationElement" burstValue="JAPAN"
burstValueType="P" index="1"
location="rest@informationbuilders.com"/></destinationList></casterObject
></rootObject>&IBIRS_replace=false&IBIRS_private=true

```

## レスポンス

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="put"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS"
type="simple">
  <ibfsparams size="5">
    <entry key="IBIRS_replace" value="false"/>
    <entry key="IBIRS_private" value="true"/>
    <entry key="IBIRS_object" value="&lt;rootObject
_jt=&quot;IBFSCasterObject&quot; description=&quot;REST Distribution
List&quot; type=&quot;CasterDistributionList&quot;&gt;&lt;casterObject
_jt=&quot;CasterAddrBook&quot; access=&quot;PRIVATE&quot;
bookName=&quot;REST_Distribution_List.adr&quot; description=&quot;REST
Distribution List&quot; method=&quot;EMAIL&quot;
owner=&quot;admin&quot;&gt;&lt;destinationList _jt=&quot;array&quot;
itemsClass=&quot;CasterAddrbookDestinationElement&quot; size=&quot;
2&quot;&gt;&lt;item _jt=&quot;CasterAddrbookDestinationElement&quot;
burstValue=&quot;&quot; burstValueType=&quot;E&quot; index=&quot;0&quot;
location=&quot;other@informationbuilders.com&quot;/&gt;&lt;item
_jt=&quot;CasterAddrbookDestinationElement&quot;
burstValue=&quot;JAPAN&quot; burstValueType=&quot;P&quot; index=&quot;
1&quot; location=&quot;rest@informationbuilders.com&quot;/&gt;&lt;/
destinationLis
t&gt;&lt;/casterObject&gt;&lt;/rootObject&gt; "/>
    <entry key="IBIRS_args" value="__null"/>
    <entry key="IBIRS_" value="/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/
Car_Reports/REST_Distribution_List.adr"/>

```

```

    </ibfsparams>
    <rootObject _jt="IBFSCasterObject" defaultLng="en_US" description="REST
Distribution List" dummy="false" extension="adr"
externalId="1a7ddf0eIff6aI4886Ibde9I77c691d280a0" fullPath="/WFC/Repository/
RESTful_Web_Services/
Car_Reports/REST_Distribution_List.adr"
handle="1a7ddf0eIff6aI4886Ibde9I77c691d280a0" length="0"
name="REST_Distribution_List.adr" policy="////D///9+f/////f/////////8AAAA="
rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports
/REST_Distribution_List.adr" type="CasterDistributionList">
    <nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
        <entry>
            <key _jt="string" value="en_US"/>
            <value _jt="ArrayList" size="1">
                <item _jt="string" index="0" value="REST Distribution
List"/>
            </value>
        </entry>
    </nlsValues>
    <properties size="3">
        <entry key="id" value="1a7ddf0eIff6aI4886Ibde9I77c691d280a0"/>
        <entry key="tool" value="addressbook"/>
        <entry key="method" value="EMAIL"/>
    </properties>
    <casterObject _jt="CasterAddrBook" access="PRIVATE"
bookName="REST_Distribution_List.adr" burstValue="false" description="REST
Distribution List" ibfsId="1a7ddf0eIff6aI4886Ibde9I77c691d280a0"
ibfsPath="" id="1a7ddf0eIff6aI4886Ibde9I77c691d280a0" method="EMAIL"
owner="admin" policy="open,delete,rename,|,security;makeRules;viewRules"
sendMethod="EMAIL" summary="">
        <destinationList _jt="array"
itemsClass="CasterAddrbookDestinationElement" size="2">
            <item _jt="CasterAddrbookDestinationElement" burstValue=""
burstValueType="E" index="0" location="other@informationbuilders.com"/>
            <item _jt="CasterAddrbookDestinationElement"
burstValue="JAPAN" burstValueType="P" index="1"
location="rest@informationbuilders.com"/>
        </destinationList>
    </casterObject>
</rootObject>
</ibfsrpc>

```

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、アドレス帳は正しく追加されています。

## 例 2

この例では、次のことが実行されます。

- 「REST\_Distribution\_List.adr」というアドレス帳が更新されます。
- アドレス帳の説明は「REST Distribution List」です。

- アドレス帳は Email 配信に使用されます。
- アドレス帳はプライベートに設定されます。
- バースト値が ITALY の場合、レポートは rest@informationbuilders.com に Email 配信されま  
す。
- バースト値が ITALY 以外の場合、レポートは other@informationbuilders.com に Email 配信  
されます。

既存のアドレス帳を取得するには、次の RESTful URL を使用します。

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/  
REST_Distribution_List.adr?IBIRS_action=get
```

### POST リクエスト URL

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/  
REST_Distribution_List.adr
```

### 本文

```
IBIRS_action=put&IBIRS_object=<rootObject  
_jt="IBFSCasterObject" binary="false" createdOn="1350862349237"  
defaultLng="en_US" description="REST Distribution List" dummy="false"  
effectiveRSName="EDASERVE" extension="adr"  
externalId="1a7ddf0eIff6aI4886Ibde9I77c691d280a0"  
fullPath="IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/REST_Dist  
ribution_List.adr" handle="1a7ddf0eIff6aI4886Ibde9I77c691d280a0"  
lastModified="1350862349237" lastaccessBy="admin"  
lastaccessOn="1350862566520" length="0" name="REST_Distribution_List.adr"  
ownerId="10001" ownerName="admin" ownerType="U"  
policy="//3/D//9+f/////f/////////8AAAA=" returnedLng="en_US"  
rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports  
/REST_Distribution_List.adr" signedOn="true"  
type="CasterDistributionList"><nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75"  
threshold="12"><entry><key _jt="string" value="en_US"/><value  
_jt="ArrayList" size="2"><item _jt="string" index="0" value="REST  
Distribution List"/></value></entry></nlsValues><properties  
size="3"><entry key="id"  
value="1a7ddf0eIff6aI4886Ibde9I77c691d280a0"/><entry key="tool"  
value="addressbook"/><entry key="method"  
value="EMAIL"/></properties><casterObject _jt="CasterAddrBook"  
access="PRIVATE" bookName="REST_Distribution_List.adr" burstValue="false"  
description="REST Distribution List"  
ibfsId="1a7ddf0eIff6aI4886Ibde9I77c691d280a0"  
ibfsPath="IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports"  
id="1a7ddf0eIff6aI4886Ibde9I77c691d280a0" method="EMAIL" owner="admin"  
policy="open,delete,rename,|,security;makeRules;viewRules"
```

```

sendMethod="EMAIL"><destinationList _jt="array"
itemsClass="CasterAddrbookDestinationElement" size="2"><item
_jt="CasterAddrbookDestinationElement" burstValue=" " burstValueType="E"
index="0" location="other@informationbuilders.com"/><item
_jt="CasterAddrbookDestinationElement" burstValue="ITALY"
burstValueType="P" index="1"
location="rest@informationbuilders.com"/></destinationList></casterObject
></rootObject>&IBIRS_replace=true&IBIRS_private=true

```

## レスポンス

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、アドレス帳は正しく更新されています。

### 例 3

この例では、次のことが実行されます。

- 別のエントリが REST\_Distribution\_List.adr アドレス帳に追加されます。
- バースト値が ENGLAND の場合、レポートは rest2@informationbuilders.com に Email 配信されます。
- バースト値が FRANCE の場合、レポートは rest3@informationbuilders.com に Email 配信されます。

既存のアドレス帳を取得するには、次の RESTful URL を使用します。

```

http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/
REST_Distribution_List.adr?IBIRS_action=get

```

## POST リクエスト URL

```

http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/
REST_Distribution_List.adr

```

## 本文

```
IBIRS_action=put&IBIRS_object= <rootObject _jt="IBFSCasterObject"
createdOn="1393510291277" defaultLng="en_US" description="REST Distribution List"
dummy="false" effectiveRSName="EDASERVE" extension="adr"
externalId="f7c08730I4adfI4c8aIb109I8e014fac5a23" fullPath="/WFC/Repository/
RESTful_Web_Services/Car_Reports/REST_Distribution_List.adr"
handle="f7c08730I4adfI4c8aIb109I8e014fac5a23" inheritedPrivacy="true"
lastModified="1393510291277" lastaccessBy="admin" lastaccessOn="1393510324927"
length="0" name="REST_Distribution_List.adr" ownerId="10001" ownerName="admin"
ownerType="U" policy="//7/w///38f9///v9/////+AAAA" returnedLng="en_US" rsPath="/
ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/
REST_Distribution_List.adr" type="CasterDistributionList"><properties size="3"><entry
key="id" value="f7c08730I4adfI4c8aIb109I8e014fac5a23"/><entry key="tool"
value="addressbook"/><entry key="method" value="EMAIL"/></properties><nlsValues
_jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12"><entry><key _jt="string" value="en_US"/
><value _jt="ArrayList" size="2"><item _jt="string" index="0" value="REST Distribution
List"/></value></entry></nlsValues><casterObject _jt="CasterAddrBook" access="PRIVATE"
bookName="REST_Distribution_List.adr" burstValue="false" description="REST
Distribution List" ibfsId="f7c08730I4adfI4c8aIb109I8e014fac5a23" ibfsPath="IBFS:/WFC/
Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports" id="f7c08730I4adfI4c8aIb109I8e014fac5a23"
method="EMAIL" owner="admin"
policy="open,delete,rename,|,security;makeRules;viewRules"
sendMethod="EMAIL"><destinationList _jt="array"
itemsClass="CasterAddrbookDestinationElement" size="2"><item
_jt="CasterAddrbookDestinationElement" burstValue="ENGLAND" burstValueType="P"
index="0" location="rest2@informationbuilders.com"/><item
_jt="CasterAddrbookDestinationElement" burstValue="FRANCE" burstValueType="P"
index="1" location="rest3@informationbuilders.com"/></destinationList></casterObject></
rootObject>&IBIRS_replace=true&
IBIRS_private=true&IBIRS_args=<object _jt="HashMap">
<entry><key _jt="string" value="insertitems"/><value _jt="string" value="true"/></
entry></object>
```

## レスポンス

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、別のエントリがアドレス帳に正しく追加されています。

## ReportLibrary アクセスリストの作成および更新

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、ReportCaster ReportLibrary アクセスリストを作成、更新することができます。アクセスリストは、配信方法を ReportLibrary に設定した場合に ReportCaster スケジュールで使用されます。スケジュールが ReportLibrary アクセスリストを使用するよう定義されている場合、アクセスリストで定義されたユーザまたはグループには、バースト値に基づいて ReportLibrary レポートの一部を表示するためのアクセス権限が付与されます。アクセスリストの特定のエントリにバースト値が指定されていない場合、アクセスリストで定義されたユーザまたはグループは、レポート全体を表示することができません。

### HTTP メソッド POST



## REST URL のフォーマット

`http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/LibraryAccessListName`

### 説明

#### *host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

#### *port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

#### *FolderName*

ReportCaster ReportLibrary アクセスリストが格納されているフォルダの名前です。

ReportLibrary アクセスリストが格納されているフォルダがサブフォルダの場合は、REST URL にサブフォルダまでのパスを入力する必要があります。たとえば、「TopFolderName/SubFolderName」のように指定します。

#### *LibraryAccessListName*

追加または更新する ReportCaster ReportLibrary アクセスリストの名前です。拡張子 `.acl` を含める必要があります。

## 本文のフォーマット

`IBIRS_action=put&IBIRS_object=Object&IBIRS_replace=ReplaceAccessList&IBIRS_private=MakePrivate`

### 説明

#### *Object*

ReportCaster ReportLibrary アクセスリストを定義する XML オブジェクトです。

```
<rootObject _jt="IBFSCasterObject"
description="AccessListDescription"
type="CasterAccessList"><casterObject _jt="CasterLibraryAccessBook"
burstValue="burstValueFlag" description="AccessListDescription"
owner="Owner"><accessElementList _jt="array"
itemsClass="CasterLibAccessElement" size="numberOfItems">
<item _jt="CasterLibAccessElement" burstValue="burstValue"
index="indexValue" memberName="member" memberType="memberType" />
</accessElementList></casterObject></rootObject>
```

## 説明

### *AccessListDescription*

ReportLibrary アクセスリストのタイトルです。

### *burstValueFlag*

次のいずれかを指定します。

- true** ReportLibrary アクセスリストで定義された各メンバーの値に基づいてレポートがバーストされます。
- false** レポートをバーストする際に ReportLibrary アクセスリストは使用されません。

### *Owner*

ReportLibrary アクセスリストのオーナーです。

### *numberOfItems*

ReportLibrary アクセスリストに追加するメンバー数です。

### *burstValue*

レポートのバーストに使用する値です。

### *indexValue*

0 (ゼロ) を初期値として、ReportLibrary アクセスリストに追加するメンバーごとに1ずつ増加する値です。

### *member*

ReportLibrary アクセスリストのメンバーとして追加するユーザまたはグループの名前です。

### *memberType*

ユーザには U、グループには G を指定します。

### *ReplaceAccessList*

次のいずれかを指定します。

- true** ReportLibrary アクセスリストを更新します。

ReportLibrary アクセスリストを更新するには、既存の ReportLibrary アクセスリストを取得する必要があります。次に、取得した XML オブジェクトを変更し、変更後の XML オブジェクトを入力として使用します。

既存の ReportLibrary アクセスリストを取得するには、次の REST URL を使用します。

[http://host:port/ibi\\_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/LibraryAccessListName?IBIRS\\_action=get](http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/LibraryAccessListName?IBIRS_action=get)

- ❑ **false** ReportLibrary アクセスリストを更新しません。

#### *MakePrivate*

ReportLibrary アクセスリストをプライベートにするかどうかを指定します。true または false を指定します。

#### 例 1

この例では、次のことが実行されます。

- ❑ 「RESTAccessList.acl」という ReportLibrary アクセスリストが追加されます。
- ❑ アクセスリストの説明は「REST Access List」です。
- ❑ ReportLibrary アクセスリストはプライベートに設定されます。
- ❑ ユーザ ID 「daniel」には、主ソート値が FRANCE に一致する部分のレポートのみが表示されます。
- ❑ ユーザ ID 「david」には、主ソート値が JAPAN に一致する部分のレポートのみが表示されます。
- ❑ ユーザ ID 「efrem」には、主ソート値が ENGLAND に一致する部分のレポートのみが表示されます。
- ❑ ユーザ ID 「gerry」には、主ソート値が ITALY に一致する部分のレポートのみが表示されます。

#### POST リクエスト URL

[http://localhost:8080/ibi\\_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful\\_Web\\_Services/Car\\_Reports/RESTAccessList.acl](http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/RESTAccessList.acl)

#### 本文

```

IBIRS_action=put&IBIRS_object=<rootObject
_jt="IBFSCasterObject" description="REST Access List"
type="CasterAccessList"><casterObject _jt="CasterLibraryAccessBook"
burstValue="true" description="REST Access List"
owner="admin"><accessElementList _jt="array"
itemsClass="CasterLibAccessElement" size="4"><item
_jt="CasterLibAccessElement" burstValue="FRANCE" index="0"
memberName="daniel" memberType="U"/><item _jt="CasterLibAccessElement"
burstValue="JAPAN" index="1" memberName="david" memberType="U"/><item
_jt="CasterLibAccessElement" burstValue="ENGLAND" index="2"
memberName="efrem" memberType="U"/><item _jt="CasterLibAccessElement"
burstValue="ITALY" index="3" memberName="gerry"
memberType="U"/></accessElementList></casterObject></rootObject>&IBIRS_re
place=false&IBIRS_private=true

```

## レスポンス

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="put"
returncode="1000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS"
type="simple">
  <ibfparams size="5">
    <entry key="IBIRS_replace" value="false"/>
    <entry key="IBIRS_private" value="true"/>
    <entry key="IBIRS_object" value="&lt;rootObject
_jt=&quot;IBFSCasterObject&quot; description=&quot;REST Access List&quot;
type=&quot;CasterAccessList&quot;&gt;&lt;casterObject
_jt=&quot;CasterLibraryAccessBook&quot; burstValue=&quot;true&quot;
description=&quot;REST Access List&quot;
owner=&quot;admin&quot;&gt;&lt;accessElementList _jt=&quot;array&quot;
itemsClass=&quot;CasterLibAccessElement&quot; size=&quot;
4&quot;&gt;&lt;item _jt=&quot;CasterLibAccessElement&quot;
burstValue=&quot;FRANCE&quot; index=&quot;0&quot;
memberName=&quot;daniel&quot; memberType=&quot;U&quot;/&gt;&lt;item
_jt=&quot;CasterLibAccessElement&quot; burstValue=&quot;JAPAN&quot;
index=&quot;1&quot; memberName=&quot;david&quot;

```

```

    memberType=&quot;U&quot; /&gt;&lt;item
    _jt=&quot;CasterLibAccessElement&quot; burstValue=&quot;ENGLAND&quot;
    index=&quot;2&quot; memberName=&quot;efrem&quot; memberType=&quot;U&quot; /
    &gt;&lt;item _jt=&quot;CasterLibAccessElement&quot;
    burstValue=&quot;ITALY&quot; index=&quot;3&quot;
    memberName=&quot;gerry&quot; memberType=&quot;U&quot; /&gt;&lt; /
    accessElementList&gt;&lt; /
    /casterObject&gt;&lt; /rootObject&gt; />
    <entry key="IBIRS_args" value="__null" />
    <entry key="IBIRS_" value="/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/
    Car_Reports/
    RESTAccessList.acl" />
    </ibfsparams>
    <rootObject _jt="IBFSCasterObject" defaultLng="en_US" description="REST
    Access List" dummy="false" extension="acl"
    externalId="C34ea5140c31c0c4f68c8534ca97cd4538363" fullPath="/WFC/
    Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/RESTAccessList.acl"
    handle="5ca19e73I55f0I4c4cI9cd1I48340f7da5d5" length="0"
    name="RESTAccessList.acl" policy="///D///9+f///f/////////8AAAA="
    rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/
    Car_Reports/RESTAccessList.acl" type="CasterAccessList">
    <nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
    <entry>
    <key _jt="string" value="en_US" />
    <value _jt="ArrayList" size="1">
    <item _jt="string" index="0" value="REST Access List" />
    </value>
    </entry>
    </nlsValues>
    <properties size="2">
    <entry key="id" value="C34ea5140c31c0c4f68c8534ca97cd4538363" />
    <entry key="tool" value="accesslist" />
    </properties>
    <casterObject _jt="CasterLibraryAccessBook" burstValue="true"
    description="REST Access List"
    ibfsId="5ca19e73I55f0I4c4cI9cd1I48340f7da5d5" ibfsPath=""
    id="C34ea5140c31c0c4f68c8534ca97cd4538363" name="" owner="admin"
    policy="open,delete,rename,|,security,makeRules;viewRules" summary="">
    <accessElementList _jt="array"
    itemsClass="CasterLibAccessElement" size="4">
    <item _jt="CasterLibAccessElement" burstValue="FRANCE"
    index="0" memberName="daniel" memberType="U" />

    <item _jt="CasterLibAccessElement" burstValue="JAPAN"
    index="1" memberName="david" memberType="U" />
    <item _jt="CasterLibAccessElement" burstValue="ENGLAND"
    index="2" memberName="efrem" memberType="U" />
    <item _jt="CasterLibAccessElement" burstValue="ITALY"
    index="3" memberName="gerry" memberType="U" />
    </accessElementList>
    </casterObject>
    </rootObject>
    </ibfsrpc>

```

---

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、ReportLibrary アクセスリストは正しく追加されています。

## 例 2

この例では、次のことが実行されます。

- ❑ 「RESTAccessList.acl」という ReportLibrary アクセスリストが更新されます。
- ❑ アクセスリストの説明は「REST Access List」です。
- ❑ ReportLibrary アクセスリストはプライベートに設定されます。
- ❑ ユーザ ID 「daniel」には、主ソート値が FRANCE に一致する部分のレポートのみが表示されます。
- ❑ ユーザ ID 「david」には、主ソート値が JAPAN に一致する部分のレポートのみが表示されます。
- ❑ ユーザ ID 「efrem」には、主ソート値が ENGLAND に一致する部分のレポートのみが表示されます。
- ❑ ユーザ ID 「gerry」には、主ソート値が ITALY に一致する部分のレポートのみが表示されます。

既存の ReportLibrary アクセスリストを取得するには、次の REST URL を使用します。

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/  
Car_Reports/RESTAccessList.acl?IBIRS_action=get
```

### POST リクエスト URL

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/  
Car_Reports/RESTAccessList.acl
```

### 本文

```

IBIRS_action=put&IBIRS_object=<rootObject
  _jt="IBFSCasterObject" binary="false" createdOn="1349797553600"
  defaultLng="en_US" description="REST Access List - Updated" dummy="false"
  effectiveRSName="EDASERVE" extension="acl"
  externalId="C34ea5140c31c0c4f68c8534ca97cd4538363"
  fullPath="IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/RESTAccess
  sList.acl" handle="5ca19e73155f014c4cI9cd1I48340f7da5d5"
  lastModified="1349797553600" lastaccessBy="admin"
  lastaccessOn="1349797663457" length="0" name="RESTAccessList.acl"
  ownerId="10001" ownerName="admin" ownerType="U"
  policy="//3/D///9+f/////f/////////8AAAA=" returnedLng="en_US"
  rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports
  /RESTAccessList.acl" type="CasterAccessList"><nlsValues _jt="HashMap"
  loadFactor="0.75" threshold="12"><entry><key _jt="string"
  value="en_US"/><value _jt="ArrayList" size="2"><item _jt="string"
  index="0" value="REST Access List -
  Updated"/></value></entry></nlsValues><properties size="2"><entry
  key="id" value="C34ea5140c31c0c4f68c8534ca97cd4538363"/><entry key="tool"
  value="accesslist"/></properties><casterObject
  _jt="CasterLibraryAccessBook" burstValue="true" description="REST Access
  List - Updated" ibfsId="5ca19e73155f014c4cI9cd1I48340f7da5d5"
  ibfsPath="IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports"
  id="C34ea5140c31c0c4f68c8534ca97cd4538363" name="RESTAccessList.acl"
  owner="admin"
  policy="open,delete,rename,|,security;makeRules;viewRules"><accessElement
  List _jt="array" itemsClass="CasterLibAccessElement" size="4"><item
  _jt="CasterLibAccessElement" burstValue="FRANCE" index="0"
  memberName="daniel" memberType="U"/><item _jt="CasterLibAccessElement"
  burstValue="JAPAN" index="1" memberName="david" memberType="U"/><item
  _jt="CasterLibAccessElement" burstValue="ENGLAND" index="2"
  memberName="efrem" memberType="U"/><item _jt="CasterLibAccessElement"
  burstValue="ITALY" index="3" memberName="gerry"
  memberType="U"/></accessElementList></casterObject></rootObject>&IBIRS_re
  place=true&IBIRS_private=true

```

## レスポンス

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、ReportLibrary アクセスリストは正しく更新されています。

## ReportLibrary アクセスリストの削除

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、ReportCaster ReportLibrary アクセスリストを削除することができます。

**HTTP メソッド** DELETE

**REST URL のフォーマット**

```

http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/AccessListName?
IBIRS_action=delete

```

## 説明

### *host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

### *port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

### *FolderName*

ReportCaster ReportLibrary アクセスリストが格納されているフォルダの名前です。  
ReportLibrary アクセスリストが格納されているフォルダがサブフォルダの場合は、REST URL にサブフォルダまでのパスを入力する必要があります。たとえば、「TopFolderName/SubFolderName」のように指定します。

### *AccessListName*

削除する ReportCaster ReportLibrary アクセスリストの名前です。拡張子 .acl を含める必要があります。

## 例

次の例では、RESTful\_Web\_Services フォルダ下の Car\_Reports フォルダから、「RESTAccessList.acl」という ReportCaster ReportLibrary アクセスリストが削除されます。

## リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/  
Car_Reports/RESTAccessList.acl?IBIRS_action=delete
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1" standalone="no"?>  
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="delete"  
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS"  
type="simple">  
  <ibfsparams size="2">  
    <entry key="IBIRS_args" value="__null"/>  
    <entry key="IBIRS_" value="/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/  
Car_Reports/  
RESTAccessList.acl"/>  
  </ibfsparams>
```



```

    <rootObject _jt="IBFSCasterObject" binary="false"
createdOn="1349435037177" defaultLng="en_US" description="REST Access List"
dummy="false" extension="acl"
externalId="C3222b6bcc30c0c4582c90fdcc4c403cd249c" fullPath="IBFS:/WFC/
Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/RESTAccessList.acl"
handle="b60b3b27I4bd0I4a15I923cI7db3bd6ae555" lastModified="1349435037177"
lastaccessBy="admin" lastaccessOn="1349436904650" length="0"
name="RESTAccessList.acl" policy="///D///9+f/////f/////////8AAAA="
returnedLng="en_US" rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/
RESTful_Web_Services/
Car_Reports/RESTAccessList.acl" type="CasterAccessList">
  <nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
    <entry>
      <key _jt="string" value="en_US"/>
      <value _jt="ArrayList" size="2">
        <item _jt="string" index="0" value="REST Access List"/>
      </value>
    </entry>
  </nlsValues>
  <properties size="2">
    <entry key="id" value="C3222b6bcc30c0c4582c90fdcc4c403cd249c"/>
    <entry key="tool" value="accesslist"/>
  </properties>
</rootObject>
</ibfsrpc>

```

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、ReportLibrary アクセスリストは正しく削除されています。

## スケジュールの作成および更新

ここでは、ReportCaster スケジュールを作成、更新する際に使用する RESTful Web サービスリクエストの構造について説明します。

### HTTP メソッド POST

### REST URL のフォーマット

`http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/ScheduleName`

#### 説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

### *FolderName*

ReportCaster スケジュールが格納されるフォルダの名前です。スケジュールが格納されるフォルダがサブフォルダの場合は、REST URL にサブフォルダまでのパスを入力する必要があります。たとえば、「TopFolderName/SubFolderName」のように指定します。

### *ScheduleName*

追加または更新する ReportCaster スケジュールの名前です。拡張子 .sch を含める必要があります。

## 本文のフォーマット

`IBIRS_action=put&IBIRS_replace=ReplaceSchedule&IBIRS_object=Object`

### 説明

#### *ReplaceSchedule*

次のオプションのいずれかを指定します。

- True** スケジュールを更新します。スケジュールを更新するには、既存のスケジュールを取得する必要があります。次に、取得した XML オブジェクトを変更し、変更後の XML オブジェクトを入力として使用します。

既存のスケジュールを取得するには、次の REST URL を使用します。

`http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/ScheduleName?  
IBIRS_action=get`

- False** スケジュールを更新しません。

#### *Object*

ReportCaster スケジュールを定義する XML オブジェクトです。この XML オブジェクトは、次の順序で連結された 7 つのコンポーネントで構成されます。

- スケジュールのルートオブジェクト
- スケジュールのプロパティ
- 通知
- 配信方法
- 実行間隔
- タスク
- 終了タグ

## スケジュールのルートオブジェクト

ここでは、スケジュールのルートオブジェクトについて説明します。

### 本文のフォーマット

```
<rootObject _jt="IBFSCasterObject" description="ScheduleTitle"
type="CasterSchedule">
```

#### 説明

##### *ScheduleTitle*

スケジュールするジョブの説明です。説明の最大サイズは 90 バイトです。

## スケジュールのプロパティ

ここでは、スケジュールのプロパティについて説明します。

### 本文のフォーマット

```
<casterObject _jt="CasterSchedule" active="Active"
deleteJobAfterRun="DeleteJobAfterRun" description="ScheduleTitle"
owner="Owner" priority="Priority" traceType="TraceType">
```

#### 説明

##### *Active*

スケジュールをアクティブにするかどうかを示すフラグです。true に設定すると、スケジュールはアクティブになります。false に設定すると、スケジュールは非アクティブになります。

##### *DeleteJobAfterRun*

ジョブの実行後にスケジュールを削除するかどうかを示すフラグです。true に設定すると、すべてのタスクが完了した後にジョブが削除されます。false に設定すると、ジョブは削除されません。

##### *ScheduleTitle*

スケジュールするジョブの説明です。説明の最大サイズは 90 バイトです。

##### *Owner*

このスケジュールのオーナーです。オーナー名の最大サイズは 48 バイトです。

##### *Priority*

スケジュールジョブの優先度です。この値の範囲は、1 (最上位の優先度) から 5 (最下位の優先度) までです。

## *TraceType*

次のトレースタイプのいずれかを指定します。

- 0 = デフォルトのトレース。ReportCaster トレース構成の設定を使用します。
- 1 = トレースなし
- 2 = スケジュールのトレース
- 3 = スケジュールおよびレポートのトレース

## 通知

スケジュール済みレポートを配信する場合、ReportCaster を使用して配信に関するログ情報を特定のユーザに通知することができます。この通知機能はスケジュールごとの設定変更が可能で、非アクティブ時に通知、常に通知、エラー時に通知のいずれかに設定することができます。各スケジュールでは、次の 2 タイプの通知を同時に送信することができます。

- 簡易通知** ログ情報の一部が送信されます。
- 詳細通知** ログ情報のすべてが送信されます。

## 本文のフォーマット

```
<notification _jt="CasterScheduleNotification"
addressForBriefNotification="BriefNotificationAddress"
  addressForFullNotification="FullNotificationAddress" description=""
from="FromAddress"
  subject="Subject" type="NotificationType"/>
```

## 説明

### *BriefNotificationAddress*

ReportCaster でスケジュールが実行された際に簡易通知メッセージを送信する Email アドレスです。簡易通知 Email には、実行されたスケジュールのログ情報の一部が含まれます。簡易通知 Email アドレスの最大サイズは 75 バイトです。

### *FullNotificationAddress*

ReportCaster でスケジュールが実行された際に詳細通知メッセージを送信する Email アドレスです。詳細通知 Email には、実行されたスケジュールのログ情報がすべて含まれます。詳細通知 Email アドレスの最大サイズは 75 バイトです。

### *FromAddress*

ReportCaster でスケジュールが実行された際に通知を送信する送信者の Email アドレスです。送信者アドレスの最大サイズは 75 バイトです。

### Subject

ReportCaster でスケジュールが実行された際に送信する Email 通知の件名です。Email 件名の最大サイズは 255 バイトです。

### NotificationType

ReportCaster でスケジュールが実行された際に送信する通知メッセージのタイプです。ALWAYS、INACTIVE、ONERROR の 3 タイプがあります。

## 配信方法

ReportCaster スケジュールの作成時に、次の 4 タイプの配信方法のいずれかを選択することができます。

- ReportLibrary
- Email
- FTP
- WebFOCUS リポジトリ

## ReportLibrary

この配信方法は、スケジュールされた ReportCaster ジョブの出力を ReportCaster ReportLibrary に格納する場合に使用します。ReportCaster ReportLibrary は、データベース内で構成され、共通アクセスが提供されるセキュアなアーカイブ環境です。ReportLibrary は、ReportCaster 製品とともに、オプションとして使用することができます。

## 本文のフォーマット

```
<distributionList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleDistribution"
size="1">
  <item accessListFullPath="AccessListPath" accessType="AccessType"
category="Category"
      compressionEnabled="CompressionEnabled"
      description="DistributionName" destinationPath="DestinationPath"
enabled="true">
```

```
        expirationData="ExpirationData" expirationMode="ExpirationMode"
index="0" valueonly="ValueOnly">
    <storageLibraryEmail authEnabled="AuthEnabled"
authPassword="AuthPassword" authUserId="AuthUserId"
        libraryURL="LibraryURL" mailFrom="MailFrom"
        mailMessage="MailMessage" mailReplyAddress="MailReply"
mailServerName="MailServer"
        mailSubject="MailSubject"
sendEmailAfterSaveReport="SendEmailAfterSaveReport" sslEnabled="SSLflag"
        tlsEnabled="TLSflag"/>
</item>
</distributionList>
```

## 説明

### *AccessListPath*

AccessType を ACCESS\_LIST に設定した場合に、ReportLibrary コンテンツの表示を制御するアクセスリストのパスです。たとえば、「IBFS:/WFC/Repository/RESTful\_Web\_Services/Car\_Reports/RESTAccessList.acl」のように指定します。

### *AccessType*

この ReportLibrary 配信のアクセスタイプです。アクセスタイプには、ReportLibrary レポートの表示を制御する次の 3 つのオプションがあります。

- PUBLIC
- OWNER
- ACCESS\_LIST

### *Category*

このレポートに関連付けられた ReportLibrary カテゴリです。カテゴリは ReportLibrary のルートディレクトリに相当し、レポート配信の分類に使用します。

ReportLibrary に配信する WebFOCUS リポジトリレポート以外のタスクはすべて、スケジュールの作成時にいずれかのカテゴリに割り当てる必要があります。スケジュールされたレポートおよびそのレポートの後続のバージョンはすべて、そのレポートに割り当てられたカテゴリのサブディレクトリに格納されます。該当するカテゴリが存在しない場合、配信時に新しいカテゴリが作成されます (例、ルートディレクトリ)。

カテゴリ名に使用可能な文字は最大で 90 バイトです。

### *CompressionEnabled*

次のオプションのいずれかを指定します。

- True** ReportLibrary に格納する前にレポートを圧縮します。
- False** ReportLibrary に格納する前にレポートを圧縮しません。

### *DistributionName*

配信に割り当てられる名前です (例、ReportLibrary)。

### *DestinationPath*

ReportLibrary コンテンツを格納するフォルダのパスです。以下はその例です。

`IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports`

### *ExpirationData*

ReportLibrary に格納されたレポートの有効期限の計算に使用される有効期限データです。ExpirationMode と組み合わせて使用する際に、ExpirationMode で指定された値と、整数値で表される有効期限データにより、レポートを期限切れにするかどうかが決まります。たとえば、ExpirationMode を D に設定し、ExpirationData を 3 に設定した場合、レポートは 3 日後に期限切れになります。ExpirationMode を V に設定した場合、ExpirationData はバージョン数のしきい値を表し、このしきい値を超えたレポートが ReportLibrary で期限切れになります。

### *ExpirationMode*

ReportLibrary レポートの有効期限を計算する際の基準です。次の 7 つの有効期限モードがあります。

- D** 日
- H** 時間
- M** 月
- V** バージョン
- W** 週
- Y** 年
- N** なし

ExpirationData と組み合わせて使用する際に、ExpirationData で指定された整数値により、ReportLibrary レポートの有効期限が決まります。たとえば、ExpirationMode を D に設定し、ExpirationData を 3 に設定した場合、レポートは 3 日後に期限切れになります。

---

ExpirationMode を V に設定した場合、ExpirationData はバージョン数のしきい値を表し、このしきい値を超えたレポートが ReportLibrary で期限切れになります。

#### *ValueOnly*

次のオプションのいずれかを指定します。

- True** 配信をアクセスリストで定義された値に制限します。
- False** 配信をアクセスリストで定義された値に制限しません。

#### *AuthEnabled*

次のオプションのいずれかを指定します。

- True** メールサーバで認証を必要とします。
- False** メールサーバで認証を必要としません。

#### *AuthPassword*

AuthEnabled を true に設定した場合に、メールサーバへの認証に使用するパスワードです。

#### *AuthUserid*

AuthEnabled を true に設定した場合に、メールサーバへの認証に使用するアカウント名です。

#### *LibraryURL*

ReportLibrary Email 通知に含めるベース URL です。SendEmailAfterSaveReport を使用して ReportLibrary 通知を有効にした場合、メッセージが記述された Email が ReportLibrary レポートにアクセス可能なすべてのユーザに送信されます。通常、このメッセージにはレポートが作成されたことを知らせる通知およびそのレポートをブラウザに表示するための URL が記載されています。ベース URL は、ReportCaster 環境の内部または外部でアクセス可能な任意の値に設定することができます。

LibraryURL に使用可能な文字は最大で 128 バイトです。以下はその例です。

[http://localhost:8080/ibi\\_apps/library/report.rc](http://localhost:8080/ibi_apps/library/report.rc)

#### *MailFrom*

この ReportLibrary Email 通知で送信される Email の送信者アドレスです。SendEmailAfterSaveReport を使用して、ReportLibrary Email 通知を有効にする必要があります。送信者アドレスの最大サイズは 65 バイトです。



### *MailMessage*

この ReportLibrary Email 通知の一部として送信される Email メッセージの内容です。SendEmailAfterSaveReport を使用して、ReportLibrary Email 通知を有効にする必要があります。Email メッセージの最大サイズは 255 バイトです。

### *MailReply*

この ReportLibrary Email 通知で送信される Email の返信アドレスです。SendEmailAfterSaveReport を使用して、ReportLibrary Email 通知を有効にする必要があります。返信アドレスの最大サイズは 65 バイトです。

### *MailServer*

この ReportLibrary Email 通知の送信に使用されるメールサーバの名前です。SendEmailAfterSaveReport を使用して、ReportLibrary Email 通知を有効にする必要があります。メールサーバ名の最大サイズは 65 バイトです。

### *MailSubject*

この ReportLibrary Email 通知で送信される Email の件名です。SendEmailAfterSaveReport を使用して、ReportLibrary Email 通知を有効にする必要があります。件名の最大サイズは 255 バイトです。

### *SendEmailAfterSaveReport*

レポートが ReportLibrary に保存された際に、Email 通知を送信するかどうかを指定します。この値を true に設定した場合、このレポートにアクセス可能なユーザーに Email 通知が送信されます。この値を false に設定した場合、Email 通知は送信されません。

### *SSLflag*

次のオプションのいずれかを指定します。

- True** メールサーバにセキュア SSL 接続が必要です。
- False** メールサーバにセキュア SSL 接続を必要としません。

### *TLSflag*

次のオプションのいずれかを指定します。

- True** メールサーバにセキュア TLS 接続が必要です。
- False** メールサーバにセキュア TLS 接続を必要としません。

## Email

この配信方法は、スケジュールされた ReportCaster ジョブの出力を Email で配信する場合に使用します。

### 本文のフォーマット

```
<distributionList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleDistribution"
size="1">
  <item _jt="CasterScheduleDistributionEmail" authEnabled="AuthEnabled"
authPassword="AuthPassword" authUserId="AuthUserId"
  description="DistributionName" enabled="true" index="0"
inlineMessage="InlineMessage" inlineTaskIndex="InlineTaskIndex"
  mailFrom="MailFrom" mailReplyAddress="MailReply"
mailServerName="MailServer" mailSubject="MailSubject"
  sendingReportAsAttachment="AttachmentFlag" sslEnabled="SSLflag"
tlsEnabled="TLSflag" zipFileName="ZipFileName"
  zipResult="ZipFlag">
    <destination _jt="CasterScheduleDestination"
distributionFile="DistFile" distributionListFullPath="DistPath"
  singleAddress="SingleAddress" type="Type">
      <dynamicAddress _jt="CasterScheduleDynamicAddress"
password="Password" procedureName="ProcedureName"

          serverName="ServerName" userName="UserName" />
    </destination>
  </item>
</distributionList>
```

### 説明

#### *AuthEnabled*

次のオプションのいずれかを指定します。

- True** メールサーバで認証を必要とします。
- False** メールサーバで認証を必要としません。

#### *AuthPassword*

AuthEnabled を true に設定した場合に、メールサーバへの認証に使用するパスワードです。

#### *AuthUserId*

AuthEnabled を true に設定した場合に、メールサーバへの認証に使用するアカウント名です。

#### *DistributionName*

配信に割り当てられる名前です (例、Email)。

### *InlineMessage*

Email レポート配信に関連付けられた埋め込みメッセージです。埋め込みメッセージとは、レポートを添付ファイルとして送信する場合に、Email の本文に含めるメッセージのことです。レポートを本文として埋め込んで送信する場合は、このメッセージを設定することはできません。埋め込みメッセージの最大サイズは 255 バイトです。

### *InlineTaskIndex*

Email の本文に埋め込まれるタスクインデックスです。ReportCaster スケジュールには複数のタスクを含めることができます。スケジュール内の 1 つのタスクが 1 つのレポートに相当します。これらのタスクは連続的に実行されます。タスクインデックスは、スケジュール配信の複数のタスクに連続的に割り当てられた 0 から N までのインデックス番号です。このインデックス番号は、埋め込み Email 配信をする場合に特に重要です。それは、複数のタスクのうち 1 つのタスクのみを埋め込みレポートとして配信できるためです。その他のレポートは添付ファイルとして送信されます。

### *MailFrom*

Email でスケジュール配信する場合に [送信者] に使用する Email アドレスです。MailFrom の最大サイズは 65 バイトです。

### *MailReply*

Email でスケジュール配信する場合に [返信アドレス] に使用する Email アドレスです。返信アドレスの最大サイズは 65 バイトです。

### *MailServer*

Email でスケジュール配信する場合に使用する SMTP メールサーバの名前です。メールサーバ名の最大サイズは 65 バイトです。

### *MailSubject*

Email でスケジュール配信する場合に [件名] に使用する Email の件名です。件名の最大サイズは 65 バイトです。

### *AttachmentFlag*

次のオプションのいずれかを指定します。

- True** レポートは添付ファイルとして送信されます。
- False** レポートは Email 本文に埋め込まれて送信されます。

### *SSLflag*

次のオプションのいずれかを指定します。

- True** メールサーバにセキュア SSL 接続が必要です。
- False** メールサーバにセキュア SSL 接続を必要としません。

### *TLSflag*

次のオプションのいずれかを指定します。

- True** メールサーバにセキュア TLS 接続が必要です。
- False** メールサーバにセキュア TLS 接続を必要としません。

### *ZipFileName*

Email でスケジュール配信する場合に使用する ZIP ファイルの名前です。ZipFlag を true に設定する必要があります。ZIP ファイル名の最大サイズは 64 バイトです。

### *ZipFlag*

次のオプションのいずれかを指定します。

- True** 出力を圧縮します。
- False** 出力を圧縮しません。

### *DistFile*

Distribution Server にアクセス可能な物理ファイルに格納された 1 件以上の宛先のリストです。Type を DISTRIBUTION\_FILE に設定する必要があります。

### *DistPath*

1 件以上の宛先が定義された ReportCaster アドレス帳のフルパスです。以下はその例です。

```
IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/REST_List.adr
```

Type を DISTRIBUTION\_LIST に設定する必要があります。

### *SingleAddress*

レポート受信者の Email アドレスです。

複数の Email アドレスの区切り文字がカンマ (,) の場合、レポートは 1 通の Email で配信されます。

複数の Email アドレスの区切り文字がセミコロン (;) の場合、レポートは複数の Email で配信されます (1 通の Email につき 1 件のアドレス)。

Type を SINGLE\_ADDRESS に設定する必要があります。

#### Type

次の有効値のいずれかです。

- DISTRIBUTION\_FILE
- DISTRIBUTION\_LIST
- DYNAMIC\_ADDRESS
- SINGLE\_ADDRESS

#### Password

ダイナミック配信リストを作成する WebFOCUS プロシジャが格納された Reporting Server への認証に必要なパスワードです。

Type を DYNAMIC\_ADDRESS に設定する必要があります。

#### ProcedureName

ダイナミック配信リストを作成する WebFOCUS プロシジャ名をアプリケーション名で修飾した名前です。たとえば、「ibisamp/getEmails」のように指定します。

Type を DYNAMIC\_ADDRESS に設定する必要があります。

#### ServerName

ダイナミック配信リストを作成する WebFOCUS プロシジャが格納された Reporting Server の名前です。

Type を DYNAMIC\_ADDRESS に設定する必要があります。

#### UserName

ダイナミック配信リストを作成する WebFOCUS プロシジャが格納された Reporting Server のユーザ ID です。

Type を DYNAMIC\_ADDRESS に設定する必要があります。

## FTP

この配信方法は、スケジュールされた ReportCaster レポートを FTP 経由で配信する場合に使用します。

### 本文のフォーマット

```
<distributionList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleDistribution"
size="1">
  <item compressionFormat="CompressionFormat" description="DistributionName"
enabled="true" ftpLocation="FTPlocation" ftpPassword="FTPpass"
ftpServerName="FTPserver" ftpUserName="FTPuser"
index="0" indexFile="IndexFile" passwordAuthEnabled="passwordFlag"
publicKeyAuthEnabled="publicFlag"
sftpEnabled="SFTPflag" zipBurstReportsTogether="ZipBurstTogether"
zipFileName="ZipFileName"
zipResult="ZipResult">
  <destination _jt="CasterScheduleDestination"
distributionFile="DistFile" distributionListFullPath="DistPath"
singleAddress="SingleFile" type="Type">
  <dynamicAddress _jt="CasterScheduleDynamicAddress"
password="Password" procedureName="ProcedureName"
serverName="ServerName" userName="UserName" />
  </destination>
</item>
</distributionList>
```

## 説明

### *CompressionFormat*

配信前に出力を圧縮するオプションです。次のいずれかを選択します。

- 0** このオプションは、アーカイブファイル (.zip)、圧縮ファイル (.zip) を作成する場合、または圧縮しない場合に選択します。
- 1** このオプションは、圧縮ファイル (.gz) を作成する場合に選択します。

### *DistributionName*

配信に割り当てられる名前です (例、FTP)。

### *FTPlocation*

FTP 配信でスケジュールされたレポートのルートディレクトリです。レポートは、この送信先に FTP で送信されます。ただし、配信リストを使用してレポートをセクション別にバーストし、この FTPlocation ディレクトリのサブディレクトリに分割して配信する場合を除きます。

### *FTPpass*

レポート配信時に送信先 FTP サーバの認証に必要なパスワードです。FTP パスワードは、ユーザが FTP サーバにアクセスする際に必要な認証情報の一部です。

### *FTPserver*

送信先 FTP サーバの名前です。

### *FTPuser*

レポート配信時に送信先 FTP サーバの認証に必要なユーザ名です。FTP ユーザ名は、ユーザが FTP サーバにアクセスする際に必要な認証情報の一部です。

### *IndexFile*

バースト機能を有効にしてスケジュール済みレポートを FTP で配信する場合、そのレポートに関連付けるインデックスファイルを指定します。バースト機能を有効にした場合、このインデックスファイルでそれぞれのインデックスページを作成するファイル名を指定します。

バーストを有効にしたが (Burst=TRUE)、インデックスファイルを指定していない場合、インデックスファイル名は index.htm に設定されます。

**注意：**レポートのバーストは、配信タイプが DISTRIBUTION LIST、DISTRIBUTION FILE、DYNAMIC LIST の場合に使用します。配信タイプが SINGLE ADDRESS の場合、レポートは単一アドレスに送信されるためバーストを使用する必要はありません。

### *passwordFlag*

パスワード認証です。SFTPflag を true に設定した場合、次のオプションのいずれかを指定します。

- True** パスワード認証を有効にします。
- False** パスワード認証を無効にします。

### *publicFlag*

パブリックキー認証です。SFTPflag を true に設定した場合、次のオプションのいずれかを指定します。

- True** パブリックキー認証を有効にします。
- False** パブリックキー認証を無効にします。

### *SFTPflag*

true に設定した場合、FTP サーバにセキュア SSH ファイル転送プロトコル (SFTP) が必要です。

false に設定した場合、FTP サーバにセキュア SSH ファイル転送プロトコル (SFTP) は必要ありません。

### *ZipBurstTogether*

圧縮に .zip を使用するオプションです。このオプションを true に設定し、ZipResult を true に設定した場合、配信前にアーカイブ .zip ファイルが作成されます。

---

このオプションを `false` に設定し、`ZipResult` を `true` に設定した場合、配信前に圧縮 `.zip` ファイルが作成されます。

圧縮を必要としない場合、または `CompressionFormat` を `1` に設定した場合にも、この値を `false` に設定します。

#### *ZipFileName*

アーカイブ `.zip` ファイルまたは圧縮 `.zip` ファイルを格納するファイル名です。

`CompressionFormat` を `0` (ゼロ) に設定し、`ZipResult` を `true` に設定する必要があります。

#### *ZipResult*

圧縮ファイルを使用するオプションです。`true` に設定した場合、配信前にアーカイブ `.zip` ファイルまたは圧縮 `.zip` ファイルが作成されます。圧縮に `.gz` を使用する場合は、配信前に圧縮 `.gz` ファイルが作成されます。`CompressionFormat` で圧縮タイプを設定し、`ZipBurstTogether` で配信前にアーカイブ `.zip` ファイルを作成するか、圧縮 `.zip` ファイルを作成するかを設定します。

`false` に設定した場合、配信前にファイルは圧縮されません。

#### *DistFile*

Distribution Server にアクセス可能な物理ファイルに格納された 1 件以上の配信先のリストです。

Type を `DISTRIBUTION_FILE` に設定する必要があります。

#### *DistPath*

1 件以上の配信先が定義された ReportCaster アドレス帳のフルパスです。たとえば、「`IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/REST_List.adr`」のように指定します。

Type を `DISTRIBUTION_LIST` に設定する必要があります。

#### *SingleFile*

配信先を単一アドレスに設定した場合に使用する単一ファイル名です。

Type を `SINGLE_ADDRESS` に設定する必要があります。

#### *Type*

以下は有効値のリストです。

`DISTRIBUTION_FILE`



- ❑ DISTRIBUTION\_LIST
- ❑ DYNAMIC\_ADDRESS
- ❑ SINGLE\_ADDRESS

#### *Password*

ダイナミック配信リストを作成する WebFOCUS プロシジャが格納された Reporting Server への認証に必要なパスワードです。

Type を DYNAMIC\_ADDRESS に設定する必要があります。

#### *ProcedureName*

ダイナミック配信リストを作成する WebFOCUS プロシジャ名をアプリケーション名で修飾した名前です。たとえば、「ibisamp/getEmails」のように指定します。

Type を DYNAMIC\_ADDRESS に設定する必要があります。

#### *ServerName*

ダイナミック配信リストを作成する WebFOCUS プロシジャが格納された Reporting Server の名前です。

Type を DYNAMIC\_ADDRESS に設定する必要があります。

#### *UserName*

ダイナミック配信リストを作成する WebFOCUS プロシジャが格納された Reporting Server のユーザ ID です。

Type を DYNAMIC\_ADDRESS に設定する必要があります。

## WebFOCUS リポジットリ

この配信方法は、スケジュールされた ReportCaster ジョブの出力を WebFOCUS リポジットリに格納する場合に使用します。

### 本文のフォーマット

```
<distributionList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleDistribution"
size="1">
  <item description="DistributionName" enabled="true"
folderName="FolderName"
  index="0"/>
</distributionList>
```

## 説明

### *DistributionName*

配信に割り当てられる名前です (例、WebFOCUS リポジトリ)。

### *FolderName*

レポートを格納する WebFOCUS リポジトリフォルダのフルパスです。たとえば、「IBFS:/WFC/Repository/RESTful\_Web\_Services/Car\_Reports」のように指定します。

## 実行間隔

ReportCaster スケジュールの作成時に、次の 7 タイプの実行間隔のいずれかを選択することができます。

- 1 回だけ実行
- 分単位
- 時間単位
- 日単位
- 週単位
- 月単位
- 年単位

## 1 回だけ実行

このオプションは、スケジュールジョブを 1 回だけ実行する場合に使用します。

```
<timeInfoList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleTimeInfo" size="1">
  <item description="" enabled="true" index="0" name="">
    <startTime _jt="calendar" time="StartTime"/>
  </item>
</timeInfoList>
```

## 説明

### *StartTime*

新しいスケジュールの初回の実行時間を指定します。

新しいスケジュールを作成したり、実行予定のジョブを変更したりすると、新しい開始時間が作成されます。

デフォルトの開始時間は、現在の時間です。

開始時間は、UNIX 時間 (1970 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒からの経過秒数) で表されます。

UNIX 時間の末尾には、ミリ秒を表す 3 つの 0 (ゼロ) が追加されます。

開始時間は、UTC (協定世界時) でも表されます。

たとえば、UTC の 2012 年 12 月 17 日 15 時 0 分 0 秒は、1355756400000 に変換されます。

## 分単位

この設定は、分単位の時間間隔で実行するスケジュールジョブに使用します。

### 本文のフォーマット

```
<item disabled="false" type="2" name="" description=""
index="0" class="ibi.broker.api.data.schedule.TimeInfoMinute"
wednesday="WednesdayFlag" tuesday="TuesdayFlag" thursday="ThursdayFlag"
sunday="SundayFlag" saturday="SaturdayFlag" monday="MondayFlag"
friday="FridayFlag" frequency="Frequency">
<nextRunTime _jt="calendar" time="nextRunTime"/>
<startTime _jt="calendar" time="StartTime"/>
<endTime _jt="calendar" time="EndTime"/>
```

### 説明

#### *Frequency*

分単位で実行するスケジュール済みイベントの頻度です。

たとえば、レポートの Email 配信を 5 分ごとに実行するよう設定する場合、この頻度は 5 になります。

#### *FridayFlag*

ReportCaster ジョブを金曜日にスケジュールするかどうかを指定します。true に設定すると、ジョブは金曜日に実行されます。

#### *MondayFlag*

ReportCaster ジョブを月曜日にスケジュールするかどうかを指定します。true に設定すると、ジョブは月曜日に実行されます。

#### *SaturdayFlag*

ReportCaster ジョブを土曜日にスケジュールするかどうかを指定します。true に設定すると、ジョブは土曜日に実行されます。

#### *SundayFlag*

ReportCaster ジョブを日曜日にスケジュールするかどうかを指定します。true に設定すると、ジョブは日曜日に実行されます。

---

### *ThursdayFlag*

ReportCaster ジョブを木曜日にスケジュールするかどうかを指定します。true に設定すると、ジョブは木曜日に実行されます。

### *TuesdayFlag*

ReportCaster ジョブを火曜日にスケジュールするかどうかを指定します。true に設定すると、ジョブは火曜日に実行されます。

### *WednesdayFlag*

ReportCaster ジョブを水曜日にスケジュールするかどうかを指定します。true に設定すると、ジョブは水曜日に実行されます。

### *StartTime*

新しいスケジュールの初回の実行時間を指定します。

新しいスケジュールを作成したり、実行予定のジョブを変更したりすると、新しい開始時間が作成されます。

デフォルトの開始時間は、現在の時間です。

開始時間は、UNIX 時間 (1970 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒からの経過秒数) で表されます。

UNIX 時間の末尾には、ミリ秒を表す 3 つの 0 (ゼロ) が追加されます。

開始時間は、UTC (協定世界時) でも表されます。

たとえば、UTC の 2012 年 12 月 17 日 15 時 0 分 0 秒は、1355756400000 に変換されます。

### *EndTime*

スケジュールの最終回の実行時間を指定します。

終了時間は、UNIX 時間 (1970 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒からの経過秒数) で表されます。

UNIX 時間の末尾には、ミリ秒を表す 3 つの 0 (ゼロ) が追加されます。

終了時間は、UTC (協定世界時) でも表されます。

たとえば、UTC の 2013 年 12 月 31 日 15 時 0 分 0 秒は、1388502000000 に変換されます。

## 時間単位

この設定は、時間単位の時間間隔で実行するスケジュールジョブに使用します。

### 本文のフォーマット

```
<item disabled="false" type="2" name="" description=""
index="0" class="ibi.broker.api.data.schedule.TimeInfoHour"
wednesday="WednesdayFlag" tuesday="TuesdayFlag" thursday="ThursdayFlag"
sunday="SundayFlag" saturday="SaturdayFlag" monday="MondayFlag"
friday="FridayFlag" frequency="Frequency">
<nextRunTime _jt="calendar" time="nextRunTime"/>
<startTime _jt="calendar" time="StartTime"/>
<endTime _jt="calendar" time="EndTime"/>
```

## 説明

### *Frequency*

時間単位で実行するスケジュール済みイベントの頻度です。

たとえば、レポートの Email 配信を 5 時間ごとに実行するよう設定する場合、この頻度は 5 になります。

### *FridayFlag*

ReportCaster ジョブを金曜日にスケジュールするかどうかを指定します。true に設定すると、ジョブは金曜日に実行されます。

### *MondayFlag*

ReportCaster ジョブを月曜日にスケジュールするかどうかを指定します。true に設定すると、ジョブは月曜日に実行されます。

### *SaturdayFlag*

ReportCaster ジョブを土曜日にスケジュールするかどうかを指定します。true に設定すると、ジョブは土曜日に実行されます。

### *SundayFlag*

ReportCaster ジョブを日曜日にスケジュールするかどうかを指定します。true に設定すると、ジョブは日曜日に実行されます。

### *ThursdayFlag*

ReportCaster ジョブを木曜日にスケジュールするかどうかを指定します。true に設定すると、ジョブは木曜日に実行されます。

### *TuesdayFlag*

ReportCaster ジョブを火曜日にスケジュールするかどうかを指定します。true に設定すると、ジョブは火曜日に実行されます。

---

### *WednesdayFlag*

ReportCaster ジョブを水曜日にスケジュールするかどうかを指定します。true に設定すると、ジョブは水曜日に実行されます。

### *StartTime*

新しいスケジュールの初回の実行時間を指定します。

新しいスケジュールを作成したり、実行予定のジョブを変更したりすると、新しい開始時間が作成されます。

デフォルトの開始時間は、現在の時間です。

開始時間は、UNIX 時間 (1970 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒からの経過秒数) で表されます。

UNIX 時間の末尾には、ミリ秒を表す 3 つの 0 (ゼロ) が追加されます。

開始時間は、UTC (協定世界時) でも表されます。

たとえば、UTC の 2012 年 12 月 17 日 15 時 0 分 0 秒は、1355756400000 に変換されます。

### *EndTime*

スケジュールの最終回の実行時間を指定します。

終了時間は、UNIX 時間 (1970 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒からの経過秒数) で表されます。

UNIX 時間の末尾には、ミリ秒を表す 3 つの 0 (ゼロ) が追加されます。

終了時間は、UTC (協定世界時) でも表されます。

たとえば、UTC の 2013 年 12 月 31 日 15 時 0 分 0 秒は、1388502000000 に変換されます。

## 日単位

この設定は、日単位の時間間隔で実行するスケジュールジョブに使用します。

### 本文のフォーマット

```
<timeInfoList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleTimeInfo" size="1">
  <item description="" enabled="true" frequency="Frequency" index="0"
name="">
    <startTime _jt="calendar" time="StartTime"/>
    <endTime _jt="calendar" time="EndTime"/>
    <secondaryRunInterval _jt="CasterScheduleTimeInterval "
duration="Duration" interval="Interval"
      isEnabled="SecondaryIntervalFlag"><untilTime _jt="calendar"
time="UntilTime"/>
    </secondaryRunInterval>
  </item>
</timeInfoList>
```

## 説明

### *Frequency*

日単位で実行するスケジュール済みイベントの頻度です。たとえば、レポートの Email 配信を 5 日ごとに実行するよう設定する場合、この頻度は 5 になります。

### *StartTime*

新しいスケジュールの初回の実行時間として指定する開始時間です。

新しいスケジュールを作成したり、実行予定のジョブを変更したりすると、新しい開始時間が作成されます。

デフォルトの開始時間は、現在の時間です。

開始時間は、UNIX 時間 (1970 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒からの経過秒数) で表されます。

UNIX 時間の末尾には、ミリ秒を表す 3 つの 0 (ゼロ) が追加されます。

開始時間は、UTC (協定世界時) でも表されます。

たとえば、UTC の 2012 年 12 月 17 日 15 時 0 分 0 秒は、1355756400000 に変換されます。

### *EndTime*

スケジュールの最終回の実行時間として指定する終了時間です。

終了時間は、UNIX 時間 (1970 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒からの経過秒数) で表されます。

UNIX 時間の末尾には、ミリ秒を表す 3 つの 0 (ゼロ) が追加されます。

終了時間は、UTC (協定世界時) でも表されます。

たとえば、UTC の 2013 年 12 月 31 日 15 時 0 分 0 秒は、1388502000000 に変換されます。

---

### *Duration*

SecondaryIntervalFlag の継続期間です。SecondaryIntervalFlag を true に設定した場合、分単位で指定された継続時間が適用されます。UntilTime を 18000000 に設定する必要があります。

### *Interval*

分単位の時間間隔です。SecondaryIntervalFlag を true に設定した場合、時間間隔が n 分ごとに適用されます。

### *SecondaryIntervalFlag*

時間間隔の設定です。true に設定すると、時間間隔の設定が有効になります。false に設定すると、時間間隔の設定が無効になります。

### *UntilTime*

時間間隔の終了時間です。SecondaryIntervalFlag を true に設定した場合、時間間隔の終了時間が適用されます。Duration を -1 に設定する必要があります。

時間間隔の終了時間は、UNIX 時間 (1970 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒からの経過秒数) で表されます。

時間間隔の終了時間の設定には時間部分のみが使用されるため、使用する日付は関係しません。

通常、UntilTime の設定には、スケジュールの作成日または更新日が使用されます。

UNIX 時間の末尾には、ミリ秒を表す 3 つの 0 (ゼロ) が追加されます。

時間間隔の終了時間は、UTC (協定世界時) でも表されます。

たとえば、UTC の 2012 年 10 月 19 日 20 時 38 分 0 秒は、1350679080000 に変換されます。時間間隔の終了時間を設定する場合、「2012 年 10 月 19 日」は無視されます。

## **週単位**

この設定は、週単位の時間間隔で実行するスケジュールジョブに使用します。

### **本文のフォーマット**



```
<timeInfoList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleTimeInfo" size="1">
  <item _jt="CasterScheduleTimeInfoWeek" description="" enabled="true"
frequency="Frequency" friday="FridayFlag" index="0"
      monday="MondayFlag" name="" saturday="SaturdayFlag"
sunday="SundayFlag" thursday="ThursdayFlag"
      tuesday="TuesdayFlag" wednesday="WednesdayFlag">
    <startTime _jt="calendar" time="StartTime"/>
    <endTime _jt="calendar" time="EndTime"/>
    <secondaryRunInterval _jt="CasterScheduleTimeInterval"
duration="Duration" interval="Interval"
      isEnabled="SecondaryIntervalFlag"><untilTime _jt="calendar"
time="UntilTime"/>
    </secondaryRunInterval>
  </item>
</timeInfoList>
```

#### *Frequency*

週単位で実行するスケジュール済みイベントの頻度です。

たとえば、レポートの Email 配信を 5 週間ごとに実行するよう設定する場合、この頻度は 5 になります。

#### *FridayFlag*

ReportCaster ジョブを金曜日にスケジュールするかどうかを指定します。true に設定すると、ジョブは金曜日に実行されます。

#### *MondayFlag*

ReportCaster ジョブを月曜日にスケジュールするかどうかを指定します。true に設定すると、ジョブは月曜日に実行されます。

#### *SaturdayFlag*

ReportCaster ジョブを土曜日にスケジュールするかどうかを指定します。true に設定すると、ジョブは土曜日に実行されます。

#### *SundayFlag*

ReportCaster ジョブを日曜日にスケジュールするかどうかを指定します。true に設定すると、ジョブは日曜日に実行されます。

#### *ThursdayFlag*

ReportCaster ジョブを木曜日にスケジュールするかどうかを指定します。true に設定すると、ジョブは木曜日に実行されます。

#### *TuesdayFlag*

ReportCaster ジョブを火曜日にスケジュールするかどうかを指定します。true に設定すると、ジョブは火曜日に実行されます。

---

### *WednesdayFlag*

ReportCaster ジョブを水曜日にスケジュールするかどうかを指定します。true に設定すると、ジョブは水曜日に実行されます。

### *StartTime*

新しいスケジュールの初回の実行時間を指定します。

新しいスケジュールを作成したり、実行予定のジョブを変更したりすると、新しい開始時間が作成されます。

デフォルトの開始時間は、現在の時間です。

開始時間は、UNIX 時間 (1970 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒からの経過秒数) で表されます。

UNIX 時間の末尾には、ミリ秒を表す 3 つの 0 (ゼロ) が追加されます。

開始時間は、UTC (協定世界時) でも表されます。

たとえば、UTC の 2012 年 12 月 17 日 15 時 0 分 0 秒は、1355756400000 に変換されます。

### *EndTime*

スケジュールの最終回の実行時間を指定します。

終了時間は、UNIX 時間 (1970 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒からの経過秒数) で表されます。

UNIX 時間の末尾には、ミリ秒を表す 3 つの 0 (ゼロ) が追加されます。

終了時間は、UTC (協定世界時) でも表されます。

たとえば、UTC の 2013 年 12 月 31 日 15 時 0 分 0 秒は、1388502000000 に変換されます。

### *Duration*

SecondaryIntervalFlag の継続期間です。SecondaryIntervalFlag を true に設定した場合、分単位で指定された継続時間が適用されます。UntilTime は 18000000 に設定する必要があります。

### *Interval*

分単位の時間間隔です。SecondaryIntervalFlag を true に設定した場合、時間間隔が n 分ごとに適用されます。

### *SecondaryIntervalFlag*

時間間隔の設定です。true に設定すると、時間間隔の設定が有効になります。false に設定すると、時間間隔の設定が無効になります。

### UntilTime

時間間隔の終了時間です。SecondaryIntervalFlag を true に設定した場合、時間間隔の終了時間が適用されます。Duration を -1 に設定する必要があります。

時間間隔の終了時間は、UNIX 時間 (1970 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒からの経過秒数) で表されます。

時間間隔の終了時間の設定には時間部分のみが使用されるため、使用する日付は関係しません。

通常、UntilTime の設定には、スケジュールの作成日または更新日が使用されます。

UNIX 時間の末尾には、ミリ秒を表す 3 つの 0 (ゼロ) が追加されます。

時間間隔の終了時間は、UTC (協定世界時) でも表されます。

たとえば、UTC の 2012 年 10 月 19 日 20 時 38 分 0 秒は、1350679080000 に変換されます。時間間隔の終了時間を設定する場合、「2012 年 10 月 19 日」は無視されます。

## 月単位

この設定は、月単位の時間間隔で実行するスケジュールジョブに使用します。

### 本文のフォーマット

```
<timeInfoList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleTimeInfo" size="1">
  <item dayOfWeek="DayOfWeek" dayOfWeekEnabled="DayOfWeekEnabled" description=""
    enabled="true" frequency="Frequency" index="0" lastDayOfMonth="LastDayOfMonth"
    name="" type="5" weekOfMonth="WeekOfMonth">
    <startTime _jt="calendar" time="StartTime"/>
    <endTime _jt="calendar" time="EndTime"/>
    <daysOfMonth _jt="array" size="31">
      <item _jt="boolval" index="0" value="false"/>
      <item _jt="boolval" index="1" value="false"/>
      <item _jt="boolval" index="2" value="false"/>
      <item _jt="boolval" index="3" value="false"/>
      <item _jt="boolval" index="4" value="false"/>
      <item _jt="boolval" index="5" value="false"/>
      <item _jt="boolval" index="6" value="false"/>
      <item _jt="boolval" index="7" value="false"/>
      <item _jt="boolval" index="8" value="false"/>
      <item _jt="boolval" index="9" value="false"/>
      <item _jt="boolval" index="10" value="false"/>
      <item _jt="boolval" index="11" value="false"/>
      <item _jt="boolval" index="12" value="false"/>
      <item _jt="boolval" index="13" value="false"/>
      <item _jt="boolval" index="14" value="false"/>
      <item _jt="boolval" index="15" value="false"/>
      <item _jt="boolval" index="16" value="false"/>
    
```

```
<item _jt="boolval" index="17" value="false" />
<item _jt="boolval" index="18" value="false" />
<item _jt="boolval" index="19" value="false" />
<item _jt="boolval" index="20" value="false" />
<item _jt="boolval" index="21" value="false" />
<item _jt="boolval" index="22" value="false" />
<item _jt="boolval" index="23" value="false" />
<item _jt="boolval" index="24" value="false" />
<item _jt="boolval" index="25" value="false" />
<item _jt="boolval" index="26" value="false" />
<item _jt="boolval" index="27" value="false" />
<item _jt="boolval" index="28" value="false" />
<item _jt="boolval" index="29" value="false" />
<item _jt="boolval" index="30" value="false" />
</daysOfMonth>
<secondaryRunInterval _jt="CasterScheduleTimeInterval" duration="Duration"
interval="Interval" isEnabled="SecondaryIntervalFlag">
  <untilTime _jt="calendar" time="UntilTime" />
</secondaryRunInterval>
</item>
</timeInfoList>
```

## 説明

### *DayOfWeek*

レポートを実行する曜日です。 *DayOfWeekEnabled* を true に設定する必要があります。  
有効な値は次のとおりです。

- 1 月曜
- 2 火曜
- 3 水曜
- 4 木曜
- 5 金曜
- 6 土曜

### *DayofWeekEnabled*

設定する曜日または日です。 true に設定した場合、 *DayOfWeek* および *WeekOfMonth* を設定する必要があります。

false に設定した場合、 *DaysOfMonth* および *LastDayOfMonth* のいずれか一方または両方を設定する必要があります。

### *Frequency*

月単位で実行するスケジュール済みイベントの頻度です。たとえば、レポートの Email 配信を 2 月ごとに実行するよう設定する場合、この頻度は 2 になります。

### *LastDayOfMonth*

月の最終日フラグを設定するかどうかを指定します。このフラグを true に設定すると、日付に関係なく、月の最終日にスケジュールが実行されます。

たとえば、このフラグを true に設定した場合、2 月 28 日に実行するよう設定されたスケジュールの次回実行日は、3 月 31 日になります。true に設定しない場合、翌月の同日にジョブが実行されます。

このフラグを false に設定した場合、レポートは 3 月 28 日に実行されます。翌月の同日に相当する日が存在しない場合、レポートは実行されません。

### *WeekOfMonth*

レポートを実行する月単位の週番号です。DayOfWeekEnabled を true に設定する必要があります。有効な値は次のとおりです。

- 1 第 1 週
- 2 第 2 週
- 3 第 3 週
- 4 第 4 週
- 5 最終週

### *StartTime*

新しいスケジュールの初回の実行時間を指定します。

新しいスケジュールを作成したり、実行予定のジョブを変更したりすると、新しい開始時間が作成されます。

デフォルトの開始時間は、現在の時間です。

開始時間は、UNIX 時間 (1970 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒からの経過秒数) で表されます。

UNIX 時間の末尾には、ミリ秒を表す 3 つの 0 (ゼロ) が追加されます。

開始時間は、UTC (協定世界時) でも表されます。

たとえば、UTC の 2012 年 12 月 17 日 15 時 0 分 0 秒は、1355756400000 に変換されます。

### *EndTime*

スケジュールの最終回の実行時間を指定します。

終了時間は、UNIX 時間 (1970 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒からの経過秒数) で表されます。

UNIX 時間の末尾には、ミリ秒を表す 3 つの 0 (ゼロ) が追加されます。

終了時間は、UTC (協定世界時) でも表されます。

たとえば、UTC の 2013 年 12 月 31 日 15 時 0 分 0 秒は、1388502000000 に変換されます。

### *daysOfmonth*

レポートを実行する日付として選択された日を示す 31 要素配列です。すべての配列メンバーの初期値は `false` に設定されています。

各配列メンバーには、`index` 属性が関連付けられます。

`index` の値は 0 (ゼロ) から始まり、連続する日ごとに 1 ずつ増加します。たとえば、`index=0` は月の初日を表します。

`true` に設定された配列メンバーが、スケジュールを実行する日になります。

`DayOfWeekEnabled` を `false` に設定する必要があります。

### *Duration*

`SecondaryIntervalFlag` の継続期間です。 `SecondaryIntervalFlag` を `true` に設定した場合、分単位で指定された継続時間が適用されます。 `UntilTime` は 18000000 に設定する必要があります。

### *Interval*

分単位の時間間隔です。 `SecondaryIntervalFlag` を `true` に設定した場合、時間間隔が `n` 分ごとに適用されます。

### *SecondaryIntervalFlag*

時間間隔の設定です。 `true` に設定すると、時間間隔の設定が有効になります。 `false` に設定すると、時間間隔の設定が無効になります。

### *UntilTime*

時間間隔の終了時間です。 `SecondaryIntervalFlag` を `true` に設定した場合、時間間隔の終了時間が適用されます。 `Duration` を `-1` に設定する必要があります。

時間間隔の終了時間は、UNIX 時間 (1970 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒からの経過秒数) で表されます。

時間間隔の終了時間の設定には時間部分のみが使用されるため、使用する日付は関係しません。

通常、UntilTime の設定には、スケジュールの作成日または更新日が使用されます。

UNIX 時間の末尾には、ミリ秒を表す 3 つの 0 (ゼロ) が追加されます。

時間間隔の終了時間は、UTC (協定世界時) でも表されます。

たとえば、UTC の 2012 年 10 月 19 日 20 時 38 分 0 秒は、1350679080000 に変換されます。時間間隔の終了時間を設定する場合、「2012 年 10 月 19 日」は無視されます。

## 年単位

この設定は、年単位の時間間隔で実行するスケジュールジョブに使用します。

### 本文のフォーマット

```
<timeInfoList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleTimeInfo" size="1">
  <item description="" enabled="true" frequency="Frequency" index="0"
name="">
    <startTime _jt="calendar" time="StartTime"/>
    <endTime _jt="calendar" time="EndTime"/>
    <secondaryRunInterval _jt="CasterScheduleTimeInterval"
duration="Duration" interval="Interval"
      isEnabled="SecondaryIntervalFlag">
      <untilTime _jt="calendar" time="UntilTime"/>
    </secondaryRunInterval>
  </item>
</timeInfoList>
```

### 説明

#### *Frequency*

年単位で実行するスケジュール済みイベントの頻度です。

たとえば、レポートの Email 配信を 1 年ごとに実行するよう設定する場合、この頻度は 1 になります。

#### *StartTime*

新しいスケジュールの初回の実行時間を指定します。

新しいスケジュールを作成したり、実行予定のジョブを変更したりすると、新しい開始時間が作成されます。

デフォルトの開始時間は、現在の時間です。

開始時間は、UNIX 時間 (1970 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒からの経過秒数) で表されます。

UNIX 時間の末尾には、ミリ秒を表す 3 つの 0 (ゼロ) が追加されます。

---

開始時間は、UTC (協定世界時) でも表されます。

たとえば、UTC の 2012 年 12 月 17 日 15 時 0 分 0 秒は、1355756400000 に変換されます。

#### *EndTime*

スケジュールの最終回の実行時間を指定します。

終了時間は、UNIX 時間 (1970 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒からの経過秒数) で表されます。

UNIX 時間の末尾には、ミリ秒を表す 3 つの 0 (ゼロ) が追加されます。

終了時間は、UTC (協定世界時) でも表されます。

たとえば、UTC の 2013 年 12 月 31 日 15 時 0 分 0 秒は、1388502000000 に変換されます。

#### *Duration*

SecondaryIntervalFlag の継続期間です。SecondaryIntervalFlag を true に設定した場合、分単位で指定された継続時間が適用されます。UntilTime は 18000000 に設定する必要があります。

#### *Interval*

分単位の時間間隔です。SecondaryIntervalFlag を true に設定した場合、時間間隔が n 分ごとに適用されます。

#### *SecondaryIntervalFlag*

時間間隔の設定です。true に設定すると、時間間隔の設定が有効になります。false に設定すると、時間間隔の設定が無効になります。

#### *UntilTime*

時間間隔の終了時間です。SecondaryIntervalFlag を true に設定した場合、時間間隔の終了時間が適用されます。Duration を -1 に設定する必要があります。

時間間隔の終了時間は、UNIX 時間 (1970 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒からの経過秒数) で表されます。

時間間隔の終了時間の設定には時間部分のみが使用されるため、使用する日付は関係しません。

通常、UntilTime の設定には、スケジュールの作成日または更新日が使用されます。

UNIX 時間の末尾には、ミリ秒を表す 3 つの 0 (ゼロ) が追加されます。

時間間隔の終了時間は、UTC (協定世界時) でも表されます。



たとえば、UTC の 2012 年 10 月 19 日 20 時 38 分 0 秒は、1350679080000 に変換されます。時間間隔の終了時間を設定する場合、「2012 年 10 月 19 日」は無視されます。

## カスタム

この設定は、特定の日付を指定してスケジュールジョブを実行する場合に使用します。

### 本文のフォーマット

```
<timeInfoList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleTimeInfo" size="1">
  <item description="" enabled="true" index="0" name="" type="7">
    <startTime _jt="calendar" time="StartTime"/>
    <endTime _jt="calendar" time="EndTime"/>
    <dateList _jt="array" itemsClass="java.util.Calendar"
size="numberOfItems">
      <item _jt="calendar" index="0" time="date1"/>
      <item _jt="calendar" index="1" time="date2"/>
    </dateList>
    <secondaryRunInterval _jt="CasterScheduleTimeInterval"
duration="Duration" interval="Interval"
      isEnabled="SecondaryIntervalFlag"><untilTime _jt="calendar"
time="UntilTime"/>
    </secondaryRunInterval>
  </item>
</timeInfoList>
```

### 説明

#### *StartTime*

新しいスケジュールの初回の実行時間を指定します。

新しいスケジュールを作成したり、実行予定のジョブを変更したりすると、新しい開始時間が作成されます。

デフォルトの開始時間は、現在の時間です。

開始時間は、UNIX 時間 (1970 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒からの経過秒数) で表されます。

UNIX 時間の末尾には、ミリ秒を表す 3 つの 0 (ゼロ) が追加されます。

開始時間は、UTC (協定世界時) でも表されます。

たとえば、UTC の 2012 年 12 月 17 日 15 時 0 分 0 秒は、1355756400000 に変換されます。

#### *EndTime*

スケジュールの最終回の実行時間を指定します。

終了時間は、UNIX 時間 (1970 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒からの経過秒数) で表されます。

UNIX 時間の末尾には、ミリ秒を表す 3 つの 0 (ゼロ) が追加されます。

---

終了時間は、UTC (協定世界時) でも表されます。

たとえば、UTC の 2013 年 12 月 31 日 15 時 0 分 0 秒は、1388502000000 に変換されます。

#### *dateList*

レポートの実行日として選択された日付を示す項目配列です。

各項目には、`index` 属性が関連付けられます。

`index` の値は 0 (ゼロ) から始まり、日付ごとに 1 ずつ増加します。

各項目には、日付が関連付けられます (例、`date1`、`date2`)。

日付は、UNIX 時間 (1970 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒からの経過秒数) で表されます。

UNIX 時間の末尾には、ミリ秒を表す 3 つの 0 (ゼロ) が追加されます。

日付は、UTC (協定世界時) でも表されます。

たとえば、UTC の 2012 年 12 月 17 日 15 時 0 分 0 秒は、1355756400000 に変換されます。

#### *numberOfItems*

実行するレポートに対して定義される日付の数です。

#### *Duration*

`SecondaryIntervalFlag` の継続期間です。 `SecondaryIntervalFlag` を `true` に設定した場合、分単位で指定された継続時間が適用されます。 `UntilTime` は 18000000 に設定する必要があります。

#### *Interval*

分単位の時間間隔です。 `SecondaryIntervalFlag` を `true` に設定した場合、時間間隔が `n` 分ごとに適用されます。

#### *SecondaryIntervalFlag*

時間間隔の設定です。 `true` に設定すると、時間間隔の設定が有効になります。 `false` に設定すると、時間間隔の設定が無効になります。

#### *UntilTime*

時間間隔の終了時間です。 `SecondaryIntervalFlag` を `true` に設定した場合、時間間隔の終了時間が適用されます。 `Duration` を `-1` に設定する必要があります。

時間間隔の終了時間は、UNIX 時間 (1970 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒からの経過秒数) で表されます。

時間間隔の終了時間の設定には時間部分のみが使用されるため、使用する日付は関係しません。

通常、UntilTime の設定には、スケジュールの作成日または更新日が使用されます。

UNIX 時間の末尾には、ミリ秒を表す 3 つの 0 (ゼロ) が追加されます。

時間間隔の終了時間は、UTC (協定世界時) でも表されます。

たとえば、UTC の 2012 年 10 月 19 日 20 時 38 分 0 秒は、1350679080000 に変換されます。時間間隔の終了時間を設定する場合、「2012 年 10 月 19 日」は無視されます。

## タスク

ReportCaster スケジュールの作成時に、次の 5 タイプのタスクのいずれかを選択することができます。

- WebFOCUS レポート
- WebFOCUS サーバプロシジャ
- ファイル
- FTP
- URL

## WebFOCUS レポート

[WebFOCUS レポート] を選択すると、WebFOCUS リポジトリ内に存在するレポートを対象として、レポートの配信をスケジュールすることができます。レポートにアラートに関連付けることで、特定のアラート条件が発動されたときに実行するアクションをスケジュールすることができます。実行するレポートがアラートでない場合、XML の alert タグは必要ありません。

### 本文のフォーマット

```
<taskList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleTask" size="1">
  <item alertEnabled="AlertFlag" burst="BurstFlag"
    description="TaskDescription" domainHref=" " enabled="true"
    execId="ServerUserid"
    execPassword="ServerPassword"
    firstPostProcessingProcedure="FirstPostProcedure"
    firstPreProcessingProcedure="FirstPreProcedure" index="0"
    procedureDescription=" " procedureName="ProcedureName"
    reportName="ReportName">
```

```
secondPostProcessingProcedure=" SecondPostProcedure"
    secondPreProcessingProcedure=" SecondPreProcedure"
sendFormat=" SendFormat " serverName=" ServerName">
    <parameterList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleParameter"
size=" NumberOfParameters">
        <item _jt="CasterScheduleParameter" enabled="true" index=" IndexValue"
name=" ParameterName"
            value=" ParameterValue" />
        </parameterList>
        <alert resetInterval=" ResetInterval" resetType=" ResetType" />
    </item>
</taskList>
```

## 説明

### *AlertFlag*

アラートを有効にするかどうかを指定する値です。

true に設定すると、アラートが有効になります。false に設定すると、アラートが無効になります。

### *BurstFlag*

レポートバーストを有効にするかどうかを指定する値です。レポートバーストを使用すると、主ソートフィールドに基づいて1つのレポートを複数のセクションに分割することができます。分割したレポートセクションは、Distribution Server から個別のレポートとして配信されます。これらのレポートセクションへのアクセスは、配信リストの Email アドレスまたは ReportLibrary アクセスリストのユーザ ID に関連付けられたバースト値 (主ソートフィールドの固有の値) により異なります。

### *TaskDescription*

タスクの説明に使用するテキストです。説明の最大サイズは 255 バイトです。

### *ServerUserid*

WebFOCUS Reporting Server への接続を確立する際に必要なユーザ名です。このユーザ名は、ユーザがスケジュール実行時に WebFOCUS Reporting Server に常駐する WebFOCUS プロシジャにアクセスしたり、ジョブの実行時にこのプロシジャを実行したりする際に必要な認証情報の1つです。

セキュリティが設定されていない Reporting Server を使用する場合でも、この設定の値を指定する必要があります。

### *ServerPassword*

WebFOCUS Reporting Server への接続を確立する際に必要なパスワードです。このパスワードは、各ユーザがスケジュール実行時に WebFOCUS Reporting Server に常駐する WebFOCUS プロシジャにアクセスしたり、ジョブの実行時にこのプロシジャを実行したりする際に必要な認証情報の 1 つです。セキュリティが設定されていない Reporting Server を使用する場合でも、この設定の値を指定する必要があります。

### *FirstPostProcedure*

使用可能な 2 つの実行後プロシジャのうち、最初のプロシジャの名前です。実行後プロシジャ (WebFOCUS サーバプロシジャおよび WebFOCUS レポートで使用可能) は、関連するタスクの実行後に同期的に実行される、レポート作成を目的としない WebFOCUS プロシジャです。通常、実行後プロシジャは、演算環境またはデータ環境の再設定に使用します。

### *FirstPreProcedure*

使用可能な 2 つの実行前プロシジャのうち、最初のプロシジャの名前です。実行前プロシジャ (WebFOCUS サーバプロシジャおよび WebFOCUS レポートで使用可能) は、関連するタスクの実行前に同期的に実行される、レポート作成を目的としない WebFOCUS プロシジャです。通常、実行前プロシジャは、レポートの実行前に条件を設定またはテストする目的で使用されます。

### *ProcedureName*

実行する WebFOCUS レポートのフルパスです。たとえば、「IBFS:/WFC/Repository/RESTful\_Web\_Services/Car\_Reports/Sales\_Report\_by\_Country.fex」のように指定します。

### *ReportName*

出力を添付ファイルとして送信する際のファイル名です。レポート名の最大サイズは 64 バイトです。

### *SecondPostProcedure*

使用可能な 2 つの実行後プロシジャのうち、2 つ目のプロシジャの名前です。実行後プロシジャ (WebFOCUS サーバプロシジャおよび WebFOCUS レポートで使用可能) は、関連するタスクの実行後に同期的に実行される、レポート作成を目的としない WebFOCUS プロシジャです。通常、実行後プロシジャは、演算環境またはデータ環境の再設定に使用します。

### *SecondPreProcedure*

使用可能な 2 つの実行前プロシジャのうち、2 つ目のプロシジャの名前です。実行前プロシジャ (WebFOCUS サーバプロシジャおよび WebFOCUS レポートで使用可能) は、関連するタスクの実行前に同期的に実行される、レポート作成を目的としない WebFOCUS プロシジャです。通常、実行前プロシジャは、レポートの実行前に条件を設定またはテストする目的で使用されます。

### *SendFormat*

WebFOCUS Reporting Server により生成されるレポートフォーマットです。たとえば、PDF、HTML、AHTML、EXL07、DFIX DELIMITER、COM があります。

### *ServerName*

このタスクに関連付けられた WebFOCUS レポートおよびプロシジャの実行に使用する WebFOCUS Reporting Server の名前です。

### *NumberOfParameters*

WebFOCUS レポートに送信されるパラメータの数です。

### *IndexValue*

0 (ゼロ) を初期値として、WebFOCUS レポートに送信されるパラメータごとに 1 ずつ増加する値です。

### *ParameterName*

WebFOCUS レポートに送信されるパラメータの名前です。名前の最大長は 64 バイトです。

### *ParameterValue*

WebFOCUS レポートに送信されるパラメータ (ParameterName) に関連付けるパラメータ値です。値の最大長は 255 バイトです。

### *ResetInterval*

AlertFlag を true に設定した場合、ResetInterval は、アラート発動時にアラートスケジュールが実行された時間から、アラートスケジュールが再度有効になる時間までの時間間隔 (遅延) を表します。実際の時間間隔は、ResetType で指定された時間単位が基準になります。

たとえば、ResetType を HOUR に設定した場合、リセット間隔に 3 を指定すると、遅延は 3 時間になります。

*ResetType*

AlertFlag を true に設定した場合、ResetType の有効値は次のとおりです。

- MINUTE**
- HOURLY**
- DAY**
- WEEK**
- MONTH**
- YEAR**
- CONTINUE** 即座にアラートを再度有効にします。
- AUTO** 条件が True 以外になった場合にアラートを再度有効にします。
- TERMINATE** スケジュールを無効にします。

**WebFOCUS サーバプロシジャ**

[WebFOCUS サーバプロシジャ] を選択すると、WebFOCUS Reporting Server に存在するレポートを対象として、レポートの配信をスケジュールすることができます。WebFOCUS サーバプロシジャは、Distribution Server にアクセス可能な WebFOCUS Reporting Server に常駐する WebFOCUS レポート (プロシジャ) です。

**本文のフォーマット**

```
<taskList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleTask" size="1">
  <item _jt="CasterScheduleWFServerProcedure" burst="BurstFlag"
description="TaskDescription" enabled="true"
  execId="ServerUserid" execPassword="ServerPassword"
firstPostProcessingProcedure="FirstPostProcedure"
  firstPreProcessingProcedure="FirstPreProcedure" index="0"
procedureName="ProcedureName" reportName="ReportName"
  secondPostProcessingProcedure="SecondPostProcedure"
secondPreProcessingProcedure="SecondPreProcedure"
  sendFormat="SendFormat" serverName="ServerName">
  <parameterList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleParameter"
size="NumberOfParameters">
    <item _jt="CasterScheduleParameter" enabled="true"

index="IndexValue" name="ParameterName" value="ParameterValue" />
  </parameterList>
  </item>
</taskList>
```

## 説明

### *BurstFlag*

レポートバーストを有効にするかどうかを指定する値です。レポートバーストを使用すると、主ソートフィールドに基づいて 1 つのレポートを複数のセクションに分割することができます。分割したレポートセクションは、Distribution Server から個別のレポートとして配信されます。これらのレポートセクションへのアクセスは、配信リストの Email アドレスまたは ReportLibrary アクセスリストのユーザ ID に関連付けられたバースト値 (主ソートフィールドの固有の値) により異なります。

### *TaskDescription*

タスクの説明に使用するテキストです。説明の最大サイズは 255 バイトです。

### *ServerUserid*

WebFOCUS Reporting Server への接続を確立する際に必要なユーザ名です。このユーザ名は、ユーザがスケジュール実行時に WebFOCUS Reporting Server に常駐する WebFOCUS プロシジャにアクセスしたり、ジョブの実行時にこのプロシジャを実行したりする際に必要な認証情報の 1 つです。セキュリティが設定されていない Reporting Server を使用する場合でも、この設定の値を指定する必要があります。

### *ServerPassword*

WebFOCUS Reporting Server への接続を確立する際に必要なパスワードです。このパスワードは、各ユーザがスケジュール実行時に WebFOCUS Reporting Server に常駐する WebFOCUS プロシジャにアクセスしたり、ジョブの実行時にこのプロシジャを実行したりする際に必要な認証情報の 1 つです。

### *FirstPostProcedure*

使用可能な 2 つの実行後プロシジャのうち、最初のプロシジャの名前です。実行後プロシジャ (WebFOCUS サーバプロシジャおよび WebFOCUS レポートで使用可能) は、関連するタスクの実行後に同期的に実行される、レポート作成を目的としない WebFOCUS プロシジャです。通常、実行後プロシジャは、演算環境またはデータ環境の再設定に使用します。

### *FirstPreProcedure*

使用可能な 2 つの実行前プロシジャのうち、最初のプロシジャの名前です。実行前プロシジャ (WebFOCUS サーバプロシジャおよび WebFOCUS レポートで使用可能) は、関連するタスクの実行前に同期的に実行される、レポート作成を目的としない WebFOCUS プロシジャです。通常、実行前プロシジャは、レポートの実行前に条件を設定またはテストする目的で使用されます。



#### *ProcedureName*

実行する WebFOCUS サーバプロシジャのフルパスです。たとえば、「ibisamp/carinst」のように指定します。

#### *ReportName*

出力を添付ファイルとして送信する際のファイル名です。レポート名の最大サイズは 64 バイトです。

#### *SecondPostProcedure*

使用可能な 2 つの実行後プロシジャのうち、2 つ目のプロシジャの名前です。実行後プロシジャ (WebFOCUS サーバプロシジャおよび WebFOCUS レポートで使用可能) は、関連するタスクの実行後に同期的に実行される、レポート作成を目的としない WebFOCUS プロシジャです。通常、実行後プロシジャは、演算環境またはデータ環境の再設定に使用しません。

#### *SecondPreProcedure*

使用可能な 2 つの実行前プロシジャのうち、2 つ目のプロシジャの名前です。実行前プロシジャ (WebFOCUS サーバプロシジャおよび WebFOCUS レポートで使用可能) は、関連するタスクの実行前に同期的に実行される、レポート作成を目的としない WebFOCUS プロシジャです。通常、実行前プロシジャは、レポートの実行前に条件を設定またはテストする目的で使用されます。

#### *SendFormat*

WebFOCUS Reporting Server により生成されるレポートフォーマットです。たとえば、PDF、HTML、AHTML、EXL07、DFIX DELIMITER、COM があります。

#### *ServerName*

このタスクに関連付けられた WebFOCUS プロシジャの実行に使用する WebFOCUS Reporting Server の名前です。

#### *NumberOfParameters*

WebFOCUS レポートに送信されるパラメータの数です。

#### *IndexValue*

0 (ゼロ) を初期値として、WebFOCUS レポートに送信されるパラメータごとに 1 ずつ増加する値です。

#### *ParameterName*

WebFOCUS レポートに送信されるパラメータの名前です。名前の最大長は 64 バイトです。

### *ParameterValue*

WebFOCUS レポートに送信されるパラメータ (ParameterName) に関連付けるパラメータ値です。値の最大長は 255 バイトです。

## ファイル

[ファイル] を選択すると、ReportCaster Distribution Server が読み取り権限を所有する、完全修飾パスで指定されたファイルの配信をスケジュールすることができます。

### 本文のフォーマット

```
<taskList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleTask" size="1">
  <item deleteFileAfterRetrieval="DeleteFile" description="TaskDescription"
        enabled="true" index="0" procedureName="FileLocation"
        reportName="ReportName" />
</taskList>
```

### 説明

#### *DeleteFile*

ファイルを削除するかどうかを指定します。

true に設定すると、ProcedureName で指定したファイルが配信後に削除されます。

false に設定すると、ProcedureName で指定したファイルは配信後に削除されません。

#### *TaskDescription*

タスクの説明に使用するテキストです。説明の最大サイズは 255 バイトです。

#### *FileLocation*

配信するファイルのフルパスです。たとえば、「C:\Documentation\HTML  
\REST\_Documentation\_version\_2.html」のように指定します。

#### *ReportName*

出力を添付ファイルとして送信する際のファイル名です。

## FTP

[FTP] を選択すると、任意の FTP サーバに存在するファイルの配信をスケジュールすることができます。

### 本文のフォーマット

```
<taskList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleTask" size="1">
  <item deleteAfterRetrieval="DeleteFile" description="TaskDescription"
    enabled="true" index="0" password="FTPpass"
    passwordAuthEnabled="passwordFlag" procedureName="FileLocation"
    publicKeyAuthEnabled="publicFlag" reportName="ReportName"
    sendFormat="SendFormat"
    serverName="FTPserver" sftpEnabled="SFTPflag" userName="FTPuser"/>
</taskList>
```

## 説明

### *DeleteFile*

ファイルを削除するかどうかを指定します。

true に設定すると、ProcedureName で指定したファイルが配信後に削除されます。

false に設定すると、ProcedureName で指定したファイルは配信後に削除されません。

### *TaskDescription*

タスクの説明に使用するテキストです。説明の最大サイズは 255 バイトです。

### *FTPpass*

FTP サーバでの認証に必要なパスワードです。FTP パスワードは、Distribution Server が FTP サーバにアクセスする際に必要な認証情報の一部です。

### *passwordFlag*

パスワード認証です。

SFTPflag を true に設定し、passwordFlag を true に設定した場合、パスワード認証が有効になります。

SFTPflag を true に設定し、passwordFlag を false に設定した場合、パスワード認証が無効になります。

### *FileLocation*

配信するファイルのフルパスです。たとえば、「outgoing\HTML  
\REST\_Documentation\_version\_2.html」のように指定します。

### *publicFlag*

パブリックキー認証です。

SFTPflag を true に設定し、publicFlag を true に設定した場合、パブリックキー認証が有効になります。

SFTPflag を true に設定し、publicFlag を false に設定した場合、パブリックキー認証が無効になります。

### *ReportName*

出力を添付ファイルとして送信する際のファイル名です。

### *SendFormat*

WebFOCUS Reporting Server により生成されるレポートフォーマットです。たとえば、PDF、HTML、AHTML、EXL07、DFIX DELIMITER、COM があります。

### *FTPserver*

配信するファイルが存在する FTP サーバの名前です。

### *SFTPflag*

セキュア SSH ファイル転送プロトコル (SFTP) です。

true に設定した場合、FTP サーバにセキュア SSH ファイル転送プロトコル (SFTP) が必要です。

false に設定した場合、FTP サーバにセキュア SSH ファイル転送プロトコル (SFTP) は必要ありません。

### *FTPuser*

FTP サーバでの認証に必要なユーザ名です。FTP パスワードは、Distribution Server が FTP サーバにアクセスする際に必要な認証情報の一部です。

## URL

[URL] を選択すると、実行時に ReportCaster が指定済みの URL に接続し、その URL から返されるページを取得した上で、そのページを配信します。このタスクを使用して、任意のタイプの URL を呼び出すことができます。たとえば、JSP および ASP ページで実行するプログラムや、他のレポートプログラムで生成されたレポートがあります。

### 本文のフォーマット

```
<taskList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleTask" size="1">
  <item description="TaskDescription" enabled="true" index="0"
password="Password" reportName="ReportName" urlString="URLstring"
userName="Username"> <parameterList _jt="array"
itemsClass="CasterScheduleParameter" size="1">
  <item _jt="CasterScheduleParameter" enabled="true" index="IndexValue"
name="ParameterName" value="ParameterValue" />
  </parameterList>
</item>
</taskList>
```

## 説明

### *TaskDescription*

タスクの説明に使用するテキストです。説明の最大サイズは 255 バイトです。

### *Password*

URL の Web サーバへのアクセスに必要なパスワードです。このパスワードは、HTTP ヘッダに埋め込まれて送信されます。

### *ReportName*

出力を添付ファイルとして送信する際のファイル名です。

### *URLstring*

配信する Web ページの URL です。

### *Username*

URL の Web サーバへのアクセスに必要なユーザ名です。このユーザ名は、HTTP ヘッダに埋め込まれて送信されます。

### *IndexValue*

0 (ゼロ) を初期値として、Web ページに送信されるパラメータごとに 1 ずつ増加する値です。

### *ParameterName*

Web ページに送信されるパラメータの名前です。名前の最大長は 64 バイトです。

### *ParameterValue*

Web ページに送信されるパラメータ (ParameterName) に関連付けるパラメータ値です。値の最大長は 255 バイトです。

## 終了タグ

次の終了タグを使用する必要があります。

```
</casterObject></rootObject>
```

## 例 1 - スケジュールの作成

次の例では、「Sales\_Report\_by\_Country」という WebFOCUS レポートを UTC の 2012 年 12 月 17 日 15 時 0 分 0 秒に一度だけ実行する REST\_Schedule スケジュールを作成し、その出力を ReportLibrary に配信します。レポートは、COUNTRY パラメータが ENGLAND に設定され、DEALER\_COST パラメータが 10000 に設定された上で実行されます。

## POST リクエスト URL のフォーマット

http://localhost:8080/ibi\_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful\_Web\_Services/  
Car\_Reports/REST\_Schedule.sch

### 本文のフォーマット

```
IBIRS_action=put&IBIRS_replace=false&IBIRS_object=
<rootObject _jt="IBFSCasterObject" description="Schedule Created through REST"
type="CasterSchedule">
  <casterObject _jt="CasterSchedule" active="true" deleteJobAfterRun="false"
description="Schedule Created through REST" owner="admin" priority="3" traceType="0">

    <notification _jt="CasterScheduleNotification" addressForBriefNotification=""
addressForFullNotification="" description="" from="" subject="" type="INACTIVE"/>
    <distributionList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleDistribution" size="1">
      <item accessListFullPath="" accessType="OWNER" category=""
compressionEnabled="false"
description="Report Library" destinationPath="IBFS:/WFC/Repository/
RESTful_Web_Services/Car_Reports" enabled="true" expirationData="1"
expirationMode="N" index="0" valueonly="false">
        <storageLibraryEmail authEnabled="false" authPassword="" authUserId=""
libraryURL="http://localhost:8080/ibi_apps/library/report.rc" mailFrom=""
mailMessage="" mailReplyAddress="" mailServerName="ibismtp.ibi.com"
mailSubject="" sendEmailAfterSaveReport="false" sslEnabled="false"
tlsEnabled="false"/>
      </item>
    </distributionList>
    <timeInfoList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleTimeInfo" size="1">
      <item description="" enabled="true" index="0" name="">
        <startTime _jt="calendar" time="1355756400000"/>
      </item>
    </timeInfoList>
    <taskList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleTask" size="1">
      <item alertEnabled="false" burst="true" description="Task 1" domainHREF=""
enabled="true"
execId="guest" execPassword="guest" firstPostProcessingProcedure=""
firstPreProcessingProcedure="" index="0" procedureDescription=""
procedureName="IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/
Sales_Report_by_Country.fex" reportName="car_sales.htm"
secondPostProcessingProcedure="" secondPreProcessingProcedure=""
sendFormat="HTML" serverName="EDASERVE">
        <parameterList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleParameter" size="2">

          <item _jt="CasterScheduleParameter" enabled="true" index="0" name="COUNTRY"
value="ENGLAND"/>
          <item _jt="CasterScheduleParameter" enabled="true" index="1"
name="DEALER_COST" value="10000"/>
        </parameterList>
      </item>
    </taskList>
  </casterObject>
</rootObject>
```

## レスポンス

```

<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSresponseObject" language="EN" name="put" returncode="10000"
returnndesc="SUCCESS" subreturncode="0"
  subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfsparams size="5">
    <entry key="IBIRS_replace" value="false"/>
    <entry key="IBIRS_private" value="__null"/>
    <entry key="IBIRS_object" value="&lt;rootObject _jt=&quot;IBFSCasterObject&quot;
description=&quot;Schedule Created through REST&quot;
type=&quot;CasterSchedule&quot;&gt;
      &lt;casterObject _jt=&quot;CasterSchedule&quot; active=&quot;true&quot;
deleteJobAfterRun=&quot;false&quot;
description=&quot;Schedule Created through REST&quot;
owner=&quot;admin&quot; priority=&quot;3&quot;
traceType=&quot;0&quot;&gt; &lt;notification
_jt=&quot;CasterScheduleNotification&quot; addressForBriefNotification=&quot;&quot;
addressForFullNotification=&quot;&quot; description=&quot;&quot;
from=&quot;&quot; subject=&quot;&quot;
type=&quot;INACTIVE&quot; //&gt; &lt;distributionList _jt=&quot;array&quot;
itemsClass=&quot;CasterScheduleDistribution&quot;
size=&quot;1&quot;&gt;&lt;item accessListFullPath=&quot;&quot;
accessType=&quot;OWNER&quot; category=&quot;&quot;
class=&quot;ibi.broker.api.data.schedule.StorageLibrary&quot;
compressionEnabled=&quot;false&quot;
description=&quot;Report
Library&quot;destinationPath=&quot;IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/
Car_Reports&quot;
enabled=&quot;true&quot; expirationData=&quot;1&quot;
expirationMode=&quot;N&quot; index=&quot;0&quot;
valueonly=&quot;false&quot;&gt;&lt;storageLibraryEmail
authEnabled=&quot;false&quot; authPassword=&quot;&quot;
authUserId=&quot;&quot;
class=&quot;ibi.broker.api.data.schedule.StorageLibraryEmail&quot;
libraryURL=&quot;http://localhost:8080/ibi_apps/library/report.rc&quot;
mailFrom=&quot;&quot; mailMessage=&quot;&quot;
mailReplyAddress=&quot;&quot; mailServerName=&quot;ibismtp.ibi.com&quot;
mailSubject=&quot;&quot;
sendEmailAfterSaveReport=&quot;false&quot; sslEnabled=&quot;false&quot;
tlsEnabled=&quot;false&quot; //&gt;&lt;/item&gt;&lt;/distributionList&gt;
&lt;timeInfoList _jt=&quot;array&quot;
itemsClass=&quot;CasterScheduleTimeInfo&quot; size=&quot;
1&quot;&gt;&lt;item class=&quot;ibi.broker.api.data.schedule.TimeInfoOnce&quot;
description=&quot;&quot; enabled=&quot;true&quot; index=&quot;0&quot;
name=&quot;&quot;&gt;&lt;startTime _jt=&quot;calendar&quot;

```

```

time=&quot;135575640000&quot;/&gt;&lt;/item&gt;&lt;/timeInfoList&gt; &lt;taskList
_jt=&quot;array&quot;
    itemsClass=&quot;CasterScheduleTask&quot; size=&quot;1&quot;&gt;&lt;item
alertEnabled=&quot;false&quot; burst=&quot;true&quot;
    class=&quot;ibi.broker.api.data.schedule.TaskStandardReport&quot;
description=&quot;Task 1&quot; domainHref=&quot;&quot;
    enabled=&quot;true&quot; execId=&quot;guest&quot;
    execPassword=&quot;guest&quot; firstPostProcessingProcedure=&quot;&quot;
firstPreProcessingProcedure=&quot;&quot;
    index=&quot;0&quot; procedureDescription=&quot;&quot;
    procedureName=&quot;IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/
Car_Reports/Sales_Report_by_Country.fex&quot;
    reportName=&quot;car_sales.htm&quot;
secondPostProcessingProcedure=&quot;&quot; secondPreProcessingProcedure=&quot;&quot;
    sendFormat=&quot;HTML&quot;
serverName=&quot;EDASERVE&quot;&gt;&lt;parameterList _jt=&quot;array&quot;
    itemsClass=&quot;CasterScheduleParameter&quot; size=&quot;
2&quot;&gt;&lt;item _jt=&quot;CasterScheduleParameter&quot;
    enabled=&quot;true&quot; index=&quot;0&quot; name=&quot;COUNTRY&quot;
    value=&quot;ENGLAND&quot;/&gt;&lt;item
_jt=&quot;CasterScheduleParameter&quot; enabled=&quot;true&quot; index=&quot;1&quot;
    name=&quot;DEALER_COST&quot; value=&quot;10000&quot;/&gt;&lt;/
parameterList&gt;&lt;/item&gt;&lt;/taskList&gt;
    &lt;/casterObject&gt;&lt;/rootObject&gt; "/>
    <entry key="IBIRS_args" value="__null"/>
    <entry key="IBIRS_" value="/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/
REST_Schedule.sch"/>
    </ibfsparams>
    <rootObject _jt="IBFSCasterObject" defaultLng="en_US" description="Schedule Created
through REST" dummy="false" extension="sch"
        externalId="Sebc72ee3sd148s41ees8a8fs9c92340b99bb" fullPath="/WFC/Repository/
RESTful_Web_Services/Car_Reports/REST_Schedule.sch"
        handle="9f013bcaI357fI4c69Ib7ceIle96775f72cb" length="0"
name="REST_Schedule.sch" policy="///D///9+f/////f/////////8AAAA="
        rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services
/Car_Reports/REST_Schedule.sch" type="CasterSchedule">
        <nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
            <entry>
                <key _jt="string" value="en_US"/>
                <value _jt="ArrayList" size="1">
                    <item _jt="string" index="0" value="Schedule Created through REST"/>
                </value>
            </entry>
        </nlsValues>
    </properties size="2">
        <entry key="id" value="Sebc72ee3sd148s41ees8a8fs9c92340b99bb"/>
        <entry key="tool" value="schedule"/>

```



```

</properties>
<casterObject _jt="CasterSchedule" active="false"
compressedReport="false" deleteJobAfterRun="false"
description="Schedule Created through REST" destinationAddress="OWNER"
ibfsId="9f013bca1357f14c691b7ce11e96775f72cb"
  ibfsPath="" id="Sebc72ee3sd148s41ees8a8fs9c92340b99bb" name=""
nextRunTime="disabled" notification="INACTIVE"
  owner="admin"
policy="open,delete,rename,|,run,|,security;makeRules;viewRules" priority="3"
recurrence="0"
  scheduleId="Sebc72ee3sd148s41ees8a8fs9c92340b99bb" scheduleTitle="Schedule
Created through REST" sendMethod="LIBRARY"
  statusLastExecuted="" summary="" taskType="1" traceType="0"><notification
_jt="CasterScheduleNotification"
  addressForBriefNotification="" addressForFullNotification="" description=""
from="" subject="" type="INACTIVE"/>
  <distributionList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleDistribution" size="1">
    <item accessList="" accessListFullPath="" accessType="OWNER" category=""
      compressionEnabled="false" counter="0" description="Report Library"
destinationIbfsId="c60b1f9a_05ef_4e72_a737_e869917607db"
      destinationPath="IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services
/Car_Reports" enabled="true" expirationData="1" expirationMode="N"
      id="De465359cddf8fd41d2da9f3d1fd0080f2220" index="0" type="LIBRARY"
valueonly="false">
      <storageLibraryEmail authEnabled="false" authPassword="" authUserId=""
        libraryURL="http://localhost:8080/ibi_apps/library/report.rc"
mailFrom="" mailMessage="" mailReplyAddress=""
        mailServerName="ibismtp.ibi.com" mailSubject=""
sendEmailAfterSaveReport="false" sslEnabled="false" tlsEnabled="false"/>
    </item>
  </distributionList>
  <timeInfoList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleTimeInfo" size="1">
    <item description="" enabled="true" id="Iace3d448i9197i4611i927di2969f6607559"
      index="0" name="" type="0">
      <nextRunTime _jt="calendar" time="1355756400000"/>

```

```

        <startTime _jt="calendar" time="1355756400000"/>
    </item>
</timeInfoList>
<taskList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleTask" size="1">
    <item alertEnabled="false" burst="true" description="Task 1" domainHref=""
        enabled="true" execId="guest" execPassword="guest"
firstPostProcessingProcedure="" firstPreProcessingProcedure=""
        folderHref="" id="T65819f8at8felt4db5t9c10t07c10277175b" index="0"
procedureDescription=""
        procedureId="64e971c8_fd80_4d07_99a7_a2356743010b"
procedureName="IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/
Sales_Report_by_Country.fex" reportName=
        "car_sales.htm"
        secondPostProcessingProcedure="" secondPreProcessingProcedure=""
sendFormat="HTML" serverName="EDASERVE" type="1">
    <parameterList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleParameter" size="2">
        <item _jt="CasterScheduleParameter" enabled="true" index="0"
name="COUNTRY" type="0" value="ENGLAND"/>
        <item _jt="CasterScheduleParameter" enabled="true" index="1"
name="DEALER_COST" type="0" value="10000"/>
    </parameterList>
    </item>
</taskList>
<lastTimeExecuted _jt="calendar" time="18000000"/>
</casterObject>
</rootObject>
</ibfsrpc>

```

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、スケジュールは正しく追加されています。

## 例 2 - スケジュールの更新

次の例では、「Sales\_Report\_by\_Country」という WebFOCUS レポートを UTC の 2012 年 12 月 17 日 15 時 0 分 0 秒に一度だけ実行する REST\_Schedule スケジュールを更新し、その出力を ReportLibrary に配信します。レポートは、COUNTRY パラメータが ENGLAND に設定され、DEALER\_COST パラメータが 10000 に設定された上で実行されます。

既存のスケジュールを取得するには、次の REST URL を使用します。

```

http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/
REST_Schedule.sch?IBIRS_action=get

```

### POST リクエスト URL のフォーマット

```

http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/
RESTful_Web_Services/Car_Reports/REST_Schedule.sch

```

### 本文のフォーマット

```

IBIRS_action=put&IBIRS_replace=true&IBIRS_object=
  <rootObject _jt="IBFSCasterObject" binary="false" createdOn="1350492747568"
defaultLng="en_US" description="Schedule Created through REST"
  dummy="false" effectiveRSName="EDASERVE" extension="sch"
externalId="Sebc72ee3sd148s41ees8a8fs9c92340b99bb"
fullPath="IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/REST_Schedule.sch"
handle="9f013bcaI357fI4c69Ib7ceI1e96775f72cb"
  lastModified="1350492747568" lastaccessBy="admin"
lastaccessOn="1350492822549" length="0" name="REST_Schedule.sch" ownerId="10001"
  ownerName="admin" ownerType="U" policy="//3/D//9+f7////f/////////8AAAA="
returnedLng="en_US"
  rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/
Car_Reports/REST_Schedule.sch" signedOn="true" type="CasterSchedule">
  <nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
    <entry>
      <key _jt="string" value="en_US"/>
      <value _jt="ArrayList" size="2">
        <item _jt="string" index="0" value="Schedule Created through REST"/>
      </value>
    </entry>
  </nlsValues>
  <properties size="2"><
    <entry key="id" value="Sebc72ee3sd148s41ees8a8fs9c92340b99bb"/>
    <entry key="tool" value="schedule"/>
  </properties>
  <casterObject _jt="CasterSchedule" active="false"
compressedReport="false" deleteJobAfterRun="false"
  description="Schedule Created through REST" destinationAddress="OWNER"
ibfsId="9f013bcaI357fI4c69Ib7ceI1e96775f72cb"
  ibfsPath="IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports"
id="Sebc72ee3sd148s41ees8a8fs9c92340b99bb"
  name="REST_Schedule.sch" nextRunTime="disabled" notification="INACTIVE"
owner="admin"
policy="open,delete,rename,|,run,|,security;makeRules;viewRules" priority="3"
recurrence="0"
  scheduleId="Sebc72ee3sd148s41ees8a8fs9c92340b99bb" scheduleTitle="Schedule
Created through REST" sendMethod="LIBRARY"
  statusLastExecuted="" taskType="1" traceType="0">
  <notification _jt="CasterScheduleNotification" addressForBriefNotification=""
addressForFullNotification="" description=""
  from="" id="" subject="" type="INACTIVE"/>
  <distributionList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleDistribution" size="1">

```

```

    <item accessList="" accessListFullPath="" accessType="OWNER" category=""
        compressionEnabled="false" counter="0" description="Report Library"
destinationIbfsId="c60blf9a_05ef_4e72_a737_e869917607db"
destinationPath="IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports" enabled="true"
expirationData="1" expirationMode="N"
        id="De465359cddf8fd41d2da9f3d1fd0080f2220" index="0" type="LIBRARY"
valueonly="false">
        <storageLibraryEmail authEnabled="false" authPassword="" authUserId=""
            libraryURL="http://localhost:8080/ibi_apps/library/report.rc"
mailFrom="" mailMessage="" mailReplyAddress=""
            mailServerName="ibismtp.ibi.com" mailSubject=""
sendEmailAfterSaveReport="false" sslEnabled="false" tlsEnabled="false"/>
    </item>
</distributionList>
<timeInfoList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleTimeInfo" size="1">
    <item description="" enabled="true" id="Iace3d448i9197i4611i927di2969f6607559"
        index="0" name="" type="0">
        <nextRunTime _jt="calendar" time="1355756400000"/>
    <startTime _jt="calendar" time="1355756400000"/>
    </item>
</timeInfoList>
<taskList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleTask" size="1">
    <item alertEnabled="false" burst="true" description="Task 1" domainHREF=""
        enabled="true" execId="guest" execPassword=""
firstPostProcessingProcedure="" firstPreProcessingProcedure="" folderHREF=""
        id="T65819f8at8felt4db5t9c10t07c10277175b" index="0"
procedureDescription="" procedureId="64e971c8_fd80_4d07_99a7_a2356743010b"
        procedureName="IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/
Car_Reports/Sales_Report_by_Country.fex" reportName="car_sales.htm"
        secondPostProcessingProcedure="" secondPreProcessingProcedure=""
sendFormat="HTML" serverName="EDASERVE" type="1">
        <parameterList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleParameter" size="2">
            <item _jt="CasterScheduleParameter" enabled="true" index="0"
name="COUNTRY" type="0" value="ENGLAND"/>
            <item _jt="CasterScheduleParameter" enabled="true" index="1"
name="DEALER_COST" type="0" value="10000"/>
        </parameterList>
    </item>
</taskList>
<lastTimeExecuted _jt="calendar" time="18000000"/>
</casterObject>
</rootObject>

```

## レスポンス

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、スケジュールは正しく更新されていません。

## スケジュールの実行

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、既存の ReportCaster スケジュールを実行することができます。

## HTTP メソッド POST

### REST URL のフォーマット

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/ScheduleName
```

#### 説明

##### *host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

##### *port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

##### *FolderName*

ReportCaster スケジュールが格納されているフォルダの名前です。ReportCaster スケジュールが格納されているフォルダがサブフォルダの場合、REST URL にそのサブフォルダまでのパスを入力する必要があります。たとえば、「TopFolderName/SubFolderName」のように指定します。

##### *ScheduleName*

実行する ReportCaster スケジュールの名前です。拡張子 .sch を含める必要があります。

### 本文のフォーマット

```
IBIRS_action=run
```

#### 例

次の例は、「REST\_Schedule」という ReportCaster スケジュールを実行する方法を示しています。

### POST リクエスト URL

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/  
Car_Reports/REST_Schedule.sch
```

#### 本文

```
IBIRS_action=run
```

#### レスポンス

ジョブ番号は HTML フォーマットで返されます。以下はその例です。

```
J453ce7a4je11bj48ffj832ej9053e5377495
```

## スケジュールの取得

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、既存の ReportCaster スケジュールを取得することができます。

**HTTP メソッド** GET

**REST URL のフォーマット**

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/  
ScheduleName?IBIRS_action=get
```

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*FolderName*

ReportCaster スケジュールが格納されているフォルダの名前です。ReportCaster スケジュールが格納されているフォルダがサブフォルダの場合、REST URL にそのサブフォルダまでのパスを入力する必要があります。たとえば、「TopFolderName/SubFolderName」のように指定します。

*ScheduleName*

取得する ReportCaster スケジュールの名前です。拡張子 .sch を含める必要があります。

例

次の例では、RESTful\_Web\_Services フォルダ下の Car\_Reports フォルダから、「REST\_Schedule.sch」というスケジュールが取得されます。

リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/  
Car_Reports/REST_Schedule.sch?IBIRS_action=get
```

レスポンス

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="get" returncode="10000"
returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfparams size="2">
    <entry key="IBIRS_args" value="__null"/>
    <entry key="IBIRS_" value="/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/
REST_Schedule.sch"/>
  </ibfparams>
  <rootObject _jt="IBFSCasterObject" binary="false" createdOn="1356718595487"
defaultLng="en_US" description="Schedule Created through REST"
  dummy="false" effectiveRSName="EDASERVE" extension="sch"
externalId="S1995b2ecsa8f6s4096sa62es1867fa2d7a85"
fullPath="IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/REST_Schedule.sch"
handle="7c2fd2a3I2dbcI400dIb666I3512e8d8b89f"
  lastModified="1356718595487" lastaccessBy="admin" lastaccessOn="1356719962891"
length="0" name="REST_Schedule.sch" ownerId="10001"
  ownerName="admin" ownerType="U" policy="//3/D///9+P9///v////////+AAAA="
returnedLng="en_US"
rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/
REST_Schedule.sch" type="CasterSchedule">
  <nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
    <entry>
      <key _jt="string" value="en_US"/>
      <value _jt="ArrayList" size="2">
        <item _jt="string" index="0" value="Schedule Created through REST"/>
      </value>
    </entry>
  </nlsValues>
  <properties size="2">
    <entry key="id" value="S1995b2ecsa8f6s4096sa62es1867fa2d7a85"/>
    <entry key="tool" value="schedule"/>
  </properties>
  <casterObject _jt="CasterSchedule" active="false" compressedReport="false"
deleteJobAfterRun="false"
  description="Schedule Created through REST" destinationAddress="OWNER"
ibfsId="7c2fd2a3I2dbcI400dIb666I3512e8d8b89f"
  ibfsPath="IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports"
id="S1995b2ecsa8f6s4096sa62es1867fa2d7a85"
  name="REST_Schedule.sch" nextRunTime="disabled" notification="INACTIVE"
owner="admin"
  policy="open,delete,rename,|,run,|,security;makeRules;viewRules"
priority="3" recurrence="0"
  scheduleId="S1995b2ecsa8f6s4096sa62es1867fa2d7a85" scheduleTitle="Schedule
Created through REST" sendMethod="LIBRARY"
  statusLastExecuted="" taskType="1" traceType="0">
  <notification _jt="CasterScheduleNotification"

```

```

addressForBriefNotification="" addressForFullNotification="" description=""
  from="" id="" subject="" type="INACTIVE"/>
  <distributionList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleDistribution" size="1">
    <item accessList="" accessListFullPath="" accessType="OWNER" category=""
      compressionEnabled="false" counter="0" description="Report Library"
      destinationIbfsId="c60b1f9a_05ef_4e72_a737_e869917607db"
      destinationPath="IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports"
      disabled="false" expirationData="1" expirationMode="N"
      id="D58215579d4885d4b5eda023d9f44d1b4da01" index="0" type="LIBRARY"
      valueonly="false">
      <storageLibraryEmail authEnabled="false" authPassword="" authUserId=""
        libraryURL="http://localhost:8080/ibi_apps/library/report.rc"
        mailFrom="" mailMessage="" mailReplyAddress=""
        mailServerName="ibismtp.ibi.com" mailSubject=""
        sendEmailAfterSaveReport="false" sslEnabled="false" tlsEnabled="false"/>
    </item>
  </distributionList>
  <timeInfoList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleTimeInfo" size="1">
    <item description="" disabled="false"
      id="Ifc777178ilab0i42faibd06i81df82c234e7"
      index="0" name="" type="0">
      <nextRunTime _jt="calendar" time="1355756400000" timeZone="America/New_York"/>
      <startTime _jt="calendar" time="1355756400000" timeZone="America/New_York"/>
    </item>
  </timeInfoList>
  <taskList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleTask" size="1">
    <item alertEnabled="false" burst="true" description="Task 1" disabled="false"
      domainHREF="" execId="guest" execPassword=""
      firstPostProcessingProcedure="" firstPreProcessingProcedure="" folderHREF=""
      id="Tcdde20bdt3305t436ata200tecd3367ad16f" index="0"
      procedureDescription=""
      procedureId="64e971c8_fd80_4d07_99a7_a2356743010b"
      procedureName="IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/
      Car_Reports/Sales_Report_by_Country.fex" reportName="car_sales.htm"
      secondPostProcessingProcedure="" secondPreProcessingProcedure=""
      sendFormat="HTML" serverName="EDASERVE" type="1">
      <parameterList _jt="array" itemsClass="CasterScheduleParameter" size="2">
        <item _jt="CasterScheduleParameter" index="0" name="COUNTRY" type="0"
          useDefaultValue="false" value="ENGLAND"/>
        <item _jt="CasterScheduleParameter" index="1" name="DEALER_COST" type="0"
          useDefaultValue="false" value="10000"/>
      </parameterList>
    </item>
  </taskList>
  <lastTimeExecuted _jt="calendar" time="18000000" timeZone="America/New_York"/>
</casterObject>
</rootObject>
</ibfsrpc>

```



## スケジュールの削除

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、既存の ReportCaster スケジュールを削除することができます。

**HTTP メソッド** DELETE

**REST URL のフォーマット**

```
http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/ScheduleName?  
IBIRS_action=delete
```

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*FolderName*

ReportCaster スケジュールが格納されているフォルダの名前です。ReportCaster スケジュールが格納されているフォルダがサブフォルダの場合、REST URL にそのサブフォルダまでのパスを入力する必要があります。たとえば、「TopFolderName/SubFolderName」のように指定します。

*ScheduleName*

削除する ReportCaster スケジュールの名前です。拡張子 .sch を含める必要があります。

例

次の例では、RESTful\_Web\_Services フォルダ下の Car\_Reports フォルダから、「REST\_Schedule.sch」という ReportCaster スケジュールが削除されます。

リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/  
Car_Reports/REST_schedule.sch?IBIRS_action=delete
```

レスポンス

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="delete" returncode="10000"
returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfparams size="2">
    <entry key="IBIRS_args" value="__null"/>
    <entry key="IBIRS_" value="/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/
REST_schedule.sch"/>
  </ibfparams>
  <rootObject _jt="IBFSCasterObject" binary="false" createdOn="1355156594727"
defaultLng="en_US" description="Schedule Created through REST"
dummy="false" extension="sch" externalId="Sdc748ba8s5ff1s4390sb3cls3777d7686d9f"
fullPath="IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/
Car_Reports/REST_Schedule.sch" handle="4b4c8010Ib22cI4609I9c41Ie7102db522b1"
lastModified="1356617719033" lastaccessBy="admin" lastaccessOn="1356623237446"
length="0" name="REST_Schedule.sch" ownerId="10001"
ownerName="admin" ownerType="U" policy="//3/D///9+P9///v/////////+AAAA="
returnedLng="en_US"
rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/
REST_Schedule.sch" type="CasterSchedule">
  <nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
    <entry>
      <key _jt="string" value="en_US"/>
      <value _jt="ArrayList" size="2">
        <item _jt="string" index="0" value="Schedule Created through REST"/>
      </value>
    </entry>
  </nlsValues>
  <properties size="2">
    <entry key="id" value="Sdc748ba8s5ff1s4390sb3cls3777d7686d9f"/>
    <entry key="tool" value="schedule"/>
  </properties>
</rootObject>
</ibfsrpc>

```

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、ReportCaster スケジュールは正しく削除されています。

## アドレス帳の削除

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、既存の ReportCaster アドレス帳を削除することができます。

**HTTP メソッド** DELETE

**REST URL のフォーマット**

`http://host:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/FolderName/AddressBookName/IBIRS_action=delete`

## 説明

### *host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

### *port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

### *FolderName*

ReportCaster アドレス帳が格納されているフォルダの名前です。 ReportCaster アドレス帳が格納されているフォルダがサブフォルダの場合、REST URL にそのサブフォルダまでのパスを入力する必要があります。たとえば、「TopFolderName/SubFolderName」のように指定します。

### *AddressBookName*

削除する ReportCaster アドレス帳の名前です。拡張子 .adr を含める必要があります。

## 例

次の例では、RESTful\_Web\_Services フォルダ下の Car\_Reports フォルダから、「REST\_Distribution\_List.adr」という ReportCaster アドレス帳が削除されます。

## リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/REST_Distribution_List.adr?IBIRS_action=delete
```

## レスポンス

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="EN" name="delete" returncode="10000"
returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" subsystem="SSYS" type="simple">
  <ibfsparams size="2">
    <entry key="IBIRS_args" value="__null"/>
    <entry key="IBIRS_" value="/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/
Car_Reports/REST_Distribution_List.adr"/>
  </ibfsparams>
  <rootObject _jt="IBFSCasterObject" binary="false" createdOn="1350862349237"
defaultLng="en_US" description="REST Distribution List"
dummy="false" extension="adr" externalId="1a7ddf0eIff6aI4886Ibde9I77c691d280a0"
fullPath="IBFS:/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/
Car_Reports/REST_Distribution_List.adr" handle="1a7ddf0eIff6aI4886Ibde9I77c691d280a0"
```

```
        lastModified="1350862989380" lastaccessBy="admin"
lastaccessOn="1356623807376" length="0" name="REST_Distribution_List.adr"
ownerId="10001"
    ownerName="admin" ownerType="U" policy="//3/D///9+P////v////////+AAAA="
returnedLng="en_US"
    rsPath="/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/
Car_Reports/REST_Distribution_List.adr" type="CasterDistributionList">
    <nlsValues _jt="HashMap" loadFactor="0.75" threshold="12">
        <entry>
            <key _jt="string" value="en_US"/>
            <value _jt="ArrayList" size="2">
                <item _jt="string" index="0" value="REST Distribution List"/>
            </value>
        </entry>
    </nlsValues>
<properties size="3">
    <entry key="id" value="1a7ddf0eIff6aI4886Ibde9I77c691d280a0"/>
    <entry key="tool" value="addressbook"/>
    <entry key="method" value="EMAIL"/>
</properties>
</rootObject>
</ibfsrpc>
```

XML レスポンスの returncode 属性値が 10000 の場合、ReportCaster アドレス帳は正しく削除されています。

## ログ機能

ここでは、さまざまな ReportCaster ログ機能に使用される RESTful Web サービスリクエストのフォーマットおよび構造について説明します。

### 特定ジョブのログ削除

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、指定したジョブの ReportCaster ログを削除することができます。

**HTTP メソッド** GET

**REST URL のフォーマット**

`http://host:port/ibi_apps/services/LogServiceREST/deleteLogByJobId?jobId=jobId`

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*jobId*

ReportCaster ジョブを識別する一意の ID です。

**例**

次の例では、ジョブ ID J34558adaj1b4dj4e6cjaddcj3745b2688f2c の ReportCaster ログが削除されます。

**リクエスト**

```
http://localhost:8080/ibi_apps/services/LogServiceREST/deleteLogByJobId?
jobId=J34558adaj1b4dj4e6cjaddcj3745b2688f2c
```

**レスポンス**

```
<ns:deleteLogByJobIdResponse xmlns:ns="http://ws.api.broker.ibi">
  <ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xsi:nil="true"/>
</ns:deleteLogByJobIdResponse>
```

**特定期間のログ削除**

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、指定した期間に実行されたスケジュールの ReportCaster ログをすべて削除することができます。

期間の開始時間を指定しない場合、終了時間以前のログレコードがすべて削除されます。

期間の終了時間を指定しない場合、開始時間以降のログレコードがすべて削除されます。

**HTTP メソッド GET****REST URL のフォーマット**

```
http://host:port/ibi_apps/services/LogServiceREST/deleteLogList?startTime=startTime&
endTime=endTime
```

**説明***host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*startTime*

ログ削除の開始時間です。次のフォーマットを使用する必要があります。

```
YYYY/MM/DD%20HH:MM:SS
```

*endTime*

ログ削除の終了時間です。次のフォーマットを使用する必要があります。

YYYY/MM/DD%20HH:MM:SS

## 例

次の例では、2014-02-20 11:00:00 から 2014-02-20 13:00:00 までの ReportCaster ログがすべて削除されます。

## リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/services/LogServiceREST/deleteLogList?
startTime=2014/02/20%2011:00:00&
endTime=2014/02/20%2013:00:00
```

## レスポンス

```
<ns:deleteLogListResponse xmlns:ns="http://ws.api.broker.ibi">
  <ns:return>2</ns:return>
</ns:deleteLogListResponse>
```

<return> 要素内の値は、削除された ReportCaster ログの個数を示しています。

## オーナーのログ削除

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、指定した期間に実行されたスケジュールの ReportCaster ログの中で、特定ログオーナーのログをすべて削除することができます。

期間の開始時間を指定しない場合、終了時間以前のログレコードがすべて削除されます。

期間の終了時間を指定しない場合、開始時間以降のログレコードがすべて削除されます。

## HTTP メソッド GET

## REST URL のフォーマット

```
http://host:port/ibi_apps/services/LogServiceREST/deleteLogListByOwner?owner=owner&
startTime=startTime&endTime=endTime
```

## 説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*owner*

ReportCaster ログのオーナーです。

*startTime*

ログ削除の開始時間です。次のフォーマットを使用する必要があります。

YYYY/MM/DD%20HH:MM:SS

*endTime*

ログ削除の終了時間です。次のフォーマットを使用する必要があります。

YYYY/MM/DD%20HH:MM:SS

**例**

次の例では、admin というログオーナーの ReportCaster ログの中で、2014-02-21 09:00:00 から 2014-02-21 10:00:00 までのログがすべて削除されます。

**リクエスト**

```
http://localhost:8080/ibi_apps/services/LogServiceREST/deleteLogListByOwner?
owner=admin&
startTime=2014/02/21%2009:00:00&endTime=2014/02/21%2010:00:00
```

**レスポンス**

```
<ns:deleteLogListByOwnerResponse xmlns:ns="http://ws.api.broker.ibi">
  <ns:return>2</ns:return>
</ns:deleteLogListByOwnerResponse>
```

<return> 要素内の値は、削除された ReportCaster ログの個数を示しています。

**スケジュール ID のログ削除**

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、スケジュール ID で識別されるスケジュールの ReportCaster ログをすべて削除することができます。

**HTTP メソッド GET****REST URL のフォーマット**

```
http://host:port/ibi_apps/services/LogServiceREST/deleteLogListByScheduleId?
scheduleId=scheduleId
```

**説明***host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*scheduleId*

ReportCaster スケジュールのスケジュール ID です。

## 例

次の例では、スケジュール ID S23f65030s728as482asa632s879fd9f6a727 の ReportCaster ログがすべて削除されます。

## リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/services/LogServiceREST/deleteLogListByScheduleId?
scheduleId=S23f65030s728as482asa632s879fd9f6a727
```

## レスポンス

```
<ns:deleteLogListByScheduleIdResponse xmlns:ns="http://ws.api.broker.ibi">
  <ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xsi:nil="true"/>
</ns:deleteLogListByScheduleIdResponse>
```

## 特定期間のスケジュール ID のログ削除

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、スケジュール ID で識別されるスケジュールの ReportCaster ログの中で、指定した期間に実行されたログをすべて削除することができます。

期間の開始時間を指定しない場合、終了時間以前のログレコードがすべて削除されます。

期間の終了時間を指定しない場合、開始時間以降のログレコードがすべて削除されます。

## HTTP メソッド GET

## REST URL のフォーマット

```
http://host:port/ibi_apps/services/LogServiceREST/deleteLogListByScheduleIdByCalendar?
scheduleId=scheduleId&
startTime=startTime&endTime=endTime
```

## 説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。



*scheduleId*

ReportCaster スケジュールのスケジュール ID です。

*startTime*

ログ削除の開始時間です。次のフォーマットを使用する必要があります。

YYYY/MM/DD%20HH:MM:SS

*endTime*

ログ削除の終了時間です。次のフォーマットを使用する必要があります。

YYYY/MM/DD%20HH:MM:SS

**例**

次の例では、スケジュール ID Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188 で識別されるスケジュールの ReportCaster ログの中で、2014-02-21 12:00:00 から 2014-02-21 13:00:00 までのログがすべて削除されます。

**リクエスト**

```
http://localhost:8080/ibi_apps/services/LogServiceREST/
deleteLogListByScheduleIdByCalendar?
scheduleId=Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188&
startTime=2014/02/21%2012:00:00&endTime=2014/02/21%2013:00:00
```

**レスポンス**

```
<ns:deleteLogListByScheduleIdByCalendarResponse xmlns:ns="http://ws.api.broker.ibi">
  <ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xsi:nil="true"/>
</ns:deleteLogListByScheduleIdByCalendarResponse>
```

**スケジュール ID の最新ログ取得**

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、スケジュール ID で識別されるスケジュールの最新 ReportCaster ログを取得することができます。

**HTTP メソッド GET****REST URL のフォーマット**

```
http://host:port/ibi_apps/services/LogServiceREST/getLastLogByScheduleId?
scheduleId=scheduleId
```

**説明***host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

---

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*scheduleId*

ReportCaster スケジュールのスケジュール ID です。

### 例

次の例では、スケジュール ID Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188 の最新 ReportCaster ログが取得されます。

### リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/services/LogServiceREST/getLastLogByScheduleId?
scheduleId=Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188
```

### レスポンス

```

<ns:getLastLogByScheduleIdResponse xmlns:ns="http://ws.api.broker.ibi">
  <ns:return xmlns:ax264="http://io.java/xsd" xmlns:ax263="http://rmi.java/xsd"
xmlns:ax267="http://dslog.data.api.broker.ibi/xsd" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema-instance" xmlns:ax261="http://schedule.data.api.broker.ibi/xsd"
xsi:type="ax267:DsLog">
  <ax267:IBFSObjectType>0</ax267:IBFSObjectType>
  <ax267:description xsi:nil="true"/>
  <ax267:endTime>2014-02-24T09:00:25.861-05:00</ax267:endTime>
  <ax267:errorType>0</ax267:errorType>
  <ax267:ibfsId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</ax267:ibfsId>
  <ax267:ibfsPath/>
  <ax267:id>J4ce5d61ejf6b2j441dja02ej084628360372</ax267:id>
  <ax267:jobId>J4ce5d61ejf6b2j441dja02ej084628360372</ax267:jobId>
  <ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
    <ax267:error>false</ax267:error>
    <ax267:execId xsi:nil="true"/>
    <ax267:message>Schedule Executed On Demand at IBI-Laptop:8201 (IBI-Laptop/
172.44.18.74)</ax267:message>
    <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
    <ax267:taskDescription xsi:nil="true"/>
    <ax267:time>2014-02-24T09:00:23.126-05:00</ax267:time>
    <ax267:warning>false</ax267:warning>
  </ax267:logElementList>
  <ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
    <ax267:error>false</ax267:error>
    <ax267:execId xsi:nil="true"/>
    <ax267:message>Job placed in the waiting queue at 2014-02-24
09:00:23.104-0500 (1,393,250,423,104)</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
    <ax267:taskDescription xsi:nil="true"/>
    <ax267:time>2014-02-24T09:00:23.140-05:00</ax267:time>
    <ax267:warning>false</ax267:warning>
  </ax267:logElementList>
  <ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
    <ax267:error>false</ax267:error>
    <ax267:execId xsi:nil="true"/>
    <ax267:message>Job started running at 2014-02-24 09:00:23.122-0500
(1,393,250,423,122)</ax267:message>

```

```

    <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
    <ax267:taskDescription xsi:nil="true"/>
    <ax267:time>2014-02-24T09:00:23.141-05:00</ax267:time>
    <ax267:warning>>false</ax267:warning>
  </ax267:logElementList>
  <ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
    <ax267:error>>false</ax267:error>
    <ax267:execId xsi:nil="true"/>
    <ax267:message>Job remained in waiting queue for 0.018 seconds</
ax267:message>
    <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
    <ax267:taskDescription xsi:nil="true"/>
    <ax267:time>2014-02-24T09:00:23.141-05:00</ax267:time>
    <ax267:warning>>false</ax267:warning>
  </ax267:logElementList>
  <ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
    <ax267:error>>false</ax267:error>
    <ax267:execId>guest</ax267:execId>
    <ax267:message>Starting task: Task 1</ax267:message>
    <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
    <ax267:taskDescription>ibisamp/carinst</ax267:taskDescription>
    <ax267:time>2014-02-24T09:00:23.752-05:00</ax267:time>
    <ax267:warning>>false</ax267:warning>
  </ax267:logElementList>
  <ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
    <ax267:error>>false</ax267:error>
    <ax267:execId>guest</ax267:execId>
    <ax267:message>Task type: EDA RPC</ax267:message>
    <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
    <ax267:taskDescription>ibisamp/carinst</ax267:taskDescription>
    <ax267:time>2014-02-24T09:00:23.752-05:00</ax267:time>
    <ax267:warning>>false</ax267:warning>
  </ax267:logElementList>
  <ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
    <ax267:error>>false</ax267:error>
    <ax267:execId>guest</ax267:execId>
    <ax267:message>Procedure name: ibisamp/carinst</ax267:message>
    <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
    <ax267:taskDescription>ibisamp/carinst</ax267:taskDescription>
    <ax267:time>2014-02-24T09:00:23.752-05:00</ax267:time>
    <ax267:warning>>false</ax267:warning>
  </ax267:logElementList>

```

```

<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId>guest</ax267:execId>
  <ax267:message>Connecting to server EDASERVE with execution id
  guest at 2014-02-24 09:00:23.753-0500 (1,393,250,423,753)</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>ibisamp/carinst</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-24T09:00:23.753-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId>guest</ax267:execId>
  <ax267:message>Connection to the Reporting Server EDASERVE
  established at 2014-02-24 09:00:24.323-0500 (1,393,250,424,323)</
  ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>ibisamp/carinst</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-24T09:00:24.323-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId>guest</ax267:execId>
  <ax267:message>The time to establish a connection to the
  Reporting Server EDASERVE was 0.57 seconds</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>ibisamp/carinst</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-24T09:00:24.325-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId>guest</ax267:execId>
  <ax267:message>Executing focexec.</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>ibisamp/carinst</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-24T09:00:24.351-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>

```

```

<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>>false</ax267:error>
  <ax267:execId>guest</ax267:execId>
  <ax267:message>0 HOLDING HTML FILE ON PC DISK .../</
ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>ibisamp/carinst</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-24T09:00:24.974-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>>false</ax267:error>
  <ax267:execId>guest</ax267:execId>
  <ax267:message>Connection to the Reporting Server EDASERVE
closed at 2014-02-24 09:00:25.040-0500 (1,393,250,425,040)</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>ibisamp/carinst</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-24T09:00:25.040-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>>false</ax267:error>
  <ax267:execId>guest</ax267:execId>
  <ax267:message>Job ran on the Reporting Server EDASERVE for
0.717 seconds</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>ibisamp/carinst</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-24T09:00:25.040-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>>false</ax267:error>
  <ax267:execId>guest</ax267:execId>
  <ax267:message>Task finished.</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>ibisamp/carinst</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-24T09:00:25.040-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Starting distribution: Report Library</
ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription xsi:nil="true"/>
  <ax267:time>2014-02-24T09:00:25.060-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>

```

```

<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Distribution method: Report Library</
ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription xsi:nil="true"/>
  <ax267:time>2014-02-24T09:00:25.060-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Report distributed to ReportLibrary
(Ld7e0274610c0514dc11a18f10d3d1d20d9a9) with the group id
Lc8f723df65ca6ceb2b86b264f4cfc14 at the version 15 </ax267:message>
  <ax267:messageCode>DS10001</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>Distribute</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-24T09:00:25.309-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Library access option "Private" is applied.</
ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>Distribute</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-24T09:00:25.309-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Retrieving email address list for library watch
list</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>Distribute</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-24T09:00:25.312-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>

```

```

<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Library Notification email sent to
myEmail@ibi.com</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>Distribute</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-24T09:00:25.639-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Distribution finished.</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>Distribute</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-24T09:00:25.642-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Job finished at 2014-02-24 09:00:25.642-0500
(1,393,250,425,642)</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>Distribute</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-24T09:00:25.643-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Job time on distribution server after the report
completed was 0.582 seconds</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>Distribute</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-24T09:00:25.643-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>

```



```

<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Total running time was 2.52 seconds</
ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>Distribute</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-24T09:00:25.644-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Total elapsed time (including the queue time)
was 2.538 seconds</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>Distribute</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-24T09:00:25.645-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Brief notification successfully sent to
myEmail@ibi.com.</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription xsi:nil="true"/>
  <ax267:time>2014-02-24T09:00:25.751-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Log report notification successfully sent to
myEmail@ibi.com.</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription xsi:nil="true"/>
  <ax267:time>2014-02-24T09:00:25.861-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:name xsi:nil="true"/>
<ax267:owner>admin</ax267:owner>
<ax267:scheduleDescription>Carinst Report</
ax267:scheduleDescription>
  <ax267:scheduleId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</
ax267:scheduleId>
  <ax267:startTime>2014-02-24T09:00:23.126-05:00</ax267:startTime>
  <ax267:summary xsi:nil="true"/>
</ns:return>
</ns:getLastLogByScheduleIdResponse>

```

下表は、XML レスポンスドキュメントで返される有効な `errorType` コード値のリストおよびその説明です。

<code>errorType</code> コード値	説明
0	エラーなし
1	エラー
2	警告
6	実行中すべて
7	実行中 (エラーあり)

## ジョブ ID のログ取得

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、ジョブ ID で識別されるジョブの最新 ReportCaster ログを取得することができます。

**HTTP メソッド** GET

**REST URL のフォーマット**

`http://host:port/ibi_apps/services/LogServiceREST/getLogByJobId?processId=jobId`

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*jobId*

ReportCaster ジョブを識別する一意の ID です。

例

次の例では、ジョブ ID `J0c6828cfj96f0j4363ja81ejd41e3782cff2` の ReportCaster ログが取得されます。

リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/services/LogServiceREST/getLogByJobId?
processId=J0c6828cfj96f0j4363ja81ejd41e3782cff2
```

## レスポンス

```
<ns:getLogByJobIdResponse xmlns:ns="http://ws.api.broker.ibi">
  <ns:return xmlns:ax264="http://io.java/xsd" xmlns:ax263="http://rmi.java/xsd"
xmlns:ax267="http://dslog.data.api.broker.ibi/xsd" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema-instance" xmlns:ax261="http://schedule.data.api.broker.ibi/xsd"
xsi:type="ax267:DsLog">
  <ax267:IBFSObjectType>0</ax267:IBFSObjectType>
  <ax267:description xsi:nil="true"/>
  <ax267:endTime>2014-02-19T16:19:08.674-05:00</ax267:endTime>
  <ax267:errorType>0</ax267:errorType>
  <ax267:ibfsId>Sca76e628s892as43a4sbdacs10875ff7f188</ax267:ibfsId>
  <ax267:ibfsPath/>
  <ax267:id>J0c6828cfj96f0j4363ja81ejd41e3782cff2</ax267:id>
  <ax267:jobId>J0c6828cfj96f0j4363ja81ejd41e3782cff2</ax267:jobId>
  <ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
    <ax267:error>false</ax267:error>
    <ax267:execId xsi:nil="true"/>
    <ax267:message>Schedule Executed On Demand at IBI-Laptop:8201 (IBI-Laptop/
172.44.18.74)</ax267:message>
    <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
    <ax267:taskDescription xsi:nil="true"/>
    <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.061-05:00</ax267:time>
    <ax267:warning>false</ax267:warning>
  </ax267:logElementList>
  <ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
    <ax267:error>false</ax267:error>
    <ax267:execId xsi:nil="true"/>
    <ax267:message>Job placed in the waiting queue at 2014-02-19
16:19:08.055-0500 (1,392,844,748,055)</ax267:message>
    <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
    <ax267:taskDescription xsi:nil="true"/>
    <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.061-05:00</ax267:time>
    <ax267:warning>false</ax267:warning>
  </ax267:logElementList>
  <ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
    <ax267:error>false</ax267:error>
    <ax267:execId xsi:nil="true"/>
    <ax267:message>Job started running at 2014-02-19 16:19:08.056-0500
(1,392,844,748,056)</ax267:message>
    <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
    <ax267:taskDescription xsi:nil="true"/>
    <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.061-05:00</ax267:time>
    <ax267:warning>false</ax267:warning>
  </ax267:logElementList>
```

```

<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Job remained in waiting queue for 0.0010 seconds</
ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription xsi:nil="true"/>
  <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.061-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId>guest</ax267:execId>
  <ax267:message>Starting task: Task 1</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>ibisamp/carinst</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.129-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId>guest</ax267:execId>
  <ax267:message>Task type: EDA RPC</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>ibisamp/carinst</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.130-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId>guest</ax267:execId>
  <ax267:message>Procedure name: ibisamp/carinst</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>ibisamp/carinst</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.130-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>

```

```

<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId>guest</ax267:execId>
  <ax267:message>Connecting to server EDASERVE with execution id
guest at 2014-02-19 16:19:08.130-0500 (1,392,844,748,130)</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>ibisamp/carinst</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.130-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId>guest</ax267:execId>
  <ax267:message>Connection to the Reporting Server EDASERVE
established at 2014-02-19 16:19:08.157-0500 (1,392,844,748,157)</
ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>ibisamp/carinst</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.158-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId>guest</ax267:execId>
  <ax267:message>The time to establish a connection to the
Reporting Server EDASERVE was 0.027 seconds</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>ibisamp/carinst</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.158-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId>guest</ax267:execId>
  <ax267:message>Executing focexec.</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>ibisamp/carinst</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.158-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId>guest</ax267:execId>
  <ax267:message>0 HOLDING HTML FILE ON PC DISK ...</
ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>ibisamp/carinst</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.215-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>

```

```

<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId>guest</ax267:execId>
  <ax267:message>Connection to the Reporting Server EDASERVE
closed at 2014-02-19 16:19:08.217-0500 (1,392,844,748,217)</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>ibisamp/carinst</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.217-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId>guest</ax267:execId>
  <ax267:message>Job ran on the Reporting Server EDASERVE for
0.06 seconds</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>ibisamp/carinst</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.218-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId>guest</ax267:execId>
  <ax267:message>Task finished.</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>ibisamp/carinst</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.218-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Starting distribution: Report Library</
ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription xsi:nil="true"/>
  <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.231-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>

```

```

<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Distribution method: Report Library</
ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription xsi:nil="true"/>
  <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.231-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Report distributed to ReportLibrary
(L0bbafb2a137ef149941834c13b614c4afeaf) with the group id
Lc8f723df65ca6cebd2b86b264f4cfc14 at the version 3 </ax267:message>
  <ax267:messageCode>DS10001</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>Distribute</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.327-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Library access option "Private" is applied.</
ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>Distribute</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.327-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Retrieving email address list for library watch
list</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>Distribute</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.327-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Library Notification email sent to
myEmail@ibi.com</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>Distribute</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.454-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>

```

```

<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Distribution finished.</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>Distribute</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.456-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Job finished at 2014-02-19 16:19:08.456-0500
(1,392,844,748,456)</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>Distribute</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.456-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Job time on distribution server after the report
completed was 0.225 seconds</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>Distribute</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.457-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Total running time was 0.4 seconds</
ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>Distribute</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.457-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>

```



```

<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Total elapsed time (including the queue time)
was 0.401 seconds</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1010</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription>Distribute</ax267:taskDescription>
  <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.457-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Brief notification successfully sent to
myEmail@ibi.com.</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription xsi:nil="true"/>
  <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.565-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:logElementList xsi:type="ax267:DsLogElement">
  <ax267:error>false</ax267:error>
  <ax267:execId xsi:nil="true"/>
  <ax267:message>Log report notification successfully sent to
myEmail@ibi.com.</ax267:message>
  <ax267:messageCode>BTP1020</ax267:messageCode>
  <ax267:taskDescription xsi:nil="true"/>
  <ax267:time>2014-02-19T16:19:08.674-05:00</ax267:time>
  <ax267:warning>false</ax267:warning>
</ax267:logElementList>
<ax267:name xsi:nil="true"/>
<ax267:owner>admin</ax267:owner>
<ax267:scheduleDescription>Carinst Report</
ax267:scheduleDescription>
  <ax267:scheduleId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</
ax267:scheduleId>
  <ax267:startTime>2014-02-19T16:19:08.061-05:00</ax267:startTime>
  <ax267:summary xsi:nil="true"/>
</ns:return>
</ns:getLogByJobIdResponse>

```

下表は、XML レスポンスドキュメントで返される有効な errorType コード値のリストおよびその説明です。

errorType コード値	説明
0	エラーなし
1	エラー
2	警告

<b>errorType</b> コード値	説明
6	実行中すべて
7	実行中 (エラーあり)

## オーナーのログリスト取得

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、指定したオーナーのログ情報リストを取得することができます。各ログの詳細は返されません。

**HTTP メソッド** GET

**REST URL のフォーマット**

```
http://host:port/ibi_apps/services/LogServiceREST/getLogInfoListByOwner?owner=owner
```

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*owner*

ログのオーナーです。

**例**

次の例では、admin というオーナーのログ情報リストが取得されます。

**リクエスト**

```
http://localhost:8080/ibi_apps/services/LogServiceREST/getLogInfoListByOwner?owner=admin
```

**レスポンス**

```

<ns:getLogInfoListByOwnerResponse xmlns:ns="http://ws.api.broker.ibi"
xmlns:ax264="http://io.java/xsd" xmlns:ax263="http://rmi.java/xsd"
xmlns:ax267="http://dslog.data.api.broker.ibi/xsd" xmlns:ax261="http://
schedule.data.api.broker.ibi/xsd">
  <ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax267:DsLog">
    <ax267:IBFSObjectType>0</ax267:IBFSObjectType>
    <ax267:description xsi:nil="true"/>
    <ax267:endTime>2014-02-19T16:14:42.279-05:00</ax267:endTime>
    <ax267:errorType>2</ax267:errorType>
    <ax267:ibfsId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</ax267:ibfsId>
    <ax267:ibfsPath/>
    <ax267:id>J73498ee4j33caj409bjacbbj47ab9f66920d</ax267:id>
    <ax267:jobId>J73498ee4j33caj409bjacbbj47ab9f66920d</ax267:jobId>
    <ax267:logElementList xsi:nil="true"/>
    <ax267:name xsi:nil="true"/>
    <ax267:owner>admin</ax267:owner>
    <ax267:scheduleDescription>Carinst Report</
ax267:scheduleDescription>
    <ax267:scheduleId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</
ax267:scheduleId>
    <ax267:startTime>2014-02-19T16:14:41.146-05:00</ax267:startTime>
    <ax267:summary xsi:nil="true"/>
  </ns:return>
  <ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax267:DsLog">
    <ax267:IBFSObjectType>0</ax267:IBFSObjectType>
    <ax267:description xsi:nil="true"/>
    <ax267:endTime>2014-02-19T16:16:22.945-05:00</ax267:endTime>
    <ax267:errorType>2</ax267:errorType>
    <ax267:ibfsId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</ax267:ibfsId>
    <ax267:ibfsPath/>
    <ax267:id>J5004dec7j6c9cj4009jab87j97b8fa04831a</ax267:id>
    <ax267:jobId>J5004dec7j6c9cj4009jab87j97b8fa04831a</ax267:jobId>
    <ax267:logElementList xsi:nil="true"/>
    <ax267:name xsi:nil="true"/>
    <ax267:owner>admin</ax267:owner>
    <ax267:scheduleDescription>Carinst Report</
ax267:scheduleDescription>
    <ax267:scheduleId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</
ax267:scheduleId>
    <ax267:startTime>2014-02-19T16:16:22.298-05:00</ax267:startTime>
    <ax267:summary xsi:nil="true"/>
  </ns:return>

```

```

    <ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax267:DsLog">
    <ax267:IBFSObjectType>0</ax267:IBFSObjectType>
    <ax267:description xsi:nil="true"/>
    <ax267:endTime>2014-02-19T16:19:08.674-05:00</ax267:endTime>
    <ax267:errorType>0</ax267:errorType>
    <ax267:ibfsId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</ax267:ibfsId>
    <ax267:ibfsPath/>
    <ax267:id>J0c6828cfj96f0j4363ja81ejd41e3782cff2</ax267:id>
    <ax267:jobId>J0c6828cfj96f0j4363ja81ejd41e3782cff2</ax267:jobId>
    <ax267:logElementList xsi:nil="true"/>
    <ax267:name xsi:nil="true"/>
    <ax267:owner>admin</ax267:owner>
    <ax267:scheduleDescription>Carinst Report</
ax267:scheduleDescription>
    <ax267:scheduleId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</
ax267:scheduleId>
    <ax267:startTime>2014-02-19T16:19:08.061-05:00</ax267:startTime>
    <ax267:summary xsi:nil="true"/>
    </ns:return>
    <ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax267:DsLog">
    <ax267:IBFSObjectType>0</ax267:IBFSObjectType>
    <ax267:description xsi:nil="true"/>
    <ax267:endTime>2014-02-19T16:22:16.729-05:00</ax267:endTime>
    <ax267:errorType>0</ax267:errorType>
    <ax267:ibfsId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</ax267:ibfsId>
    <ax267:ibfsPath/>
    <ax267:id>Jd5ae6d5cj3283j4bc2ja36ejc29fd6895419</ax267:id>
    <ax267:jobId>Jd5ae6d5cj3283j4bc2ja36ejc29fd6895419</ax267:jobId>
    <ax267:logElementList xsi:nil="true"/>
    <ax267:name xsi:nil="true"/>
    <ax267:owner>admin</ax267:owner>
    <ax267:scheduleDescription>Carinst Report</
ax267:scheduleDescription>
    <ax267:scheduleId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</
ax267:scheduleId>
    <ax267:startTime>2014-02-19T16:22:16.030-05:00</ax267:startTime>
    <ax267:summary xsi:nil="true"/>
    </ns:return>

```

```

<ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax267:DsLog">
  <ax267:IBFSObjectType>0</ax267:IBFSObjectType>
  <ax267:description xsi:nil="true"/>
  <ax267:endTime>2014-02-19T16:29:31.724-05:00</ax267:endTime>
  <ax267:errorType>0</ax267:errorType>
  <ax267:ibfsId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</ax267:ibfsId>
  <ax267:ibfsPath/>
  <ax267:id>Jbcbd8429jab89j4ed8j95d2j25dd04279f5c</ax267:id>
  <ax267:jobId>Jbcbd8429jab89j4ed8j95d2j25dd04279f5c</ax267:jobId>
  <ax267:logElementList xsi:nil="true"/>
  <ax267:name xsi:nil="true"/>
  <ax267:owner>admin</ax267:owner>
  <ax267:scheduleDescription>Carinst Report</
ax267:scheduleDescription>
  <ax267:scheduleId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</
ax267:scheduleId>
  <ax267:startTime>2014-02-19T16:29:31.083-05:00</ax267:startTime>
  <ax267:summary xsi:nil="true"/>
</ns:return>
<ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax267:DsLog">
  <ax267:IBFSObjectType>0</ax267:IBFSObjectType>
  <ax267:description xsi:nil="true"/>
  <ax267:endTime>2014-02-22T21:26:23.251-05:00</ax267:endTime>
  <ax267:errorType>0</ax267:errorType>
  <ax267:ibfsId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</ax267:ibfsId>
  <ax267:ibfsPath/>
  <ax267:id>J06ea07cbj164cj4c0djad92jabc788ea8f76</ax267:id>
  <ax267:jobId>J06ea07cbj164cj4c0djad92jabc788ea8f76</ax267:jobId>
  <ax267:logElementList xsi:nil="true"/>
  <ax267:name xsi:nil="true"/>
  <ax267:owner>admin</ax267:owner>
  <ax267:scheduleDescription>Carinst Report</
ax267:scheduleDescription>
  <ax267:scheduleId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</
ax267:scheduleId>
  <ax267:startTime>2014-02-22T21:26:18.515-05:00</ax267:startTime>
  <ax267:summary xsi:nil="true"/>
</ns:return>

```

```

<ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax267:DsLog">
  <ax267:IBFSObjectType>0</ax267:IBFSObjectType>
  <ax267:description xsi:nil="true"/>
  <ax267:endTime>2014-02-24T09:00:25.861-05:00</ax267:endTime>
  <ax267:errorType>0</ax267:errorType>
  <ax267:ibfsId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</ax267:ibfsId>
  <ax267:ibfsPath/>
  <ax267:id>J4ce5d61ejf6b2j441dja02ej084628360372</ax267:id>
  <ax267:jobId>J4ce5d61ejf6b2j441dja02ej084628360372</ax267:jobId>
  <ax267:logElementList xsi:nil="true"/>
  <ax267:name xsi:nil="true"/>
  <ax267:owner>admin</ax267:owner>
  <ax267:scheduleDescription>Carinst Report</
ax267:scheduleDescription>
  <ax267:scheduleId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</
ax267:scheduleId>
  <ax267:startTime>2014-02-24T09:00:23.126-05:00</ax267:startTime>
  <ax267:summary xsi:nil="true"/>
</ns:return>
</ns:getLogInfoListByOwnerResponse>

```

下表は、XML レスポンスドキュメントで返される有効な errorType コード値のリストおよびその説明です。

errorType コード値	説明
0	エラーなし
1	エラー
2	警告
6	実行中すべて
7	実行中 (エラーあり)

## 特定期間のオーナーのログリスト取得

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、指定したオーナーの特定期間に行われたログ情報リストを取得することができます。

期間の開始時間を指定しない場合、終了時間以前のログ情報リストが取得されます。

期間の終了時間を指定しない場合、開始時間以降のログ情報リストが取得されます。

各ログの詳細は返されません。

## HTTP メソッド GET

### REST URL のフォーマット

```
http://host:port/ibi_apps/services/LogServiceREST/getLogInfoListByOwnerByCalendar?  
owner=owner&  
startTime=startTime&endTime=endTime
```

#### 説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*owner*

ReportCaster ログのオーナーです。

*startTime*

ログ取得の開始時間です。次のフォーマットを使用する必要があります。

YYYY/MM/DD%20HH:MM:SS

*endTime*

ログ取得の終了時間です。次のフォーマットを使用する必要があります。

YYYY/MM/DD%20HH:MM:SS

#### 例

次の例では、admin というオーナーの 2014-02-19 00:00:00 から 2014-02-19 23:59:59 までのログ情報リストが取得されます。

#### リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/services/LogServiceREST/getLogInfoListByOwnerByCalendar?  
owner=admin&  
startTime=2014/02/19%2000:00:00&endTime=2014/02/19%2023:59:59
```

#### レスポンス

```

<ns:getLogInfoListByOwnerByCalendarResponse xmlns:ns="http://
ws.api.broker.ibi" xmlns:ax264="http://io.java/xsd" xmlns:ax263="http://
rmi.java/xsd" xmlns:ax267="http://dslog.data.api.broker.ibi/xsd"
xmlns:ax261="http://schedule.data.api.broker.ibi/xsd">
  <ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax267:DsLog">
    <ax267:IBFSObjectType>0</ax267:IBFSObjectType>
    <ax267:description xsi:nil="true"/>
    <ax267:endTime>2014-02-19T16:14:42.279-05:00</ax267:endTime>
    <ax267:errorType>2</ax267:errorType>
    <ax267:ibfsId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</ax267:ibfsId>
    <ax267:ibfsPath/>
    <ax267:id>J73498ee4j33caj409bjacbbj47ab9f66920d</ax267:id>
    <ax267:jobId>J73498ee4j33caj409bjacbbj47ab9f66920d</ax267:jobId>
    <ax267:logElementList xsi:nil="true"/>
    <ax267:name xsi:nil="true"/>
    <ax267:owner>admin</ax267:owner>
    <ax267:scheduleDescription>Carinst Report</
ax267:scheduleDescription>
    <ax267:scheduleId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</
ax267:scheduleId>
    <ax267:startTime>2014-02-19T16:14:41.146-05:00</ax267:startTime>
    <ax267:summary xsi:nil="true"/>
  </ns:return>
  <ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax267:DsLog">
    <ax267:IBFSObjectType>0</ax267:IBFSObjectType>
    <ax267:description xsi:nil="true"/>
    <ax267:endTime>2014-02-19T16:16:22.945-05:00</ax267:endTime>
    <ax267:errorType>2</ax267:errorType>
    <ax267:ibfsId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</ax267:ibfsId>
    <ax267:ibfsPath/>
    <ax267:id>J5004dec7j6c9cj4009jab87j97b8fa04831a</ax267:id>
    <ax267:jobId>J5004dec7j6c9cj4009jab87j97b8fa04831a</ax267:jobId>

```



```

    <ax267:logElementList xsi:nil="true"/>
    <ax267:name xsi:nil="true"/>
    <ax267:owner>admin</ax267:owner>
    <ax267:scheduleDescription>Carinst Report</
ax267:scheduleDescription>
    <ax267:scheduleId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</
ax267:scheduleId>
    <ax267:startTime>2014-02-19T16:16:22.298-05:00</ax267:startTime>
    <ax267:summary xsi:nil="true"/>
  </ns:return>
  <ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax267:DsLog">
    <ax267:IBFSObjectType>0</ax267:IBFSObjectType>
    <ax267:description xsi:nil="true"/>
    <ax267:endTime>2014-02-19T16:19:08.674-05:00</ax267:endTime>
    <ax267:errorType>0</ax267:errorType>
    <ax267:ibfsId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</ax267:ibfsId>
    <ax267:ibfsPath/>
    <ax267:id>J0c6828cfj96f0j4363ja81ejd41e3782cff2</ax267:id>
    <ax267:jobId>J0c6828cfj96f0j4363ja81ejd41e3782cff2</ax267:jobId>
    <ax267:logElementList xsi:nil="true"/>
    <ax267:name xsi:nil="true"/>
    <ax267:owner>admin</ax267:owner>
    <ax267:scheduleDescription>Carinst Report</
ax267:scheduleDescription>
    <ax267:scheduleId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</
ax267:scheduleId>
    <ax267:startTime>2014-02-19T16:19:08.061-05:00</ax267:startTime>
    <ax267:summary xsi:nil="true"/>
  </ns:return>
  <ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax267:DsLog">
    <ax267:IBFSObjectType>0</ax267:IBFSObjectType>
    <ax267:description xsi:nil="true"/>
    <ax267:endTime>2014-02-19T16:22:16.729-05:00</ax267:endTime>
    <ax267:errorType>0</ax267:errorType>
    <ax267:ibfsId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</ax267:ibfsId>
    <ax267:ibfsPath/>
    <ax267:id>Jd5ae6d5cj3283j4bc2ja36ejc29fd6895419</ax267:id>
    <ax267:jobId>Jd5ae6d5cj3283j4bc2ja36ejc29fd6895419</ax267:jobId>
    <ax267:logElementList xsi:nil="true"/>
    <ax267:name xsi:nil="true"/>
    <ax267:owner>admin</ax267:owner>
    <ax267:scheduleDescription>Carinst Report</
ax267:scheduleDescription>
    <ax267:scheduleId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</
ax267:scheduleId>
    <ax267:startTime>2014-02-19T16:22:16.030-05:00</ax267:startTime>
    <ax267:summary xsi:nil="true"/>
  </ns:return>

```

```

    <ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax267:DsLog">
    <ax267:IBFSObjectType>0</ax267:IBFSObjectType>
    <ax267:description xsi:nil="true"/>
    <ax267:endTime>2014-02-19T16:29:31.724-05:00</ax267:endTime>
    <ax267:errorType>0</ax267:errorType>
    <ax267:ibfsId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</ax267:ibfsId>
    <ax267:ibfsPath/>
    <ax267:id>Jbcdb8429jab89j4ed8j95d2j25dd04279f5c</ax267:id>
    <ax267:jobId>Jbcdb8429jab89j4ed8j95d2j25dd04279f5c</ax267:jobId>
    <ax267:logElementList xsi:nil="true"/>
    <ax267:name xsi:nil="true"/>
    <ax267:owner>admin</ax267:owner>
    <ax267:scheduleDescription>Carinst Report</
ax267:scheduleDescription>
    <ax267:scheduleId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</
ax267:scheduleId>
    <ax267:startTime>2014-02-19T16:29:31.083-05:00</ax267:startTime>
    <ax267:summary xsi:nil="true"/>
    </ns:return>
</ns:getLogInfoListByOwnerByCalendarResponse>

```

下表は、XML レスポンスドキュメントで返される有効な errorType コード値のリストおよびその説明です。

errorType コード値	説明
0	エラーなし
1	エラー
2	警告
6	実行中すべて
7	実行中 (エラーあり)

## スケジュールのログリスト取得

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、スケジュール ID で識別されるスケジュールのログ情報リストを取得することができます。各ログの詳細は返されません。

**HTTP メソッド** GET

**REST URL のフォーマット**

[http://host:port/ibi\\_apps/services/LogServiceREST/getLogInfoListByScheduleId?scheduleId=scheduleId](http://host:port/ibi_apps/services/LogServiceREST/getLogInfoListByScheduleId?scheduleId=scheduleId)

## 説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*scheduleId*

ReportCaster スケジュールのスケジュール ID です。

## 例

次の例では、スケジュール ID Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188 のログ情報リストが取得されます。

## リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/services/LogServiceREST/getLogInfoListByScheduleId?scheduleId=Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188
```

## レスポンス

```

<ns:getLogInfoListByScheduleIdResponse xmlns:ns="http://ws.api.broker.ibi"
xmlns:ax264="http://io.java/xsd" xmlns:ax263="http://rmi.java/xsd"
xmlns:ax267="http://dslog.data.api.broker.ibi/xsd" xmlns:ax261="http://
schedule.data.api.broker.ibi/xsd">
  <ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax267:DsLog">
    <ax267:IBFSObjectType>0</ax267:IBFSObjectType>
    <ax267:description xsi:nil="true"/>
    <ax267:endTime>2014-02-19T16:14:42.279-05:00</ax267:endTime>
    <ax267:errorType>2</ax267:errorType>
    <ax267:ibfsId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</ax267:ibfsId>
    <ax267:ibfsPath/>
    <ax267:id>J73498ee4j33caj409bjacbbj47ab9f66920d</ax267:id>
    <ax267:jobId>J73498ee4j33caj409bjacbbj47ab9f66920d</ax267:jobId>
    <ax267:logElementList xsi:nil="true"/>
    <ax267:name xsi:nil="true"/>
    <ax267:owner>admin</ax267:owner>
    <ax267:scheduleDescription>Carinst Report</
ax267:scheduleDescription>
    <ax267:scheduleId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</
ax267:scheduleId>
    <ax267:startTime>2014-02-19T16:14:41.146-05:00</ax267:startTime>
    <ax267:summary xsi:nil="true"/>
  </ns:return>
  <ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax267:DsLog">
    <ax267:IBFSObjectType>0</ax267:IBFSObjectType>
    <ax267:description xsi:nil="true"/>
    <ax267:endTime>2014-02-19T16:16:22.945-05:00</ax267:endTime>
    <ax267:errorType>2</ax267:errorType>
    <ax267:ibfsId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</ax267:ibfsId>
    <ax267:ibfsPath/>
    <ax267:id>J5004dec7j6c9cj4009jab87j97b8fa04831a</ax267:id>
    <ax267:jobId>J5004dec7j6c9cj4009jab87j97b8fa04831a</ax267:jobId>
    <ax267:logElementList xsi:nil="true"/>
    <ax267:name xsi:nil="true"/>
    <ax267:owner>admin</ax267:owner>
    <ax267:scheduleDescription>Carinst Report</
ax267:scheduleDescription>

```

```

<ax267:scheduleId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</ax267:scheduleId>
  <ax267:startTime>2014-02-19T16:16:22.298-05:00</ax267:startTime>
  <ax267:summary xsi:nil="true" />
</ns:return>
<ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax267:DsLog">
  <ax267:IBFSObjectType>0</ax267:IBFSObjectType>
  <ax267:description xsi:nil="true" />
  <ax267:endTime>2014-02-19T16:19:08.674-05:00</ax267:endTime>
  <ax267:errorType>0</ax267:errorType>
  <ax267:ibfsId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</ax267:ibfsId>
  <ax267:ibfsPath/>
  <ax267:id>J0c6828cfj96f0j4363ja81ejd41e3782cff2</ax267:id>
  <ax267:jobId>J0c6828cfj96f0j4363ja81ejd41e3782cff2</ax267:jobId>
  <ax267:logElementList xsi:nil="true" />
  <ax267:name xsi:nil="true" />
  <ax267:owner>admin</ax267:owner>
  <ax267:scheduleDescription>Carinst Report</
ax267:scheduleDescription>
  <ax267:scheduleId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</
ax267:scheduleId>
  <ax267:startTime>2014-02-19T16:19:08.061-05:00</ax267:startTime>
  <ax267:summary xsi:nil="true" />
</ns:return>
<ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax267:DsLog">
  <ax267:IBFSObjectType>0</ax267:IBFSObjectType>
  <ax267:description xsi:nil="true" />
  <ax267:endTime>2014-02-19T16:22:16.729-05:00</ax267:endTime>
  <ax267:errorType>0</ax267:errorType>
  <ax267:ibfsId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</ax267:ibfsId>
  <ax267:ibfsPath/>
  <ax267:id>Jd5ae6d5cj3283j4bc2ja36ejc29fd6895419</ax267:id>
  <ax267:jobId>Jd5ae6d5cj3283j4bc2ja36ejc29fd6895419</ax267:jobId>
  <ax267:logElementList xsi:nil="true" />
  <ax267:name xsi:nil="true" />
  <ax267:owner>admin</ax267:owner>
  <ax267:scheduleDescription>Carinst Report</
ax267:scheduleDescription>
  <ax267:scheduleId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</
ax267:scheduleId>
  <ax267:startTime>2014-02-19T16:22:16.030-05:00</ax267:startTime>
  <ax267:summary xsi:nil="true" />
</ns:return>

```

```

<ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax267:DsLog">
  <ax267:IBFSObjectType>0</ax267:IBFSObjectType>
  <ax267:description xsi:nil="true"/>
  <ax267:endTime>2014-02-19T16:29:31.724-05:00</ax267:endTime>
  <ax267:errorType>0</ax267:errorType>
  <ax267:ibfsId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</ax267:ibfsId>
  <ax267:ibfsPath/>
  <ax267:id>Jbcdb8429jab89j4ed8j95d2j25dd04279f5c</ax267:id>
  <ax267:jobId>Jbcdb8429jab89j4ed8j95d2j25dd04279f5c</ax267:jobId>
  <ax267:logElementList xsi:nil="true"/>
  <ax267:name xsi:nil="true"/>
  <ax267:owner>admin</ax267:owner>
  <ax267:scheduleDescription>Carinst Report</
ax267:scheduleDescription>
  <ax267:scheduleId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</
ax267:scheduleId>
  <ax267:startTime>2014-02-19T16:29:31.083-05:00</ax267:startTime>
  <ax267:summary xsi:nil="true"/>
</ns:return>
<ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax267:DsLog">
  <ax267:IBFSObjectType>0</ax267:IBFSObjectType>
  <ax267:description xsi:nil="true"/>
  <ax267:endTime>2014-02-22T21:26:23.251-05:00</ax267:endTime>
  <ax267:errorType>0</ax267:errorType>
  <ax267:ibfsId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</ax267:ibfsId>
  <ax267:ibfsPath/>
  <ax267:id>J06ea07cbj164cj4c0djad92jabc788ea8f76</ax267:id>
  <ax267:jobId>J06ea07cbj164cj4c0djad92jabc788ea8f76</ax267:jobId>
  <ax267:logElementList xsi:nil="true"/>
  <ax267:name xsi:nil="true"/>
  <ax267:owner>admin</ax267:owner>
  <ax267:scheduleDescription>Carinst Report</
ax267:scheduleDescription>
  <ax267:scheduleId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</
ax267:scheduleId>
  <ax267:startTime>2014-02-22T21:26:18.515-05:00</ax267:startTime>
  <ax267:summary xsi:nil="true"/>
</ns:return>

```

```

<ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax267:DsLog">
  <ax267:IBFSObjectType>0</ax267:IBFSObjectType>
  <ax267:description xsi:nil="true"/>
  <ax267:endTime>2014-02-24T09:00:25.861-05:00</ax267:endTime>
  <ax267:errorType>0</ax267:errorType>
  <ax267:ibfsId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</ax267:ibfsId>
  <ax267:ibfsPath/>
  <ax267:id>J4ce5d61ejf6b2j441dja02ej084628360372</ax267:id>
  <ax267:jobId>J4ce5d61ejf6b2j441dja02ej084628360372</ax267:jobId>
  <ax267:logElementList xsi:nil="true"/>
  <ax267:name xsi:nil="true"/>
  <ax267:owner>admin</ax267:owner>
  <ax267:scheduleDescription>Carinst Report</
ax267:scheduleDescription>
  <ax267:scheduleId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</
ax267:scheduleId>
  <ax267:startTime>2014-02-24T09:00:23.126-05:00</ax267:startTime>
  <ax267:summary xsi:nil="true"/>
</ns:return>
</ns:getLogInfoListByScheduleIdResponse>

```

下表は、XML レスポンスドキュメントで返される有効な errorType コード値のリストおよびその説明です。

errorType コード値	説明
0	エラーなし
1	エラー
2	警告
6	実行中すべて
7	実行中 (エラーあり)

## スケジュールオーナーのリスト取得

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、スケジュールオーナーのリストを取得することができます。

**HTTP メソッド** GET

**REST URL のフォーマット**

`http://host:port/ibi_apps/services/LogServiceREST/getOwnerList`

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

例

次の例では、スケジュールオーナーのリストが取得されます。

リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/services/LogServiceREST/getOwnerList
```

レスポンス

```
<ns:getOwnerListResponse xmlns:ns="http://ws.api.broker.ibi"
xmlns:ax264="http://io.java/xsd" xmlns:ax263="http://rmi.java/xsd"
xmlns:ax267="http://dslog.data.api.broker.ibi/xsd" xmlns:ax261="http://
schedule.data.api.broker.ibi/xsd">
  <ns:return>admin</ns:return>
  <ns:return>system</ns:return>
</ns:getOwnerListResponse>
```

<return> 要素内の値は、スケジュールオーナーを示しています。

## コンソール機能

ここでは、さまざまな ReportCaster ステータス機能に使用される RESTful Web サービスリクエストのフォーマットおよび構造について説明します。

### ジョブ優先度の変更

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、ジョブキューに存在する実行待ちジョブの優先度を変更することができます。

**HTTP メソッド** GET

**REST URL のフォーマット**

```
http://host:port/ibi_apps/services/ConsoleServiceREST/changeJobPriority?
jobId=jobId&priority=priority
```

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。



*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*jobId*

ReportCaster ジョブを識別する一意の ID です。

*priority*

ジョブキューに存在する実行待ちジョブの優先度です。1 は優先度が最も高く、5 は最も低いことを示します。

**例**

次の例では、ジョブ ID Jc12b4443jb1f8j4c19j90aaaj7ba31ac4dbf5 で識別される ReportCaster ジョブの優先度が 1 に変更されます。

**リクエスト**

```
http://localhost:8080/ibi_apps/services/ConsoleServiceREST/changeJobPriority?
jobId=Jc12b4443jb1f8j4c19j90aaaj7ba31ac4dbf5&priority=1
```

**レスポンス**

```
<ns:changeJobPriorityResponse xmlns:ns="http://ws.api.broker.ibi">
  <ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:nil="true"/>
</ns:changeJobPriorityResponse>
```

**ジョブステータスの取得**

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、キュー内の既存 ReportCaster ジョブのステータスを取得することができます。

**HTTP メソッド GET****REST URL のフォーマット**

```
http://host:port/ibi_apps/services/ConsoleServiceREST/getJobStatus?jobId=jobId
```

**説明***host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

## jobId

ReportCaster ジョブを識別する一意の ID です。

### 例

次の例では、ジョブ ID Jc12b4443jb1f8j4c19j90aaj7ba31ac4dbf5 で識別される ReportCaster ジョブのステータスが返されます。

### リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/services/ConsoleServiceREST/getJobStatus?
jobId=Jc12b4443jb1f8j4c19j90aaj7ba31ac4dbf5
```

### レスポンス

```
<ns:getJobStatusResponse xmlns:ns="http://ws.api.broker.ibi">
  <ns:return>1</ns:return>
</ns:getJobStatusResponse>
```

下表は、ReportCaster ジョブステータスのリターンコードのリストおよびその説明です。

getJobStatus リターンコード	説明
-1	jobId で識別される ReportCaster ジョブは存在しません。
0	jobId で識別される ReportCaster ジョブは存在しますが、このジョブのステータスを表示する権限が呼び出し元ユーザーに許可されていません。
1	jobId で識別される ReportCaster ジョブは実行待ちキューにあります。
2	jobId で識別される ReportCaster ジョブは実行中です。
3	jobId で識別される ReportCaster ジョブは完了しました。

### キュー内のジョブリスト取得

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、ジョブキューに存在する実行待ち ReportCaster ジョブのリストを取得することができます。

**HTTP メソッド GET****REST URL のフォーマット**

`http://host:port/ibi_apps/services/ConsoleServiceREST/getJobsInQueue`

**説明**

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

**例**

次の例では、ジョブキューに存在する実行待ち ReportCaster ジョブのリストが取得されます。

**リクエスト**

`http://localhost:8080/ibi_apps/services/ConsoleServiceREST/getJobsInQueue`

**レスポンス**

```

<ns:getJobsInQueueResponse xmlns:ns="http://ws.api.broker.ibi"
xmlns:ax220="http://rmi.java/xsd" xmlns:ax221="http://io.java/xsd"
xmlns:ax224="http://schedule.data.api.broker.ibi/xsd" xmlns:ax226="http://
console.data.api.broker.ibi/xsd">
  <ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax226:Job">
    <ax226:distributionServerName xsi:nil="true"/>
    <ax226:fullyQualifiedServerName xsi:nil="true"/>
    <ax226:id>J6d1eb46fj9a2dj46e0jb532j711fa60ec7e1</ax226:id>
    <ax226:schedule xsi:type="ax224:Schedule">
      <ax224:IBFSObjectType>113</ax224:IBFSObjectType>
      <ax224:active>true</ax224:active>
      <ax224:compressedReport>false</ax224:compressedReport>
      <ax224:deleteJobAfterRun>false</ax224:deleteJobAfterRun>
      <ax224:description>Carinst Report 2</ax224:description>
      <ax224:distribution xsi:type="ax224:DistributionEmail">
        <ax224:description/>
        <ax224:disabled>false</ax224:disabled>
        <ax224:id/>
        <ax224:type>EMAIL</ax224:type>
        <ax224:authEnabled>false</ax224:authEnabled>
        <ax224:authPassword/>
        <ax224:authUserId/>
        <ax224:destination xsi:type="ax224:Destination">
          <ax224:distributionFile/>
          <ax224:distributionList/>
          <ax224:distributionListFullPath/>
          <ax224:dynamicAddress xsi:type="ax224:DynamicAddress">
            <ax224:password/>
            <ax224:procedureName/>
            <ax224:serverName/>
            <ax224:userName/>
          </ax224:dynamicAddress>
          <ax224:singleAddress/>
          <ax224:type>DISTRIBUTION_LIST</ax224:type>
        </ax224:destination>
        <ax224:inlineMessage/>
        <ax224:inlineTaskIndex>0</ax224:inlineTaskIndex>
        <ax224:mailFrom/>
        <ax224:mailReplyAddress/>
        <ax224:mailServerName/>
        <ax224:mailSubject/>
      </ax224:distribution>
    </ax226:schedule>
  </ns:return>
</ns:getJobsInQueueResponse>

```

```

<ax224:sendingReportAsAttachment>true</ax224:sendingReportAsAttachment>
  <ax224:sslEnabled>>false</ax224:sslEnabled>
  <ax224:tlsEnabled>>false</ax224:tlsEnabled>
  <ax224:zipFileName/>
  <ax224:zipResult>>false</ax224:zipResult>
</ax224:distribution>
<ax224:distributionList xsi:type="ax224:DistributionEmail">
  <ax224:description/>
  <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
  <ax224:id/>
  <ax224:type>EMAIL</ax224:type>
  <ax224:authEnabled>>false</ax224:authEnabled>
  <ax224:authPassword/>
  <ax224:authUserId/>
  <ax224:destination xsi:type="ax224:Destination">
    <ax224:distributionFile/>
    <ax224:distributionList/>
    <ax224:distributionListFullPath/>
    <ax224:dynamicAddress xsi:type="ax224:DynamicAddress">
      <ax224:password/>
      <ax224:procedureName/>
      <ax224:serverName/>
      <ax224:userName/>
    </ax224:dynamicAddress>
    <ax224:singleAddress/>
    <ax224:type>DISTRIBUTION_LIST</ax224:type>
  </ax224:destination>
  <ax224:inlineMessage/>
  <ax224:inlineTaskIndex>0</ax224:inlineTaskIndex>
  <ax224:mailFrom/>
  <ax224:mailReplyAddress/>
  <ax224:mailServerName/>
  <ax224:mailSubject/>
  <ax224:sendingReportAsAttachment>true</
ax224:sendingReportAsAttachment>
  <ax224:sslEnabled>>false</ax224:sslEnabled>
  <ax224:tlsEnabled>>false</ax224:tlsEnabled>
  <ax224:zipFileName/>
  <ax224:zipResult>>false</ax224:zipResult>
</ax224:distributionList>

```

```

<ax224:firstTask xsi:type="ax224:TaskWFServerProcedure">
  <ax224:description>WebFocus Server Procedure task</
ax224:description>
  <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
  <ax224:id/>
  <ax224:procedureId/>
  <ax224:procedureName/>
  <ax224:reportName/>
  <ax224:taskRetry xsi:nil="true"/>
  <ax224:type>0</ax224:type>
  <ax224:allowFormatList xsi:nil="true"/>
  <ax224:burst>>false</ax224:burst>
  <ax224:execId/>
  <ax224:execPassword/>
  <ax224:firstPostProcessingProcedure/>
  <ax224:firstPreProcessingProcedure/>
  <ax224:formatInFex>>false</ax224:formatInFex>
  <ax224:parameterList xsi:nil="true"/>
  <ax224:secondPostProcessingProcedure/>
  <ax224:secondPreProcessingProcedure/>
  <ax224:sendFormat>HTML</ax224:sendFormat>
  <ax224:serverName>EDASERVE</ax224:serverName>
</ax224:firstTask>
<ax224:ibfsId>6dff2b49I8245I4638I9e9fIc5900a9a12d5</
ax224:ibfsId>
  <ax224:ibfsPath/>
  <ax224:id>S23f65030s728as482asa632s879fd9f6a727</ax224:id>
  <ax224:lastModified>2014-03-11T18:26:05.912-04:00</
ax224:lastModified>
  <ax224:lastTimeExecuted>1970-01-01T00:00:00.000-05:00</
ax224:lastTimeExecuted>
  <ax224:name/>
  <ax224:notification xsi:type="ax224:Notification">
    <ax224:addressForBriefNotification/>
    <ax224:addressForFullNotification/>
    <ax224:description/>
    <ax224:from/>
    <ax224:id/>
    <ax224:subject/>
    <ax224:type>INACTIVE</ax224:type>
  </ax224:notification>

```

```

<ax224:owner>admin</ax224:owner>
  <ax224:priority>3</ax224:priority>
  <ax224:statusLastExecuted/>
  <ax224:summary/>
  <ax224:taskList xsi:type="ax224:TaskWFServerProcedure">
    <ax224:description>WebFocus Server Procedure task</
ax224:description>
    <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
    <ax224:id/>
    <ax224:procedureId/>
    <ax224:procedureName/>
    <ax224:reportName/>
    <ax224:taskRetry xsi:nil="true"/>
    <ax224:type>0</ax224:type>
    <ax224:allowFormatList xsi:nil="true"/>
    <ax224:burst>>false</ax224:burst>
    <ax224:execId/>
    <ax224:execPassword/>
    <ax224:firstPostProcessingProcedure/>
    <ax224:firstPreProcessingProcedure/>
    <ax224:formatInFex>>false</ax224:formatInFex>
    <ax224:parameterList xsi:nil="true"/>
    <ax224:secondPostProcessingProcedure/>
    <ax224:secondPreProcessingProcedure/>
    <ax224:sendFormat>HTML</ax224:sendFormat>
    <ax224:serverName>EDASERVE</ax224:serverName>
  </ax224:taskList>
  <ax224:timeInfo xsi:type="ax224:TimeInfoOnce">
    <ax224:description/>
    <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
    <ax224:id/>
    <ax224:name/>
    <ax224:nextRunTime>1970-01-01T00:00:00.000-05:00</
ax224:nextRunTime>
    <ax224:startTime>2014-03-11T18:26:05.912-04:00</
ax224:startTime>
    <ax224:type>0</ax224:type>
  </ax224:timeInfo>
  <ax224:timeInfoList xsi:type="ax224:TimeInfoOnce">
    <ax224:description/>
    <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
    <ax224:id/>
    <ax224:name/>
    <ax224:nextRunTime>1970-01-01T00:00:00.000-05:00</
ax224:nextRunTime>
    <ax224:startTime>2014-03-11T18:26:05.912-04:00</
ax224:startTime>
    <ax224:type>0</ax224:type>
  </ax224:timeInfoList>

```

```
<ax224:traceType>0</ax224:traceType>
  </ax226:schedule>
  <ax226:startTime>2014-03-11T18:25:53.738-04:00</ax226:startTime>
  <ax226:status>0</ax226:status>
</ns:return>
</ns:getJobsInQueueResponse>
```

## オーナーのキュー内のジョブリスト取得

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、ジョブキューに存在する実行待ち ReportCaster ジョブの中で、特定のスケジュールオーナーが所有するジョブのリストを取得することができます。

**HTTP メソッド** GET

**REST URL のフォーマット**

```
http://host:port/ibi_apps/services/ConsoleServiceREST/getJobsInQueueByOwner?owner=owner
```

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*owner*

ReportCaster スケジュールのオーナーです。

例

次の例では、ジョブキューに存在する実行待ち ReportCaster ジョブの中で、admin というオーナーが所有するジョブのリストが取得されます。

リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/services/ConsoleServiceREST/getJobsInQueueByOwner?owner=admin
```

レスポンス



```

<ns:getJobsInQueueByOwnerResponse xmlns:ns="http://ws.api.broker.ibi"
xmlns:ax220="http://rmi.java/xsd" xmlns:ax221="http://io.java/xsd"
xmlns:ax224="http://schedule.data.api.broker.ibi/xsd" xmlns:ax226="http://
console.data.api.broker.ibi/xsd">
  <ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax226:Job">
    <ax226:distributionServerName xsi:nil="true"/>
    <ax226:fullyQualifiedServerName xsi:nil="true"/>
    <ax226:id>Jc12b4443jblf8j4c19j90aa7ba31ac4dbf5</ax226:id>
    <ax226:schedule xsi:type="ax224:Schedule">
      <ax224:IBFSObjectType>113</ax224:IBFSObjectType>
      <ax224:active>true</ax224:active>
      <ax224:compressedReport>false</ax224:compressedReport>
      <ax224:deleteJobAfterRun>false</ax224:deleteJobAfterRun>
      <ax224:description>Carinst Report</ax224:description>
      <ax224:distribution xsi:type="ax224:DistributionEmail">
        <ax224:description/>
        <ax224:disabled>false</ax224:disabled>
        <ax224:id/>
        <ax224:type>EMAIL</ax224:type>
        <ax224:authEnabled>false</ax224:authEnabled>
        <ax224:authPassword/>
        <ax224:authUserId/>
        <ax224:destination xsi:type="ax224:Destination">
          <ax224:distributionFile/>
          <ax224:distributionList/>
          <ax224:distributionListFullPath/>
          <ax224:dynamicAddress xsi:type="ax224:DynamicAddress">
            <ax224:password/>
            <ax224:procedureName/>
            <ax224:serverName/>
            <ax224:userName/>
          </ax224:dynamicAddress>
          <ax224:singleAddress/>
          <ax224:type>DISTRIBUTION_LIST</ax224:type>
        </ax224:destination>
        <ax224:inlineMessage/>
        <ax224:inlineTaskIndex>0</ax224:inlineTaskIndex>
        <ax224:mailFrom/>
        <ax224:mailReplyAddress/>
        <ax224:mailServerName/>
        <ax224:mailSubject/>
      </ax224:distribution>
    </ax226:schedule>
  </ns:return>
</ns:getJobsInQueueByOwnerResponse>

```

```

<ax224:sendingReportAsAttachment>>true</ax224:sendingReportAsAttachment>
  <ax224:sslEnabled>>false</ax224:sslEnabled>
  <ax224:tlsEnabled>>false</ax224:tlsEnabled>
  <ax224:zipFileName/>
  <ax224:zipResult>>false</ax224:zipResult>
</ax224:distribution>
<ax224:distributionList xsi:type="ax224:DistributionEmail">
  <ax224:description/>
  <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
  <ax224:id/>
  <ax224:type>EMAIL</ax224:type>
  <ax224:authEnabled>>false</ax224:authEnabled>
  <ax224:authPassword/>
  <ax224:authUserId/>
  <ax224:destination xsi:type="ax224:Destination">
    <ax224:distributionFile/>
    <ax224:distributionList/>
    <ax224:distributionListFullPath/>
    <ax224:dynamicAddress xsi:type="ax224:DynamicAddress">
      <ax224:password/>
      <ax224:procedureName/>
      <ax224:serverName/>
      <ax224:userName/>
    </ax224:dynamicAddress>
    <ax224:singleAddress/>
    <ax224:type>DISTRIBUTION_LIST</ax224:type>
  </ax224:destination>
  <ax224:inlineMessage/>
  <ax224:inlineTaskIndex>0</ax224:inlineTaskIndex>
  <ax224:mailFrom/>
  <ax224:mailReplyAddress/>
  <ax224:mailServerName/>
  <ax224:mailSubject/>
  <ax224:sendingReportAsAttachment>true</
ax224:sendingReportAsAttachment>
  <ax224:sslEnabled>>false</ax224:sslEnabled>
  <ax224:tlsEnabled>>false</ax224:tlsEnabled>
  <ax224:zipFileName/>
  <ax224:zipResult>>false</ax224:zipResult>
</ax224:distributionList>

```

```

    <ax224:firstTask xsi:type="ax224:TaskWFServerProcedure">
      <ax224:description>WebFocus Server Procedure task</
ax224:description>
      <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
      <ax224:id/>
      <ax224:procedureId/>
      <ax224:procedureName/>
      <ax224:reportName/>
      <ax224:taskRetry xsi:nil="true"/>
      <ax224:type>0</ax224:type>
      <ax224:allowFormatList xsi:nil="true"/>
      <ax224:burst>>false</ax224:burst>
      <ax224:execId/>
      <ax224:execPassword/>
      <ax224:firstPostProcessingProcedure/>
      <ax224:firstPreProcessingProcedure/>
      <ax224:formatInFex>>false</ax224:formatInFex>
      <ax224:parameterList xsi:nil="true"/>
      <ax224:secondPostProcessingProcedure/>
      <ax224:secondPreProcessingProcedure/>
      <ax224:sendFormat>HTML</ax224:sendFormat>
      <ax224:serverName>EDASERVE</ax224:serverName>
    </ax224:firstTask>
    <ax224:ibfsId>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</
ax224:ibfsId>
    <ax224:ibfsPath/>
    <ax224:id>Sca76e628s892as43a4sbddcs10875ff7f188</ax224:id>
    <ax224:lastModified>2014-02-24T14:25:09.581-05:00</
ax224:lastModified>
    <ax224:lastTimeExecuted>1970-01-01T00:00:00.000-05:00</
ax224:lastTimeExecuted>
    <ax224:name/>
    <ax224:notification xsi:type="ax224:Notification">
      <ax224:addressForBriefNotification/>
      <ax224:addressForFullNotification/>
      <ax224:description/>
      <ax224:from/>
      <ax224:id/>
      <ax224:subject/>
      <ax224:type>INACTIVE</ax224:type>
    </ax224:notification>

```

```

<ax224:owner>admin</ax224:owner>
  <ax224:priority>3</ax224:priority>
  <ax224:statusLastExecuted/>
  <ax224:summary/>
  <ax224:taskList xsi:type="ax224:TaskWFServerProcedure">
    <ax224:description>WebFocus Server Procedure task</
ax224:description>
    <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
    <ax224:id/>
    <ax224:procedureId/>
    <ax224:procedureName/>
    <ax224:reportName/>
    <ax224:taskRetry xsi:nil="true"/>
    <ax224:type>0</ax224:type>
    <ax224:allowFormatList xsi:nil="true"/>
    <ax224:burst>>false</ax224:burst>
    <ax224:execId/>
    <ax224:execPassword/>
    <ax224:firstPostProcessingProcedure/>
    <ax224:firstPreProcessingProcedure/>
    <ax224:formatInFex>>false</ax224:formatInFex>
    <ax224:parameterList xsi:nil="true"/>
    <ax224:secondPostProcessingProcedure/>
    <ax224:secondPreProcessingProcedure/>
    <ax224:sendFormat>HTML</ax224:sendFormat>
    <ax224:serverName>EDASERVE</ax224:serverName>
  </ax224:taskList>
  <ax224:timeInfo xsi:type="ax224:TimeInfoOnce">
    <ax224:description/>
    <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
    <ax224:id/>
    <ax224:name/>
    <ax224:nextRunTime>1970-01-01T00:00:00.000-05:00</
ax224:nextRunTime>
    <ax224:startTime>2014-02-24T14:25:09.581-05:00</
ax224:startTime>
    <ax224:type>0</ax224:type>
  </ax224:timeInfo>
  <ax224:timeInfoList xsi:type="ax224:TimeInfoOnce">
    <ax224:description/>
    <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
    <ax224:id/>
    <ax224:name/>
    <ax224:nextRunTime>1970-01-01T00:00:00.000-05:00</
ax224:nextRunTime>
    <ax224:startTime>2014-02-24T14:25:09.581-05:00</
ax224:startTime>
    <ax224:type>0</ax224:type>
  </ax224:timeInfoList>

```

```
<ax224:traceType>0</ax224:traceType>
  </ax226:schedule>
  <ax226:startTime>2014-02-24T14:13:25.760-05:00</ax226:startTime>
  <ax226:status>0</ax226:status>
</ns:return>
</ns:getJobsInQueueByOwnerResponse>
```

## 実行中ジョブのリスト取得

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、実行中 ReportCaster ジョブのリストを取得することができます。

**HTTP メソッド** GET

**REST URL のフォーマット**

[http://host:port/ibi\\_apps/services/ConsoleServiceREST/getRunningJobs](http://host:port/ibi_apps/services/ConsoleServiceREST/getRunningJobs)

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

例

次の例では、実行中 ReportCaster ジョブのリストが取得されます。

リクエスト

[http://localhost:8080/ibi\\_apps/services/ConsoleServiceREST/getRunningJobs](http://localhost:8080/ibi_apps/services/ConsoleServiceREST/getRunningJobs)

レスポンス

```

<ns:getRunningJobsResponse xmlns:ns="http://ws.api.broker.ibi"
xmlns:ax220="http://rmi.java.xsd" xmlns:ax221="http://io.java.xsd"
xmlns:ax224="http://schedule.data.api.broker.ibi/xsd" xmlns:ax226="http://
console.data.api.broker.ibi/xsd">
  <ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax226:Job">
    <ax226:distributionServerName xsi:nil="true"/>
    <ax226:fullyQualifiedServerName xsi:nil="true"/>
    <ax226:id>J41d8861bj53f5j4a60j8568jeddf39416a88</ax226:id>
    <ax226:schedule xsi:type="ax224:Schedule">
      <ax224:IBFSObjectType>113</ax224:IBFSObjectType>
      <ax224:active>true</ax224:active>
      <ax224:compressedReport>false</ax224:compressedReport>
      <ax224:deleteJobAfterRun>false</ax224:deleteJobAfterRun>
      <ax224:description>Carinst Report 2</ax224:description>
      <ax224:distribution xsi:type="ax224:DistributionEmail">
        <ax224:description/>
        <ax224:disabled>false</ax224:disabled>
        <ax224:id/>
        <ax224:type>EMAIL</ax224:type>
        <ax224:authEnabled>false</ax224:authEnabled>
        <ax224:authPassword/>
        <ax224:authUserId/>
        <ax224:destination xsi:type="ax224:Destination">
          <ax224:distributionFile/>
          <ax224:distributionList/>
          <ax224:distributionListFullPath/>
          <ax224:dynamicAddress xsi:type="ax224:DynamicAddress">
            <ax224:password/>
            <ax224:procedureName/>
            <ax224:serverName/>
            <ax224:userName/>
          </ax224:dynamicAddress>
          <ax224:singleAddress/>
          <ax224:type>DISTRIBUTION_LIST</ax224:type>
        </ax224:destination>
        <ax224:inlineMessage/>
        <ax224:inlineTaskIndex>0</ax224:inlineTaskIndex>
        <ax224:mailFrom/>
        <ax224:mailReplyAddress/>
        <ax224:mailServerName/>
        <ax224:mailSubject/>
      </ax224:distribution>
    </ax226:schedule>
  </ns:return>
</ns:getRunningJobsResponse>

```

```

<ax224:sendingReportAsAttachment>true</ax224:sendingReportAsAttachment>
  <ax224:sslEnabled>>false</ax224:sslEnabled>
  <ax224:tlsEnabled>>false</ax224:tlsEnabled>
  <ax224:zipFileName/>
  <ax224:zipResult>>false</ax224:zipResult>
</ax224:distribution>
<ax224:distributionList xsi:type="ax224:DistributionEmail">
  <ax224:description/>
  <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
  <ax224:id/>
  <ax224:type>EMAIL</ax224:type>
  <ax224:authEnabled>>false</ax224:authEnabled>
  <ax224:authPassword/>
  <ax224:authUserId/>
  <ax224:destination xsi:type="ax224:Destination">
    <ax224:distributionFile/>
    <ax224:distributionList/>
    <ax224:distributionListFullPath/>
    <ax224:dynamicAddress xsi:type="ax224:DynamicAddress">
      <ax224:password/>
      <ax224:procedureName/>
      <ax224:serverName/>
      <ax224:userName/>
    </ax224:dynamicAddress>
    <ax224:singleAddress/>
    <ax224:type>DISTRIBUTION_LIST</ax224:type>
  </ax224:destination>
  <ax224:inlineMessage/>
  <ax224:inlineTaskIndex>0</ax224:inlineTaskIndex>
  <ax224:mailFrom/>
  <ax224:mailReplyAddress/>
  <ax224:mailServerName/>
  <ax224:mailSubject/>
  <ax224:sendingReportAsAttachment>true</
ax224:sendingReportAsAttachment>
  <ax224:sslEnabled>>false</ax224:sslEnabled>
  <ax224:tlsEnabled>>false</ax224:tlsEnabled>
  <ax224:zipFileName/>
  <ax224:zipResult>>false</ax224:zipResult>
</ax224:distributionList>

```

```

    <ax224:firstTask xsi:type="ax224:TaskWFServerProcedure">
      <ax224:description>WebFocus Server Procedure task</
ax224:description>
      <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
      <ax224:id/>
      <ax224:procedureId/>
      <ax224:procedureName/>
      <ax224:reportName/>
      <ax224:taskRetry xsi:nil="true"/>
      <ax224:type>0</ax224:type>
      <ax224:allowFormatList xsi:nil="true"/>
      <ax224:burst>>false</ax224:burst>
      <ax224:execId/>
      <ax224:execPassword/>
      <ax224:firstPostProcessingProcedure/>
      <ax224:firstPreProcessingProcedure/>
      <ax224:formatInFex>>false</ax224:formatInFex>
      <ax224:parameterList xsi:nil="true"/>
      <ax224:secondPostProcessingProcedure/>
      <ax224:secondPreProcessingProcedure/>
      <ax224:sendFormat>HTML</ax224:sendFormat>
      <ax224:serverName>EDASERVE</ax224:serverName>
    </ax224:firstTask>
    <ax224:ibfsId>6dff2b49I8245I4638I9e9fIc5900a9a12d5</
ax224:ibfsId>
    <ax224:ibfsPath/>
    <ax224:id>S23f65030s728as482asa632s879fd9f6a727</ax224:id>
    <ax224:lastModified>2014-03-11T18:27:46.710-04:00</
ax224:lastModified>
    <ax224:lastTimeExecuted>1970-01-01T00:00:00.000-05:00</
ax224:lastTimeExecuted>
    <ax224:name/>
    <ax224:notification xsi:type="ax224:Notification">
      <ax224:addressForBriefNotification/>
      <ax224:addressForFullNotification/>
      <ax224:description/>
      <ax224:from/>
      <ax224:id/>
      <ax224:subject/>
      <ax224:type>INACTIVE</ax224:type>
    </ax224:notification>

```



```

<ax224:owner>admin</ax224:owner>
  <ax224:priority>3</ax224:priority>
  <ax224:statusLastExecuted/>
  <ax224:summary/>
  <ax224:taskList xsi:type="ax224:TaskWFServerProcedure">
    <ax224:description>WebFocus Server Procedure task</
ax224:description>
    <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
    <ax224:id/>
    <ax224:procedureId/>
    <ax224:procedureName/>
    <ax224:reportName/>
    <ax224:taskRetry xsi:nil="true"/>
    <ax224:type>0</ax224:type>
    <ax224:allowFormatList xsi:nil="true"/>
    <ax224:burst>>false</ax224:burst>
    <ax224:execId/>
    <ax224:execPassword/>
    <ax224:firstPostProcessingProcedure/>
    <ax224:firstPreProcessingProcedure/>
    <ax224:formatInFex>>false</ax224:formatInFex>
    <ax224:parameterList xsi:nil="true"/>
    <ax224:secondPostProcessingProcedure/>
    <ax224:secondPreProcessingProcedure/>
    <ax224:sendFormat>HTML</ax224:sendFormat>
    <ax224:serverName>EDASERVE</ax224:serverName>
  </ax224:taskList>
  <ax224:timeInfo xsi:type="ax224:TimeInfoOnce">
    <ax224:description/>
    <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
    <ax224:id/>
    <ax224:name/>
    <ax224:nextRunTime>1970-01-01T00:00:00.000-05:00</
ax224:nextRunTime>
    <ax224:startTime>2014-03-11T18:27:46.710-04:00</
ax224:startTime>
    <ax224:type>0</ax224:type>
  </ax224:timeInfo>
  <ax224:timeInfoList xsi:type="ax224:TimeInfoOnce">
    <ax224:description/>
    <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
    <ax224:id/>
    <ax224:name/>
    <ax224:nextRunTime>1970-01-01T00:00:00.000-05:00</
ax224:nextRunTime>
    <ax224:startTime>2014-03-11T18:27:46.710-04:00</
ax224:startTime>
    <ax224:type>0</ax224:type>
  </ax224:timeInfoList>

```

```

<ax224:traceType>0</ax224:traceType>
  </ax226:schedule>
  <ax226:startTime>2014-03-11T18:25:35.827-04:00</ax226:startTime>
  <ax226:status>1</ax226:status>
</ns:return>
<ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax226:Job">
  <ax226:distributionServerName xsi:nil="true"/>
  <ax226:fullyQualifiedServerName xsi:nil="true"/>
  <ax226:id>Jbc069445jb73dj4b41j9051j5dd542f3074e</ax226:id>
  <ax226:schedule xsi:type="ax224:Schedule">
    <ax224:IBFSObjectType>113</ax224:IBFSObjectType>
    <ax224:active>true</ax224:active>
    <ax224:compressedReport>false</ax224:compressedReport>
    <ax224:deleteJobAfterRun>false</ax224:deleteJobAfterRun>
    <ax224:description>Carinst Report 2</ax224:description>
    <ax224:distribution xsi:type="ax224:DistributionEmail">
      <ax224:description/>
      <ax224:disabled>false</ax224:disabled>
      <ax224:id/>
      <ax224:type>EMAIL</ax224:type>
      <ax224:authEnabled>false</ax224:authEnabled>
      <ax224:authPassword/>
      <ax224:authUserId/>
      <ax224:destination xsi:type="ax224:Destination">
        <ax224:distributionFile/>
        <ax224:distributionList/>
        <ax224:distributionListFullPath/>
        <ax224:dynamicAddress xsi:type="ax224:DynamicAddress">
          <ax224:password/>
          <ax224:procedureName/>
          <ax224:serverName/>
          <ax224:userName/>
        </ax224:dynamicAddress>
        <ax224:singleAddress/>
        <ax224:type>DISTRIBUTION_LIST</ax224:type>
      </ax224:destination>
    </ax224:distribution>
  </ax226:schedule>
</ns:return>

```

```

<ax224:inlineMessage/>
  <ax224:inlineTaskIndex>0</ax224:inlineTaskIndex>
  <ax224:mailFrom/>
  <ax224:mailReplyAddress/>
  <ax224:mailServerName/>
  <ax224:mailSubject/>
  <ax224:sendingReportAsAttachment>true</
ax224:sendingReportAsAttachment>
  <ax224:sslEnabled>>false</ax224:sslEnabled>
  <ax224:tlsEnabled>>false</ax224:tlsEnabled>
  <ax224:zipFileName/>
  <ax224:zipResult>>false</ax224:zipResult>
</ax224:distribution>
<ax224:distributionList xsi:type="ax224:DistributionEmail">
  <ax224:description/>
  <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
  <ax224:id/>
  <ax224:type>EMAIL</ax224:type>
  <ax224:authEnabled>>false</ax224:authEnabled>
  <ax224:authPassword/>
  <ax224:authUserId/>
  <ax224:destination xsi:type="ax224:Destination">
    <ax224:distributionFile/>
    <ax224:distributionList/>
    <ax224:distributionListFullPath/>
    <ax224:dynamicAddress xsi:type="ax224:DynamicAddress">
      <ax224:password/>
      <ax224:procedureName/>
      <ax224:serverName/>
      <ax224:userName/>
    </ax224:dynamicAddress>
    <ax224:singleAddress/>
    <ax224:type>DISTRIBUTION_LIST</ax224:type>
  </ax224:destination>
  <ax224:inlineMessage/>
  <ax224:inlineTaskIndex>0</ax224:inlineTaskIndex>
  <ax224:mailFrom/>
  <ax224:mailReplyAddress/>
  <ax224:mailServerName/>
  <ax224:mailSubject/>
  <ax224:sendingReportAsAttachment>true</
ax224:sendingReportAsAttachment>
  <ax224:sslEnabled>>false</ax224:sslEnabled>
  <ax224:tlsEnabled>>false</ax224:tlsEnabled>
  <ax224:zipFileName/>
  <ax224:zipResult>>false</ax224:zipResult>
</ax224:distributionList>

```

```

<ax224:firstTask xsi:type="ax224:TaskWFServerProcedure">
  <ax224:description>WebFocus Server Procedure task</
ax224:description>
  <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
  <ax224:id/>
  <ax224:procedureId/>
  <ax224:procedureName/>
  <ax224:reportName/>
  <ax224:taskRetry xsi:nil="true"/>
  <ax224:type>0</ax224:type>
  <ax224:allowFormatList xsi:nil="true"/>
  <ax224:burst>>false</ax224:burst>
  <ax224:execId/>
  <ax224:execPassword/>
  <ax224:firstPostProcessingProcedure/>
  <ax224:firstPreProcessingProcedure/>
  <ax224:formatInFex>>false</ax224:formatInFex>
  <ax224:parameterList xsi:nil="true"/>
  <ax224:secondPostProcessingProcedure/>
  <ax224:secondPreProcessingProcedure/>
  <ax224:sendFormat>HTML</ax224:sendFormat>
  <ax224:serverName>EDASERVE</ax224:serverName>
</ax224:firstTask>
<ax224:ibfsId>6dff2b49I8245I4638I9e9fIc5900a9a12d5</
ax224:ibfsId>
  <ax224:ibfsPath/>
  <ax224:id>S23f65030s728as482asa632s879fd9f6a727</ax224:id>
  <ax224:lastModified>2014-03-11T18:27:46.710-04:00</
ax224:lastModified>
  <ax224:lastTimeExecuted>1970-01-01T00:00:00.000-05:00</
ax224:lastTimeExecuted>
  <ax224:name/>
  <ax224:notification xsi:type="ax224:Notification">
    <ax224:addressForBriefNotification/>
    <ax224:addressForFullNotification/>
    <ax224:description/>
    <ax224:from/>
    <ax224:id/>
    <ax224:subject/>
    <ax224:type>INACTIVE</ax224:type>
  </ax224:notification>

```

```

<ax224:owner>admin</ax224:owner>
  <ax224:priority>3</ax224:priority>
  <ax224:statusLastExecuted/>
  <ax224:summary/>
  <ax224:taskList xsi:type="ax224:TaskWFServerProcedure">
    <ax224:description>WebFocus Server Procedure task</
ax224:description>
    <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
    <ax224:id/>
    <ax224:procedureId/>
    <ax224:procedureName/>
    <ax224:reportName/>
    <ax224:taskRetry xsi:nil="true"/>
    <ax224:type>0</ax224:type>
    <ax224:allowFormatList xsi:nil="true"/>
    <ax224:burst>>false</ax224:burst>
    <ax224:execId/>
    <ax224:execPassword/>
    <ax224:firstPostProcessingProcedure/>
    <ax224:firstPreProcessingProcedure/>
    <ax224:formatInFex>>false</ax224:formatInFex>
    <ax224:parameterList xsi:nil="true"/>
    <ax224:secondPostProcessingProcedure/>
    <ax224:secondPreProcessingProcedure/>
    <ax224:sendFormat>HTML</ax224:sendFormat>
    <ax224:serverName>EDASERVE</ax224:serverName>
  </ax224:taskList>
  <ax224:timeInfo xsi:type="ax224:TimeInfoOnce">
    <ax224:description/>
    <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
    <ax224:id/>
    <ax224:name/>
    <ax224:nextRunTime>1970-01-01T00:00:00.000-05:00</
ax224:nextRunTime>
    <ax224:startTime>2014-03-11T18:27:46.710-04:00</
ax224:startTime>
    <ax224:type>0</ax224:type>
  </ax224:timeInfo>
  <ax224:timeInfoList xsi:type="ax224:TimeInfoOnce">
    <ax224:description/>
    <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
    <ax224:id/>
    <ax224:name/>
    <ax224:nextRunTime>1970-01-01T00:00:00.000-05:00</
ax224:nextRunTime>
    <ax224:startTime>2014-03-11T18:27:46.710-04:00</
ax224:startTime>
    <ax224:type>0</ax224:type>
  </ax224:timeInfoList>

```

```

<ax224:traceType>0</ax224:traceType>
  </ax226:schedule>
  <ax226:startTime>2014-03-11T18:25:40.622-04:00</ax226:startTime>
  <ax226:status>1</ax226:status>
</ns:return>
<ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax226:Job">
  <ax226:distributionServerName xsi:nil="true"/>
  <ax226:fullyQualifiedServerName xsi:nil="true"/>
  <ax226:id>J07e3e5b8j0608j49bfj823ajc00d8768a7ba</ax226:id>
  <ax226:schedule xsi:type="ax224:Schedule">
    <ax224:IBFSObjectType>113</ax224:IBFSObjectType>
    <ax224:active>true</ax224:active>
    <ax224:compressedReport>false</ax224:compressedReport>
    <ax224:deleteJobAfterRun>false</ax224:deleteJobAfterRun>
    <ax224:description>Carinst Report 2</ax224:description>
    <ax224:distribution xsi:type="ax224:DistributionEmail">
      <ax224:description/>
      <ax224:disabled>false</ax224:disabled>
      <ax224:id/>
      <ax224:type>EMAIL</ax224:type>
      <ax224:authEnabled>false</ax224:authEnabled>
      <ax224:authPassword/>
      <ax224:authUserId/>
      <ax224:destination xsi:type="ax224:Destination">
        <ax224:distributionFile/>
        <ax224:distributionList/>
        <ax224:distributionListFullPath/>
        <ax224:dynamicAddress xsi:type="ax224:DynamicAddress">
          <ax224:password/>
          <ax224:procedureName/>
          <ax224:serverName/>
          <ax224:userName/>
        </ax224:dynamicAddress>
        <ax224:singleAddress/>
        <ax224:type>DISTRIBUTION_LIST</ax224:type>
      </ax224:destination>
    </ax224:distribution>
  </ax226:schedule>
</ns:return>

```

```

<ax224:inlineMessage/>
  <ax224:inlineTaskIndex>0</ax224:inlineTaskIndex>
  <ax224:mailFrom/>
  <ax224:mailReplyAddress/>
  <ax224:mailServerName/>
  <ax224:mailSubject/>
  <ax224:sendingReportAsAttachment>true</
ax224:sendingReportAsAttachment>
  <ax224:sslEnabled>>false</ax224:sslEnabled>
  <ax224:tlsEnabled>>false</ax224:tlsEnabled>
  <ax224:zipFileName/>
  <ax224:zipResult>>false</ax224:zipResult>
</ax224:distribution>
<ax224:distributionList xsi:type="ax224:DistributionEmail">
  <ax224:description/>
  <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
  <ax224:id/>
  <ax224:type>EMAIL</ax224:type>
  <ax224:authEnabled>>false</ax224:authEnabled>
  <ax224:authPassword/>
  <ax224:authUserId/>
  <ax224:destination xsi:type="ax224:Destination">
    <ax224:distributionFile/>
    <ax224:distributionList/>
    <ax224:distributionListFullPath/>
    <ax224:dynamicAddress xsi:type="ax224:DynamicAddress">
      <ax224:password/>
      <ax224:procedureName/>
      <ax224:serverName/>
      <ax224:userName/>
    </ax224:dynamicAddress>
    <ax224:singleAddress/>
    <ax224:type>DISTRIBUTION_LIST</ax224:type>
  </ax224:destination>
  <ax224:inlineMessage/>
  <ax224:inlineTaskIndex>0</ax224:inlineTaskIndex>
  <ax224:mailFrom/>
  <ax224:mailReplyAddress/>
  <ax224:mailServerName/>
  <ax224:mailSubject/>
  <ax224:sendingReportAsAttachment>true</
ax224:sendingReportAsAttachment>
  <ax224:sslEnabled>>false</ax224:sslEnabled>
  <ax224:tlsEnabled>>false</ax224:tlsEnabled>
  <ax224:zipFileName/>
  <ax224:zipResult>>false</ax224:zipResult>
</ax224:distributionList>

```

```

<ax224:firstTask xsi:type="ax224:TaskWFServerProcedure">
  <ax224:description>WebFocus Server Procedure task</
ax224:description>
  <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
  <ax224:id/>
  <ax224:procedureId/>
  <ax224:procedureName/>
  <ax224:reportName/>
  <ax224:taskRetry xsi:nil="true"/>
  <ax224:type>0</ax224:type>
  <ax224:allowFormatList xsi:nil="true"/>
  <ax224:burst>>false</ax224:burst>
  <ax224:execId/>
  <ax224:execPassword/>
  <ax224:firstPostProcessingProcedure/>
  <ax224:firstPreProcessingProcedure/>
  <ax224:formatInFex>>false</ax224:formatInFex>
  <ax224:parameterList xsi:nil="true"/>
  <ax224:secondPostProcessingProcedure/>
  <ax224:secondPreProcessingProcedure/>
  <ax224:sendFormat>HTML</ax224:sendFormat>
  <ax224:serverName>EDASERVE</ax224:serverName>
</ax224:firstTask>
<ax224:ibfsId>6dff2b49I8245I4638I9e9fIc5900a9a12d5</
ax224:ibfsId>
  <ax224:ibfsPath/>
  <ax224:id>S23f65030s728as482asa632s879fd9f6a727</ax224:id>
  <ax224:lastModified>2014-03-11T18:27:46.710-04:00</
ax224:lastModified>
  <ax224:lastTimeExecuted>1970-01-01T00:00:00.000-05:00</
ax224:lastTimeExecuted>
  <ax224:name/>
  <ax224:notification xsi:type="ax224:Notification">
    <ax224:addressForBriefNotification/>
    <ax224:addressForFullNotification/>
    <ax224:description/>
    <ax224:from/>
    <ax224:id/>
    <ax224:subject/>
    <ax224:type>INACTIVE</ax224:type>
  </ax224:notification>

```



```

<ax224:owner>admin</ax224:owner>
  <ax224:priority>3</ax224:priority>
  <ax224:statusLastExecuted/>
  <ax224:summary/>
  <ax224:taskList xsi:type="ax224:TaskWFServerProcedure">
    <ax224:description>WebFocus Server Procedure task</
ax224:description>
    <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
    <ax224:id/>
    <ax224:procedureId/>
    <ax224:procedureName/>
    <ax224:reportName/>
    <ax224:taskRetry xsi:nil="true"/>
    <ax224:type>0</ax224:type>
    <ax224:allowFormatList xsi:nil="true"/>
    <ax224:burst>>false</ax224:burst>
    <ax224:execId/>
    <ax224:execPassword/>
    <ax224:firstPostProcessingProcedure/>
    <ax224:firstPreProcessingProcedure/>
    <ax224:formatInFex>>false</ax224:formatInFex>
    <ax224:parameterList xsi:nil="true"/>
    <ax224:secondPostProcessingProcedure/>
    <ax224:secondPreProcessingProcedure/>
    <ax224:sendFormat>HTML</ax224:sendFormat>
    <ax224:serverName>EDASERVE</ax224:serverName>
  </ax224:taskList>
  <ax224:timeInfo xsi:type="ax224:TimeInfoOnce">
    <ax224:description/>
    <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
    <ax224:id/>
    <ax224:name/>
    <ax224:nextRunTime>1970-01-01T00:00:00.000-05:00</
ax224:nextRunTime>
    <ax224:startTime>2014-03-11T18:27:46.710-04:00</
ax224:startTime>
    <ax224:type>0</ax224:type>
  </ax224:timeInfo>

```

```
<ax224:timeInfoList xsi:type="ax224:TimeInfoOnce">
  <ax224:description/>
  <ax224:disabled>false</ax224:disabled>
  <ax224:id/>
  <ax224:name/>
  <ax224:nextRunTime>1970-01-01T00:00:00.000-05:00</
ax224:nextRunTime>
  <ax224:startTime>2014-03-11T18:27:46.710-04:00</
ax224:startTime>
  <ax224:type>0</ax224:type>
</ax224:timeInfoList>
<ax224:traceType>0</ax224:traceType>
</ax226:schedule>
<ax226:startTime>2014-03-11T18:25:47.863-04:00</ax226:startTime>
<ax226:status>1</ax226:status>
</ns:return>
</ns:getRunningJobsResponse>
```

## オーナーの実行中ジョブリスト取得

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、実行中の ReportCaster ジョブの中で、特定のスケジュールオーナーが所有するジョブのリストを取得することができます。

**HTTP メソッド** GET

**REST URL のフォーマット**

`http://host:port/ibi_apps/services/ConsoleServiceREST/getRunningJobsByOwner?owner=owner`

説明

*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

*owner*

ReportCaster スケジュールのオーナーです。

例

次の例では、実行中 ReportCaster ジョブの中で、admin というオーナーが所有するジョブのリストが取得されます。

リクエスト

`http://localhost:8080/ibi_apps/services/ConsoleServiceREST/getRunningJobsByOwner?owner=admin`

## レスポンス

```

<ns:getRunningJobsByOwnerResponse xmlns:ns="http://ws.api.broker.ibi"
xmlns:ax220="http://rmi.java/xsd" xmlns:ax221="http://io.java/xsd"
xmlns:ax224="http://schedule.data.api.broker.ibi/xsd" xmlns:ax226="http://
console.data.api.broker.ibi/xsd">
  <ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax226:Job">
    <ax226:distributionServerName xsi:nil="true"/>
    <ax226:fullyQualifiedServerName xsi:nil="true"/>
    <ax226:id>J00709cc0jdeddj4115ja3d9j353dcd5bc11e</ax226:id>
    <ax226:schedule xsi:type="ax224:Schedule">
      <ax224:IBFSObjectType>113</ax224:IBFSObjectType>
      <ax224:active>true</ax224:active>
      <ax224:compressedReport>false</ax224:compressedReport>
      <ax224:deleteJobAfterRun>false</ax224:deleteJobAfterRun>
      <ax224:description>Carinst Report 2</ax224:description>
      <ax224:distribution xsi:type="ax224:DistributionEmail">
        <ax224:description/>
        <ax224:disabled>false</ax224:disabled>
        <ax224:id/>
        <ax224:type>EMAIL</ax224:type>
        <ax224:authEnabled>false</ax224:authEnabled>
        <ax224:authPassword/>
        <ax224:authUserId/>
        <ax224:destination xsi:type="ax224:Destination">
          <ax224:distributionFile/>
          <ax224:distributionList/>
          <ax224:distributionListFullPath/>
          <ax224:dynamicAddress xsi:type="ax224:DynamicAddress">
            <ax224:password/>
            <ax224:procedureName/>
            <ax224:serverName/>
            <ax224:userName/>
          </ax224:dynamicAddress>
          <ax224:singleAddress/>
          <ax224:type>DISTRIBUTION_LIST</ax224:type>
        </ax224:destination>
        <ax224:inlineMessage/>
        <ax224:inlineTaskIndex>0</ax224:inlineTaskIndex>
        <ax224:mailFrom/>
        <ax224:mailReplyAddress/>
        <ax224:mailServerName/>
        <ax224:mailSubject/>
      </ax224:distribution>
    </ax226:schedule>
  </ns:return>
</ns:getRunningJobsByOwnerResponse>

```

```
        <ax224:sendingReportAsAttachment>true</
ax224:sendingReportAsAttachment>
        <ax224:sslEnabled>>false</ax224:sslEnabled>
        <ax224:tlsEnabled>>false</ax224:tlsEnabled>
        <ax224:zipFileName/>
        <ax224:zipResult>>false</ax224:zipResult>
    </ax224:distribution>
    <ax224:distributionList xsi:type="ax224:DistributionEmail">
        <ax224:description/>
        <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
        <ax224:id/>
        <ax224:type>EMAIL</ax224:type>
        <ax224:authEnabled>>false</ax224:authEnabled>
        <ax224:authPassword/>
        <ax224:authUserId/>
        <ax224:destination xsi:type="ax224:Destination">
            <ax224:distributionFile/>
            <ax224:distributionList/>
            <ax224:distributionListFullPath/>
            <ax224:dynamicAddress xsi:type="ax224:DynamicAddress">
                <ax224:password/>
                <ax224:procedureName/>
                <ax224:serverName/>
                <ax224:userName/>
            </ax224:dynamicAddress>
            <ax224:singleAddress/>
            <ax224:type>DISTRIBUTION_LIST</ax224:type>
        </ax224:destination>
        <ax224:inlineMessage/>
        <ax224:inlineTaskIndex>0</ax224:inlineTaskIndex>
        <ax224:mailFrom/>
        <ax224:mailReplyAddress/>
        <ax224:mailServerName/>
        <ax224:mailSubject/>
        <ax224:sendingReportAsAttachment>true</
ax224:sendingReportAsAttachment>
        <ax224:sslEnabled>>false</ax224:sslEnabled>
        <ax224:tlsEnabled>>false</ax224:tlsEnabled>
        <ax224:zipFileName/>
        <ax224:zipResult>>false</ax224:zipResult>
    </ax224:distributionList>
```

```

    <ax224:firstTask xsi:type="ax224:TaskWFServerProcedure">
      <ax224:description>WebFocus Server Procedure task</
ax224:description>
      <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
      <ax224:id/>
      <ax224:procedureId/>
      <ax224:procedureName/>
      <ax224:reportName/>
      <ax224:taskRetry xsi:nil="true"/>
      <ax224:type>0</ax224:type>
      <ax224:allowFormatList xsi:nil="true"/>
      <ax224:burst>>false</ax224:burst>
      <ax224:execId/>
      <ax224:execPassword/>
      <ax224:firstPostProcessingProcedure/>
      <ax224:firstPreProcessingProcedure/>
      <ax224:formatInFex>>false</ax224:formatInFex>
      <ax224:parameterList xsi:nil="true"/>
      <ax224:secondPostProcessingProcedure/>
      <ax224:secondPreProcessingProcedure/>
      <ax224:sendFormat>HTML</ax224:sendFormat>
      <ax224:serverName>EDASERVE</ax224:serverName>
    </ax224:firstTask>
    <ax224:ibfsId>6dff2b49I8245I4638I9e9fIc5900a9a12d5</
ax224:ibfsId>
    <ax224:ibfsPath/>
    <ax224:id>S23f65030s728as482asa632s879fd9f6a727</ax224:id>
    <ax224:lastModified>2014-02-24T14:42:43.031-05:00</
ax224:lastModified>
    <ax224:lastTimeExecuted>1970-01-01T00:00:00.000-05:00</
ax224:lastTimeExecuted>
    <ax224:name/>
    <ax224:notification xsi:type="ax224:Notification">
      <ax224:addressForBriefNotification/>
      <ax224:addressForFullNotification/>
      <ax224:description/>
      <ax224:from/>
      <ax224:id/>
      <ax224:subject/>
      <ax224:type>INACTIVE</ax224:type>
    </ax224:notification>
    <ax224:owner>admin</ax224:owner>
    <ax224:priority>3</ax224:priority>
    <ax224:statusLastExecuted/>
    <ax224:summary/>

```

```

<ax224:taskList xsi:type="ax224:TaskWFServerProcedure">
  <ax224:description>WebFocus Server Procedure task</
ax224:description>
  <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
  <ax224:id/>
  <ax224:procedureId/>
  <ax224:procedureName/>
  <ax224:reportName/>
  <ax224:taskRetry xsi:nil="true"/>
  <ax224:type>0</ax224:type>
  <ax224:allowFormatList xsi:nil="true"/>
  <ax224:burst>>false</ax224:burst>
  <ax224:execId/>
  <ax224:execPassword/>
  <ax224:firstPostProcessingProcedure/>
  <ax224:firstPreProcessingProcedure/>
  <ax224:formatInFex>>false</ax224:formatInFex>
  <ax224:parameterList xsi:nil="true"/>
  <ax224:secondPostProcessingProcedure/>
  <ax224:secondPreProcessingProcedure/>
  <ax224:sendFormat>HTML</ax224:sendFormat>
  <ax224:serverName>EDASERVE</ax224:serverName>
</ax224:taskList>
<ax224:timeInfo xsi:type="ax224:TimeInfoOnce">
  <ax224:description/>
  <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
  <ax224:id/>
  <ax224:name/>
  <ax224:nextRunTime>1970-01-01T00:00:00.000-05:00</
ax224:nextRunTime>
  <ax224:startTime>2014-02-24T14:42:43.031-05:00</
ax224:startTime>
  <ax224:type>0</ax224:type>
</ax224:timeInfo>
<ax224:timeInfoList xsi:type="ax224:TimeInfoOnce">
  <ax224:description/>
  <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
  <ax224:id/>
  <ax224:name/>
  <ax224:nextRunTime>1970-01-01T00:00:00.000-05:00</
ax224:nextRunTime>
  <ax224:startTime>2014-02-24T14:42:43.031-05:00</
ax224:startTime>
  <ax224:type>0</ax224:type>
</ax224:timeInfoList>
<ax224:traceType>0</ax224:traceType>
</ax226:schedule>

```

```

<ax226:startTime>2014-02-24T14:24:35.685-05:00</ax226:startTime>
  <ax226:status>1</ax226:status>
</ns:return>
<ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax226:Job">
  <ax226:distributionServerName xsi:nil="true"/>
  <ax226:fullyQualifiedServerName xsi:nil="true"/>
  <ax226:id>Jfbd27992j5c60j4f48ja110jea71ff6ae996</ax226:id>
  <ax226:schedule xsi:type="ax224:Schedule">
    <ax224:IBFSObjectType>113</ax224:IBFSObjectType>
    <ax224:active>true</ax224:active>
    <ax224:compressedReport>false</ax224:compressedReport>
    <ax224:deleteJobAfterRun>false</ax224:deleteJobAfterRun>
    <ax224:description>Carinst Report 2</ax224:description>
    <ax224:distribution xsi:type="ax224:DistributionEmail">
      <ax224:description/>
      <ax224:disabled>false</ax224:disabled>
      <ax224:id/>
      <ax224:type>EMAIL</ax224:type>
      <ax224:authEnabled>false</ax224:authEnabled>
      <ax224:authPassword/>
      <ax224:authUserId/>
      <ax224:destination xsi:type="ax224:Destination">
        <ax224:distributionFile/>
        <ax224:distributionList/>
        <ax224:distributionListFullPath/>
        <ax224:dynamicAddress xsi:type="ax224:DynamicAddress">
          <ax224:password/>
          <ax224:procedureName/>
          <ax224:serverName/>
          <ax224:userName/>
        </ax224:dynamicAddress>
        <ax224:singleAddress/>
        <ax224:type>DISTRIBUTION_LIST</ax224:type>
      </ax224:destination>
      <ax224:inlineMessage/>
      <ax224:inlineTaskIndex>0</ax224:inlineTaskIndex>
      <ax224:mailFrom/>
      <ax224:mailReplyAddress/>
      <ax224:mailServerName/>
      <ax224:mailSubject/>
      <ax224:sendingReportAsAttachment>true</
ax224:sendingReportAsAttachment>
      <ax224:sslEnabled>false</ax224:sslEnabled>
      <ax224:tlsEnabled>false</ax224:tlsEnabled>
      <ax224:zipFileName/>
      <ax224:zipResult>false</ax224:zipResult>
    </ax224:distribution>
  </ax226:schedule>
</ns:return>

```

---

```

<ax224:distributionList xsi:type="ax224:DistributionEmail">
  <ax224:description/>
  <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
  <ax224:id/>
  <ax224:type>EMAIL</ax224:type>
  <ax224:authEnabled>>false</ax224:authEnabled>
  <ax224:authPassword/>
  <ax224:authUserId/>
  <ax224:destination xsi:type="ax224:Destination">
    <ax224:distributionFile/>
    <ax224:distributionList/>
    <ax224:distributionListFullPath/>
    <ax224:dynamicAddress xsi:type="ax224:DynamicAddress">
      <ax224:password/>
      <ax224:procedureName/>
      <ax224:serverName/>
      <ax224:userName/>
    </ax224:dynamicAddress>
    <ax224:singleAddress/>
    <ax224:type>DISTRIBUTION_LIST</ax224:type>
  </ax224:destination>
  <ax224:inlineMessage/>
  <ax224:inlineTaskIndex>0</ax224:inlineTaskIndex>
  <ax224:mailFrom/>
  <ax224:mailReplyAddress/>
  <ax224:mailServerName/>
  <ax224:mailSubject/>
  <ax224:sendingReportAsAttachment>>true</
ax224:sendingReportAsAttachment>
  <ax224:sslEnabled>>false</ax224:sslEnabled>
  <ax224:tlsEnabled>>false</ax224:tlsEnabled>
  <ax224:zipFileName/>
  <ax224:zipResult>>false</ax224:zipResult>
</ax224:distributionList>

```



```

<ax224:firstTask xsi:type="ax224:TaskWFServerProcedure">
  <ax224:description>WebFocus Server Procedure task</
ax224:description>
  <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
  <ax224:id/>
  <ax224:procedureId/>
  <ax224:procedureName/>
  <ax224:reportName/>
  <ax224:taskRetry xsi:nil="true"/>
  <ax224:type>0</ax224:type>
  <ax224:allowFormatList xsi:nil="true"/>
  <ax224:burst>>false</ax224:burst>
  <ax224:execId/>
  <ax224:execPassword/>
  <ax224:firstPostProcessingProcedure/>
  <ax224:firstPreProcessingProcedure/>
  <ax224:formatInFex>>false</ax224:formatInFex>
  <ax224:parameterList xsi:nil="true"/>
  <ax224:secondPostProcessingProcedure/>
  <ax224:secondPreProcessingProcedure/>
  <ax224:sendFormat>HTML</ax224:sendFormat>
  <ax224:serverName>EDASERVE</ax224:serverName>
</ax224:firstTask>
<ax224:ibfsId>6dff2b49I8245I4638I9e9fIc5900a9a12d5</
ax224:ibfsId>
  <ax224:ibfsPath/>
  <ax224:id>S23f65030s728as482asa632s879fd9f6a727</ax224:id>
  <ax224:lastModified>2014-02-24T14:42:43.032-05:00</
ax224:lastModified>
  <ax224:lastTimeExecuted>1970-01-01T00:00:00.000-05:00</
ax224:lastTimeExecuted>
  <ax224:name/>
  <ax224:notification xsi:type="ax224:Notification">
    <ax224:addressForBriefNotification/>
    <ax224:addressForFullNotification/>
    <ax224:description/>
    <ax224:from/>
    <ax224:id/>
    <ax224:subject/>
    <ax224:type>INACTIVE</ax224:type>
  </ax224:notification>
  <ax224:owner>admin</ax224:owner>
  <ax224:priority>3</ax224:priority>
  <ax224:statusLastExecuted/>
  <ax224:summary/>

```

```

    <ax224:taskList xsi:type="ax224:TaskWFServerProcedure">
      <ax224:description>WebFocus Server Procedure task</
ax224:description>
      <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
      <ax224:id/>
      <ax224:procedureId/>
      <ax224:procedureName/>
      <ax224:reportName/>
      <ax224:taskRetry xsi:nil="true"/>
      <ax224:type>0</ax224:type>
      <ax224:allowFormatList xsi:nil="true"/>
      <ax224:burst>>false</ax224:burst>
      <ax224:execId/>
      <ax224:execPassword/>
      <ax224:firstPostProcessingProcedure/>
      <ax224:firstPreProcessingProcedure/>
      <ax224:formatInFex>>false</ax224:formatInFex>
      <ax224:parameterList xsi:nil="true"/>
      <ax224:secondPostProcessingProcedure/>
      <ax224:secondPreProcessingProcedure/>
      <ax224:sendFormat>HTML</ax224:sendFormat>
      <ax224:serverName>EDASERVE</ax224:serverName>
    </ax224:taskList>
    <ax224:timeInfo xsi:type="ax224:TimeInfoOnce">
      <ax224:description/>
      <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
      <ax224:id/>
      <ax224:name/>
      <ax224:nextRunTime>1970-01-01T00:00:00.000-05:00</
ax224:nextRunTime>
      <ax224:startTime>2014-02-24T14:42:43.031-05:00</
ax224:startTime>
      <ax224:type>0</ax224:type>
    </ax224:timeInfo>
    <ax224:timeInfoList xsi:type="ax224:TimeInfoOnce">
      <ax224:description/>
      <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
      <ax224:id/>
      <ax224:name/>
      <ax224:nextRunTime>1970-01-01T00:00:00.000-05:00</
ax224:nextRunTime>
      <ax224:startTime>2014-02-24T14:42:43.031-05:00</
ax224:startTime>
      <ax224:type>0</ax224:type>
    </ax224:timeInfoList>
    <ax224:traceType>0</ax224:traceType>
  </ax226:schedule>

```

```

<ax226:startTime>2014-02-24T14:24:35.817-05:00</ax226:startTime>
  <ax226:status>1</ax226:status>
</ns:return>
<ns:return xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:type="ax226:Job">
  <ax226:distributionServerName xsi:nil="true"/>
  <ax226:fullyQualifiedServerName xsi:nil="true"/>
  <ax226:id>J57602256jc2bfj4523j8492jl38f33deb40f</ax226:id>
  <ax226:schedule xsi:type="ax224:Schedule">
    <ax224:IBFSObjectType>113</ax224:IBFSObjectType>
    <ax224:active>true</ax224:active>
    <ax224:compressedReport>false</ax224:compressedReport>
    <ax224:deleteJobAfterRun>false</ax224:deleteJobAfterRun>
    <ax224:description>Carinst Report 2</ax224:description>
    <ax224:distribution xsi:type="ax224:DistributionEmail">
      <ax224:description/>
      <ax224:disabled>false</ax224:disabled>
      <ax224:id/>
      <ax224:type>EMAIL</ax224:type>
      <ax224:authEnabled>false</ax224:authEnabled>
      <ax224:authPassword/>
      <ax224:authUserId/>
      <ax224:destination xsi:type="ax224:Destination">
        <ax224:distributionFile/>
        <ax224:distributionList/>
        <ax224:distributionListFullPath/>
        <ax224:dynamicAddress xsi:type="ax224:DynamicAddress">
          <ax224:password/>
          <ax224:procedureName/>
          <ax224:serverName/>
          <ax224:userName/>
        </ax224:dynamicAddress>
        <ax224:singleAddress/>
        <ax224:type>DISTRIBUTION_LIST</ax224:type>
      </ax224:destination>
      <ax224:inlineMessage/>
      <ax224:inlineTaskIndex>0</ax224:inlineTaskIndex>
      <ax224:mailFrom/>
      <ax224:mailReplyAddress/>
      <ax224:mailServerName/>
      <ax224:mailSubject/>
      <ax224:sendingReportAsAttachment>true</
ax224:sendingReportAsAttachment>
      <ax224:sslEnabled>false</ax224:sslEnabled>
      <ax224:tlsEnabled>false</ax224:tlsEnabled>
      <ax224:zipFileName/>
      <ax224:zipResult>false</ax224:zipResult>
    </ax224:distribution>
  </ax226:schedule>
</ns:return>

```

```

<ax224:distributionList xsi:type="ax224:DistributionEmail">
  <ax224:description/>
  <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
  <ax224:id/>
  <ax224:type>EMAIL</ax224:type>
  <ax224:authEnabled>>false</ax224:authEnabled>
  <ax224:authPassword/>
  <ax224:authUserId/>
  <ax224:destination xsi:type="ax224:Destination">
    <ax224:distributionFile/>
    <ax224:distributionList/>
    <ax224:distributionListFullPath/>
    <ax224:dynamicAddress xsi:type="ax224:DynamicAddress">
      <ax224:password/>
      <ax224:procedureName/>
      <ax224:serverName/>
      <ax224:userName/>
    </ax224:dynamicAddress>
    <ax224:singleAddress/>
    <ax224:type>DISTRIBUTION_LIST</ax224:type>
  </ax224:destination>
  <ax224:inlineMessage/>
  <ax224:inlineTaskIndex>0</ax224:inlineTaskIndex>
  <ax224:mailFrom/>
  <ax224:mailReplyAddress/>
  <ax224:mailServerName/>
  <ax224:mailSubject/>
  <ax224:sendingReportAsAttachment>>true</
ax224:sendingReportAsAttachment>
  <ax224:sslEnabled>>false</ax224:sslEnabled>
  <ax224:tlsEnabled>>false</ax224:tlsEnabled>
  <ax224:zipFileName/>
  <ax224:zipResult>>false</ax224:zipResult>
</ax224:distributionList>
<ax224:firstTask xsi:type="ax224:TaskWFServerProcedure">
  <ax224:description>WebFocus Server Procedure task</
ax224:description>
  <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
  <ax224:id/>
  <ax224:procedureId/>
  <ax224:procedureName/>
  <ax224:reportName/>
  <ax224:taskRetry xsi:nil="true"/>
  <ax224:type>0</ax224:type>
  <ax224:allowFormatList xsi:nil="true"/>

```

```

<ax224:burst>>false</ax224:burst>
  <ax224:execId/>
  <ax224:execPassword/>
  <ax224:firstPostProcessingProcedure/>
  <ax224:firstPreProcessingProcedure/>
  <ax224:formatInFex>>false</ax224:formatInFex>
  <ax224:parameterList xsi:nil="true"/>
  <ax224:secondPostProcessingProcedure/>
  <ax224:secondPreProcessingProcedure/>
  <ax224:sendFormat>HTML</ax224:sendFormat>
  <ax224:serverName>EDASERVE</ax224:serverName>
</ax224:firstTask>
<ax224:ibfsId>6dff2b49I8245I4638I9e9fIc5900a9a12d5</
ax224:ibfsId>
  <ax224:ibfsPath/>
  <ax224:id>S23f65030s728as482asa632s879fd9f6a727</ax224:id>
  <ax224:lastModified>2014-02-24T14:42:43.032-05:00</
ax224:lastModified>
  <ax224:lastTimeExecuted>1970-01-01T00:00:00.000-05:00</
ax224:lastTimeExecuted>
  <ax224:name/>
  <ax224:notification xsi:type="ax224:Notification">
    <ax224:addressForBriefNotification/>
    <ax224:addressForFullNotification/>
    <ax224:description/>
    <ax224:from/>
    <ax224:id/>
    <ax224:subject/>
    <ax224:type>INACTIVE</ax224:type>
  </ax224:notification>
  <ax224:owner>admin</ax224:owner>
  <ax224:priority>3</ax224:priority>
  <ax224:statusLastExecuted/>
  <ax224:summary/>
  <ax224:taskList xsi:type="ax224:TaskWFServerProcedure">
    <ax224:description>WebFocus Server Procedure task</
ax224:description>
    <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
    <ax224:id/>
    <ax224:procedureId/>
    <ax224:procedureName/>
    <ax224:reportName/>
    <ax224:taskRetry xsi:nil="true"/>
    <ax224:type>0</ax224:type>
    <ax224:allowFormatList xsi:nil="true"/>
    <ax224:burst>>false</ax224:burst>

```

```

<ax224:execId/>
    <ax224:execPassword/>
    <ax224:firstPostProcessingProcedure/>
    <ax224:firstPreProcessingProcedure/>
    <ax224:formatInFex>>false</ax224:formatInFex>
    <ax224:parameterList xsi:nil="true" />
    <ax224:secondPostProcessingProcedure/>
    <ax224:secondPreProcessingProcedure/>
    <ax224:sendFormat>HTML</ax224:sendFormat>
    <ax224:serverName>EDASERVE</ax224:serverName>
</ax224:taskList>
<ax224:timeInfo xsi:type="ax224:TimeInfoOnce">
    <ax224:description/>
    <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
    <ax224:id/>
    <ax224:name/>
    <ax224:nextRunTime>1970-01-01T00:00:00.000-05:00</
ax224:nextRunTime>
    <ax224:startTime>2014-02-24T14:42:43.032-05:00</
ax224:startTime>
    <ax224:type>0</ax224:type>
</ax224:timeInfo>
<ax224:timeInfoList xsi:type="ax224:TimeInfoOnce">
    <ax224:description/>
    <ax224:disabled>>false</ax224:disabled>
    <ax224:id/>
    <ax224:name/>
    <ax224:nextRunTime>1970-01-01T00:00:00.000-05:00</
ax224:nextRunTime>
    <ax224:startTime>2014-02-24T14:42:43.032-05:00</
ax224:startTime>
    <ax224:type>0</ax224:type>
</ax224:timeInfoList>
<ax224:traceType>0</ax224:traceType>
</ax226:schedule>
<ax226:startTime>2014-02-24T14:24:36.070-05:00</ax226:startTime>
<ax226:status>1</ax226:status>
</ns:return>
</ns:getRunningJobsByOwnerResponse>

```

## ジョブキューからのジョブ削除

次の RESTful Web サービスリクエストを使用して、ジョブキューから特定の ReportCaster ジョブを削除することができます。

**HTTP メソッド** GET

**REST URL のフォーマット**

[http://host:port/ibi\\_apps/services/ConsoleServiceREST/removeJobFromQueue?jobId=jobId](http://host:port/ibi_apps/services/ConsoleServiceREST/removeJobFromQueue?jobId=jobId)

## 説明

### *host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

### *port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

### *jobId*

ReportCaster ジョブを識別する一意の ID です。

## 例

次の例では、ジョブ ID Jc12b4443jb1f8j4c19j90aaaj7ba31ac4dbf5 で識別される ReportCaster ジョブがジョブキューから削除されます。

## リクエスト

```
http://localhost:8080/ibi_apps/services/ConsoleServiceREST/removeJobFromQueue?jobId=Jc12b4443jb1f8j4c19j90aaaj7ba31ac4dbf5
```

## レスポンス

```
<ns:removeJobFromQueueResponse xmlns:ns="http://ws.api.broker.ibi">
  <ns:return>1</ns:return>
</ns:removeJobFromQueueResponse>
```





# 7

## RESTful Web サービステストページの使用

ここでは、RESTful Web サービスの機能をテスト、デバッグするためのテストページの使用方法について説明します。

### トピックス

- [テストページへのアクセス](#)
- [テストページの使用](#)

### テストページへのアクセス

テストページにアクセスするには、ブラウザのアドレスバーに次の URL を入力します。

`http://host:port/ibi_apps/rs?IBIRS_action=TEST`

#### 説明

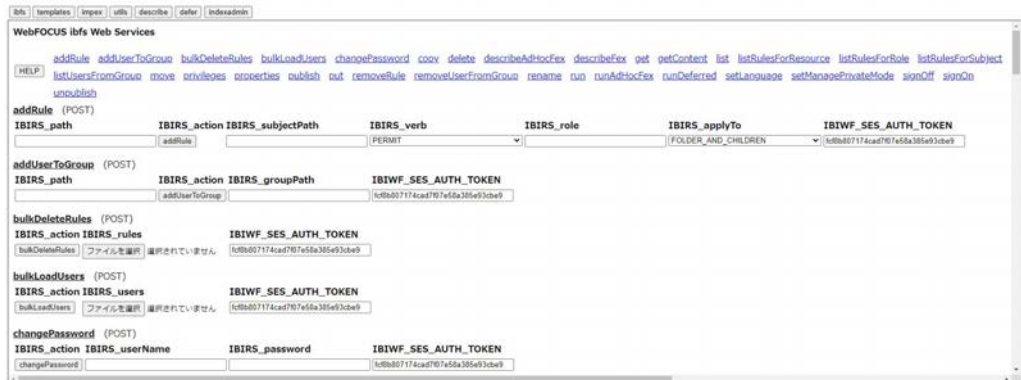
*host*

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

*port*

WebFOCUS が使用するポート番号です。

下図のように、ブラウザにテストページが表示されます。



## テストページの使用

テストページの上部には、7つのボタン (ibfs、impex、templates、utils、describe、defer、indexadmin) があります。各ボタンをクリックすると、テスト可能な RESTful Web サービス機能のリストが表示されます。

- ❑ **ibfs** このカテゴリには、RESTful Web サービス機能の大部分が含まれています。変更管理およびテンプレートの機能は含まれていません。
- ❑ **impex** このカテゴリには、変更管理をサポートする機能が含まれています。変更管理のエクスポートおよびインポートの機能があります。
- ❑ **templates** このカテゴリには、テンプレートをサポートする機能が含まれています。テンプレートの作成および実行の機能があります。
- ❑ **utils** このカテゴリには、ユーティリティをサポートする機能が含まれています。ポリシー文字列の展開および作成の機能があります。

RESTful Web サービスの各カテゴリでは、RESTful Web サービス機能の各テストが IBIRS\_action パラメータ値に基づいて実行されます。このパラメータは、すべての RESTful Web サービスに含まれています。テストページでは、各テストのボタン名が IBIRS\_action パラメータ値を表しています。テストページの上部で各テストのリンク (例、put) をクリックすると、そのテストの IBIRS\_action パラメータ値に基づいたフォームが表示されます。各機能のテストに必要なパラメータ名は、テキストボックスまたはドロップダウンリストの上に表示されます。

パスの入力が必要なパラメータの場合、テストページの URL (IBIRS\_action=TEST の部分を除く) にカテゴリ名を加えたパスが、その REST リクエストの URL になります。たとえば、47 ページの「[フォルダおよびサブフォルダのリスト表示](#)」の例 1 の場合、テストページのテキストボックスに、「/WFC/Repository」というパスを入力してテストすることができます。

各テストが正常に動作するには、WebFOCUS へのログインが認証されている必要があります。認証された状態にするには、WebFOCUS BI Portal にログインするか、テストページの signOn セクションで認証情報を入力し、signOn ボタンをクリックします。

## 例

次の例では、147 ページの「グループの追加および更新」の例に基づいて、グループを追加するテストが実行されます。

The screenshot displays a RESTful Web Service test interface. At the top, there are navigation tabs: 'info', 'templates', 'inspect', 'utils', 'describe', 'defer', and 'indexadmin'. Below these, the URL is shown as 'IBIRS\_path /IBIRS\_ACTION/IBIWF\_SES\_AUTH\_TOKEN' with a 'publish' button and a token value 'fctfb807174cad7f07e58a385e93cbe9'.

The main section is titled 'put (POST)'. It contains several input fields and a text area:

- IBIRS\_path:** /SSYS/GROUPS/RestUsers
- IBIRS\_action:** put
- IBIRS\_object:** A text area containing a JSON object:
 

```
{
  "object_id": "IBIRSGroupObject",
  "container": "true",
  "description": "RESTful Web Services Users",
  "type": "Group"
}
```
- IBIRS\_private:** null
- IBIRS\_replace:** true
- IBIRS\_args:** \_null

Below the main form, there are three other test sections:

- removeRule (POST):** IBIRS\_path: removeRule, IBIWF\_SES\_AUTH\_TOKEN: fctfb807174cad7f07e58a385e93cbe9
- removeUserFromGroup (POST):** IBIRS\_path: removeUserFromGroup, IBIWF\_SES\_AUTH\_TOKEN: fctfb807174cad7f07e58a385e93cbe9
- rename (POST):** IBIRS\_path: rename, IBIRS\_newName: (empty), IBIRS\_args: \_null, IBIWF\_SES\_AUTH\_TOKEN: fctfb807174cad7f07e58a385e93cbe9



# 8

## WebFOCUS RESTful Web サービスリクエスト呼び出しの代替方法

ここでは、WebFOCUS RESTful Web サービスリクエストの呼び出しに使用可能な代替方法について説明します。

### トピックス

- WebFOCUS RESTful Web サービスリクエストの呼び出し

### WebFOCUS RESTful Web サービスリクエストの呼び出し

WebFOCUS RESTful Web サービスリクエストでは、URL パスの `rs` に続く部分をパラメータとして表すことができます。IBIRS\_service は、カテゴリのパラメータを表します。IBIRS\_path は、実行する特定の機能のパスを表します。

### 例

次の例は、47 ページの「フォルダおよびサブフォルダのリスト表示」の例 1 で使用されたリクエストの REST URL を示しています。

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository?IBIRS_action=get
```

このリクエストは、次のように指定して送信することもできます。

```
http://localhost:8080/ibi_apps/rs?IBIRS_action=get&IBIRS_path=/WFC/Repository&IBIRS_service=ibfs
```



# 9

## Visual Basic .NET、Java、HTML、jQuery コードの例

---

ここでは、WebFOCUS RESTful Web サービスリクエストの作成方法に関する Visual Basic .NET、Java、HTML、jQuery コードの例を紹介します。

### トピックス

- ❑ [WebFOCUS へのログイン](#)
  - ❑ [WebFOCUS フォルダのリスト表示](#)
  - ❑ [WebFOCUS レポートの実行](#)
  - ❑ [ドリルダウン、アクティブキャッシュ、Web ビューアレポートの処理](#)
  - ❑ [ログインリクエストの XML レスポンス解析による CSRF の名前と値の取得](#)
  - ❑ [埋め込みグラフのレスポンス有効化](#)
- 

### WebFOCUS へのログイン

ここでは、WebFOCUS にログインする方法をコードの例で説明します。

---

## Visual Basic .NET の例

```
Imports System.Net
Imports System.IO
Imports System.Text
Dim cookies As New CookieContainer
Dim webStream As Stream
Dim webResponse As String = ""
Dim request As HttpWebRequest
Dim response As HttpWebResponse
Dim postData As String
request = WebRequest.Create("http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs")
request.Method = "POST"
postData = "IBIRS_action=signOn&IBIRS_userName=admin&IBIRS_password=admin"
request.CookieContainer = cookies
Dim byteArray As Byte() = Encoding.UTF8.GetBytes(postData)
request.ContentType = "application/x-www-form-urlencoded"
request.ContentLength = byteArray.Length
Dim dataStream As Stream = request.GetRequestStream()
dataStream.Write(byteArray, 0, byteArray.Length)
dataStream.Close()
response = request.GetResponse()
webStream = response.GetResponseStream()
Dim webStreamReader As New StreamReader(webStream)
While webStreamReader.Peek >= 0
    webResponse = webStreamReader.ReadToEnd()
End While
```



## Java の例

```
import java.awt.Frame;
import java.io.BufferedReader;
import java.io.InputStream;
import java.io.InputStreamReader;
import org.apache.commons.httpclient.*;
import org.apache.commons.httpclient.methods.*;
String request = "http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs";
HttpClient client = new HttpClient();
PostMethod method = new PostMethod(request);

method.addParameter("IBIRS_action", "signOn");
method.addParameter("IBIRS_userName", "admin");
method.addParameter("IBIRS_password", "admin");

int statusCode = client.executeMethod(method);
Header[] cookies = null;
InputStream rstream = null;

rstream = method.getResponseBodyAsStream();
cookies = method.getResponseHeaders("Set-Cookie");

BufferedReader br = new BufferedReader(new InputStreamReader(rstream));
String line;
while ((line = br.readLine()) != null) {
    System.out.println(line);
}
br.close();
```

## HTML と jQuery の例

```
<!DOCTYPE html>
<html>
<head>
  <title></title>
  <meta charset="utf-8" />
  <script type="text/javascript" src="http://code.jquery.com/jquery-3.1.0.js"> </
script>
  <script type='text/javascript' src="http://cdnjs.cloudflare.com/ajax/libs/jquery-
ajaxtransport-xdomainrequest/1.0.1/
jquery.xdomainrequest.min.js"></script>

  <script type="text/javascript">
    var csrf_name;
    var csrf_value;
    $(document).ready(function (IBIRS_action, IBIRS_userName, IBIRS_password) {
      var contentType = "application/x-www-form-urlencoded; charset=utf-8";
      if (window.XDomainRequest)
        contentType = "text/plain";
      var divToBeWorkedOn = "#AjaxPlaceHolder";
      var webMethod = "http://machine:port/ibi_apps/rs/ibfs";
      var IBIRS_action = "signOn";
      var IBIRS_userName = "admin";
      var IBIRS_password = "admin";
      var parameters = 'IBIRS_action=' + IBIRS_action + '&IBIRS_userName=' +
IBIRS_userName + '&IBIRS_password=' + IBIRS_password;
      $.ajax({
        type: "POST",
        url: webMethod,
        data: parameters,
        dataType: "xml",
        contentType: contentType,
        success: alert("success"),
        complete: function(xhr,status) {
          alert(xhr.responseText);
          alert(xhr.getAllResponseHeaders());
        },
        error:function(jqXHR,textStatus,errorThrown)
        {
          alert("You can not send Cross Domain AJAX requests: " +
errorThrown);
        }
      });
    });
  </script>
</head>
</html>
```

```

    </script>
</head>
<body>
    <div id="AjaxPlaceholder">
        <div align="center"></div>
    </div>

    <div></div>
</body>
</html>

```

## WebFOCUS フォルダのリスト表示

次のコードの例は、WebFOCUS の最上位フォルダのリストを取得する方法を示しています。この例を実行する要件として、ログインリクエストが成功し、そのレスポンスから HTTP ヘッダ Cookie が取得されている必要があります。

### Visual Basic .NET の例

```

Imports System.Net
Imports System.IO
Imports System.Text
Dim request3 As HttpWebRequest
Dim response3 As HttpWebResponse
Dim webStream3 As Stream
Dim webResponse3 As String = ""
Dim tempfile As String
request3 = WebRequest.Create("http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/
Repository?IBIRS_action=get")
request3.Method = "GET"
'cookies is defined as CookieContainer in the Signing-On to WebFOCUS example
request3.CookieContainer = cookies
response3 = request3.GetResponse()
webStream3 = response3.GetResponseStream()
Dim webStreamReader3 As New StreamReader(webStream3)
tempfile = "c:\temp\Folders.xml"
FileOpen(1, tempfile, OpenMode.Output)
While webStreamReader3.Peek >= 0
    webResponse3 = webStreamReader3.ReadToEnd()
    PrintLine(1, webResponse3)
End While
FileClose(1)
Dim xmlElem = XElement.Parse(webResponse3)

```

---

## Java の例

```
import java.awt.Frame;
import java.io.BufferedReader;
import java.io.File;
import java.io.FileOutputStream;
import java.io.InputStream;
import java.io.InputStreamReader;
import java.io.PrintWriter;
import org.apache.commons.httpclient.*;
import org.apache.commons.httpclient.methods.*;
String request3 = "http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository?
IBIRS_action=get";

GetMethod method_getFolders = new GetMethod(request3);
// cookies is defined as Header[] in the Signing-On to WebFOCUS example
for(int h=0; h<cookies.length; h++){
    method_getFolders.addRequestHeader(cookies[h].getName(), cookies[h].getValue());
}
// client is defined as HttpClient in the Signing-On to WebFOCUS example
int statusCode3 = client.executeMethod(method_getFolders);

InputStream rstream3 = null;
rstream3 = method_getFolders.getResponseBodyAsStream();
File tempfile = new File("c:\\temp\\Folders.xml");
FileOutputStream fos = new FileOutputStream(tempfile);
PrintWriter out=new PrintWriter(fos);
BufferedReader br3 = new BufferedReader(new InputStreamReader(rstream3));
String line3;
String newOutput = null;
while ((line3 = br3.readLine()) != null) {
    newOutput = line3;
    out.println(newOutput);
    System.out.println(line3);
}
br3.close();
out.close();
```

## HTML と jQuery の例

```

<!DOCTYPE html>
<html>
<head>
  <title></title>
  <meta charset="utf-8" />
  <script type="text/javascript" src="http://code.jquery.com/jquery-3.1.0.js"> </
script>
  <script type='text/javascript' src="http://cdnjs.cloudflare.com/ajax/libs/jquery-
ajaxtransport-xdomainrequest/1.0.1/
jquery.xdomainrequest.min.js"></script>
  <script type="text/javascript">
    var csrf_name;
    var csrf_value;
    var frameToBeWorkedOn = "#AjaxPlaceHolder";
    var contentType = "application/x-www-form-urlencoded; charset=utf-8";
    $(document).ready(function (IBIRS_action, IBIRS_userName, IBIRS_password) {
      if (window.XDomainRequest)
        contentType = "text/plain";
      var webMethod = "http://machine:port/ibi_apps/rs/ibfs";
      var IBIRS_action = "signOn";
      var IBIRS_userName = "admin";
      var IBIRS_password = "admin";
      var parameters = 'IBIRS_action=' + IBIRS_action + '&IBIRS_userName=' +
IBIRS_userName + '&IBIRS_password=' + IBIRS_password;
      $.ajax({
        type: "POST",
        url: webMethod,
        data: parameters,
        dataType: "xml",
        xhrFields: {
          withCredentials: true
        },
        crossDomain: true,
        contentType: contentType,
        success: listFolders,
        error: function(jqXHR, textStatus, errorThrown)
          {
            alert("You can not send Cross Domain AJAX requests: " +
errorThrown);
          }
      });
    });
    function listFolders() {
      if (window.XDomainRequest)
        contentType = "text";
    }
  }

```

```

var webMethod = "http://machine:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository";
var IBIRS_action = "get";
var parameters = 'IBIRS_action=' + IBIRS_action;

$.ajax({
  type: "GET",
  url: webMethod,
  data: parameters,
  dataType: "xml",
  xhrFields: {
    withCredentials: true
  },
  crossDomain: true,
  success: xmlParse,
  //complete: function(xhr,status) {

  //  alert(xhr.responseText);
  //  AjaxPlaceHolder.innerHTML = xhr.responseText;
  //},
  error: function (jqXHR, textStatus, errorThrown) {
    alert("You can not send Cross Domain AJAX requests: " +
errorThrown);
  }
})
}

function xmlParse(xml) {
  $(xml).find("item").each(function () {
    if ($(this).attr("type") == "MRFolder") {
      folder_name = $(this).attr("name");
      AjaxPlaceHolder.appendChild(document.createTextNode(folder_name +
"\n"));
    }
  });
}
}
</script>
</head>
<body>
  <h1>These are the top-level folders under the Respository</h1>
  <textarea id="AjaxPlaceHolder" name="AjaxPlaceHolder"
style="position:absolute; width:500px; height:500px;" ></textarea>
</body>
</html>

```

## WebFOCUS レポートの実行

次のコードの例は、RESTful\_Web\_Services フォルダ下の Car\_Reports フォルダに格納されている「Sales\_for\_a\_Specific\_Country」という WebFOCUS レポートを実行する方法を示しています。この例を実行する要件として、ログインリクエストが成功し、そのレスポンスから HTTP ヘッダ Cookie が取得されている必要があります。

### Visual Basic .NET の例

```
Imports System.Net
Imports System.IO
Imports System.Text
Dim request2 As HttpWebRequest
Dim response2 As HttpWebResponse
Dim webStream2 As Stream
Dim webResponse2 As String = ""
request2 =
WebRequest.Create("http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/
RESTful_Web_Services/Car_Reports/Sales_for_a_Specific_Country.fex")
request2.Method = "POST"
'cookies is defined as CookieContainer in the Signing-On to WebFOCUS example
request2.CookieContainer = cookies
postData = "IBIRS_action=run&COUNTRY=ENGLAND"
Dim byteArray2 As Byte() = Encoding.UTF8.GetBytes(postData)
request2.ContentType = "application/x-www-form-urlencoded"
request2.ContentLength = byteArray2.Length
Dim dataStream2 As Stream = request2.GetRequestStream()
dataStream2.Write(byteArray2, 0, byteArray2.Length)
dataStream2.Close()
response2 = request2.GetResponse()
webStream2 = response2.GetResponseStream()
Dim webStreamReader2 As New StreamReader(webStream2)
While webStreamReader2.Peek >= 0
    webResponse2 = webStreamReader2.ReadToEnd()
End While
WebBrowser1.DocumentText = webResponse2
```

---

## Java の例

```
import java.awt.Frame;
import java.io.BufferedReader;
import java.io.File;
import java.io.FileOutputStream;
import java.io.InputStream;
import java.io.InputStreamReader;
import java.io.PrintWriter;
import org.apache.commons.httpclient.*;
import org.apache.commons.httpclient.methods.*;
String request2 = "http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/RESTful_Web_
Services/Car_Reports/Sales_for_a_Specific_Country.fex";

PostMethod method_report = new PostMethod(request2);

method_report.addParameter("IBIRS_action", "run");
method_report.addParameter("COUNTRY", "ENGLAND");
// cookies is defined as Header[] in the Signing-On to WebFOCUS example
for(int h=0; h<cookies.length; h++){
    System.out.println(cookies[h]);
    method_report.addRequestHeader(cookies[h].getName(), cookies[h].getValue());
}

// client is defined as HttpClient in the Signing-On to WebFOCUS example
int statusCode2 = client.executeMethod(method_report);
InputStream rstream2 = null;

rstream2 = method_report.getResponseBodyAsStream();

File tempfile = new File("c:\\temp\\Report.htm");
FileOutputStream fos = new FileOutputStream(tempfile);
PrintWriter out=new PrintWriter(fos);
BufferedReader br2 = new BufferedReader(new InputStreamReader(rstream2));
String line2;
String newOutput = null;

while ((line2 = br2.readLine()) != null) {
    newOutput = line2;
    out.println(newOutput);
    System.out.println(line2);
}
br2.close();
out.close();
```



## HTML と jQuery の例

```

<!DOCTYPE html>
<html>
<head>
  <title></title>
  <meta charset="utf-8" />
  <script type="text/javascript" src="http://code.jquery.com/jquery-3.1.0.js"> </
script>
  <script type='text/javascript' src="http://cdnjs.cloudflare.com/ajax/libs/jquery-
ajaxtransport-xdomainrequest/1.0.1/
jquery.xdomainrequest.min.js"></script>

  <script type="text/javascript">
    var csrf_name;
    var csrf_value;
    var frameToBeWorkedOn = "#AjaxPlaceHolder";
    var contentType = "application/x-www-form-urlencoded; charset=utf-8";
    $(document).ready(function (IBIRS_action, IBIRS_userName, IBIRS_password) {

      if (window.XDomainRequest)
        contentType = "text/plain";
      var webMethod = "http://machine:port/ibi_apps/rs";
      var IBIRS_action = "signOn";
      var IBIRS_userName = "admin";
      var IBIRS_password = "admin";
      var parameters = 'IBIRS_action=' + IBIRS_action + '&IBIRS_userName=' +
IBIRS_userName + '&IBIRS_password=' + IBIRS_password;
      $.ajax({
        type: "POST",
        url: webMethod,
        data: parameters,
        dataType: "xml",
        xhrFields: {
          withCredentials: true
        },
        crossDomain: true,
        contentType: contentType,
        success: xmlParser,
        error:function(jqXHR,textStatus,errorThrown)
        {
          alert("You can not send Cross Domain AJAX requests: " +
errorThrown);
        }
      });
    });
    function xmlParser(xml) {

```

```

$(xml).find("entry").each(function () {
    if ($(this).attr("key") == "IBI_CSRF_Token_Name") {
        csrf_name = $(this).attr("value");
    }
    if ($(this).attr("key") == "IBI_CSRF_Token_Value") {
        csrf_value = $(this).attr("value");
    }
});
runReport();
}
function runReport() {
    if (window.XDomainRequest)
        contentType = "text/plain";
    var webMethod = "http://machine:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/Tests/
Revenue_by_Product_Category.fex";
    var IBIRS_action = "run";
    var BUSINESS_REGION = "'North America'";
    var BUSINESS_SUB_REGION = "'MidWest'";
    var parameters = 'IBIRS_action=' + IBIRS_action + '&BUSINESS_REGION=' +
BUSINESS_REGION + '&BUSINESS_SUB_REGION=' + BUSINESS_SUB_REGION + '&' + csrf_name +
'=' + csrf_value;
    $.ajax({
        type: "POST",
        url: webMethod,
        data: parameters,
        dataType: "html",
        xhrFields: {
            withCredentials: true
        },
        crossDomain: true,
        contentType: contentType,
        success: alert("success"), /*
        complete: function(xhr,status) {
        /*
        alert(xhr.responseText); /*
        /*
        $("AjaxPlaceHolder".html(xhr.responseText)); /*
        document.AjaxPlaceHolder.document.body.innerHTML =
xhr.responseText;
    },
    error: function (jqXHR, textStatus, errorThrown) {
        alert("You can not send Cross Domain AJAX requests: " +
errorThrown);
    }
    })
}
</script>
</head>
<body>
<iframe id="AjaxPlaceHolder" name="AjaxPlaceHolder" height="600" width="900"
align="middle" style="position:absolute; top: 5px; left: 5px"></iframe>
</body>
</html>

```

## ドリルダウン、アクティブキャッシュ、Web ビューアレポートの処理

次のコードの例は、RESTful\_Web\_Services フォルダ下の Car\_Reports フォルダに格納されている「ODP\_Report.fex」という Web ビューアレポートを実行する方法を示しています。

この例には、次のページが含まれています。

- signOn ページ - 初期リクエストの実行に使用されます。
- WebForm2 ページ - WebFOCUS レポートで Web ビューアを使用するために必要な、追加の RESTful Web サービスリクエストの実行に使用されます。

この WebForm2 ページを使用して、ドリルダウンやアクティブキャッシュを利用したページ表示のリクエストを処理することもできます。

signOn ページには、最初の WebFOCUS レポートを実行する RESTful Web サービスリクエストが含まれています。Web ビューアのページ表示やイメージ取得に必要な追加の RESTful Web サービスリクエストがクライアントアプリケーションに転送されるように、IBIRS\_clientPath パラメータが設定されています。以下はその例です。

```
IBIRS_clientPath=http://localhost:51970/WebForm2.aspx
```

### Visual Basic .NET の例 (signOn.aspx および WebForm2.aspx)

#### signOn.aspx

```
Imports System.Net
Imports System.IO
Public Class signOn
    Inherits System.Web.UI.Page
    Dim cookies As New CookieContainer
    Protected Sub Page_Load(ByVal sender As Object, ByVal e As System.EventArgs)
Handles Me.Load
        Dim webStream As Stream
        Dim webResponse As String = ""
        Dim request As HttpWebRequest
        Dim response1 As HttpWebResponse
        Dim postData As String
        request = WebRequest.Create("http://localhost.:8080/ibi_apps/rs/ibfs")

        request.Method = "POST"
        postData = "IBIRS_action=signOn&IBIRS_userName=admin&IBIRS_password=admin"
        request.CookieContainer = cookies
```

```

Dim byteArray As Byte() = Encoding.UTF8.GetBytes(postData)
request.ContentType = "application/x-www-form-urlencoded"
request.ContentLength = byteArray.Length
Dim dataStream As Stream = request.GetRequestStream()
dataStream.Write(byteArray, 0, byteArray.Length)
dataStream.Close()
responsel = request.GetResponse()
webStream = responsel.GetResponseStream()
Dim request2 As HttpWebRequest
Dim response2 As HttpWebResponse
Dim webStream2 As Stream
Dim webResponse2 As String = ""
Dim uri As New System.Uri("http://localhost.:8080/ibi_apps/rs")

request2 = WebRequest.Create(uri)
request2.Method = "POST"
request2.CookieContainer = cookies
postData = "IBIRS_action=run" + _
           "&IBIRS_clientPath=/WebForm2.aspx" + _
"&IBIRS_path=/WFC/Repository/RESTful_Web_Services/Car_Reports/ODP_Report.fex" + _
           "&IBIRS_service=ibfs" + _
           "&IBIRS_htmlPath=http://localhost:8080/ibi_apps/ibi_html"

Dim byteArray2 As Byte() = Encoding.UTF8.GetBytes(postData)
request2.ContentType = "application/x-www-form-urlencoded"

request2.ContentLength = byteArray2.Length
Dim dataStream2 As Stream = request2.GetRequestStream()
dataStream2.Write(byteArray2, 0, byteArray2.Length)
dataStream2.Close()
response2 = request2.GetResponse()
Dim i As Integer
Dim cookieArray As New CookieCollection
cookieArray = cookies.GetCookies(uri)
For i = 0 To cookies.Count - 1
    Dim aCookie As New HttpCookie(cookieArray(i).Name)
    aCookie.Value = cookieArray(i).Value
    Response.Cookies.Add(aCookie)
Next i
webStream2 = response2.GetResponseStream()
Dim webStreamReader2 As New StreamReader(webStream2)
While webStreamReader2.Peek >= 0
    webResponse2 = webStreamReader2.ReadToEnd()
End While
Response.Output.Write(webResponse2)
End Sub
End Class

```

### **WebForm2.aspx**

```

Imports System.Net
Imports System.IO
Public Class WebForm2
    Inherits System.Web.UI.Page
    Protected Sub Page_Load(ByVal sender As Object, ByVal e As System.EventArgs)
Handles Me.Load
    Dim tDrillURL As String = Request.ServerVariables("QUERY_STRING")
    Dim i As Integer
    Dim qParm As String
    Dim qValue As String
    Dim IBIRS_path As String = ""
    Dim Clicked_On As String = ""
    Dim cookies As New CookieContainer
    Dim request3 As HttpWebRequest
    Dim response3 As HttpWebResponse
    Dim webStream3 As Stream
    Dim webResponse3 As String = ""
    Dim getData As String
    Dim uris As String = "http://localhost.:8080/ibi_apps/rs"
    Dim uri As New System.Uri(uris)

    getData = "http://localhost.:8080/ibi_apps/rs?" + _
        tDrillURL + _
        "&IBIRS_clientPath=/WebForm2.aspx" + _
        "&IBIRS_htmlPath=http://localhost:8080/ibi_apps/ibi_html"
    request3 = WebRequest.Create(getData)
    request3.Method = "GET"

    Dim j As Integer
    For j = 0 To Request.Cookies.Count - 1
        Dim rCookie As New System.Net.Cookie
        rCookie.Name = Request.Cookies(j).Name
        rCookie.Value = Request.Cookies(j).Value
        cookies.Add(uri, rCookie)
        Dim aCookie As New HttpCookie(Request.Cookies(j).Name)
        aCookie.Value = Request.Cookies(j).Value
        Response.Cookies.Add(aCookie)
    Next j
    request3.CookieContainer = cookies
    response3 = request3.GetResponse()
    webStream3 = response3.GetResponseStream()
    Dim binaryReader3 As New BinaryReader(webStream3)
    Dim readData() As Byte = Nothing
    Dim byteArray() As Byte = Nothing
    Dim byteStart As Integer = 0
    Dim byteLength As Integer

```

---

```
While (True)
  readData = binaryReader3.ReadBytes(4096)
  If (readData.Length = 0) Then
    Exit While
  End If
  byteLength = readData.Length
  ReDim Preserve byteArray(byteLength + byteStart - 1)
  Array.Copy(readData, 0, byteArray, byteStart, byteLength)
  byteStart = byteStart + byteLength
End While
Response.OutputStream.Write(byteArray, 0, byteArray.Length)

End Sub
End Class
```

## Java の例 (signOn.jsp および WebForm2.jsp)

### signOn.jsp

```

<%@ page language="java" contentType="text/html; charset=ISO-8859-1"
pageEncoding="ISO-8859-1" session="true"
import="
java.io.BufferedReader,
java.io.IOException,
java.io.InputStream,
java.io.InputStreamReader,
java.io.File,
java.io.FileOutputStream,
java.io.PrintWriter,
java.net.URI,
java.net.URISyntaxException,
org.apache.commons.httpclient.*,
org.apache.commons.httpclient.methods.*,
sax.xml.parser.SaxHandler,
javax.xml.parsers.ParserConfigurationException,
javax.xml.parsers.SAXParser,
javax.xml.parsers.SAXParserFactory,
org.xml.sax.SAXException
"%>
<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN" "http://www.w3.org/TR/
html4/loose.dtd">
<%
String request1 = "http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs";
HttpClient client = new HttpClient();
PostMethod method = new PostMethod(request1);

method.addParameter("IBIRS_action", "signOn");
method.addParameter("IBIRS_userName", "admin");
method.addParameter("IBIRS_password", "admin");

client.executeMethod(method);
Header[] cookies = null;
InputStream responsel = null;

responsel = method.getResponseBodyAsStream();
cookies = method.getResponseHeaders("Set-Cookie");
SAXParserFactory factory = SAXParserFactory.newInstance();
SAXParser parser = factory.newSAXParser();
SaxHandler handler = new SaxHandler();
parser.parse(responsel, handler);
String csrfName = handler.getResults()[0].toString();
String csrfValue = handler.getResults()[1].toString();
// System.out.println("csrfName = " + csrfName);
// System.out.println("csrfValue = " + csrfValue);

```

```

String request2 = "http://localhost:8080/ibi_apps/rs";
PostMethod method_report = new PostMethod(request2);
method_report.addParameter("IBIRS_action", "run");
method_report.addParameter("IBIRS_clientPath", "/drillDownJSP/WebForm2.jsp");
method_report.addParameter("IBIRS_path", "/EDA/EDASERVE/ibisamp/carinst.fex");
method_report.addParameter("IBIRS_service", "ibfs");
method_report.addParameter("IBIRS_htmlPath", "http://localhost:8080/ibi_apps/
ibi_html");
method_report.addParameter(csrfName, csrfValue);
// cookies is defined as Header[] in the Signing-On to WebFOCUS example
for(int h=0; h<cookies.length; h++){
//   System.out.println(cookies[h]);
method_report.setRequestHeader(cookies[h].getName(), cookies[h].getValue());
String str = cookies[h].getName() + cookies[h].getValue();
//write cookie to a disk file and then read it back in the next JSP
String nameOfTextFile = "c:/temp/jsessionId.txt";
try {
    PrintWriter pw = new PrintWriter(new FileOutputStream(nameOfTextFile));
    pw.println(str);
    //clean up
    pw.close();
} catch(IOException e) {
    out.println(e.getMessage());
}
}

method_report.setRequestHeader("Content-type", "application/x-www-form-
urlencoded");
// client is defined as HttpClient in the Signing-On to WebFOCUS example
client.executeMethod(method_report);
InputStream response2 = null;
response2 = method_report.getResponseBodyAsStream();
BufferedReader br2 = new BufferedReader(new InputStreamReader(response2));
String line2;
String newOutput = null;
while ((line2 = br2.readLine()) != null) {
newOutput = line2;
out.println(newOutput);
//   System.out.println(line2);
}

%>

```

### **WebForm2.jsp**



```

<%@ page language="java" contentType="text/html; charset=ISO-8859-1"
    pageEncoding="ISO-8859-1"
import="
    java.io.BufferedReader,
    java.io.IOException,
    java.io.InputStream,
    java.io.InputStreamReader,
    java.io.File,
    java.io.FileOutputStream,
    java.io.PrintWriter,
    java.io.FileReader,
    java.net.URI,
    java.net.URISyntaxException,
    org.apache.commons.httpclient.*,
    org.apache.commons.httpclient.methods.*,
    sax.xml.parser.SaxHandler,
    javax.xml.parsers.ParserConfigurationException,
    javax.xml.parsers.SAXParser,
    javax.xml.parsers.SAXParserFactory,
    org.xml.sax.SAXException
"%>
<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN" "http://www.w3.org/TR/
html4/loose.dtd">
<%
    String tDrillURL = "";
    int i;
    String qParm;
    String qValue;
    String IBIRS_path = "";
    String Clicked_On = "";
    Header[] cookies = null;
    HttpClient client = new HttpClient();
    tDrillURL = request.getQueryString();
//    read saved cookie from text file
    String txtFilePath = "c:/temp/jsessionId.txt";
    BufferedReader reader = new BufferedReader(new FileReader(txtFilePath));
    StringBuilder sb = new StringBuilder();
    String line;
    while((line = reader.readLine())!= null){
        sb.append(line);
    }
//    System.out.println(sb.toString());
    reader.close();

```

```

String request3 = "http://localhost:8080/ibi_apps/rs";

GetMethod method_report2 = new GetMethod(request3);
method_report2.setQueryString(tDrillURL);
method_report2.getParams().setParameter("IBIRS_clientPath", "/drillDownJSP/
WebForm2.jsp");
method_report2.getParams().setParameter("IBIRS_htmlPath", "http://localhost:8080/
ibi_apps/ibi_html");
String cookie=sb.toString();
// System.out.println("webform2 cookie before replace " + cookie);
cookie = cookie.replace("Set-Cookie","");
// System.out.println("webform2 cookie after replace " + cookie);
method_report2.setRequestHeader("Cookie", cookie);

// }
method_report2.setRequestHeader("Content-type", "application/x-www-form-
urlencoded");

int statusCode = client.executeMethod(method_report2);
System.out.println(statusCode);
InputStream response3 = null;
response3 = method_report2.getResponseBodyAsStream();
BufferedReader br2 = new BufferedReader(new InputStreamReader(response3));
String line3;
String newOutput = null;
while ((line3 = br2.readLine()) != null) {
newOutput = line3;
out.println(newOutput);
}
%>

```

## HTML と jQuery の例 (drillOne.html および drillTwo.html)

### drillOne.html

```

<!DOCTYPE html>
<html>
<head>
  <title></title>
  <meta charset="utf-8" />
  <script type="text/javascript" src="http://code.jquery.com/jquery-3.1.0.js"> </
script>
  <script type='text/javascript' src="http://cdnjs.cloudflare.com/ajax/libs/jquery-
ajaxtransport-xdomainrequest/1.0.1/
jquery.xdomainrequest.min.js"></script>
  <script type="text/javascript">
    var csrf_name;
    var csrf_value;
    var frameToBeWorkedOn = "#AjaxPlaceholder";
    var contentType = "application/x-www-form-urlencoded; charset=utf-8";
    $(document).ready(function (IBIRS_action, IBIRS_userName, IBIRS_password) {
      if (window.XDomainRequest)
        contentType = "text/plain";
      var webMethod = "http://machine:port/ibi_apps/rs";
      var IBIRS_action = "signOn";
      var IBIRS_userName = "admin";
      var IBIRS_password = "admin";
      var parameters = 'IBIRS_action=' + IBIRS_action + '&IBIRS_userName=' +
IBIRS_userName + '&IBIRS_password=' + IBIRS_password;
      $.ajax({
        type: "POST",
        url: webMethod,
        data: parameters,
        dataType: "xml",
        xhrFields: {
          withCredentials: true
        },
        crossDomain: true,
        contentType: contentType,
        success: xmlParser,
        error:function(jqXHR,textStatus,errorThrown)
          {
            alert("You can not send Cross Domain AJAX requests: " +
errorThrown);
          }
      })
    });
    function xmlParser(xml) {
      $(xml).find("entry").each(function () {

```

```

        if ($(this).attr("key") == "IBI_CSRF-Token_Name") {
            csrf_name = $(this).attr("value");
        }
        if ($(this).attr("key") == "IBI_CSRF-Token_Value") {
            csrf_value = $(this).attr("value");
        }
    });
    runReport();
}
function runReport() {
    if (window.XDomainRequest)
        contentType = "text/plain";
    var webMethod = "http://machine:port/ibi_apps/rs";
    var IBIRS_action = "run";
    var IBIRS_clientPath = "/src/drillTwo.html";
    var IBIRS_path = "/EDA/EDASERVE/ibisamp/carinst.fex";
    var IBIRS_service = "ibfs";
    var IBIRS_htmlPath = "http://machine:port/ibi_apps/ibi_html";
    var parameters = 'IBIRS_action=' + IBIRS_action + '&IBIRS_clientPath=' +
IBIRS_clientPath + '&IBIRS_path=' + IBIRS_path
        + '&IBIRS_service=' + IBIRS_service + '&IBIRS_htmlPath=' +
IBIRS_htmlPath + '&' + csrf_name + '=' + csrf_value;
    $.ajax({
        type: "POST",
        url: webMethod,
        data: parameters,
        dataType: "html",
        xhrFields: {
            withCredentials: true
        },
        crossDomain: true,
        contentType: contentType,
        success: alert("success"), /*
    /*
    complete: function(xhr,status) {
        alert(xhr.responseText); /*
    /*
        $("AjaxPlaceHolder".html(xhr.responseText)); /*
        document.AjaxPlaceHolder.document.body.innerHTML =
xhr.responseText;
    },
    error: function (jqXHR, textStatus, errorThrown) {
        alert("You can not send Cross Domain AJAX requests: " +
errorThrown);
    }
    })
}
</script>
</head>
<body>
    <iframe id="AjaxPlaceHolder" name="AjaxPlaceHolder" height="600" width="900"
align="middle" style="position:absolute; top: 5px; left: 5px"></iframe>
</body>
</html>

```

### drillTwo.html

```

<!DOCTYPE html>
<html>
<head>
  <title></title>
  <meta charset="utf-8" />
  <script type="text/javascript" src="http://code.jquery.com/jquery-3.1.0.js"> </
script>
  <script type='text/javascript' src="http://cdnjs.cloudflare.com/ajax/libs/jquery-
ajaxtransport-xdomainrequest/1.0.1/
jquery.xdomainrequest.min.js"></script>
  <script type="text/javascript">
    var frameToBeWorkedOn = "#AjaxPlaceHolder";
    var contentType = "application/x-www-form-urlencoded; charset=utf-8";
    var tDrillURLx = window.location.search;
    var tDrillURL = tDrillURLx.slice(1);

    $(document).ready(function () {
      if (window.XDomainRequest)
        contentType = "text/plain";
      var webMethod = "http://machine:port/ibi_apps/rs";
      var IBIRS_action = "get";
      var IBIRS_clientPath = "/src/drillTwo.html";
      var IBIRS_htmlPath = "http://machine:port/ibi_apps/ibi_html";
      var parameters = tDrillURL + '&IBIRS_clientPath=' + IBIRS_clientPath +
'&IBIRS_htmlPath=' + IBIRS_htmlPath;
      $.ajax({
        type: "GET",
        url: webMethod,
        data: parameters,
        dataType: "html",
        xhrFields: {
          withCredentials: true
        },
        crossDomain: true,
        contentType: contentType,
        success: alert("success"),      /*
        complete: function(xhr,status) {

```

```
/*          alert(xhr.responseText); */
/*          $("AjaxPlaceHolder".html(xhr.responseText)); */
          document.AjaxPlaceHolder.document.body.innerHTML =
xhr.responseText;
          },
          error: function (jqXHR, textStatus, errorThrown)
{
          alert("You can not send Cross Domain AJAX requests: " +
errorThrown);
          }
          })
    })
  </script>
</head>
<body>
  <iframe id="AjaxPlaceHolder" name="AjaxPlaceHolder" height="600" width="900"
align="middle" style="position:absolute; top: 5px; left: 5px"></iframe>
</body>
</html>
```

## ログインリクエストのXMLレスポンス解析によるCSRFの名前と値の取得

ここでは、ログインリクエストのXMLレスポンスを解析してクロスサイトリクエストフォージェリ(CSRF)の名前と値を取得する方法をコード例で説明します。取得したCSRFの名前と値は、後続のPOSTリクエストに送信することができます。

## Java の例

```
import java.awt.Desktop;
import java.io.BufferedReader;
import java.io.IOException;
import java.io.InputStream;
import java.io.InputStreamReader;
import java.io.File;
import java.io.FileOutputStream;
import java.io.PrintWriter;
import java.net.URI;
import java.net.URISyntaxException;
import javax.xml.parsers.ParserConfigurationException;
import javax.xml.parsers.SAXParser;
import javax.xml.parsers.SAXParserFactory;
import org.apache.commons.httpclient.Header;
import org.apache.commons.httpclient.HttpClient;
import org.apache.commons.httpclient.HttpException;
import org.apache.commons.httpclient.methods.PostMethod;
import org.xml.sax.SAXException;
/**
 * @author
 *
 */
public class runReport
{
    /**
     * @param args
     * @throws IOException
     * @throws HttpException
     * @throws SAXException
     * @throws ParserConfigurationException
     * @throws URISyntaxException
     */
    public static void main(String[] args) throws HttpException, IOException,
    ParserConfigurationException, SAXException, URISyntaxException
    {
        String request = "http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs";
        HttpClient client = new HttpClient();
        PostMethod method = new PostMethod(request);
        method.addParameter("IBIRS_action", "signOn");
        method.addParameter("IBIRS_userName", "admin");
        method.addParameter("IBIRS_password", "admin");
    }
}
```

```

client.executeMethod(method);
Header[] cookies = null;
InputStream rstream = null;
rstream = method.getResponseBodyAsStream();
cookies = method.getResponseHeaders("Set-Cookie");
/* parse rstream XML for csrf token */
SAXParserFactory factory = SAXParserFactory.newInstance();
SAXParser parser = factory.newSAXParser();
SaxHandler handler = new SaxHandler();
parser.parse(rstream, handler);
String csrfName = SaxHandler.results[0];
String csrfValue = SaxHandler.results[1];
System.out.println("csrfName = " + csrfName);
System.out.println("csrfValue = " + csrfValue);
String request2 = "http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/Tests/
car_param.fex";
PostMethod method_report = new PostMethod(request2);
method_report.addParameter("IBIRS_action", "run");
method_report.addParameter("COUNTRY", "ENGLAND");
method_report.addParameter("CAR", "JAGUAR");
method_report.addParameter("MODEL", "XJ12L AUTO");
method_report.addParameter(csrfName, csrfValue);
// cookies is defined as Header[] in the Signing-On to WebFOCUS example
for(int h=0; h<cookies.length; h++){
System.out.println(cookies[h]);
method_report.setRequestHeader(cookies[h].getName(), cookies[h].getValue());
}
// client is defined as HttpClient in the Signing-On to WebFOCUS example
int statusCode2 = client.executeMethod(method_report);
InputStream rstream2 = null;
rstream2 = method_report.getResponseBodyAsStream();
File tempfile = new File("c:\\temp\\Report.htm");
FileOutputStream fos = new FileOutputStream(tempfile);
PrintWriter out=new PrintWriter(fos);
BufferedReader br2 = new BufferedReader(new InputStreamReader(rstream2));
String line2;
String newOutput = null;
while ((line2 = br2.readLine()) != null) {
newOutput = line2;
out.println(newOutput);
System.out.println(line2);
}
// bring up the HTML report in the default browser
URI xtempfile = new URI ("file:/c:/temp/Report.htm");
Desktop.getDesktop().browse(xtempfile);
br2.close();
out.close();
}
}

```

## XML パーサクラス

XML パーサクラスは「SaxHandler」と呼ばれ、別のクラスファイルに記述されています。



```
import org.xml.sax.Attributes;
import org.xml.sax.SAXException;
import org.xml.sax.helpers.DefaultHandler;
public class SaxHandler extends DefaultHandler {

    static String[] results = new String[2];

    public void startElement(String uri, String localName, String qName,
Attributes attributes)
        throws SAXException {
        if (qName.equals("entry")) {
            String keyName = attributes.getValue("key");
            if (keyName.equals("IBI_CSRF-Token_Name")) {
                String tokenNameKeyValue =
                    attributes.getValue("value");
                System.out.println("key value is " +
                    tokenNameKeyValue);
                results[0] = tokenNameKeyValue;
            }
            if (keyName.equals("IBI_CSRF-Token_Value")) {
                String tokenValueKeyValue =
                    attributes.getValue("value");
                System.out.println("key value is " +
                    tokenValueKeyValue);
                results[1] = tokenValueKeyValue;
            }
        }
    }
}
```

---

## Visual Basic .NET の例

```
Imports System.Net
Imports System.Text
Imports System.IO
Module Module1
    Sub Main()
        Dim cookies As New CookieContainer
        Dim webStream As Stream
        Dim webResponse As String = ""
        Dim request As HttpWebRequest
        Dim response As HttpWebResponse
        Dim postData As String
        Dim csrf(2) As String
        request = WebRequest.Create("http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs")
        request.Method = "POST"
        postData = "IBIRS_action=signOn&IBIRS_userName=admin&IBIRS_password=admin"
        request.CookieContainer = cookies
        Dim byteArray As Byte() = Encoding.UTF8.GetBytes(postData)
        request.ContentType = "application/x-www-form-urlencoded"
        request.ContentLength = byteArray.Length
        Dim dataStream As Stream = request.GetRequestStream()
        dataStream.Write(byteArray, 0, byteArray.Length)
        dataStream.Close()
        response = request.GetResponse()
        webStream = response.GetResponseStream()
        Dim webStreamReader As New StreamReader(webStream)
        While webStreamReader.Peek >= 0
            webResponse = webStreamReader.ReadToEnd()
        End While
        csrf = XMLParse.XMLParseCSRF.doParseXML(webResponse)
        Console.WriteLine("csrf token name is " + csrf(0))
        Console.WriteLine("csrf key value is " + csrf(1))
        Console.ReadKey()
        Dim request2 As HttpWebRequest
        Dim response2 As HttpWebResponse
        Dim webStream2 As Stream
        Dim webResponse2 As String = ""
        request2 = WebRequest.Create("http://localhost:8080/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/
Repository/Tests/car_param.fex")
        request2.Method = "POST"
        'cookies is defined as CookieContainer in the Signing-On to WebFOCUS example
        request2.CookieContainer = cookies
        postData = "IBIRS_action=run&COUNTRY=ENGLAND&CAR=JAGUAR&MODEL=XJ12L%20AUTO" +
"&" + csrf(0) + "=" + csrf(1)
        Dim byteArray2 As Byte() = Encoding.UTF8.GetBytes(postData)
        request2.ContentType = "application/x-www-form-urlencoded"
        request2.ContentLength = byteArray2.Length
```

```
Dim dataStream2 As Stream = request2.GetRequestStream()
dataStream2.Write(byteArray2, 0, byteArray2.Length)
dataStream2.Close()
response2 = request2.GetResponse()
webStream2 = response2.GetResponseStream()
'Write to disk
Dim fs As New FileStream("c:\temp\output.htm", FileMode.Create)
Dim read As Byte() = New Byte(255) {}
Dim count As Integer = webStream2.Read(read, 0, read.Length)
While count > 0
    fs.Write(read, 0, count)
    count = webStream2.Read(read, 0, read.Length)
End While
'Close everything
fs.Close()
webStream2.Close()
Process.Start("c:\temp\output.htm")
End Sub
End Module
```

### XML パーサ関数

XML パーサ関数は「doParseXML」と呼ばれ、「XMLParseCSRF.vb」という別のクラスファイルに記述されています。このクラスは、再利用できるように別のプロジェクトに配置されています。

```

Imports System.IO
Imports System.Xml
Public Class XMLParseCSRF
    Public Shared Function doParseXML(inResponse As String) As String()
        Dim results(2) As String
        Dim m_xmlr As XmlTextReader = New XmlTextReader(New StringReader(inResponse))
        While m_xmlr.Read()
            If (m_xmlr.NodeType = XmlNodeType.Element) Then
                If m_xmlr.Name = "entry" Then
                    Dim keyName As String = m_xmlr.GetAttribute("key")
                    If (keyName = "IBI_CSRF_Token_Name") Then
                        Dim tokenKeyNameValue As String = m_xmlr.GetAttribute("value")
                        Console.WriteLine("tokenKeyName value is " + tokenKeyNameValue)
                        results(0) = tokenKeyNameValue
                    End If
                    If (keyName = "IBI_CSRF_Token_Value") Then
                        Dim tokenValueKeyValue As String = m_xmlr.GetAttribute("value")
                        Console.WriteLine("tokenValueKey value is " +
                            tokenValueKeyValue)
                        results(1) = tokenValueKeyValue
                    End If
                End If
            End If
        End While
        'close the reader
        m_xmlr.Close()
        Return results
    End Function
End Class

```

## 埋め込みグラフのレスポンス有効化

埋め込みグラフのレスポンスを有効化するには、次の 2 つの方法が使用できます。

### jQuery を使用

```

<script type="text/javascript" src="./jquery/js/jquery.min.js"></script>
<script type="text/javascript" src="/ibi_apps/tdg/jschart/distribution/
tdgchart-min.js"></script>
$(function () {
    $('#test_chart').tdgchart(

    {remoteDataURL: serverUrl + "/ibfs/WFC/Repository/OPM/
test_autofit_chart.fex?COUNTRY=ENGLAND" }
    );
    window.onresize = function()

    { $('#test_chart>div')[0].chart.width = $('#test_chart').width(); $
    ('#test_chart>div')[0].chart.height = $('#test_chart').height(); $
    ('#test_chart>div')[0].chart.redraw(); }
    });

```

## jQuery を使用しない

```
<script type="text/javascript" src="/ibi_apps/tdg/jschart/distribution/
tdgchart-min.js"></script>
var chart = new tdgchart();
chart.width = container.clientWidth;
chart.height = container.clientHeight;
chart.loadRemoteProperties('some_url_that_resolves_to_a_jschart_request',
'jschart',

{onLoad: 'redraw'}
);
window.onresize = function()

{ chart.width = container.clientWidth; chart.height =
container.clientHeight; chart.redraw(); }
```



# 10

## URL コールによる WebFOCUS ツールへの直接アクセス

---

ここでは、WebFOCUS InfoAssist および WebFOCUS デザイナへの直接アクセスに使用可能な URL コールのフォーマットおよび構造について説明します。WebFOCUS InfoAssist および WebFOCUS デザイナは、新しいコンテンツの作成に使用します。

### トピックス

- [InfoAssist の開始](#)
  - [WebFOCUS デザイナの開始](#)
- 

### InfoAssist の開始

次の URL コールを使用して、InfoAssist を外部から開始することができます。

```
http[s]://hostname:port/context_root/ia?[tool=tool_value][&is508={true|false}][&master=master_name]&item=ibfs_path
```

#### 説明

`hostname`

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

`port`

WebFOCUS が使用するポート番号です。

`context_root`

WebFOCUS アプリケーションで使用するコンテキストルートです。たとえば、「ibi\_apps」と入力します。

`tool_value`

必要に応じて、`item` パラメータがフォルダまたはフォルダリンクに設定されている場合、ここで指定した値が、InfoAssist の開始時に使用されるツール (モード) になります。

- report** (デフォルト)

レポートモードで開始します。

- chart**

グラフモードで開始します。

#### **idis**

ビジュアライゼーションモードで開始します。

#### **document**

ドキュメントモードで開始します。

#### **sample**

サンプルの作成に使用します。この場合、item パラメータはフォルダに設定する必要があります。また、master パラメータで特定のマスターファイルを指定する必要があります。

`&is508={true|false}`

オプションです。InfoAssist を 508 準拠モードで開始するかどうかを指定します。true または false を指定します。

`master_name`

オプションです。item パラメータがフォルダまたはフォルダリンクに設定されている場合、ここで指定した値が、使用するマスターファイルになります。マスターファイルを指定しない場合、ユーザは選択を要求されます。

`ibfs_path`

必須です。次のいずれかの項目への IBFS パスです。

- フォルダ
- グラフ
- テーブル
- フォルダへのリンク
- グラフへのリンク
- テーブルへのリンク
- レポートオブジェクトへのリンク

レポートオブジェクトへのリンクを指定した場合、InfoAssist は、指定したレポートオブジェクトを事前ロードした状態で開きます。これにより、ユーザは [マイレポート] を作成することができます。

**注意：** item パラメータに指定する値は、UTF-8 でエンコードする必要があります。

例



```
http://host:port/ibi_apps/ia?tool=chart&master=CAR&item=IBFS%3A%2FWFC%2FRepository%2FPublic%2Fbig14%2FChart1.fex
```

この例では、InfoAssist がグラフモードで開始され、CAR マスターファイルが使用されます。これはセキュアな URL のため、下図のように WebFOCUS ログインページが最初に表示されます。続行するには、ユーザが有効なユーザ名とパスワードを入力する必要があります。

**注意：** WebFOCUS ログインページは、ユーザがまだログインしていない場合にのみ表示されます。ユーザが WebFOCUS にすでにログインしている場合、このページは表示されません。



アプリケーション開発者は、代替のログインプロシジャ (例、Web サービス signOn コール、他の SSO オプション) を使用することで、WebFOCUS ログインページの表示を省略することができます。詳細は、『WebFOCUS セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

## WebFOCUS デザイナの開始

この URL コールを使用して、WebFOCUS デザイナを外部から開始することができます。

```
http[s]://hostname:port/context_root/designer?is508={true|false}
[&master=master_name]&item=ibfs_path&tool=framework&startlocation=initial_ibfs_path
&startUpConditions=condition[&visTypes=chart_type]
```

## 説明

### hostname

WebFOCUS がインストールされているシステムの名前です。

### port

WebFOCUS が使用するポート番号です。

### context\_root

WebFOCUS アプリケーションで使用するコンテキストルートです。たとえば、「ibi\_apps」と入力します。

### is508={true|false}

WebFOCUS デザイナを 508 準拠モードで開始するかどうかを指定するオプションのブール値です。true または false を指定します。

### master\_name

必要に応じて、使用するマスターファイルを指定します。修飾パスを使用してアプリケーションフォルダを指定することも、マスターファイル名のみを入力することもできます。マスターファイルを指定しない場合、「mode」:"internal" 起動条件に従って、WebFOCUS デザイナを使用して新しいコンテンツを作成する際に、マスターファイルの指定が要求されます。「mode」:"assemble" 起動条件に従って、既存のコンテンツでビジュアライゼーションを構成する場合は、マスターファイルを指定しないでください。

### ibfs\_path

.fex プロシジャファイルまたはフォルダへの IBFS パスです。

項目のパスをフォルダに設定すると、新規コンテンツの作成でマスターファイルを選択する場合、または [コンテンツ] タブから既存の項目にアクセスする場合に、デフォルトのワークスペースとしてこのフォルダが使用されます。

項目のパスをプロシジャに設定すると、このプロシジャがデザイナで開きます。

**注意：**item パラメータに指定する値は、UTF-8 でエンコードする必要があります。

### &tool=framework

コンテンツ作成ツールとして WebFOCUS デザイナを指定します。

### initial\_ibfs\_path

ワークスペースまたはフォルダのパスです。ビジュアライゼーションの初回保存時のデフォルトパスを設定します。

### condition

WebFOCUS デザイナの初期状態を設定します。condition には、次のいずれかを指定することができます。

#### **%7B"mode":"assemble"%7D**

外部コンテンツからビジュアライゼーションを構成することができます。

#### **%7B"mode":"internal"%7D**

複数コンテンツのビジュアライゼーションとして、新しいグラフおよびレポートを作成することができます。

#### **%7B"firstAction":%5B"dataTab"%5D%7D**

[データ] タブで WebFOCUS デザイナを開始し、データソースを結合して、複数コンテンツのビジュアライゼーションとして新しいグラフおよびレポートを作成することができます。この場合、master パラメータに値が必要です。

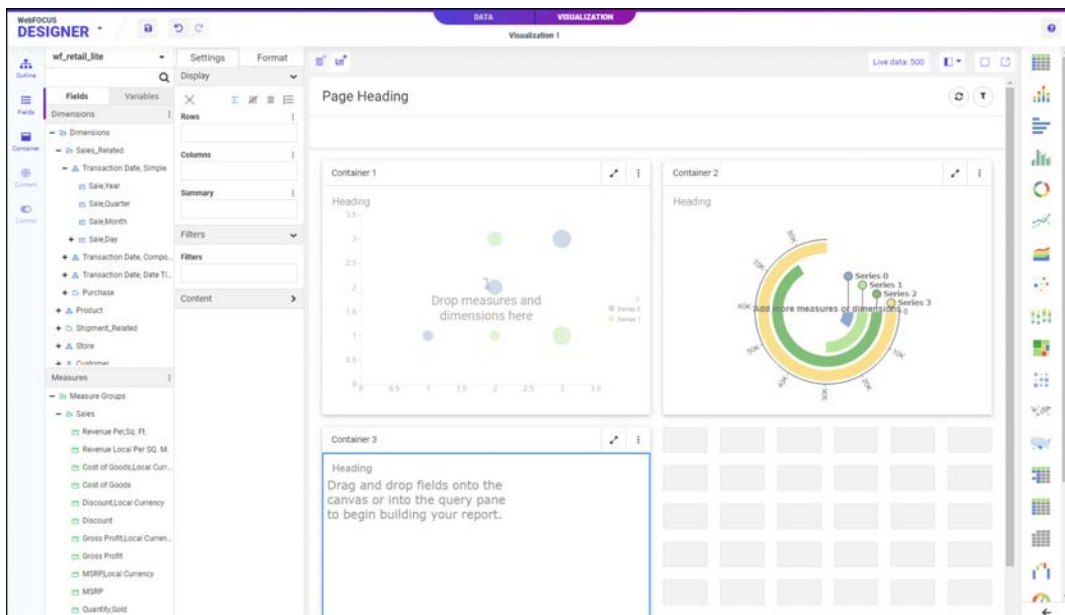
### chart\_type

必要に応じて、新規コンテンツでビジュアライゼーションを作成する場合に、1 つまたは複数の項目の開始コンテンツタイプを指定することができます。コンテンツの選択オプションを使用して、コンテンツタイプを変更することもできます。単一のコンテンツタイプ名を入力することも、複数のコンテンツタイプ名をセミコロン (;) で区切って入力することもできます。グラフタイプのコンテンツタイプ名は、プロシージャ内の agnosticSettings:chartTypeFullName プロパティから取得することができます。レポートの場合、標準レポートおよびタブ付きレポートの作成には table を使用し、グリッドレポートの作成には table\_grid を使用します。

### 例

```
http://localhost:8080/ibi_apps/designer?
is508=false&master=wfretail82%2Fwf_retail_lite
&item=IBFS%3A%2FWFC%2FRepository%2FMy_Workspace%2F-admin&tool=framework
&startlocation=IBFS%3A%2FWFC%2FRepository%2FMy_Workspace%2F-admin%2F
&startUpConditions=
%7B"mode":"internal"%7D&visTypes=X_Y_Plots_Bubble;com.ibi.arc;table_grid
```

この例では、WebFOCUS デザイナが、新規ビジュアライゼーションで開始され、wftail82 アプリケーションフォルダの wf\_retail\_lite マスターファイルを使用しています。キャンバスには、バブルグラフ、com.ibi.arc グラフ拡張機能を使用した円弧グラフ、グリッドレポートの3つの項目が表示されています。



これはセキュアな URL のため、下図のように WebFOCUS ログインページが最初に表示されます。続行するには、ユーザが有効なユーザ名とパスワードを入力する必要があります。

**注意：** WebFOCUS ログインページは、ユーザがまだログインしていない場合にのみ表示されます。ユーザが WebFOCUS にすでにログインしている場合、このページは表示されません。



アプリケーション開発者は、代替のログインプロシジャ (例、Web サービス signOn コール、他の SSO オプション) を使用することで、WebFOCUS ログインページの表示を省略することができます。詳細は、『WebFOCUS セキュリティ管理ガイド』を参照してください。



## WebFOCUS Open Portal Services

WebFOCUS Open Portal Services を使用すると、シングルサインオン (SSO) 経由で企業内情報ポータル (EIP) に WebFOCUS コンテンツをシームレスに統合することができます。これにより、ユーザーが WebFOCUS コンテンツを簡単かつ安全に使用、操作することが可能になります。

WebFOCUS は、企業データの利用範囲を拡張し、EIP の投資効果を高めるための機能を備えています。WebFOCUS Open Portal Services を使用すると、他社製 EIP 内で作成されたコンテンツにレポート構造を組み込むことで、企業全体に WebFOCUS BI を展開することができます。

ここでは、Microsoft SharePoint 2016 および 2013、IBM WebSphere バージョン 8.5、Apache Jetspeed バージョン 2.3.1 の Portal Server 環境で WebFOCUS Open Portal Services およびそのポータルコンポーネントをインストールして使用方法について説明します。このセクションは、特定の EIP に WebFOCUS ポータルコンポーネントをインストールして構成し、他社製アプリケーション上で WebFOCUS BI コンテンツを使用可能にする管理者を対象にしています。





# 11

## WebFOCUS Open Portal Services の概要

WebFOCUS バージョン 8 の WebFOCUS Open Portal Services を使用すると、シングルサインオン (SSO) 経由での企業内情報ポータル (EIP) へのシームレスな統合が可能になります。これにより、ユーザが簡単かつ安全に WebFOCUS コンテンツを使用、操作することができます。

WebFOCUS は、企業データの利用範囲を拡張し、EIP の投資効果を高めるための機能を備えています。WebFOCUS Open Portal Services を使用すると、他社製 EIP 内で作成されたコンテンツにレポート構造を組み込むことで、企業全体に WebFOCUS BI を展開することができます。

WebFOCUS BI テクノロジは、優れた操作性、展開性、拡張性を備え、35 種類を超えるプラットフォームで 90 種類以上のデータソースにアクセス可能な BI ソフトウェアソリューションです。これらのデータソースには、レガシーデータ、データウェアハウス、ERP (Enterprise Resource Planning)、CRM (Customer Relationship Management) など含まれます。あらゆるソースのデータアクセスおよびデータ統合が可能のため、既存のデータ環境での複雑な操作が軽減されます。

次のセクションでは、WebFOCUS Open Portal Services の機能および利点の概要について説明します。

### トピックス

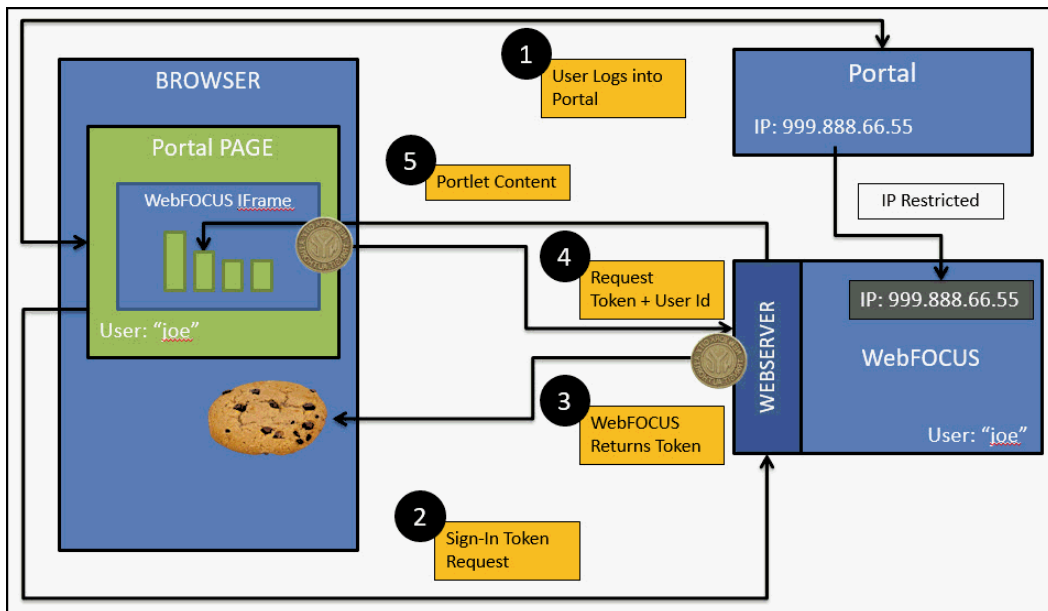
- [WebFOCUS Open Portal Services](#)
- [WebFOCUS Open Portal Services の利点](#)
- [Java ポートレット仕様 2.0 \(JSR 286\) のサポート](#)

## WebFOCUS Open Portal Services

WebFOCUS Open Portal Services を使用して、WebFOCUS BI 機能の利用範囲を既存の EIP フレームワーク内のエンドユーザにまで拡張することができます。ユーザは、次のことを行えます。

- BI コンテンツを表示、格納、取得する方法をパーソナライズして、業務効率を最適化する。
- 各コンテンツウィンドウに含めるコンテンツ、およびそのコンテンツを表示、編成する方法を決定する。

- ❑ 同一ポータルページでグラフとレポートを統合する。
  - ❑ レポートおよびクエリのすべてのタイプ (例、adhoc、OLAP) に分析ツールを使用する。
- 下図は、EIP 内に表示された WebFOCUS コンテンツを示しています。



## WebFOCUS Open Portal Services の利点

WebFOCUS Open Portal Services の利点

- ❑ パーソナライズされたポータルページから企業全体の重要なデータにすばやくアクセスする。
- ❑ ポータル内でレポート機能と分析機能を統合し、リアルタイム情報を提供することで操作性を強化する。
- ❑ 社内のユーザの役割に基づいて、ユーザによる BI 情報の表示、ナビゲート、共有、視覚化、分析を可能にする。
- ❑ 承認されたユーザに正確なビジネスレポートをタイムリーに提供するための内部セキュリティおよび外部セキュリティをサポートする。

## Java ポートレット仕様 2.0 (JSR 286) のサポート

Java ポートレット仕様 2.0 (JSR 286) は、ポートレットを作成するための標準 API を定義したものです。ポートレットは、ポータルからのアプリケーションの提供を可能にする、アプリケーションとポータル間の統合コンポーネントです。

2008 年 6 月にリリースされた JSR 286 は、2003 年 10 月にリリースされた Java ポートレット仕様 1.0 (JSR 168) の後継仕様です。JSR 286 の新機能および強化点により、JSR 168 で定義されていなかった箇所が補足されています。

WebFOCUS バージョン 8.2 SP01 以降では、JSR 286 準拠のポータル環境 (例、IBM WebSphere Portal Server) で WebFOCUS ポートレットを使用することができます。



# 12

## WebFOCUS App Parts for Microsoft SharePoint 2016 のインストール

ここでは、管理者が WebFOCUS App Parts for the Microsoft SharePoint Portal Server 2016 をインストールする方法について説明します。

### トピックス

- [オンプレミス SharePoint Server](#)
- [開発者サイトおよびアプリケーションカタログを使用したその他のサイトタイプからのアプリケーション \(アドイン\) へのアクセス](#)
- [Microsoft Office 365 および Azure \(クラウド\) での SharePoint の使用](#)
- [Microsoft SharePoint 2016 に関するセキュリティ上の注意](#)

### オンプレミス SharePoint Server

ここでは、オンプレミスの SharePoint Server の構成方法について説明します。

Microsoft SharePoint Portal Server 2016 では、WebFOCUS App Parts が、SharePoint のアドイン (WfApp.app) として同梱されており、次の WebFOCUS インストールディレクトリに格納されています。

```
drive:¥ibi¥WebFOCUS82¥utilities¥ops¥sharepoint-addin
```

### 説明

*drive:*

WebFOCUS インストールディレクトリを表すドライブ名です。

セキュリティについては、WebFOCUS 環境と SharePoint 環境の両方で同一のセキュリティパラダイムが適用されていることを確認してください。

1. Windows 管理者として、アプリケーション (アドイン) を使用するドメインユーザ ID を追加します。
2. [サーバーの全体管理] ページを使用して、[サービス アプリケーションの管理] および [User Profile Service Application] が構成済みであることを確認します。この場合、[アプリケーション構成の管理] 下で [サービス アプリケーションの管理] を選択します。
3. 使用するドメインユーザ ID が、[サーバーの全体管理] のユーザプロファイルに存在することを確認します。存在しない場合は、[サービス アプリケーションの管理] 下の [User Profile Service] のリンクをクリックし、新しいユーザプロファイルを作成します。

4. [ユーザー] 下で [ユーザー プロファイルの管理] を選択し、特定の名前を検索します。
5. [sysadmin] ロールが割り当てられ、[SharePoint\_config] データベースの [db\_owner] および [Sharepoint\_shell\_access] のユーザー マッピングが割り当てられたドメインユーザ ID を、ログイン ID として SQL Server に追加します。
6. SharePoint 管理シェルの、[管理者として実行] オプションを使用して起動します。
7. 次のコマンドを使用して、現在のセッションおよびスクリプトに PowerShell スナップインをロードします。

```
Add-PSSnapin Microsoft.Sharepoint.Powershell
```

8. 次のコマンドを使用し、spshell 管理者としてユーザを追加します。

```
Add-SPShellAdmin -UserName domain\username
```

9. 次のコマンドを使用して、アドインのサブドメインを設定します。

```
Set-SPAppDomain "wfapp.ibi.com"
```

10. 次のコマンドを使用して、アドインを実行するためのアカウントを設定します。

```
$account = New-SPManagedAccount
```

11. 次のコマンドを使用して、アカウント、アプリケーションプール、データベースの設定を定義します。

```
a. $account = Get-SPManagedAccount "domain\user"
```

```
b. $appPoolSubSvc = New-SPServiceApplicationPool -Name  
SettingsServiceAppPool -Account $account
```

```
c. $appPoolAppSvc = New-SPServiceApplicationPool -Name  
AppServiceAppPool -Account $account
```

```
d. $appSubSvc = New-SPSubscriptionSettingsServiceApplication -  
ApplicationPool $appPoolSubSvc -Name SettingsServiceApp -DatabaseName  
SettingsServiceDB  
(Note: The user ID must be sysadmin or dbcreator for this command.)
```

```
e. $proxySubSvc = New-SPSubscriptionSettingsServiceApplicationProxy -  
ServiceApplication $appSubSvc
```

```
f. $appAppSvc = New-SPAppManagementServiceApplication -  
ApplicationPool $appPoolAppSvc -Name AppServiceApp -DatabaseName  
AppServiceDB
```

```
g. $proxyAppSvc = New-SPAppManagementServiceApplicationProxy -  
ServiceApplication $appAppSvc
```

12. 次のコマンドを使用して、アドインの接頭語を設定します。

```
Set-SPAppSiteSubscriptionName -Name "add-in" -Confirm:$false
```

完全なアプリケーション (アドイン) 名が表示されます。以下はその例です。

<http://add-in-61844c031b3e0d.wfapp.ibi.com/sites/WFApp/>

**注意：** wfapp.ibi.com (またはこれ以外) のドメインに対するサポートの提供は、SharePoint 管理者の責任です。

SharePoint Server が構成され、アプリケーション (アドイン) がサポートされます。

## 開発者サイトおよびアプリケーションカタログを使用したその他のサイトタイプからのアプリケーション (アドイン) へのアクセス

ここでは、開発者サイトおよびアプリケーションカタログを使用してその他のサイトタイプから、アプリケーション (アドイン) にアクセスする方法について説明します。

### 手順 開発者サイトからアプリケーション (アドイン) にアクセスするには

開発者サイトからアプリケーション (アドイン) にアクセスするには、次の手順を実行します。

1. [サーバーの全体管理] ページから、[サイト コレクションの作成] を使用して開発者サイトを作成します。

2. 別のマシンから、ブラウザを使用して次の新しい開発者 Web サイトに移動します。

<http://sharepointServer/sites/developerSite>

3. 次のサイトから、WebFOCUS App を事前登録します。

[http://sharepointServer/sites/developerSite/\\_layouts/15/appregnew.aspx](http://sharepointServer/sites/developerSite/_layouts/15/appregnew.aspx)

4. [クライアント ID] には、次のように入力します。

40f398ee-1f96-4e4e-96dd-9f7218a3b880

5. [クライアント シークレット] の横の、[生成] をクリックします。

6. [タイトル] テキストボックスにタイトルを入力します。

7. [アプリ ドメイン] テキストボックスに、次のように新しいホストを入力します。

<http://www.webfocusdavid.com>

8. [リダイレクト先の URL] テキストボックスに、次のように URL を入力します。

<http://www.webfocusdavid.com/default.aspx>

9. [作成] をクリックします。

10. 左側のウィンドウで、[テスト中アプリ] を選択します。

11. [展開する新しいアプリ] のリンクをクリックします。
12. 表示されたダイアログボックスで、[アップロード] をクリックし、[WFApp.app] を特定し、アップロードします。
13. [展開] をクリック後、プロンプトで [信頼する] をクリックします。
14. ブラウザをリフレッシュし、「インストール中」のメッセージが非表示になると、アプリケーションが使用可能になります。
15. このサイトでページを作成します。
16. ページ上部の [挿入] タブから [アプリ パーツ] を選択すると、[WebFOCUS App Parts] が使用可能になります。

1 つ目のアプリパーツを挿入すると、フレームにエラーメッセージが表示され、アドインにアクセスするために Windows Hosts ファイルに追加が必要なホストが表示されます。
17. この Hosts ファイルには、SharePoint Server マシンの実際の IP アドレスを使用します。
18. ブラウザをリフレッシュします。

「アクセスは拒否されました」という 403 エラーメッセージがウィンドウに表示される場合があります。この場合、別のブラウザタブで WebFOCUS にログインする必要があります。

## 手順

### アプリケーションカタログを使用してその他のサイトタイプからアプリケーション (アドイン) にアクセスするには

アプリケーションカタログを使用してその他のサイトタイプからアプリケーション (アドイン) にアクセスするには、次の手順を実行します。

1. [ファームの管理者] アカウントを使用して [サーバーの全体管理] ページにアクセスし、ウィンドウ左側の [アプリ] をクリック後、[アプリ管理] 下の [アプリ カタログの管理] を選択します。
2. [新しいアプリ カタログサイトを作成する] ラジオボタンを選択し、[OK] をクリックします。
3. [アプリ カタログの作成] ページで、[アプリ カタログ サイト] のタイトルを入力します。必要に応じて説明も入力します。
4. [URL] テキストボックスに、このサイトで使用する URL を次のように入力します。

<http://sharepointServer/sites/mycatalog>
5. [サイト コレクション管理者 (プライマリ)] セクションで、カタログを管理するユーザの名前を入力し、確認のために [名前の確認] をクリックします。
6. [エンドユーザー] セクションで、カタログの閲覧対象とするユーザまたはグループの名前を入力し、確認のために [名前の確認] をクリックします。



7. 必要なオプションのクォータを選択し、[OK] をクリックしてカタログを作成します。  
カタログが作成されると、[アプリ カatalogの管理] ページにこのアプリカタログサイトの URL が表示されます。
8. ブラウザで、このアプリカタログの Web サイトに移動し、ページ左側の [SharePoint 用アプリ] をクリックします。
9. [新規] をクリックすると表示される [ドキュメントの追加] ダイアログボックスでファイルの選択ボタンをクリック後、アプリケーションファイルが格納されたフォルダに移動し、ファイルを選択してアップロードします。
10. [OK] をクリックします。
11. [サーバーの全体管理] ページを使用して、[サイト コレクションの作成] から、非開発者サイトを作成します。
12. 別のマシンのブラウザで、次の新しい Web サイトに移動します。  
<http://sharepointServer/sites/testSite>
13. 次のサイトから、WebFOCUS App を事前登録します。  
[http://sharepointServer/sites/testSite/\\_layouts/15/appregnew.aspx](http://sharepointServer/sites/testSite/_layouts/15/appregnew.aspx)
14. [クライアント ID] テキストボックスに、次の ID を入力します。  
40f398ee-1f96-4e4e-96dd-9f7218a3b880
15. [クライアント シークレット] の横の、[生成] をクリックします。
16. [タイトル] テキストボックスにタイトルを入力します。
17. [アプリ ドメイン] テキストボックスに、次のように新しいホストを入力します。  
<http://www.webfocusdavid.com>
18. [リダイレクト先の URL] テキストボックスに、次のように URL を入力します。  
<http://www.webfocusdavid.com/default.aspx>
19. [作成]、[OK] を順にクリックします。
20. ウィンドウ右上の歯車メニューから、[アプリの追加] をクリックし、[自分のアプリ] ページを表示します。
21. [Information Builders WebFOCUS applets] を選択します。
22. [WebFOCUS を信頼しますか?] ダイアログボックスで、[信頼する] ボタンをクリックします。  
これにより、サイトにアプリケーションが追加されます。

23. このサイトでページを作成します。
24. ページ上部の [挿入] タブから [アプリ パーツ] を選択すると、使用可能な WebFOCUS App Parts が表示されます。

1 つ目のアプリパーツを挿入すると、フレームにエラーメッセージが表示され、アドインにアクセスするために Windows の Hosts ファイルに追加が必要なホストが表示されます。この Hosts ファイルには、SharePoint Server マシンの実際の IP アドレスを使用することができます。
25. ブラウザをリフレッシュします。

「アクセスは拒否されました」という 403 エラーメッセージがウィンドウに表示される場合があります。この場合、別のブラウザタブで WebFOCUS にログインする必要があります。

## Microsoft Office 365 および Azure (クラウド) での SharePoint の使用

クラウドで SharePoint を使用するには、WebFOCUS でセキュアソケットレイヤ (SSL) を構成する必要があります。

**注意:** 次の手順では、例として Microsoft Office 365 を使用しますが、一般的な手順は Microsoft Azure 環境にも適用されます。

1. SharePoint Online のアカウントで Office 365 にログインします。
2. SharePoint 管理センター ([A] および [Admin] タイル) で、左側ウィンドウから [アプリ] を選択し、[アプリ カタログ] をクリックします。
3. [新しいアプリ カタログ サイトを作成する] を選択し、[OK] をクリックします。
4. [アプリ カタログ サイト コレクションの作成] ページで必要な情報を入力し、[OK] をクリックします。
5. 管理センター内のアプリカタログサイトに移動し、[アプリ]、[アプリ カタログ] を順に選択します。
6. アプリカタログサイトのホームページで、[SharePoint 用アプリの配布] というタイトルを選択し、[新しいアプリ] をクリックします。
7. アップロードするアプリケーションが格納されたフォルダに移動して選択し、[開く] をクリックします。
8. [ドキュメントの追加] ダイアログボックスで、このアプリケーションのバージョンについてのコメントがあればオプションで追加し、[OK] をクリックします。
9. ユーザが自分のサイトにこのアプリケーションを追加できるよう、[有効] のチェックがオンになっていることを確認します。

- 10.[Save] をクリックします。
11. アプリカタログサイトで、WebFOCUS App を事前登録します。次のサイトを使用します。  
[http://sharepointServer/sites/testSite/\\_layouts/15/appregnew.aspx](http://sharepointServer/sites/testSite/_layouts/15/appregnew.aspx)
12. アプリカタログサイトで [設定] をクリックし、[アプリの追加] を選択します。
13. 追加するアプリケーションを選択後、プロンプトで [信頼する] を選択します。
14. 新しいサイトコレクションを作成します。
15. ブラウザでこの新しいサイトコレクションの URL に移動し、[設定] メニューから [アプリの追加] を選択します。
16. WebFOCUS App を選択し、新しいサイトに追加します。  
インストール後、ページを作成し、リボンの [アプリ パーツ] を使用して WebFOCUS App Parts を追加することができます。
17. [Web パーツの編集] ウィンドウで、WebFOCUS の HTTPS URL を指定し、WebFOCUS 環境が SSL で構成されていることを確認します。

### Microsoft SharePoint 2016 に関するセキュリティ上の注意

Microsoft SharePoint 2016 は、バックチャネルリクエストを開始することができません。そのため、統合 Windows 認証など、SharePoint 2016 と WebFOCUS で同一のセキュリティスキームを実装することをお勧めします。



# 13

## WebFOCUS Portlets for the IBM WebSphere Portal Server Version 8.5 のインストール

ここでは、WebFOCUS Portlets for the IBM WebSphere Portal Server Version 8.5 のインストールおよび構成方法について説明します。

### トピックス

- 要件
- インストールおよび構成の概要
- WebFOCUS Open Portal Services Gateway の構成
- セキュリティ設定および認証設定の構成
- IBM WebSphere Portal Server バージョン 8.5 での WebFOCUS ポートレットのインストールおよび構成

### 要件

WebFOCUS ポートレットをインストールする前に、次のコンポーネントがインストールされ、使用可能であることを確認してください。

- IBM WebSphere Portal Server バージョン 8.5 (JSR 286 準拠のポータル環境)
- WebFOCUS バージョン 8.2 SP01 以降

WebFOCUS のインストールについての詳細は、『WebFOCUS インストールガイド for Windows』を参照してください。

IBM WebSphere Portal 8.5 Cumulative Fix 16 および IBM WebSphere Application Server version 8.5.5 Fix Pack 14

また、IBM WebSphere Application Server の構成には、Java バージョン 8 が必要です。

- ops286.war ファイル (WebFOCUS Open Portal Services から提供され、JSR 286 に準拠した一連の WebFOCUS ポートレットを格納)
- opsgw.war ファイル (WebFOCUS Open Portal Services Gateway を格納)

**注意:** opsgw.war ファイルは、WebFOCUS 環境および IBM WebSphere Portal Server がそれぞれ別のマシンにインストールされているため、WebFOCUS Open Portal Services Gateway の展開が必要な場合のみ必要です。

ops286.war ファイルおよび opsgw.war ファイルは、WebFOCUS インストールの次のフォルダに格納されています。

```
<drive>:\ibm\WebFOCUS82\webapps
```

## インストールおよび構成の概要

ここでは、WebFOCUS ポートレットを JSR 286 準拠のポータル環境に展開するためのインストールプロセスおよびガイドラインについて、概要を説明します。

1. 管理コンソール (または同様のユーザインターフェース) を使用して、WebFOCUS インストールに同梱された ops286.war ファイルを展開します。

ops286.war ファイルは、WebFOCUS インストールの次のフォルダに格納されています。

```
<drive>:\ibm\WebFOCUS82\webapps
```

詳細は、各ポータル環境に対応する管理マニュアルを参照してください。

2. WebFOCUS 環境およびポータル環境がそれぞれ別のマシンにインストールされている場合は、ポータル環境をホストする Application Server に WebFOCUS Open Portal Services Gateway を展開する必要があります。

たとえば、IBM WebSphere Portal 環境の場合、IBM WebSphere Application Server に WebFOCUS Open Portal Services Gateway を展開する必要があります。

3. コンソールまたは同様のユーザインターフェースで使用可能なページデザイン用ユーティリティを使用し、ポータル環境で新しいポータルページを作成します。ポータルページの作成後、必要に応じて、このページに 1 つまたは複数の WebFOCUS ポートレットを追加することができます。

詳細は、各ポータル環境に対応するマニュアルを参照してください。

## WebFOCUS Open Portal Services Gateway の構成

ここでは、JSR 286 準拠のポータル環境をホストする Application Server で WebFOCUS Open Portal Services Gateway を構成する方法について説明します。

**注意：** WebFOCUS 環境 とポータル環境がそれぞれ別のマシンにインストールされている場合は、ゲートウェイを使用する必要があります。

## 手順 WebFOCUS Open Portal Services Gateway を構成するには

1. 次のディレクトリから opsgw.war ファイルを特定します。

```
<drive>:\ibm\WebFOCUS82\webapps
```

- このアーカイブを一時ディレクトリに抽出します。以下はその例です。

```
c:¥gw_temp
```

- 次のディレクトリから web.xml ファイルを特定します。

```
c:¥gw_temp¥WEB-INF
```

- テキストエディタを使用して web.xml ファイルを開き、次のセクションを特定します。

```
<context-param>  
  <param-name>target_server_url</param-name>  
  <param-value>{protocol}://{servername}{:port}</param-value>  
</context-param>
```

説明

*protocol*

使用する通信プロトコルです (例、HTTP または HTTPS)。

*servername*

WebFOCUS がインストールされている Application Server 名です。

*port*

サーバのリスナポート番号です。

- 使用する WebFOCUS 環境に対応する適切な値を入力します。以下はその例です。

```
<context-param>  
  <param-name>target_server_url</param-name>  
  <param-value>http://hostname:8080</param-value>  
</context-param>
```

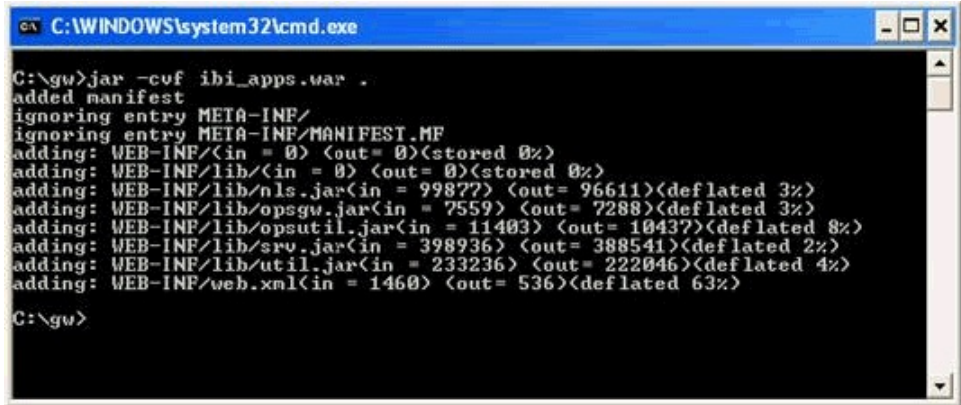
- 変更した web.xml ファイルを保存し、次の名前規則を使用してアーカイブを再パッケージ化します。

```
contextpath.war
```

## 説明

### *contextpath*

WebFOCUS インストールのコンテキストパスです (例、ibi\_apps.war)。



```
C:\WINDOWS\system32\cmd.exe
C:\>jar -cuf ibi_apps.war .
added manifest
ignoring entry META-INF/
ignoring entry META-INF/MANIFEST.MF
adding: WEB-INF/<in = 0> <out = 0>(stored 0%)
adding: WEB-INF/lib/<in = 0> <out = 0>(stored 0%)
adding: WEB-INF/lib/nls.jar<in = 998777> <out = 96611>(deflated 3%)
adding: WEB-INF/lib/opsgw.jar<in = 7559> <out = 7288>(deflated 3%)
adding: WEB-INF/lib/opsutil.jar<in = 11403> <out = 10437>(deflated 8%)
adding: WEB-INF/lib/srv.jar<in = 398936> <out = 388541>(deflated 2%)
adding: WEB-INF/lib/util.jar<in = 233236> <out = 222046>(deflated 4%)
adding: WEB-INF/web.xml<in = 1460> <out = 536>(deflated 63%)
C:\>
```

7. 再パッケージ化した .war ファイルのコピーを作成し、ファイル名を「ibi\_html.war」に変更します。

**注意：**この場合、コンテキストパスの名前規則を使用する必要があります。

8. JSR 286 準拠のポータル環境の展開先 Application Server に、ibi\_apps.war および ibi\_html.war の 2 つの .war ファイルを展開します。

たとえば、IBM WebSphere Portal 環境の場合、IBM WebSphere Application Server にこれらの .war ファイルを展開する必要があります。

Application Server での .war ファイルの展開についての詳細は、各 Application Server に対応する管理マニュアルまたはユーザマニュアルを参照してください。

## セキュリティ設定および認証設定の構成

WebFOCUS では、WebFOCUS 管理コンソールを使用して、WebFOCUS Open Portal Services のセキュリティ設定および認証設定を構成することができます。

ops286.war ファイルおよび opsgw.war ファイルは、WebFOCUS インストールの次のフォルダに格納されています。

<drive>:\¥ibi¥WebFOCUS82¥webapps

**注意：**WebFOCUS Open Portal Services のセキュリティおよび認証構成の設定は、securitysettings-portlet.xml ファイルに格納されています。このファイルは、WebFOCUS インストールの次のフォルダに格納されています。



<drive>:\ibm\WebFOCUS82\config\securitysettings-portlet.xml

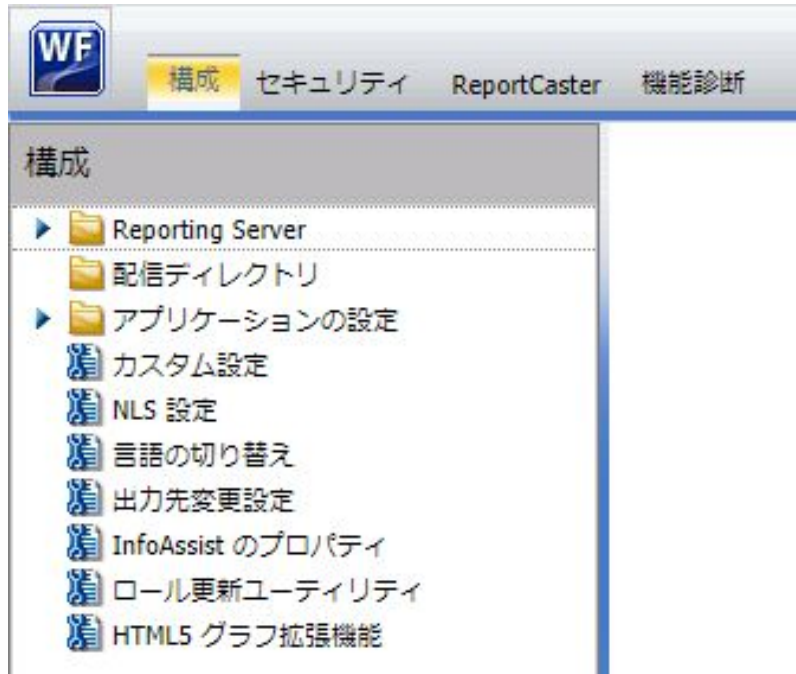
## 手順 IP アドレスアクセスを有効にするには

WebFOCUS 管理コンソールを使用して IP アドレスアクセスを有効にするには、次の手順を実行します。

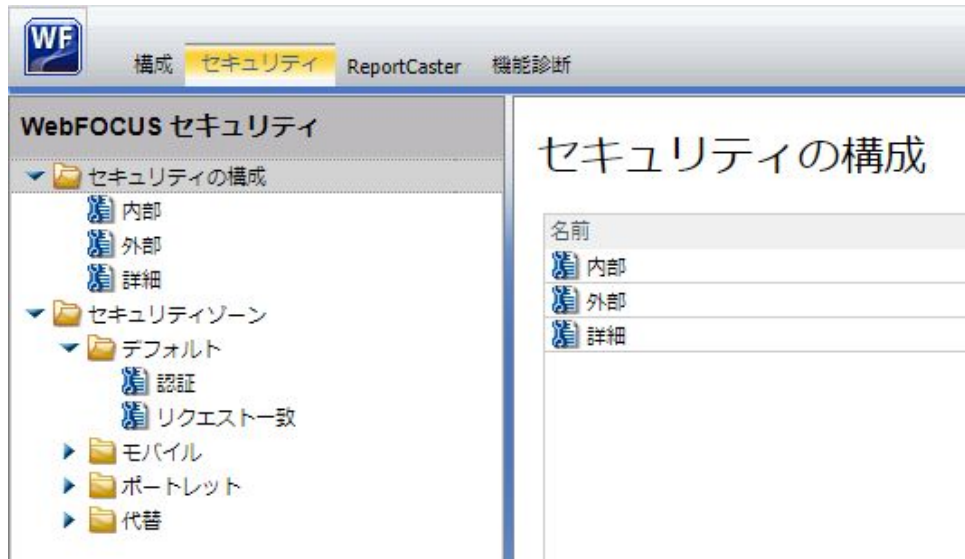
1. 下図のように、WebFOCUS ホームページから WebFOCUS 管理コンソールにアクセスします。



下図のように、WebFOCUS 管理コンソールが開きます。



2. 下図のように、[セキュリティ] タブをクリックします。



3. 下図のように、左側ウィンドウで [セキュリティゾーン]、[ポートレット] を順に展開し、[認証] を選択します。

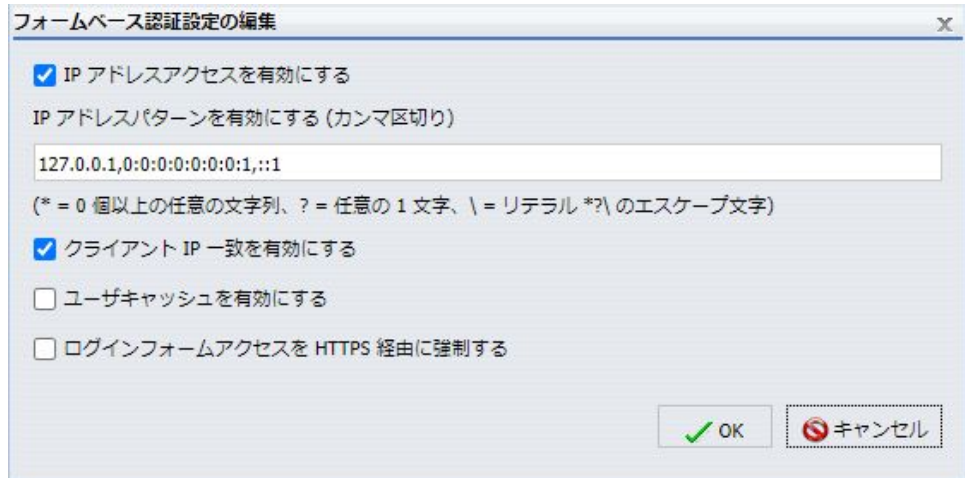
名前	ステータス
HTTP X.509 認証	無効
JEE コンテナベース認証	無効
リクエストヘッダ認証	無効
CAS 認証	無効
フォームベース認証	有効
HTTP Basic 認証	無効
SAML 認証	無効
Kerberos/SPNEGO 認証	無効
OpenID Connect 認証	無効
Remember Me 認証	有効
匿名認証	無効
Trusted チケット認証	無効

4. 下図のように、[フォームベース認証] をダブルクリックします。

## 認証

名前	ステータス
HTTP X.509 認証	無効
JEE コンテナベース認証	無効
リクエストヘッダ認証	無効
CAS 認証	無効
フォームベース認証	有効
HTTP Basic 認証	無効
SAML 認証	無効
Kerberos/SPNEGO 認証	無効
OpenID Connect 認証	無効
Remember Me 認証	有効
匿名認証	無効
Trusted チケット認証	無効

下図のように、[フォームベース認証設定の編集] ダイアログボックスが開きます。



次の手順を実行します。

- [IP アドレスアクセスを有効にする] のチェックをオンにします。
- [IP アドレスパターン] テキストボックスに、IP アドレスまたはアクセスを許可するアドレス (有効な接続) を指定します。  
複数の IP アドレスを指定する場合は、カンマ (,) 区切り文字を使用します。
- [OK] をクリックします。

5. 下図のように、右側ウィンドウで [保存] をクリックします。



下図のように、構成データが正常に保存されたことを示すメッセージダイアログボックスが表示されます。



6. [OK] をクリックします。

下図のように、変更を有効にするには Web アプリケーションを再起動する必要があることを示すメッセージダイアログボックスが表示されます。



7. [OK] をクリックします。
8. Web アプリケーションを再起動します。

## 手順

### ユーザ ID からドメインプレフィックスおよびサフィックスを除外するには

Windows 認証を使用してポータル環境に接続する場合 (例、ユーザ名 IBI¥john\_smith を使用)、次の手順で説明する設定を有効にして、ユーザ ID からドメインプレフィックスおよびサフィックスを除外することができます。

**注意：**BI Portal のユーザ ID (mr\_user\_id) は、basedir ディレクトリで WINDOWS\_DOMAIN ¥mr\_user\_id と定義する必要があります。

#### プレフィックスの除外

この設定が有効な場合、Windows ドメインは除外され、ポータルユーザは mr\_user\_id として BI Portal にログインされます。この設定が無効な場合 (デフォルト設定)、Windows ドメインは除外されず、ポータルユーザは WINDOWS\_DOMAIN¥mr\_user\_id としてログインされます。

#### サフィックスの除外

アクセスするポータル環境で、「@」の文字を使用してユーザ ID (プレフィックス) とドメイン (サフィックス) を区切る認証プロバイダが使用されている場合 (例、mr\_user\_id@abc.com)、次の手順に従ってこの設定を有効にする必要があります。この場合、「@」文字に続くサフィックスが除外され、ポータルユーザは mr\_user\_id としてログインされます。

WebFOCUS 管理コンソールを使用して、ユーザ ID からドメインプレフィックスおよびサフィックスを除外するには、次の手順を実行します。

1. 「IP アドレスアクセスを有効にするには」の手順 1 から 3 の説明に従って、WebFOCUS 管理コンソールの [セキュリティ] タブにアクセスします。

2. 下図のように、[JEE コンテナベース認証] をダブルクリックします。

## 認証

名前	ステータス
HTTP X.509 認証	無効
<b>JEE コンテナベース認証</b>	<b>無効</b>
リクエストヘッダ認証	無効
CAS 認証	無効
フォームベース認証	有効
HTTP Basic 認証	無効
SAML 認証	無効
Kerberos/SPNEGO 認証	無効
OpenID Connect 認証	無効
Remember Me 認証	有効
匿名認証	無効
Trusted チケット認証	無効

下図のように、[JEE コンテナベース認証設定の編集] ダイアログボックスが開きます。



3. [JEE ユーザプリンシパル名からドメイン名を除外] のチェックをオンにします。
4. [OK] をクリックします。

5. 下図のように、右側ウィンドウで [保存] をクリックします。



下図のように、構成データが正常に保存されたことを示すメッセージダイアログボックスが表示されます。



6. [OK] をクリックします。



下図のように、変更を有効にするには Web アプリケーションを再起動する必要があることを示すメッセージダイアログボックスが表示されます。



7. [OK] をクリックします。
8. Web アプリケーションを再起動します。

## IBM WebSphere Portal Server バージョン 8.5 での WebFOCUS ポートレットのインストールおよび構成

IBM WebSphere Portal Server バージョン 8.5 に WebFOCUS ポートレットをインストールするには、管理者に管理権限が必要です。ポータルで管理権限を所有する場合は、管理者は ops286.war ファイルをアップロードします。このファイルには、各 WebFOCUS ポートレットに関する詳細情報が格納されており、他のポータルコンポーネントでクエリ実行可能なデータベースに配置されます。インストール時に、Application Server は、ops286.war ファイルを解凍し、ポートレットクラスおよびリソースをファイルシステムに配置します。

各 WebFOCUS ポートレットは、インストール時にアクティブ状態に設定されます。WebFOCUS ポートレットをインストールしたユーザをオーナーとして定義する新しいルールが、アクセスコントロールに自動的に追加され、オーナーにはこのポートレットへの管理アクセスが与えられます。このユーザは、WebFOCUS ポートレットへのアクセスおよび使用を許可するために、他のグループおよびユーザにポートレットのアクセス権限を割り当てる必要があります。認可権限およびアクセス権限の割り当てについての詳細は、IBM WebSphere Portal Server バージョン 8.5 に対応する管理 (アクセスコントロール) マニュアルを参照してください。

**注意：** IBM WebSphere Portal 環境への WebFOCUS ポートレットのインストールは、1 回のみ実行できます。WebFOCUS ポートレットのインスタンスが 2 つ必要な場合は、ポートレットをコピーして 2 つ目のインスタンスを作成する必要があります。

ここでは、次の項目について説明します。

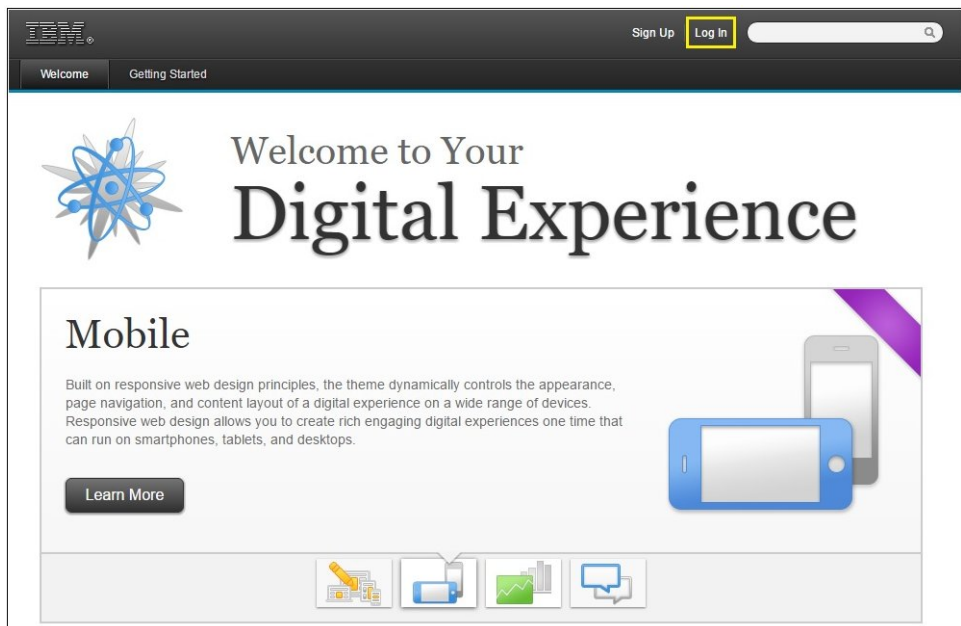
- ❑ IBM WebSphere Portal Server バージョン 8.5 に WebFOCUS ポートレットをインストールするには
- ❑ WebFOCUS ポートレットのパラメータおよび値を変更するには
- ❑ WebFOCUS ポートレットをコピーするには
- ❑ WebFOCUS ポートレットのパラメータの参照

## 手順

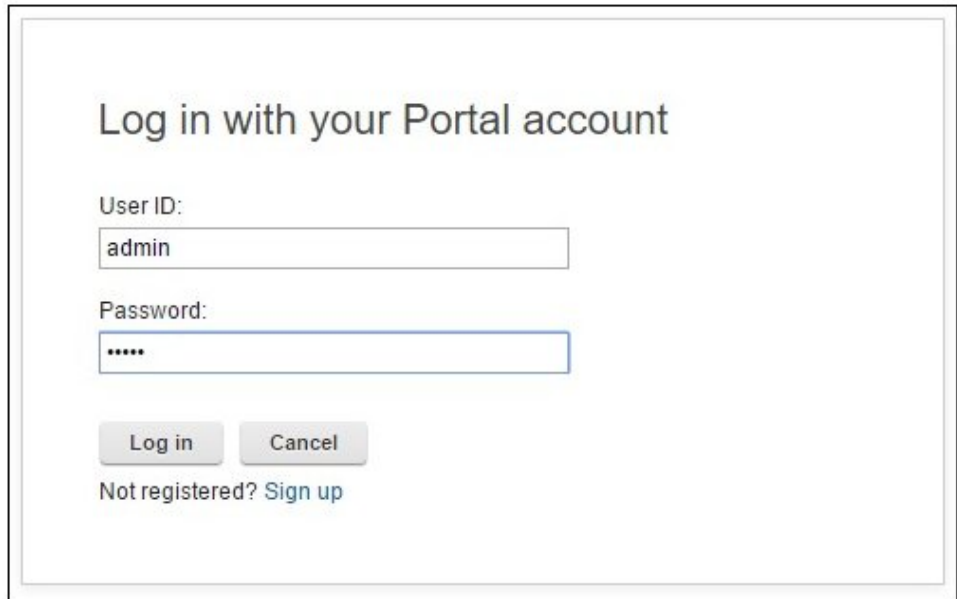
### IBM WebSphere Portal Server バージョン 8.5 に WebFOCUS ポートレットをインストールするには

IBM WebSphere Portal Server バージョン 8.5 に WebFOCUS ポートレットをインストールするには、次の手順を実行します。

1. 下図のように、ブラウザから IBM WebSphere Portal Server 管理コンソールにアクセスし、[Log In] をクリックします。



下図のように、[Log in with your Portal account] ダイアログボックスが表示されます。



Log in with your Portal account

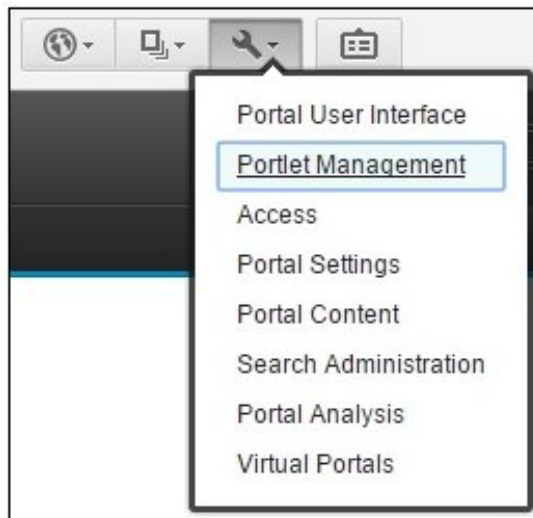
User ID:  
admin

Password:  
\*\*\*\*

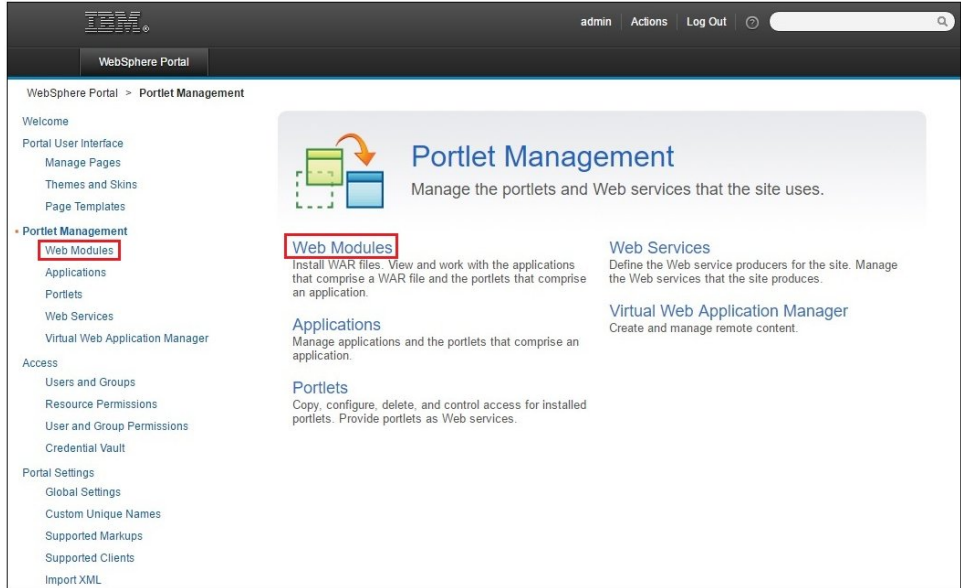
Log in Cancel

Not registered? Sign up

2. 管理者権限を所有するユーザの ID およびパスワードを入力し、[Log in] をクリックします。
3. 下図のように、コンソール上部パネルにある管理メニュー (工具レンチのアイコン) から、[Portlet Management] を選択します。

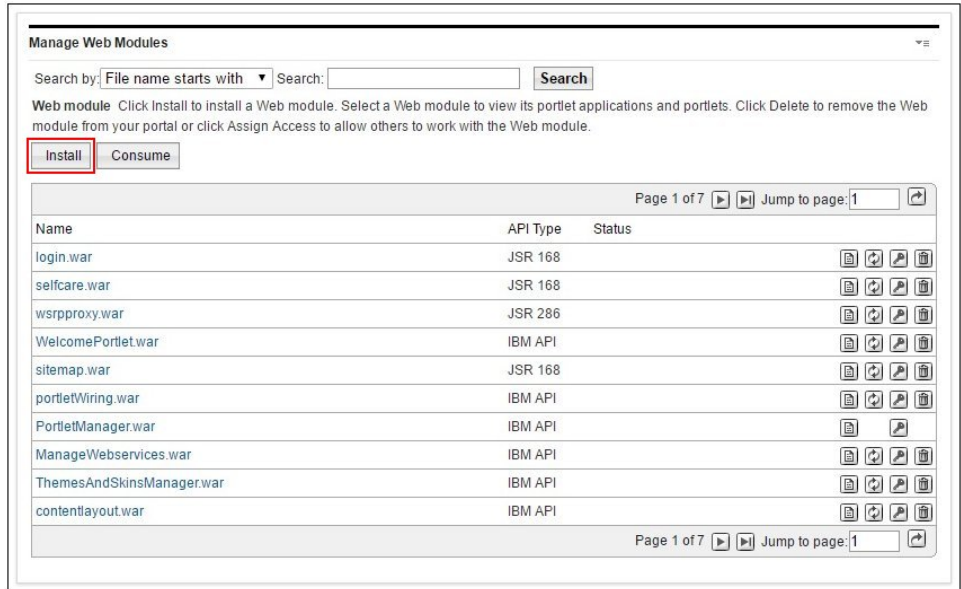


下図のように、[Portlet Management] ページが開きます。



4. 左側ウィンドウまたは中央ウィンドウから [Web Modules] をクリックします。

下図のように、[Manage Web Modules] ダイアログボックスが開きます。

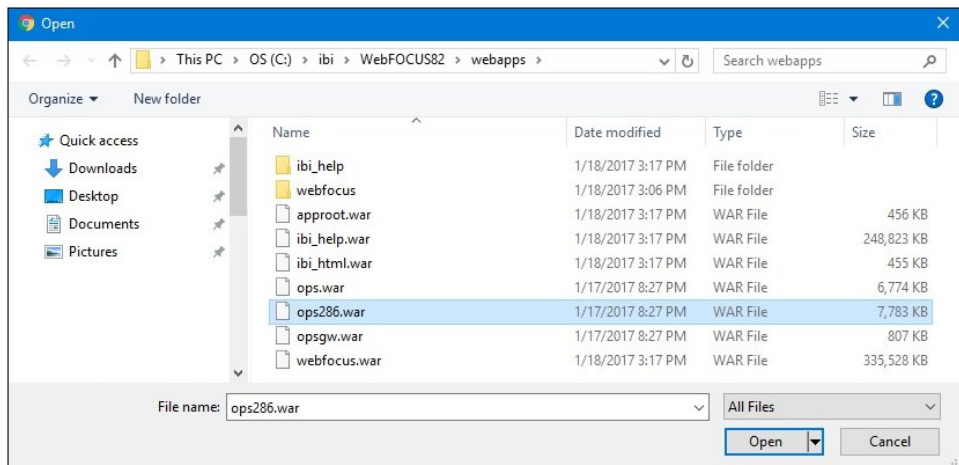


5. [Install] をクリックします。

下図のように、[Installing a Web module, Step 1: Select WAR file] ダイアログボックスが表示されます。

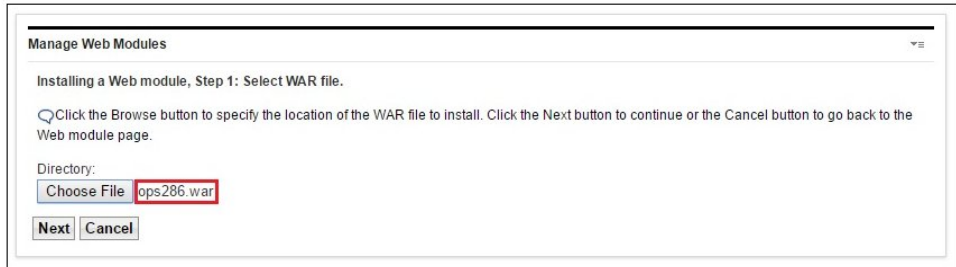


6. [Choose File] をクリックします。
7. WebFOCUS インストールの次のフォルダを参照し、ops286.war ファイルを選択します。  
`<drive>:\ibi\WebFOCUS82\webapps\ops286.war`



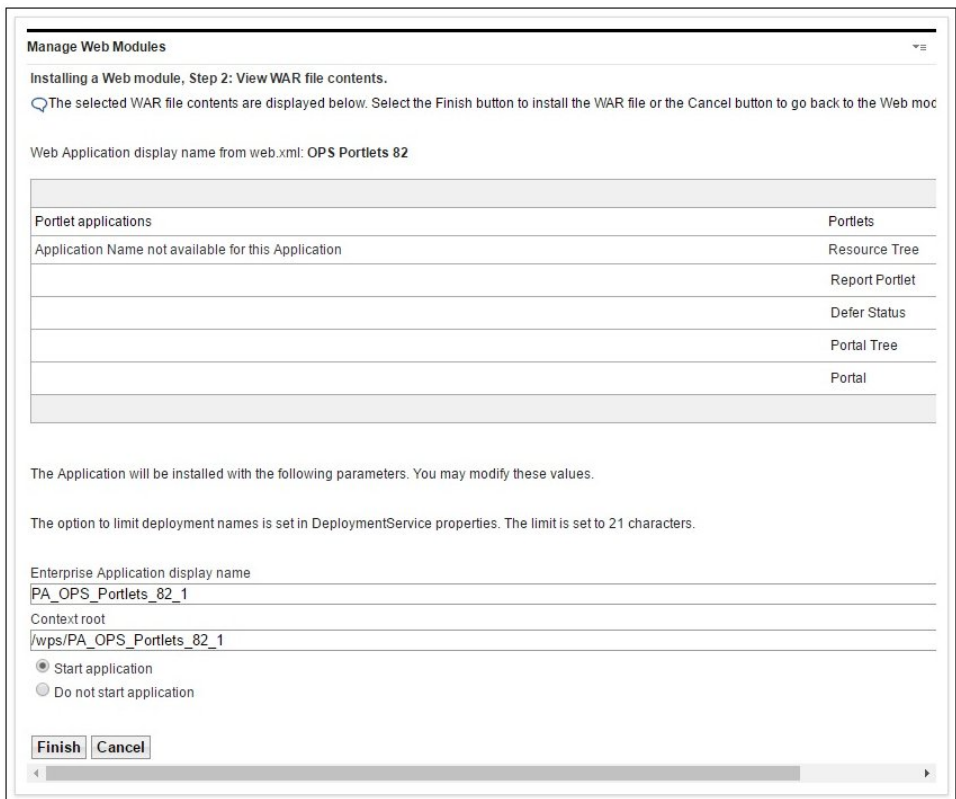
8. [Open] をクリックします。

下図のように、[Manage Web Modules] ダイアログボックスがリフレッシュされ、選択した ops286.war ファイルが表示されます。



9. [Next] をクリックします。

下図のように、[Installing a Web module, Step 2: View WAR file contents] ダイアログボックスが表示されます。



選択した ops286.war ファイルのコンテンツが表示されます。インストール対象の WebFOCUS ポートレットがリスト表示されます。

10. [Finish] をクリックして、WebFOCUS ポートレットをインストールします。

インストールが完了すると、インストールの完了または失敗を確認するメッセージが表示されます。インストールが完了すると、WebFOCUS ポートレットがポートレットカタログに追加され、アクティブになります。このポートレットの使用を他のユーザに許可するには、アクセス権限の設定が必要です。

認可権限およびアクセス権限の割り当てについての詳細は、IBM WebSphere Portal Server バージョン 8.5 に対応する管理 (アクセスコントロール) マニュアルを参照してください。

11. ops286.war ファイルがインストールされたことを確認するには、[Manage Web Modules] ダイアログボックスの右向き矢印をクリックし、複数のページに表示された IBM WebSphere Portal Server バージョン 8.5 にインストール済みのすべての Web モジュールのリストを確認します。

下図のように、ops286.war ファイルがリストに表示されていることを確認できます。

The screenshot shows the 'Manage Web Modules' interface. At the top, there is a search bar with the text 'Search by: File name starts with' and a 'Search' button. Below the search bar, there is a 'Web module' section with instructions: 'Click Install to install a Web module. Select a Web module to view its portlet applications and portlets. Click Delete to remove the Web module from your portal or click Assign Access to allow others to work with the Web module.' There are 'Install' and 'Consume' buttons. Below this is a table of web modules. The table has three columns: 'Name', 'API Type', and 'Status'. The 'ops286.war' row is highlighted with a red box. The table also includes navigation controls for pages (Page 5 of 7) and a 'Jump to page: 5' input field.

Name	API Type	Status
wp.portlet.pagepicker.war	JSR 286	[Install] [Consume] [Delete]
ops286.war	JSR 286	[Install] [Consume] [Delete]
wp.contentmapping.picker.portlet.war	JSR 286	[Install] [Consume] [Delete]
wp.portlet.pageproperties.war	JSR 286	[Install] [Consume] [Delete]
wp.portlet.themeoptimizer.war	JSR 286	[Install] [Consume] [Delete]
wp.asa.portlet.war	JSR 286	[Install] [Consume] [Delete]
ilwcm-authoring-portlet.war	IBM API	[Install] [Consume] [Delete]
ilwcm-administration-portlet.war	IBM API	[Install] [Consume] [Delete]
FeedServiceAdminPortlet.war	JSR 168	[Install] [Consume] [Delete]
wp.portlet.newpage.war	JSR 286	[Install] [Consume] [Delete]

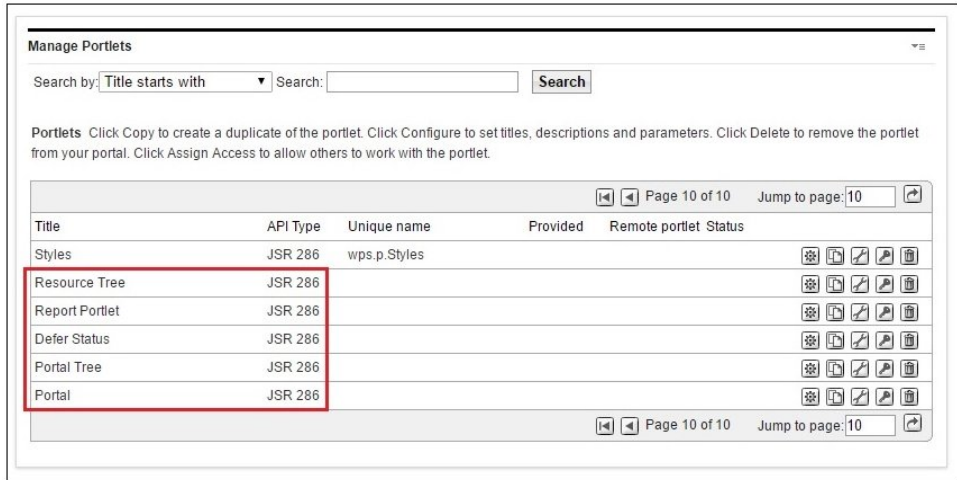
12. 下図のように、左側ウィンドウで [Portlets] をクリックします。




13. [Manage Portlets] ダイアログボックスの右向き矢印をクリックし、複数のページに表示された IBM WebSphere Portal Server バージョン 8.5 で展開済みの使用可能なすべてのポートレットのリストを確認します。



下図のように、WebFOCUS ポートレットが表示されたリストの最終ページに移動します。



#### 注意事項および追加手順

- ❑ WebFOCUS ポートレットのパラメータのいずれかを変更する必要がある場合は、[Portlet Management] ページの利用可能な構成オプションのリストから [Portlets] を選択します。構成する WebFOCUS ポートレットの [Configure portlet] アイコン  をクリックします。
- ❑ WebFOCUS 環境と IBM WebSphere Portal Server がそれぞれ別のマシンにインストールされている場合は、IBM WebSphere Portal をホストする Application Server に WebFOCUS Open Portal Services Gateway を展開する必要があります。
- ❑ ユーザーインターフェースで使用可能なページデザイン用ユーティリティを使用し、IBM WebSphere Portal 環境で新しいポータルページを作成します。ポータルページの作成後、必要に応じて、このページに 1 つまたは複数の WebFOCUS ポートレットを追加することができます。

IBM WebSphere Portal でのポータルページの作成方法およびページへのポートレットの追加方法についての詳細は、IBM WebSphere Portal Server バージョン 8.5 の対応するユーザマニュアルを参照してください。

## 手順

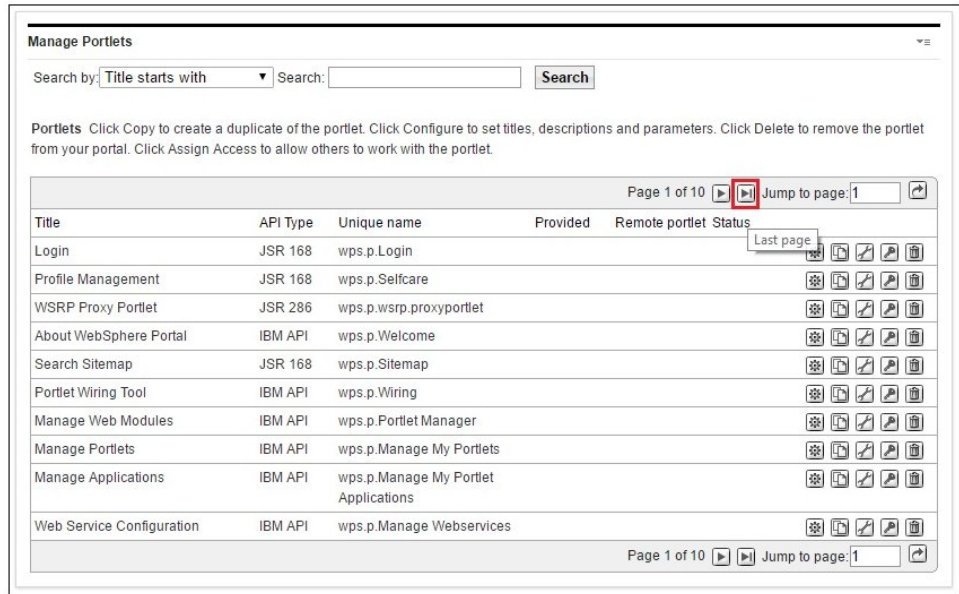
### WebFOCUS ポートレットのパラメータおよび値を変更するには

WebFOCUS ポートレットのパラメータおよび値を変更するには、次の手順を実行します。

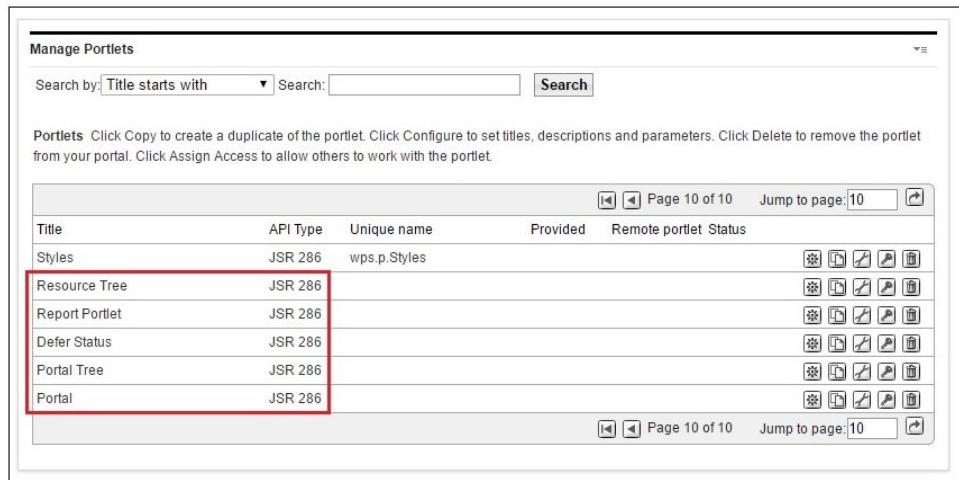
1. 下図のように、左側ウィンドウで [Portlet Management] 下の [Portlets] をクリックします。




下図のように、[Manage Portlets] ダイアログボックスが開きます。



2. [Last page] アイコンをクリックし、下図のように、WebFOCUS ポートレットのリストの最終ページに移動します。



3. 構成する WebFOCUS ポートレットの [Configure portlet] アイコン  をクリックします。

たとえば、下図では、WebFOCUS レポートポートレットの [Configure portlet] アイコンが選択されています。

The screenshot shows the 'Manage Portlets' interface. At the top, there is a search bar with a dropdown menu set to 'Title starts with' and a 'Search' button. Below the search bar, there is a brief instruction: 'Portlets Click Copy to create a duplicate of the portlet. Click Configure to set titles, descriptions and parameters. Click Delete to remove the portlet from your portal. Click Assign Access to allow others to work with the portlet.'

The main content is a table with the following columns: Title, API Type, Unique name, Provided, Remote portlet, and Status. The table contains several rows, with 'Report Portlet' highlighted. A tooltip 'Configure portlet' is visible over the 'Configure portlet' icon in the 'Report Portlet' row.

Title	API Type	Unique name	Provided	Remote portlet	Status
Styles	JSR 286	wps.p.Styles			
Resource Tree	JSR 286				
Report Portlet	JSR 286				
Defer Status	JSR 286				
Portal Tree	JSR 286				
Portal	JSR 286				

下図のように、WebFOCUS レポートポートレットの構成ダイアログボックスが開きます。

**Manage Portlets**

Configure portlet: Report Portlet  
Web module: ops286.war

**Preference and Values** Enter a new preference and value pair in the blank fields to create a new preference for this portlet, or click Delete to remove a preference and value. Click OK to keep your changes or Cancel to quit.

New Preference:  New value:  \* Add

Preference	Value	
contextpath	/ibi_apps	
gn	1	
height	500	
portletKey	2	
showrefresh	yes	
userrunonly	no	
width	500	

I want to set titles and descriptions.

Cache Scope for HTTP and fragment caches

- Non-shared cache for a single user
- Share cache across all users (not applicable if "cache always expires" option is selected below)

Cache Expiration for HTTP and fragment caches

- Portlet cache always expires
- Portlet cache never expires
- Portlet cache expires after this many seconds

OK Cancel

WebFOCUS レポートポートレットで使用可能な構成パラメータ (IBM WebSphere Portal Server では「Preference」と呼ばれる) が、表形式で表示されます。

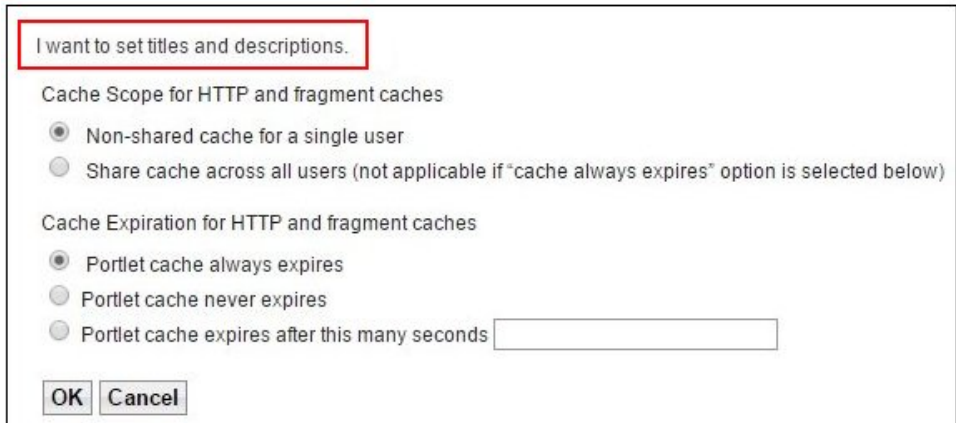
- 値を変更するには、変更するパラメータの [Edit value] アイコン (鉛筆アイコン) をクリックします。

選択したパラメータの [Edit preference] ダイアログボックスが開きます。たとえば、下図では、[height] パラメータの [Edit preference] ダイアログボックスが表示されています。



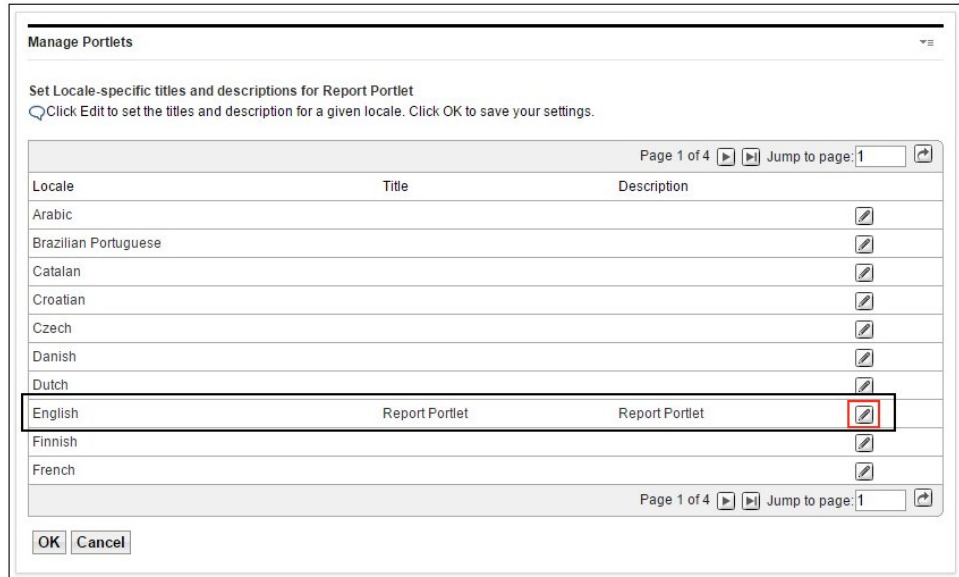
The screenshot shows a dialog box titled "Manage Portlets". Inside, there is a section titled "Edit preference height" with a speech bubble icon and the text "Enter a new value for the selected preference." Below this, there are two input fields: "Preference:" containing the text "height" and "Value:" containing the number "500". At the bottom of the dialog, there are two buttons: "OK" and "Cancel".

- b. 必要に応じてパラメータ値を変更後、[OK] をクリックします。
4. WebFOCUS ポートレット (例、WebFOCUS レポート) の構成ダイアログボックスで、[I want to set titles and descriptions] リンクをクリックし、このポートレットのタイトルおよび説明を変更することができます。



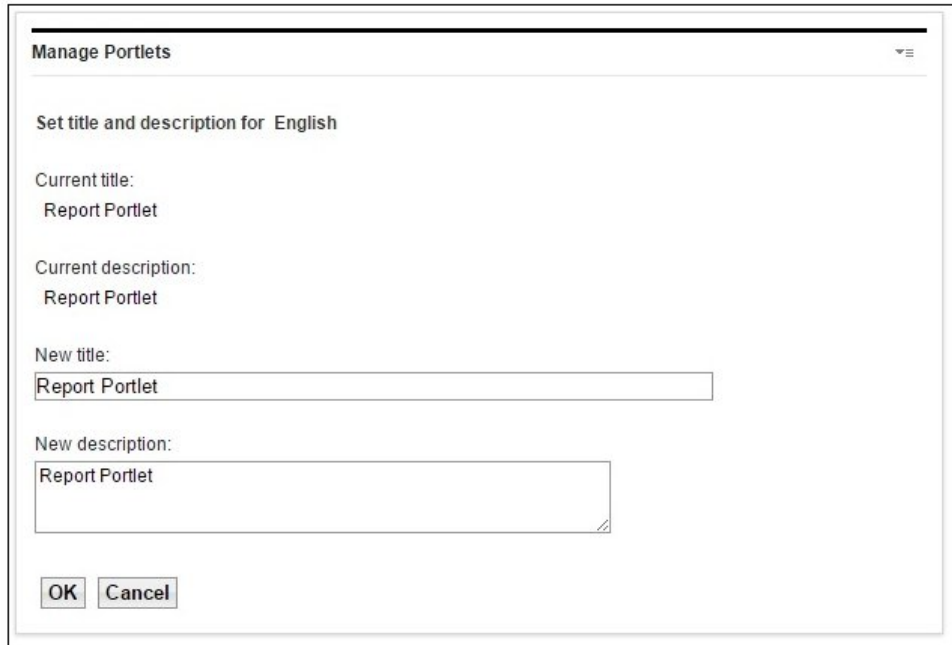
The screenshot shows a configuration dialog box. At the top, the text "I want to set titles and descriptions." is enclosed in a red rectangular box. Below this, there are two sections of radio button options. The first section is "Cache Scope for HTTP and fragment caches" with two options: "Non-shared cache for a single user" (selected) and "Share cache across all users (not applicable if 'cache always expires' option is selected below)". The second section is "Cache Expiration for HTTP and fragment caches" with three options: "Portlet cache always expires" (selected), "Portlet cache never expires", and "Portlet cache expires after this many seconds" followed by an empty input field. At the bottom, there are two buttons: "OK" and "Cancel".

下図のように、選択した WebFOCUS ポートレットの [Set Locale-specific titles and descriptions] ダイアログボックスが開きます。



5. [English] の横の [Edit] アイコン (鉛筆アイコン) をクリックし、ポートレットのタイトルおよび説明を変更します。

下図のように、[Set title and description for English] ダイアログボックスが開きます。



The image shows a dialog box titled "Manage Portlets" with a close button in the top right corner. The main heading is "Set title and description for English". It contains the following fields and labels:

- Current title: Report Portlet
- Current description: Report Portlet
- New title: Report Portlet (text input field)
- New description: Report Portlet (text input field)

























At the bottom, there are two buttons: "OK" and "Cancel".

6. WebFOCUS ポートレットのタイトルおよび簡単な説明を入力し、[OK] をクリックします。  
[Set Locale-specific titles and descriptions] ダイアログボックスに戻ります。
7. [OK] をクリックします。  
WebFOCUS ポートレットの構成のメインダイアログボックスに戻ります。
8. [OK] をクリックします。



下図のように、[Manage Portlets] のメインダイアログボックスに戻り、ポートレットへの変更が保存されたことを示すメッセージが表示されます。

The screenshot shows the 'Manage Portlets' interface. At the top, there is a message box with an information icon and the text: 'EJPAQ3309I: Successfully saved changes to portlet Report Portlet.' Below this is a search bar with a dropdown menu set to 'Title starts with' and a 'Search' button. Underneath, there is a brief instruction: 'Portlets Click Copy to create a duplicate of the portlet. Click Configure to set titles, descriptions and parameters. Click Delete to remove the portlet from your portal. Click Assign Access to allow others to work with the portlet.' The main part of the interface is a table listing portlets. The table has columns for Title, API Type, Unique name, Provided, and Remote portlet Status. The table is paginated, showing 'Page 10 of 10' and a 'Jump to page: 10' field. The table contains the following data:

Title	API Type	Unique name	Provided	Remote portlet Status
Styles	JSR 286	wps.p.Styles		   
Resource Tree	JSR 286			   
Report Portlet	JSR 286			   
Defer Status	JSR 286			   
Portal Tree	JSR 286			   
Portal	JSR 286			   

## 手順

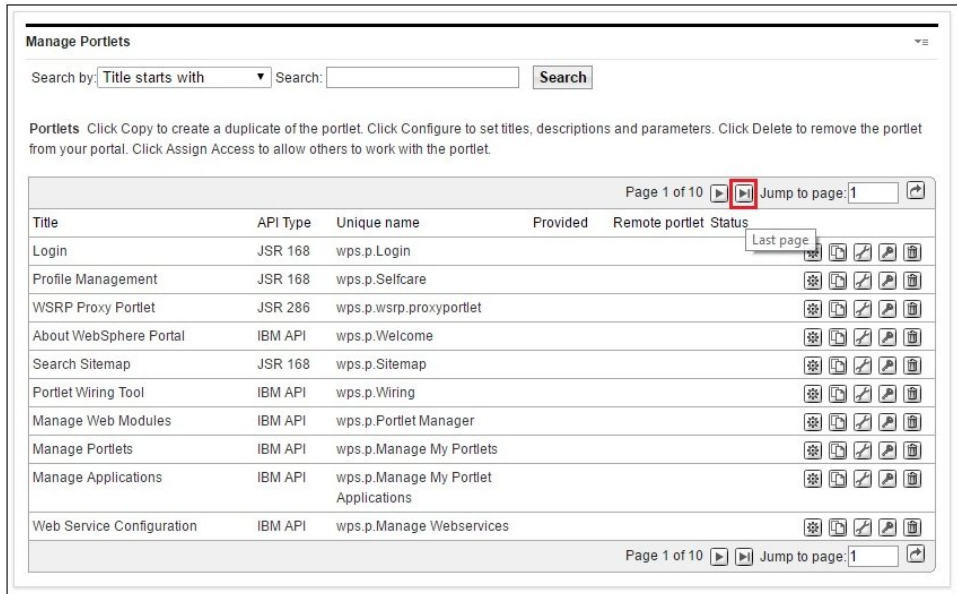
### WebFOCUS ポートレットをコピーするには

IBM WebSphere Portal 環境で既存の WebFOCUS ポートレットをコピーするには、次の手順を実行します。

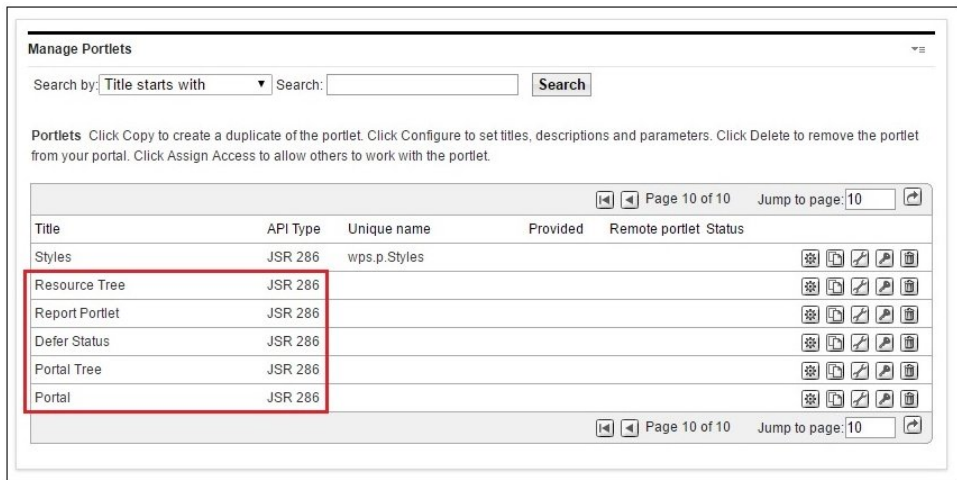
1. 下図のように、左側ウィンドウで [Portlet Management] 下の [Portlets] をクリックします。



下図のように、[Manage Portlets] ダイアログボックスが開きます。

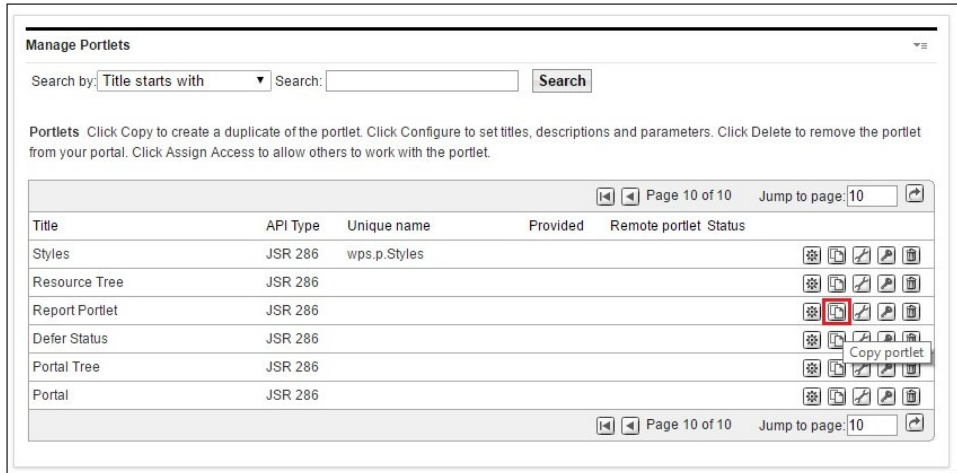


2. [Last page] アイコンをクリックし、下図のように、WebFOCUS ポートレットのリストの最終ページに移動します。

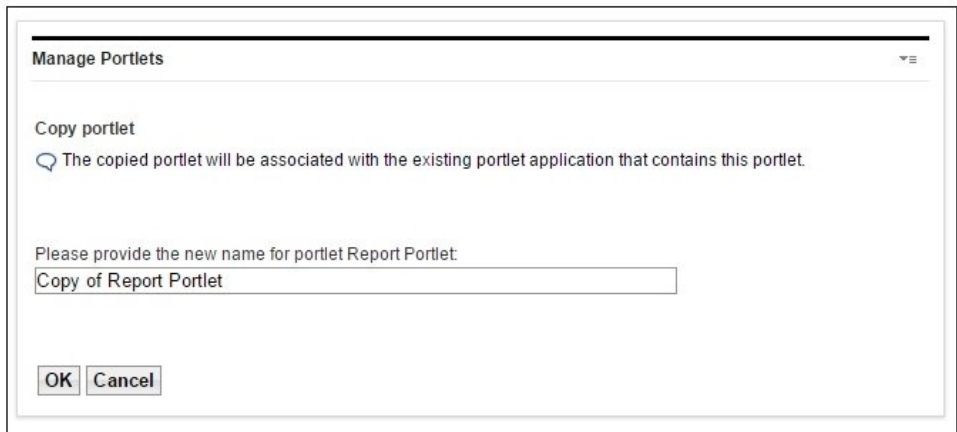


3. コピーする WebFOCUS ポートレットの [Copy portlet] アイコン  をクリックします。

たとえば、下図では、WebFOCUS レポートポートレットの [Copy portlet] アイコンが選択されています。

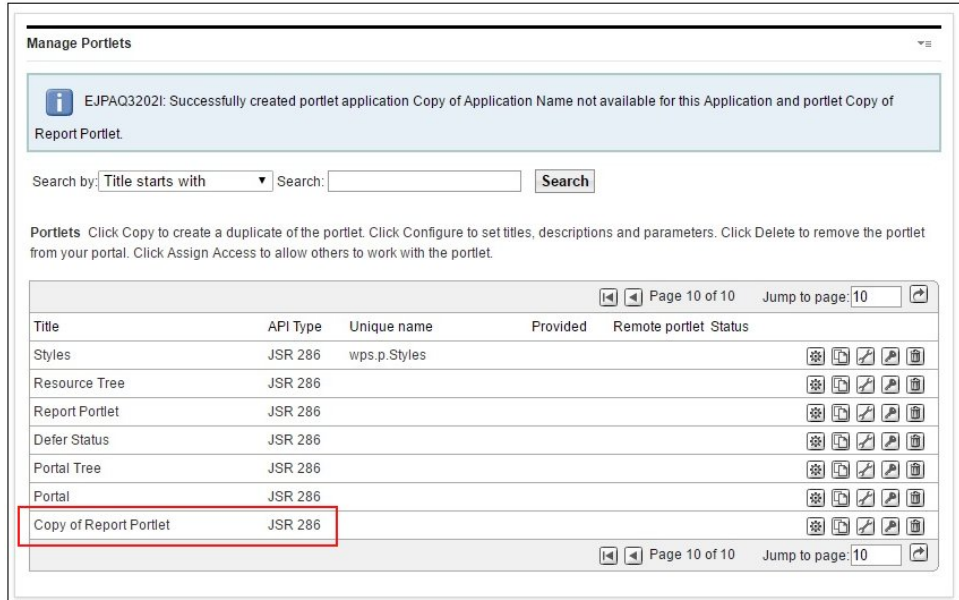


下図のように、[Copy Portlets] ダイアログボックスが開きます。



4. コピーする WebFOCUS ポートレットの名前を指定します。
5. [OK] をクリックします。

下図のように、WebFOCUS ポートレットのコピーが [Manage Portlets] ダイアログボックスに表示され、使用可能になります。



## 参照

### WebFOCUS ポートレットのパラメータの参照

ここでは、JSR 286 準拠のポータル環境で変更可能な WebFOCUS ポートレットのパラメータの参照について説明します。

#### WebFOCUS レポートポートレット

下表は、WebFOCUS レポートポートレットで使用可能な構成パラメータのリストおよび説明です。

パラメータ	説明および値
contextpath	デフォルト設定で、WebFOCUS のコンテキストパスは次のように設定されています。 <code>/ibi_apps</code>

パラメータ	説明および値
gn	<p>複数の WebFOCUS レポートポートレットを追加した場合、[gn] パラメータを使用してこれらのインスタンスを区別し、各インスタンスの属性を保持します (例、幅、高さ)。</p> <p>たとえば、ポータルページに 3 つの WebFOCUS レポートポートレットを追加した場合、レポートポートレットのインスタンスごとに一意の gn 値を指定します。</p> <p>デフォルト値は 1 に設定されています。</p>
height	<p>フレームの高さ (ピクセル単位) です。デフォルトの高さは、500 ピクセルに設定されています。</p>
portletKey	<p>WebFOCUS レポートポートレットの portletKey パラメータのデフォルト値は、2 に設定されています。</p>
showrefresh	<p>showrefresh オプションを有効にするには yes、無効にするには no を入力します。デフォルト値は yes に設定されています。</p>
userrunonly	<p>WebFOCUS レポートポートレットで設定可能なモードを指定します。</p> <p>この値がデフォルト値の no に設定されている場合は、ユーザは独自のブロックタイプを選択、表示することができます。</p> <p>この値が yes に設定されている場合は、WebFOCUS レポートポートレットが固定レポートとして使用され、BI Portal の管理者権限を所有しないユーザは、このブロックの表示のみが可能で、これを変更することはできません。</p>

パラメータ	説明および値
width	フレームの幅 (ピクセル単位) です。デフォルトの幅は、500 ピクセルに設定されています。

### WebFOCUS ディファードステータス

下表は、WebFOCUS ディファードステータスポートレットで使用可能な構成パラメータのリストおよび説明です。

パラメータ	説明および値
contextpath	デフォルト設定で、WebFOCUS のコンテキストパスは次のように設定されています。 <code>/ibi_apps</code>
height	フレームの高さ (ピクセル単位) です。デフォルトの高さは、600 ピクセルに設定されています。
portletKey	WebFOCUS ディファードステータスポートレットの portletKey パラメータのデフォルト値は、3 に設定されています。
width	フレームの幅 (ピクセル単位) です。デフォルトの幅は、380 ピクセルに設定されています。

### WebFOCUS リソースツリー

下表は、WebFOCUS リソースツリーポートレットで使用可能な構成パラメータのリストおよび説明です。

パラメータ	説明および値
contextpath	デフォルト設定で、WebFOCUS のコンテキストパスは次のように設定されています。 <a href="#">/ibi_apps</a>
height	フレームの高さ (ピクセル単位) です。デフォルトの高さは、600 ピクセルに設定されています。
portletKey	WebFOCUS リソースツリーポートレットの portletKey パラメータのデフォルト値は、1 に設定されています。
width	フレームの幅 (ピクセル単位) です。デフォルトの幅は、400 ピクセルに設定されています。

### WebFOCUS ポータル

下表は、WebFOCUS ポータルポートレットで使用可能な構成パラメータのリストおよび説明です。

パラメータ	説明および値
contextpath	デフォルト設定で、WebFOCUS のコンテキストパスは次のように設定されています。 <a href="#">/ibi_apps</a>
height	フレームの高さ (ピクセル単位) です。デフォルトの高さは、600 ピクセルに設定されています。



パラメータ	説明および値
portletKey	WebFOCUS ポータルポートレットの portletKey パラメータのデフォルト値は、4 に設定されています。
portalName	WebFOCUS ポータルポートレットの portalName パラメータのデフォルト値は / に設定されています。
width	フレームの幅 (ピクセル単位) です。デフォルトの幅は、1000 ピクセルに設定されています。

### WebFOCUS ポータルツリー

下表は、WebFOCUS ポータルツリーポートレットで使用可能な構成パラメータのリストおよび説明です。

パラメータ	説明および値
contextpath	デフォルト設定で、WebFOCUS のコンテキストパスは次のように設定されています。 <code>/ibi_apps</code>
height	フレームの高さ (ピクセル単位) です。デフォルトの高さは、600 ピクセルに設定されています。
portletKey	WebFOCUS ポータルツリーポートレットの portletKey パラメータのデフォルト値は、5 に設定されています。
width	フレームの幅 (ピクセル単位) です。デフォルトの幅は、400 ピクセルに設定されています。



# 14

## WebFOCUS Portlets for the Apache Jetspeed Portal のインストール

ここでは、WebFOCUS Portlets for the Apache Jetspeed Portal のインストールおよび構成方法について説明します。

### トピックス

- 要件
- インストールおよび構成の概要
- WebFOCUS Open Portal Services Gateway の構成
- セキュリティ設定および認証設定の構成
- WebFOCUS ポートレットの構成
- GN パラメータの構成

### 要件

WebFOCUS ポートレットをインストールする前に、次のコンポーネントがインストールされ、使用可能であることを確認してください。

- Apache Jetspeed Portal バージョン 2.3.1 (JSR 286 準拠のポータル環境)
- WebFOCUS バージョン 8.2 SP01 以降

WebFOCUS のインストールについての詳細は、『WebFOCUS インストールガイド for Windows』を参照してください。

- ops286.war ファイル (WebFOCUS Open Portal Services から提供され、JSR 286 に準拠した一連の WebFOCUS ポートレットを格納)
- opsgw.war ファイル (WebFOCUS Open Portal Services Gateway を格納)

**注意：**opsgw.war ファイルは、WebFOCUS 環境および Apache Jetspeed Portal がそれぞれ別のマシンにインストールされているため、WebFOCUS Open Portal Services Gateway を使用する必要がある場合のみ必要です。

ops286.war ファイルおよび opsgw.war ファイルは、WebFOCUS インストールの次のフォルダに格納されています。

`<drive>:\ibi\WebFOCUS82\webapps`

## インストールおよび構成の概要

ここでは、WebFOCUS ポートレットを JSR 286 準拠のポータル環境に展開するためのインストールプロセスおよびガイドラインについて、概要を説明します。

1. 管理コンソール (または同様のユーザインターフェース) を使用して、WebFOCUS インストールに同梱された ops286.war ファイルを展開します。

ops286.war ファイルは、WebFOCUS インストールの次のフォルダに格納されています。

```
<drive>:\ibi\WebFOCUS82\webapps
```

詳細は、各ポータル環境に対応する管理マニュアルを参照してください。

2. WebFOCUS 環境およびポータル環境がそれぞれ別のマシンにインストールされている場合は、ポータル環境をホストする Application Server に WebFOCUS Open Portal Services Gateway を展開する必要があります。

たとえば、Apache Jetspeed Portal 環境の場合、Apache Tomcat Application Server に WebFOCUS Open Portal Services Gateway を展開する必要があります。

3. コンソールまたは同様のユーザインターフェースで使用可能なページデザイン用ユーティリティを使用し、ポータル環境で新しいポータルページを作成します。ポータルページの作成後、必要に応じて、このページに 1 つまたは複数の WebFOCUS ポートレットを追加することができます。

詳細は、各ポータル環境に対応するマニュアルを参照してください。

## WebFOCUS Open Portal Services Gateway の構成

ここでは、JSR 286 準拠のポータル環境をホストする Application Server で WebFOCUS Open Portal Services Gateway を構成する方法について説明します。

**注意：** WebFOCUS 環境 とポータル環境がそれぞれ別のマシンにインストールされている場合は、ゲートウェイを使用する必要があります。

### 手順 WebFOCUS Open Portal Services Gateway を構成するには

1. 次のディレクトリから opsgw.war ファイルを特定します。

```
<drive>:\ibi\WebFOCUS82\webapps
```

2. このアーカイブを一時ディレクトリに抽出します。以下はその例です。

```
c:\gw_temp
```

3. 次のディレクトリから web.xml ファイルを特定します。

```
c:\gw_temp\WEB-INF
```

4. テキストエディタを使用して web.xml ファイルを開き、次のセクションを特定します。

```
<context-param>
  <param-name>target_server_url</param-name>
  <param-value>{protocol}://{servername}:{port}</param-value>
</context-param>
```

説明

*protocol*

使用する通信プロトコルです (例、HTTP または HTTPS)。

*servername*

WebFOCUS がインストールされている Application Server 名です。

*port*

サーバのリスナポート番号です。

5. 使用する WebFOCUS 環境に対応する適切な値を入力します。以下はその例です。

```
<context-param>
  <param-name>target_server_url</param-name>
  <param-value>http://hostname:8080</param-value>
</context-param>
```

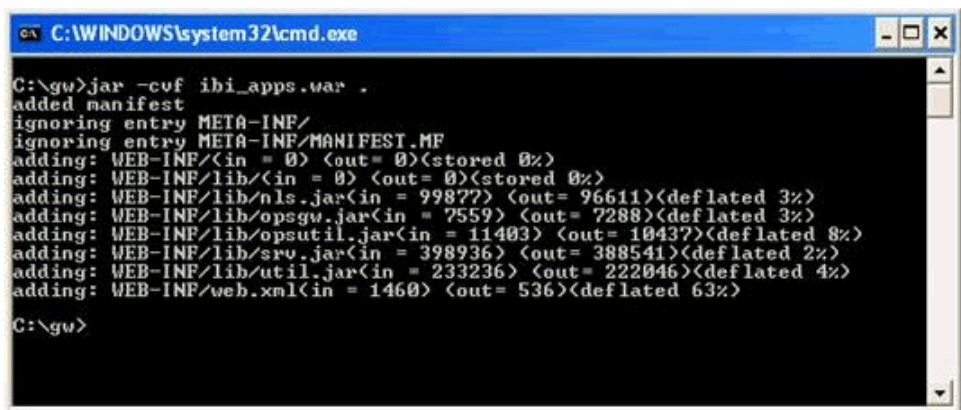
6. 変更した web.xml ファイルを保存し、次の名前規則を使用してアーカイブを再パッケージ化します。

*contextpath.war*

説明

*contextpath*

WebFOCUS インストールのコンテキストパスです (例、ibi\_apps.war)。



```
C:\WINDOWS\system32\cmd.exe
C:\>jar -cvf ibi_apps.war .
added manifest
ignoring entry META-INF/
ignoring entry META-INF/MANIFEST.MF
adding: WEB-INF/(in = 0) (out = 0)(stored 0%)
adding: WEB-INF/lib/(in = 0) (out = 0)(stored 0%)
adding: WEB-INF/lib/nls.jar(in = 99877) (out = 96611)(deflated 3%)
adding: WEB-INF/lib/opsgv.jar(in = 7559) (out = 7288)(deflated 3%)
adding: WEB-INF/lib/opsutil.jar(in = 11403) (out = 10437)(deflated 8%)
adding: WEB-INF/lib/srv.jar(in = 398936) (out = 388541)(deflated 2%)
adding: WEB-INF/lib/util.jar(in = 233236) (out = 222046)(deflated 4%)
adding: WEB-INF/web.xml(in = 1460) (out = 536)(deflated 63%)
C:\>
```

7. 再パッケージ化した .war ファイルのコピーを作成し、ファイル名を「ibi\_html.war」に変更します。

---

**注意：**この場合、コンテキストパスの名前規則を使用する必要があります。

8. JSR 286 準拠のポータル環境の展開先 Application Server に、ibi\_apps.war および ibi\_html.war の 2 つの .war ファイルを展開します。

たとえば、Apache Jetspeed Portal 環境の場合、Apache Tomcat Application Server にこれらの .war ファイルを展開する必要があります。

Application Server での .war ファイルの展開についての詳細は、各 Application Server に対応する管理マニュアルまたはユーザマニュアルを参照してください。

## セキュリティ設定および認証設定の構成

WebFOCUS では、WebFOCUS 管理コンソールを使用して、WebFOCUS Open Portal Services のセキュリティ設定および認証設定を構成することができます。

### WebFOCUS ポートレットの構成

Jetspeed Portal を使用して、Apache Jetspeed 2.3.1 Portal Server に WebFOCUS ポートレットを構成することができます。

#### 手順 **WebFOCUS ポートレットを構成するには**

WebFOCUS ポートレットを構成するには、次の手順を実行します。

1. Jetspeed Portal に管理者としてログインします。
2. 左側ウィンドウの [Jetspeed Administration] をクリックし、[Portlet Application Manager] タブを選択します。

下図のように、[Registry Application List] ウィンドウが開きます。

The screenshot shows the Apache Jetspeed Portal interface. The main content area is titled "Registry Applications List" and contains a search bar and a table of applications. The table has two main sections: "Applications" and "Portlets / Clones".

Applications				Portlets / Clones	
Name	Version	Path	Status Actions	Name	Cloned Actions
dbbrowser	2.0	/dbbrowser	➡ Stop	Defer Status	Clone
demo	2.0	/demo	➡ Stop	Portal	Clone
j2-admin	2.0	/j2-admin	➡	Portal Tree	Clone
jetspeed-layouts	1.0	<local>	➡	Report Portlet	Clone
ops286	2.0	/ops286	➡ Stop	Resource Tree	Clone
rss	2.0	/rss	➡ Stop	<<< 1 >>>	
webcontent2	2.0	/webcontent2	➡ Stop	<<< 1 >>>	

3. [Applications] セクションで、[ops286] をクリックします。

Jetspeed 2.3.1 Portal で使用可能な WebFOCUS ポートレットのリストが表示されます。

4. 特定の WebFOCUS ポートレットを構成するには、[Portlets / Clones] セクションの対応するハイパーリンクをクリックします。たとえば、[Resource Tree] ハイパーリンクをクリックします。

[PortletDetailsManager] ウィンドウが開き、選択した WebFOCUS リソースツリーポートレットの使用可能なプロパティが表示されます。

The screenshot shows two windows. The top window, titled "Registry Applications List", contains a table with two columns: "Applications" and "Portlets / Clones". The "Applications" column lists various applications like dbbrowser, demo, j2-admin, jetspeed-layouts, ops286, rss, and webcontent2, along with their versions and paths. The "Portlets / Clones" column lists portlets like Portal, Portal Tree, Report Portlet, and Resource Tree. The bottom window, titled "PortletDetailsManager - resource-tree", has several tabs: Details, MetaData, Preferences, Languages, Parameters, Security, and Content Type. The "Preferences" tab is active and shows a table with four rows: portletKey (value 1), width (value 400), contextpath (value /ibi\_apps), and height (value 600). Each row has a checkbox on the left. Below the table are "Save" and "Delete" buttons.

Applications		Portlets / Clones				
Name	Version Path	Status	Actions	Name	Cloned	Actions
dbbrowser	2.0 /dbbrowser	➡	Stop	Defer Status		Clone
demo	2.0 /demo	➡	Stop	Portal		Clone
j2-admin	2.0 /j2-admin	➡		Portal Tree		Clone
jetspeed-layouts	1.0 <local>	➡		Report Portlet		Clone
ops286	2.0 /ops286	➡	Stop	Resource Tree		Clone
rss	2.0 /rss	➡	Stop	<<< 1 >>>		
webcontent2	2.0 /webcontent2	➡	Stop			

Name	Value
<input type="checkbox"/> portletKey	1
<input type="checkbox"/> width	400
<input type="checkbox"/> contextpath	/ibi_apps
<input type="checkbox"/> height	600

5. [Preferences] タブをクリックします。
6. 次のパラメータの値を変更します (必要な場合)。
  - portletKey** - デフォルト値は 1 に設定されています。
  - width** - デフォルト値は 400 に設定されています。
  - contextpath** - デフォルト値は /ibi\_apps に設定されています。
  - height** - デフォルト値は 600 に設定されています。
7. [保存] をクリックして、変更を保存、適用します。
8. 次の WebFOCUS ポートレットに対しても、この手順を繰り返します。
  - レポート
  - ディファードステータス
  - ポータル



## □ ポータルツリー

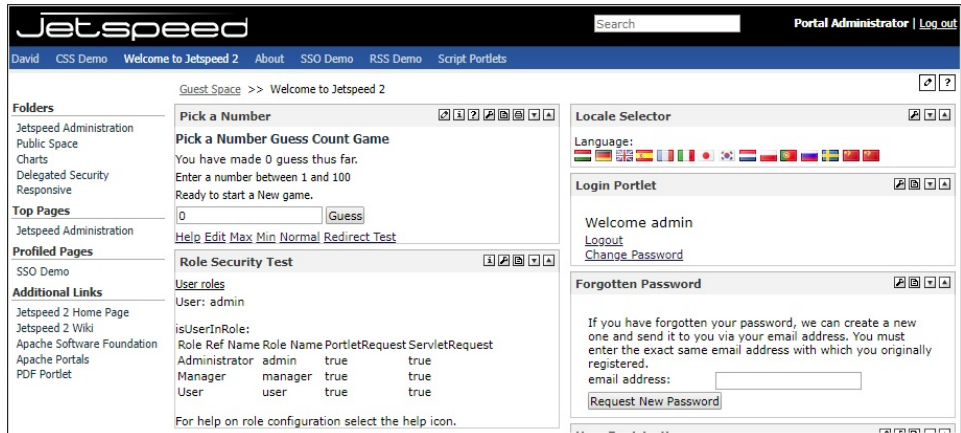
## 手順

## WebFOCUS ポートレットのページを追加するには

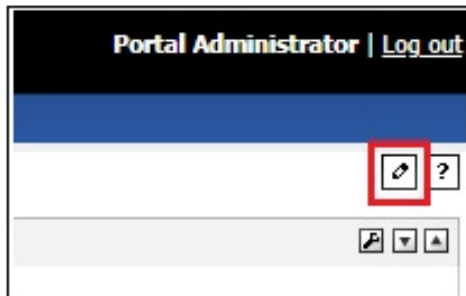
Jetspeed で WebFOCUS ポートレットのページを追加するには、次の手順を実行します。

1. Jetspeed Portal に管理者としてログインします。

Jetspeed Portal が開き、デフォルト設定で [Welcome] ページが表示されます。



2. 下図のように、右上にある [Edit] ボタンをクリックします。



下図のように、[Page/Folder Customizer] ウィンドウが表示されます。

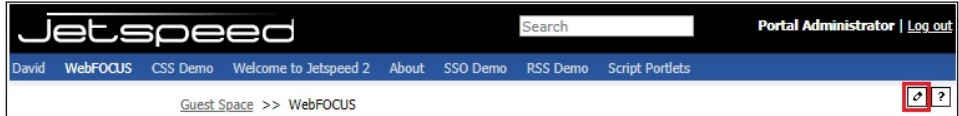
The screenshot shows the 'Page/Folder Customizer' window. It is divided into two main sections: 'Layout Configuration' and 'Page Configuration'.  
In the 'Layout Configuration' section, there are three dropdown menus: 'Theme' (set to 'jetspeed'), 'Layout' (set to 'Two Columns'), and 'Portlet Theme' (empty). To the right of the 'Layout' dropdown are two buttons: 'Change Layout' and 'Add Layout'. To the right of the 'Portlet Theme' dropdown is a button: 'Change Portlets Theme'.  
In the 'Page Configuration' section, there are three text input fields: 'Page Name' (containing 'WebFOCUS'), 'Title' (empty), and 'Short Title' (empty). Below these fields are two buttons: 'Create Page' and 'Change Page Name'. At the bottom of this section, there are two buttons: 'Move Page Left' and 'Move Page Right', and a 'Delete this page:' label with a 'Delete' button.

3. [Page Configuration] セクションで、[Page Name] テキストボックスに新しいページの名前 (例、WebFOCUS) を入力し、[Create Page] をクリックします。

下図のように、「WebFOCUS」という名前の新しいページが作成され、タブとして表示されます。

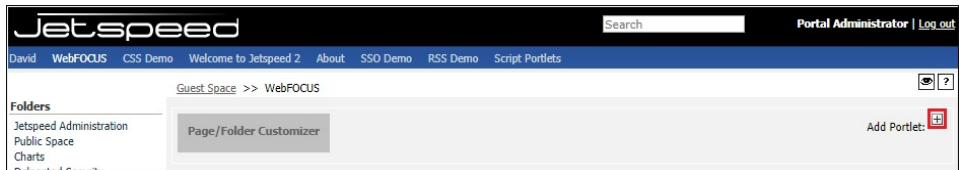


4. 下図のように、[WebFOCUS] タブを選択し、右上にある [Edit] ボタンをクリックします。

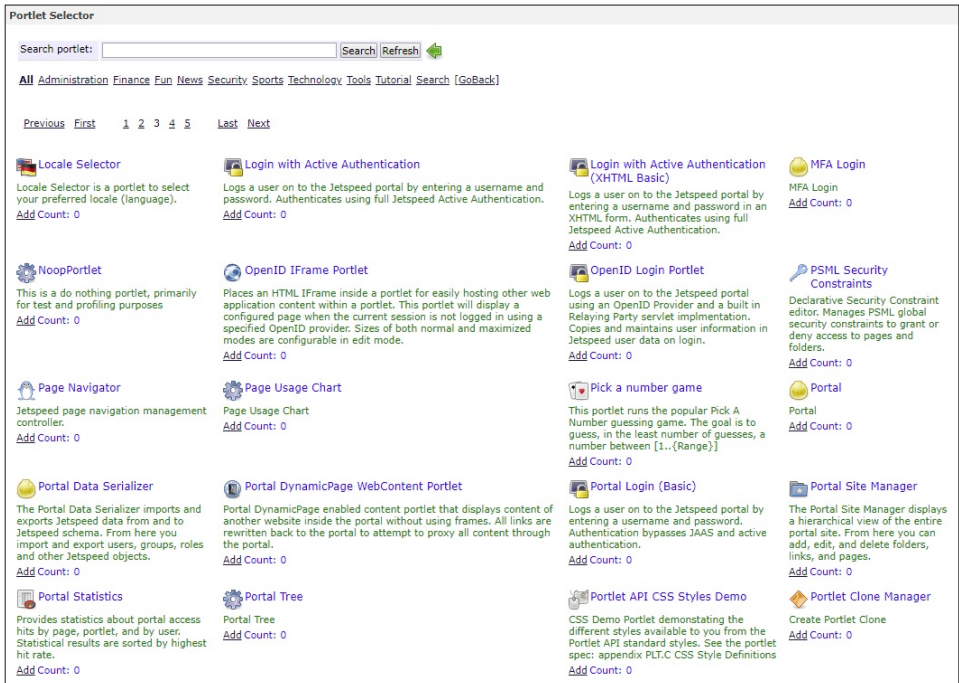


[Page/Folder Customizer] ウィンドウに戻ります。

5. 下図のように、[Page/Folder Customizer] ウィンドウ右上の [Add Portlet] ボタンをクリックします。

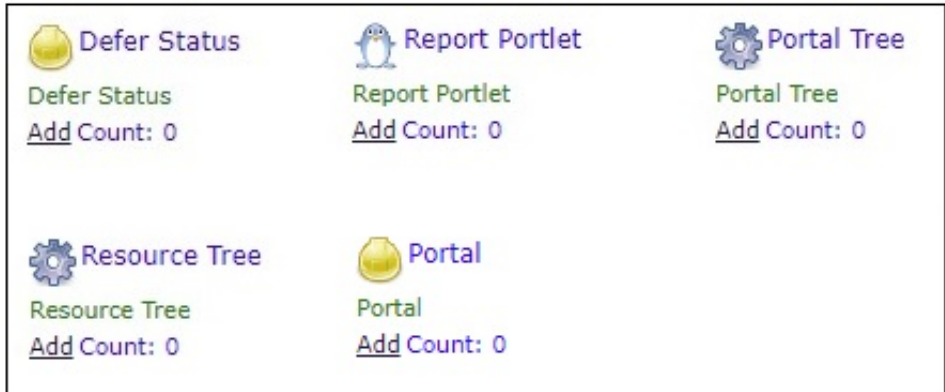


下図のように、[Portlet Selector] ウィンドウが開き、新しいページに追加することができるポートレットの利用可能リストが表示されます。

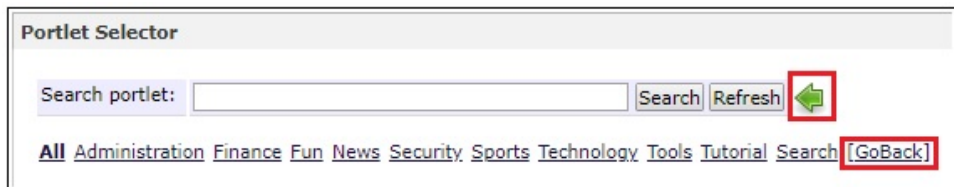


6. リストから、新しいページに追加する WebFOCUS ポートレットを特定します。

下図は、各 WebFOCUS ポートレットがこのリストでどのように表示されるかを示しています。



7. 新しいページに追加する WebFOCUS ポートレットの [Add] ハイパーリンクをクリックします。
8. 下図のように、緑色の左向き (後方) 矢印または [GoBack] ハイパーリンクをクリックして、[Portlet Selector] ウィンドウを閉じます。

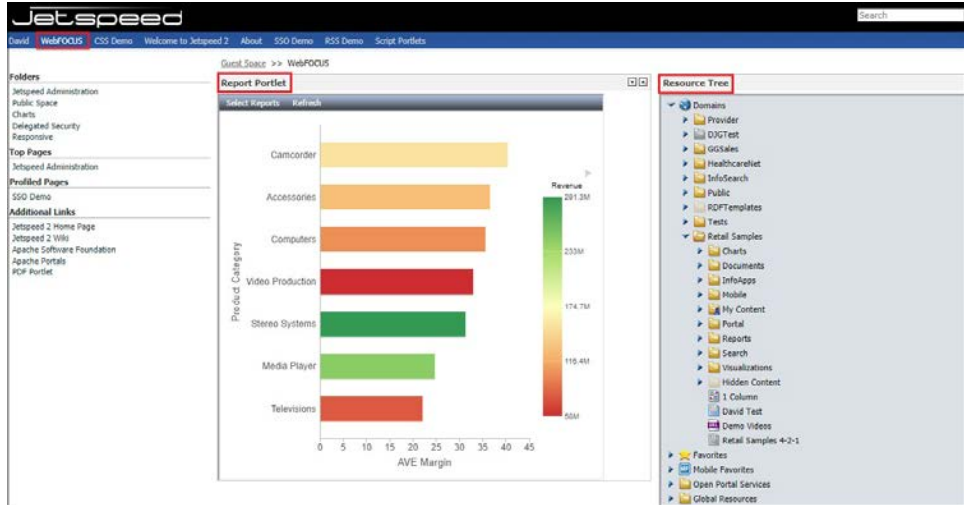


[Page/Folder Customizer] ウィンドウに戻ります。



9. 右上の [View] ボタンをクリックします。

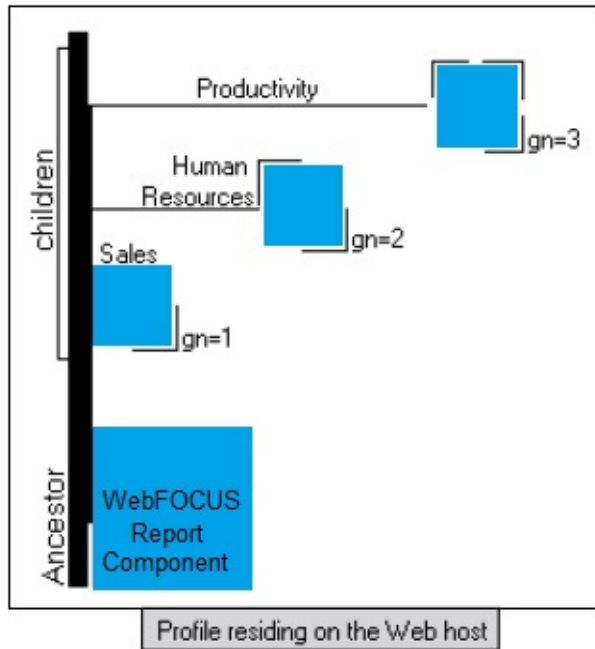
選択した WebFOCUS ポートレットが、指定したページレイアウトで表示されます。次の例では、新しい WebFOCUS ページで WebFOCUS レポートポートレットおよび WebFOCUS リソースツリーポートレットが表示され、実行されています。



## GN パラメータの構成

複数の WebFOCUS レポートコンポーネントを追加した場合、[gn] パラメータを使用してこれらのインスタンスを区別し、各インスタンスの属性を保持します (例、幅、高さ、リフレッシュ間隔)。

たとえば、ポータルページに 3 つのレポートコンポーネントを追加した場合、レポートコンポーネントのインスタンスごとに一意の gn 値を指定します。下図は、3 つの WebFOCUS レポートを使用した場合のこの機能を示しています。



レポートコンポーネントの各インスタンスで指定した属性は保持されます。3 つのレポートコンポーネントがすべて同一の [gn] 値を使用し、いずれか 1 つのコンポーネントの幅または高さを変更した場合、これ以外のインスタンスにも変更が反映され、十分な結果が得られない場合があります。以下はその例です。

<http://hostname:port/context/report.ops?gn=number>

#### 説明

*hostname*

WebFOCUS Client のインストール先およびホスト先のマシンです。

*port*

WebFOCUS Client に割り当てられたポート番号です。

*number*

レポートコンポーネントの番号を表す一意の数値です。

# 15

## URL コールによる WebFOCUS コンポーネントへの直接アクセス

ここでは、WebFOCUS コンポーネントへの直接アクセスに使用可能な URL コールのフォーマットおよび構造について説明します (例、アプリケーション内でのアクセス、他社製ポータル環境の外部からのアクセス)。

### トピックス

- レポートコンポーネント
- ディファードステータスコンポーネント
- リソースツリーコンポーネント
- ポータルコンポーネント
- ポータルツリーコンポーネント

### レポートコンポーネント

WebFOCUS レポートコンポーネントに直接アクセスするには、次の URL を使用します。

```
http://hostname:port/context/report.ops?userrunonly=yes|no&showrefresh=yes|no&gn=n&usescrollbars=yes|no&showtimestamp=yes|no
```

下表は、WebFOCUS レポートコンポーネントのパラメータのリストおよびその説明です。

パラメータ	説明
hostname	WebFOCUS Client のホストマシンのホスト名 (または IP アドレス) です。
port	WebFOCUS Client のポート番号です。
context	アプリケーションのコンテキストパスです。以下はその例です。 <code>/ibi_apps</code>

パラメータ	説明
userrunonly	<p>レポートコンポーネントに表示されるコンテンツの変更をユーザに許可するかどうかを制御します。</p> <p>このパラメータを no (デフォルト) に設定した場合、ユーザは WebFOCUS コンテンツ項目およびその表示モードを選択することができます。</p> <p>このパラメータを yes に設定した場合、WebFOCUS 管理権限を所有しないユーザには、レポートコンポーネントにデフォルトコンテンツ項目 (例、レポート) が表示され、[レポートの選択] メニューオプションは選択不可になります。これにより、デフォルト設定で選択されているコンテンツ項目をユーザが変更できなくなります。</p>
showrefresh	<p>このパラメータを no に設定した場合、レポートコンポーネントメニューで [リフレッシュ] オプションが非表示になり、ユーザがコンテンツ項目を手動でリフレッシュできなくなります。</p> <p>このパラメータを yes (デフォルト) に設定した場合、レポートコンポーネントメニューに [リフレッシュ] オプションが表示され、ユーザはコンテンツ項目を手動でリフレッシュすることができます。</p>



パラメータ	説明
gn	<p>複数の WebFOCUS レポートコンポーネントを追加した場合、このパラメータを使用してこれらのインスタンスを区別し、各インスタンスの属性を保持します (例、幅、高さ、リフレッシュ間隔)。</p> <p>たとえば、ポータルページに 3 つのレポートコンポーネントを追加した場合、レポートコンポーネントのインスタンスごとに一意の gn 値を指定する必要があります。</p>
usescrollbars	<p>このパラメータを no に設定した場合、レポートコンポーネントのコンテンツ項目にスクロールバーは表示されません。</p> <p>このパラメータを yes (デフォルト) に設定した場合、レポートコンポーネントのコンテンツ項目にスクロールバーが表示されます。</p> <p>この設定は、コンテンツ項目がコンポーネントの幅と高さを超える場合に特に役立ちます (例、レポートの行数が多い場合)。</p>
showtimestamp	<p>このパラメータを no (デフォルト) に設定した場合、レポートコンポーネントにタイムスタンプは表示されません。</p> <p>このパラメータを yes に設定した場合、レポートコンポーネントにタイムスタンプが表示されます。</p>

## デフォルトステータスコンポーネント

WebFOCUS デフォルトステータスコンポーネントに直接アクセスするには、次の URL を使用します。

<http://hostname:port/context/deferstatus.ops>

下表は、WebFOCUS ディファードステータスコンポーネントのパラメータのリストおよびその説明です。

パラメータ	説明
hostname	WebFOCUS Client のホストマシンのホスト名 (または IP アドレス) です。
port	WebFOCUS Client のポート番号です。
context	アプリケーションのコンテキストパスです。 以下はその例です。 <a href="#">/ibi_apps</a>

## リソースツリーコンポーネント

WebFOCUS リソースコンポーネントに直接アクセスするには、次の URL を使用します。

<http://hostname:port/context/domain.ops>

下表は、WebFOCUS リソースツリーコンポーネントのパラメータのリストおよびその説明です。

パラメータ	説明
hostname	WebFOCUS Client のホストマシンのホスト名 (または IP アドレス) です。
port	WebFOCUS Client のポート番号です。
context	アプリケーションのコンテキストパスです。 以下はその例です。 <a href="#">/ibi_apps</a>

## ポータルコンポーネント

WebFOCUS ポータルコンポーネントに直接アクセスするには、次の URL を使用します。

<http://hostname:port/context/portal.ops?portalPath=>

下表は、WebFOCUS ポータルコンポーネントのパラメータのリストおよびその説明です。

パラメータ	説明
hostname	WebFOCUS Client のホストマシンのホスト名 (または IP アドレス) です。
port	WebFOCUS Client のポート番号です。
context	アプリケーションのコンテキストパスです。 以下はその例です。 <a href="#">/ibi_apps</a>
portalPath	WebFOCUS ポータルへのパスです。

### ポータルツリーコンポーネント

WebFOCUS ポータルツリーコンポーネントに直接アクセスするには、次の URL を使用します。

<http://hostname:port/context/portaltree.ops>

下表は、WebFOCUS ポータルツリーコンポーネントのパラメータのリストおよびその説明です。

パラメータ	説明
hostname	WebFOCUS Client のホストマシンのホスト名 (または IP アドレス) です。
port	WebFOCUS Client のポート番号です。
context	アプリケーションのコンテキストパスです。 以下はその例です。 <a href="#">/ibi_apps</a>



## WebFOCUS BI コンテンツの Salesforce.com への埋め込み

Salesforce.com は、最先端の顧客関係管理 (CRM) プラットフォームを開発するクラウドコンピューティング企業です。プラットフォームには、セールス、サービス、マーケティング用のクラウドベースのアプリケーションが組み込まれています。ここでは、WebFOCUS BI コンテンツを Salesforce.com に埋め込む方法について説明します。



# 16

## WebFOCUS BI コンテンツの Salesforce.com への埋め込み概要

ここでは、WebFOCUS BI コンテンツを Salesforce.com に埋め込む方法について説明します。

### トピックス

- ❑ WebFOCUS レポートの実行 URL の埋め込み
- ❑ SAML 認証の構成
- ❑ プログラミングソリューション
- ❑ Salesforce.com での WebFOCUS 埋め込みコンテンツのドリルバックサポート

### WebFOCUS レポートの実行 URL の埋め込み

ここでは、WebFOCUS レポートを実行する URL を Salesforce.com (SFDC) に埋め込む簡単な例について説明します。

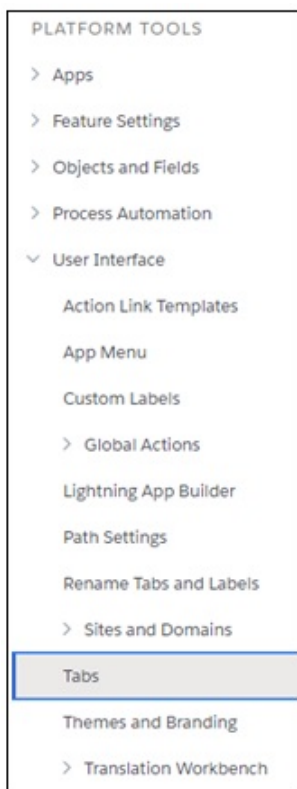
以下はその例です。

```
https://hostname:port/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/Tests/Car_Report.fex?  
IBIRS_action=run
```

1. WebFOCUS 環境が SSL で構成されていることを確認します。
2. Salesforce.com にログインします。
3. 下図のように、歯車アイコンをクリックして [Setup] メニューにアクセスします。



4. 下図のように、左側ウィンドウの [PLATFORM TOOLS] 下で、[User Interface] を展開し、[Tabs] をクリックします。

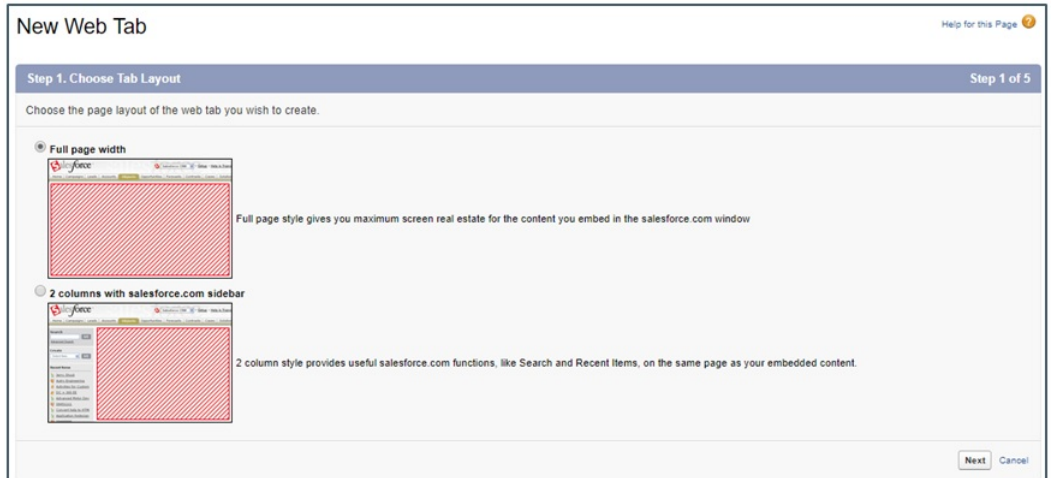


5. 下図のように、[Web Tabs] から [New] をクリックします。



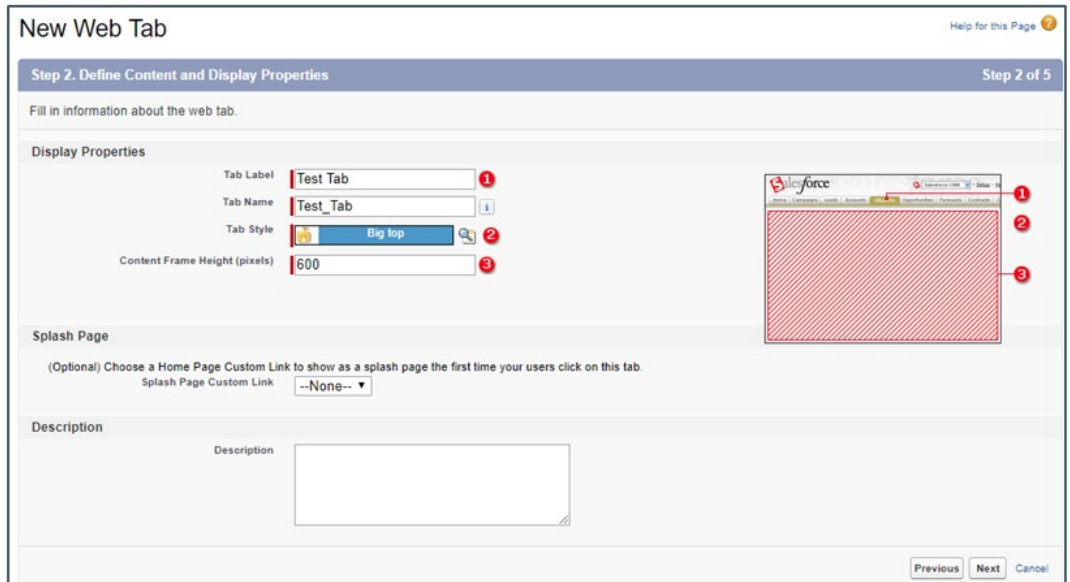


下図のように、[New Web Tab] ダイアログボックスが開き [Step 1. Choose Tab Layout] ウィンドウが表示されます。



6. [Full page width] レイアウトが選択されていることを確認し、[Next] をクリックします。

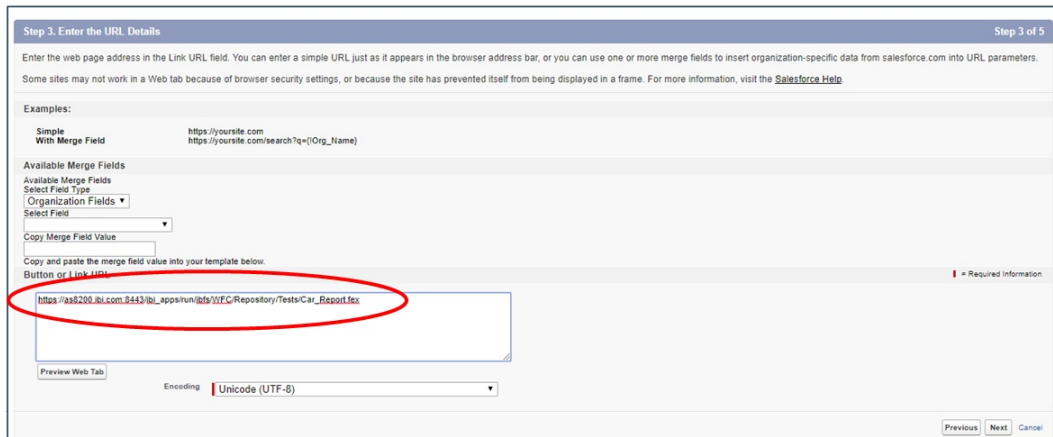
下図のように、[Step 2. Define Content and Display Properties] ウィンドウが開きます。



7. [Display Properties] エリアの [Tab Label] テキストボックスに値を入力し、[Tab Style] ドロップダウンリストから値を選択します。

- 必要に応じて、[Content Frame Height (pixels)] のデフォルト値 (600) を変更し、[Next] をクリックします。

下図のように、[Step 3. Enter the URL Details] ウィンドウが開きます。



- WebFOCUS レポートを実行する URL を画面下部に入力します。

以下はその例です。

[https://hostname:port/ibi\\_apps/run/ibfs/WFC/Repository/Tests/Car\\_Report.fex](https://hostname:port/ibi_apps/run/ibfs/WFC/Repository/Tests/Car_Report.fex)

- [Next] をクリックします。
- 後続の [Add to Profiles] および [Add to Custom Apps] のステップでは一切の変更を行わないでください。
- [Save] をクリックします。

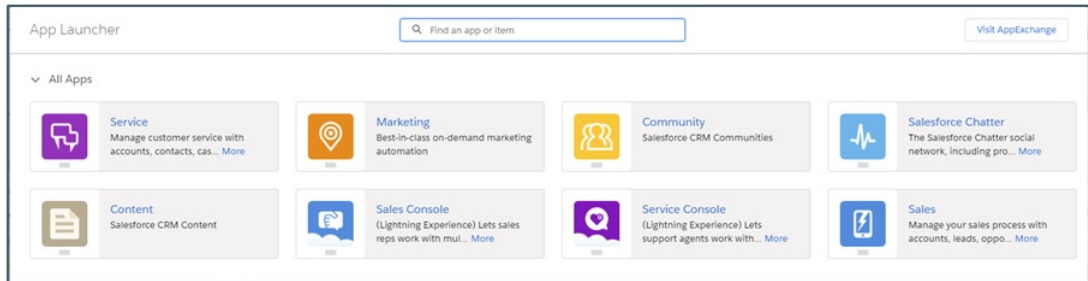
下図のように、作成した新しいタブ (例、Test Tab) が、[Web Tabs] エリアに表示されます。



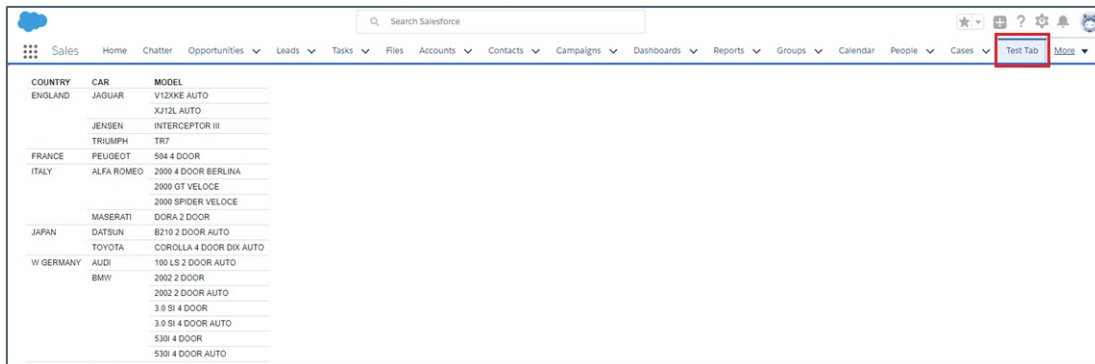
13. 下図のように、[Tiles] メニューをクリックします。



14. 下図のように、対応するタイルをクリックして Salesforce.com アプリケーションを開きます。



15. 下図のように、作成したタブ (例、Test Tab) を選択し、URL で指定した WebFOCUS レポートを実行し、その出力を表示します。



## SAML 認証の構成

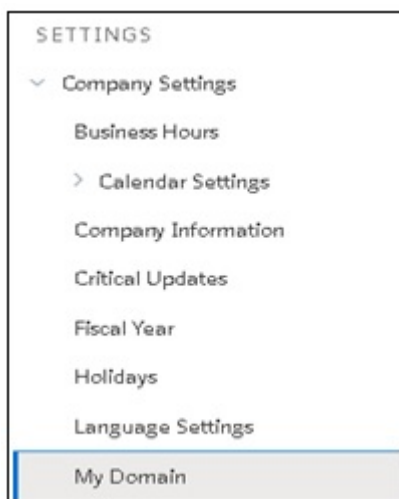
ここでは、Salesforce.com と WebFOCUS とのシングルサインオン (SSO) ログインとして、SAML 認証を構成する方法について説明します。これにより、Salesforce.com と WebFOCUS に別々にログインする必要がなくなります。

## ID プロバイダの有効化

1. Salesforce.com にログインします。
2. 下図のように、歯車アイコンをクリックして [Setup] メニューにアクセスします。



3. 下図のように、左側ウィンドウの [SETTINGS] 下で [Company Settings] を展開し、[My Domain] をクリックします。



下図のように、[My Domain] ウィンドウが開きます。

**My Domain**

**My Domain Step 1**

Showcase your company's brand and keep your data more secure by adding a custom domain name to your Salesforce URL. Because having a custom domain is more secure, some Salesforce features require it. Stakeholders can agree on.

**Step 1 Choose Domain Name**

Choose Domain Name → Domain Registration Pending → Domain Ready for Testing → Domain Deployed to Users

Choose Your Domain Name

Enter a domain name and check whether it's available. Be sure of your name before registering. Only Salesforce Customer Support can change your domain name once it's registered.

Your domain name can be up to 40 characters. It can include letters, numbers, and hyphens; but it can't start or end with a hyphen.

Check Availability ✔ Available

Register Domain After you click Register Domain, Salesforce takes a few minutes to update its naming registries. You receive an email when it's done.

4. ドメイン名を指定し、[Check Availability] をクリックします。
5. ドメインを確認後、[Register Domain] をクリックします。
6. ドメインの登録後、下図のように、[Log in] をクリックしてこのドメインにログインします。

**Step 3 Domain Ready for Testing**

Choose Domain Name → Domain Registration Pending → Domain Ready for Testing → Domain Deployed to Users

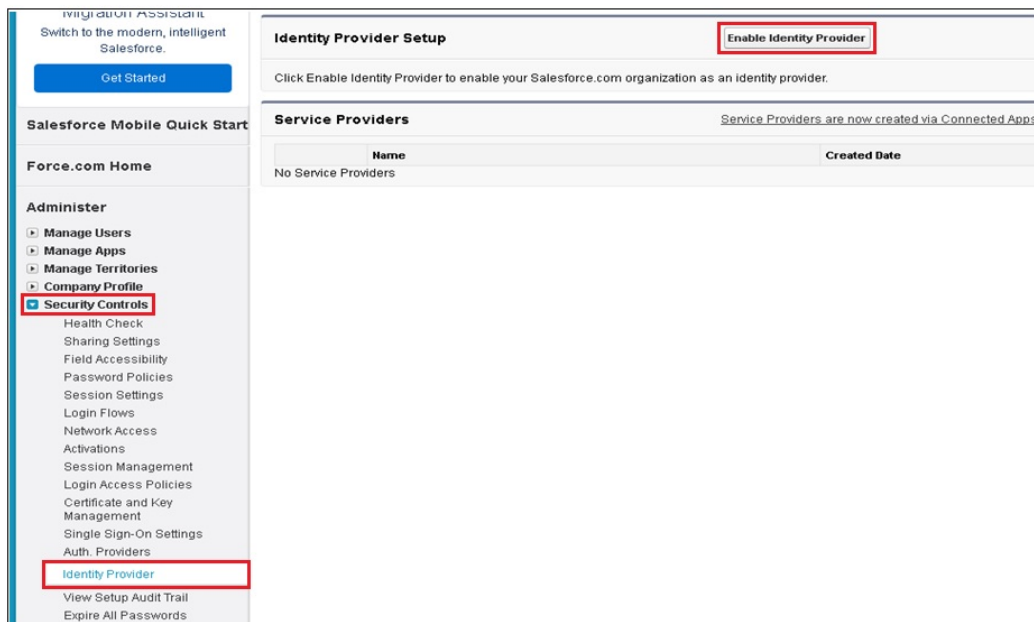
Test domain URL  
Then deploy to users

Your domain name is bigbmn-dev-ed.my.salesforce.com

Your domain name is ready. Log in to test it out. Log in

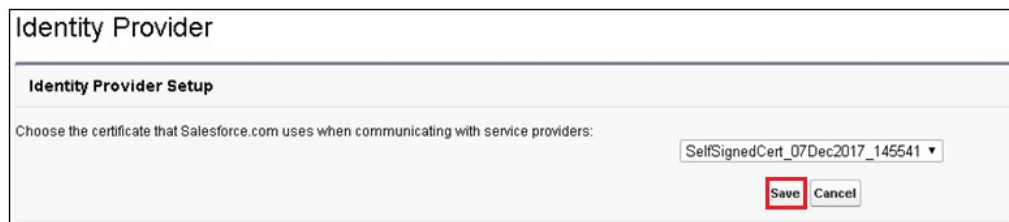
To test your new domain, click tabs and links. If you've customized the UI, check for hard links to your original URL.

7. 下図のように、左側ウィンドウで [Security Controls] を展開し、[Identity Provider] を選択します。



8. [Enable Identity Provider] をクリックします。

下図の画面が表示されます。



9. [Save] をクリックします。

次の画面が表示され、ID プロバイダ、メタデータ、証明書に関する詳細が表示されます。

**Identity Provider**

Enable Salesforce.com as an identity provider so you can use single sign-on with other web sites, and define the appropriate service providers whose applications support single sign-on. You can switch to different service providers without having to log in again. [Learn more...](#)

**Identity Provider Setup** [Edit](#) [Disable](#) [Download Certificate](#) [Download Metadata](#)

**Details**

Issuer: <https://bigbmn-dev-ed.my.salesforce.com>

**Currently chosen certificate details**

Label	Unique Name
SelfSignedCert_07Dec2017_145541	SelfSignedCert_07Dec2017_145541
Created Date	Expiration Date
12/7/2017 6:55 AM	12/7/2018 4:00 AM
Key Size	2048

**SAML Metadata Discovery Endpoints**

Endpoint	URL
Salesforce Identity	<a href="https://bigbmn-dev-ed.my.salesforce.com/well-known/samlidp.xml">https://bigbmn-dev-ed.my.salesforce.com/well-known/samlidp.xml</a>

**Service Providers** [Service Providers are now created via Connected Apps. Click here.](#)

Name	Created Date
No Service Providers	

10.[Download Metadata] をクリックします。

次の WebFOCUS ディレクトリにメタデータをコピーします。

`¥ibi¥WebFOCUS82¥config¥was¥saml`

このメタデータは、ID プロバイダが使用する XML ファイル用に WebFOCUS を構成するために使用されます。

個々のファイル名は重要ではありませんが、securitysettings.xml ファイルの構成値は、適切なメタデータファイルを参照する必要があります。

SAMLidP-00D11000003pWq6.xml	12/7/2017 10:02 AM	XML Document	3 KB
SelfSignedCert_07Dec2017_145541.crt	12/7/2017 10:02 AM	Security Certificate	2 KB

## WebFOCUS の構成および wfspMetadata.xml ファイルの生成

このプロセスは、次の手順に大きく分けられます。

- WebFOCUS の署名および暗号化に使用するキーの組み合わせの作成 (keytool コマンド)
- Salesforce.com の証明書のインポート (keytool コマンド)
- wfspMetadata.xml ファイルの生成
- wfspMetadata.xml ファイルおよび SalesforceMetadata.xml ファイルを使用するための WebFOCUS の構成

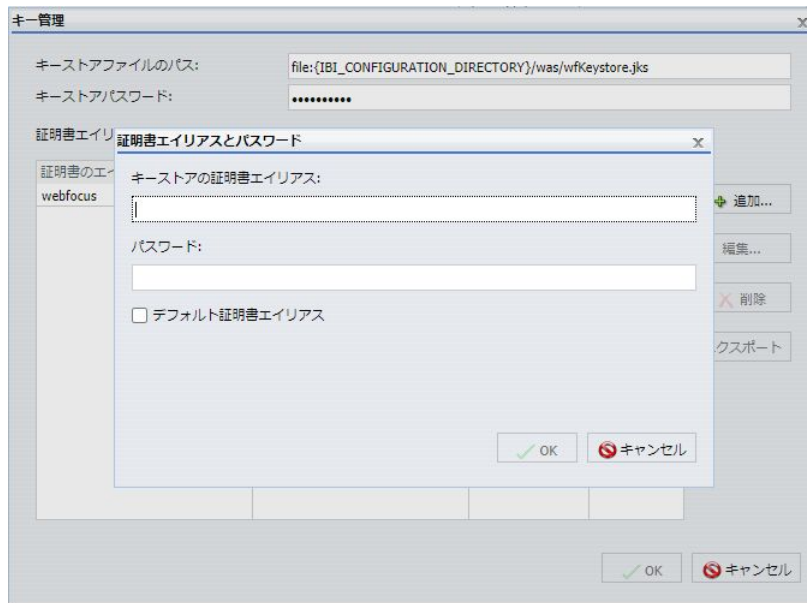
WebFOCUS を構成し、wfsMetadata.xml ファイルを生成するには、次の手順を実行します。

1. WebFOCUS 管理コンソールに移動し、[セキュリティ] タブをクリックします。
2. 左側ウィンドウで [セキュリティゾーン]、[デフォルト] を順に展開し、[認証] をクリックします。
3. 右側ウィンドウで、[キー管理] をクリックします。

[キー管理] ダイアログボックスが開きます。

4. キーストアのパスワードを指定します。
5. [追加] をクリックします。

下図のように、[証明書エイリアスとパスワード] ダイアログボックスが開きます。



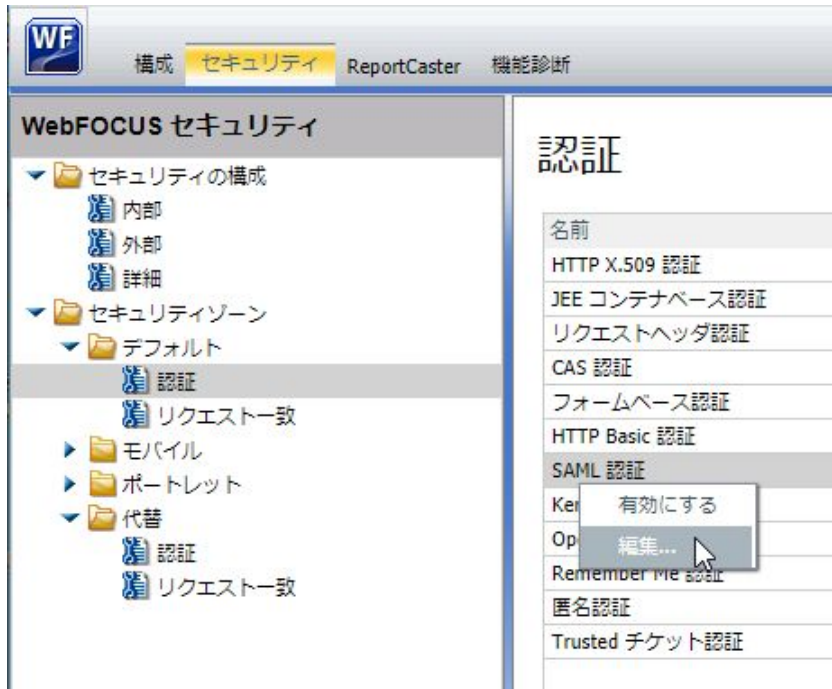
6. 証明書のエイリアスとパスワードをそれぞれ対応するテキストボックスに指定し、[デフォルト証明書エイリアス] のチェックをオンにします。

キーストアのパスワード、証明書のエイリアス、証明書のパスワードはすべて、キーを生成するための keytool コマンドに含まれます。

7. [OK] をクリックして変更を保存し、[証明書エイリアスとパスワード] ダイアログボックスを閉じます。
8. [OK] をクリックして変更を保存し、[キー管理] ダイアログボックスを閉じます。



9. 下図のように、[認証] ウィンドウで [SAML 認証] を右クリックし、コンテキストメニューから [編集] を選択します。



下図のように、[SAML 認証設定の編集] ダイアログボックスが開きます。

SAML 認証設定の編集

サービスプロバイダ (SP) メタデータ ID プロバイダ (IdP) メタデータ 詳細

メタデータファイルのパス: file:({IBI\_CONFIGURATION\_DIRECTORY})/was/saml/wfspMetadata.xml

エンティティエイリアス: defaultWFAlias

署名証明書エイリアス: webfocus

暗号化証明書エイリアス: webfocus

SSL/TLS 証明書エイリアス: なし

セキュリティプロファイル: Metadata Interoperability Profile (MetaIOP)

SSL/TLS セキュリティプロファイル: PKIX Profile

メタデータに署名 (このチェックをオンにすると、指定された署名キーを使用して、生成済みメタデータにデジタル署名...)

署名アルゴリズム: http://www.w3.org/2001/04/xmldsig-more#rsa-sha512

シングルログアウトのサポート

署名済みログアウトリクエストが必要

署名済みログアウトレスポンスが必要

メタデータの生成

OK キャンセル

10.次のパラメータの値を指定します。

- エンティティエイリアス
- 署名証明書エイリアス
- 暗号化証明書エイリアス

11.[シングルログアウトのサポート] のチェックをオフにします。

このオプションが選択されたままの場合、WebFOCUS からログアウトすると Salesforce.com から自動的にログアウトします。

12.その他すべてのパラメータでは、デフォルト値のままにします。

**注意:** この例では、署名証明書と暗号化証明書に同一の証明書が使用されていますが、最初に keytool コマンドで構成されている場合は、異なる 2 つの証明書を使用することもできます。

13.[メタデータの生成] をクリックします。

下図のように、[サービスプロバイダ (SP) メタデータの生成] ダイアログボックスが開きます。

**サービスプロバイダ (SP) メタデータの生成**

エンティティ ID:

エンティティ ベース URL:

エンティティエイリアス:

署名証明書エイリアス:

暗号化証明書エイリアス:

SSL/TLS 証明書エイリアス:

セキュリティプロファイル:

SSL/TLS セキュリティプロファイル:

メタデータに署名 (このチェックをオンにすると、指定された署名キーを使用して、生成済みメタデータ...)

署名アルゴリズム:

サービスが認証リクエストに署名する

署名済み認証アサーションが必要

署名済みログアウトリクエストが必要

署名済みログアウトレスポンスが必要

シングルサインオンバインディング: デフォルト	追加済み	名前
<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	SSO HTTP-POST
<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	SSO Artifact
<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	SSO PAOS
<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	HoK SSO HTTP-POST
<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	HoK SSO Artifact

サポートされる NameID:

未指定

Email

一時

永続

14.[生成] をクリックします。

**注意：**キーストアまたは証明書のパスワードに問題がある場合は、wfsMetadata.xml ファイルではなく JSON ファイルが返されます。

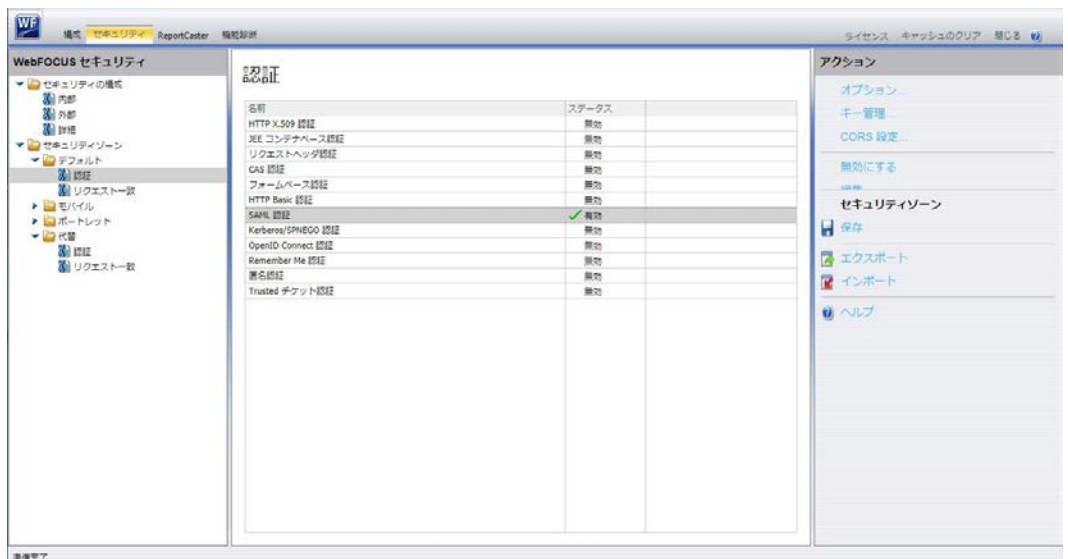
15.wfsMetadata.xml ファイルを次の WebFOCUS ディレクトリにコピーします。

```
config¥was¥saml
```

このファイルは、ADFS の構成で使用するため、ADFS 管理者に提供します。

16.代替認証ゾーンを有効にすることで、SAML 認証でなくフォームベース認証を使用してローカルマシンから WebFOCUS にログインすることができます。これにより、構成に関する問題を解決することができます。

17.下図のように、デフォルト認証ゾーンで [フォームベース認証] および [匿名認証] を無効にし、[SAML 認証] を有効にします。



18.[保存] をクリックします。

19.Application Server を再起動し、これらの変更を有効にします。

ただし、次のセクションで説明する手順が完了するまではログインを試行しないでください。

## Salesforce.com のサービスプロバイダとしての WebFOCUS の構成

Salesforce.com のサービスプロバイダとして WebFOCUS を構成するには、次の手順を実行します。

1. Salesforce.com で作成した新しいドメインにログインします。
2. 左側ウィンドウの [Administer] 下で [Security Controls] を展開し、[Identity Provider] を選択します。
3. 下図のように、[Service Providers are now created via Connected Apps. Click here] をクリックします。

**Identity Provider** Help for this Page

Enable Salesforce.com as an identity provider so you can use single sign-on with other web sites, and define the appropriate service providers whose applications support single sign-on. You can switch to different service providers without having to log in again. [Learn more...](#)

**Quick Tips**

- Certificates and Keys
- About Single Sign-On
- My Domain

**Identity Provider Setup** Edit Disable Download Certificate Download Metadata

**Details**

Issuer: <https://bigbrn-dev-ed.my.salesforce.com>

**Currently chosen certificate details**

Label	Unique Name
SelfSignedCert_07Dec2017_145541	SelfSignedCert_07Dec2017_145541
Created Date: 12/7/2017 6:55 AM	Expiration Date: 12/7/2018 4:00 AM
Key Size: 2048	

**SAML Metadata Discovery Endpoints**

Endpoint	URL
Salesforce Identity	<a href="https://bigbrn-dev-ed.my.salesforce.com/weil-known/samlidp.xml">https://bigbrn-dev-ed.my.salesforce.com/weil-known/samlidp.xml</a>

**Service Providers** Service Providers are now created via Connected Apps. Click here.

Name	Created Date
No Service Providers	

下図のように、[New Connected App] ダイアログボックスが開きます。

**注意：**このダイアログボックスの [Web App Settings] で [Enable SAML] のチェックをオンにした場合は、入力が必要な SAML 情報が表示されます。Salesforce.com では、他の ID プロバイダと同様に WebFOCUS のメタデータをアップロードすることができないため、この情報は、wfspMetadata.xml ファイルからコピーする必要があります。

4. [ACS URL] および [Entity Id] の値を wfspMetadata.xml ファイルからコピーします。

entityID は、wfspMetadata.xml ファイル内で検索することができます。

5. [Save] をクリックしてこれらの構成設定を保存します。
6. 下図のように、歯車アイコンをクリックして [Setup] メニューにアクセスします。



7. 左側ウィンドウの [PLATFORM TOOLS] 下で、[Apps]、[Connected Apps]、[Manage Connected Apps] を順に展開します。
8. 作成した接続済みアプリの [Label] を選択します (例、WebFOCUS)。

下図のように、接続済みアプリ (WebFOCUS) の構成ウィンドウが表示されます。

System Info	
Installed By	Ben Naphthal
Last Modified By	Ben Naphthal
Installed Date	12/8/2017 9:04 AM
Last Modified Date	12/8/2017 9:36 AM

Basic Information	
Info URL	
Start URL	https://bmn-8202.ibi.com/bi_apps/
Mobile Start URL	

SAML Service Provider Settings	
Entity ID	https://bmn-8202.ibi.com/bi_apps/ssp
Subject Type	Username
Idp Certificate	SelfSignedCert_07Dec2017_145541
Name ID Format	urn:oasis:names:tc:SAML:1.1:nameid-format:unspecified
Verify Request Signatures	
Enable Single Logout	Disabled

SAML Login Information	
View and download SAML endpoint metadata for your organization, communities, or custom domains.	
Your Organization	<a href="#">Download Metadata</a>
IdP-Initiated Login URL	https://bigbrn-dev-ed.my.salesforce.com/idp/login?app=0sp10000000CaU6
SP-Initiated POST Endpoint	https://bigbrn-dev-ed.my.salesforce.com/idp/endpoint/HttpPost
SP-Initiated Redirect Endpoint	https://bigbrn-dev-ed.my.salesforce.com/idp/endpoint/HttpRedirect
Metadata Discovery Endpoint	https://bigbrn-dev-ed.my.salesforce.com/well-known/samlidp/WebFOCUS.saml
Single Logout Endpoint	https://bigbrn-dev-ed.my.salesforce.com/services/auth/idp/saml2/logout

サービスプロバイダとして WebFOCUS へのアクセスをユーザに許可するには、この [Connected App] にプロファイルを追加する必要があります。

9. 下図のように、画面を下方方向にスクロールし、[Manage Profiles] を選択します。

**Custom Connected App Handler**

Apex Plugin Class  
Run As

**User Provisioning Settings**

Enable User Provisioning [?](#)

**Trusted IP Range for OAuth Web server flow**

No application-defined IP ranges

**Profiles** [Manage Profiles](#)

No profiles associated with this app.

**Permission Sets** [Manage Permission Sets](#)

No permission sets associated with this app.

**Custom Attributes** [New](#)

No Custom Attributes



下図のように、[Application Profile Assignment] ダイアログボックスが開きます。

**Application Profile Assignment**  
[← Back to Connected App Details](#)

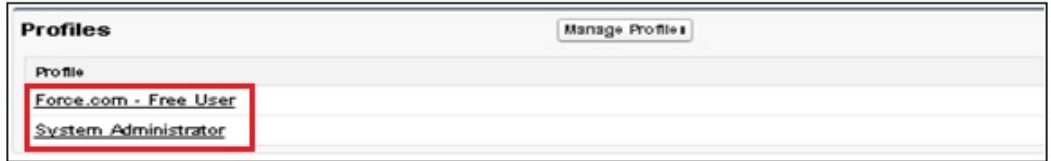
Select the appropriate profiles to choose which users have access to this application.

Select	Profile	Description
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Analytics Cloud Integration User</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Analytics Cloud Security User</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Authenticated Website</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Authenticated Website</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Chatter External User</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Chatter Free User</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Chatter Moderator User</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Contract Manager</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Cross Org Data Proxy User</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Custom: Marketing Profile</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Custom: Sales Profile</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Custom: Support Profile</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Customer Community Login User</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Customer Community Plus Login User</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Customer Community Plus User</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Customer Community User</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Customer Portal Manager Custom</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Customer Portal Manager Standard</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">External Identity User</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Force.com - App Subscription User</a>	
<input checked="" type="checkbox"/>	<a href="#">Force.com - Free User</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Gold Partner User</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">High Volume Customer Portal</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">High Volume Customer Portal User</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Identity User</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Marketing User</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Partner App Subscription User</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Partner Community Login User</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Partner Community User</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Read Only</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Silver Partner User</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Solution Manager</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Standard Platform User</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Standard User</a>	
<input checked="" type="checkbox"/>	<a href="#">System Administrator</a>	
<input type="checkbox"/>	<a href="#">Work.com Only User</a>	

10.SAML 認証プロバイダとして、Salesforce.com から WebFOCUS にアクセスするユーザを選択し、[Save] をクリックします。

11.手順 8 で示した接続済みアプリ (WebFOCUS) の構成ウィンドウに戻ります。

下図のように、接続済みアプリ (WebFOCUS) に割り当てたプロファイルが、[Profiles] セクションに表示されます。



12. 構成した URL を使用して、WebFOCUS へのログインをテストすることができます。

[https://server.ibi.com/ibi\\_apps/](https://server.ibi.com/ibi_apps/)

Salesforce.com のログインページにリダイレクトされます。

13. Salesforce.com のユーザ認証情報を入力します。

WebFOCUS にリダイレクトされます。これは、サービスプロバイダが開始したログインです (WebFOCUS からのログイン)。

14. Salesforce.com の URL を使用して Salesforce.com にログインした場合、WebFOCUS のコンテンツにもバックエンドからログインされます。

これは、ID プロバイダが開始したログインです。

## プログラミングソリューション

WebFOCUS レポートを実行するための Salesforce.com (SFDC) への URL の埋め込みは、WebFOCUS BI コンテンツの埋め込みの単純な例です。SFDC でより高度な埋め込みを実行するためには (例、複数の Web サービスの呼び出し、Cookie の確認)、プログラミングが必要になります。

Apex クラスは Java クラスに類似していますが、SFDC 用に特別なコードを使用します。同様に、Visualforce ページは Java Server Page (JSPs) に類似しています。

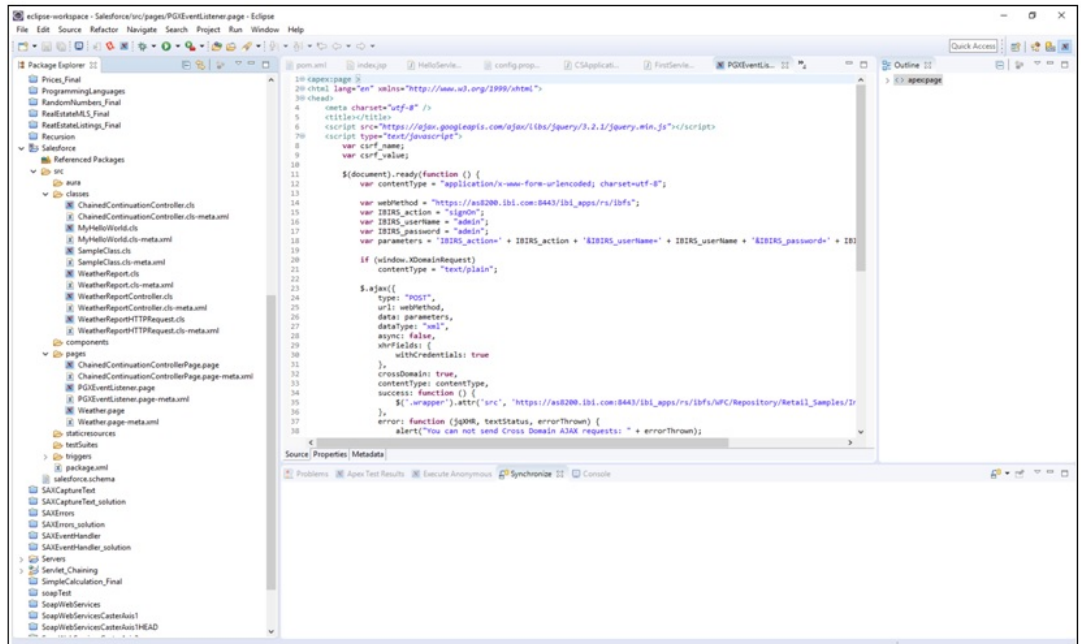
SAML を統合せずに、signOn Web サービスを構成する場合、または複数の Web サービスを実行する場合は、SFDC で「連鎖コールアウト (Chained Callouts)」と呼ばれるコールアウトを使用する必要があります。詳細は、477 ページの「[Chained Callouts の使用](#)」を参照してください。

## Salesforce Extensions for Visual Studio Code

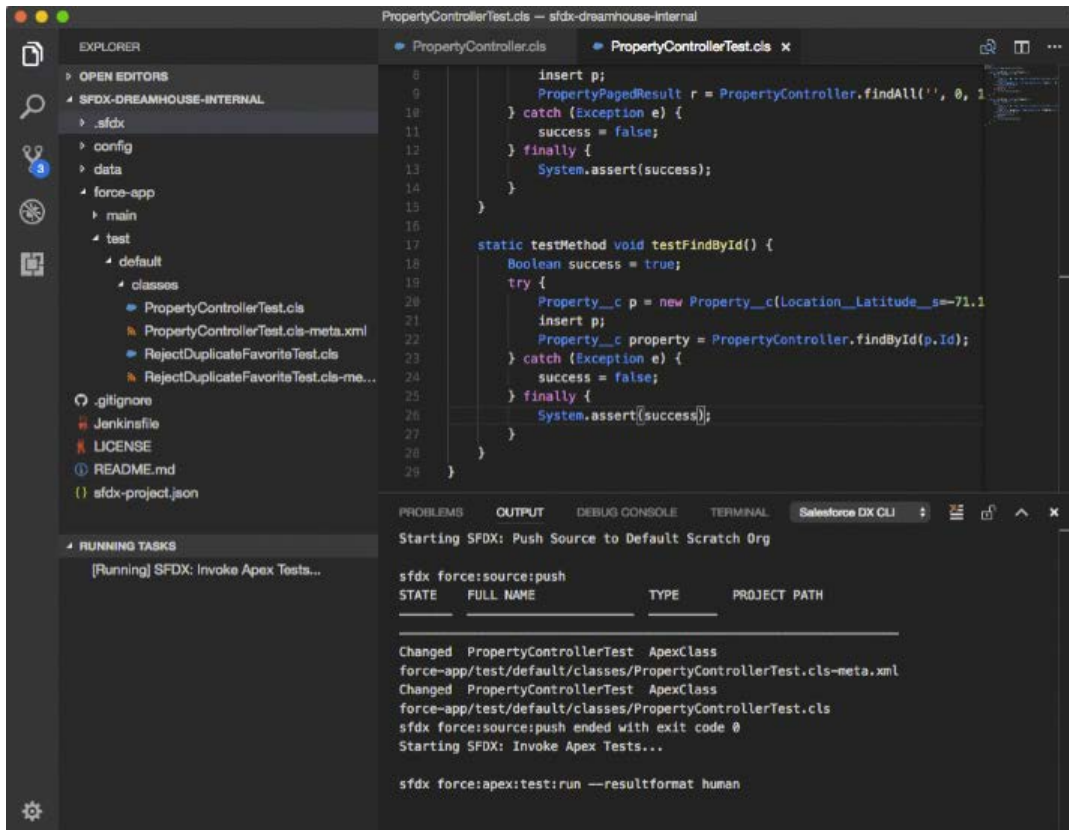
SFDC では、Force.com IDE と呼ばれる Eclipse のプラグインが使用できます。これは、SFDC のアプリケーションを作成、変更、展開するための統合された開発環境です。2019 年 10 月 12 日に、SFDC は Force.com IDE の使用を廃止します。今後は、Salesforce Extensions for Visual Studio (VS) Code へのマイグレートをユーザに推奨しています。Salesforce Extensions for Visual Studio (VS) Code の使用には、ダウンロードおよびインストールが必要です。

Salesforce Extensions for VS Code で使用可能な軽量で拡張性のある VS Code エディタには、Salesforce プラットフォームの開発ツールが含まれています。これらのツールは、開発組織 (スクラッチ組織、サンドボックス、Developer Edition (DE) 組織)、Apex、Aura コンポーネント、Visualforce で使用するための機能を備えています。

下図は Force.com IDE を示しています (参照例)。



下図は、Salesforce Extensions の VS Code エディタを示しています。

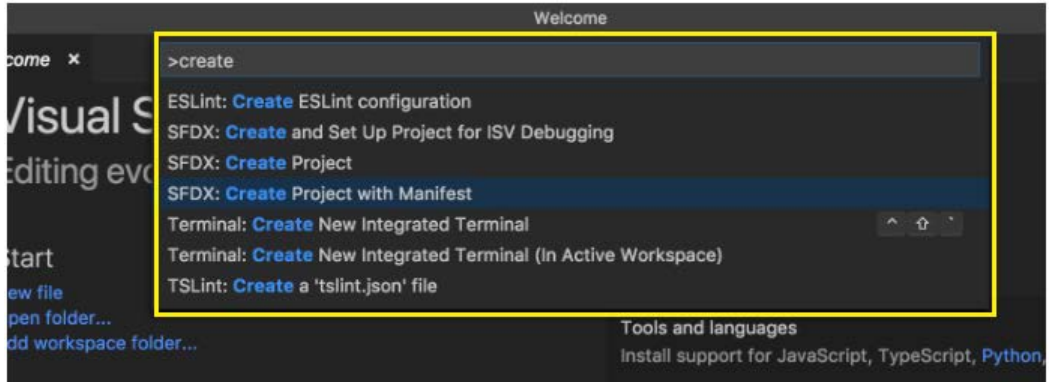


Salesforce Extensions for VS Code は、以下の Visual Studio Marketplace サイトから無償でダウンロードすることができます。

<https://marketplace.visualstudio.com/items?itemName=salesforce.salesforcedx-vscode>

このサイトでは、ダウンロード以外にも、要件およびマニュアルなどの追加リソースを確認することができます。Salesforce Extensions for VS Code のインストールおよび使用前に、これらの要件を確認することをお勧めします。

Salesforce Extensions for VS Code をユーザ環境にインストールすると、下図のように、このエディタの主要機能の 1 つとしてコマンドパレットが使用できます。これは、ユーザ独自の SFDC プロジェクトを開発する際によく使用されます。



コマンドパレットは、コマンドのリポジトリを備えており、文字列 (例、Create) を入力するだけですばやくリポジトリ内の検索を実行できます。検索後、返されたコマンドのリストから選択したコマンドを直接実行することができます。コマンドパレットを開くには、Ctrl+Shift+P キーを押します。

Salesforce Extensions for VS Code を使用して作成する構文はすべて、SFDC で実行することができます。これは、Force.com IDE と同様です。

Force.com IDE から Salesforce Extensions for VS Code へのマイグレートについての詳細は、次の記事を参照してください。

<https://developer.salesforce.com/tools/vscode/en/getting-started/migrate-from-forcecom-ide>

## Chained Callouts の使用

「Callout」(コールアウト) は、SFDC で外部 Web サービスの呼び出しに使用される用語です。

「Chained Callouts」とは、signOn からプロシジャの実行、スケジュールの実行など 1 つ前のインスタンスからのレスポンスを必要とする連鎖的な Callout のことです。

以下はその例です。

---

```

public with sharing class ChainedContinuationController {
    // Unique label for the initial callout request
    public String requestLabel1;
    // Unique label for the chained callout request
    public String requestLabel2;
    // Result of initial callout
    public String result1 {get;set;}
    // Result of chained callout
    public String result2 {get;set;}
    // Endpoint of long-running service
    private static final String LONG_RUNNING_SERVICE_URL1 =
        'http://pmdev.ibi.com/ibi_apps/rs/ibfs';
    private static final String LONG_RUNNING_SERVICE_URL2 =
        'http://pmdev.ibi.com/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/David_SFDC/
Car_Report.fex';
    // Action method
    public Object invokeInitialRequest() {
        // Create continuation with a timeout
        Continuation con = new Continuation(60);
        // Set callback method
        con.continuationMethod='processInitialResponse';
        // Create first callout request
        String body1 =
'IBIRS_action=signOn&IBIRS_userName=david&IBIRS_password=david';
        HttpRequest req = new HttpRequest();
        req.setMethod('POST');
        req.setBody(body1);
        req.setHeader('Content-Type', 'application/x-www-form-urlencoded');
        req.setEndpoint(LONG_RUNNING_SERVICE_URL1);
        // Add initial callout request to continuation
        this.requestLabel1 = con.addHttpRequest(req);
        // Return the continuation
    }
}

```

```

// Callback method for initial request
public Object processInitialResponse() {
    // Get the response by using the unique label
    HttpResponse response = Continuation.getResponse(this.requestLabel1);
    // Set the result variable that is displayed on the Visualforce page
    this.result1 = response.getBody();
    String cookie = response.getHeader('Set-Cookie');
    Continuation chainedContinuation = null;
    // Chain continuation if some condition is met
    //if (response.getBody().toLowerCase().contains('expired')) {
    // Create a second continuation
    chainedContinuation = new Continuation(60);
    // Set callback method
    chainedContinuation.continuationMethod='processChainedResponse';
    // Create callout request
    HttpRequest req = new HttpRequest();
    req.setMethod('GET');
    req.setHeader('Content-Type', 'application/x-www-form-urlencoded');
    req.setHeader('Cookie', cookie);
    req.setEndpoint(LONG_RUNNING_SERVICE_URL2 + '?IBIRS_action=run');
    // Add callout request to continuation
    this.requestLabel2 = chainedContinuation.addHttpRequest(req);
    //}
    // Start another continuation
    return chainedContinuation;
}
// Callback method for chained request
public Object processChainedResponse() {
    // Get the response for the chained request
    HttpResponse response = Continuation.getResponse(this.requestLabel2);
    // Set the result variable that is displayed on the Visualforce page
    this.result2 = response.getBody();
    // Return null to re-render the original Visualforce page
    return null;
}
}

```

次の例は、Visualforce ページの定義に使用する構文の例です。

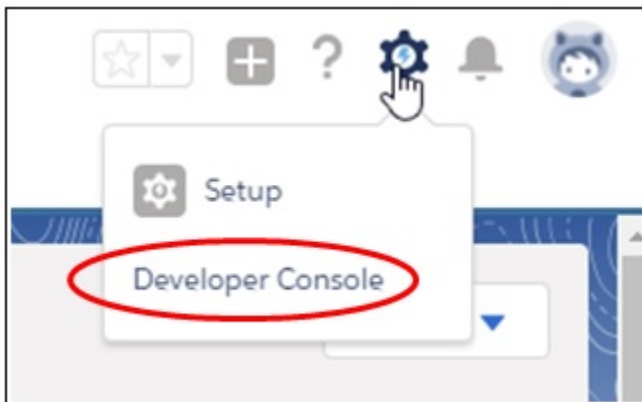
```
<apex:page controller="ChainedContinuationController" showChat="false"
showHeader="false">
  <apex:form >
    <!-- Invokes the action method when the user clicks this button. -->
    <apex:commandButton action="{!invokeInitialRequest}" value="Start
Request" reRender="panel"/>
  </apex:form>

  <apex:outputPanel id="panel">
    <!-- Displays the response body of the initial callout. -->
    <apex:outputText value="{!result1}" />

    <br/>
    <!-- Displays the response body of the chained callout. -->
    <!-- Need to use "escape=false" so the HTML response is rendered
using the tags -->
    <apex:outputText value="{!result2}" escape="false" />
  </apex:outputPanel>
</apex:page>
```

## Developer Console へのアクセス

下図のように、Developer Console にアクセスすることができます。





下図のように、Developer Console では、Visualforce ページの定義および構成ができます。

The screenshot displays the Developer Console interface for a Visualforce page. The code editor shows the following XML structure:

```

1 <apex:page controller="ChainedContinuationController" showChat="false" showHeader="false">
2   <apex:form >
3     <!-- Invokes the action method when the user clicks this button. -->
4     <apex:commandButton action="{!invokeInitialRequest}" value="Start Request" reRender="p
5   </apex:form>
6
7   <apex:outputPanel id="panel">
8     <!-- Displays the response body of the initial callout. -->
9     <apex:outputText value="{!result1}" />
10
11     <br/>
12     <!-- Displays the response body of the chained callout. -->
13     <!-- Need to use "escape=false" so the HTML response is rendered using the tags -->
14     <apex:outputText value="{!result2}" escape="false" />
15   </apex:outputPanel>
16
17 </apex:page>

```

Below the code editor, the 'Tests' tab is active, showing a table for 'Overall Code Coverage':

Status	Test Run	Enqueued Time	Duration	Failures	Total	Overall Code Coverage																					
						<table border="1"> <thead> <tr> <th>Class</th> <th>Percent</th> <th>Lines</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><b>Overall</b></td> <td><b>0%</b></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ChainedContinuationController</td> <td>0%</td> <td>0/31</td> </tr> <tr> <td>HelloWorldAccountTrigger</td> <td>0%</td> <td>0/1</td> </tr> <tr> <td>MyHelloWorld</td> <td>0%</td> <td>0/4</td> </tr> <tr> <td>SampleClass</td> <td>0%</td> <td>0/5</td> </tr> <tr> <td>WeatherReport</td> <td>0%</td> <td>0/17</td> </tr> </tbody> </table>	Class	Percent	Lines	<b>Overall</b>	<b>0%</b>		ChainedContinuationController	0%	0/31	HelloWorldAccountTrigger	0%	0/1	MyHelloWorld	0%	0/4	SampleClass	0%	0/5	WeatherReport	0%	0/17
Class	Percent	Lines																									
<b>Overall</b>	<b>0%</b>																										
ChainedContinuationController	0%	0/31																									
HelloWorldAccountTrigger	0%	0/1																									
MyHelloWorld	0%	0/4																									
SampleClass	0%	0/5																									
WeatherReport	0%	0/17																									

下図は、Developer Console を使用して生成したサンプル出力を示しています。

The screenshot shows a browser window with the URL `https://c.na73.visual.force.com/apex/ChainedContinuationControllerPage?core.apexpages.request.devconsole=1`. The page content includes an XML response and a table of car data.

**XML Response:**

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?><ibfsrcp__j_t="IBFSResponseObject" language="EN" name="signOn" returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subretu
value="IBIWF_SES_AUTH_TOKEN"/><entry key="IBI_CSRF_Token_Value" value="c728396f7e69a977d3bbb0096dc953af"/></properties><rootObject__j_t="IBFSUserObject" create
lastModified="0" lastSignIn="1515443750115" lastaccessOn="0" length="0" name="david" nameSpace="DB" password="" type="User" userStatusDisplay="Active"/><properties size=
</properties><status__j_t="IBSSUserStatus" name="ACTIVE"/><groups__j_t="ArrayList" size="0"/><pSelList__j_t="ArrayList" size="0"/></rootObject></ibfsrcp>
```

**Table Data:**

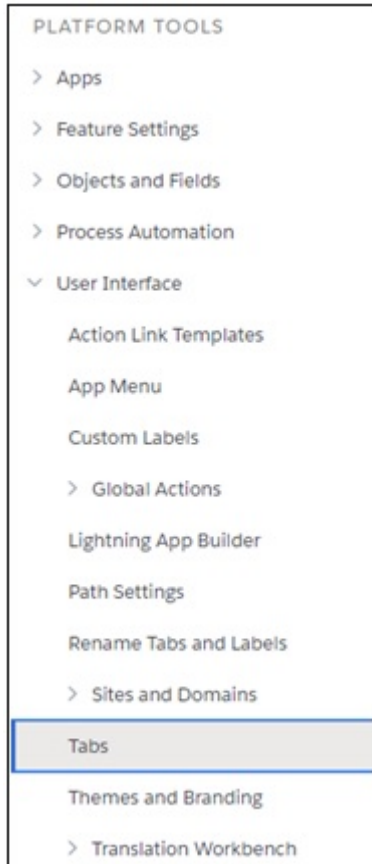
COUNTRY	CAR	MODEL	DEALER_COST	RETAIL_COST	SALES
ENGLAND	JAGUAR	V12XKE AUTO	7,427	8,878	0
		XJ12L AUTO	11,194	13,491	12000
	JENSEN	INTERCEPTOR III	14,940	17,850	0
	TRIUMPH	TR7	4,292	5,100	0
FRANCE	PEUGEOT	504 4 DOOR	4,631	5,610	0
ITALY	ALFA ROMEO	2000 4 DOOR BERLINA	4,915	5,925	4800
		2000 GT VELOCE	5,660	6,820	12400
		2000 SPIDER VELOCE	5,660	6,820	13000
	MASERATI	DORA 2 DOOR	25,000	31,500	0
JAPAN	DATSUN	B210 2 DOOR AUTO	2,626	3,139	43000
	TOYOTA	COROLLA 4 DOOR DIX AUTO	2,886	3,339	35030
W GERMANY	AUDI	100 LS 2 DOOR AUTO	5,063	5,970	7800
		BMW	2002 2 DOOR	5,800	5,940
		2002 2 DOOR AUTO	6,000	6,355	8900
		3.0 Si 4 DOOR	10,000	13,752	14000
		3.0 Si 4 DOOR AUTO	11,000	14,123	18940
		530i 4 DOOR	8,300	9,097	14000
	530i 4 DOOR AUTO	8,400	9,495	15600	

StfcApp Visualforce.viewstate.ViewstateSender.resend();

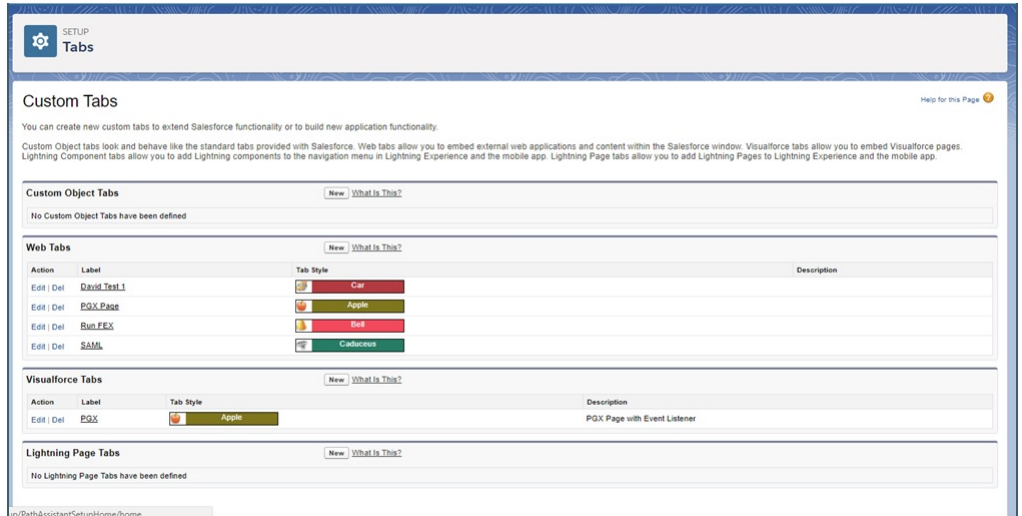
## SFDC ダッシュボードへの Visualforce ページの追加

SFDC ダッシュボードへの Visualforce ページの追加は簡単に行えます。

1. 下図のように、左側ウィンドウの [PLATFORM TOOLS] 下で、[User Interface] を展開し、[Tabs] をクリックします。

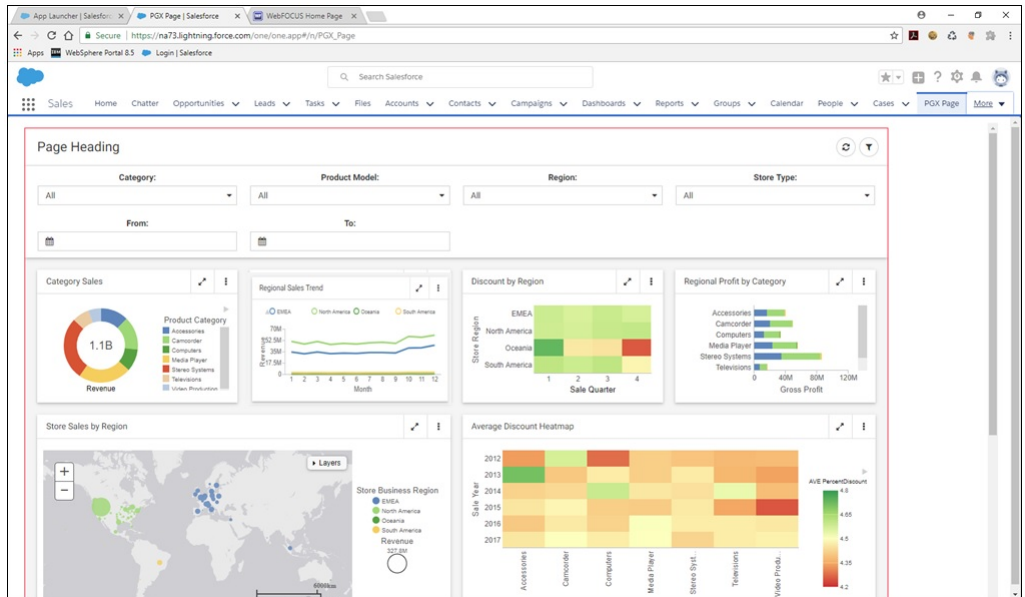


下図のように、[Tabs] ウィンドウが開きます。



2. [Visualforce Tabs] セクションの右側で、[New] をクリックします。
3. [Visualforce Page] ドロップダウンリストから、ユーザの Visualforce ページの名前を選択します。
4. [Display Properties] エリアの [Tab Label] および [Tab Name] テキストボックスに値を入力し、[Tab Style] をドロップダウンリストから選択します。
5. [Next] をクリックします。
6. 後続の [Add to Profiles] および [Add to Custom Apps] のステップでは一切変更しないでください。
7. [Save] をクリックします。

8. 下図のように、ダッシュボードで SFDC アプリケーションを開く際に、ユーザの Visualforce ページを含む新しいタブを選択することができます。



注意：Visualforce ページには、HTML および JavaScript を含めることもできます。以下はその例です。

```
<apex:page >
<html lang="en" xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml">
<head>
<meta charset="utf-8" />
<title></title>
<script src="https://ajax.googleapis.com/ajax/libs/jquery/3.2.1/jquery.min.js"></script>
<script type="text/javascript">
var csrf_name;
var csrf_value;

$(document).ready(function () {
var contentType = "application/x-www-form-urlencoded; charset=utf-8";

var webMethod = "https://as8200.ibi.com:8443/ibi_apps/rs/ibfs";
var IBIRS_action = "signOn";
var IBIRS_userName = "admin";
var IBIRS_password = "admin";
var parameters = 'IBIRS_action=' + IBIRS_action + '&IBIRS_userName=' + IBIRS_userName + '&IBIRS_password=' + IBIRS_password;

if (window.XDomainRequest)
contentType = "text/plain";

$.ajax({
type: "POST",
url: webMethod,
data: parameters,
dataType: "xml",
async: false,
xhrFields: {
withCredentials: true
},
crossDomain: true,
contentType: contentType,
success: function () {
$('.wrapper').attr('src', 'https://as8200.ibi.com:8443/ibi_apps/rs/ibfs/WFC/Repository/Retail_Samples/IBIRS');
},
error: function (jqXHR, textStatus, errorThrown) {
alert("You can not send Cross Domain AJAX requests: " + errorThrown);
}
});

window.addEventListener('message', onHeightChanged, false);

function onHeightChanged(event)
{
if (event.data && event.data.message_name == 'height_changed')
{
$('.wrapper').innerHeight(event.data.page_height + 10); // add 10 to account for different things, like borders
}
}

</script>
<style>
.wrapper {
width: 98%;
height: 100px;
border: 1px solid red;
}
</style>
</head>
<body>
<iframe class="wrapper"></iframe>

</body>
</html>
</apex:page>
```

## Salesforce.com での WebFOCUS 埋め込みコンテンツのドリルバックサポート

WebFOCUS 埋め込み BI ソリューションでは、次のような WebFOCUS と Salesforce.com (SFDC) との統合がサポートされています。

- ❑ HTML iframe 内に WebFOCUS コンテンツを含む SFDC タブ
- ❑ WebFOCUS コンテンツを含む SFDC Visualforce ページ
- ❑ SFDC データを使用して WebFOCUS レポートを生成および表示するための WebFOCUS Reporting Server 用 SFDC アダプタ

ここでは、WebFOCUS コンテンツの SFDC ポータルタブへのドリルバックを可能にする追加の統合機能について説明します。たとえば、これらのタブに値を渡して、特定の [Opportunity] を表示することができます。この機能のユーザインターフェースは、Visualforce タブを含む SFDC ポータルアプリケーションで、Visualforce ページを表示します。

### Visualforce ページの構成

Visualforce ページはコーディングする必要があります。以下はその例です。

---

```
<apex:page controller="PageReferenceController">
<html>
  <head>

  </head>
<body>
<apex:form >
  <apex:actionFunction name="redirect" action="{!redirectToOppsPage}"
  rerender="msgs">
    <apex:param name="opps_url_param" value="" assignTo="{!
opps_url}"/>
  </apex:actionFunction>
</apex:form>

<script type="text/javascript">
window.addEventListener("message", receiveMessage, false);
function receiveMessage(event)
{
  if(typeof event.data === 'string')
  {
    if(event.data.indexOf('NAVIGATE') >= 0)
    {
      var params = event.data.split(';');

      var action_tokens = params[0].split('=');
      var url_tokens = params[1].split('=');
      redirect(url_tokens[1]);
    }
  }
}
</script>
```



```

<iframe id="wf_dashboard" src="https://server:port/ibi_apps/run.bip?
BIP_REQUEST_TYPE=BIP_LAUNCH&BIP_folder=IBFS%253A%252FWFC%252F
Repository%252FRetail_Samples%252F&BIP_item=sfdc_page_for_drillback"
style="width: 100%;">

</iframe>

<script type="text/javascript">
function resize_iframe()
{
    document.getElementById('wf_dashboard').height =
window.innerHeight-30;
}
window.onresize = function (event)
{
    console.log('resizing ' + window.innerHeight);
    resize_iframe();
}

resize_iframe();

</script>
</body>
</html>
</apex:page>

```

Visualforce ページの次のセクションには、このページから呼び出される Apex クラスの名前が記述されています (PageReferenceController)。

```
<apex:page controller="PageReferenceController">
```

次のセクションでは、redirect という名前の関数が定義され、redirectToOppsPage という名前の別の関数を呼び出すアクションが記述されています。

```
<apex:actionFunction name="redirect" action="{!redirectToOppsPage}"
rerender="msgs">
```

次のセクションでは、この Visualforce ページの opps\_url\_param という名前のパラメータおよび初期値 null が定義されています。これは、Apex クラスで定義された opps\_url の値に割り当てる必要があります。

```
<apex:param name="opps_url_param" value="" assignTo="{!opps_url}"/>
```

次のセクションから、JavaScript ブロックの定義が開始されます。

```
<script type="text/javascript">
```

次のセクションでは、異なるオリジンのコンテンツ (この例では、WebFOCUS コンテンツ) を含む埋め込み iframe からメッセージを受信するためのイベントリスナが追加され、メッセージの受信時に `receiveMessage` 関数が実行されます。

```
window.addEventListener("message", receiveMessage, false);
```

次のセクションから、`event` という 1 つのパラメータを含む `receiveMessage` 関数が開始されます。

```
function receiveMessage(event)
```

次のセクションでは、`event` のデータが `string` であることが確認されます。

```
if(typeof event.data === 'string')
```

次のセクションは、この文字列に `NAVIGATE` が含まれるかどうかを確認します。

```
if(event.data.indexOf('NAVIGATE') >= 0)
```

次のセクションは、メッセージテキストを解析するコードです。メッセージは、ドリルバックを実行する WebFOCUS プロシジャから発信されます。この例では、次のように記述されます。'`ACTION=NAVIGATE;URL=| |SF_URL;`

```
var params = event.data.split(';');  
  
    var action_tokens = params[0].split('=');  
    var url_tokens = params[1].split('=');  
    redirect(url_tokens[1]);
```

次のセクションは、`<apex:actionFunction name="redirect">` で定義されたりダイレクトアクションを実行し、ドリルバックする URL を渡します。

```
redirect(url_tokens[1]);
```

これは、Apex クラスで定義された `redirectToOppsPage` 関数を呼び出します (491 ページの「[Apex クラスの構成](#)」を参照)。

次のセクションでは、iframe の ID および iframe にコンテンツを追加するために実行するソースが定義されます。

```
<iframe id="wf_dashboard" src="https://server:port/ibi_apps/run.bip?  
BIP_REQUEST_TYPE=BIP_LAUNCH&BIP_folder=IBFS%253A%252FWFC%252FRepository  
%252FRetail_Samples%252F&BIP_item=sfdc_page_for_drillback" style="width:  
100%;">
```

次のセクションでは、WebFOCUS コンテンツの `innerHeight` に基づいて iframe のサイズを調整するために使用する別の JavaScript 関数が定義されます。

```
<script type="text/javascript">
  function resize_iframe()
  {
    document.getElementById('wf_dashboard').height =
window.innerHeight-30;
  }
  window.onresize = function (event)
  {
    console.log('resizing ' + window.innerHeight);
    resize_iframe();
  }

  resize_iframe();

```

### Apex クラスの構成

次の Apex クラスは、Visualforce ページで呼び出され、`opps_url` メソッドおよび `redirectToOppsPage` 関数を定義します。

```
public class PageReferenceController {

  public String opps_url {get; set;}

  public PageReference redirectToOppsPage() {
    PageReference pageRef;
    pageRef = new PageReference(opps_url);
    pageRef.setRedirect(true);
    return pageRef;
  }
}

```

この関数は、`opps_url` で設定された URL へのドリルバックを実行します。具体的には、`opps_url` の値を使用してページ参照を定義し、関数の呼び出し元である Visualforce ページにこのページ参照を返します。

### WebFOCUS プロシジャの構成

ここでは、WebFOCUS プロシジャの例について説明します。ユーザはこれをモデルとして使用することができます。

```

DEFINE FILE retail_samples/wf_retail_lite ADD
  OPP_ID/A255V=IF WF_RETAIL_LITE.WF_RETAIL_PRODUCT.PRODUCT_CATEGORY EQ
'Accessories' THEN '0064C0000031IAsQAM'
  ELSE IF WF_RETAIL_LITE.WF_RETAIL_PRODUCT.PRODUCT_CATEGORY EQ 'Camcorder'
THEN '0064C0000031IBCQA2'
  ELSE IF WF_RETAIL_LITE.WF_RETAIL_PRODUCT.PRODUCT_CATEGORY EQ 'Computers'
THEN '0064C0000031IBHQA2'
  ELSE IF WF_RETAIL_LITE.WF_RETAIL_PRODUCT.PRODUCT_CATEGORY EQ 'Media
Player' THEN '0064C0000031IBbQAM'
  ELSE IF WF_RETAIL_LITE.WF_RETAIL_PRODUCT.PRODUCT_CATEGORY EQ 'Stereo
Systems' THEN '0064C0000031IBgQAM'
  ELSE IF WF_RETAIL_LITE.WF_RETAIL_PRODUCT.PRODUCT_CATEGORY EQ 'Televisions'
THEN '0064C0000031IBlQAM' ELSE '0064C0000031IBqQAM' ;

  SF_URL/A255V='https://ibi--wfdboard.lightning.force.com/lightning/r/
Opportunity/||OPP_ID|'|'/view' ;
  SF_POSTMESSAGE/A1024V = 'ACTION=NAVIGATE;URL='||SF_URL;
END

ENGINE INT CACHE SET ON
SET PAGE-NUM=NOLEAD
-DEFAULTH &WF_HTMLLENCODE=OFF;
SET HTMLLENCODE=&WF_HTMLLENCODE

SET ARGRAPHENGINE=JSCHART
SET EMBEDHEADING=ON
SET GRAPHDEFAULT=OFF
-DEFAULTH &WF_STYLE_UNITS='PIXELS';
-DEFAULTH &WF_STYLE_HEIGHT='405.0';
-DEFAULTH &WF_STYLE_WIDTH='770.0';
-DEFAULTH &WF_TITLE='WebFOCUS Report';
GRAPH FILE retail_samples/wf_retail_lite
SUM WF_RETAIL_LITE.WF_RETAIL_SALES.REVENUE_US
FST.SF_POSTMESSAGE AS 'SF_URL' NOPRINT
BY WF_RETAIL_LITE.WF_RETAIL_PRODUCT.PRODUCT_CATEGORY
ON GRAPH PCHOLD FORMAT JSCHART
ON GRAPH SET AUTOFIT ON
ON GRAPH SET GRWIDTH 1
ON GRAPH SET UNITS &WF_STYLE_UNITS
ON GRAPH SET HAXIS &WF_STYLE_WIDTH
ON GRAPH SET VAXIS &WF_STYLE_HEIGHT
ON GRAPH SET LOOKGRAPH PIE
ON GRAPH SET AUTOFIT ON
ON GRAPH SET STYLE *
*GRAPH_SCRIPT

setPieDepth(0);
setPieTilt(0);
setDepthRadius(0);
setPlace(true);
setPieFeelerTextDisplay(1);
setCurveFitEquationDisplay(false);

```

```

*END
INCLUDE=IBFS:/FILE/IBI_HTML_DIR/ibi_themes/Warm.sty,$
TYPE=REPORT, TITLETEXT=&WF_TITLE.QUOTEDSTRING, $
TYPE=DATA, COLUMN=N1, BUCKET=color, $
TYPE=DATA, COLUMN=N2, ALT='salesforce_redirector', TARGET='_self',
BUCKET=measure,
JAVASCRIPT=parent.parent.postMessage( \
    FST.SF_POSTMESSAGE \
    'https://ibi--wfdboard--c.cs61.visual.force.com' \
),
$
TYPE=DATA, COLUMN=N3, BUCKET=tooltip, $
*GRAPH_SCRIPT

setReportParsingErrors(false);
setSelectionEnableMove(false);
*GRAPH_JS_FINAL
"pieProperties": {
    "holeSize": "65%"
},
"agnosticSettings": {
    "chartTypeFullName": "Pie_Ring"
}

*END
ENDSTYLE
END

```

この WebFOCUS プロシジャの次のセクションでは、SF\_URL という名前の変数が定義されます。この変数は、Opportunity を表示するために SFDC が使用する URL フォーマットを指定します。

```
SF_URL/A255V='https://ibi--wfdboard.lightning.force.com/lightning/r/Opportunity/'||OPP_ID||'/view';
```

次のセクションでは、SF\_POSTMESSAGE という名前の変数が定義されます。この変数は、Visualforce ページのイベントリスナに渡されるメッセージです。

```
SF_POSTMESSAGE/A1024V = 'ACTION=NAVIGATE;URL='||SF_URL;
```

次のセクションでは、ドリルダウンが定義されます。これは JavaScript ドリルダウンです。

```

JAVASCRIPT=parent.parent.postMessage( \
    FST.SF_POSTMESSAGE \
    'https://ibi--wfdboard--c.cs61.visual.force.com' \
),

```

WebFOCUS コンテンツの親コンテナ、およびこのコンテナの親コンテナ (最上位コンテナ) にアクセスするには、parent.parent を使用する必要があります。

---

次に、このドリルダウンが `postMessage` を呼び出し、`SF_POSTMESSAGE` 変数のコンテンツおよび Visualforce ページの実行元の URL を渡します。

## WebFOCUS 埋め込み BI デモアプリケーション

WebFOCUS には、展開用として使用可能なデモアプリケーションが同梱されています。このアプリケーションを使用して、WebFOCUS BI コンテンツ、分析、機能を外部アプリケーションとして埋め込むことができます。WebFOCUS に付属のこの埋め込み BI デモアプリケーションを使用すると、iframe や Web サービスの埋め込みオプションの理解を深めることができます。

また、構成プロセスでは、WebFOCUS に導入された Trusted チケット認証機能を使用してシングルサインオン (SSO) を実装する方法についても学習します。この方法は、埋め込み BI アプリケーションを作成する開発者が検討する重要事項の 1 つです。





# 17

## WebFOCUS 埋め込み BI デモアプリケーション

ここでは、WebFOCUS に同梱されている埋め込み BI デモアプリケーションのインストール方法、構成方法、使用方法について説明します。

### トピックス

- 埋め込み BI デモアプリケーションのインストール
- 埋め込み BI デモアプリケーションの構成
- 埋め込み BI デモアプリケーション (Fintoso Financial) の使用
- 埋め込み BI に関する他の考慮事項
- 埋め込み BI デモアプリケーション (Fintoso Financial) のカスタマイズ
- トラブルシューティング
- 付録 - 埋め込み BI デモアプリケーションの詳細リクエスト/レスポンスフロー

### 埋め込み BI デモアプリケーションのインストール

ここでは、サンプルの埋め込みコンテンツ、サンプルユーザ (ffadv)、埋め込み BI デモアプリケーション (Fintoso Financial) をインストールする方法について説明します。

Fintoso Financial 埋め込み BI デモは、次のディレクトリに自動的にインストールされます。

```
<drive>:\¥ibi¥WebFOCUS82¥samples¥embedded_demo
```

ディレクトリには、この埋め込み BI デモで参照、使用される次のコンポーネントが格納されています。

- **embeddemo.war** 刷新されたアプリケーションの .war ファイルです。このファイルは、ユーザの Application Server (例、Apache Tomcat) で展開する必要があります。
- **fintoso\_domain\_CM\_v07.zip** WebFOCUS 環境に Fintoso Financial ドメインおよびサンプル財務データを展開する新しい変更管理パッケージです。
- **fintoso\_users.csv** 定義済みのサンプルユーザ ID (ffadv) を格納する CSV ファイルです。これは、Fintoso Financial 埋め込み BI デモアプリケーションへのログインに使用します。

これらのコンポーネントは、次の順序でインストールする必要があります。

1. サンプル埋め込みコンテンツ (fintoso\_domain\_CM\_v07.zip)
2. サンプル定義済みユーザ (ffadv) (fintoso\_users.csv)
3. アプリケーション .war ファイル (embeddemo.war)

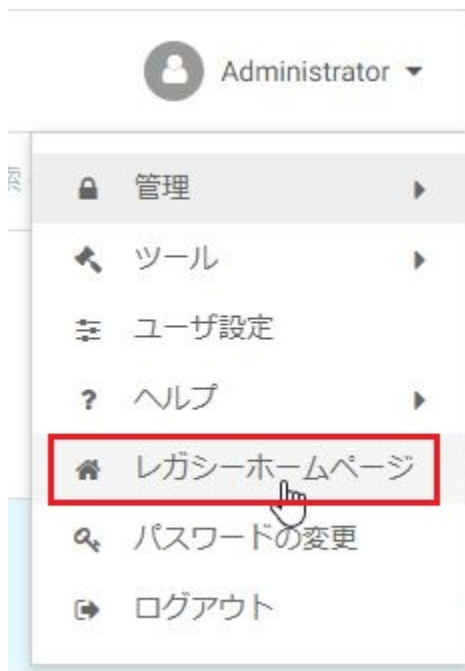
## サンプル埋め込みコンテンツのインストール

この「Fintoso Financial」埋め込み BI デモには、パフォーマンスを向上し、迅速に展開するための新しい財務データセットが付属しています。埋め込み BI デモアプリケーション用のデータソースとして WF\_RETAIL を使用する必要はありません。代わりに、サンプル財務データが格納された一連の FTM ファイルが、新しい変更管理パッケージとして同梱されています (fintoso\_domain\_CM\_v07.zip)。この新しい変更管理パッケージを展開すると、新しい埋め込み BI デモアプリケーションで使用されるデータのすべてが同時に展開されます。

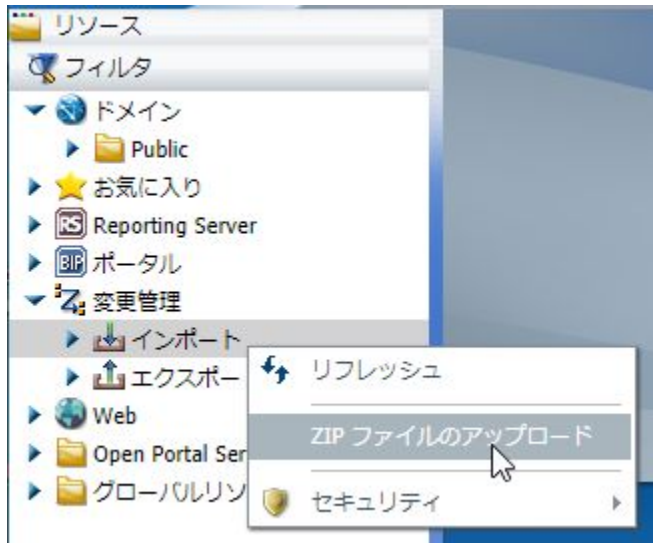
## 手順

### サンプル埋め込みコンテンツをインストールするには

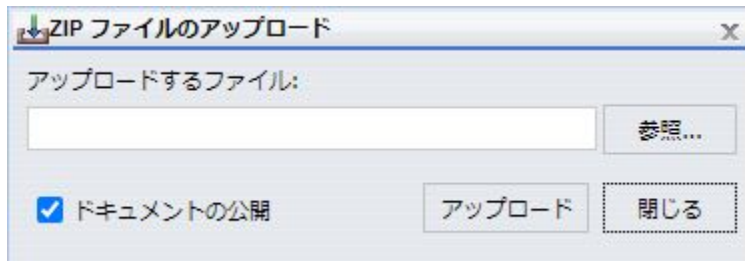
1. 管理者として WebFOCUS にログインします。
2. 下図のように、WebFOCUS ホームページ右上の [Administrator] をクリックし、メニューから [レガシーホームページ] を選択します。



3. 左側ウィンドウのリソースツリーで [変更管理] を展開し、[インポート] ノードを右クリック後、コンテキストメニューから [ZIP ファイルのアップロード] を選択します。



下図のように、[ZIP ファイルのアップロード] ダイアログボックスが開きます。

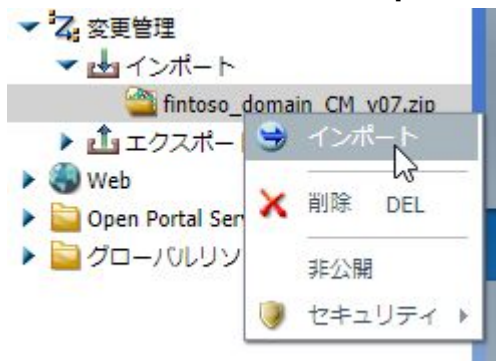


4. 次のディレクトリを参照し、fintoso\_domain\_CM\_v07.zip ファイルを選択します。  
`<drive>:\¥WebFOCUS82¥samples¥embedded_demo¥fintoso_domain_CM_v07.zip`
5. [アップロード] をクリックします。

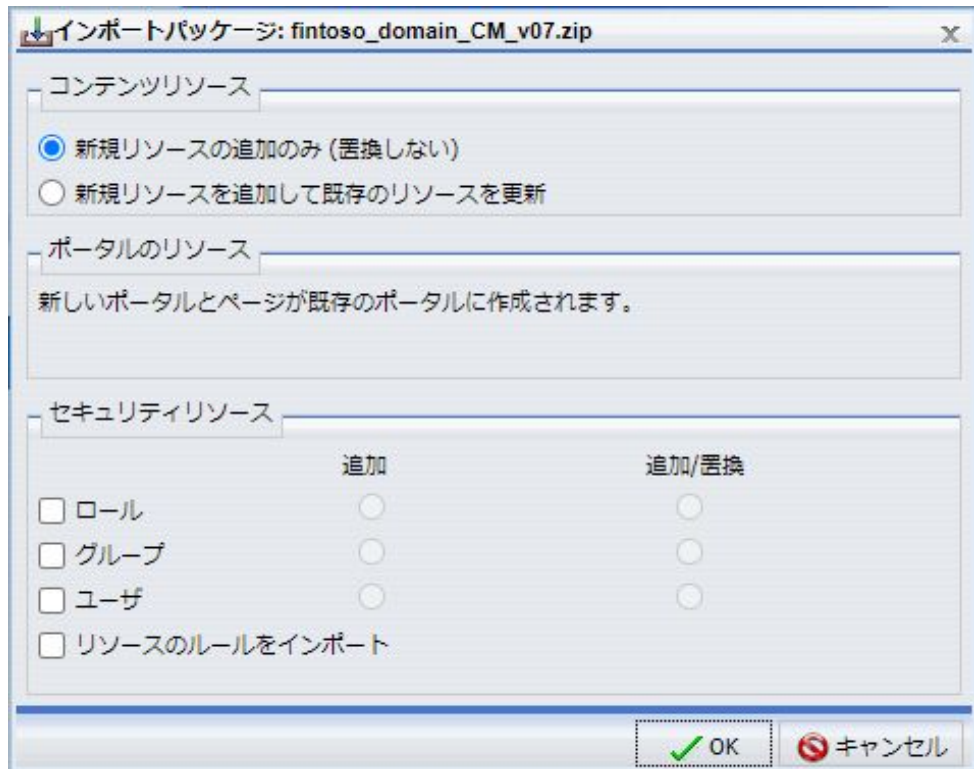
次のメッセージが表示されます。



6. [OK] をクリックします。
7. 下図のように、[インポート] ノードで [fintoso\_domain\_CM\_v07.zip] ファイルを右クリックし、コンテキストメニューから [インポート] を選択します。



下図のように、[インポートパッケージ：fintoso\_domain\_CM\_v07.zip] ダイアログボックスが開きます。

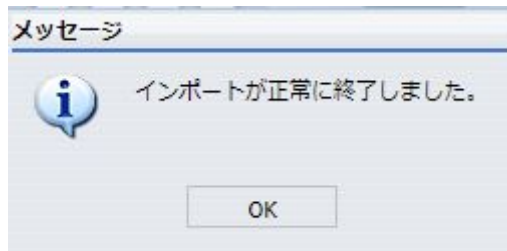


8. [コンテンツリソース] エリアで、[新規リソースの追加のみ (置換しない)] を選択します。
9. [セキュリティリソース] エリアで、次のオプションを選択します。
  - a. [グループ] を選択し、このグループのリソースで [追加] を選択します。
  - b. [リソースのルールをインポート] のチェックをオンにします。
10. [OK] をクリックします。

下図のように、「シナリオをインポート中」というメッセージが表示されます。



このプロセスが完了すると、下図のように「インポートが正常に終了しました」というメッセージが表示されます。



11. [OK] をクリックします。
12. 下図のように、WebFOCUS ホームページに戻ると、[Fintoso Financial] が新規ドメインとして表示されています。



### サンプルユーザ (ffadv) のインポート

埋め込み BI デモアプリケーション (Fintoso Financial) には、定義済みのサンプルユーザ (ffadv) を格納する CSV ファイルが同梱されています。ユーザは、ffadv ユーザ ID を使用して、Fintoso Financial 埋め込み BI デモにログインする必要があります。

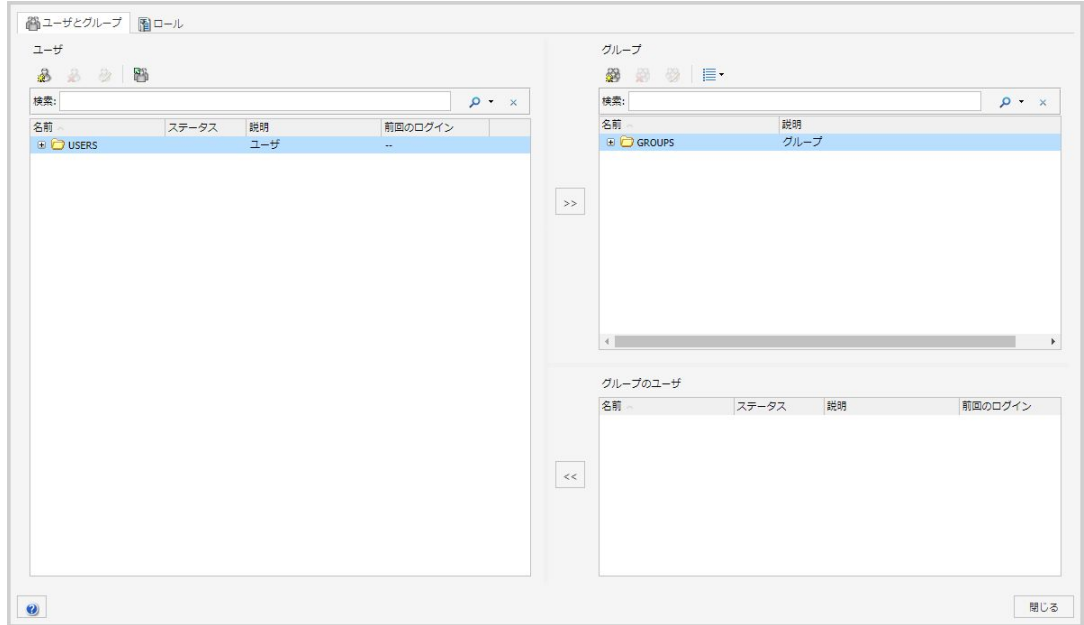
## 手順

セキュリティセンターを使用してサンプルユーザ (ffadv) をインポートするには

1. 下図のように、WebFOCUS ホームページ右上の [Administrator] をクリックし、メニューから [管理]、[セキュリティセンター] を順に選択します。

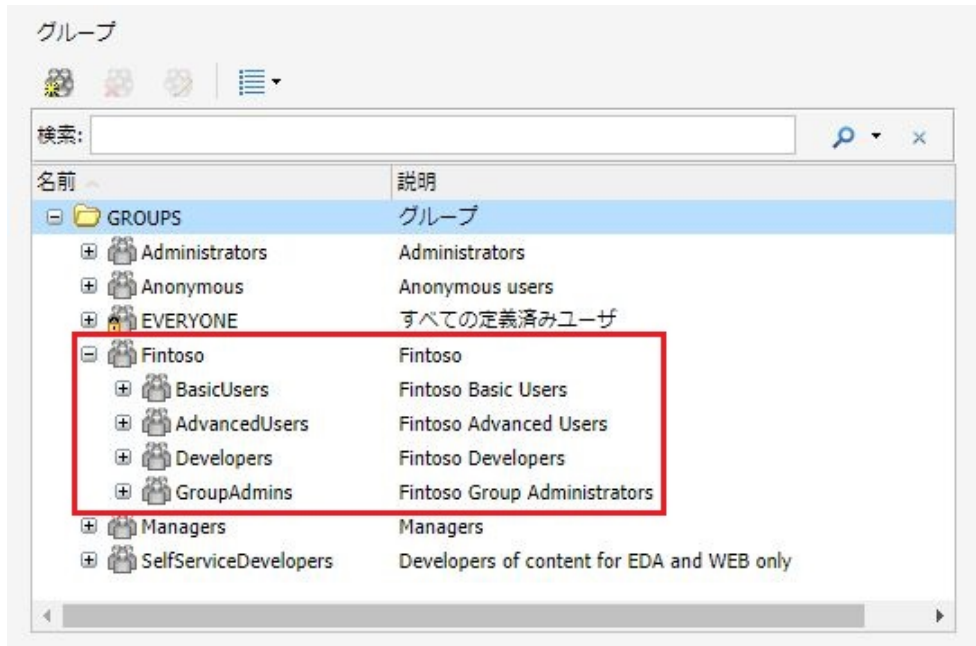


下図のように、セキュリティセンターが開きます。





2. 下図のように、[グループ] セクションで [Fintoso] グループの主ノードを展開します。

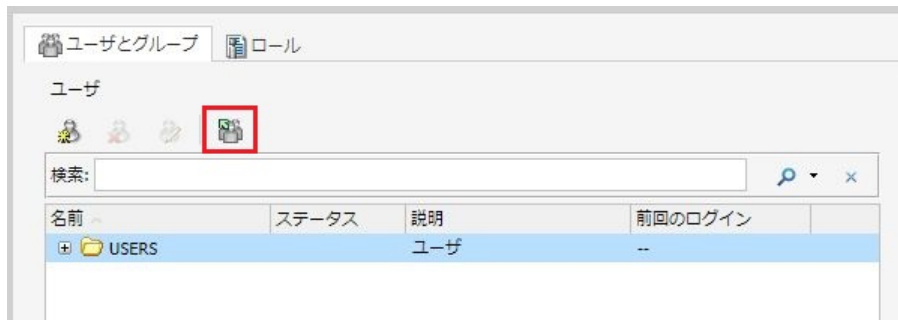


次のグループが利用可能であることを確認します。

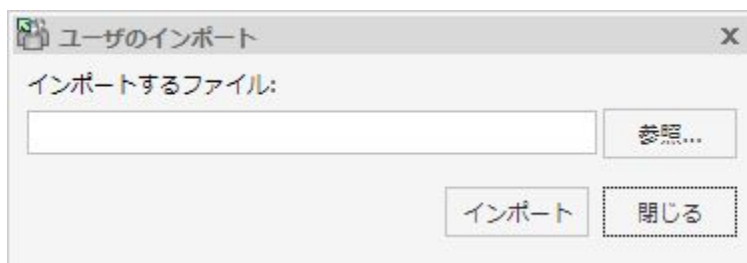
- AdvancedUsers
- BasicUsers
- Developers
- GroupAdmins

**注意：**これらの新しいグループは、WebFOCUS 環境への変更管理パッケージ (fintoso\_domain\_CM\_v07.zip) のインポート時に自動的に作成されます。

3. 下図のように、[ユーザ] セクションで [ユーザのインポート] をクリックします。



下図のように、[ユーザのインポート] ダイアログボックスが開きます。

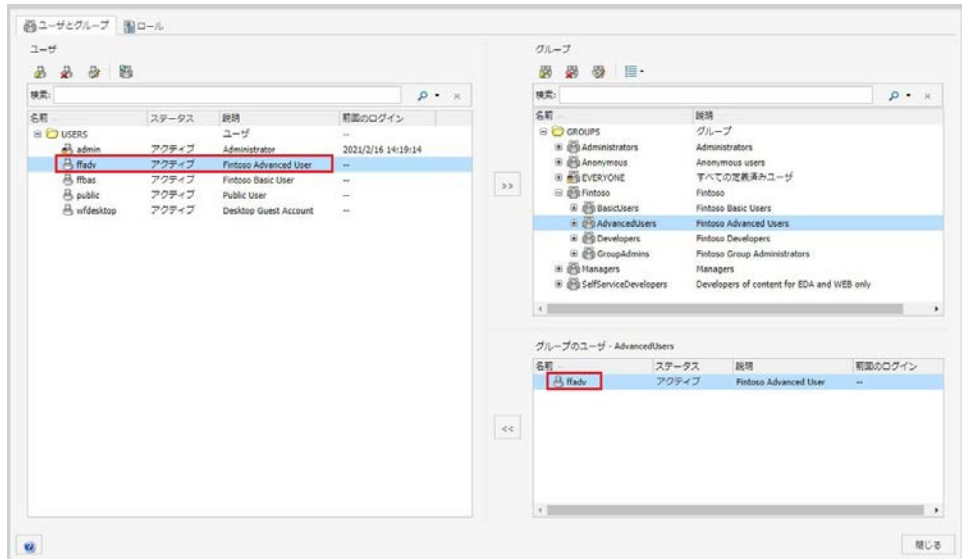


4. 次のディレクトリを参照し、fintoso\_users.csv ファイルを選択します。  
<drive>:¥WebFOCUS82¥samples¥embedded\_demo¥fintoso\_users.csv
5. [インポート] をクリックします。  
次のメッセージが表示されます。



6. [OK] をクリックします。

セキュリティセンターが更新され、下図のように、インポートした新しいユーザ ID (ffadv) が [ユーザ] および [グループ] セクションにそれぞれ表示されます。



7. 右下の [閉じる] をクリックし、セキュリティセンターを閉じます。

## 埋め込み BI デモアプリケーション (Fintoso Financial) のインストール

この埋め込み BI デモアプリケーション (Fintoso Financial) は、Bootstrap、JSP、Java、JavaScript を使用して作成されています。このアプリケーション全体は Web アーカイブファイル (embeddemo.war) としてパッケージ化されているため、あらゆる Servlet コンテナまたは Java Application Server に簡単に展開することができます。また、このアプリケーションを編集して、さまざまな埋め込みシナリオを理解することができます。詳細は、538 ページの「[埋め込み BI デモアプリケーション \(Fintoso Financial\) のカスタマイズ](#)」を参照してください。

### 手順

#### 埋め込み BI デモアプリケーション (Fintoso Financial) をインストールするには

1. WebFOCUS インストールディレクトリ下で、embeddemo.war ファイルが格納されている次のフォルダに移動します。

```
<drive>:\ibi\WebFOCUS82\samples\embedded_demo\embeddemo.war
```

2. Application Server に関する次の手順に従って、Application Server 上に embeddemo.war ファイルを展開します (例、Apache Tomcat)。

**注意：**最終的にクロスオリジンシナリオを理解する目的で埋め込み BI デモアプリケーションを使用する場合でも、同一オリジンシナリオでデモアプリケーションを正しく展開することをお勧めします。つまり、embeddemo.war ファイルの最初の展開先は、WebFOCUS のホスト先 Application Server にします。

次の手順では、Apache Tomcat Application Server (WebFOCUS インストールパッケージに付属) のインスタンスに embeddemo.war ファイルを展開する方法を説明します。

- a. embeddemo.war ファイルをコピーし、WebFOCUS インストールディレクトリ下の次のフォルダに貼り付けます。

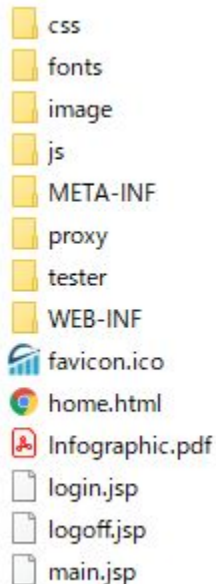
```
<drive>:\ibi\tomcat\webapps
```

Apache Tomcat を停止して再起動する必要はありません。

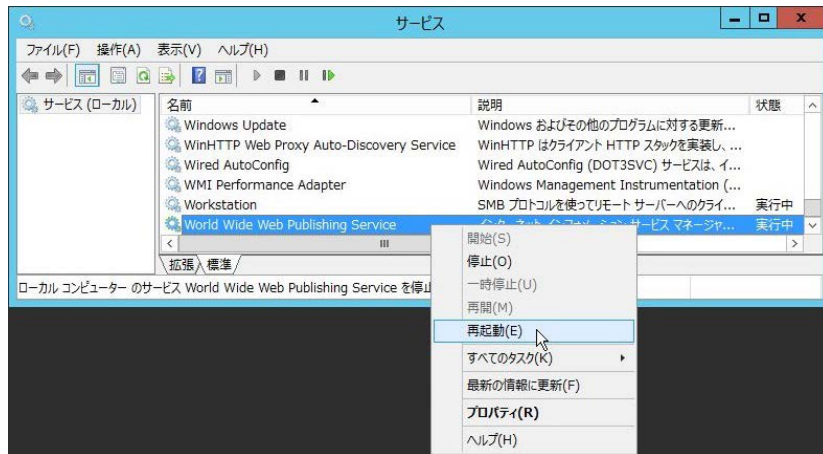
- b. 数秒後に、「embeddemo」という新しいサブフォルダが自動的に作成されます。以下はその例です。

```
<drive>:\ibi\tomcat\webapps\embeddemo
```

このサブフォルダは、embeddemo.war ファイルの展開済みコピーを表し、下図のような構造になります。



3. Microsoft Internet Information Services (IIS) の背後で WebFOCUS を Apache Tomcat Application Server 上に展開している場合は、埋め込み BI デモアプリケーションへのリクエストを IIS 経由で Apache Tomcat に転送するよう Jakarta コネクタ構成を変更する必要があります。
  - a. Windows オペレーティングシステムの次のフォルダに移動します。  
`C:\Program Files\Apache Software Foundation\Jakarta Isapi Redirector\conf`
  - b. テキストエディタで `uriworkermap.properties` ファイルを開きます。
  - c. このファイルの任意の位置に次の 2 行を追加します。  
`/embeddemo/*=ajp13w`  
`/embeddemo=ajp13w`
  - d. `uriworkermap.properties` ファイルを保存します。
  - e. 下図のように、Windows で World Wide Web Publishing Service を再起動します。



### 必要な HTML5 グラフ拡張機能

Fintoso Financial 埋め込み BI デモを使用して一部のグラフを正しく表示するためには、次の HTML5 グラフ拡張機能を WebFOCUS 環境にインストールする必要があります。

- スパークライン KPI グラフ (com.ibi.kpi.sparkline)
- ワールドコロプレス、バブルマップ (com.ibi.map.world)

これらの拡張機能は、Information Builders の GitHub サイトの拡張機能セクションに公開されており、ここからダウンロードおよびインストールできます。HTML 5 グラフ拡張機能のインストールについての詳細は、『WebFOCUS セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

## 埋め込み BI デモアプリケーションの構成

ここでは、埋め込み BI デモアプリケーション (Fintoso Financial) を構成する方法について説明します。

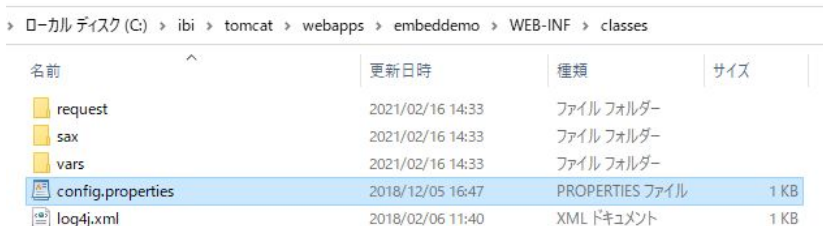
**ヒント：**クロスオリジンシナリオ (デュアル Web ホスト) を構成する予定の場合でも、最初に同一オリジンシナリオ (シングル Web ホスト) を正しく構成することをお勧めします。

### バックチャネルチケットリクエストの構成

埋め込み BI デモアプリケーションから送信されるバックチャネルチケットリクエストの構成は、次のフォルダに格納されている config.properties ファイルで指定します。

`embeddemo¥WEB-INF¥classes¥config.properties`

たとえば、Apache Tomcat Application Server (WebFOCUS インストールパッケージに付属) に埋め込み BI デモアプリケーション (embeddemo.war) ファイルを展開した場合、config.properties ファイルは、下図に示すフォルダパスにあります。



名前	更新日時	種類	サイズ
request	2021/02/16 14:33	ファイル フォルダ	
sax	2021/02/16 14:33	ファイル フォルダ	
vars	2021/02/16 14:33	ファイル フォルダ	
config.properties	2018/12/05 16:47	PROPERTIES ファイル	1 KB
log4j.xml	2018/02/06 11:40	XML ドキュメント	1 KB

以下は、デフォルトのファイル構成を示しています。

```
WF_TICKET_PROVIDER_URL=http://localhost:8080/ibi_apps
WF_TRUSTED_APPLICATION_NAME=IBIEmbeddingDemo
WF_HOST=http://localhost:8080/ibi_apps
USERIDS=ffadv
```

使用する環境の要件に応じて、WF\_TICKET\_PROVIDER\_URL 設定に次の変更を加えます。

1. バックチャネルリクエストで HTTP の代わりに HTTPS を使用して WebFOCUS にアクセスする必要がある場合は、プロトコル値を HTTPS に変更します。

2. 埋め込み BI デモアプリケーション (Fintoso Financial) を WebFOCUS のインストール先と異なるマシンに展開する場合は、`localhost` を変更し、埋め込み BI デモアプリケーションがバックチャネルで WebFOCUS にアクセスする Web ホストに設定します。

**注意：**同一オリジンシナリオを展開する場合は、ホスト名の設定を `localhost` のままにします。

3. バックチャネルリクエストで 8080 以外のポート番号を使用して WebFOCUS にアクセスする必要がある場合は、ポート番号をその値に変更します。  
たとえば、同一オリジンシナリオを展開し、ポート 80 に Apache Tomcat をインストールした場合、値から `:8080` を削除します。
4. 標準外のコンテキストパス (例、`/ibi_apps82`) に WebFOCUS を展開した場合は、コンテキストパス値をその値に変更します。
5. `config.properties` ファイルに追加した変更を保存します。

現時点では、`WF_TRUSTED_APPLICATION_NAME` の値は `IBIEmbeddingDemo` のままにします。信頼済みアプリケーション名は、Trusted チケットリクエストで渡されます。これにより、WebFOCUS がそのリクエストの IP アドレスを確認する際に、参照する信頼済みホスト構成が識別されます。

## WebFOCUS の構成

ここでは、WebFOCUS で Trusted チケット認証を有効にする方法について説明します。使用する展開シナリオによっては、Trusted チケット認証の再構成が必要になる場合があります。クロスオリジン (デュアル Web ホスト) を構成する場合は、追加のクロスオリジン設定の構成が必要です。WebFOCUS でのクロスオリジン設定の構成および使用についての詳細は、『WebFOCUS セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

## 手順

### WebFOCUS を構成するには

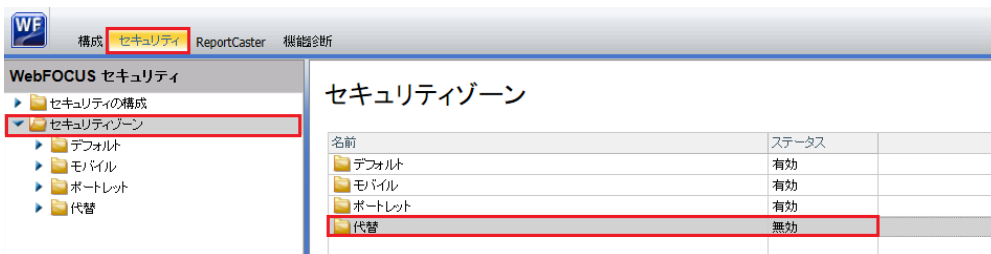
1. WebFOCUS に管理者としてログインします。

2. 下図のように、最上位メニューの [管理] をクリックし、ドロップダウンリストから [管理コンソール] を選択します。



WebFOCUS 管理コンソールが表示されます。

3. 下図のように、[セキュリティ] タブをクリックし、左側ウィンドウの [セキュリティゾーン] フォルダノードをクリックします。



4. 代替セキュリティゾーン (上図でハイライト表示された箇所) の [無効] または [有効] を確認します。

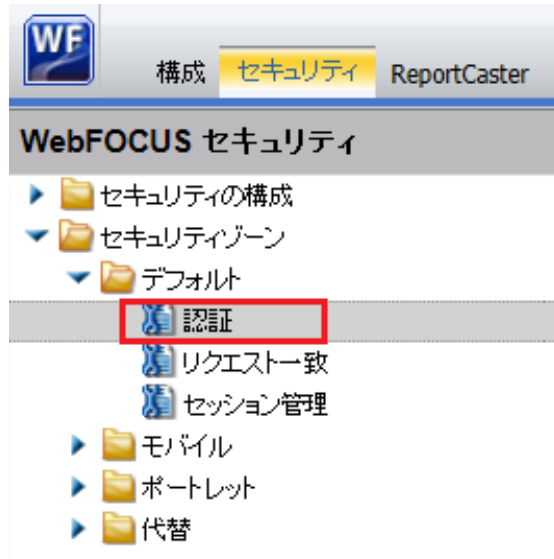
WebFOCUS 埋め込み BI をサポートするために代替ゾーンを有効にする必要はありませんが、管理者が WebFOCUS にアクセスする代替方法としてこのゾーンを有効にしている場合があります。



代替セキュリティゾーンのステータスが [無効] の場合は、手順 5 へ進みます。

代替セキュリティゾーンのステータスが [有効] の場合は、Trusted チケットリクエストおよび Trusted ログインリクエストの処理に代替セキュリティゾーンを使用するかどうかを決定する必要があります。使用する場合は、代替セキュリティゾーンで Trusted チケット認証を有効にし、これらのリクエストが処理されるよう正しく構成する必要があります。これ以降の構成手順は、デフォルトセキュリティゾーンでの操作方法を記載しています。これらの手順は、代替セキュリティゾーン (有効にしている場合) にも適用できるほか、埋め込み BI デモアプリケーションに関連するリクエストの処理にも適用されます。

5. 下図のように、[セキュリティゾーン]、[デフォルト] を順に展開し、[認証] をクリックします。



6. 下図のように、[認証] ウィンドウで [Trusted チケット認証] を右クリックし、コンテキストメニューから [有効にする] を選択します。

## 認証

名前	ステータス	
HTTP X.509 認証	無効	
JEE コンテナベース認証	✓有効	
リクエストヘッダ認証	無効	
CAS 認証	無効	
フォームベース認証	無効	
HTTP Basic 認証	無効	
SAML 認証	無効	
Kerberos/SPNEGO 認証	無効	
OpenID Connect 認証	無効	
Remember Me 認証	無効	
匿名認証	✓有効	
Trusted チケット認証	無効	<div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">           有効にする            編集...         </div>

下図のように、[Trusted チケット認証] のステータスが [有効] になります。

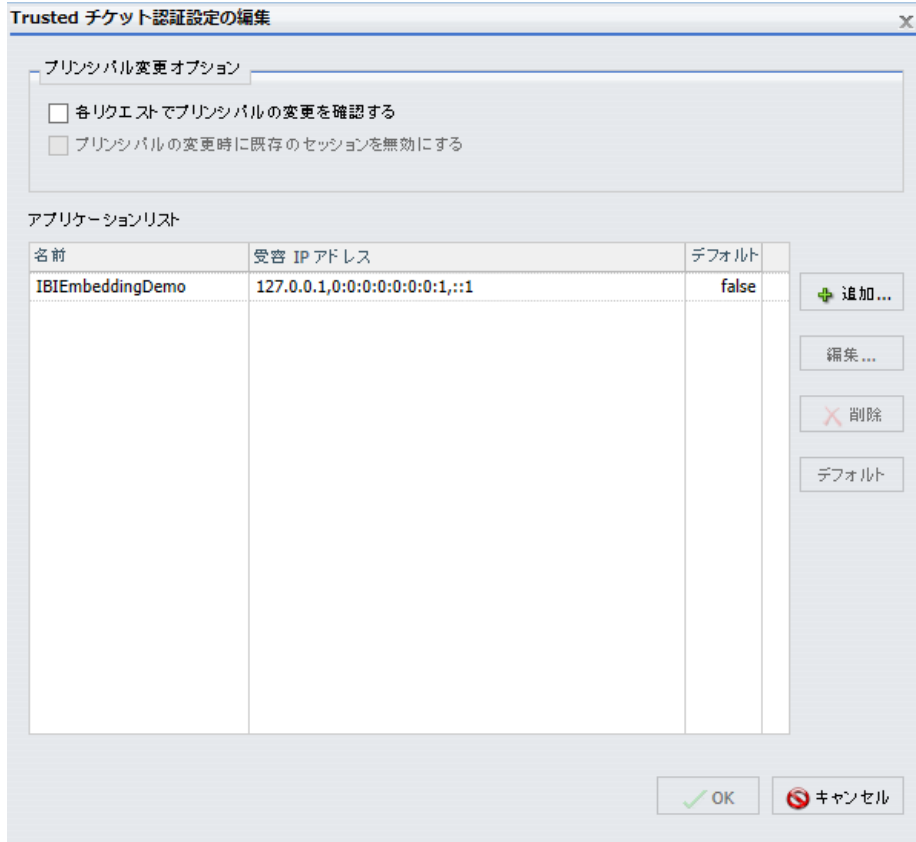
Remember Me 認証	無効
匿名認証	✓有効
Trusted チケット認証	✓有効

7. 下図のように、[Trusted チケット認証] を再び右クリックし、コンテキストメニューから [編集] を選択します。

Remember Me 認証	無効
匿名認証	✓有効
Trusted チケット認証	✓有効

無効にする  
 編集...

下図のように、[Trusted チケット認証設定の編集] ダイアログボックスが開きます。



信頼済みアプリケーション名は [IBIEmbeddingDemo] です。また、[受容 IP アドレス] リストでは、localhost IP アドレスの 3 つの形式 (バージョン 4 (IPv4)、バージョン 6 (IPv6)、IPv6 ループバック) が定義されています。これらの設定が WebFOCUS で使用され、Trusted チケットリクエストの送信元が認証済みサーバであるかどうかที่กำหนดされます。

8. config.properties ファイルで (510 ページの「バックチャネルチケットリクエストの構成」を参照)、localhost が WF\_TICKET\_PROVIDER\_URL 設定値として指定され、IBIEmbeddingDemo が WF\_TRUSTED\_APPLICATION\_NAME 設定値として指定されている場合は、[Trusted チケット認証設定の編集] ダイアログボックスで現在の設定を変更する必要はありません。

[キャンセル] をクリックし、手順 10 へ進みます。

- 
9. `localhost` が `WF_TICKET_PROVIDER_URL` 設定値として指定されている場合は、埋め込み BI デモアプリケーションの実行先とする IP アドレスを特定し、その IP アドレスを [Trusted チケット認証設定の編集] ダイアログボックスの [受容 IP アドレス] リストに追加する必要があります。

ヒント：IP アドレスが不明で、誤った値が構成されている場合は、埋め込み BI デモアプリケーション (Fintoso Financial) へのログイン後にメッセージが表示され、Trusted チケットが許可されていなかったことが示されます。問題を調査するには、WebFOCUS `websecurity` ログを確認します。ログメッセージを確認し、リクエスト元サーバの IP アドレスが [受容 IP アドレス] リストに追加されていないことが判明した場合は、そのログメッセージから IP アドレスをコピーし、[Trusted チケット認証設定の編集] ダイアログボックスの [受容 IP アドレス] リストに追加した上で再度ログインします。

10. [OK] をクリックして要件に同意し、Application Server を再起動します (例、Apache Tomcat)。
11. WebFOCUS 管理コンソールを閉じる前に、上記で有効にした Trusted チケット認証プロバイダをダブルクリックします。

下図のように、[Trusted チケット認証設定の編集] ダイアログボックスが開きます。



信頼済みアプリケーションとして [IBIEmbeddingDemo] が事前に構成されていること、およびこのアプリケーション名が埋め込み BI デモアプリケーションの config.properties ファイルの値に一致していることを再確認します。

WebFOCUS では、この信頼済みアプリケーション情報が事前に構成されていますが、上記の手順に従って有効にしない限り、この情報は使用されません。

12. [キャンセル] をクリックし、WebFOCUS 管理コンソールを閉じます。
13. Application Server を再起動します (例、Apache Tomcat)。

WebFOCUS で Trusted チケット接続を受容する準備ができました。

## Trusted チケットのテストページの使用

ここでは、有効な引数を使用して Trusted チケットのテストページを構成し、次に無効な引数を使用してこのページの機能をテストする方法について説明します。

### 手順

#### Trusted チケットのテストページを構成するには

1. WebFOCUS 管理コンソールから [セキュリティ] タブをクリックし、[Trusted チケット認証] のチェックをオンにして、Trusted チケット認証をデフォルトゾーンで有効にします。

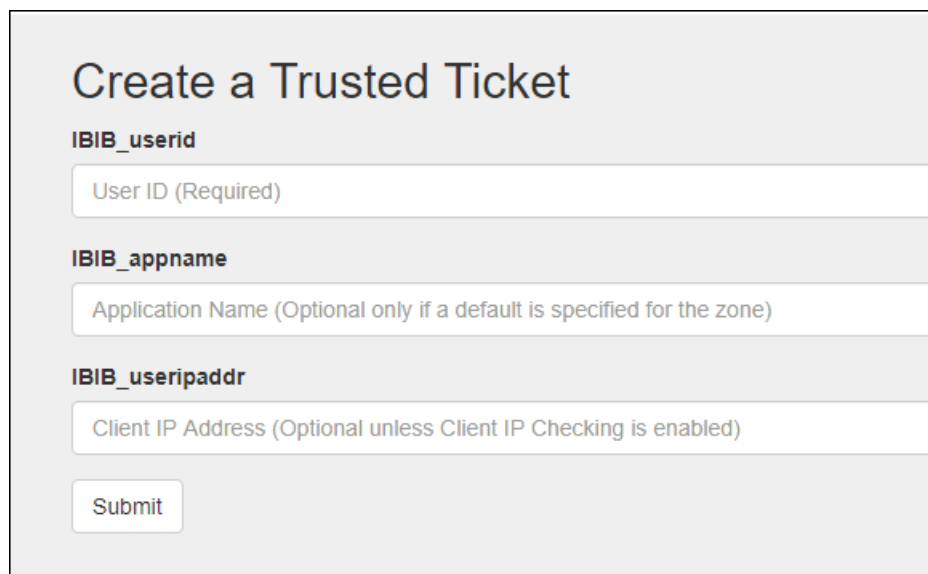
代替ゾーンを使用する場合は、Trusted チケット認証を代替ゾーンで有効にします。

2. 新しいブラウザタブに、次の URL を入力します。

`http://localhost:8080/embeddemo/tester/create_trusted_ticket.jsp`

3. 下表に示すように、次の値を入力します。

パラメータ	値
IBIB_appname:	IBIEmbeddingDemo



**Create a Trusted Ticket**

**IBIB\_userid**  
User ID (Required)

**IBIB\_appname**  
Application Name (Optional only if a default is specified for the zone)

**IBIB\_useripaddr**  
Client IP Address (Optional unless Client IP Checking is enabled)

Submit

Trusted チケットが返され、ブラウザに表示されます。

4. Ctrl+C キーを使用して、このチケットをクリップボードにコピーします。

5. ブラウザに、次の URL を入力します。

http://localhost:8080/embeddemo/tester/test\_trusted\_ticket.jsp

6. 下表に示すように、次の値を入力します。

パラメータ	値
IBIB_ticket:	<Ctrl+v キーを使用してクリップボードから貼り付けてください>
IBIB_appname:	IBIEmbeddingDemo

これにより、ibfsession とともに XML レスポンスがブラウザに返され、ログインが成功したことが示されます。

## 手順

### 無効な引数を使用して Trusted チケットのページをテストするには

無効な引数を使用して Trusted チケットのページをテストするには、次の手順を実行します。

1. 下図のように、create\_trusted\_ticket.jsp の実行時に、IBIB\_appname テキストボックスに無効な名前を入力します。

## Test a Trusted Ticket Signon Request

**IBIB\_ticket**

**IBIB\_appname**

**IBIB\_Destination**

Your IP Address is 172.30.234.118.

この結果、チケット値「-1」が返されます。

2. 次のテストでは、`securitysettings.xml` で、`[TrustedTicketPreferences]` セクションの `[userIPAddrCheck]` の値を `true` に設定し、Apache Tomcat を再起動します。
3. `[IBIB_useripaddr]` に `localhost` 以外の IP アドレスを入力します。

#### 注意

- ❑ 予期したとおりにチケットが返されます。
  - ❑ `Ctrl+C` キーを使用して、このチケットをクリップボードにコピーすることができます。
4. このチケットで、`test_trusted_ticket.jsp` を実行します。

テストは失敗し、403 エラーメッセージが返されます。`websecurity.log` ファイルには、次のメッセージが表示されます。

```
[2017-08-16 13:23:52,512] WARN [http-nio-8080-exec-8:wfsecurity]
:unknown: - [Zone: main]Trusted sign on request rejected, Key
verification failure
```

## 埋め込み BI デモアプリケーション (Fintoso Financial) の使用

ここでは、埋め込み BI デモアプリケーション (Fintoso Financial) へのアクセス方法および使用方法について説明します。また、このアプリケーションの内部 (バックエンド) 機能についても説明します。

### 埋め込み BI デモアプリケーションへのアクセスと実行

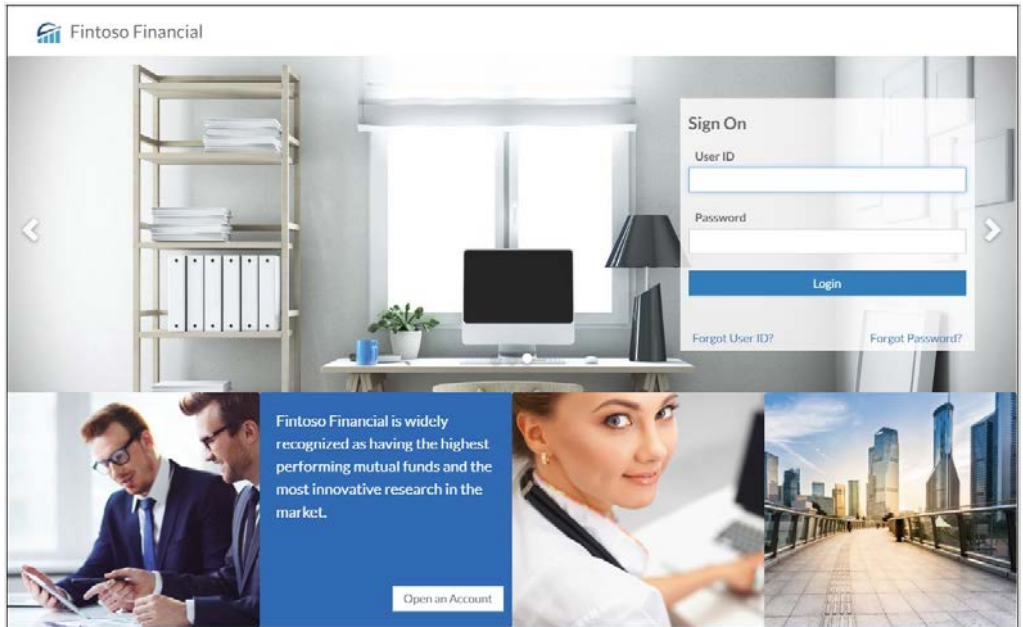
1. Web ブラウザを起動し、埋め込み BI デモアプリケーション (Fintoso Financial) の URL を入力します。

デモアプリケーションにアクセスする際は、Web ブラウザのアクセス元に応じてさまざまな方法があります。たとえば、次の方法がサポートされます (必要に応じてポート番号を追加)。

- ❑ `http://localhost/embeddemo`
- ❑ `http://host/embeddemo`
- ❑ `http://host.domain.com/embeddemo`



この時点では Fintoso Financial アプリケーションとのセッションが確立されていないため、下図のように、Fintoso Financial ログインページにリダイレクトされます。



2. 有効なユーザ名を入力します (例、ffadv)。

**注意:** これは WebFOCUS へのログインではなく、[Password] テキストボックスに入力した値はすべて、デモアプリケーションでは無視されます。入力したユーザ名は、単に login.jsp ファイルの 5 行目で定義されたリストのユーザとして確認されます。このファイルは、次のフォルダに格納されています。

`embeddemo¥login.jsp`

たとえば、Apache Tomcat Application Server (WebFOCUS インストールパッケージに付属) に埋め込み BI デモアプリケーション (embeddemo.war) ファイルを展開した場合、config.properties ファイルは、下図に示すフォルダパスにあります。

ローカルディスク (C:) > ibi > tomcat > webapps > embeddemo > WEB-INF > classes

名前	更新日時	種類	サイズ
request	2021/02/16 14:33	ファイル フォルダ	
sax	2021/02/16 14:33	ファイル フォルダ	
vars	2021/02/16 14:33	ファイル フォルダ	
config.properties	2018/12/05 16:47	PROPERTIES ファイル	1 KB
log4j.xml	2018/02/06 11:40	XML ドキュメント	1 KB

config.properties ファイルにユーザリストを追加することも、ユーザリストを変更することもできます。以下はその例です。

```
WF_TICKET_PROVIDER_URL=http://localhost:8080/ibi_apps
WF_TRUSTED_APPLICATION_NAME=IBIEmbeddingDemo
WF_HOST=http://localhost:8080/ibi_apps
USERIDS=ffadv
```

変更は即座に反映され、Application Server を再起動する必要はありません。

入力するユーザ名は、WebFOCUS BI Portal へのアクセス権限と、埋め込み BI デモアプリケーションで構成された Web サービスコンテンツへのアクセス権限を所有する有効な WebFOCUS ユーザアカウントにする必要があります。

### 3. [Login] をクリックします。

デモアプリケーションは、入力したユーザ名の Trusted チケットリクエストを送信します。次に Web ブラウザの WebFOCUS セッション Cookie を取得するために、このチケットを使用して WebFOCUS Trusted ログインリクエストを送信します。詳細は、545 ページの「付録 - 埋め込み BI デモアプリケーションの詳細リクエスト/レスポンスフロー」を参照してください。

下図のように、Fintoso Financial 埋め込み BI デモアプリケーションのホームページが表示されます。

The screenshot displays the Fintoso Financial dashboard with the following sections:

- Current Forecast:** A weather icon and text stating "Your current strategy is likely to produce retirement income that meets 80%-94% of your goal." Below this is a table:
 

Estimated Household Income	\$53,100
Household Income Goal	\$64,600
Income Gap	<b>-\$11,500</b>
- Me:** A table showing:
 

Savings Rate	10%
Account Balance	\$187,379.26

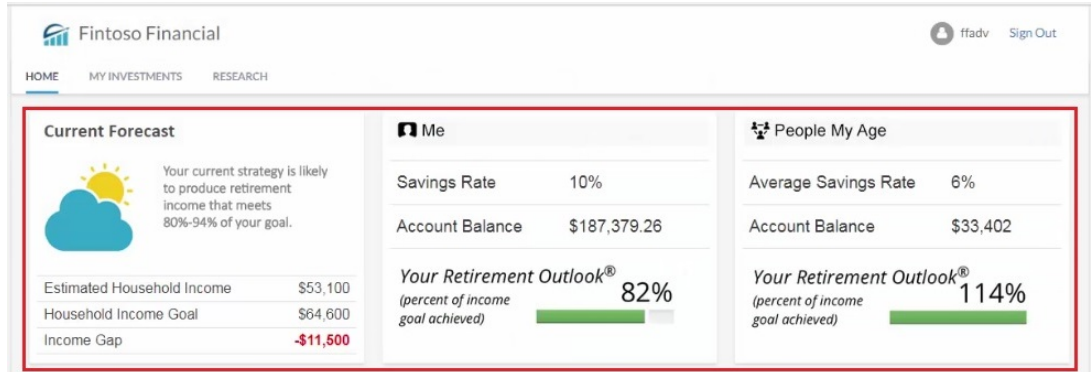
 Below is a progress bar for "Your Retirement Outlook®" at 82% (percent of income goal achieved).
- People My Age:** A table showing:
 

Average Savings Rate	6%
Account Balance	\$33,402

 Below is a progress bar for "Your Retirement Outlook®" at 114% (percent of income goal achieved).
- Analytics Workstation (Premium):** A card with a galaxy image, description: "Use state of the art data, reporting and visualization tools to analyze our fund data and your account data." Buttons: "Launch", "Learn more".
- Fund Analyzer (New!):** A card with a lightbulb image, description: "Our new FundAnalyzer allows you to analyze and compare hundreds of mutual funds and investment strategies." Buttons: "Launch", "Learn more".
- Go Paperless! (Free!):** A card with a hand holding a tablet image, description: "Enroll in our innovative new Interactive eStatement product that provides what-if analysis on your investments." Buttons: "Enroll", "View statement".

Fintoso Financial 埋め込み BI デモアプリケーションは、レスポンス Web デザイン機能を備えています。ブラウザやモバイルデバイスでの表示では、アプリケーションのサイズやレイアウトが自動的に調整されます。WebFOCUS と埋め込み BI デモアプリケーションの関係が動的に調整されたという点で、この動作を理解することは重要です。詳細は、536 ページの「レスポンス Web デザイン」を参照してください。

下図のように、3つのアカウントウィジェットが画面上部全体に表示されます。



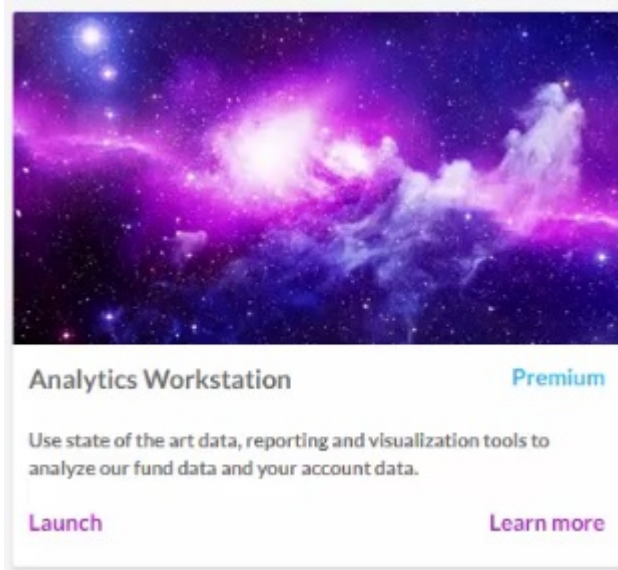
下図のように、中央および右側のフレームには、WebFOUS レポートを実行するウィジェット (Fund Analyzer および Go Paperless!) が表示されます。

The image shows two promotional widgets side-by-side:

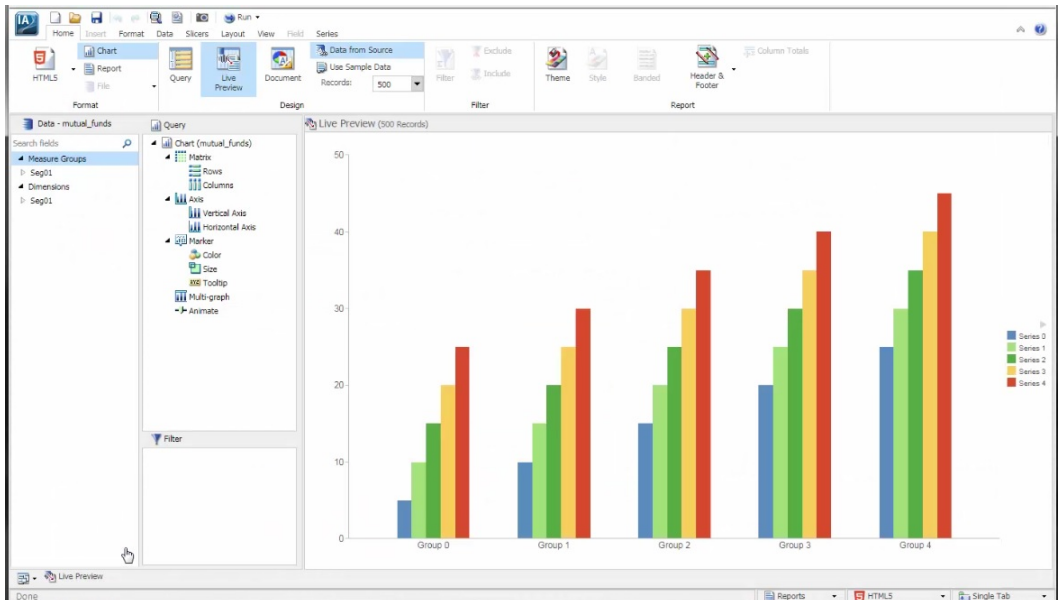
- Fund Analyzer:** Features an image of several light bulbs, one of which is glowing. The text says: "Our new FundAnalyzer allows you to analyze and compare hundreds of mutual funds and investment strategies." It includes a "Launch" button and a "Learn more" link. A "New!" badge is in the top right corner.
- Go Paperless!:** Features an image of a hand interacting with a futuristic interface. The text says: "Enroll in our innovative new interactive eStatement product that provides what-if analysis on your investments." It includes an "Enroll" button and a "View statement" link. A "Free!" badge is in the top right corner.

これらのウィジェットは、WebFOCUS への RESTful Web サービスコールで実行されます。呼び出しは、ユーザ ID のコンテキスト内で、Trusted チケットを使用して実行されます。

下図のように、画面左下には、[Launch] ハイパーリンクを含む [Analytics Workstation] ウィジェットが表示されます。

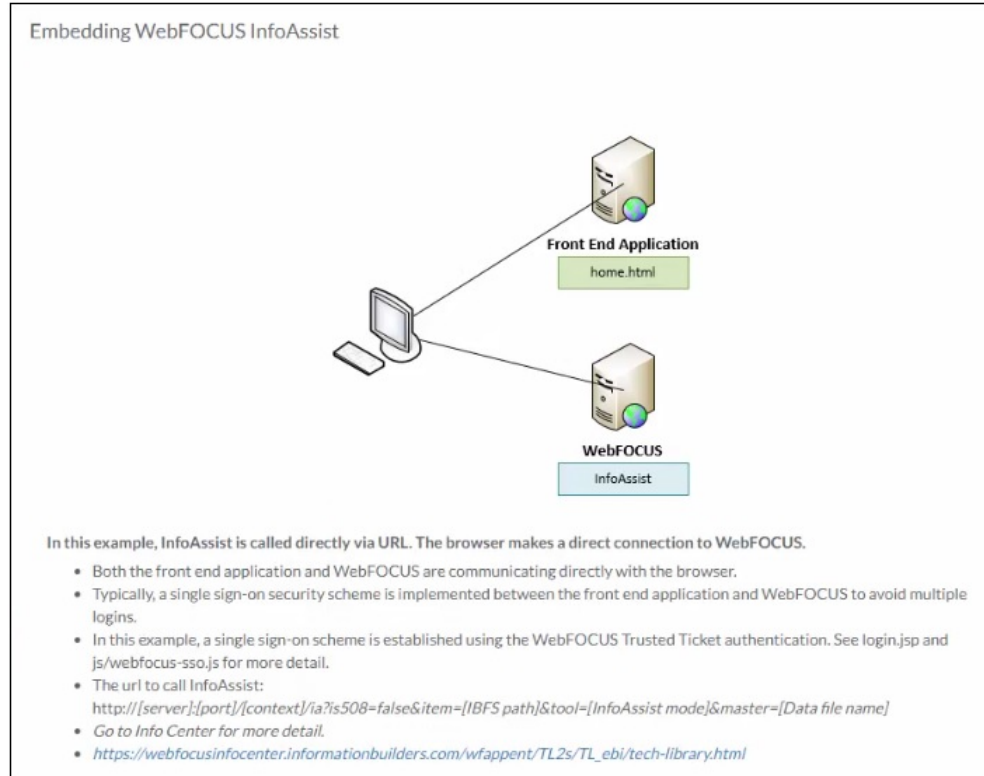


下図のように、[Launch] をクリックすると、WebFOCUS InfoAssist が起動します。



これは、埋め込み URL の一例です。

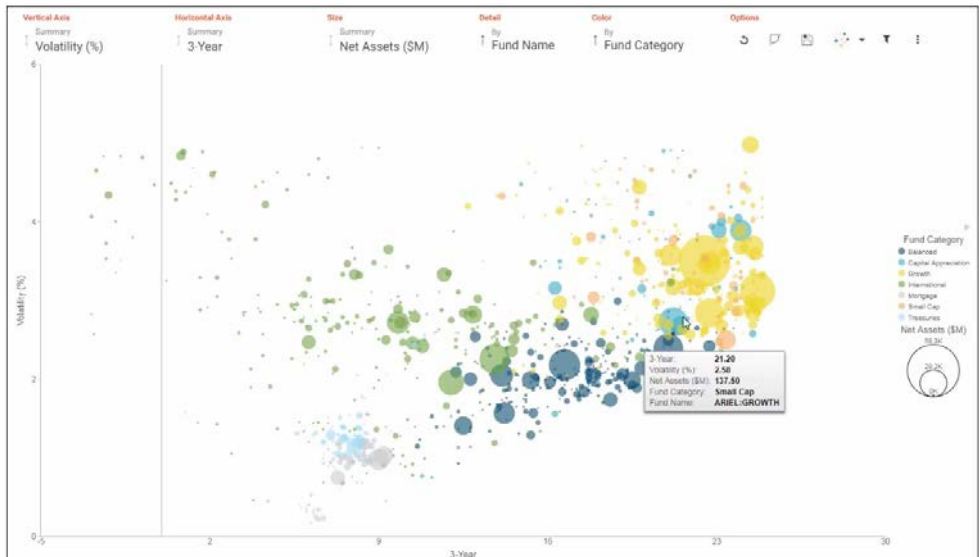
下図のように、[Analytics Workstation] ウィジェットで [Learn More] をクリックすると、ポップアップウィンドウが開き、埋め込み URL のダイアグラムおよび概要が表示されます。



下図のように、[Fund Analyzer] ウィジェットにも [Launch] ハイパーリンクが含まれています。

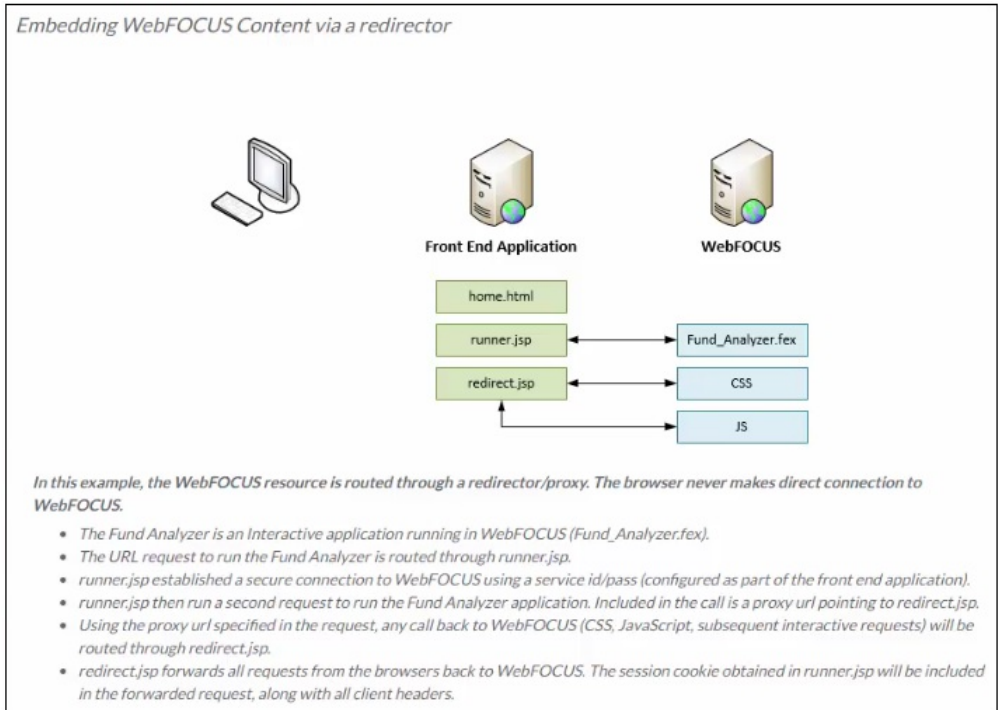


下図のように、このリンクをクリックすると、WebFOCUS インサイトのレポートが開きます。



このレポートの呼び出しには Java プロキシが使用されています。WebFOCUS ユーザは多くの場合、アプリケーションからのすべての URL コールを Java プロキシ経由で WebFOCUS に送信します。これはその一例です。

[Fund Analyzer] ウィジェットで [Learn more] をクリックした場合もポップアップウィンドウが開きます。このウィンドウには、Java プロキシを使用した URL コールの WebFOCUS へのリダイレクトを示すダイアグラムおよび概要が表示されます。

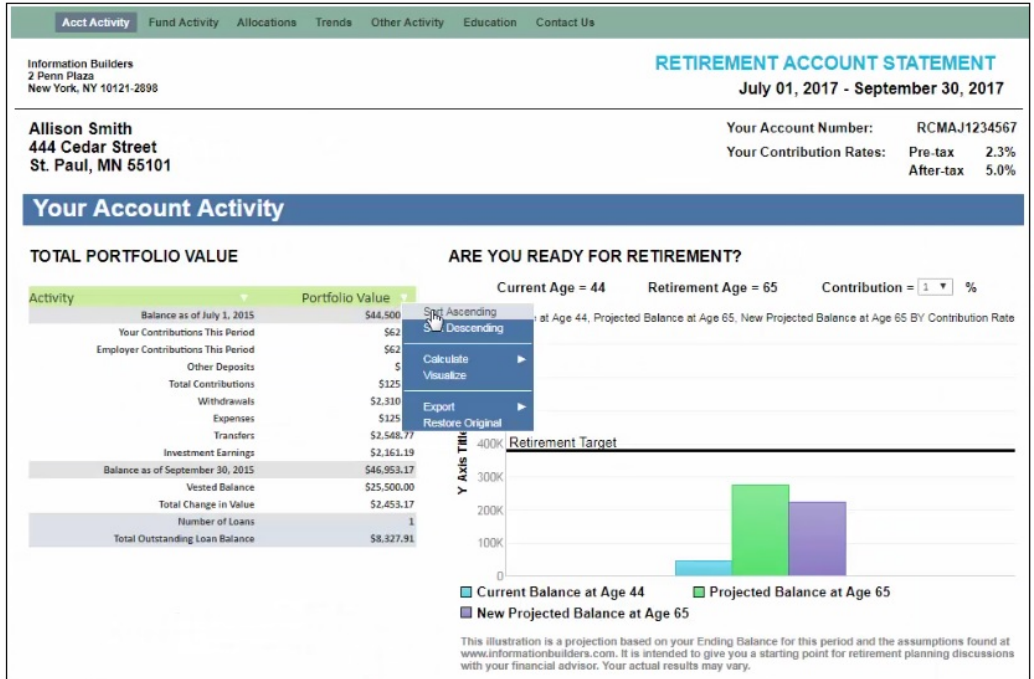




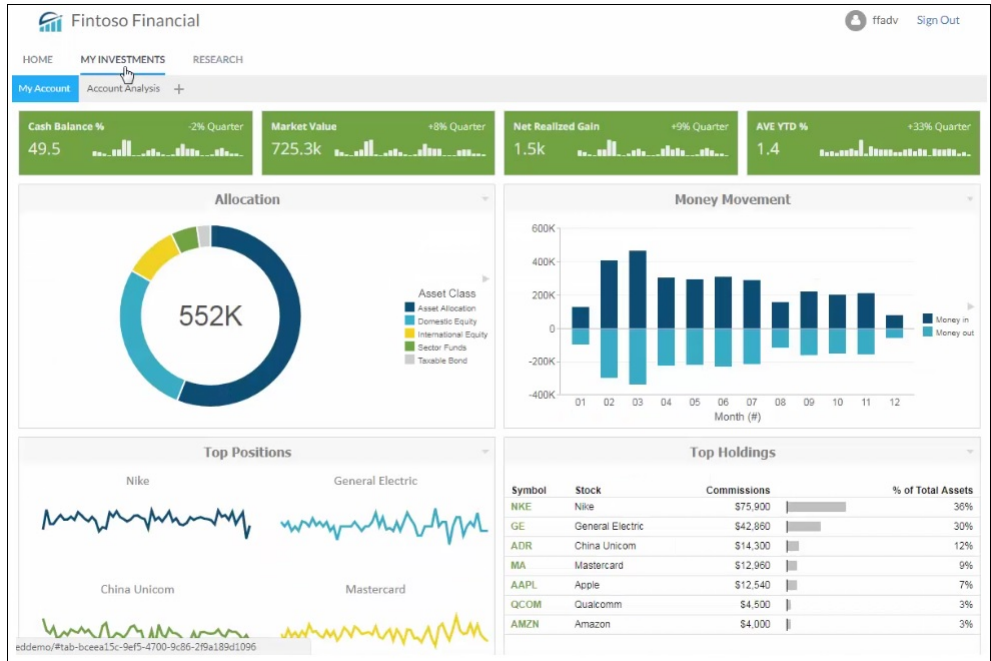
下図のように、画面右下には、[View Statement] ハイパーリンクを含む [Go Paperless] ウィジェットが表示されます。



下図のように、このリンクをクリックすると、WebFOCUS Analytic Document (Active) レポートが開きます。



4. 下図のように、[MY INVESTMENTS] タブをクリックすると、新しいデザインのコラボレーションポータルが起動します。



5. 下図のように、[RESEARCH] タブをクリックすると、アプリケーションでの WebFOCUS デザインページの使用例が表示されます。

The screenshot displays the 'Mutual Fund Research Center' interface. At the top, the Fintoso Financial logo is on the left, and a user profile 'ffadv' with a 'Sign Out' link is on the right. A navigation bar includes 'HOME', 'MY INVESTMENTS', and 'RESEARCH' (which is highlighted with a mouse cursor). Below the navigation is the title 'Mutual Fund Research Center'.

The main content area is divided into several sections:

- Mutual Fund Selections (Left):** A filter panel with dropdown menus for 'Fund Category', 'Fund Family', and 'Options', all set to 'All'. Below these are filter tabs for 'Returns' (All, Low, Avg, High), 'Rating' (All, Low, Avg, High), and 'Expenses' (All, Low, Avg, High). A 'Risk' slider is positioned at the bottom, ranging from 0 to 4, with a current value of 0. A 'See Results' button is located to the right of the filters.
- Mutual Fund Selections (Right):** A summary box with a green header showing a total of 646 funds. Below this, a table lists key metrics:

Rating	5.63
Return	12.70
Expenses	1.24
Risk	2.48
- Investment Advice:** A section with a gold medal icon and text: 'Every quarter, Fintoso Financial investment gurus convene to discuss the market disruptions that will have the largest impact on the market.'
- Innovative Research:** A section with a brain icon and text: 'Fintoso Financial has built the most sophisticated analytics team in the world to deliver groundbreaking insights to you, for free.'
- Why choose:** A section with a hand holding coins icon and text: 'Investing with Fintoso Financial gives you access to over 5,000 mutual funds from hundreds of companies.'
- Contact us:** A section with a headset icon, the phone number '1-800-736-6130', and a 'Chat' button.

At the bottom of the page, there is an 'About Fintoso Financial' link on the left and social media icons for Facebook, Twitter, and YouTube on the right, with the text 'Follow us:'.

具体的には、2つのデザイナーページが、グローバル名機能を使用してリンクされています。

Fund Category	Fund Name	Type	YTD	1-Year	3-Year	5-Year	Rating	Buy
All	AARP BAL STOCK & BOND		15.20	25.00	17.30	.	★★★★★	Buy
	AARP GNMA & US TREAS		4.50	7.50	7.30	5.40	★★★★★	Buy
	ACCESSOR:MORTGAGE SEC		5.50	9.30	8.60	6.30	★★★★★	Buy
	ACORN FUND		15.40	25.00	17.90	19.60	★★★★★	Buy
	ADVANCE CAP I BALANCED		13.20	23.40	19.30	.	★★★★★	Buy
	AETNA:AETNA FUND;SEL		14.40	23.50	18.20	12.80	★★★★★	Buy
	AIM EQ:WINGARTEN;RTL A		20.90	32.90	24.00	15.70	★★★★★	Buy
	AIM BALANCED FUND;A		16.30	27.60	22.20	17.70	★★★★★	Buy
	AIM BALANCED FUND;B R		15.70	26.50	21.20	.	★★★★★	Buy
	AIM VALUE A		18.60	31.70	22.20	20.60	★★★★★	Buy
	AIM VALUE B R		18.00	30.70	21.20	.	★★★★★	Buy
	ALLIANCE BALANCED;A		16.40	26.00	16.50	11.50	★★★★★	Buy
	ALLIANCE BD:US GOVT;A		4.10	7.00	6.40	5.20	★★★★★	Buy
	ALLIANCE BD:US GOVT;B R		3.60	6.20	5.60	4.50	★★★★★	Buy
	ALLIANCE BD:US GOVT;C R		3.60	6.20	5.70	.	★★★★★	Buy
	ALLIANCE FUND;A		21.60	37.90	23.80	19.30	★★★★★	Buy
	ALLIANCE MTGE INC;A		5.20	8.50	7.90	5.80	★★★★★	Buy
	ALLIANCE MTGE INC;B R		4.70	7.60	7.10	5.00	★★★★★	Buy

6. アプリケーション右上の [Sign Out] をクリックします。

この操作で、Fintoso Financial 埋め込み BI デモアプリケーションからログアウトされます。








## 埋め込み BI デモアプリケーションの内部 (バックエンド) 機能の理解

埋め込み BI デモアプリケーションは、login.jsp ファイル (embeddemo¥login.jsp) の 5 行目でユーザを認証した後、ユーザの Trusted チケットを取得するためのリクエストを送信します。これは、index.jsp ファイル (embeddemo¥index.jsp) の 11 - 14 行目で定義された Java Bean で処理され、75 行目で実行されます。

**注意:** この Java Bean コールは、認証済みユーザ ID および HTTP リクエストオブジェクトとともに渡されます。

Trusted チケットリクエストは、`generateTicket()` メソッドで送信されます。このメソッドは、`TrustedConnectWF.jar` ファイル (`embeddemo¥WEB-INF¥lib¥TrustedConnectWF.jar`) の `TrustedConnectWF` クラスにあります。以下はその例です。

ローカルディスク (C:) > ibi > tomcat > webapps > embeddemo > WEB-INF > lib

名前	更新日時	種類	サイズ
 commons-codec-1.11.jar	2018/02/06 9:50	Executable Jar File	328 KB
 commons-io-2.6.jar	2018/02/06 9:50	Executable Jar File	210 KB
 commons-logging-1.2.jar	2018/02/06 9:50	Executable Jar File	61 KB
 httpclient-4.5.4.jar	2018/02/06 9:50	Executable Jar File	764 KB
 httpcore-4.4.8.jar	2018/02/06 9:50	Executable Jar File	317 KB
 log4j-1.2.17.jar	2018/02/06 9:50	Executable Jar File	479 KB
 TrustedConnectWF.jar	2018/02/06 9:50	Executable Jar File	7 KB

Fintoso Financial サンプル Web アプリケーションは、実在するアプリケーションのように見えますが、実際の埋め込み BI アプリケーションをデモ用に簡素化したものです。embeddemo フォルダ内でコードを確認することも、`IBITrustedTicket.jar` ファイル (`embeddemo¥WEB-INF¥lib¥IBITrustedTicket.jar`) で `TrustedConnectWF` メソッドの Java ソースを確認することもできます。このメソッドの Java ソースコードにアクセスするには、WinZip などのユーティリティを使用してこの .jar ファイルを開き、`com¥ibi¥example` フォルダ構造からこのファイルを抽出します。

埋め込み BI デモアプリケーションを実行すると、`index.jsp` ファイル (`embeddemo¥index.jsp`) が実行され、HTML ビューが作成されます。

```
trustedTicket = encodeURIComponent('<%=TrustedConnectWF.generateTicket()
%>');
```

この Java コードは、`config.properties` ファイル (`embeddemo¥WEB-INF ¥classes ¥config.properties`) の 2 つのプロパティを使用して、チケットリクエストの送信先および参照する信頼済みアプリケーション名を特定します。

```
WF_TICKET_PROVIDER_URL=http://localhost/ibi_apps
WF_TRUSTED_APPLICATION_NAME=IBIEmbeddingDemo
```

また、このリクエストでユーザ ID および Web ブラウザ IP アドレスが WebFOCUS に渡されます。これらの HTTP リクエスト/レスポンスについての詳細は、545 ページの「[付録 - 埋め込み BI デモアプリケーションの詳細リクエスト/レスポンスフロー](#)」を参照してください。

埋め込み BI デモアプリケーションは、チケットの取得に成功した後、bip-page ext.js ファイル (embeddemo¥js¥bip-page ext.js) の 6 - 8 行目で定義された情報を使用して、Trusted ログインリクエストを WebFOCUS に送信します。

```
var webfocusHost = '';  
var trustedAppName = 'IBIEmbeddingDemo';  
var webfocusContext = '/ibi_apps';
```

クロスオリジン (デュアル Web ホスト) 構成では、使用する環境に応じて webfocusHost 設定を編集する必要があります。

## 埋め込み BI に関する他の考慮事項

埋め込み BI アプリケーションの外観や操作性を最適にするには、次の点にも考慮する必要があります。

### ポータル機能の非表示

一般に埋め込み先アプリケーションには独自のバナーが使用されているため、ポータルバナーを非表示にすることを検討します。単一ページのポータルを埋め込む場合、ポータルデザイナーのリボンでポータルナビゲーションバーを無効にするオプションを選択することもできます。複数ページのポータルを埋め込む場合、ナビゲーションバーは有効にした状態で、後述のようにカスタム CSS ファイルを使用してポータルページの各タブにスタイルを適用する方法を検討します。ナビゲーションバーを表示する場合、[Customize Portal] 権限を所有するユーザに [新規ページ] アイコンを表示するかどうかを制御することもできます。

### 自社ブランドのカスタマイズ

埋め込み BI アプリケーションのコンテンツとそのホスト先アプリケーションのコンテンツは、外観スタイルをシームレスに一体化するのが一般的です。WebFOCUS には、この要件に対応するために自社ブランドのカスタマイズ機能が用意されています。スタイル設定に関しては、次の 2 点を考慮する必要があります。

- ポータルに表示されるコンテンツ (例、レポート、グラフ) のスタイルを設定する。
- ポータルのコンテンツ周囲に表示される「クロム」のスタイルを設定する。

埋め込み要件に準拠するようコンテンツのスタイルを設定するには、カスタム WebFOCUS スタイルシートを作成し、InfoAssist リボンの [テーマ] ボタンからそのスタイルシートを選択します。

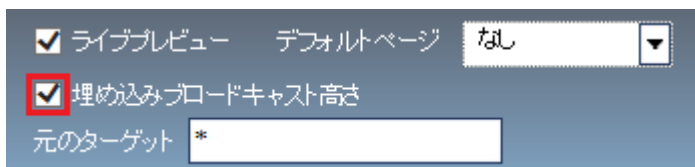
また、ポータルの [動的スタイル] オプションを使用して、ポータルコンテンツ全体に適用するカスタムスタイルシートを指定することもできます。下図のように、埋め込み BI デモアプリケーションではこの方法が使用されています。



さらに、カスタム CSS テーマを使用して、パネルの境界、タイトルバーのテキスト、ポータルページタブの外観などの項目にスタイルを設定することも、簡易選択の [コンテンツの選択] アイコンや [新規ページ] アイコンなどのイメージを指定することもできます。カスタム CSS テーマをリポジトリに保存した後、[ポータルテーマファイル] ダイアログボックスからそのテーマを選択します。このダイアログボックスにアクセスするには、ポータルデザイナーでポールの [テーマ] ボタンをクリックします。

## レスポンシブ Web デザイン

レスポンシブポータルコンテンツをアプリケーションに埋め込む場合は、下図のように、ポータルデザイナーでポータルの [プロパティ] パネルを開き、[埋め込みブロードキャスト高さ] オプションを有効にする必要があります。



このオプションを有効にすると、高さ (ピクセル単位) を返す JavaScript イベントがポータルからブロードキャストされ、ホスト iframe がその高さに再設定されます。これにより、余分なブランク領域や内側のスクロールバーを表示せずに、ポータルコンテンツが iframe 内に収まります。

ポータルが iframe 埋め込みシナリオでのみ使用されている場合は、[元のターゲット] 設定を「\*」のままにします。ポータルが複数のシナリオで使用され、ブロードキャストメッセージを単一アプリケーションのみに限定する場合は、[元のターゲット] を特定のホストに設定することができます。以下はその例です。

<http://embeddinghost.domain.com>



次の 2 つのイベントを受信待機するよう埋め込みアプリケーションを編集する必要があります。

- **portal\_loaded** このイベントは、ポータルページがロードされた際にブロードキャストされます。
- **height\_changed** このイベントは、ポータルページの高さが変わるたびにブロードキャストされます。

次の例は、埋め込み BI デモアプリケーションの `embeddemo/js/bip-page-ext.js` ファイルの 818 行目を示しています。

```
/* Add Message Listener */
window.addEventListener('message', function(e) {

var data;

if (typeof e.data === 'string')
data = JSON.parse(e.data);
else
data = e.data;

var pageType = typeof data.portal_path !== 'undefined' ? 'portal' : 'page';
console.log(data, pageType, data.page_path);
var portalNode = pageType == 'portal' ? getPortalNode(data.portal_path,
'path') : getPortalNode(data.page_path, 'path');

if (data) {
var message_name = data["message_name"];

if (message_name == "height_changed"){
if (pageType == "portal" && portalNode.loaded)
$('#'+portalNode.id).parent().height( parseInt(data["portal_height"]) );
else
$('#'+portalNode.id).parent().height( parseInt(data["page_height"]) );
}
else if (message_name == "portal_loaded"){
portalNode.loaded = true;
$('#'+portalNode.id).parent().height( parseInt(data["portal_height"]) );
}
}
window.scrollTo(0,0);
});
}
```

## 代替セキュリティゾーン

一般に、埋め込み BI 展開をサポートするために代替セキュリティゾーンを有効にする必要はありません。代替ゾーンを有効にすると、Trusted チケット認証構成のトラブルシューティングが複雑になるため、有効にする必要がない限り、代替セキュリティゾーンは無効にしておくことをお勧めします。以下は、Trusted チケット認証をサポートする際に、代替ゾーンを有効にする必要のある場合のガイドラインを示しています。

有効にした場合、WebFOCUS は、リクエストを代替ゾーン構成で処理する必要があるかどうかを最初に特定します。デフォルト設定では、代替ゾーンは、127.0.0.1、0:0:0:0:0:1、および ::1 に送信されたリクエストを受信するよう構成されています。そのため、同一オリジン (シングル Web ホスト) 構成をテストする際に、Trusted チケットリクエストが代替ゾーンで処理される場合があります。この場合、Trusted チケット認証をデフォルトゾーンで有効にする以外に、代替ゾーンでも有効にする必要があります。

クロスオリジン (デュアル Web ホスト) 構成で、Trusted チケットリクエストを処理するよう代替ゾーンを有効にして構成することもできますが、このように構成する必要はありません。このように構成する場合は、単純に代替ゾーンで Trusted チケット認証を有効にし、埋め込み BI アプリケーションが存在するホストの IP アドレスを追加します。

## 埋め込み BI デモアプリケーション (Fintoso Financial) のカスタマイズ

ここでは、埋め込み BI デモアプリケーション (Fintoso Financial) をカスタマイズする方法について説明します。

### ユーザ名の登録

この埋め込み BI デモアプリケーションは、Trusted 認証リクエストを WebFOCUS に送信します。通常のケースでは、このアプリケーションは WebFOCUS 外部の別システムを使用してユーザを認証します。この埋め込み BI デモアプリケーションでは、デモを簡素化するために、ログインページで入力されたユーザ名が embeddemo¥login.jsp ファイルの 5 行目で定義されているリストに存在するかどうかのみを確認します。

```
Set<String> users = new HashSet<String>(Arrays.asList( userids ));
```

このリストを編集して、WebFOCUS リポジトリに存在する任意のユーザ ID を含めることができます。この変更はアプリケーションの再ロード直後に有効になり、Application Server を再起動する必要はありません。

**重要:** このファイルに含める WebFOCUS ユーザ ID は、コンテンツおよび機能へのアクセスを十分に検討した上で決定します。これは、埋め込み BI デモアプリケーションへのアクセス権限を所有するユーザすべてが、これらのアカウントのパスワードを知らずに WebFOCUS セッションを取得できるようになるためです。

## 別のポータルコンテンツの使用

埋め込み BI デモアプリケーションの [HOME]、[MY INVESTMENTS] および [RESEARCH] タブを開くと、それぞれのタブの iframe に、特別に構成されたポータルがロードされます。これらのタブを再構成して、別のポータルをロードすることができます。



¥ibi¥tomcat¥webapps¥embeddemo¥js¥webfocus-ss0.js ファイルのパスおよび対応する URL 値を変更するだけで実行できます。以下はその例です。

```
// Array containing the list of pages
var pages = [
  { text: 'Home', type: 'page', url: 'home.html', loaded: false },
  { text: 'My Investments', type: 'url', path: 'IBFS:/WFC/Repository/Fintoso/
Fintoso_Financial.prtl', url: '/portal/Fintoso/Fintoso_Financial', loaded:
false },
  { text: 'Research', type: 'url', path: 'IBFS:/WFC/Repository/Fintoso/
Page_Designer_content/selections/page.man', url: '/rs/ibfs/WFC/Repository/
Fintoso/Page_Designer_content/selections', loaded: false }
];
```

## トラブルシューティング

ここには、埋め込み BI デモアプリケーション (Fintoso Financial) のトラブルシューティング情報および問題の回避方法が記載されています。

## ポップアップメッセージ：WebFOCUS から Trusted チケットを取得できません。

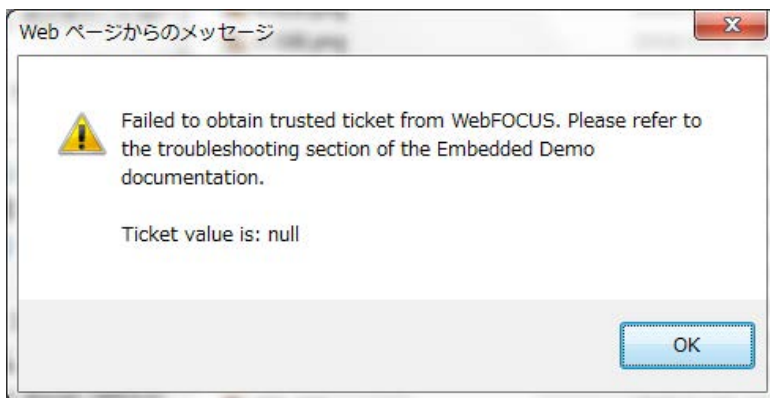
埋め込み BI デモアプリケーション (Fintoso Financial) にログイン後、デモアプリケーションが WebFOCUS から Trusted チケットを取得できなかったことを示すポップアップメッセージが表示される場合があります。このメッセージが表示された場合、デモアプリケーションから WebFOCUS に Trusted ログインリクエストが送信されないため、操作を続行するには、最初にこの問題を解決する必要があります。ここでは、メッセージに表示された情報に基づいて問題を解決するためのヒントおよび回避方法について説明します。

デモアプリケーションは、Trusted チケットリクエストの結果を確認し、その結果がチケットであるかどうかを特定します。この確認には、`embeddemo¥js¥bip-page-ext.js` ファイルの 21 行目の `trustedWFSignOn( )` 関数を使用され、結果の長さが 40 バイトを超えているかどうかを検証するという簡単な方法で行われます。この方法では、返されるチケットが、-1 ステータスコード、Null 値、またはチケット以外のレスポンスのいずれにも該当しないことが検証されます。以下はその例です。

```
function trustedWFSignOn(){
    // if we do not get a trusted ticket back from the TrustedConnectWF
    bean call in index.jsp, popup a message and do not attempt the trusted
    signon
    if (trustedTicket.length < 40) {
        alert('Failed to obtain trusted ticket from WebFOCUS. Please refer
to the troubleshooting section of the Embedded Demo documentation.\n
\nTicket value is: ' + trustedTicket);
        return;
    }
}
```

### チケット値：null

null 値は、Trusted チケットリクエストが WebFOCUS によって処理されなかったことを示します。以下はその例です。

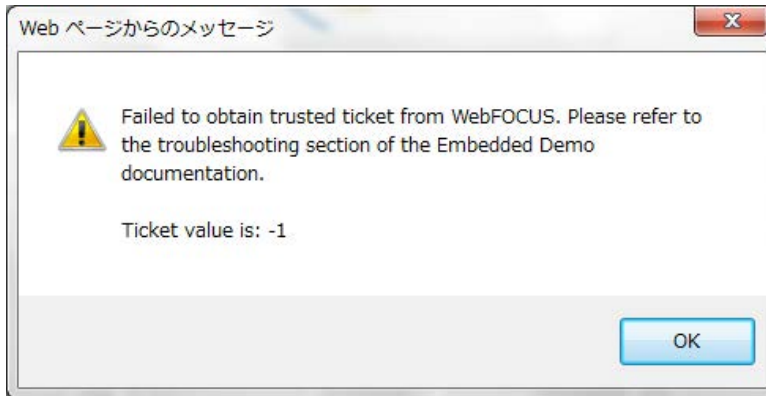


WebFOCUS 管理コンソール ([セキュリティ] タブ) のデフォルトゾーンで Trusted チケット認証が有効になっていることを確認します。代替ゾーンを有効にしている場合は、代替ゾーンでも確認します。

匿名認証	✓ 有効
Trusted チケット認証	無効

### チケット値：-1

-1 値は、Trusted チケットリクエストは処理されたが、WebFOCUS がチケットの作成を拒否したことを示します。以下はその例です。



この状況は、さまざまな原因で発生します。websecurity.date.log ファイルに、原因の特定に役立つ追加情報が記録されます。websecurity.date.log ファイルは、WebFOCUS インストールディレクトリ下の次のフォルダに格納されます。

```
<drive>:\ibi\WebFOCUS82\logs
```

次のメッセージは、埋め込み BI デモアプリケーションから送信された信頼済みアプリケーション名が、WebFOCUS Trusted チケット認証構成で設定されている値に一致しないことを示します。

```
WARN [http-nio-80-exec-1:wfsecurity] :unknown: - [Zone: main]Invalid application name: 'IBIEmbeddingDmo'
```

埋め込み BI デモアプリケーションの config.properties ファイルで WF\_TRUSTED\_APPLICATION\_NAME 設定の値を確認し、下図のように、その値が WebFOCUS 管理コンソール ([セキュリティ] タブ) の Trusted チケット認証構成で設定されている値に一致していることを確認します。

The screenshot shows the WebFOCUS Security console. In the left sidebar, the '認証' (Authentication) section is expanded. The main area displays the configuration for 'Trusted チケット認証設定の編集' (Edit Trusted Ticket Authentication Settings). A text box shows the path to the config.properties file: #ibi%tomcat%webapps%embeddemo%WEB-INF%classes%config.properties. Below this, the property WF\_TRUSTED\_APPLICATION\_NAME is set to IBIEmbeddingDemo. On the right, the 'アプリケーションリスト' (Application List) table shows the application name 'IBIEmbeddingDemo' and its corresponding IP address '127.0.0.1,0:0:0:0:0:0:0:1::1'. Both the application name and IP address are circled in red.

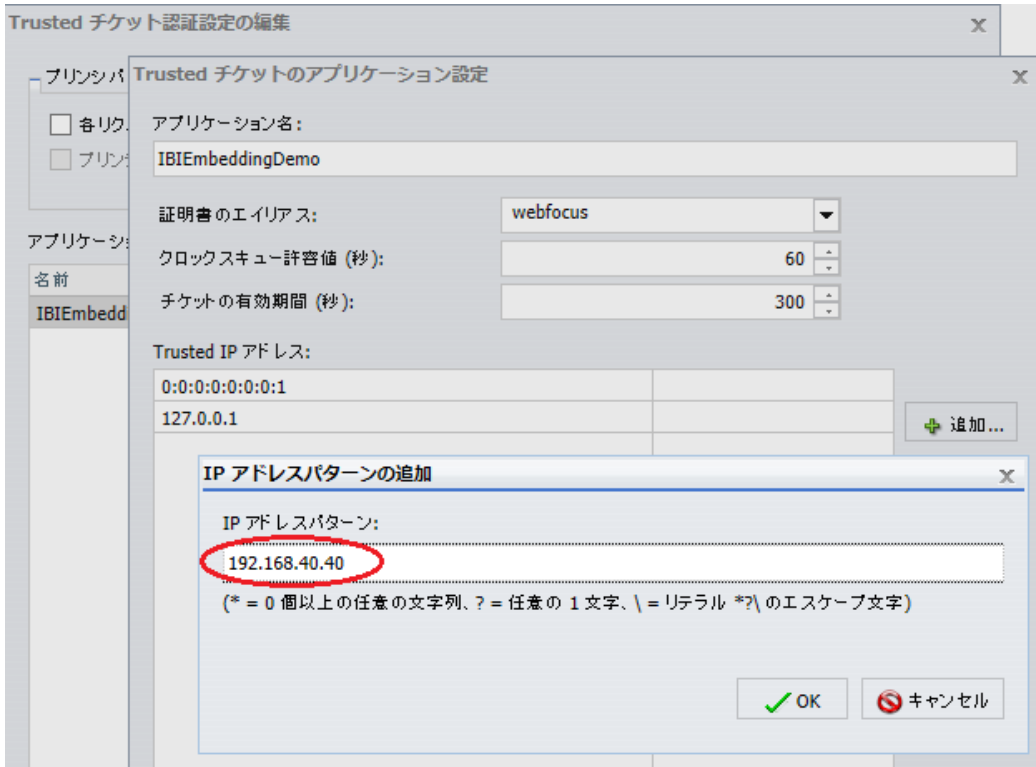
名前	受信 IP アドレス
IBIEmbeddingDemo	127.0.0.1,0:0:0:0:0:0:0:1::1

次のメッセージは、Trusted チケットリクエストを送信するホスト IP アドレスが、WebFOCUS Trusted チケット認証構成で設定されている値に一致しないことを示します。

```
WARN [http-nio-80-exec-9:wfsecurity] :unknown: - [Zone: main] Trusted ticket request rejected, the host IP address '192.168.40.40' is not in the accepted host list.
```

この問題の原因として、クロスオリジン (デュアル Web ホスト) 構成で、埋め込み BI デモアプリケーションのホスト IP アドレスが WebFOCUS 構成に追加されていないことが考えられます。

下図のように、ログに記録されている IP アドレスを WebFOCUS 管理コンソール ([セキュリティ] タブ) の Trusted チケット認証構成に追加します。



この変更を加えた後、WebFOCUS の展開先 Application Server を再起動します。

### ポータルタブのエラー表示またはブランク

クロスオリジン構成で、WebFOCUS 管理コンソールの [X-Content-Type-Options ヘッダ] 設定を無効にしていない場合、Trusted チケットリクエストおよび Trusted ログインコールが成功した場合でも、埋め込み BI デモアプリケーション (Fintoso Financial) の iframe へのポータルの埋め込みがブラウザで拒否されます。

Google Chrome ブラウザでは、iframe がブランクになります。この場合、F12 キーを押すと Developer Console が開き、WebFOCUS が X-Content-Type-Options ヘッダで SAMEORIGIN 要件をブラウザに送信したことが原因のエラーが表示されます。

Internet Explorer では、より明確なエラーメッセージが表示され、Developer Console (F12) ではエラーは表示されません。

この問題を解決するには、下図のように、WebFOCUS 管理コンソールの [アプリケーションの設定] 下の [フィルタ] エリアで [X-Content-Type-Options ヘッダ] のチェックをオフにします。



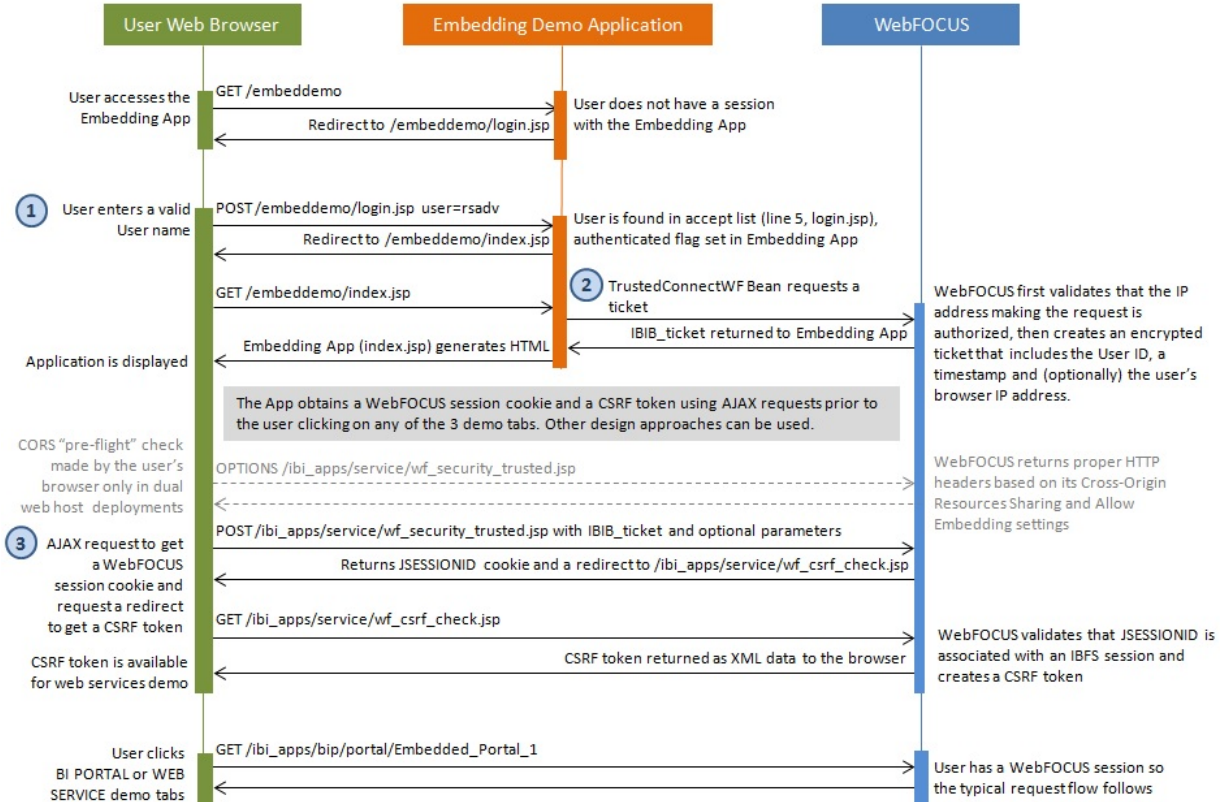
この変更を加えた後、Application Server を再起動する必要はありません。

この変更後にブラウザで埋め込み BI デモアプリケーション (Fintoso Financial) を再ロード (リフレッシュ) します。



## 付録-埋め込み BI デモアプリケーションの詳細リクエスト/レスポンスフロー

下図は、埋め込み BI デモアプリケーション (Fintoso Financial) のリクエスト/レスポンスフローを示しています。





---

# WebFOCUS

WebFOCUS 埋め込みアプリケーションユーザガイド  
Version 8.2.06

---

2021年3月発行

株式会社アシスト

URL: <http://www.ashisuto.co.jp>